

千歳市

梅川4遺跡(3)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

第二分冊

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

梅川4遺跡(3)

第二分冊

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第306集 平成25年度

千歳市

梅川4遺跡(3)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

第二分冊

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

【第二分冊】 目 次

V B・C地区の遺構とその遺物

1 遺構

(1) 住居跡	1
(2) 杭穴	22
(3) 焼土	41
(4) 灰集中	96
(5) 骨集中	96
(6) 貝集中	91
(7) 道跡	105
(8) 礫集中	110
(9) 剥片集中	112

2 遺物

(1) 土器	131
(2) 金属製品・ガラス製品	181
(3) 石器等	188
(4) その他	197
(5) B・C地区の動物遺存体	199

VI 自然科学的分析

1 梅川4遺跡における放射性炭素年代、AMS測定(株式会社 加速器分析研究所)	205
2 黒曜石原産地同定(株式会社 第四紀地質研究所)	223
3 石器及び玉類の岩石学的分析(株式会社 アースサイエンス)	237
4 梅川4遺跡の灰像分析(株式会社 パリノ・サーヴェイ)	247
5 千歳市梅川4遺跡出土の種実同定(株式会社 パリノ・サーヴェイ)	249
6 千歳市梅川4遺跡出土の動物遺存体同定(株式会社 パリノ・サーヴェイ)	273

VII 成果と問題点

1 遺構

(1) A地区の土抗・土抗墓について	277
(2) B・C地区の道跡について	278

2 遺物

(1) V群c類の土器について	279
(2) VI群a・b類土器について	280

報告書抄録

【第二分冊】 表 目 次

V B・C地区の遺構とその遺物

表V-1-1	住居規模一覧……………111	表V-2-6	拓本土器観察(1)……………170
表V-1-2	杭穴規模一覧……………113	表V-2-7	拓本土器観察(2)……………172
表V-1-3	焼土規模一覧……………120	表V-2-8	VI群掲載復元土器一覧……………173
表V-1-4	灰集中規模一覧……………123	表V-2-9	VI群掲載拓本土器一覧……………174
表V-1-5	骨集中規模一覧……………123	表V-2-10	補修孔一覧……………178
表V-1-6	貝集中規模一覧……………123	表V-2-11	石錐一覧……………178
表V-1-7	礫集中規模一覧……………123	表V-2-12	掲載金属製品等一覧……………187
表V-1-8	剥片集中規模一覧……………123	表V-2-13	石製遺物掲載一覧……………191
表V-1-9	遺構土壌フロテーション 成果一覧……………124	表V-2-14	掲載石製品一覧……………195
表V-1-10	遺構出土動物遺存体一覧……………128	表V-2-15	遺構別出土動物遺存体点数 (同定されたもの)……………198
表V-2-1	V群c類掲載土器一覧……………165	表V-2-16	包含層出土シカ点数分布……………198
表V-2-2	復元土器観察(1)……………165	表V-2-17	包含層出土シカ部位一覧……………199
表V-2-3	復元土器観察(2)……………165	表V-2-18	包含層出土シカ部位別 出土位置一覧……………199
表V-2-4	復元土器観察(3)……………166	表V-2-19	動物骨大型破片一覧……………200
表V-2-5	復元土器観察(4)……………168	表VII-2-1	下地文の変遷……………281

【第二分冊】 挿 図 目 次

V B・C地区の遺構とその遺物

図V-1-1	遺構位置……………	2	図V-1-40	ⅢF-55～64平面図……………	50
図V-1-2	ⅢH-1……………	4	図V-1-41	ⅢF-65～69平面図……………	51
図V-1-3	ⅢH-2……………	5	図V-1-42	ⅢF-70・71・87～89平面図	52
図V-1-4	ⅢH-3……………	7	図V-1-43	ⅢF-72～79・199平面図……	53
図V-1-5	ⅢH-5……………	9	図V-1-44	ⅢF-80～83・92～94・117・118 平面図……………	54
図V-1-6	ⅢH-6……………	10	図V-1-45	ⅢF-84・85・90平面図……	55
図V-1-7	ⅢH-7……………	12	図V-1-46	ⅢF-86・111・140～142・167 169・170平面図……………	56
図V-1-8	ⅢH-8……………	13	図V-1-47	ⅢF-91・95・96平面図……	57
図V-1-9	ⅢH-9……………	15	図V-1-48	ⅢF-97～104・133・134・150 203・204平面図……………	58
図V-1-10	ⅢH-10……………	16	図V-1-49	ⅢF-105～108平面図……………	59
図V-1-11	ⅢH-11……………	18	図V-1-50	ⅢF-109・110・126～132・ 158～162平面図……………	60
図V-1-12	ⅢH-12……………	20	図V-1-51	ⅢF-112・115・116・119～123・ 139・168・184平面図……	61
図V-1-13	ⅢH-13……………	21	図V-1-52	ⅢF-113・114平面図……………	62
図V-1-14	ⅢSP位置(1)……………	23	図V-1-53	ⅢF-124・125・172～175 平面図……………	63
図V-1-15	ⅢSP位置(2)……………	24	図V-1-54	ⅢF-135～138・143～145・ 171・185平面図……………	64
図V-1-16	ⅢSP位置(3)……………	25	図V-1-55	ⅢF-146～149・151・152・ 186～191平面図……………	65
図V-1-17	ⅢSP位置(4)……………	26	図V-1-56	ⅢF-153～157・163～165 平面図……………	66
図V-1-18	ⅢSP位置(5)……………	27	図V-1-57	ⅢF-166・176・177・196～198 平面図……………	67
図V-1-19	ⅢSP位置(6)……………	28	図V-1-58	ⅢF-178～183・192～195 平面図……………	68
図V-1-20	ⅢSP位置(7)……………	29	図V-1-59	ⅢF-200～202・205～208 平面図……………	69
図V-1-21	ⅢSP位置(8)……………	30	図V-1-60	ⅢF-209・210平面図……………	70
図V-1-22	ⅢSP位置(9)……………	31	図V-1-61	ⅢF-211～213・221平面図・	71
図V-1-23	ⅢSP-1～61・126・127 断面図……………	32	図V-1-62	ⅢF-214～220・222平面図・	72
図V-1-24	ⅢSP-62～125・128～130 断面図……………	33	図V-1-63	ⅢF-5～29断面図……………	73
図V-1-25	ⅢSP-131～190断面図……	34	図V-1-64	ⅢF-30～48断面図……………	74
図V-1-26	ⅢSP-191～250・416断面図	35	図V-1-65	ⅢF-49～68断面図……………	75
図V-1-27	ⅢSP-251～314断面図……	36	図V-1-66	ⅢF-69～90断面図……………	76
図V-1-28	ⅢSP-315～374断面図……	37	図V-1-67	ⅢF-91～111断面図……	77
図V-1-29	ⅢSP-375～415・417～437 断面図……………	38	図V-1-68	ⅢF-112～136断面図……	78
図V-1-30	ⅢSP-438～501断面図……	39	図V-1-69	ⅢF-137～160断面図……	79
図V-1-31	ⅢSP-502～560断面図……	40	図V-1-70	ⅢF-161～180断面図……	80
図V-1-32	ⅢF-5～11平面図……………	42	図V-1-71	ⅢF-181～200断面図……	81
図V-1-33	ⅢF-12～19平面図……………	43	図V-1-72	ⅢF-201～217断面図……	82
図V-1-34	ⅢF-20・21・23・37・54 平面図……………	44	図V-1-73	ⅢF-218～222断面図……	83
図V-1-35	ⅢF-22・34～36・44・47 平面図……………	45			
図V-1-36	ⅢF-24・25・31・32・43・45・ 52・53平面図……………	46			
図V-1-37	ⅢF-26～29・39～41平面図	47			
図V-1-38	ⅢF-30・33・38・42平面図	48			
図V-1-39	ⅢF-46・48～51平面図……	49			

図V-1-74	ⅢA-1～3	85	図V-2-17	Ⅵ群復元土器(14)	150
図V-1-75	ⅢA-4・5	86	図V-2-18	Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ群復元土器	151
図V-1-76	ⅢB-1・2	87	図V-2-19	Ⅵ群拓本土器(1)	152
図V-1-77	ⅢB-3・4	88	図V-2-20	Ⅵ群拓本土器(2)	153
図V-1-78	ⅢB-5	89	図V-2-21	Ⅵ群拓本土器(3)	154
図V-1-79	ⅢK-1～3	90	図V-2-22	Ⅵ群拓本土器(4)	155
図V-1-80	ⅢK-4・6・10	91	図V-2-23	Ⅵ群拓本土器(5)	156
図V-1-81	ⅢK-5・8・9	92	図V-2-24	Ⅵ群拓本土器(6)	157
図V-1-82	ⅢK-7・11	93	図V-2-25	Ⅵ群拓本土器(7)	158
図V-1-83	ⅢK-12・13	94	図V-2-26	Ⅵ群拓本土器(8)	159
図V-1-84	ⅢK-14・15	95	図V-2-27	Ⅵ群拓本土器(9)	160
図V-1-85	ⅢK-16・17	96	図V-2-28	Ⅵ群拓本土器(10)	161
図V-1-86	ⅢK-18～20	97	図V-2-29	Ⅵ群復元土器出土位置(1)	162
図V-1-87	ⅢK-21～23	98	図V-2-30	Ⅵ群復元土器出土位置(2)	163
図V-1-88	ⅢK-24・25	99	図V-2-31	Ⅵ群復元土器出土位置(3)	164
図V-1-89	ⅢK-26～29	100	図V-2-32	Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ群分布	164
図V-1-90	ⅢK-30・31	101	図V-2-33	穿孔分類要素	176
図V-1-91	ⅢK-32・33	102	図V-2-34	金属製品(1)	179
図V-1-92	ⅢR-1 平面図	104	図V-2-35	金属製品(2)	180
図V-1-93	ⅢR-1 断面図(1)	106	図V-2-36	金属製品(3)	181
図V-1-94	ⅢR-1 断面図(2)	107	図V-2-37	金属製品(4)	182
図V-1-95	ⅢR-1 断面図(3)	108	図V-2-38	金属製品(5)・ガラス製品	183
図V-1-96	ⅢS-1	109	図V-2-39	キセル分類要素・計測箇所	184
図V-1-97	ⅢFC-1	110	図V-2-40	金属製品等出土位置	184
図V-2-1	V群c類土器(1)	130	図V-2-41	包含層の石製遺物(1)	188
図V-2-2	V群c類土器(2)	131	図V-2-42	包含層の石製遺物(2)	189
図V-2-3	V群c類土器(3)	132	図V-2-43	包含層の石製遺物(3)	190
図V-2-4	Ⅵ群復元土器(1)	137	図V-2-44	石製遺物分布(1)	192
図V-2-5	Ⅵ群復元土器(2)	138	図V-2-45	石製遺物分布(2)	193
図V-2-6	Ⅵ群復元土器(3)	139	図V-2-46	石製遺物分布(3)	194
図V-2-7	Ⅵ群復元土器(4)	140	図V-2-47	石製品	195
図V-2-8	Ⅵ群復元土器(5)	141	図V-2-48	その他	196
図V-2-9	Ⅵ群復元土器(6)	142	図V-2-49	火打石・棒状礫分布	196
図V-2-10	Ⅵ群復元土器(7)	143	図V-2-50	遺構出土シカ部位別点数	198
図V-2-11	Ⅵ群復元土器(8)	144	図V-2-51	包含層出土シカ部位別点数	198
図V-2-12	Ⅵ群復元土器(9)	145	図Ⅶ-1-1	土坑堆積模式	277
図V-2-13	Ⅵ群復元土器(10)	146	図Ⅶ-1-2	道跡集成	278
図V-2-14	Ⅵ群復元土器(11)	147	図Ⅶ-2-1	V群c類深鉢の出土層位	279
図V-2-15	Ⅵ群復元土器(12)	148	図Ⅶ-2-2	R L横位斜走縄文が押捺 された例	282
図V-2-16	Ⅵ群復元土器(13)	149			

V B・C地区の遺構とその遺物

1 遺構

(1) 住居跡

ⅢH-1 (図V-1-2/表V-1-1/図版22)

確認・調査 梅川へ降りる南東向きの沢地形内に立地する。Ⅲ層上位で焼土(HF-1)を検出した。周辺を精査したところ、Ⅳ層上面でHF-1を取り囲む12基の小ピット(HP-1~12)の配列を確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉と考えられるHF-1の周囲を、柱穴12基が0.4~1.5mの間隔で方形に並ぶ。HF-1は柱穴列のほぼ中心に位置する。床面はHF-1の形成面と同面で、標高12.6~12.7mと推測される。4辺の柱穴列が外壁の位置だとすると、住居の規模は1辺が約3.4mである。それぞれの壁面に相当する柱穴列は直線ではなく、若干蛇行する。すなわち北西側(HP-1・11・12)とこれに対面する南東側(HP-4・5・6)はやや外側に膨らみ、南西側(HP-1・2・3・4)とこれに対面する北東側(HP-6・7・8・9・10・11)はやや内側にくぼんでいる。住居跡の長軸はHF-1と同じ西北西-東南東方向と考えられ、道跡との位置関係から北西側に出入口が設けられていた可能性がある。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は楕円形。形成面はⅢ層上位で、浅く掘りくぼめてから火床を設けている。強く焼けており、断面はレンズ状である。上部には微細な炭化材・骨片を多量に含む灰層が厚く堆積している。長軸上の南東端で剥片の小集中が検出された。0.25m×0.30mほどの範囲からチャート製の剥片10点が出土している。これらは炉との位置関係から火打石としての用途が推定される。

HP-1~12：平面形は円形または楕円形が多いが、方形(HP-1・5・7)、三角形(HP-8)のものもある。いずれもⅣ層上面で検出したため、先端~下部が確認された。構築面はHF-1と同面(床面)と考えられることから、検出面より0.2~0.3m上位である。断面は垂直、またはわずかに傾斜する。先端(坑底部)はⅣ層上位に止まるが、HP-12のようにⅤ層上面付近まで達するものもある。先端が尖ることから、打ち込みまたは挿し込みによるものと考えられる。

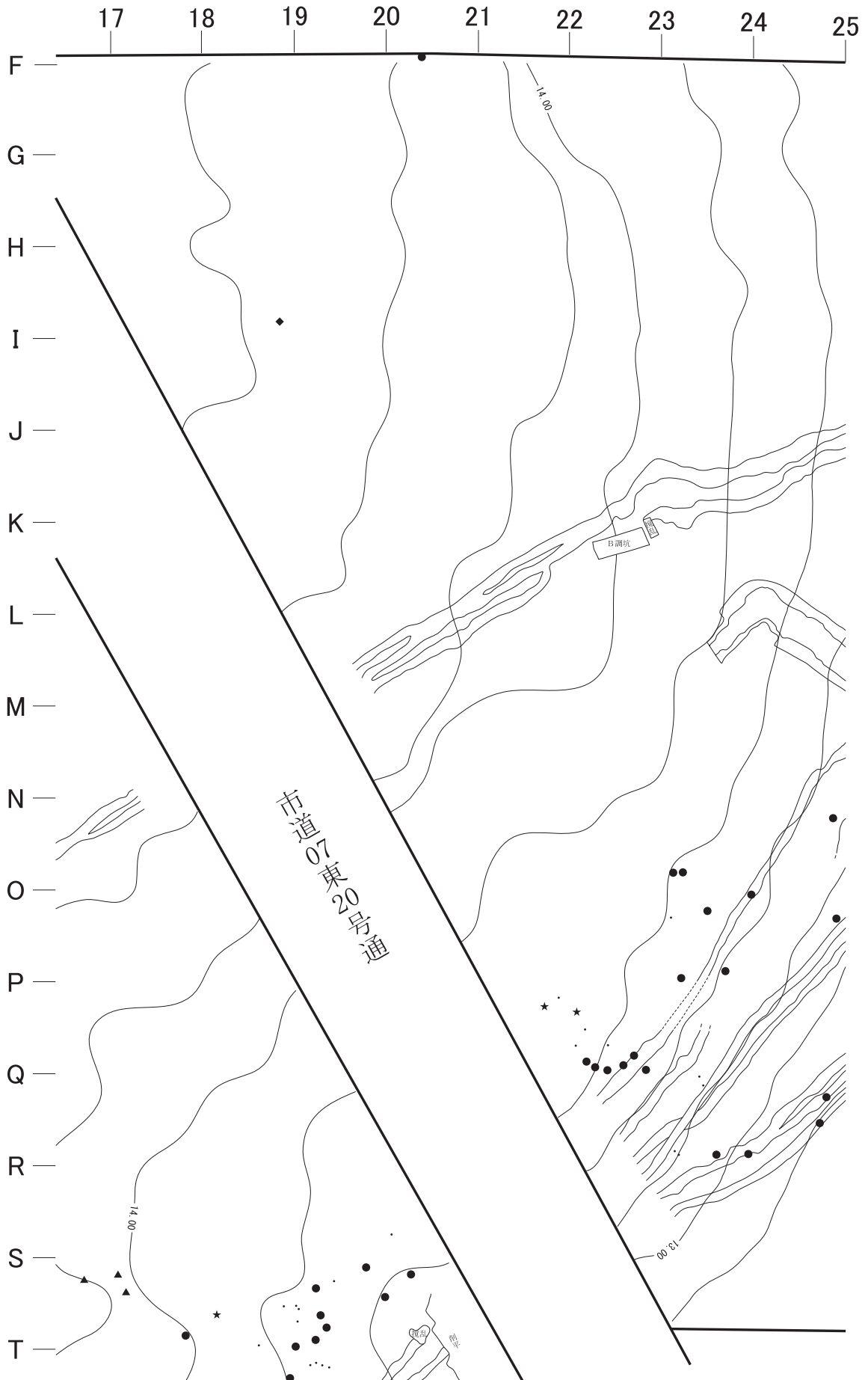
遺物出土状況 HF-1の周辺および柱穴列の内側からは、チャート製剥片を除くと、ほとんど遺物が出土していない。柱穴列の外側ではシカ骨、カワシンジュガイの殻皮、棒状礫などが散在する。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(芝田)

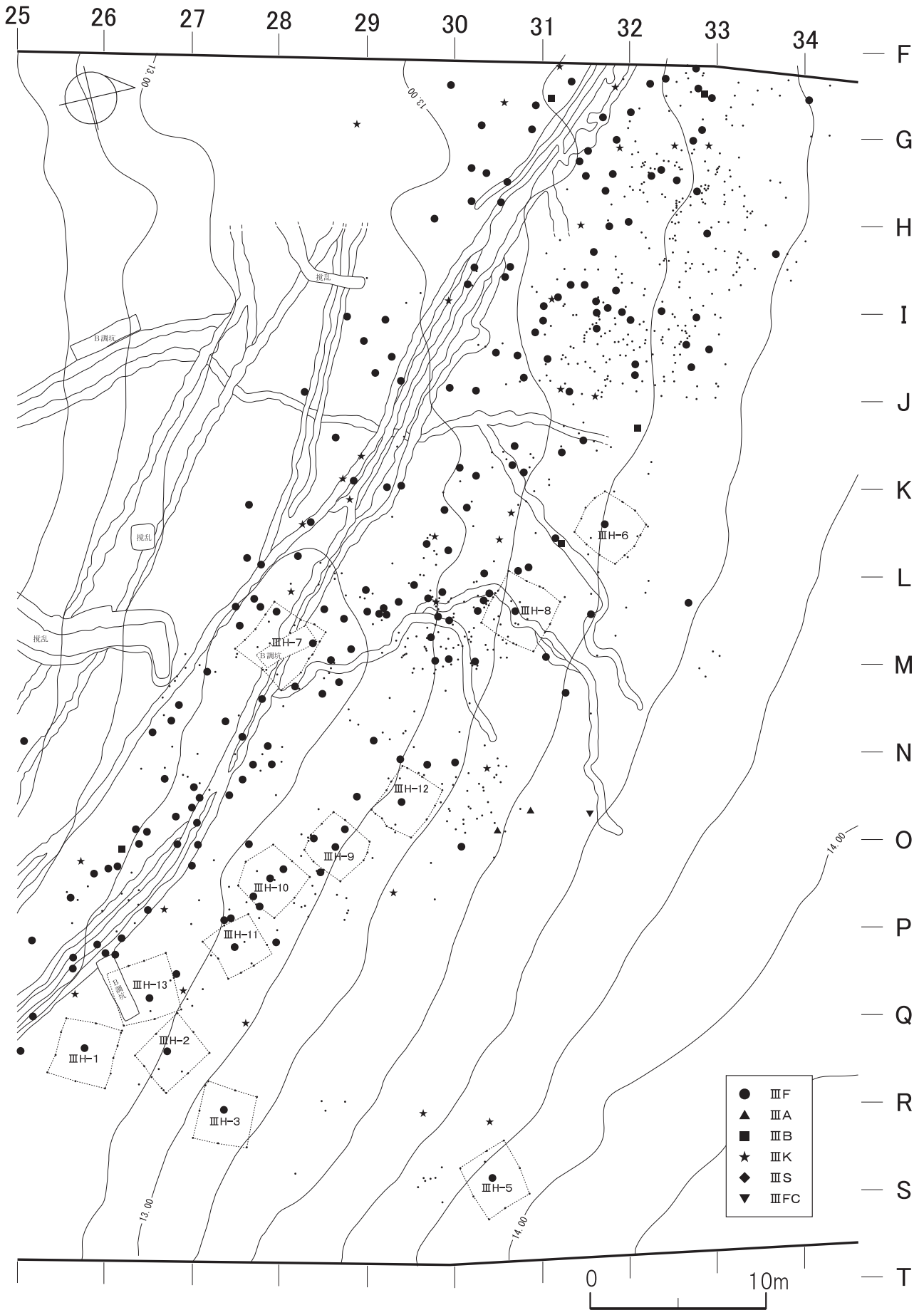
ⅢH-2 (図V-1-3/表V-1-1/図版22)

確認・調査 梅川へ降りる南東向きの沢地形内に立地する。Ⅲ層上位で焼土(HF-1)を検出した。周辺を精査したところ、Ⅳ層上面でHF-1を取り囲む14基の小ピット(HP-1~14)の配列を確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

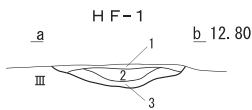
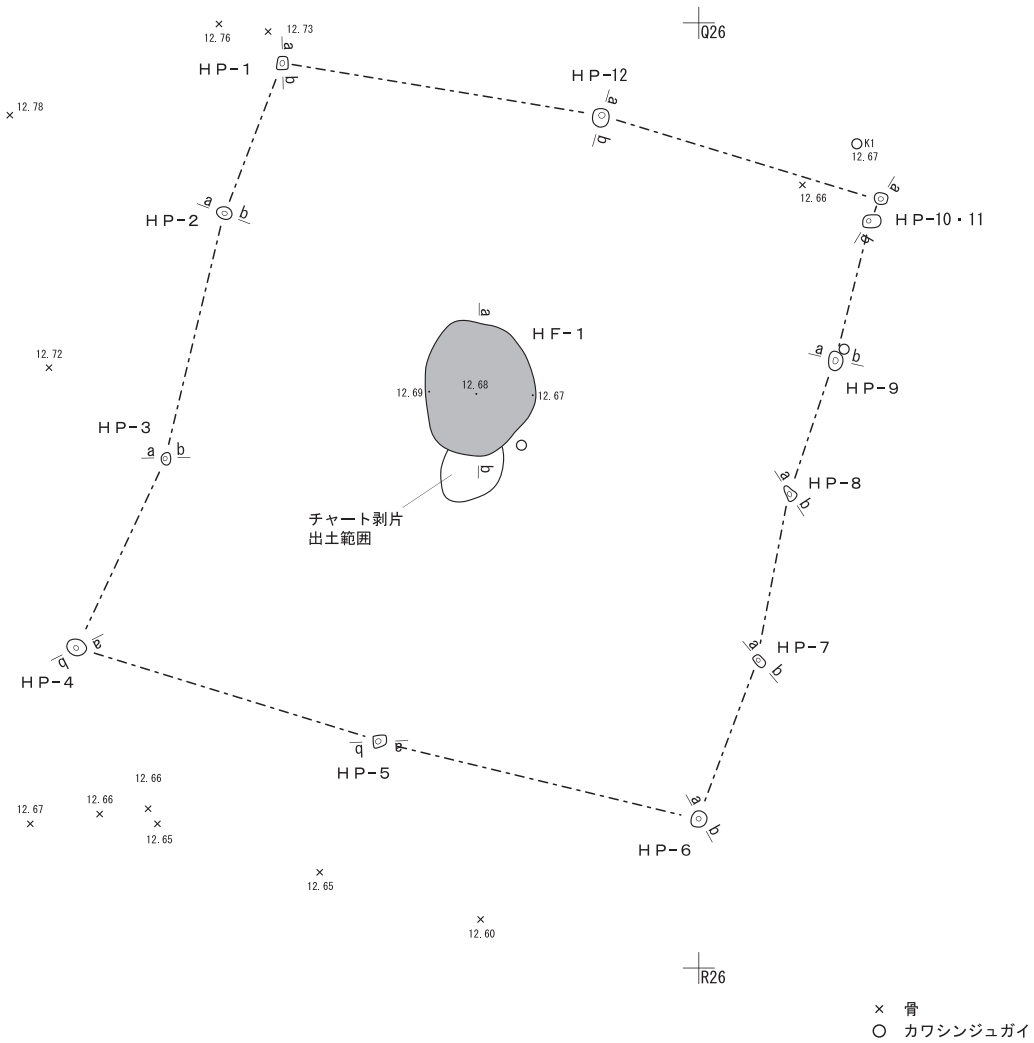
形態 屋内炉と考えられるHF-1の周囲を、柱穴11基(HP-1~6・8~12)が0.2~1.7mの間隔で長方形に並ぶ。HP-7・14は柱穴列の内部、HP-13は外部に位置するが、HF-1および柱穴列に近接することから付属遺構に含めた。HF-1は柱穴列の中心より少し東側に位置する。床面はHF-1の形成面と同面で、標高12.7~12.8mと推測される。4辺の柱穴列が外壁の位置だとすると、住居の規模は短辺が2.8~2.9m、長辺が3.4~3.5mである。それぞれの壁面に相当する柱穴列はほぼ直線であるが、南側(HP-1・8~12)はやや内側にくぼんでいる。住居跡の長軸は北北



图V-1-1 遺構位置



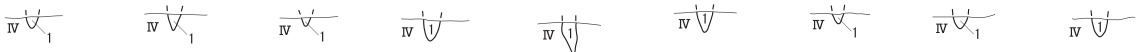
ⅢH-1



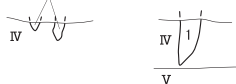
HF-1

- 1層：にぶい黄褐色土(10YR4/3) 締りなし、粘りあり、汚れた灰、炭化材(φ~30mm)・白色骨片(φ~3mm)が多量に混入する、ねっとりしてやわらかい
- 2層：灰白色土(10YR8/1) 締りなし、粘りあり、灰、白色骨片(φ~3mm) きわめて多量に混じる、きめ細かくサラサラしている
- 3層：明褐色土(7.5YR5/6) 締りなし、粘りなし、焼土、強く焼けている

HP-1	HP-2	HP-3	HP-4	HP-5	HP-6	HP-7	HP-8	HP-9
a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60



HP-10・11	HP-12
a b 12.60	a b 12.60



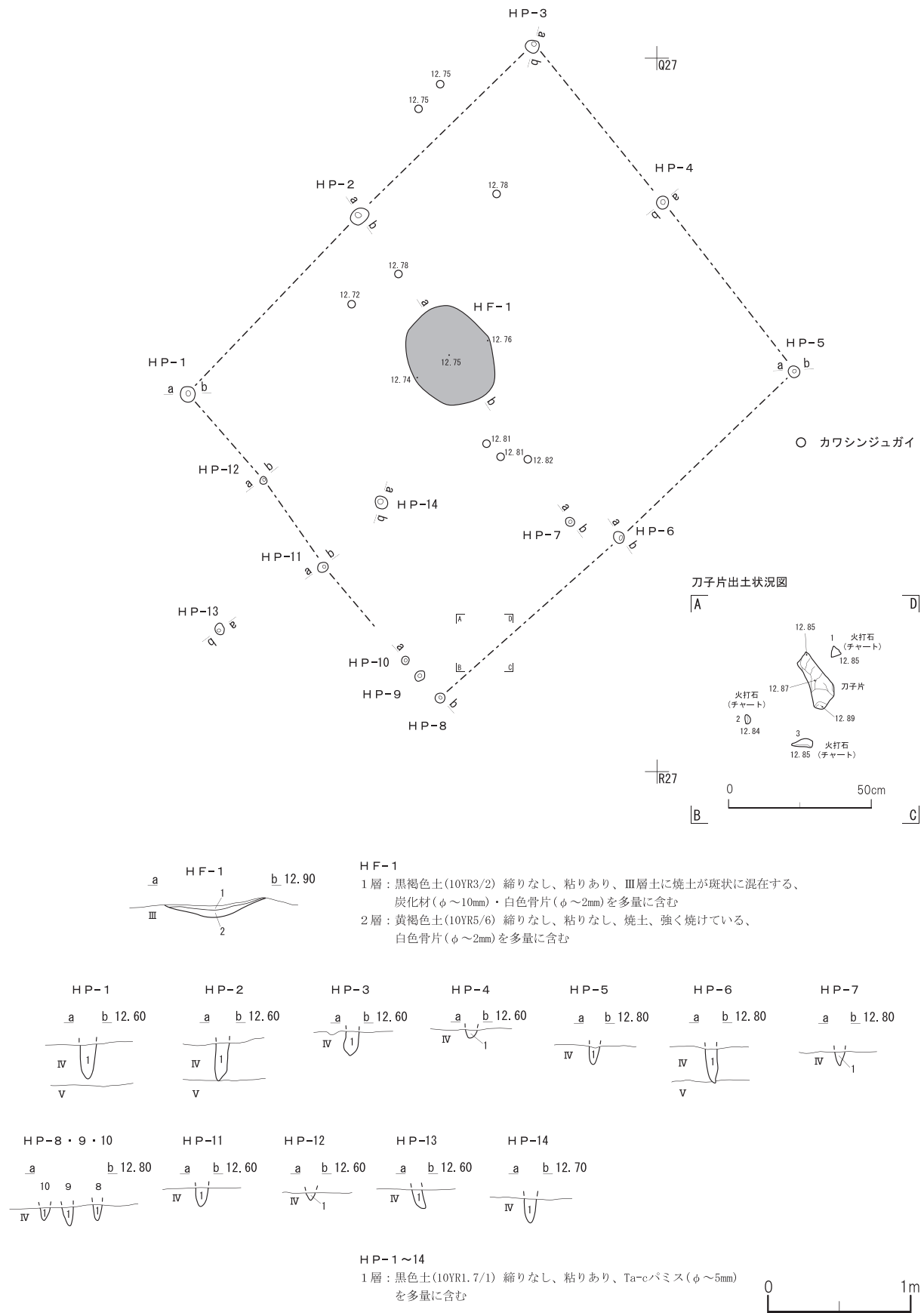
HP-1~12

- 1層：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りあり、Ta-cパミス(φ~5mm)を多量に含む



図V-1-2 ⅢH-1

ⅢH-2



図V-1-3 ⅢH-2

西-南南東方向と考えられ、HF-1の長軸(北東-南東方向)とは異なる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は楕円形。形成面はⅢ層上位。上部に灰層は確認されなかった。強く焼けており、断面はレンズ状である。微細な炭化材・骨片を多量に含んでいる。

HP-1~14：平面形は円形または楕円形を呈する。いずれもⅣ層上面で検出したため、先端~下半部が確認された。構築面はHF-1と同面(床面)と考えられることから、検出面より0.2~0.3m上位である。大半の断面は垂直である。柱穴列外に位置するHP-13は、住居の中心(HF-1)へ向かって傾斜している。先端(坑底部)はⅣ層上位に止まるものが多いが、HP-1・2・6のようにⅤ層上面付近まで達するものもある。先端が尖ることから、打ち込みまたは挿し込みによるものと考えられる。

遺物出土状況 HF-1の周辺および柱穴列の内側では、カワシージュガイの殻皮が散在している。柱穴列の南東隅で小刀1点と火打石と考えられるチャート製剥片3点が出土した。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(芝田)

ⅢH-3 (図V-1-4/表V-1-1/図版22)

確認・調査 梅川へ降りる南東向きの沢地形内に立地する。Ⅲ層上位で焼土(HF-1)を検出した。周辺を精査したところ、Ⅳ層上面でHF-1を取り囲む8基の小ピット(HP-1~8)の配列を確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉と考えられるHF-1の周囲を、柱穴8基が0.3~1.7mの間隔で台形に並ぶ。HF-1は柱穴列の中心より少し東側に位置する。床面はHF-1の形成面と同面で、標高13.0~13.1mと推測される。北東側が風倒木によって壊されており、HP-4・5の間にも柱穴が存在した可能性がある。住居の規模は台形の下底部分(HP-1・2・7・8)が約3.4m、台形の上底部分(HP-4・5)が約3.1mである。ただし、北西端に突き出たHP-1を外側の柱穴と見なして柱穴列から外すと、4辺が3.0~3.1mとほぼ等しくなり、形状が方形に近くなる。この場合、北西側(HP-2・3・4)とこれに対面する南東側(HP-5・6・7)はやや外側に膨らみ、ⅢH-1に類似する。住居跡の長軸はHF-1より少し北よりの同じ西北西-東南東方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

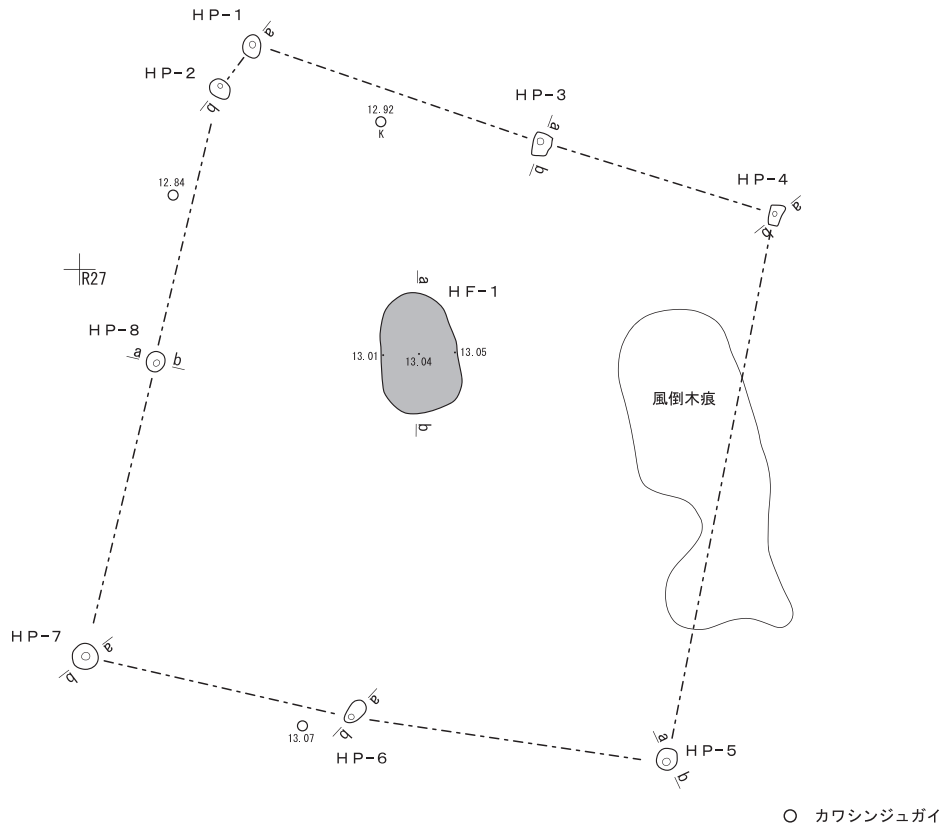
付属遺構 HF-1：平面形は楕円形。形成面はⅢ層上位。上部および周縁部に微細な炭化材・骨片を多量に含む灰層が堆積している。強く焼けており、断面はレンズ状である。焼土の周縁部は削平されており、掻き出しよるものと推測される。また、木根による攪乱を受けている。

HP-1~8：平面形は円形(HP-5・7・8)、楕円形(HP-1・2・6)、方形(HP-3・4)がある。いずれもⅣ層上面で検出したため、先端~下半部が確認された。構築面はHF-1と同面(床面)と考えられることから、検出面より0.2~0.3m上位である。断面は大半が垂直であるが、湾曲するもの(HP-5・6)もある。先端(坑底部)はⅣ層上位に止まるものが多いが、HP-5・6のようにⅤ層上面付近まで達するものもある。先端が尖ることから、打ち込みまたは挿し込みによるものと考えられる。

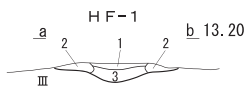
遺物出土状況 柱穴列の内外で、カワシージュガイの殻皮が疎らに出土した。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(芝田)

ⅢH-3

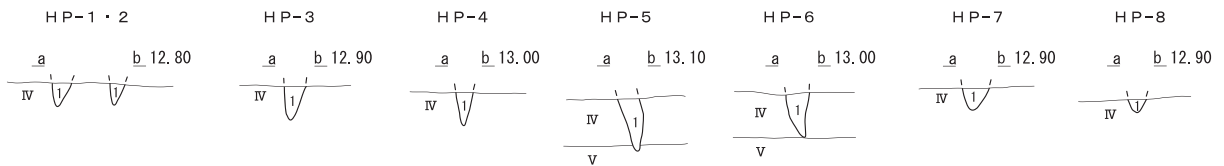


○ カワシジュガイ



HF-1

- 1層：暗褐色土(10YR4/3) 締りなし、粘りあり、汚れた灰、炭化材(φ~5mm)・骨片(φ~2mm)が多量に混入する
- 2層：灰白色土(10YR8/2) 締りなし、粘りなし、灰、骨片(φ~2mm)が多量に混入する、サラサラしている
- 3層：黄褐色土(10YR5/8) 締りなし、粘りなし、焼土、強く焼けている木根のため2層がブロック状に混入している



HP-1~8

- 1層：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りあり、Ta-cパミス(φ~5mm)を多量に含む



図V-1-1 ⅢH-3

ⅢH-5 (図V-1-5/表V-1-1/図版23)

確認・調査 梅川へ降りる沢地形を臨む緩斜面上に立地する。Ⅲ層上位で焼土(HF-1)を検出した。周辺を精査したところ、Ⅳ層上面でHF-1を取り囲む9基の小ピット(HP-1~9)の配列を確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉と考えられるHF-1の周囲を、柱穴8基(HP-1~4・6~9)が1.2~1.8mの間隔でほぼ長方形に並ぶ。HP-5は柱穴列の内部に位置するが、HF-1および柱穴列に近接することから付属遺構に含めた。HF-1は柱穴列のほぼ中心に位置する。床面はHF-1の形成面と同面で、標高13.7~13.8mと推測される。4辺の柱穴列が外壁の位置だとすると、住居の規模は短辺が2.8~3.0m、長辺が3.4~3.5mである。それぞれの壁面に相当する柱穴列は東側を除いて、若干蛇行する。すなわち北側(HP-1・2・3)とこれに直面する南側(HP-6・7・8)はやや外側に膨らみ、東側(HP-3・8・9)はやや内側にくぼんでいる。住居跡の長軸は東北東-西南西方向と考えられ、HF-1の長軸(北東-南西方向)に近似する。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1: 平面形は不整楕円形。形成面はⅢ層上位で、浅く掘りくぼめてから火床を設けている。強く焼けており、断面はレンズ状である。上部には微細な炭化材・骨片を多量に含む灰層が厚く堆積している。周縁部に弱い焼土が疎らに分布している。

HP-1~9: 平面形は円形または楕円形。いずれもⅣ層上面で検出したため、先端~下部が確認された。構築面はHF-1と同面(床面)と考えられることから、検出面より0.2~0.3m上位である。断面は垂直のものが多いが、HP-1は外側へ傾斜する。HP-6は断面に段が見られ、掘り方の一部と推測される。先端(坑底部)はⅣ層上位に止まるが、HP-1のようにⅤ層上面付近まで達するものもある。先端が尖るものが多いことから、打ち込みまたは挿し込みによると考えられる。

遺物出土状況 HF-1の周辺および柱穴列の内側で床面に相当する部分からは出土していない。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(芝田)

ⅢH-6 (図V-1-6/表V-1-1/図版23)

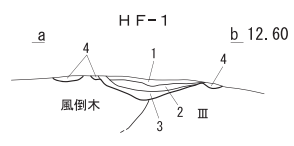
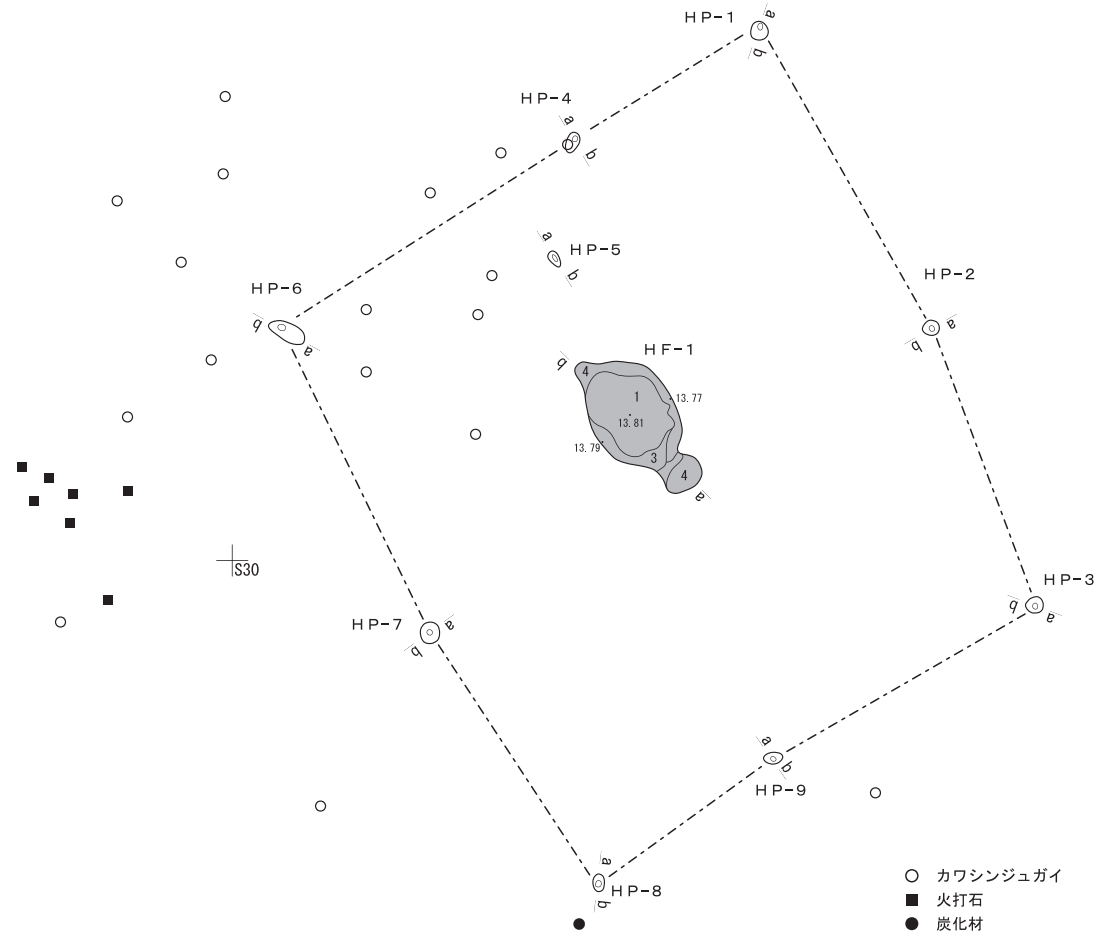
確認・調査 B地区を北西-南東方向に走る沢状地形の北東側に立地する。Ⅲ層上位で焼土(HF-1)を検出した。周辺を精査したところ、Ⅲ層およびⅣ層上面で20基の小ピット(HP-1~20)を確認した。そのうちHP-1~14が焼土を方形に囲む配列であることから、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉(HF-1)を中心として、その周囲を住居柱穴と考えられるHP-1~14が方形に取り囲む。柱穴列が外壁の位置だとすると、住居の規模は一辺が2.9~3.0mである。平面形は、各辺がやや外側に膨らんでいるが、正方形である。一辺あたりの柱穴数は北西・南東側4基、北東・南西側5基である。柱穴の間隔は北西・南東側が0.7~0.8m、北東・南西側が0.9~1.1mである。床面はHF-1と同面で標高13.3mと推測する。屋内炉(HF-1)の位置が若干南西壁側に寄っていることから長軸方向は北東-南西方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

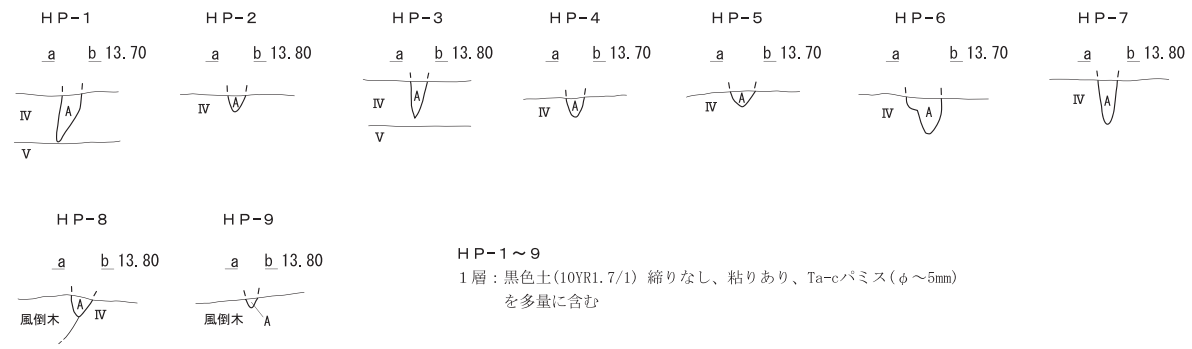
付属遺構 HF-1: 平面形は不整形円形。形成面はⅢ層上位で強く焼けている。上面には微細な炭化材・骨片を含む灰層が堆積している。

HP-1~20: 平面形は円形または楕円形。検出面はⅢ層下位~Ⅳ層上面である。構築面はHF-1と同面と考えられることから、検出面よりも0.1~0.2m上位である。HP-1~14は柱穴列として方形に配列している。HP-15~20は住居内や柱穴の近隣にあるため付属遺構として扱った。断面は内

ⅢH-5

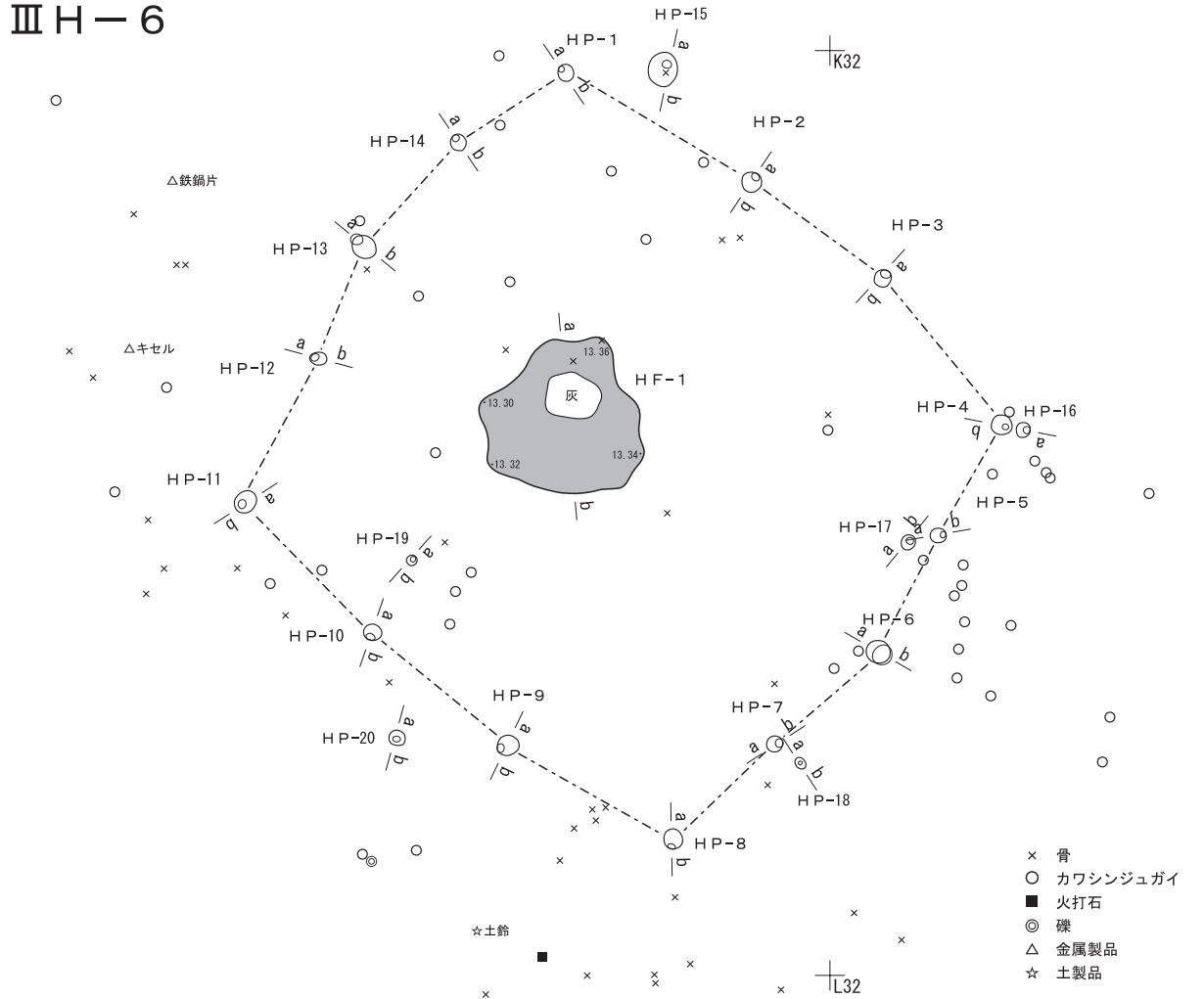


HF-1
 1層：灰白色土(10YR7/1) 縮りなし、粘りあり、灰、炭化材(φ~40mm)・白色骨片(φ~10mm)を多量に含む、中央部に炭化材が多い
 2層：灰白色土(10YR8/2) 縮りなし、粘りあり、灰、白色骨片(φ~2mm)が多量に混じる、層界明瞭
 3層：明赤褐色土(5YR5/6) 縮りなし、粘りなし、焼土、非常に強く焼けている
 4層：赤褐色土(5YR4/6) 縮りなし、粘りあり、弱い焼土、ぼんやりしてはっきりしない

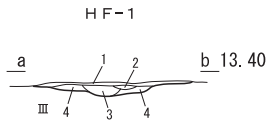


図V-1-5 ⅢH-5

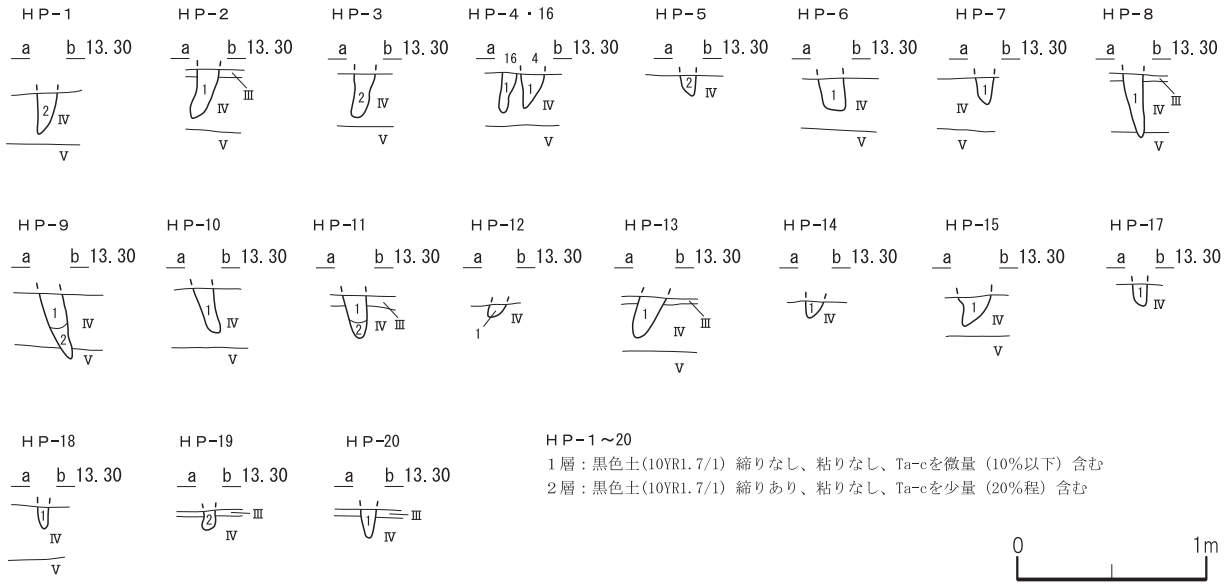
ⅢH-6



- × 骨
- カワシジュガイ
- 火打石
- ◎ 礫
- △ 金属製品
- ☆ 土製品



HF-1
 1層：にぶい赤褐色土(5YR4/3) 灰層、縮りあり、粘りあり 炭化材・微細骨片含む
 2層：にぶい赤褐色土(5YR4/3) 灰層、縮りあり、粘りあり 微細骨片含む
 3層：淡橙色粘土(5YR8/3) 灰層、縮りあり、粘りなし
 4層：明褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし



図V-1-6 ⅢH-6

側に傾いていて先端（坑底部）が尖るものが多い。多くはIV層中で止まるが、HP-8・9はV層に到達している。打ち込みもしくは挿し込みによるものと考えられる。断面図の傾きから外踏ん張り建てられていたと考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。シカ骨、カワシンジュガイの殻皮が散在しているが、住居に伴うかどうかは不明である。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（酒井）

ⅢH-7（図V-1-7／表V-1-1／図版24）

確認・調査 B地区を北西-南東方向にはしる沢状地形の北東側に立地する。Ⅲ層上位で北西-南東方向の道跡を検出したことから周辺を精査したところ、Ⅲ層およびIV層上面で23基の小ピット（HP-1～23）を確認した。方形の配列を確認したことからアイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。住居内にはB調査坑があり、削平されている。位置的に炉跡があった可能性がある。

形態 住居柱穴と考えられるHP-1～14が方形に配列される。柱穴列が外壁の位置とすると、住居の規模は一辺が3.4～3.5mで北東辺が4.1mである。平面形は、北東辺が長い台形である。一辺あたりの柱穴数は北西辺4基、北東辺6基、南東辺3基、南西辺5基である。柱穴の間隔は北西辺0.8～1.8m、北東辺0.3～1.5m、南東辺1.5～2.0m、南西辺0.7～1.0mである。床面は道跡の直下と推測されることから標高約12.7mと推測する。北東壁が長くなっていることから、長軸方向は北東-南西方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。HP-15～23は住居に付随する柱穴と判断した。

付属遺構 HP-1～23：平面形は円形または楕円形。検出面はⅢ層下位～IV層上面である。構築面は周囲の住居と同面と推測されることから、検出面よりも0.1～0.2m上位と考えられる。HP-1～14は柱穴列として方形に配列している。HP-15～23は住居内や柱穴の近隣にあるため付属遺構として扱った。断面は垂直で先端（坑底部）が尖るものが多く、深さはIV層中で止まる。打ち込みもしくは挿し込みによるものと考えられる。断面図から柱は垂直に建てられていたと考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。シカ骨、カワシンジュガイの殻皮が散在しているが、住居に伴うかどうかは不明である。

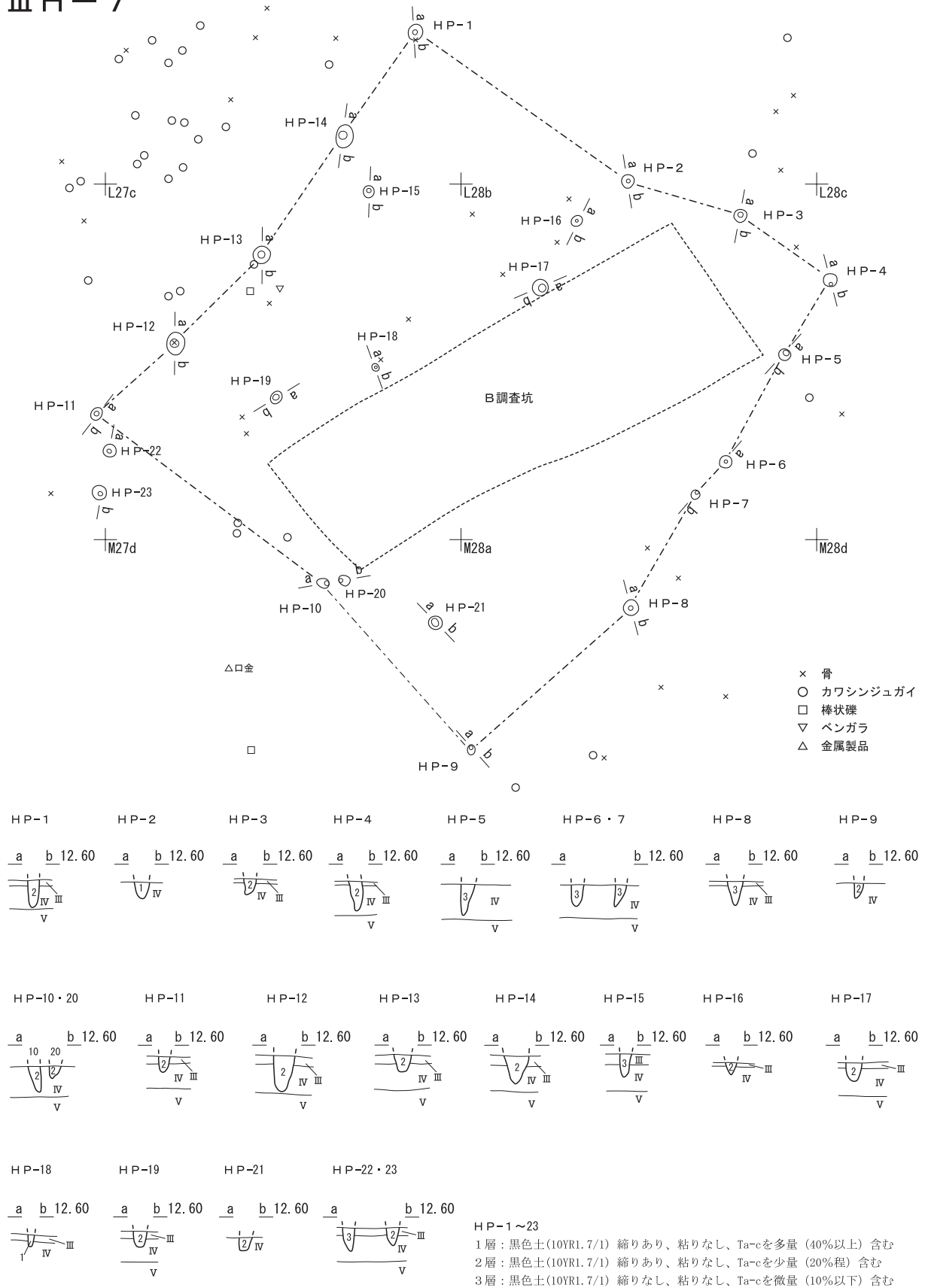
時期 住居の形態から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。また、住居の検出面より上位で北西-南東方向の道跡を確認していることから、これよりも古い。（酒井）

ⅢH-8（図V-1-8／表V-1-1／図版24）

確認・調査 B地区を北西-南東方向にはしる沢状地形の北東側に立地する。北東方向へ伸びる道跡の直下から焼土（HF-1）を検出した。このことから周辺を精査したところ、Ⅲ層およびIV層上面で31基の小ピット（HP-1～31）を確認した。そのうちHP-1～15が焼土を方形に囲む配列であることを確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

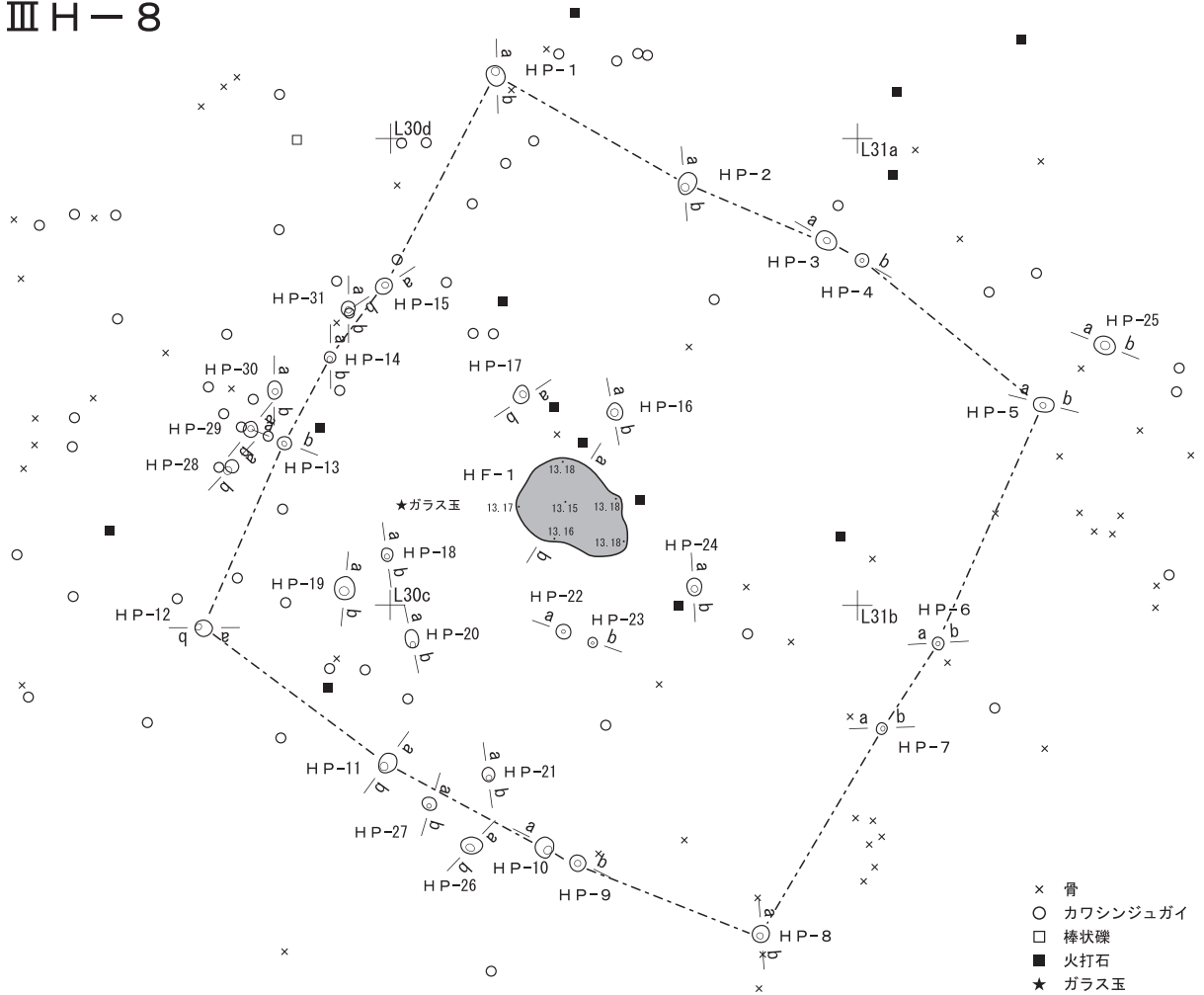
形態 屋内炉（HF-1）を中心として、その周囲を住居柱穴と考えられるHP-1～15が方形に取り囲む。柱穴列が外壁の位置とすると、住居の規模は一辺が3.2～3.4mである。平面形は、各辺がやや外側に膨らんでいるが、正方形である。一辺あたりの柱穴数は北西辺・南東辺・南西辺5基、北東辺4基である。柱穴の間隔は北西辺・南東辺が0.2～1.2m、北東辺が0.5～1.4m、南西辺0.5～1.3mである。床面はHF-1と同面で標高13.1mと推測する。屋内炉（HF-1）の位置が若干南西壁側に寄っていることから長軸方向は北東-南西方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出

ⅢH-7

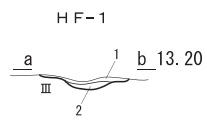


図V-1-7 ⅢH-7

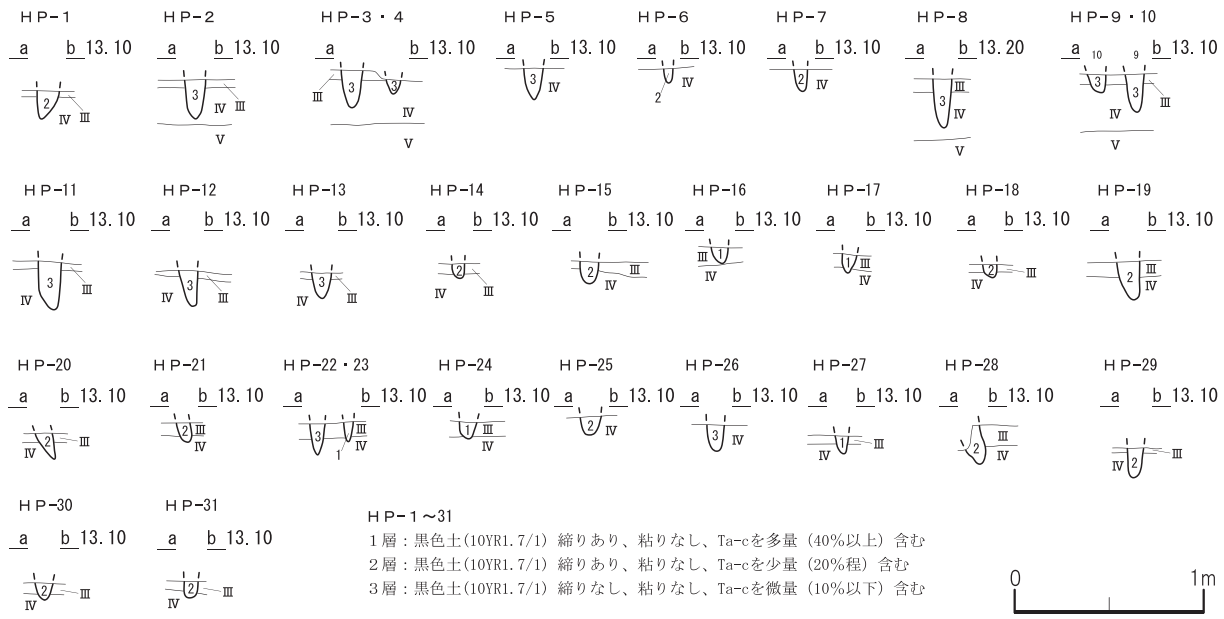
ⅢH-8



- × 骨
- カワシングガイ
- 棒状礫
- 火打石
- ★ ガラス玉



HF-1
 1層：黒褐色土(5VR2/2) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片少量含む
 2層：明赤褐色焼土(5VR5/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地



図V-1-8 ⅢH-8

されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は不整楕円形。形成面はⅢ層上位で強く焼けている。上面には微細な炭化材・骨片を含む層が堆積している。

HP-1～31：平面形は円形または楕円形。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上面である。構築面はHF-1と同面と考えられることから、検出面よりも0.1～0.2m上位である。HP-1～15が柱穴列として方形に配列している。HP-16～31は住居内や柱穴の近隣にあるため付属遺構として扱った。断面は垂直もしくはわずかに傾き、先端（坑底部）は尖るものが多く、Ⅳ層中で止まる。打ち込みもしくは挿し込みによるものと考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土していない。礫、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮が散在しているが、住居に伴うかどうかは不明である。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。また、HF-1より上位で北東方向へ伸びる道跡を確認していることから、これよりも古い。（酒井）

ⅢH-9（図V-1-9／表V-1-1／図版24・25）

確認・調査 B地区を北西-南東方向にはしる沢状地形の北東側に立地する。Ⅲ層上位で灰層のある焼土（HF-1）を検出した。このことから周辺を精査したところ、Ⅲ層およびⅣ層上面で18基の小ピット（HP-1～18）を確認した。そのうちHP-1～12が焼土を方形に囲む配列であることを確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉（HF-1）を中心として、その周囲を住居柱穴と考えられるHP-1～12が方形に取り囲む。柱穴列が外壁の位置とすると、住居の規模は一辺が2.7～2.8mである。平面形は、各辺がやや外側に膨らんでいるが、正方形である。一辺あたりの柱穴数は北西辺3基、北東辺・南東辺4基、南西辺5基である。柱穴の間隔は北西辺0.8～1.9m、北東辺が0.5～1.8m、南東辺が0.8～1.1m、南西辺0.4～1.0mである。床面はHF-1と同面で標高12.9mと推測する。屋内炉（HF-1）の位置が若干南西壁側に寄っていることから長軸方向は北東-南西方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は不整円形。形成面はⅢ層上位で強く焼けている。上面には微細な炭化材・骨片を含む層や灰層が堆積している。

HP-1～18：平面形は円形または楕円形。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上面である。構築面はHF-1と同面と考えられることから、検出面よりも0.1～0.2m上位と推測される。HP-1～12が柱穴列として方形に配列している。HP-13～18は柱穴の近隣にあるため付属遺構として扱った。断面は垂直もしくはわずかに傾き、先端（坑底部）は尖るものが多く、HP-3を除きⅣ層中で止まる。HP-3はⅤ層に到達する。打ち込みもしくは挿し込みによるものと考えられる。

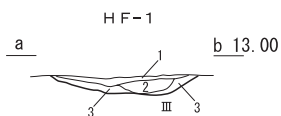
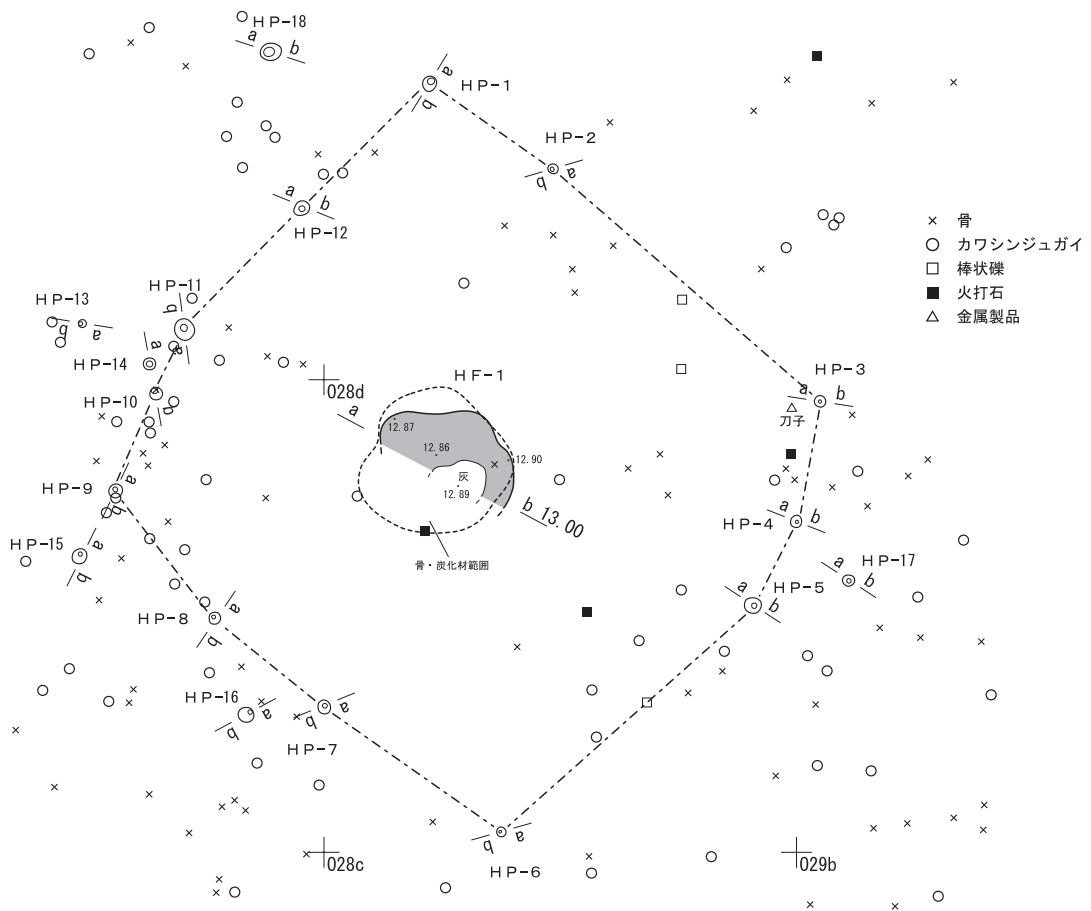
遺物出土状況 ほとんど遺物は出土していない。礫、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮が散在しているが、住居に伴うかどうかは不明である。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（酒井）

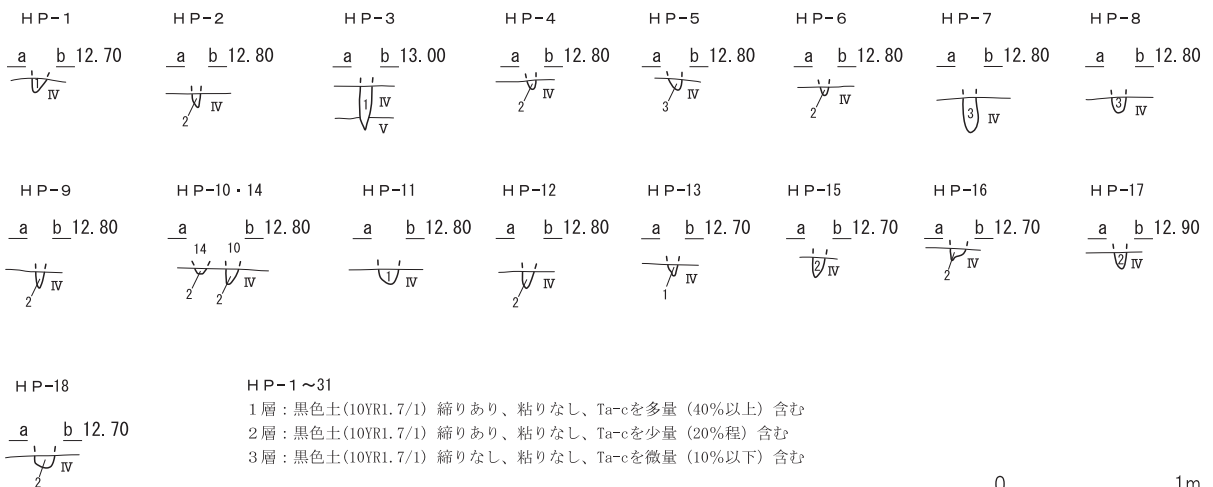
ⅢH-10（図V-1-10／表V-1-1／図版24・25）

確認・調査 B地区を北西-南東方向にはしる沢状地形の北東側に立地する。Ⅲ層上位で灰層のある焼土（HF-1）を検出した。このことから周辺を精査したところ、Ⅲ層およびⅣ層上面で18基の小ピット（HP-1～18）を確認した。そのうちHP-1～8が焼土を方形に囲む配列であることを確

ⅢH-9

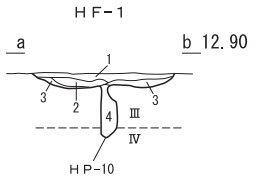
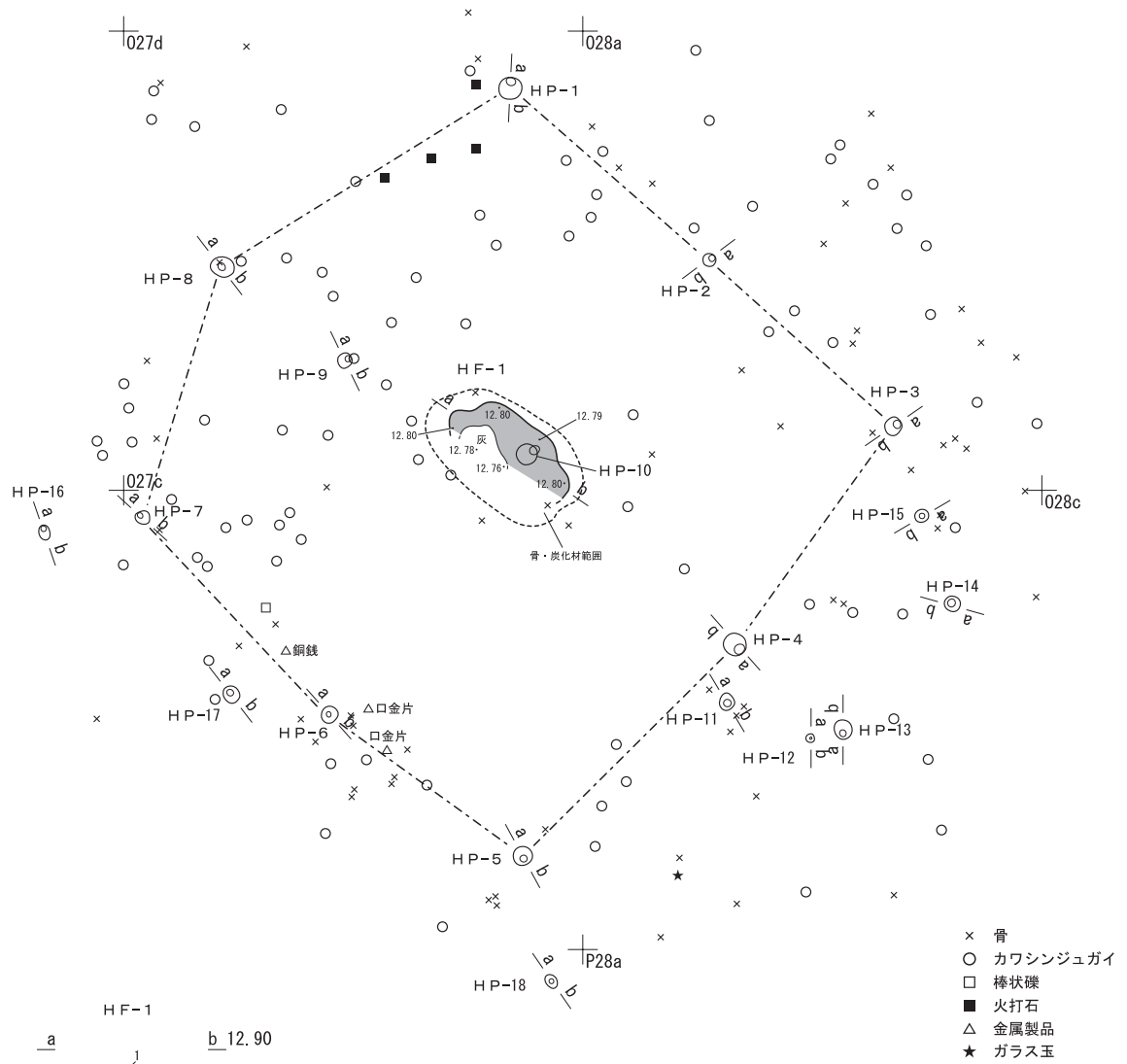


HF-1
 1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りなし、粘りあり、骨を含む
 2層：にぶい橙色土(7.5YR6/4) 縮りあり、粘りあり、灰層
 3層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りあり、粘りあり、焼土



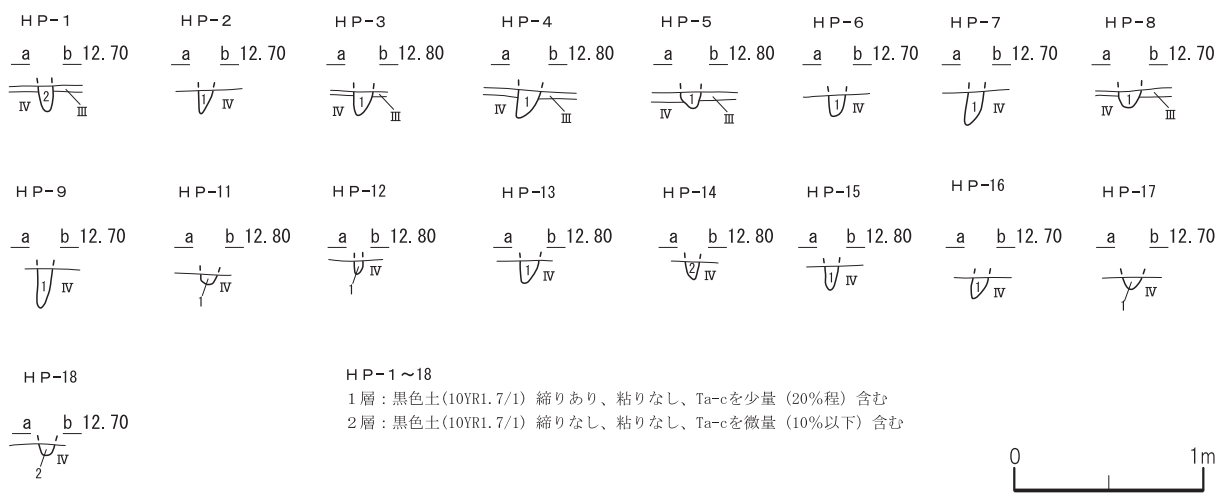
図V-1-9 ⅢH-9

ⅢH-10



HF-1
 1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、骨層
 2層：にぶい褐色土(7.5YR5/3) 縮りなし、粘りあり、白い灰層、粘土のような粘り
 3層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りなし、粘りあり、焼土
 4層：黒色土(7.5YR1.7/1) 縮りなし、粘りなし、HP-10廃棄後にHF-1形成

- × 骨
- カワシンジュガイ
- 棒状礫
- 火打石
- △ 金属製品
- ★ ガラス玉



図V-1-10 ⅢH-10

認め、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉（HF-1）を中心として、その周囲を住居柱穴と考えられるHP-1～12が方形に取り囲む。柱穴列が外壁の位置とすると、住居の規模は一辺が2.8～3.1mである。平面形は、南西辺が大きく張り出し他辺がやや外側に膨らんでいるが、正方形に近い。一辺あたりの柱穴数は3基である。柱穴の間隔は張り出している南西辺が1.4～1.9m、その他3辺は1.3～1.6mである。床面はHF-1と同面で標高12.8mと推測する。長軸方向は、屋内炉（HF-1）と同じく北東-南西方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は不整楕円形。形成面はⅢ層上位で強く焼けている。上面には微細な炭化材・骨片を含む層や灰層が堆積している。直下にHP-10がある。

HP-1～18：平面形は円形である。検出面はⅢ層下位もしくはⅣ層上面である。構築面はHF-1と同面と考えられることから、検出面よりも0.1～0.2m上位と推測される。HP-1～8が柱穴列として方形に配列している。HP-9～18は住居内もしくは柱穴の近隣にあるため付属遺構として扱った。断面は垂直もしくはわずかに傾き、先端（坑底部）は尖るものが多く、Ⅳ層中で止まる。断面図の傾きから外踏ん張りで建てられていたと考えられる。打ち込みもしくは挿し込みによるものと考えられる。HP-10はHF-1直下だが、各柱穴の対角交点に位置していることから住居との関連を想定してHPとした。

遺物出土状況 ほとんど遺物は出土していない。礫、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮が散在しているが、住居に伴うかどうかは不明である。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（酒井）

ⅢH-11（図V-1-11／表V-1-1／図版24・25）

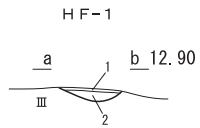
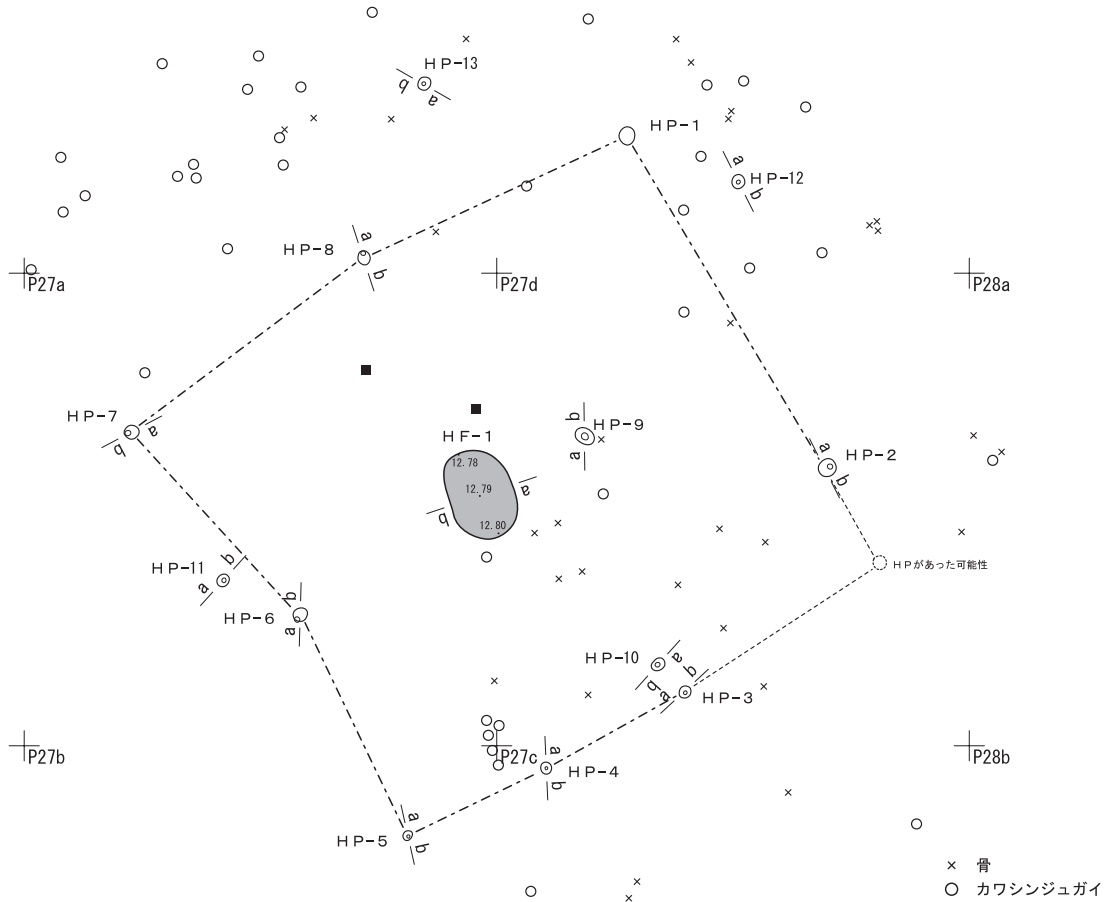
確認・調査 B地区を北西-南東方向にはしる沢状地形の北東側に立地する。Ⅲ層上位で灰層のある焼土（HF-1）を検出した。このことから周辺を精査したところ、Ⅲ層およびⅣ層上面で13基の小ピット（HP-1～13）を確認した。そのうちHP-1～8が焼土を方形に囲む配列であることを確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉（HF-1）を中心として、その周囲を住居柱穴と考えられるHP-1～8が方形に取り囲む。形状から北西辺と北東辺の交点に柱穴があった可能性が高い。柱穴列が外壁の位置とすると、住居の規模は一辺が2.6～3.0mである。平面形は、南東辺が内側に凹むが、正方形に近い。一辺あたりの柱穴数は、北西辺と北東辺の交点に柱穴があったとすると北東辺4基、その他3辺が3基である。柱穴の間隔は、南西辺1.5m、南東辺1.3m、北東辺0.8～(1.2)m、北西辺(0.6)～2.0mである。床面はHF-1と同面で標高12.8m付近と推測する。長軸方向は、屋内炉（HF-1）と同じく北東-南西方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は楕円形。形成面はⅢ層上位で強く焼けている。上面には微細な炭化材・骨片を含む層や灰層が堆積している。

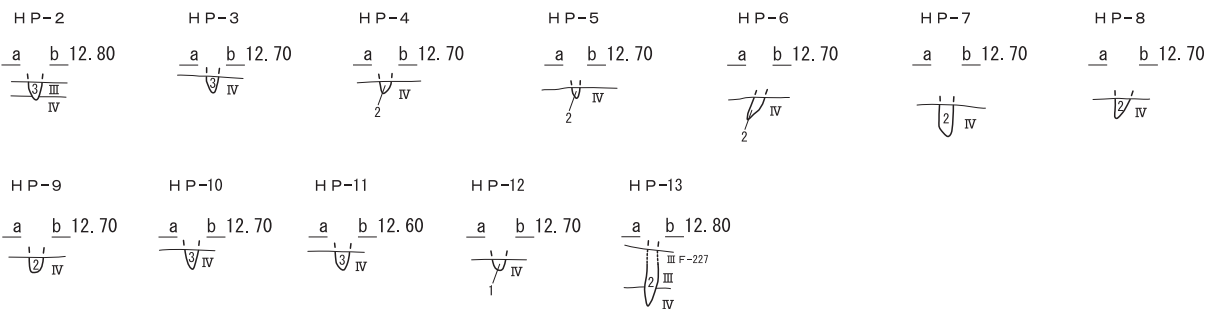
HP-1～13：平面形は円形。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層上面である。構築面はHF-1と同面と考えられることから、検出面よりも0.1～0.2m上位と推測される。HP-1～8が柱穴列と考えられるが、北西辺と北東辺の交点に柱穴があったとすると方形の配列となる。HP-9～13は住居内もしくは柱穴の近隣にあるため付属遺構として扱った。断面は垂直もしくはわずかに傾き、先端（坑底部）は尖るものが多く、Ⅳ層中で止まる。断面図の傾きから外踏ん張りで建てられていたと考えられる。打ち込みもしくは挿し込みによるものと考えられる。

Ⅲ H-11



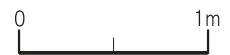
HF-1

1層：黒褐色土(10YR2/2) 縮りなし、粘りあり、汚れた灰、炭化材(φ~5mm)・白色骨片(φ~3mm)が多量に混じる
2層：黄褐色土(10YR5/8) 縮りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、骨片(φ~2mm)が少量混じる



HP-2~13

1層：黒色土(10YR1.7/1) 縮りあり、粘りなし、Ta-cを多量(40%以上)含む
2層：黒色土(10YR1.7/1) 縮りあり、粘りなし、Ta-cを少量(20%程)含む
3層：黒色土(10YR1.7/1) 縮りなし、粘りなし、Ta-cを微量(10%以下)含む



図V-1-11 Ⅲ H-11

遺物出土状況 ほとんど遺物は出土していない。礫、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮が散在しているが、住居に伴うかどうかは不明である。また、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮は、床面と考えられる標高よりわずかに高い位置から出土しているため、住居廃棄後のものの可能性がある。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（酒井）

ⅢH-12（図V-1-12／表V-1-1／図版25）

確認・調査 梅川へ降りる沢地形を臨む緩斜面上に立地する。Ⅲ層上位で焼土（HF-1）を検出した。周辺を精査したところ、Ⅳ層上面でHF-1を取り囲む22基の小ピット（HP-1～22）の配列を確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

形態 屋内炉と考えられるHF-1の周囲を、柱穴14基（HP-1～4・7・9～11・13・16～19・21）が0.2～1.4mの間隔でほぼ長方形に並ぶ。HP-5・6・8・12・14・20は柱穴列の外部、HP-15・22は柱穴列の内部に位置するが、HF-1および柱穴列に近接することから付属遺構に含めた。HF-1は柱穴列の中心よりやや西側に位置する。床面はHF-1の形成面と同面で、標高13.0～13.1mと推測される。4辺の柱穴列が外壁の位置だとすると、住居の規模は短辺が2.7～2.8m、長辺が3.2～3.4mである。それぞれの壁面に相当する柱穴列は若干蛇行しており、いずれも外側に膨らんでいる。住居跡の長軸は北西-南東方向と考えられ、HF-1の長軸（北北東-南南西方向）とは異なっている。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。

付属遺構 HF-1：平面形は不整楕円形。形成面はⅢ層上位で、浅く掘りくぼめてから火床を設けている。強く焼けており、断面はレンズ状である。上部に灰層は確認されなかった。

HP-1～22：平面形は円形または楕円形。いずれもⅣ層上面～上位で検出したため、先端～下部が確認された。構築面はHF-1と同面（床面）と考えられることから、検出面より0.2～0.3m上位である。断面は垂直あるいはやや傾斜する。また、先端のみが確認されたため、形状が不明なものもある（HP-8・14～17・21）。北西側・北東側・南西側の各柱穴列のほぼ中央にあるHP-3・10・19は比較的規模が大きく、深い。先端（坑底部）が尖るものが多いことから、打ち込みまたは挿し込みによると考えられる。

HA-1：床面の東隅より灰集中1か所が検出された。平面形は不定形で、層厚は0.01m以下と非常に薄く、柱穴列の外側まで疎らに分布する。灰の内部にシカ骨、カワシンジュガイの殻皮などを伴う。HF-1との位置関係から、これより廃棄されたものと推測される。

遺物出土状況 HF-1の焼土中より釘、シカ骨（基節骨）、柱穴列の内側で床面に相当する部分から、火打金、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮などが出土した。また、北東側の外部からも太鼓鉾・座金や、土玉、火打石剥片、棒状礫、シカ骨、カワシンジュガイの殻皮などが多数出土している。

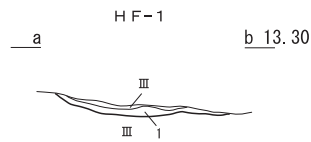
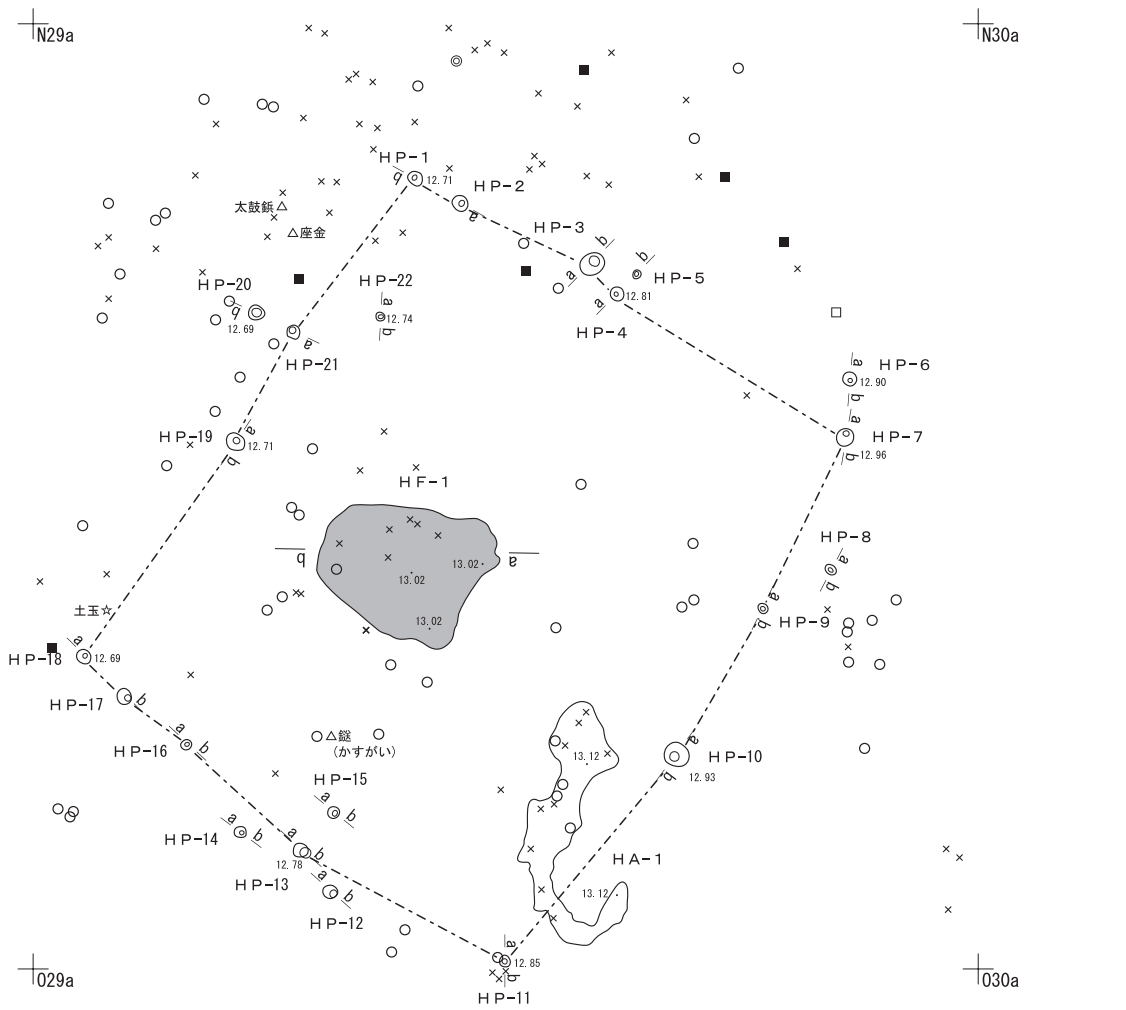
時期 炉跡の検出層位、住居の形態から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（芝田）

ⅢH-13（図V-1-13／表V-1-1／図版23）

確認・調査 梅川へ降りる南東向きの沢地形内に立地する。Ⅲ層上位で焼土（HF-1）を検出した。周辺を精査したところ、Ⅳ層上面でHF-1を取り囲む9基の小ピット（HP-1～9）の配列を確認し、アイヌ文化期の平地式住居跡と認定した。

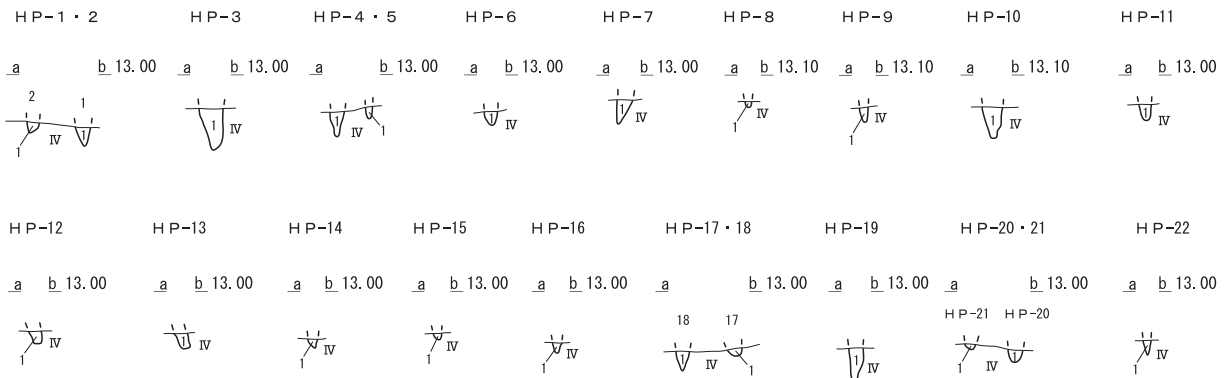
形態 屋内炉と考えられるHF-1の周囲を、柱穴8基が0.9～1.8mの間隔で長方形に並ぶ。南側がB調査試掘坑によって壊されており、HP-4・8の間にも柱穴が存在した可能性がある。HP-3・9は柱穴列の内部に位置するが、HF-1および柱穴列に近接することから付属遺構に含めた。

Ⅲ H-12



HF-1
1層: 橙色土(5YR6/8) 縮りあり、粘りあり、
微細骨片1~3%混じる

- × 骨
- カワシジュガイ
- 棒状礫
- 火打石
- △ 金属製品
- ☆ 土製品

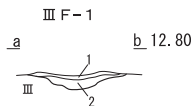
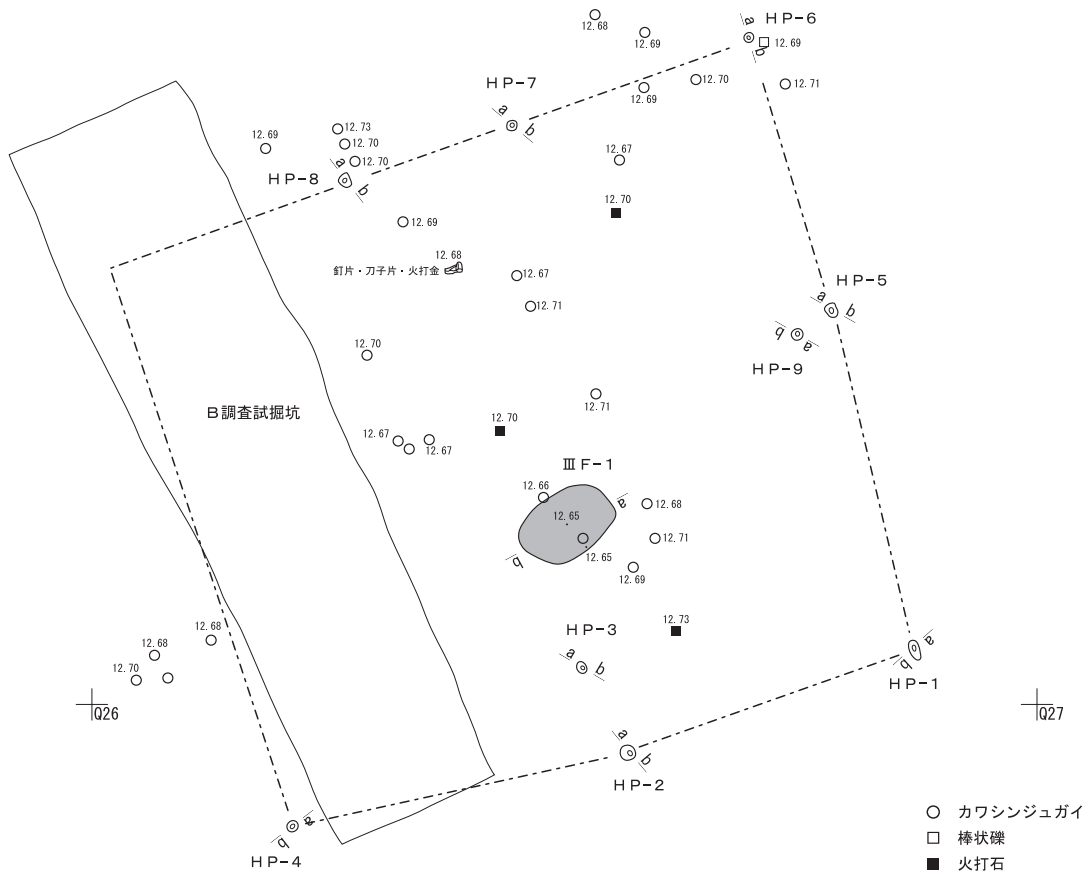


1層: 黒褐色土(10YR3/1) 縮りなし、粘りなし、Ta-cを微量(10%以下)含む



図V-1-12 Ⅲ H-12

ⅢH-13



ⅢF-1
 1層：暗褐色土(10YR3/3) 締りなし、粘りあり、汚れた焼土、炭化材(φ~10mm)・骨片(φ~2mm)に富む、黒斑あり
 2層：黄褐色土(10YR5/6) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、骨片(φ~2mm)が少量混じる、漸退、もろい

HP-1	HP-2	HP-3	HP-4	HP-5	HP-6	HP-7	HP-8	HP-9
a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60	a b 12.60

HP-1~9
 1層：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りあり、Ta-cパミス(φ~5mm)を多量に含む



図V-1-13 ⅢH-13

H F - 1 は柱穴列の中心よりやや東側に位置する。床面はH F - 1 の形成面と同面で、標高12.6～12.7mと推測される。住居の規模は、短辺が3.1～3.3m、長辺が3.4～3.5mと推測される。それぞれの壁面に相当する柱穴列はほぼ直線であるが、北側(H P - 1・5・6)と東側(H P - 1・2・4)はやや外側に膨らんでいる。住居跡の長軸はH F - 1 とほぼ同じで北-南方向と考えられる。前小屋部分に相当する柱穴は検出されなかった。カワシンジュガイ集中ⅢK-15と重複するが、検出層位からⅢH-13のほうが古い。

付属遺構 H F - 1 : 平面形は楕円形。形成面はⅢ層上位。上部に灰層は確認されなかった。強く焼けており、断面はレンズ状である。微細な炭化材・骨片を多量に含んでいる。

H P - 1 ~ 9 : 平面形は円形または楕円形が多い(H P - 5・8は方形)。いずれもⅣ層上面で検出したため、先端～下半部が確認された。構築面はH F - 1 と同面(床面)と考えられることから、検出面より0.2～0.3m上位である。断面は垂直で、先端(坑底部)はⅣ層上～中位に止まる。先端が尖るものが多いことから(H P - 1 のみ丸い)、打ち込みまたは挿し込みによると考えられる。

遺物出土状況 H F - 1 の周辺および柱穴列の内側で床面に相当する部分からは、鉄製品、火打石と推測されるメノウ製剥片、カワシンジュガイの殻皮などが出土している。

時期 炉跡の検出層位、住居の形態から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(芝田)

(2) 杭穴

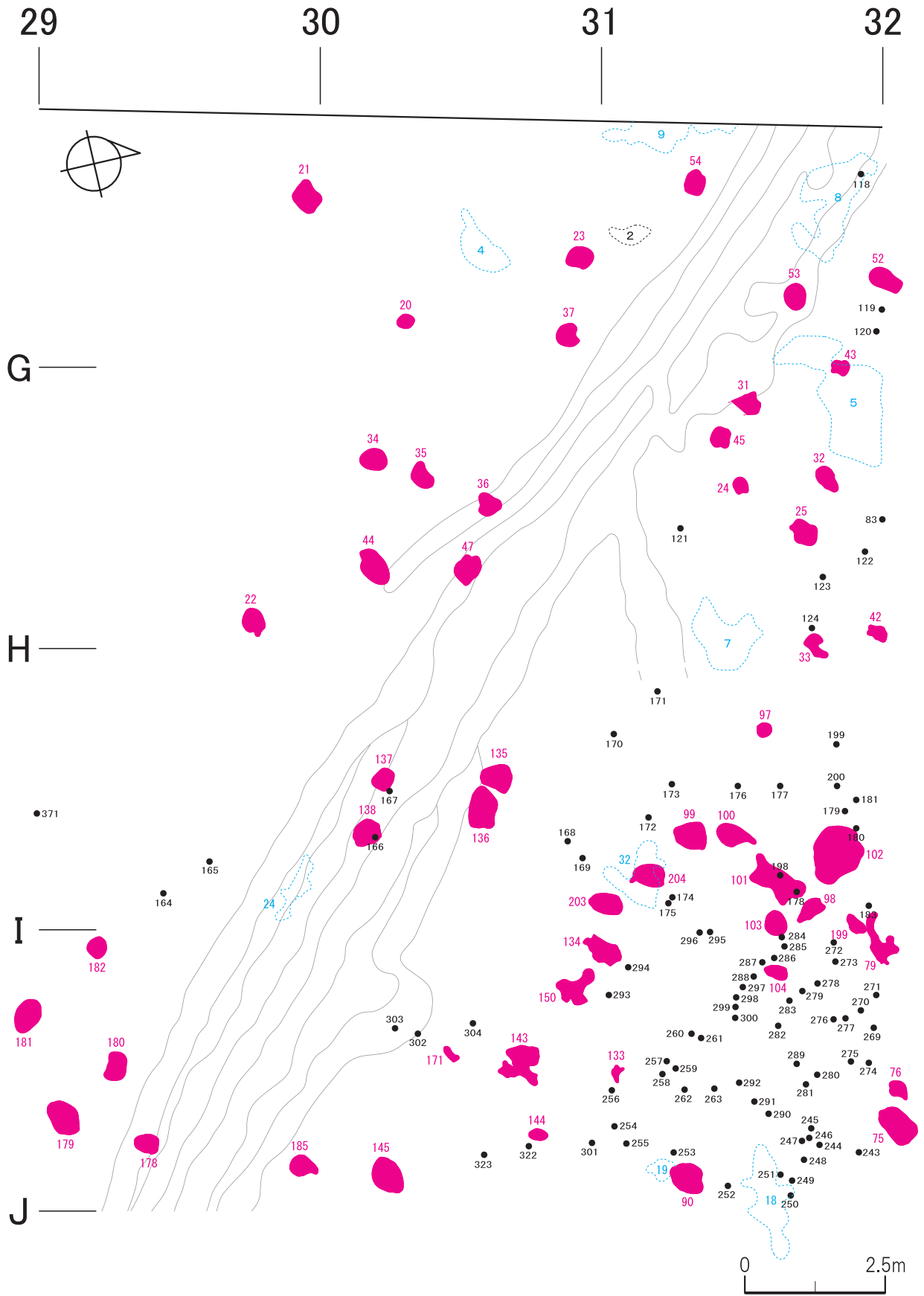
ⅢS P - 1 ~ 560 (図V-1-14~31/表V-1-2)

住居跡を構成しない単独の杭穴(ⅢS P)を560基検出した。住居跡や焼土周辺に広く分布しており、特に北側で密集する。一方、道跡より西側、住居群より東側では非常に稀である。これらの多くは建物跡などの施設を構成する柱穴の可能性があるが、配列や周辺の遺構との位置関係、出土遺物などからは確定できなかった。個々の杭穴の規模・傾き・平面形・先端形状・覆土・特徴などは、一覧表にまとめて記した(表V-1-2)。

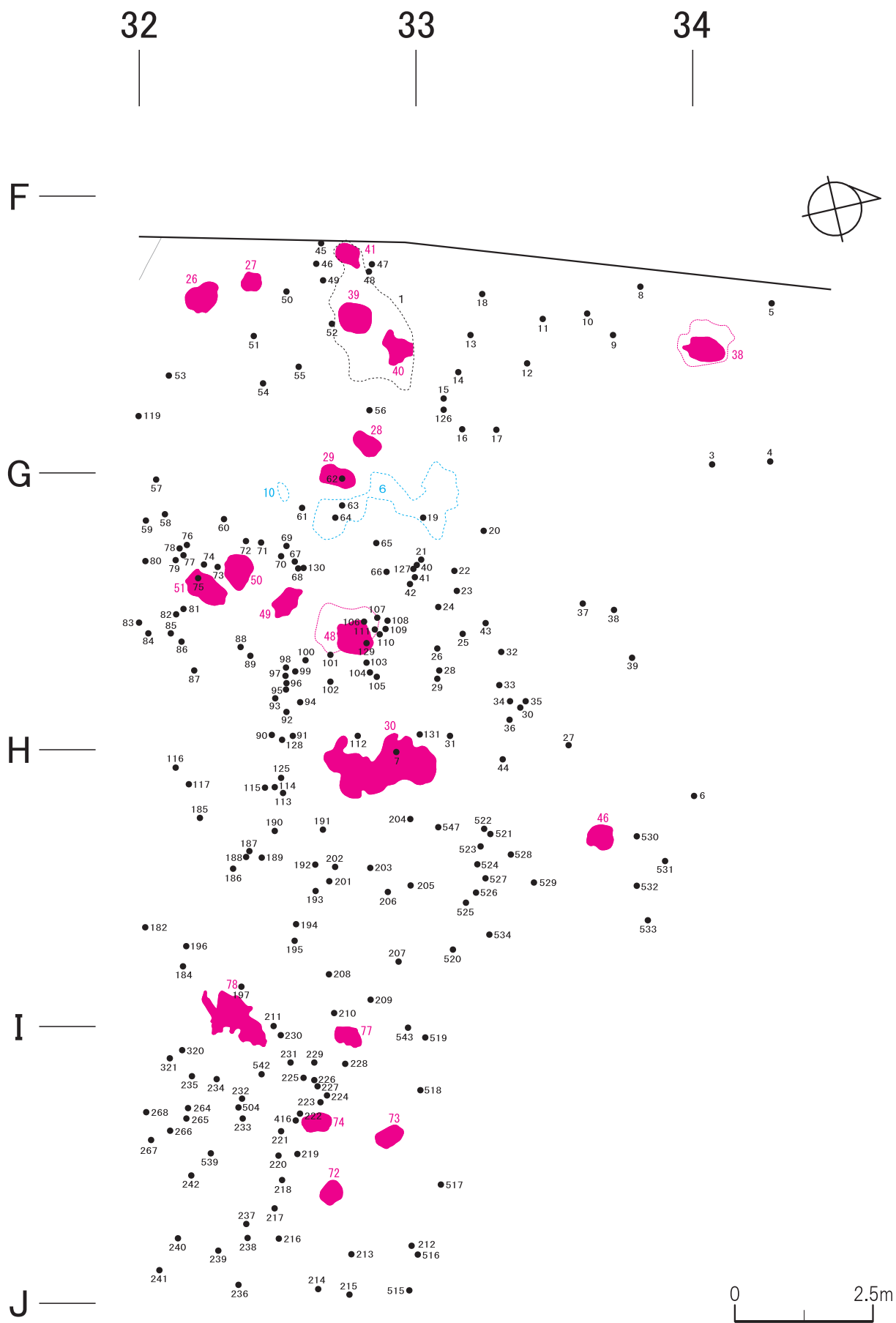
ⅢS P-485~489は同規模の杭穴が道跡に沿って直線状に並んでおり、柵列としての機能が想定される。ⅢH-7のH P-1・11~14、H P-4~9、H P-2・10・16・17・20(B調査坑により不明瞭)も同様に道跡に並行しており、住居跡の柱穴ではなく柵列だった可能性がある。また、北側の密集域では、杭穴が短い間隔で弧状(ⅢS P-284~300、ⅢS P-21・40~42・127、ⅢS P-95・96・97・98、ⅢS P-390~393など)あるいは袋状(ⅢS P-11~18・126、ⅢS P-45~55など)に並ぶ例が見られる。これらは周辺に焼土や灰集中・骨集中・貝集中を伴っており、金属製品や陶磁器、ガラス玉などの特殊な遺物も出土していることから、幣場としての機能が想定される。

Ⅲ層と同一の腐植土を覆土とするため、Ⅳ層上面もしくは上位で先端部が検出されたものが大半である。ⅢS P-144は覆土がT a - c 降下軽石を主体としており、抜き取り痕と考えられる。先端がⅣ層中に留まる杭穴がほとんどだが、Ⅴ層に達するもの(6基)も少数ある。平面形は円形または楕円形が多いが、三角形(4基)や方形(7基)のものもある。大部分が確認面での直径0.1m以下と比較的細い。傾きは垂直もしくはほぼ垂直(0~20度)のものが多い。先端の断面形状は尖るものが426基と最も多く、丸底が121基でこれに次ぐ。角底は12基と非常に少ない。また、ⅢS P-282は先端が分岐しており、2基が重複する可能性がある。

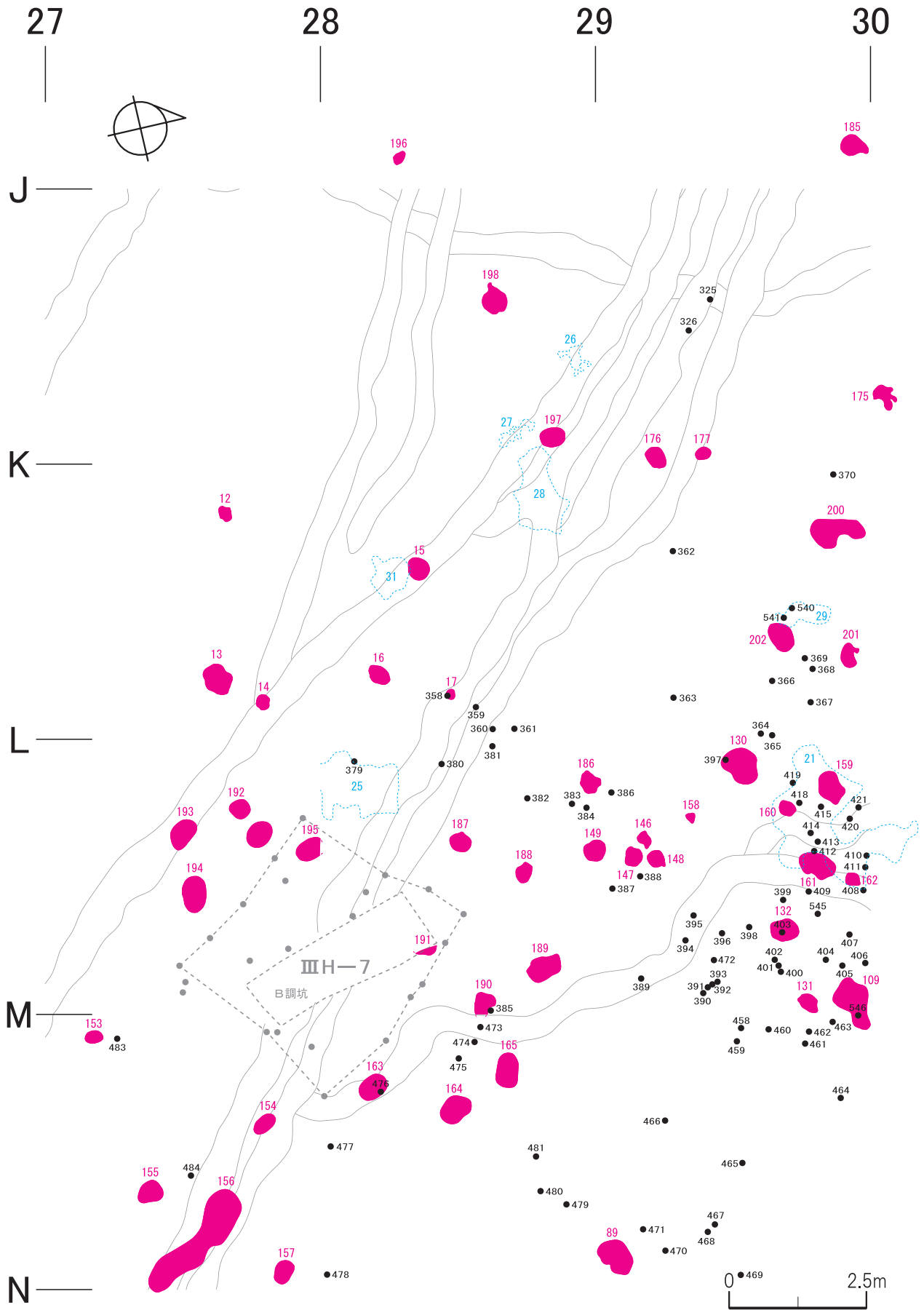
ⅢS P-368・456はシカ骨片、ⅢS P-140・240・368・550はカワシンジュガイ殻皮が覆土中より出土した。ⅢS P-547の覆土中より頁岩の剥片が出土しているが、Ⅲ層中の続縄文時代前葉の遺物が流れ込んだものであろう。



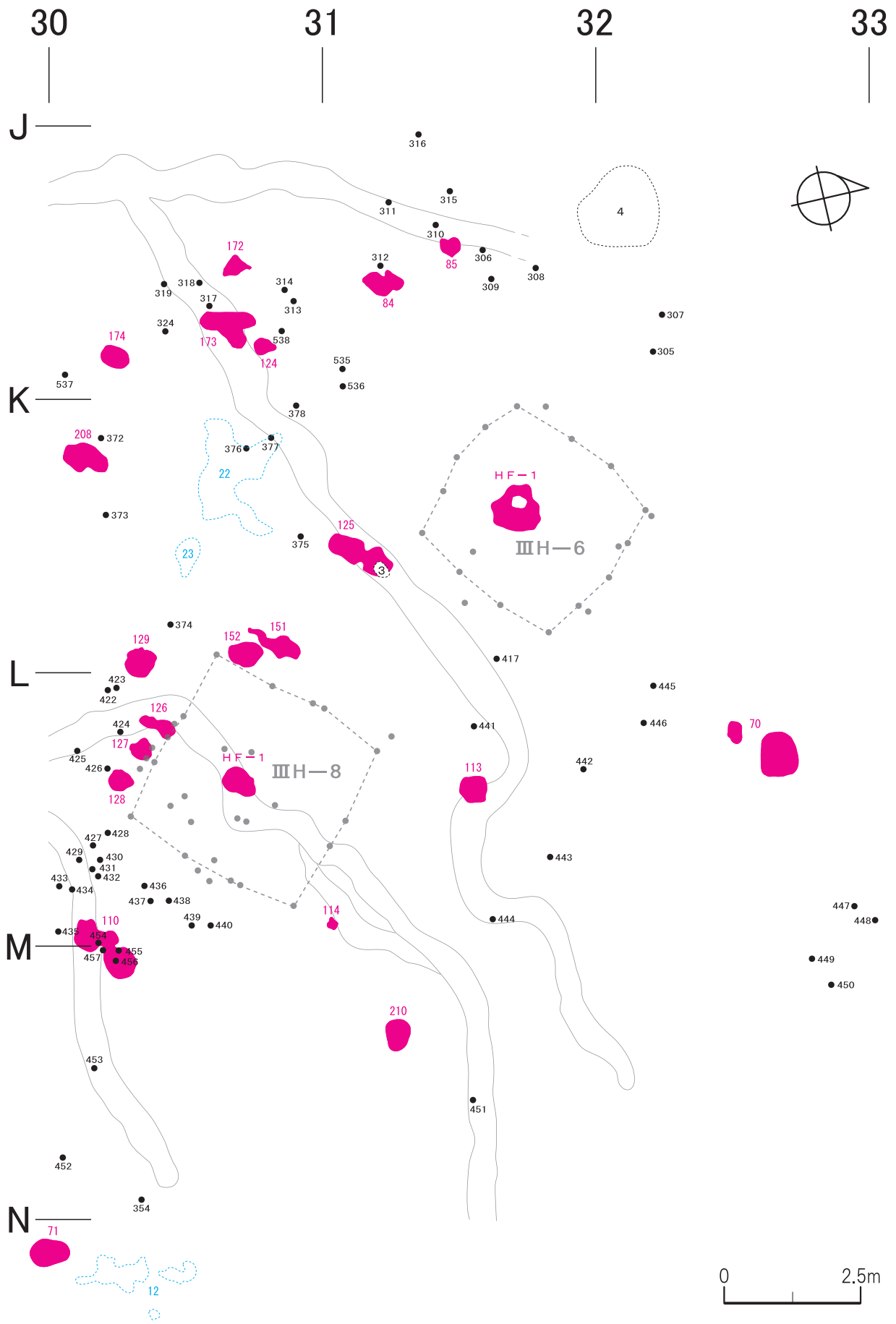
図V-1-14 ⅢSP位置(1)



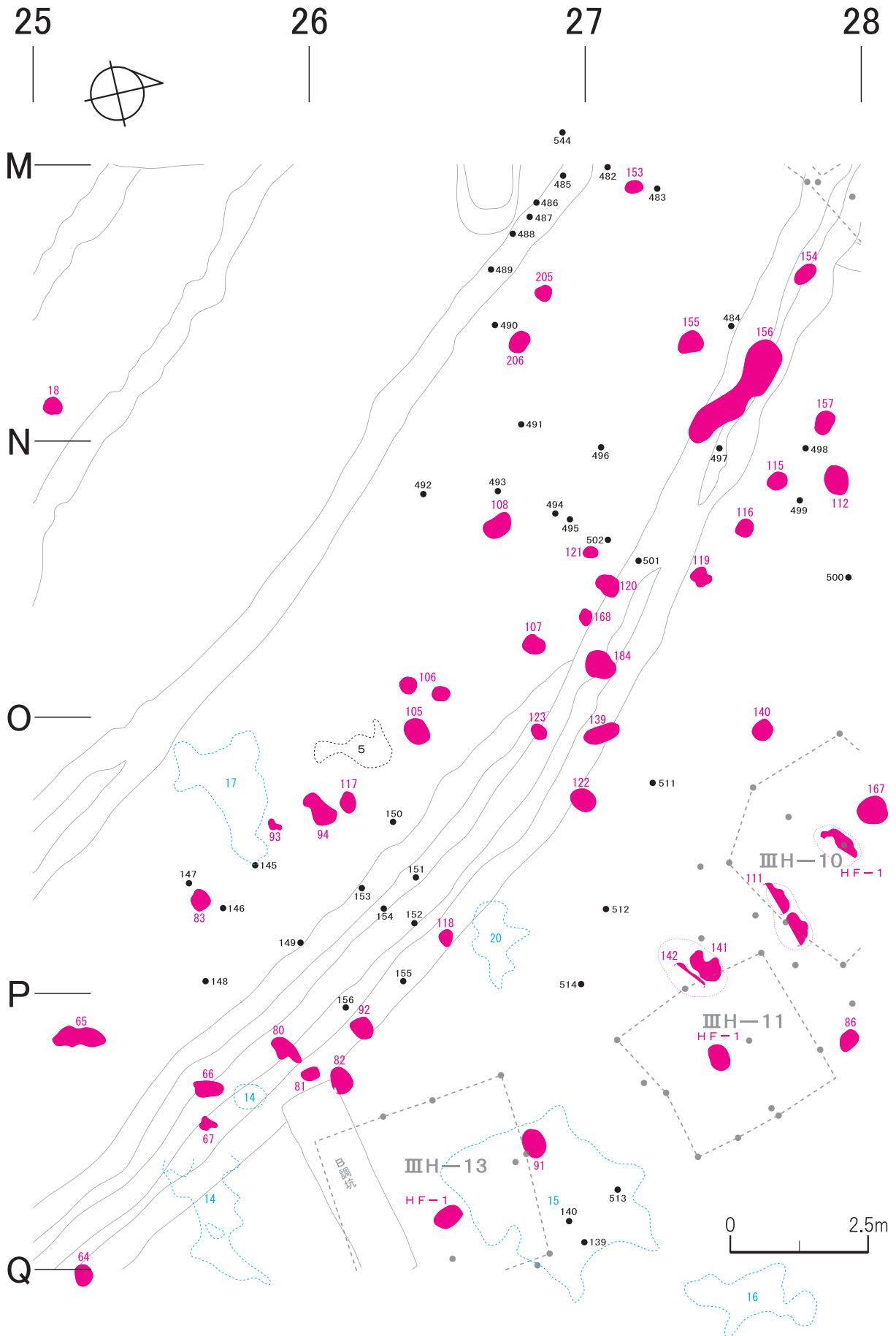
図V-1-15 Ⅲ S P位置(2)



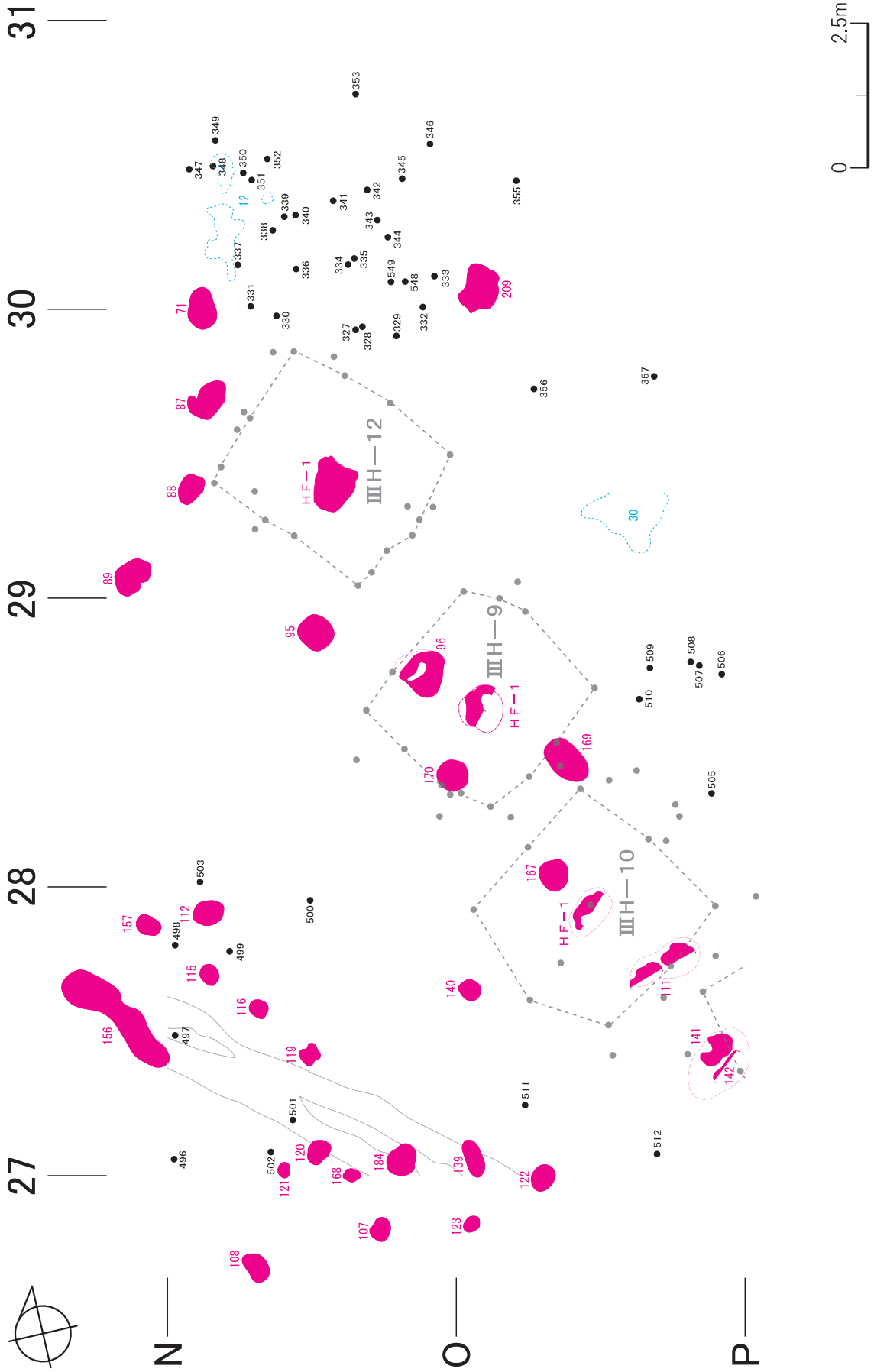
図V-1-16 III SP位置(3)



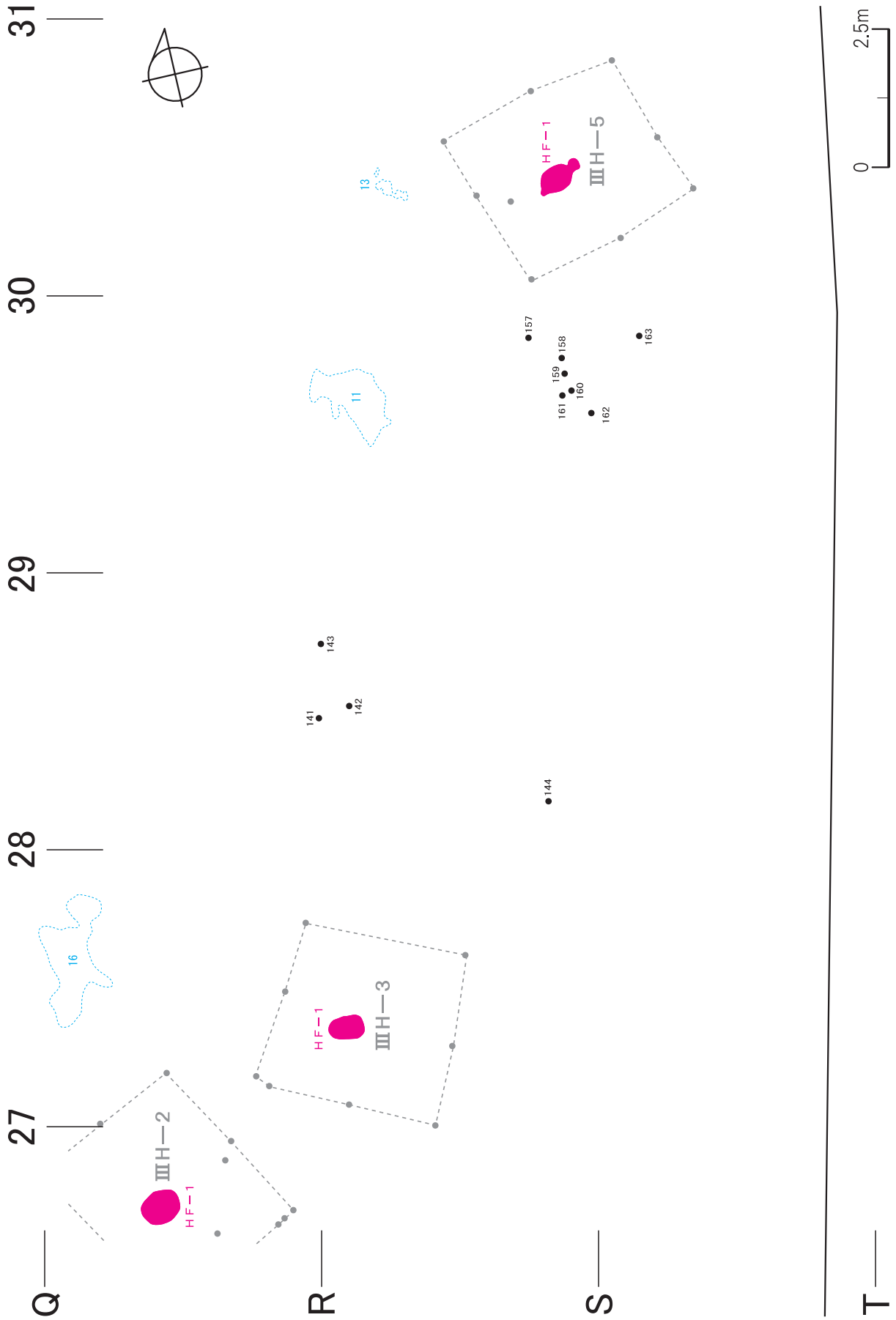
图V-1-17 III SP位置(4)



図V-1-18 III SP位置(5)



图V-1-19 III SP位置(6)



図V-1-20 III S P位置(7)

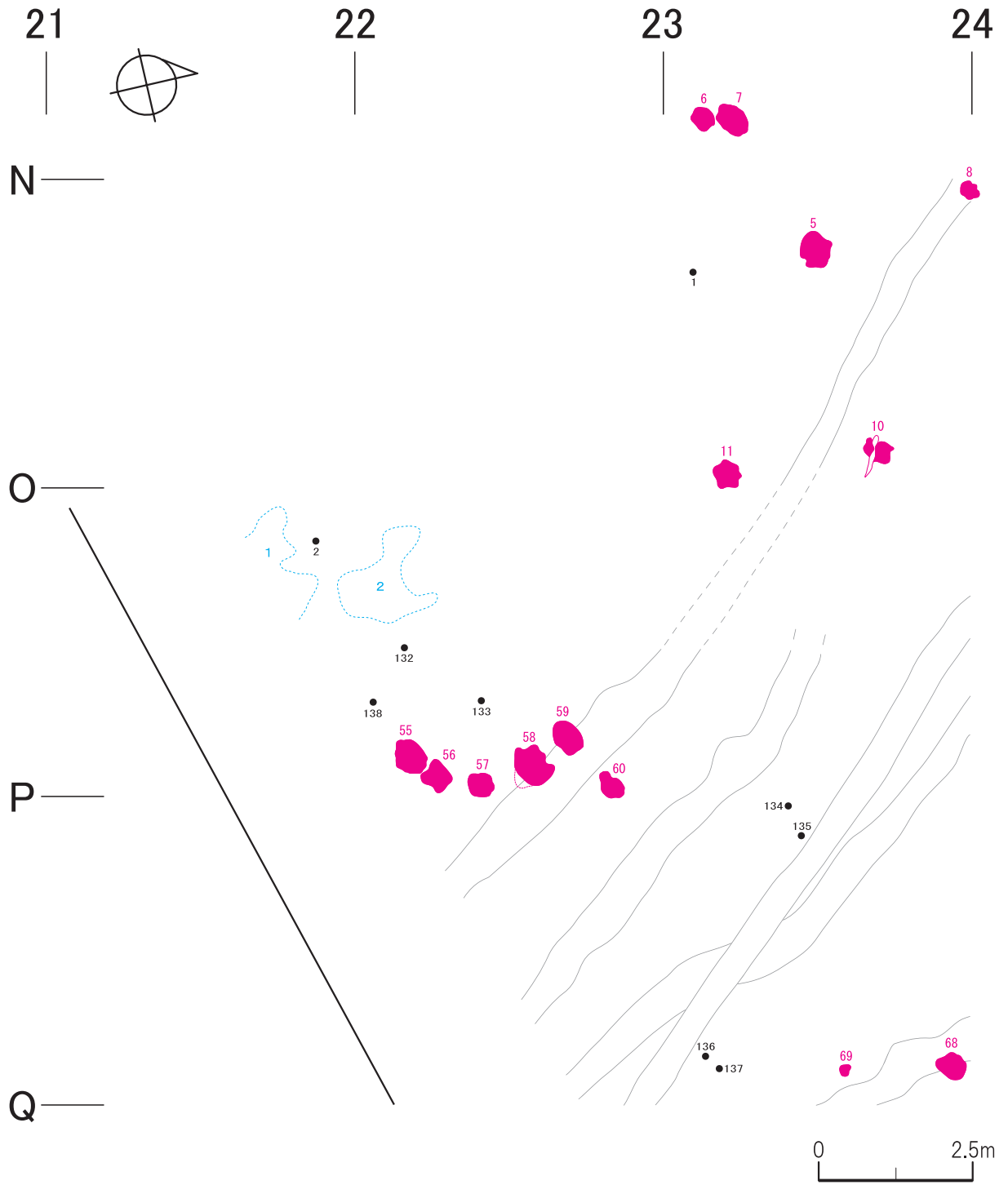
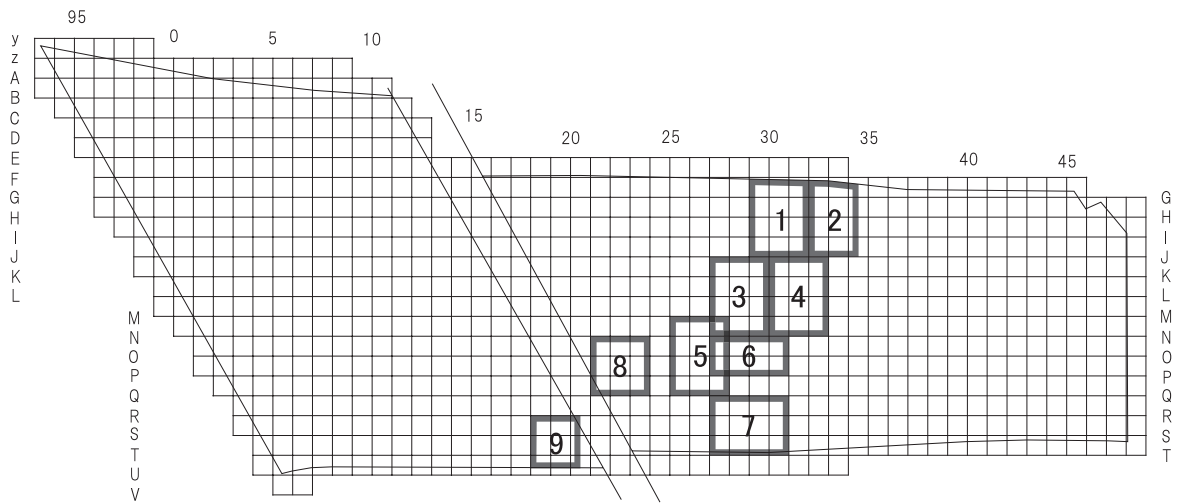
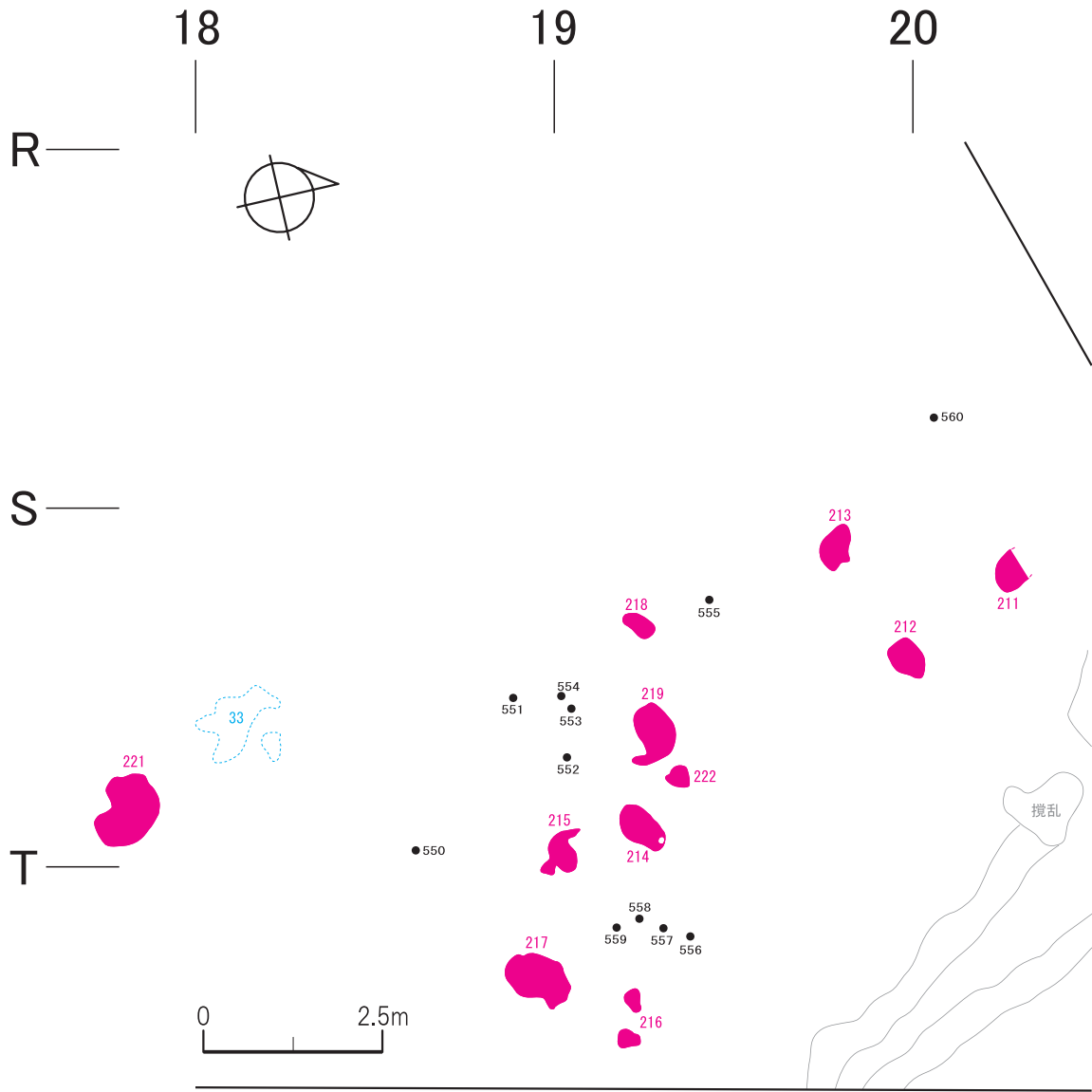
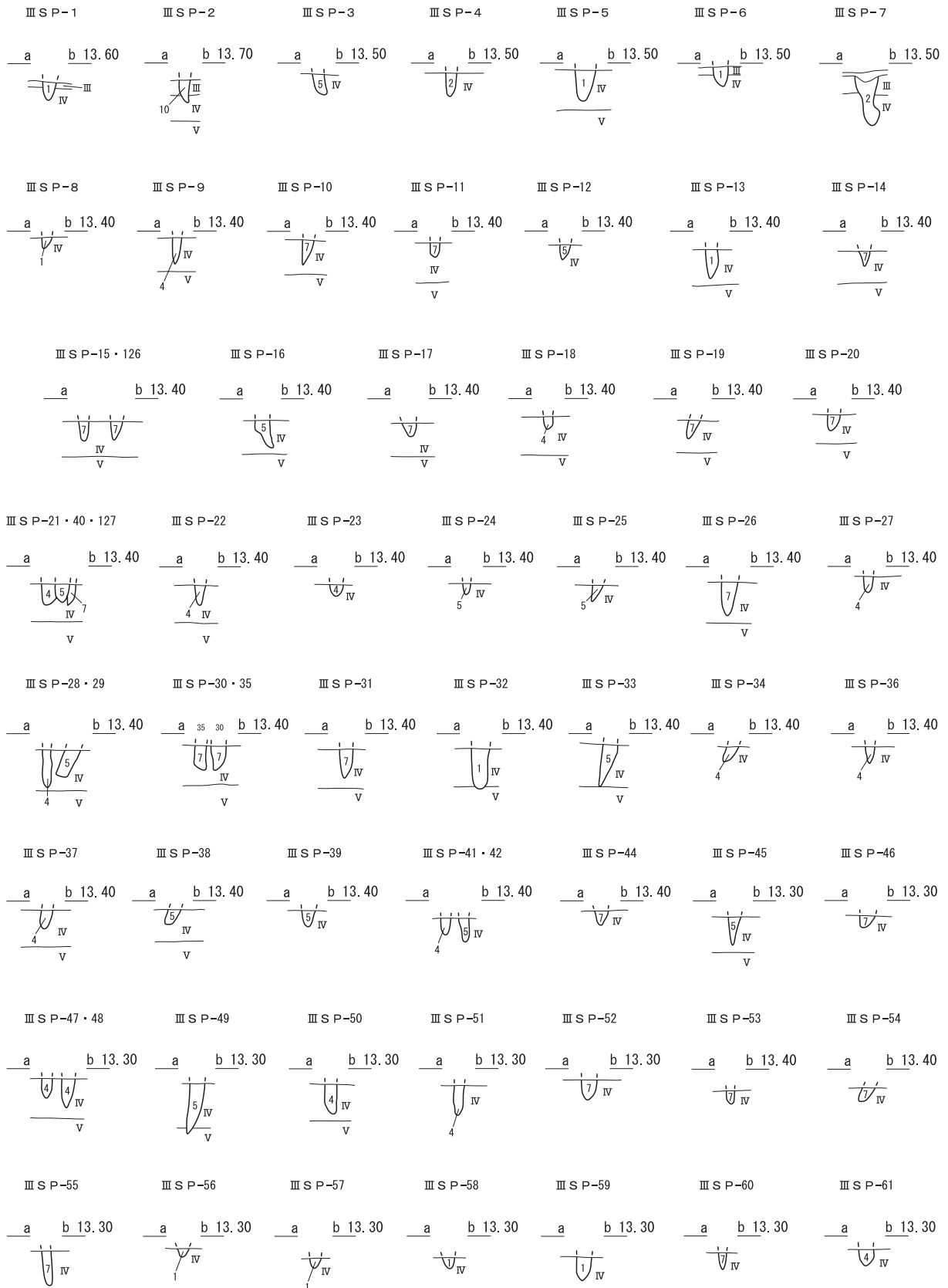


图 V-1-21 Ⅲ SP位置(8)

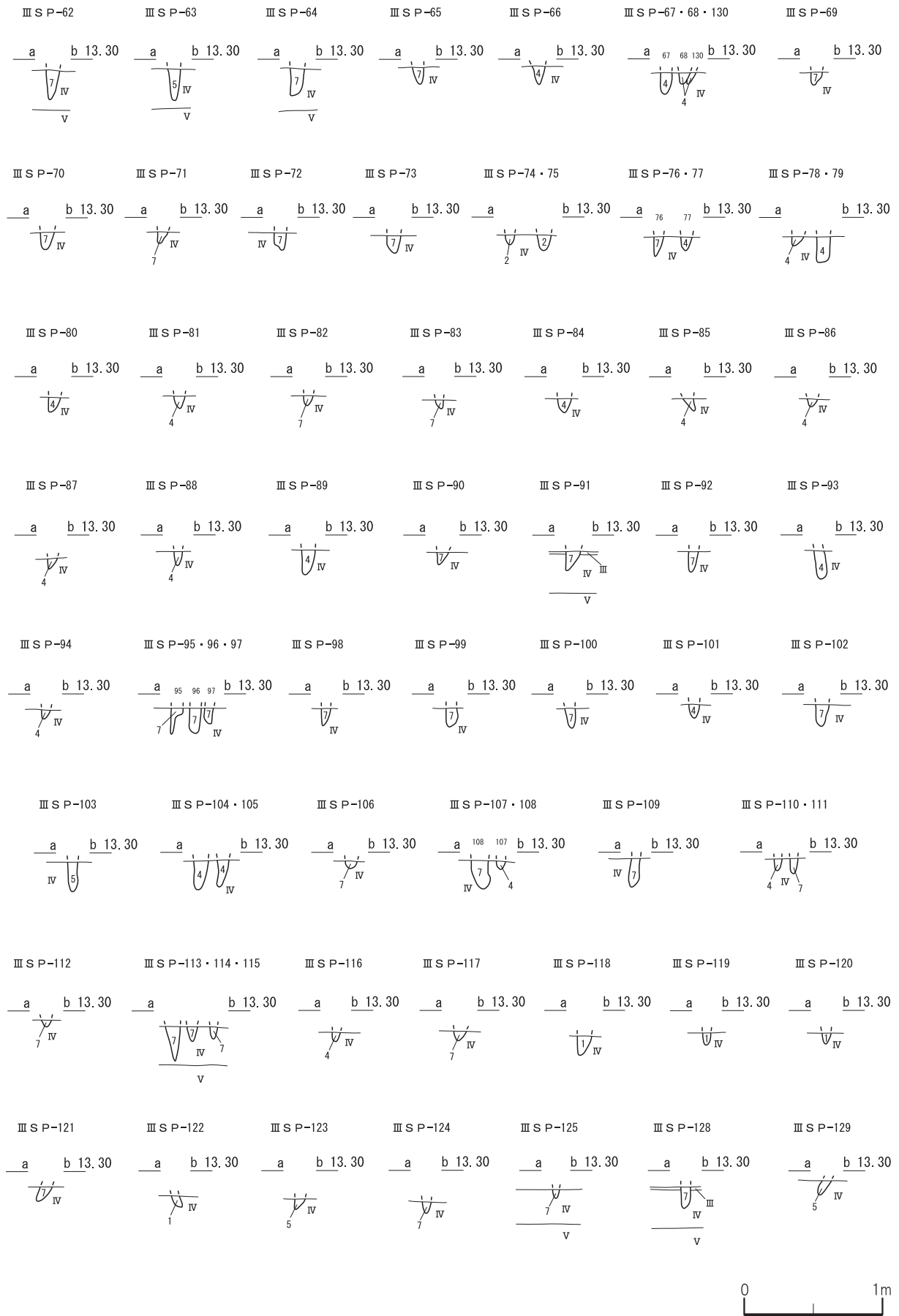


図V-1-22 ⅢSP位置(9)

梅川4 遺跡(3)

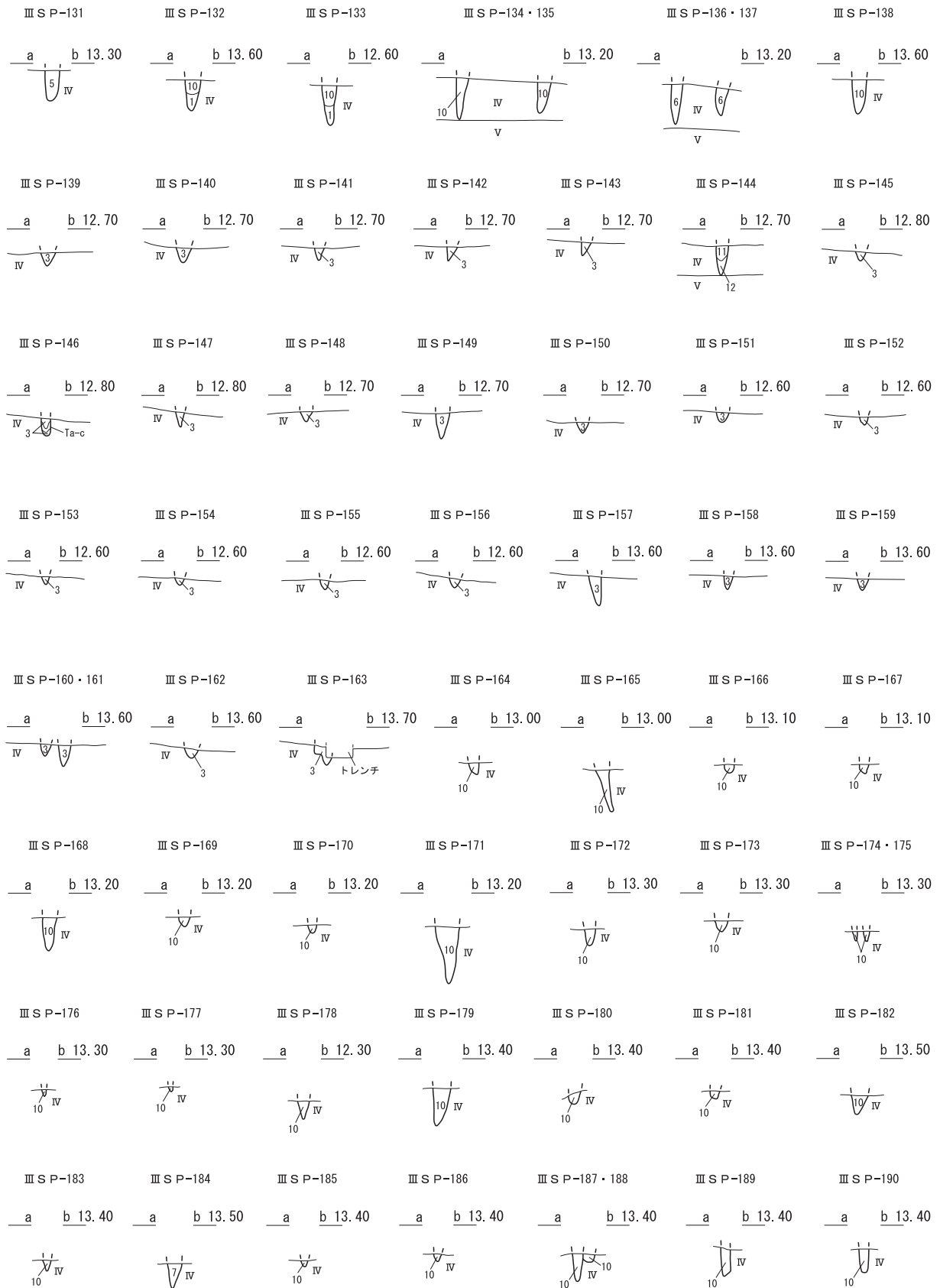


図V-1-23 III SP-1~61 · 126 · 127断面図

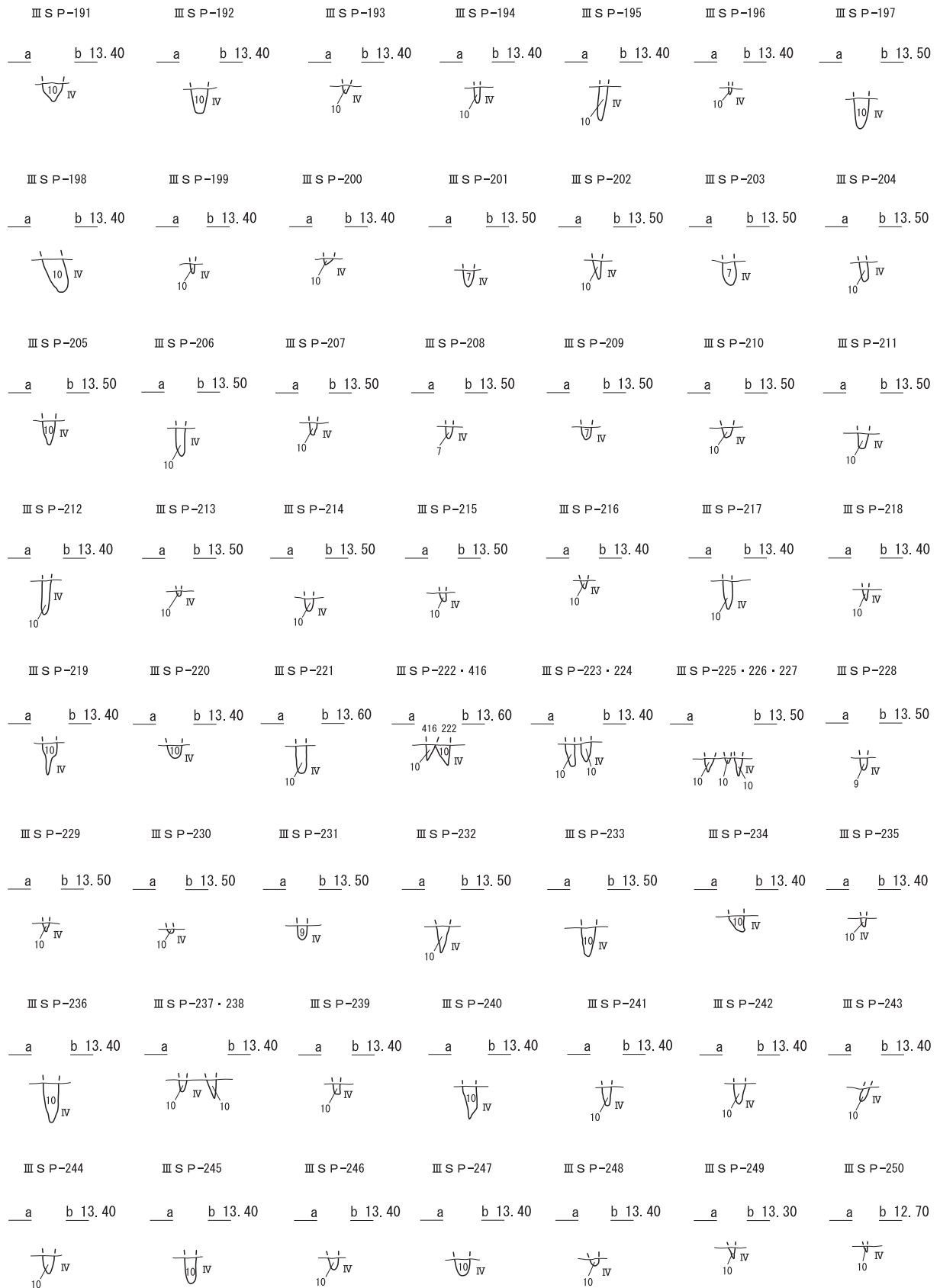


図V-1-24 III SP-62~125・128~130断面図

梅川4遺跡(3)

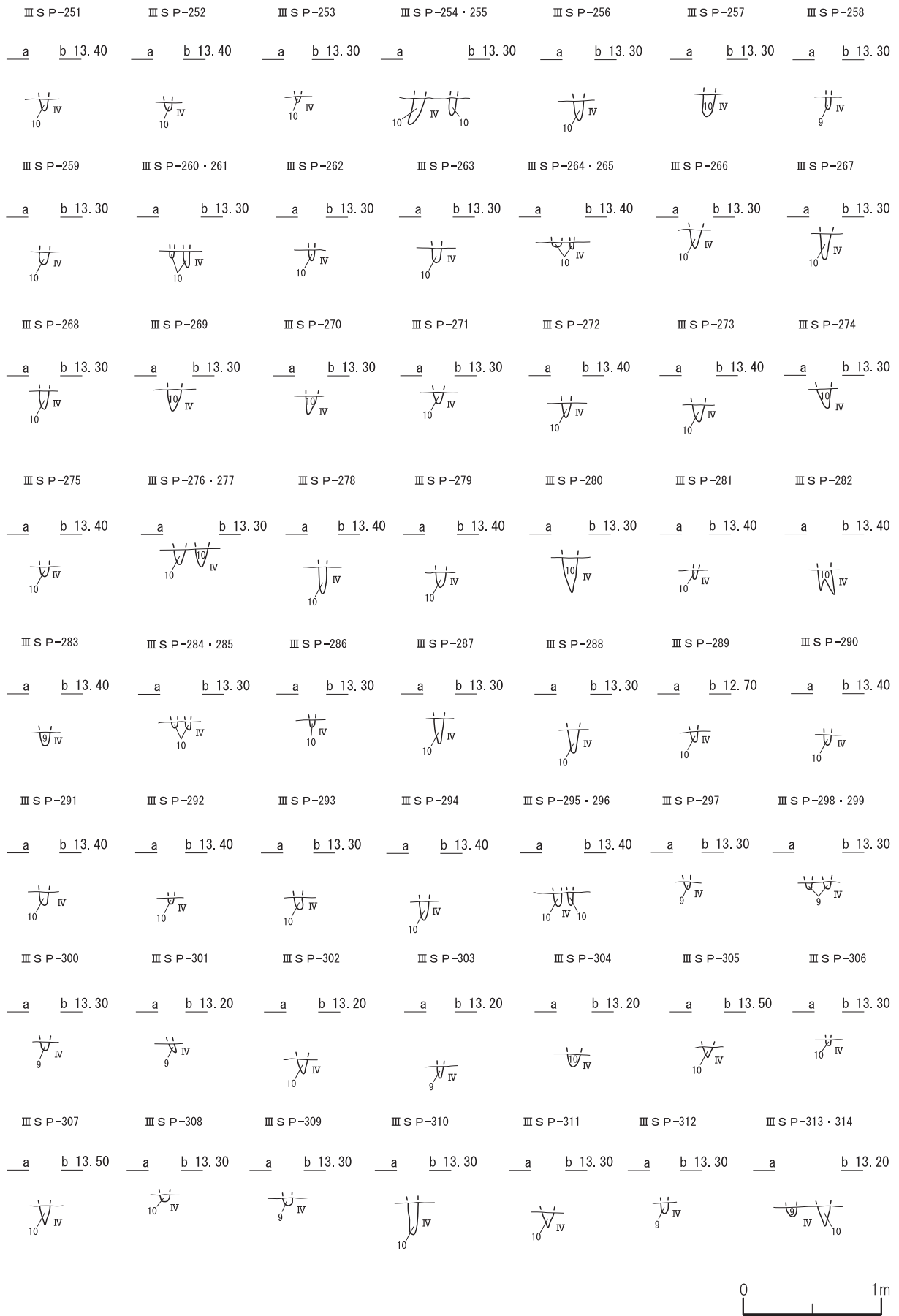


図V-1-25 III SP-131~190断面図



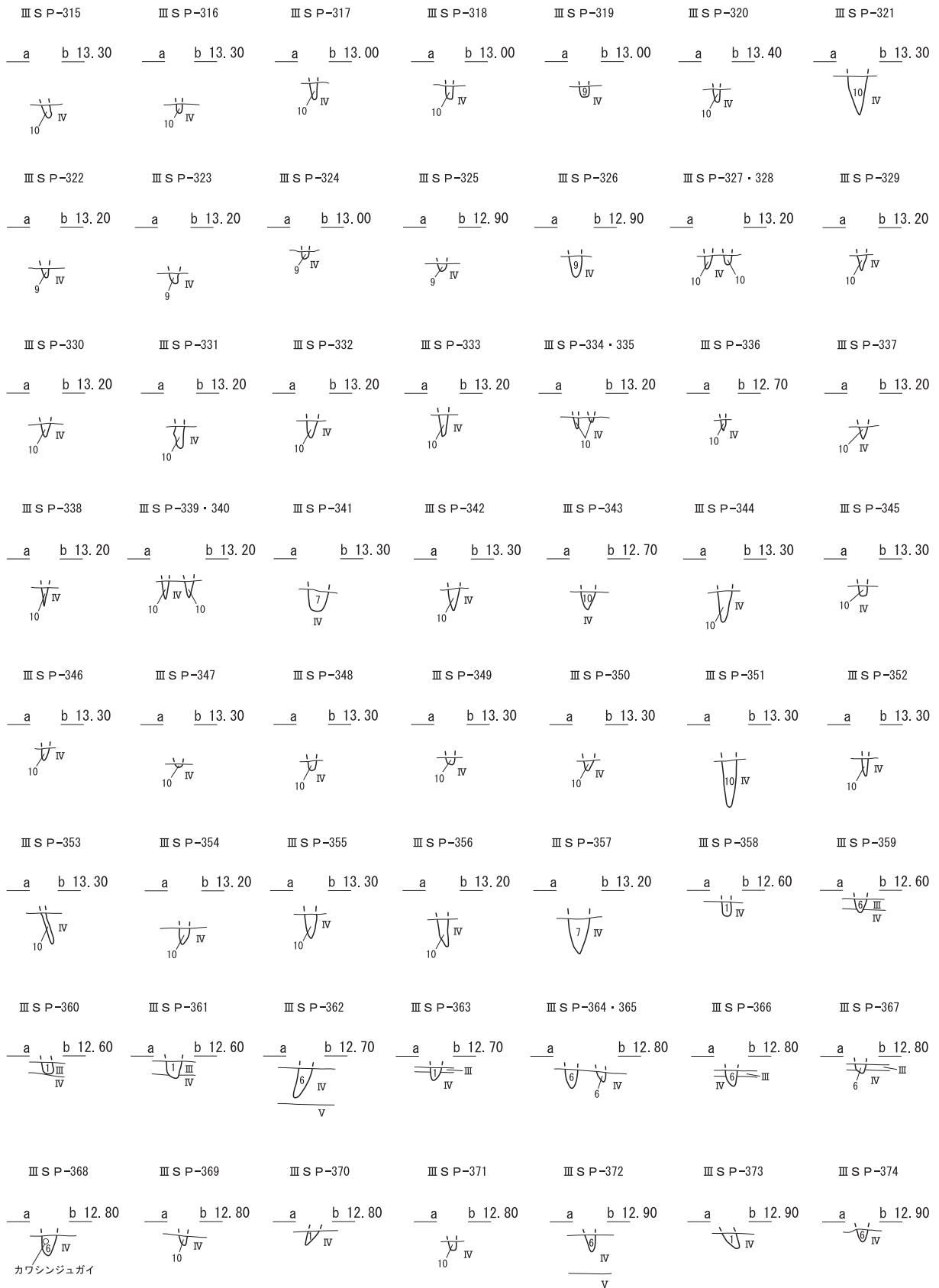
図V-1-26 ⅢSP-191~250・416断面図

梅川4 遺跡(3)



0 1m

図V-1-27 III SP-251~314断面図



図V-1-28 III SP-315~374断面図

梅川4 遺跡(3)

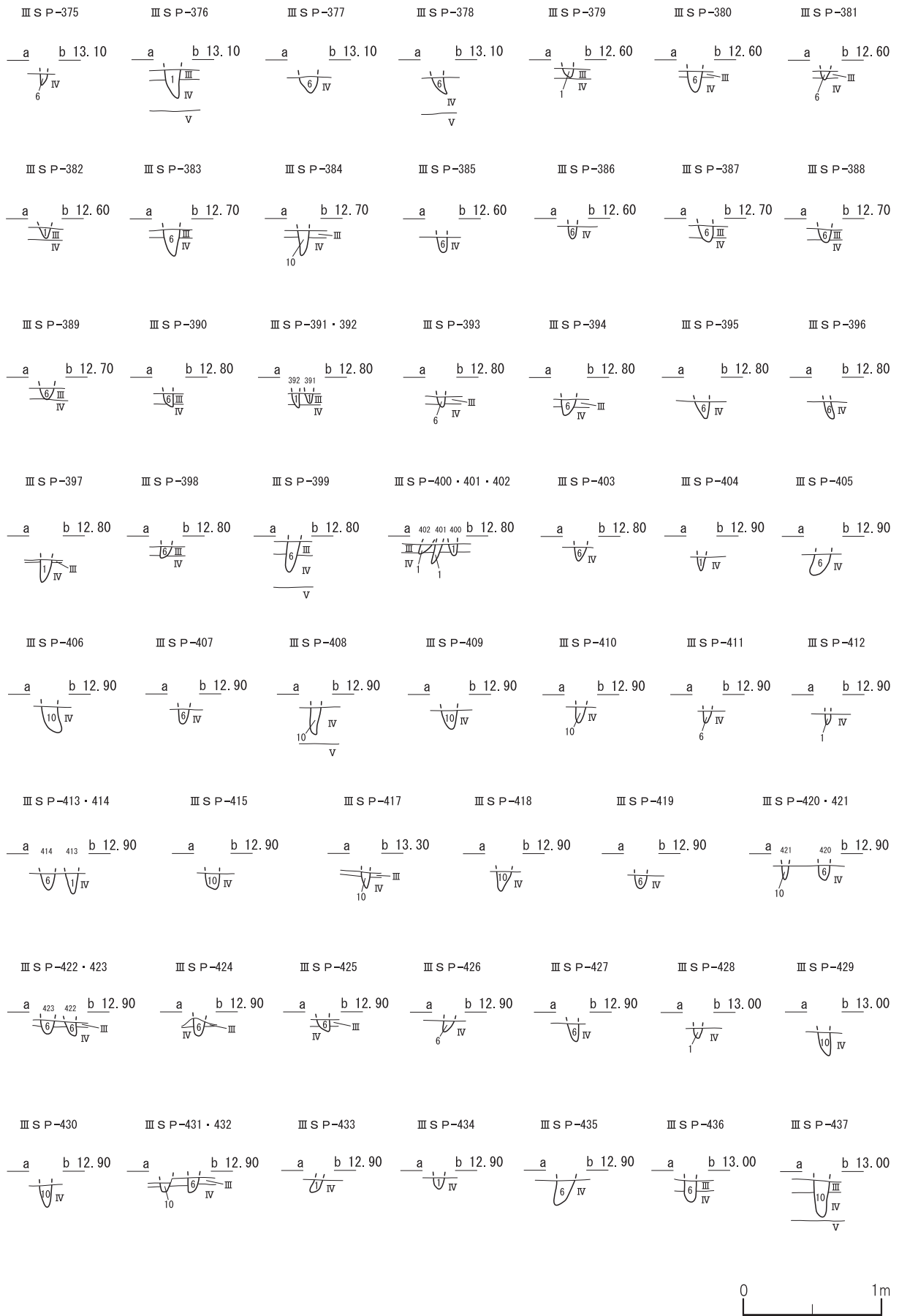
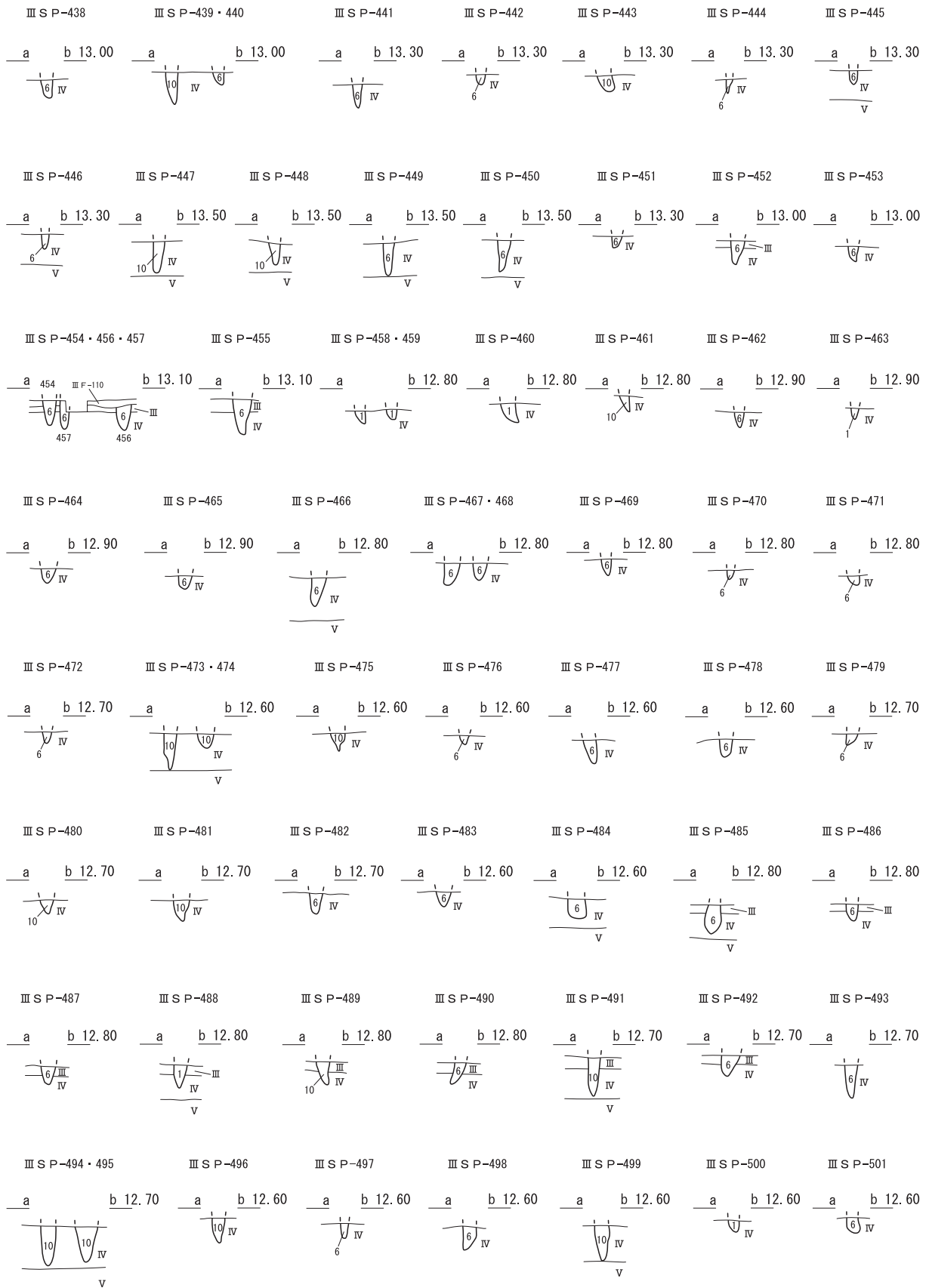
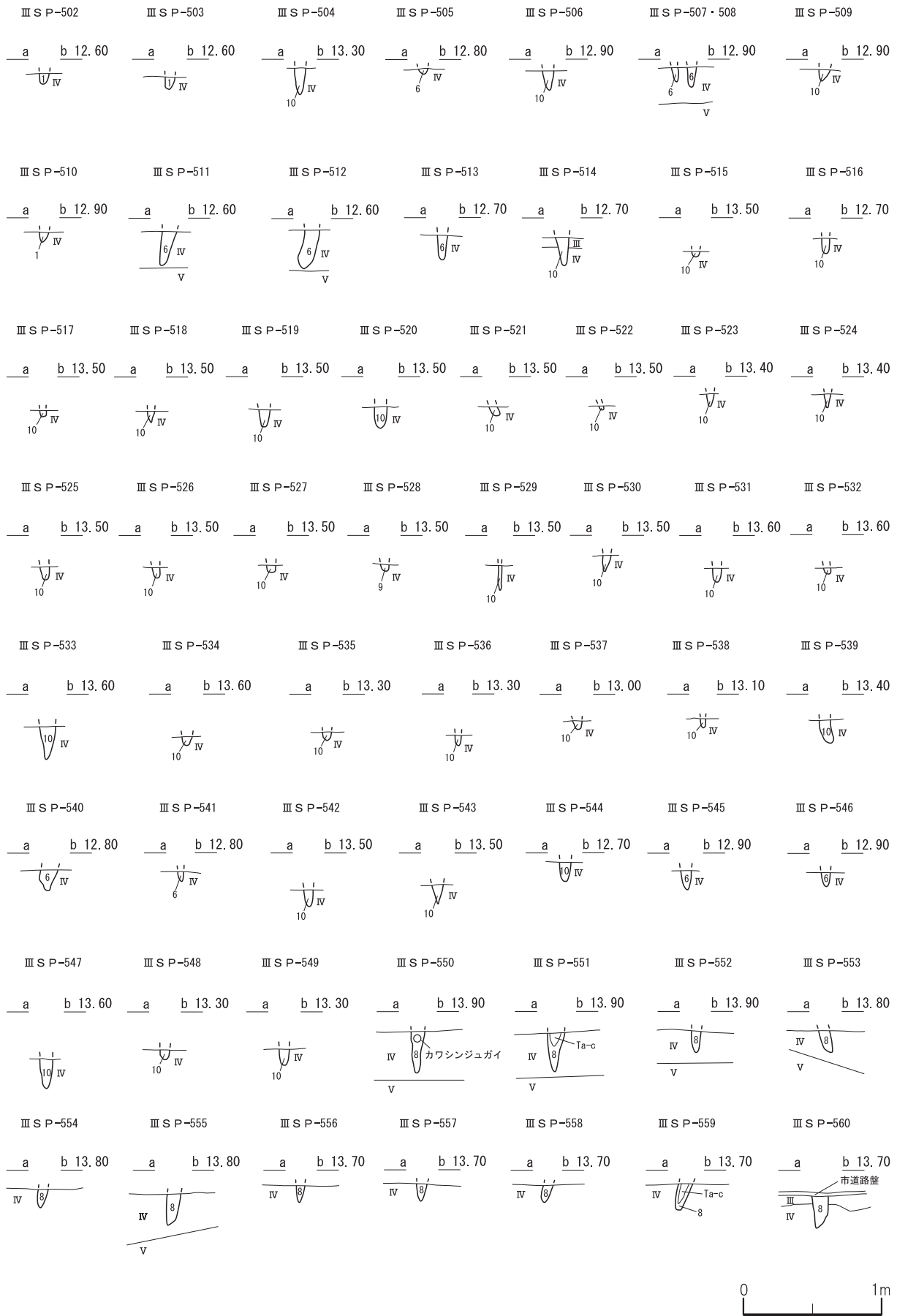


図 V-1-29 III SP-375~415・417~437断面図



図V-1-30 III SP-438~501断面図

梅川4 遺跡(3)



図V-1-31 III SP-502~560断面図

時期は周辺で検出された住居跡と同じく、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。杭穴同士、あるいは道跡や焼土、貝集中など他の遺構と重複する例が見られることから、複数次にわたって構築された可能性がある。ただし、杭穴の覆土が住居跡の柱穴のものと類似することや、重複する焼土や貝集中の形成面がほぼ同一であることから、この集落が継続していた期間内で、数十年以上の時間幅はないと推測される。(芝田)

(3) 焼土

ⅢF-1~222 (図V-1-32~73/表V-1-3/図版26~30)

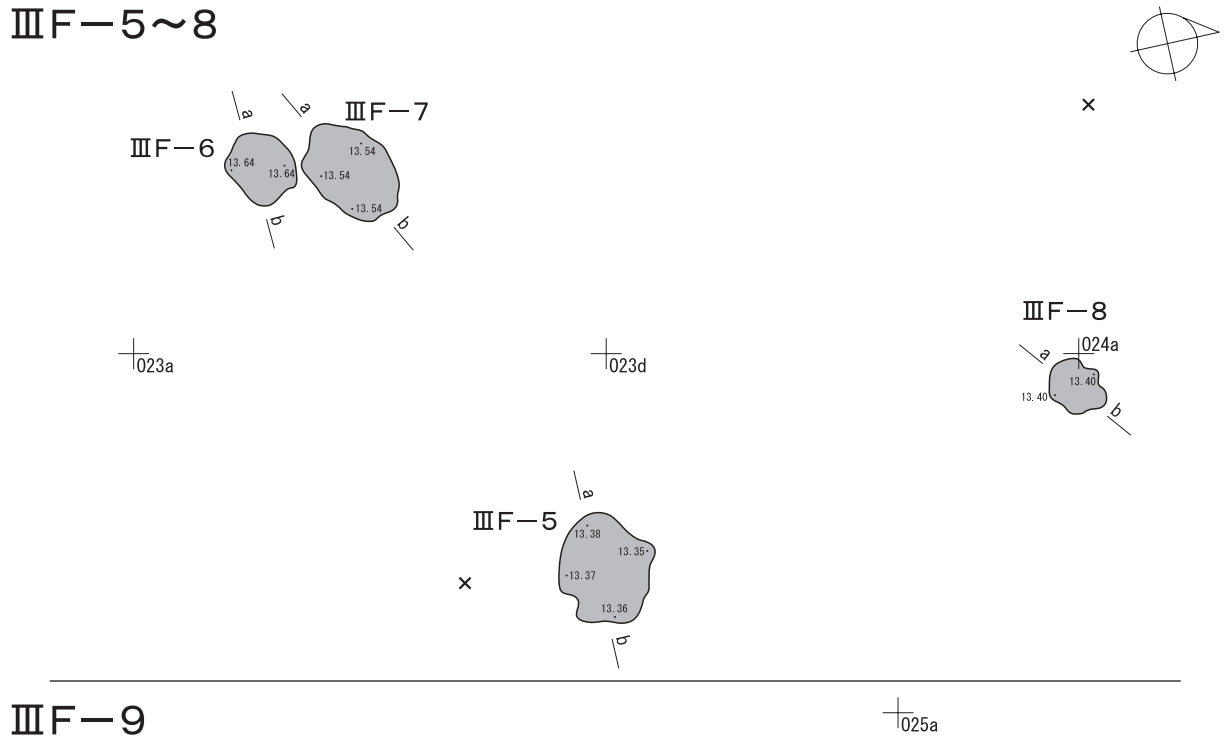
住居跡に伴わない焼土(ⅢF)を222か所検出した。住居跡や杭穴と同様に北西-南東方向に走る沢状地形の内部に広く分布する。いずれもⅢ層上位で検出された。これらの大半は断面でⅢ層土が被熱により漸移的に変化する様子が観察され、検出された現地で形成されている。まれに断面の層界が明瞭で、廃棄による二次堆積と考えられるものも見られる。個々の焼土の規模・形状・形成・特徴などは一覧表にまとめて記した(表V-1-3)。

検出面での平面形はやや歪んだ円形・楕円形が大部分で、隅丸方形や不整形を呈するものが少数ある。輪郭が入組んだ不整形のものは灰の掻き出しなどの攪乱により、本来の形状が失われている可能性がある。規模は長径0.4~0.6mのものが99か所と最も多く、以下0.6~0.8m(49か所)、0.2~0.4m(43か所)と続く。長径0.2m以下の小型のものは4か所と非常に少ない。長径0.8m以上の大型のもの(27か所)は長楕円形あるいは不整形を呈するものが目立つ。ⅢF-156は長径2.29mで最も規模が大きい。層厚は10cm以下のものが大半を占める。断面はレンズ状となるものが多いが、被熱層が3cm以下のごく薄いものは、全体的に層厚がそれほど変化しない。比較的規模が大きく層厚のあるものは、色調が明るい橙色で強く焼けている。しかし、小規模で層厚が薄いものは、色調が褐色~暗褐色で被熱が弱い。この差異は焼土が使用された期間の長短によると考えられる。上部に灰層が堆積する焼土は21か所ある。これらの規模や分布に特に偏りは見られないが、ⅢF-113・125・173は同じ道跡の直下より検出されている。他の焼土で明瞭な灰が確認されなかった原因としては、風水など自然作用による流失、人為的な掻き出しなどが推測される。

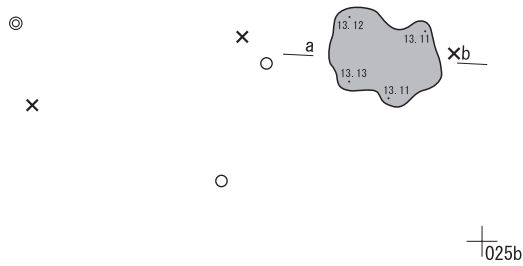
焼土中よりシカ骨(手根骨・踵骨・脛骨・距骨・橈骨・末節骨・上腕骨など)、魚骨(サケ椎骨)、カワシンジュガイ殻皮などが出土した。また、灰または焼土層をサンプリングし、フローテーション法による水洗選別を行ったところ、金属製品、火打石剥片、シカ骨片、魚骨(サケ・コイ)、カワシンジュガイ殻皮、マイマイ、雑穀、炭化材などの微細遺物・動物遺存体が得られた(表V-1-9、VI章第5・6節)。

複数の焼土が直線状(ⅢF-34~36、ⅢF-126~128、ⅢF-115・116・119・157、ⅢF-120・122・139・184など)、あるいは弧状(ⅢF-48~51、ⅢF-55~59、ⅢF-71・87~89、ⅢF-79・98~102・134・143・150・199・203・204など)に並ぶ例が確認された。これらは検出面がほぼ同一で、規模や層厚が近似するものが多いことから、同時期に形成されたと推測される。直線状の焼土列は、道跡の付近に多い。道跡と直交するもの(ⅢF-34~36、ⅢF-126~128)と並行するもの(ⅢF-115・116・119・157、ⅢF-120・122・139・184)がある。また、ⅢF-36・126・139のように道跡の直下より検出され、位置が重複するものも認められる。これは調査時に耕作などの攪乱により検出できなかった道跡が他にも存在しており、道跡同士に新旧があるためと考えられる。これらは道跡に関連する何らかの施設と推測されるが、性格は不明である。ⅢF-95・96・169およびⅢH-9・HF-1の4か所、ⅢF-111・141・142・167およびⅢH-10・HF-1の5か所は、それぞれ直線

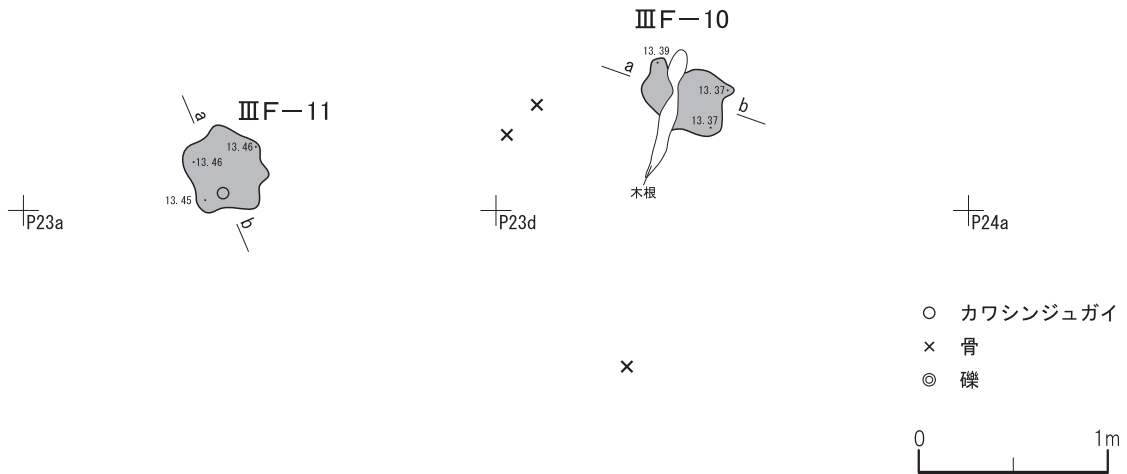
ⅢF-5~8



ⅢF-9

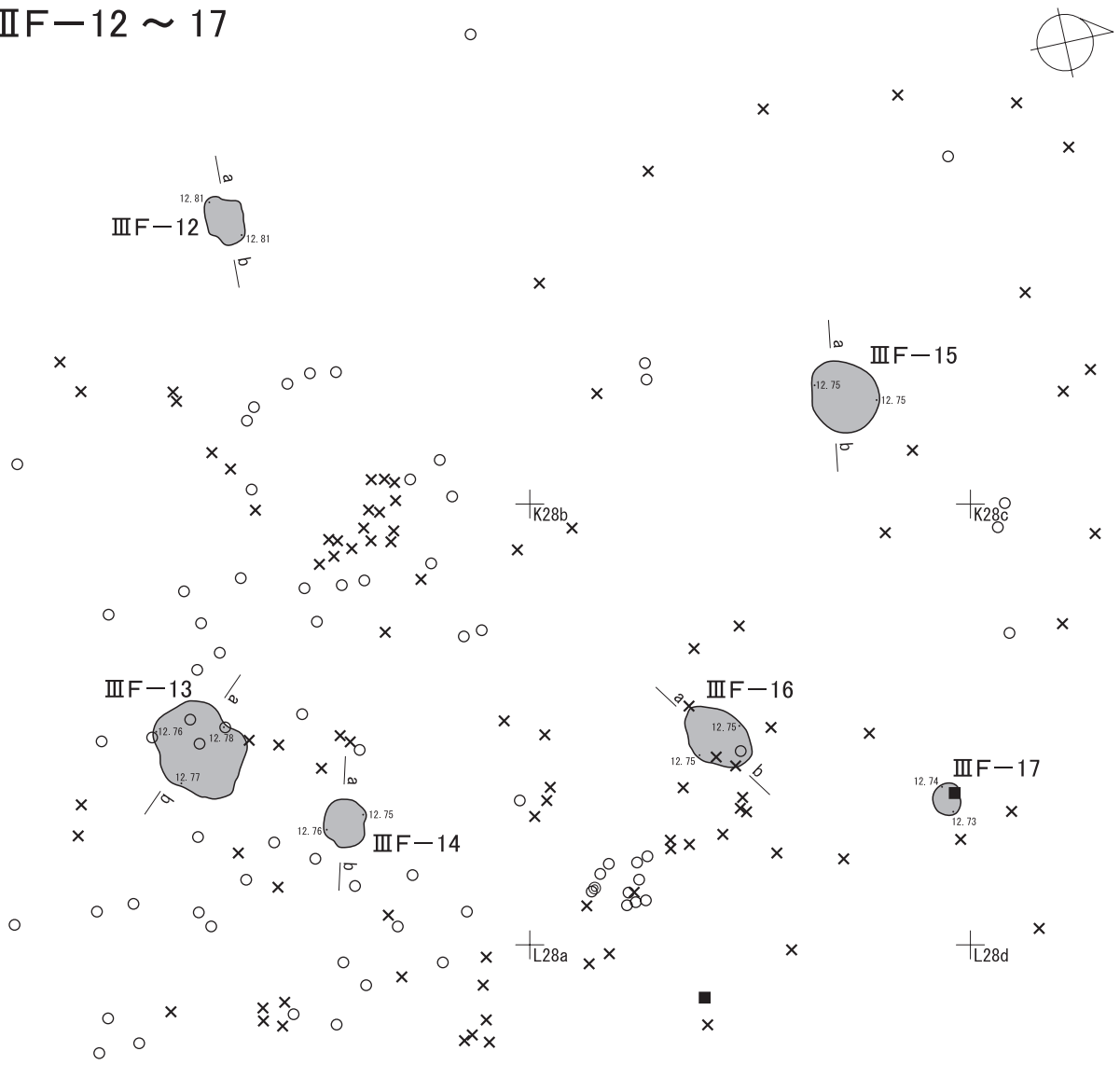


ⅢF-10・11

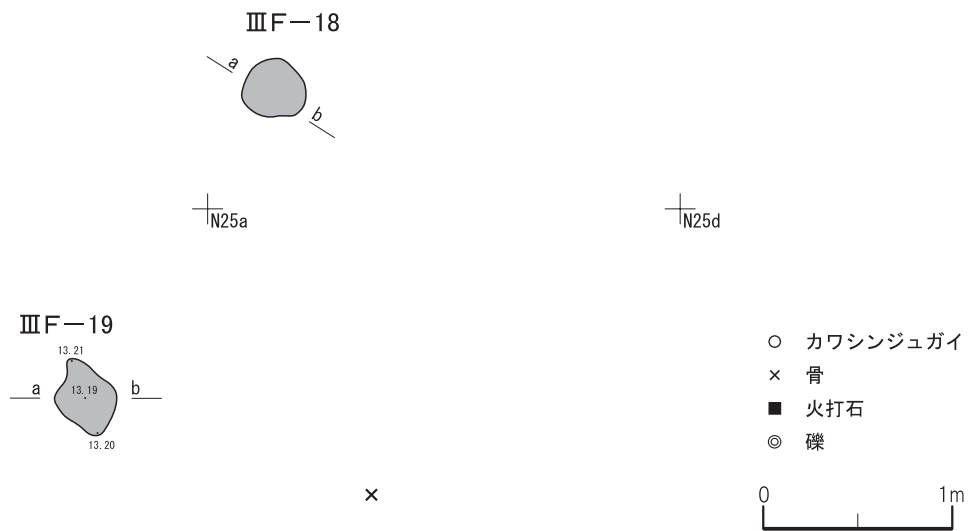


図V-1-32 ⅢF-5~11平面図

ⅢF-12 ~ 17

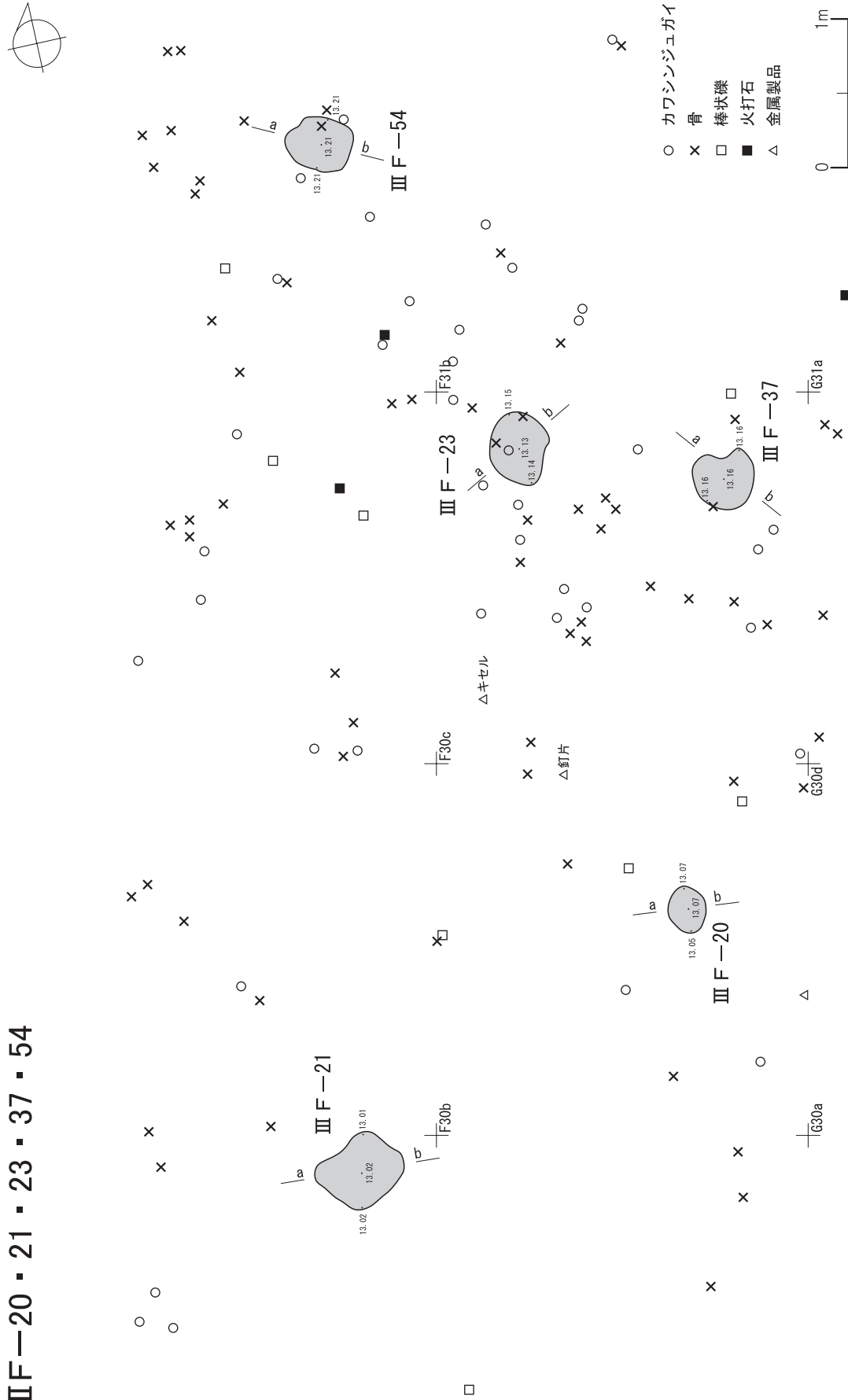


ⅢF-18・19



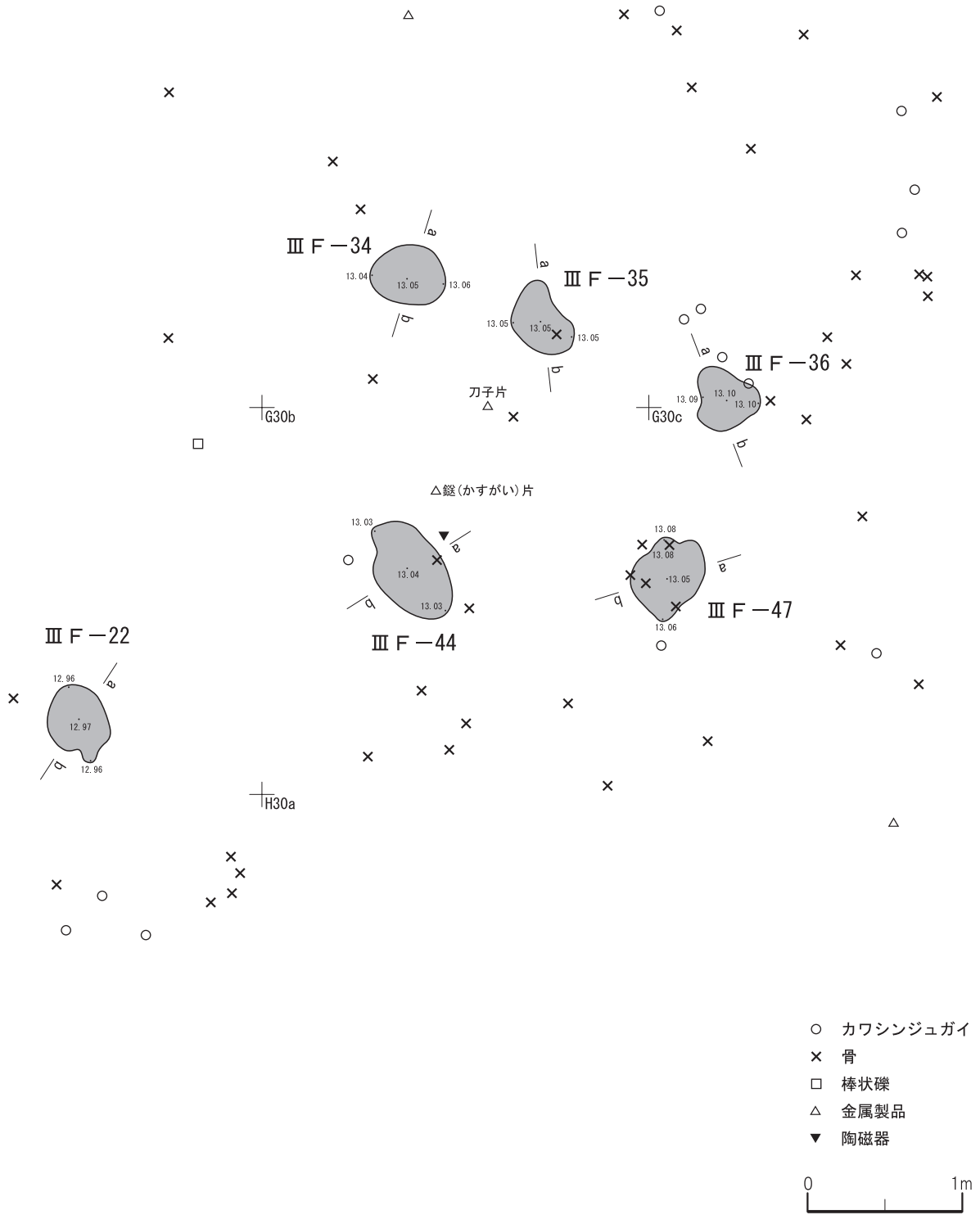
図V-1-33 ⅢF-12~19平面図

ⅢF-20・21・23・37・54



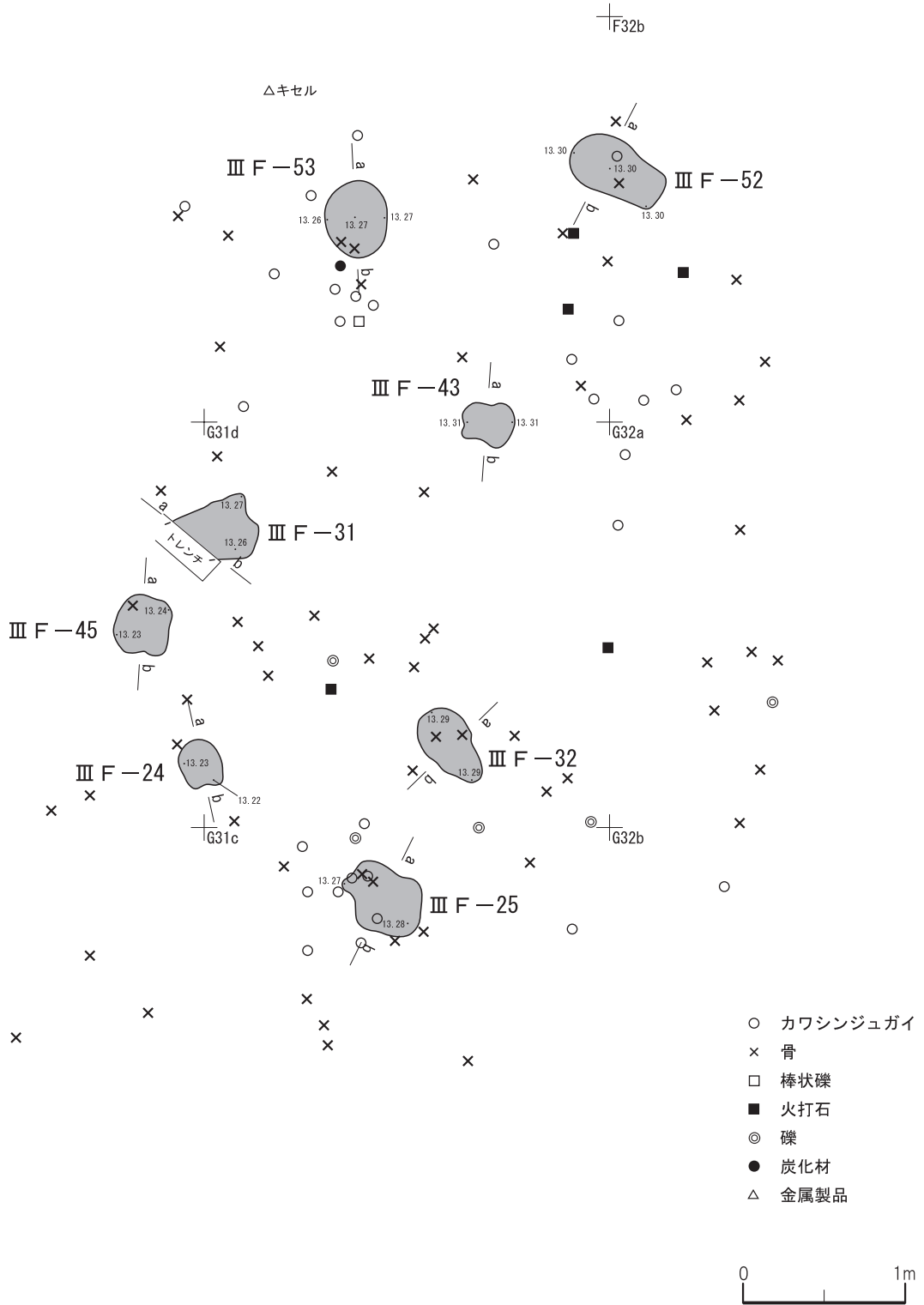
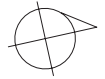
図V-1-34 ⅢF-20・21・23・37・54平面図

ⅢF-22・34～36・44・47



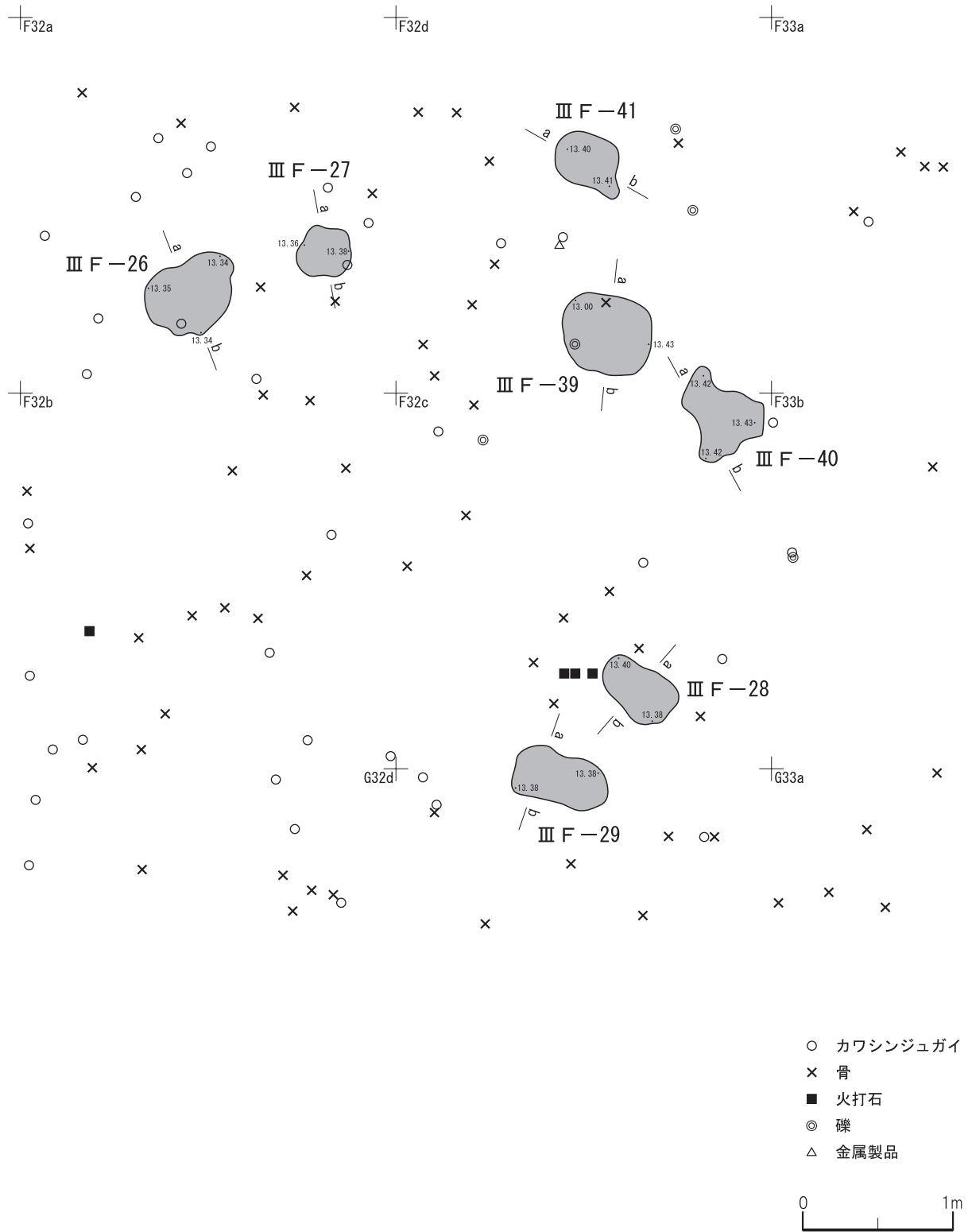
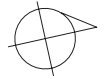
図V-1-35 ⅢF-22・34～36・44・47平面図

ⅢF-24・25・31・32・43・45・52・53



図V-1-36 ⅢF-24・25・31・32・43・45・52・53平面図

ⅢF-26 ~ 29・39 ~ 41

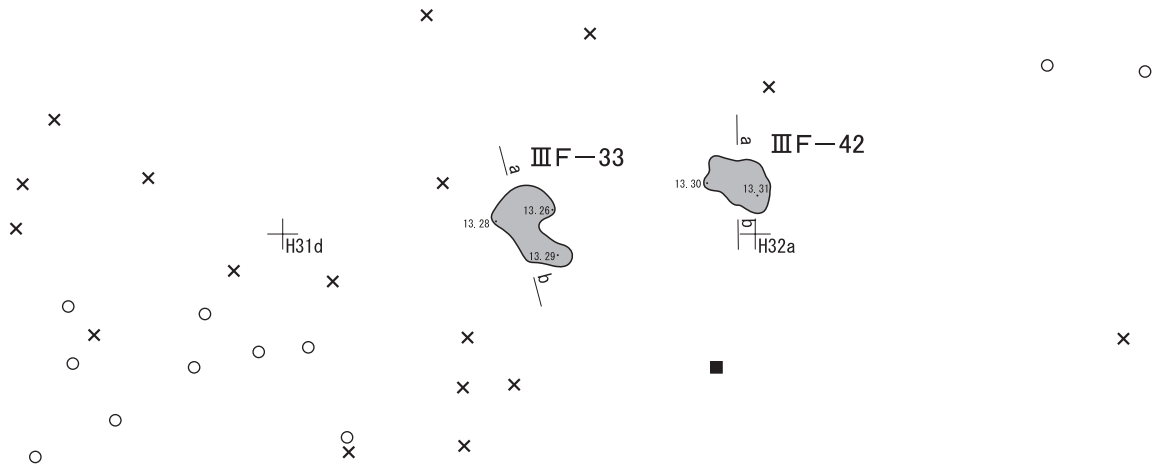


図V-1-37 ⅢF-26~29・39~41平面図

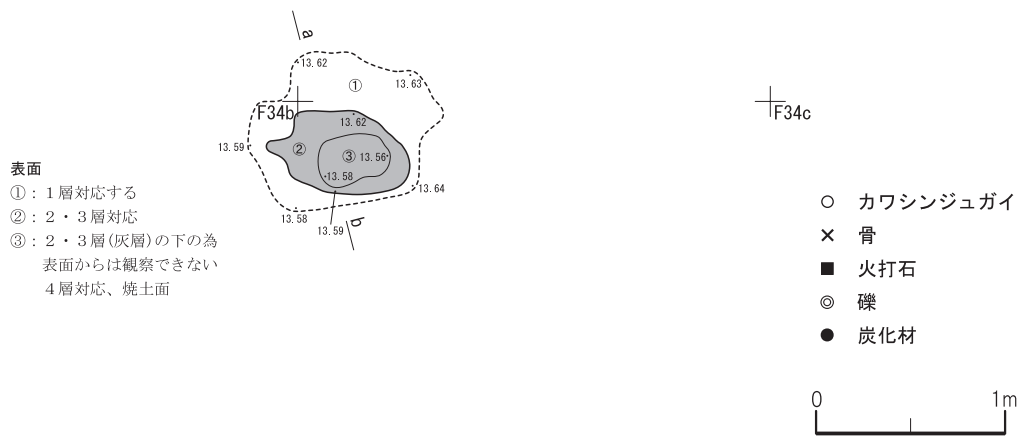
ⅢF-30



ⅢF-33・42

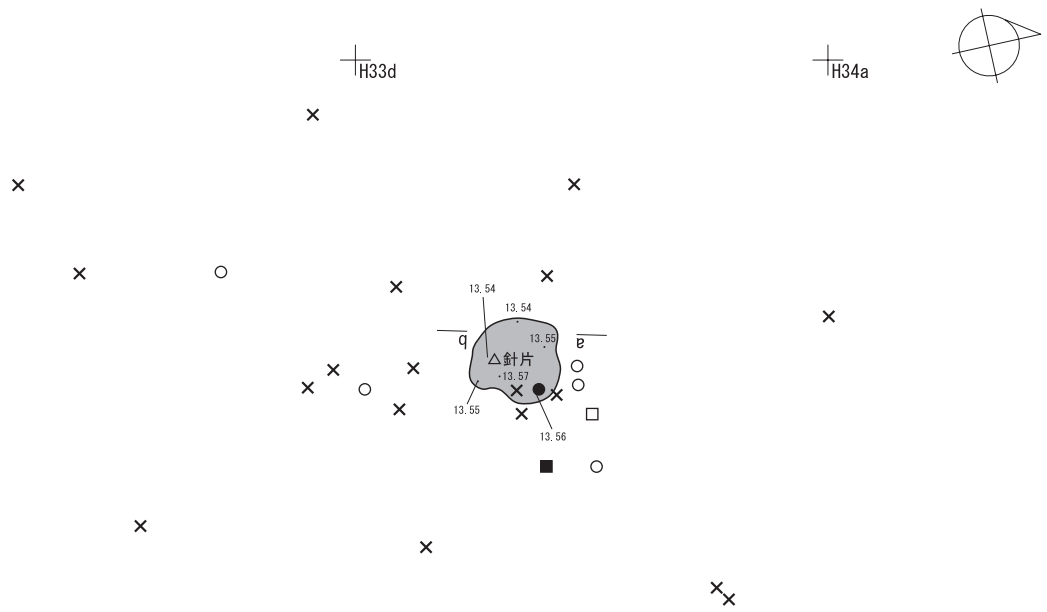


ⅢF-38

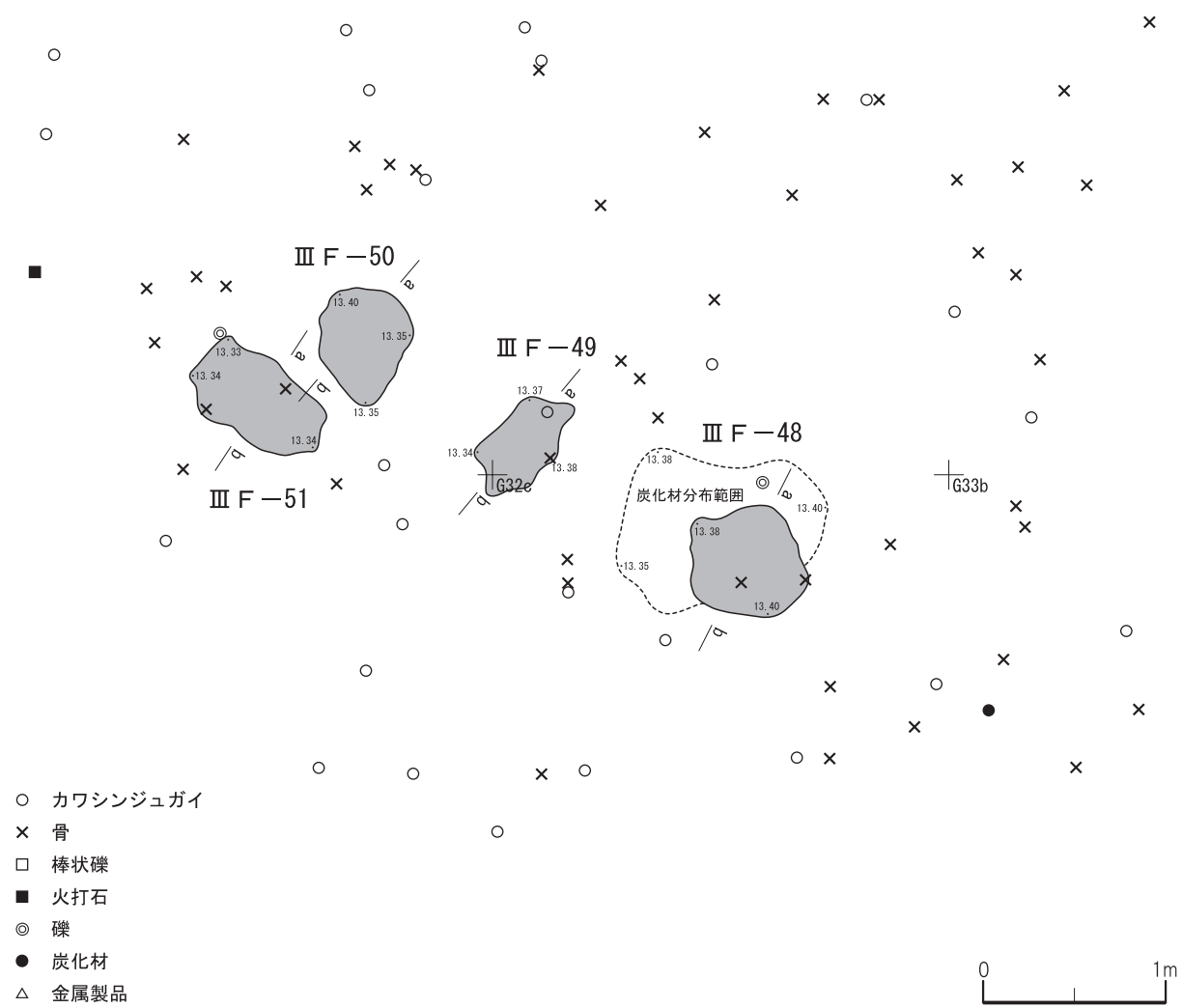


図V-1-38 ⅢF-30・33・38・42平面図

ⅢF-46



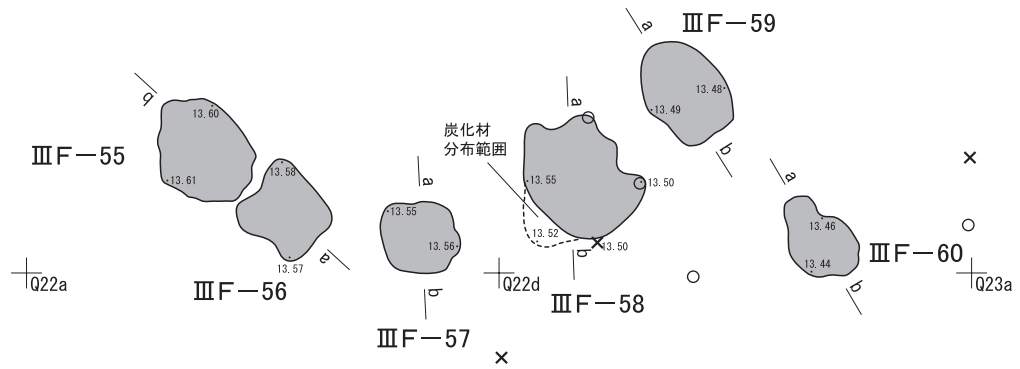
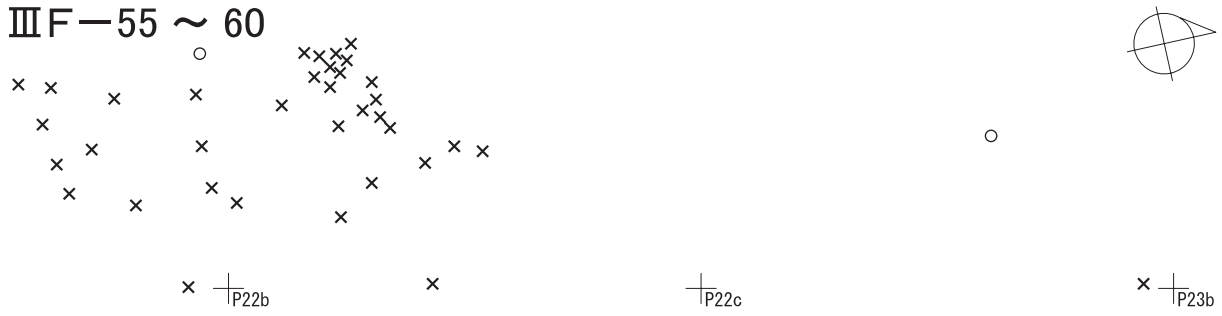
ⅢF-48~51



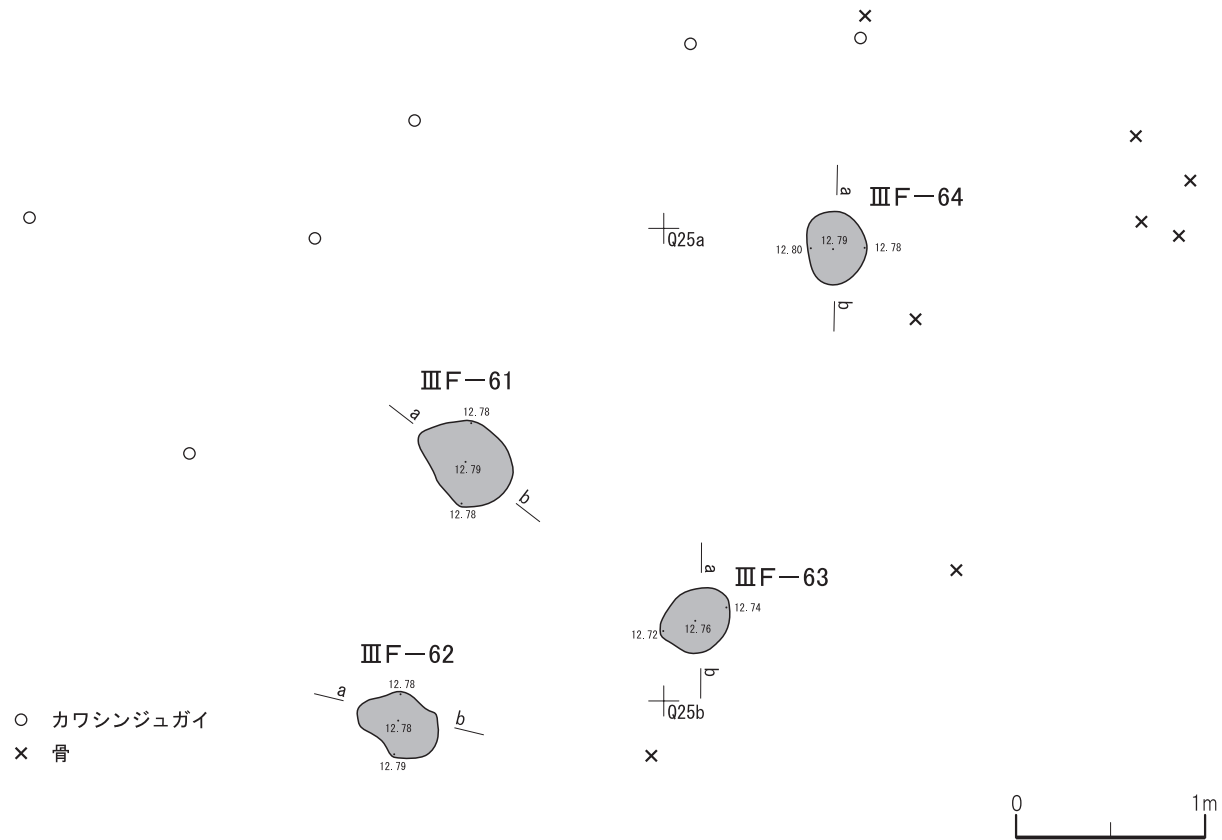
- カワシシユガイ
- × 骨
- 棒状礫
- 火打石
- ◎ 礫
- 炭化材
- △ 金属製品

図V-1-39 ⅢF-46・48~51平面図

ⅢF-55 ~ 60

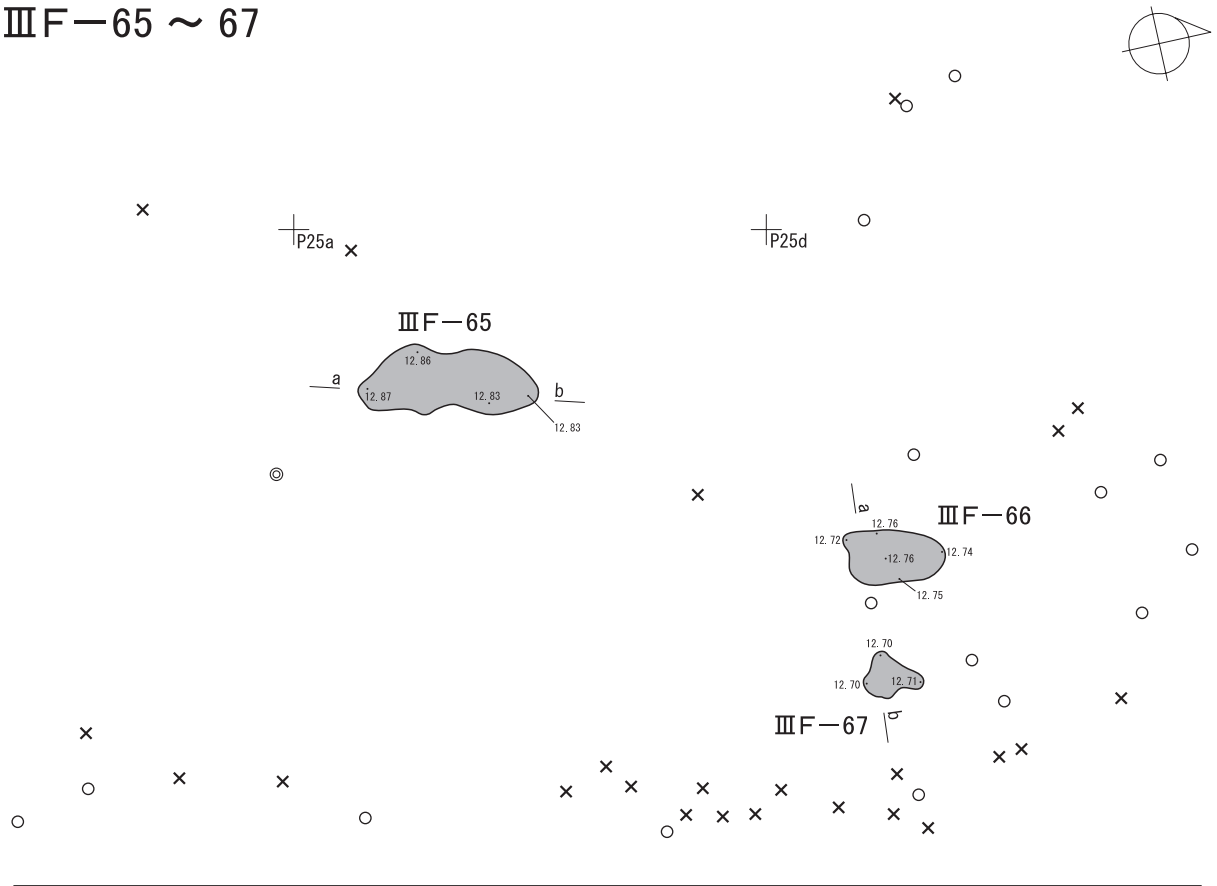


ⅢF-61 ~ 64

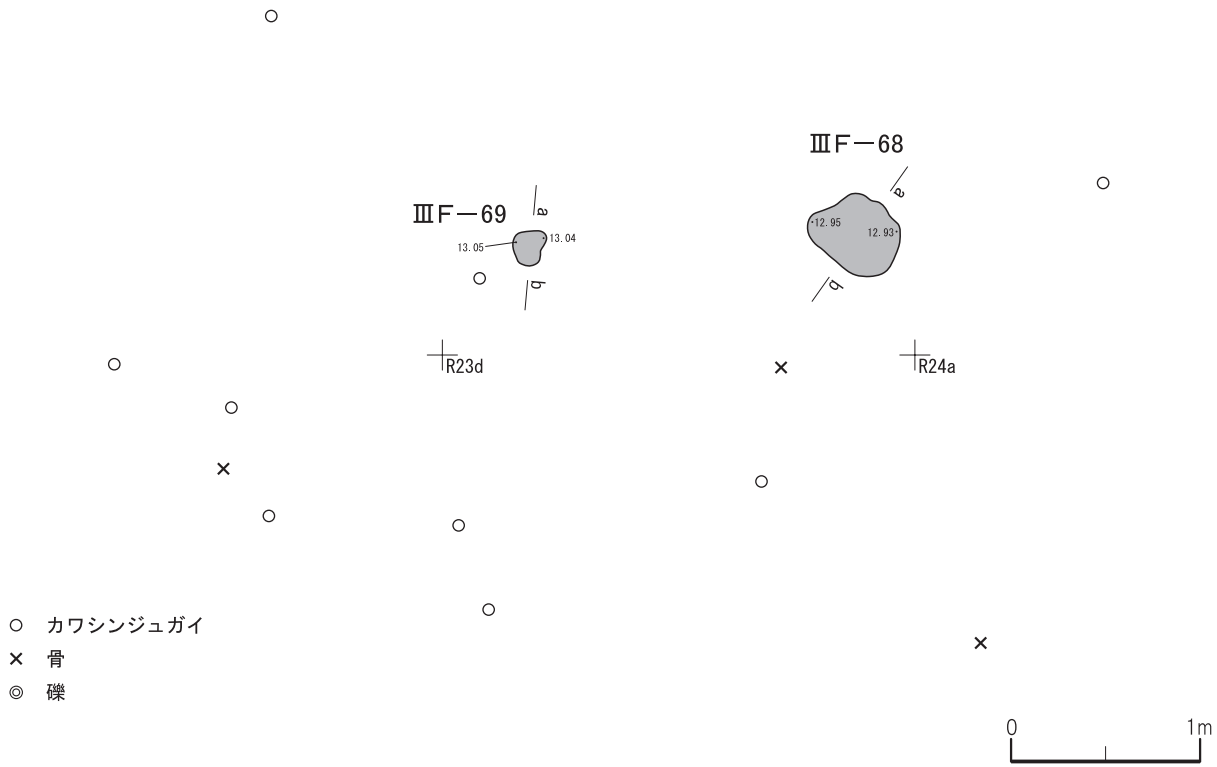


図V-1-40 ⅢF-55~64平面図

ⅢF-65 ~ 67



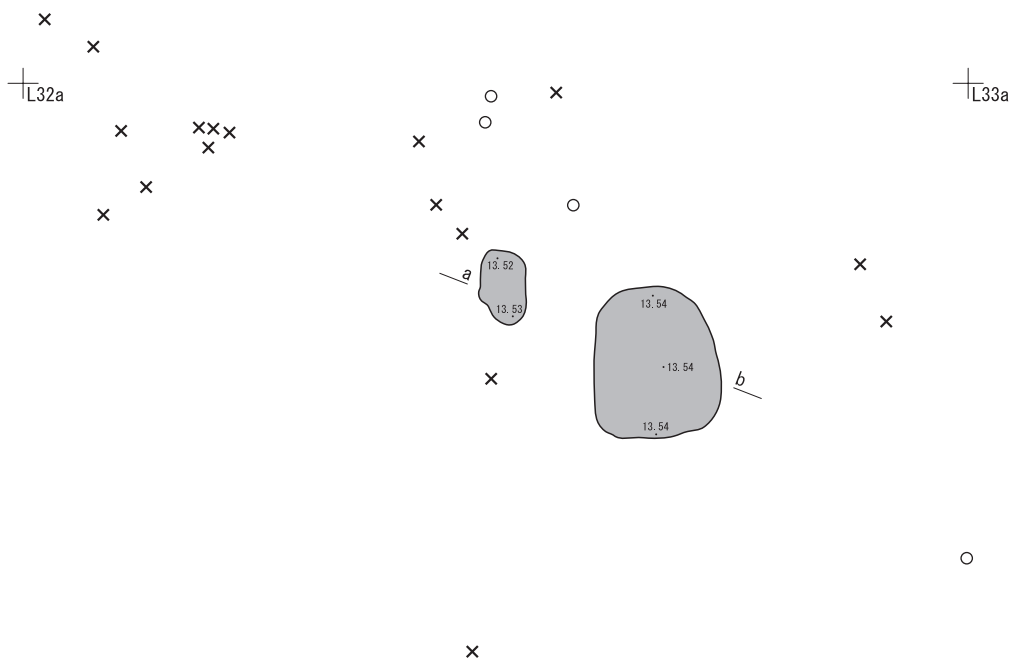
ⅢF-68・69



- カワシジュガイ
- × 骨
- ◎ 磔

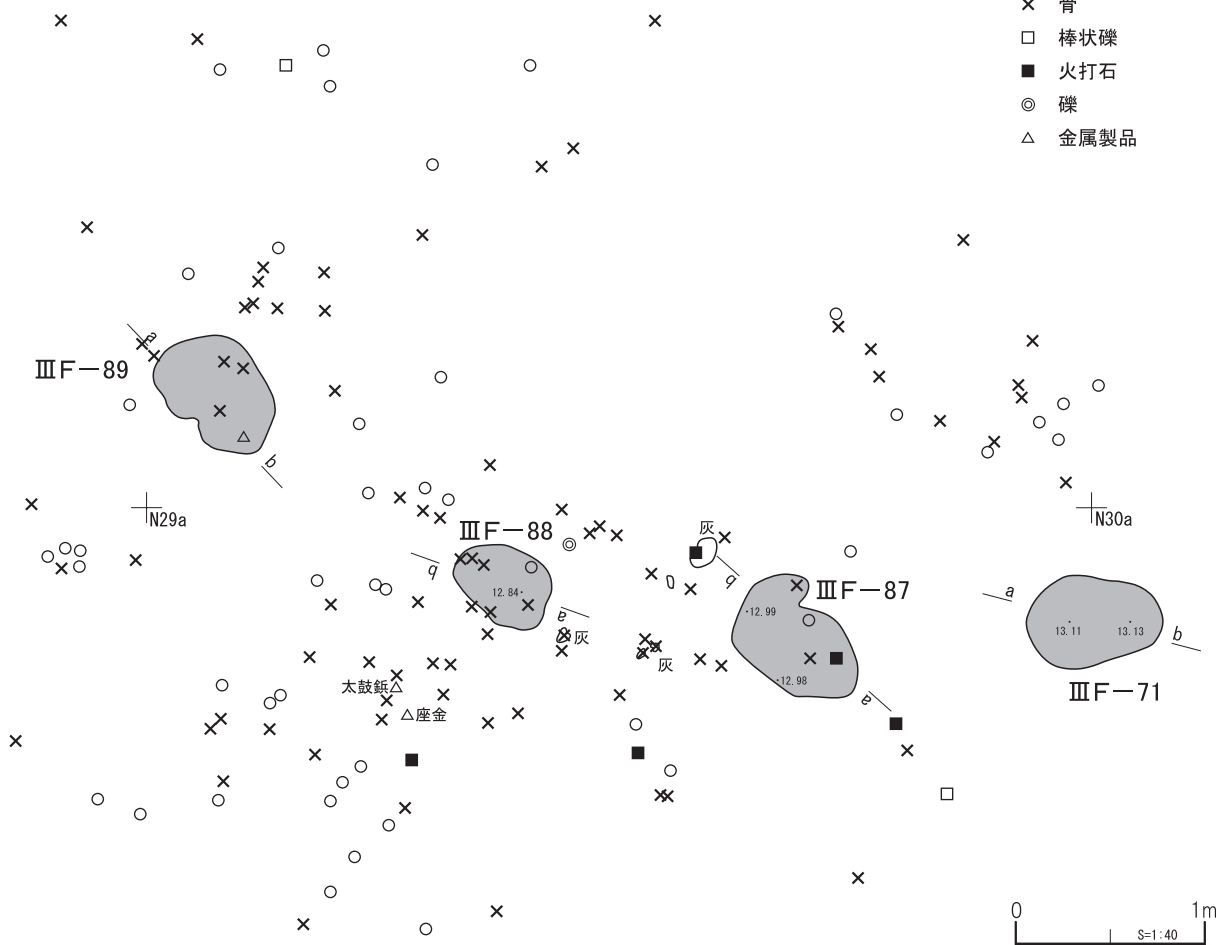
図V-1-41 ⅢF-65~69平面図

ⅢF-70



ⅢF-71・87～89

- カワシンジュガイ
- × 骨
- 棒状礫
- 火打石
- ◎ 礫
- △ 金属製品



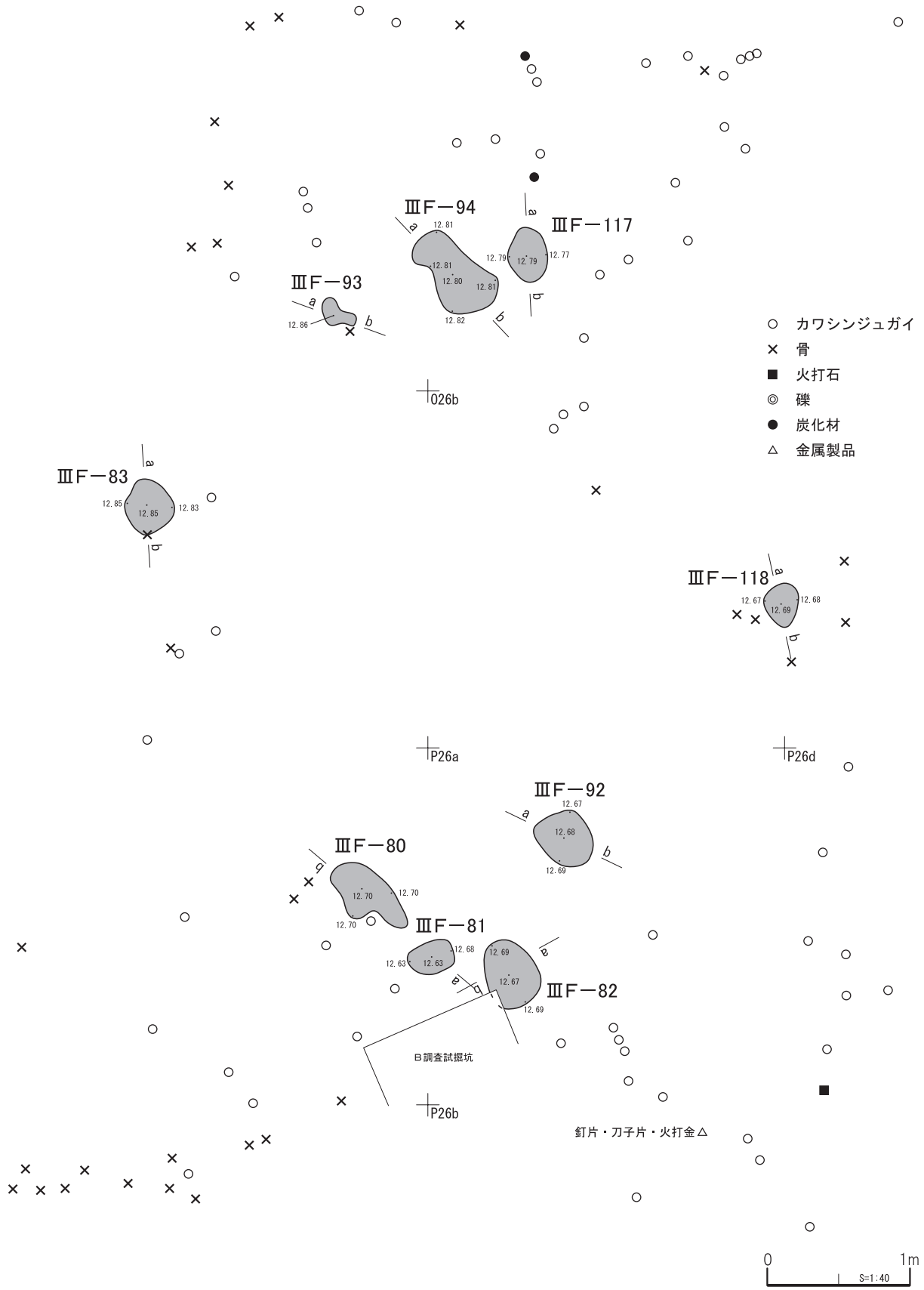
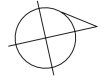
図V-1-42 ⅢF-70・71・87～89平面図

ⅢF-72 ~ 79・199



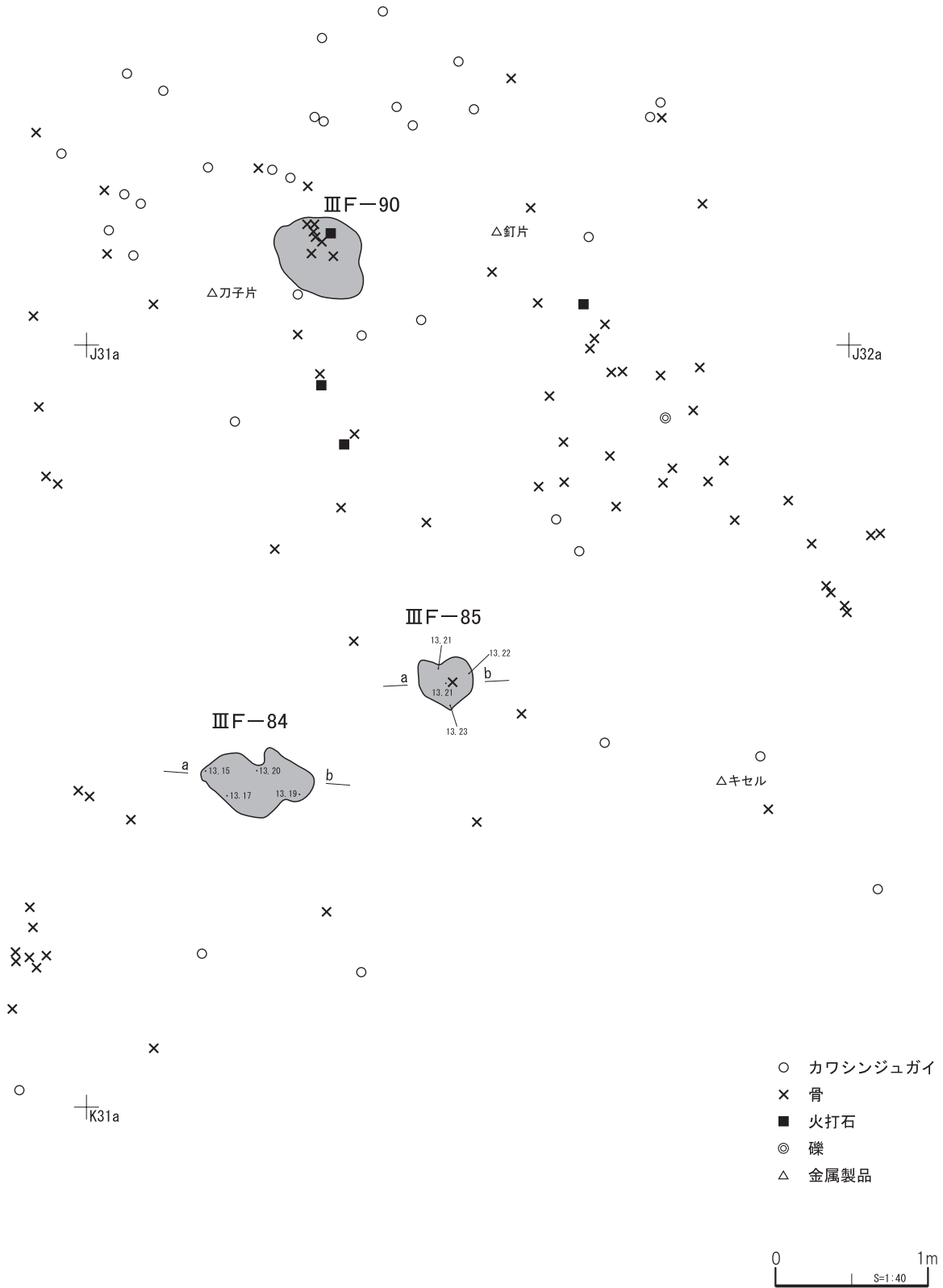
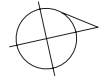
図V-1-43 ⅢF-72~79・199平面図

ⅢF-80 ~ 83・92 ~ 94・117・118



図V-1-44 ⅢF-80~83・92~94・117・118平面図

ⅢF-84・85・90



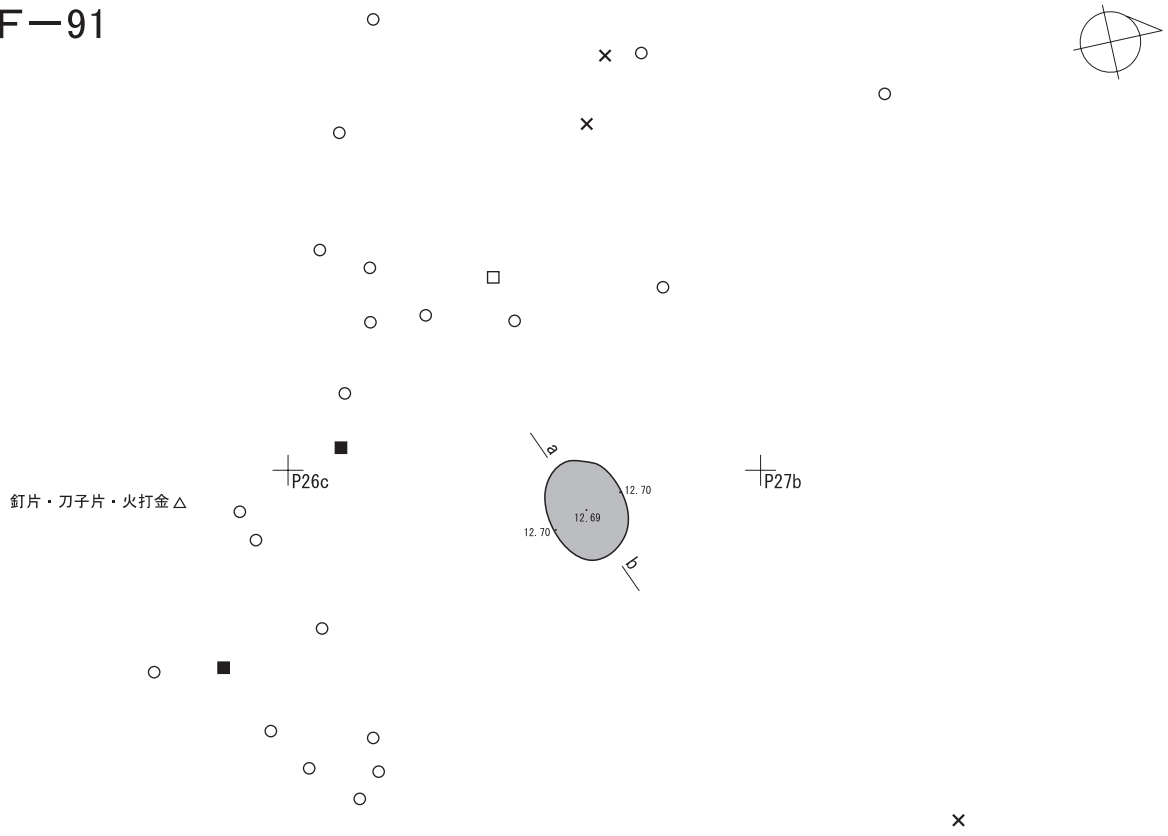
図V-1-45 ⅢF-84・85・90平面図

ⅢF-86・111・140～142・167・169・170

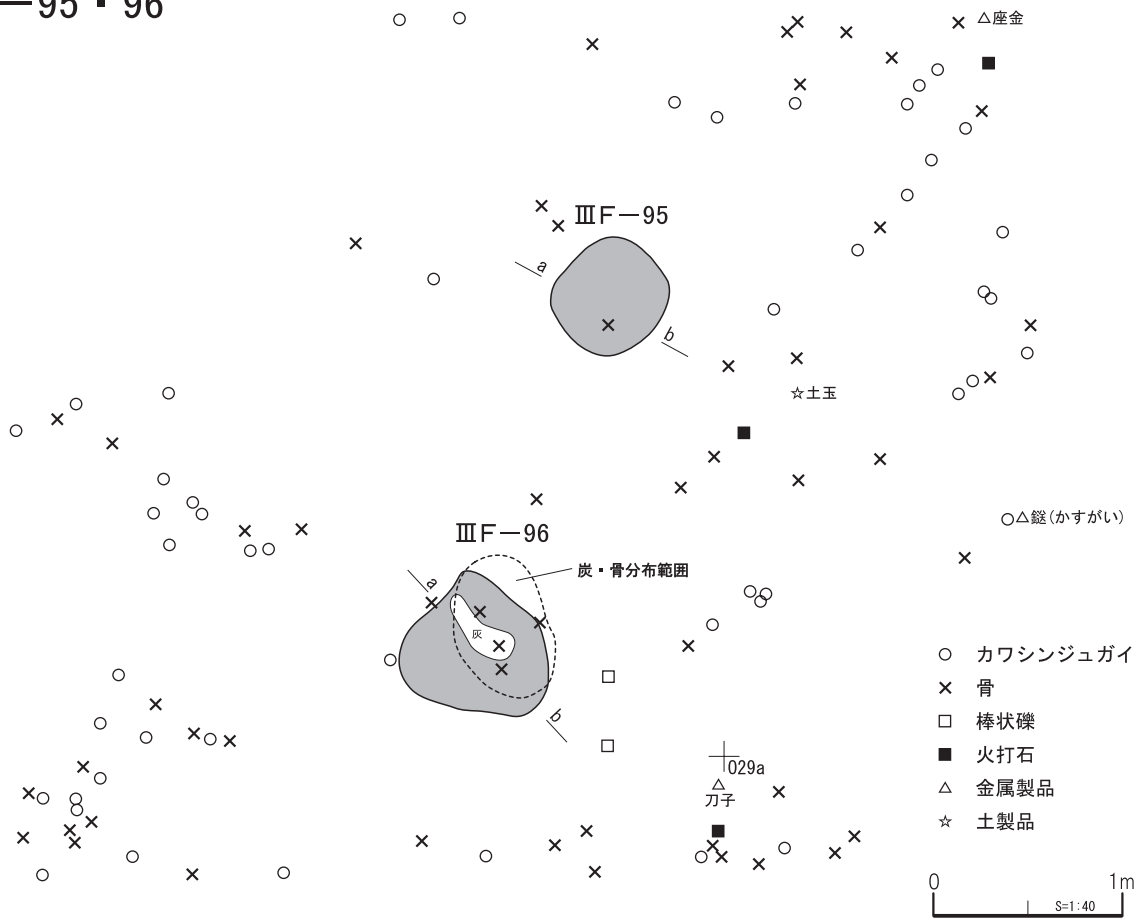


図V-1-46 ⅢF-86・111・140～142・167・169・170平面図

ⅢF-91

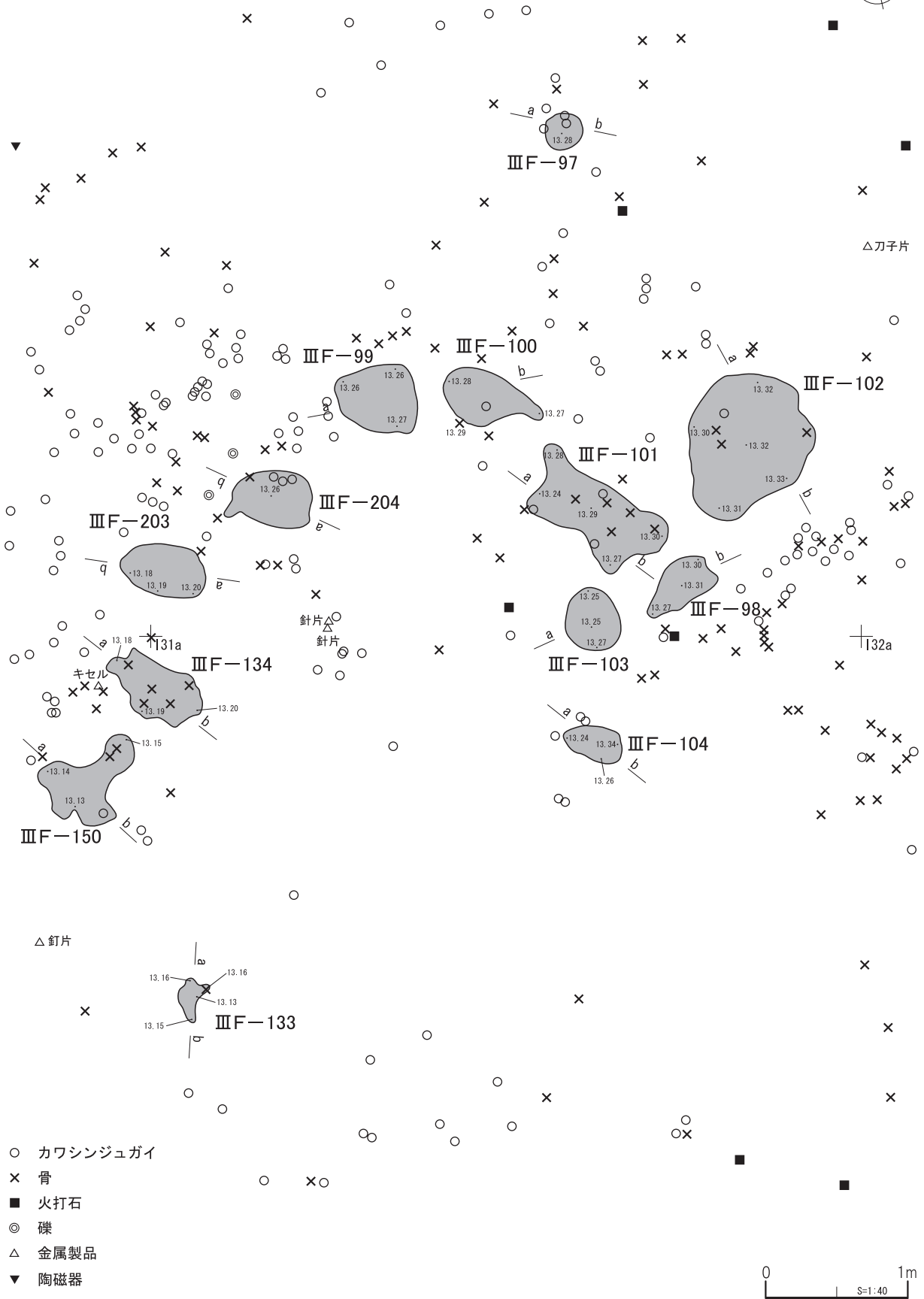


ⅢF-95・96



図V-1-47 ⅢF-91・95・96平面図

ⅢF-97 ~ 104・133・134・150・203・204



図V-1-48 ⅢF-97~104・133・134・150・203・204平面図

ⅢF-105 ~ 108

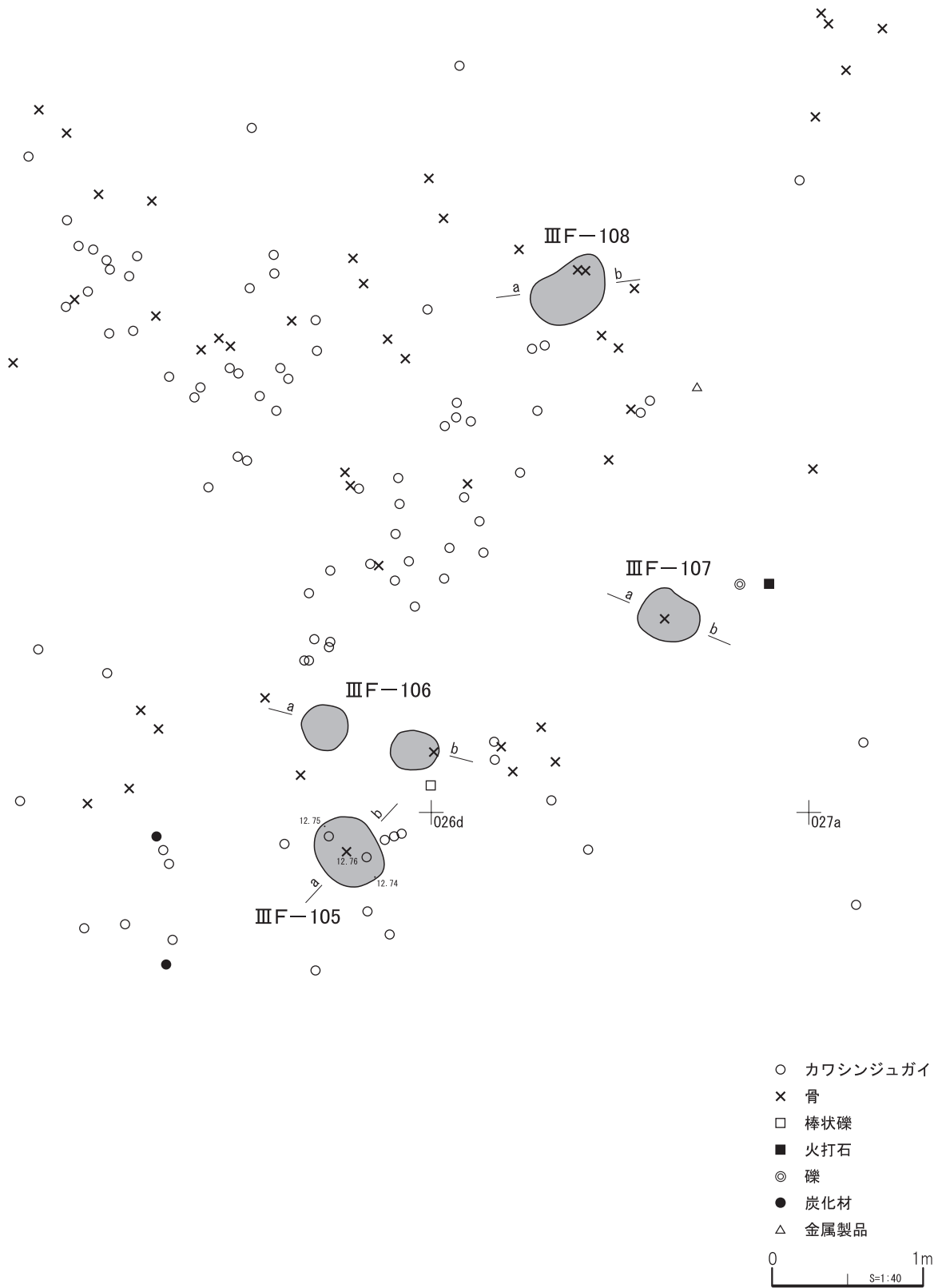
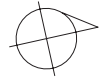
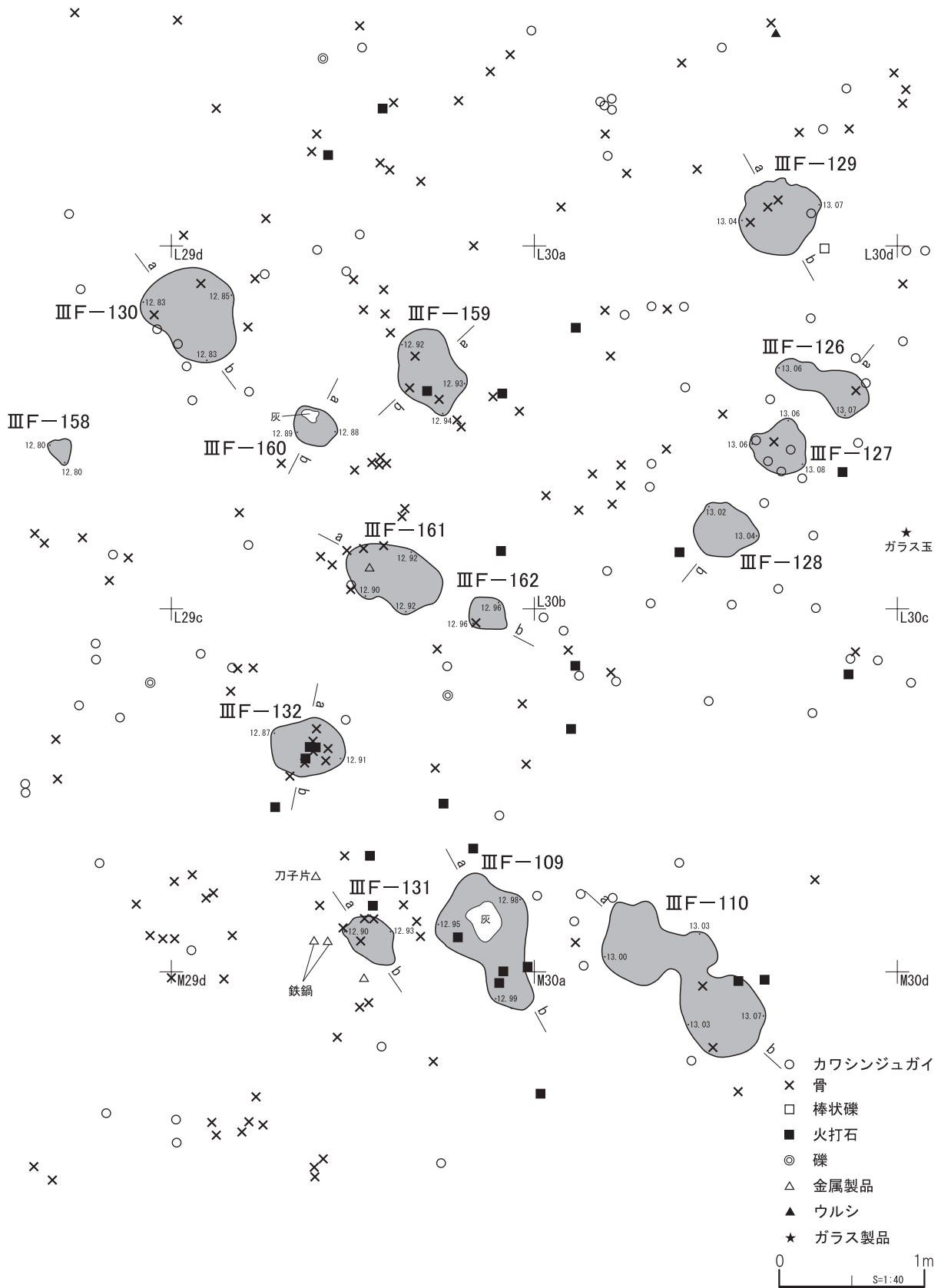
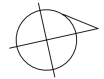


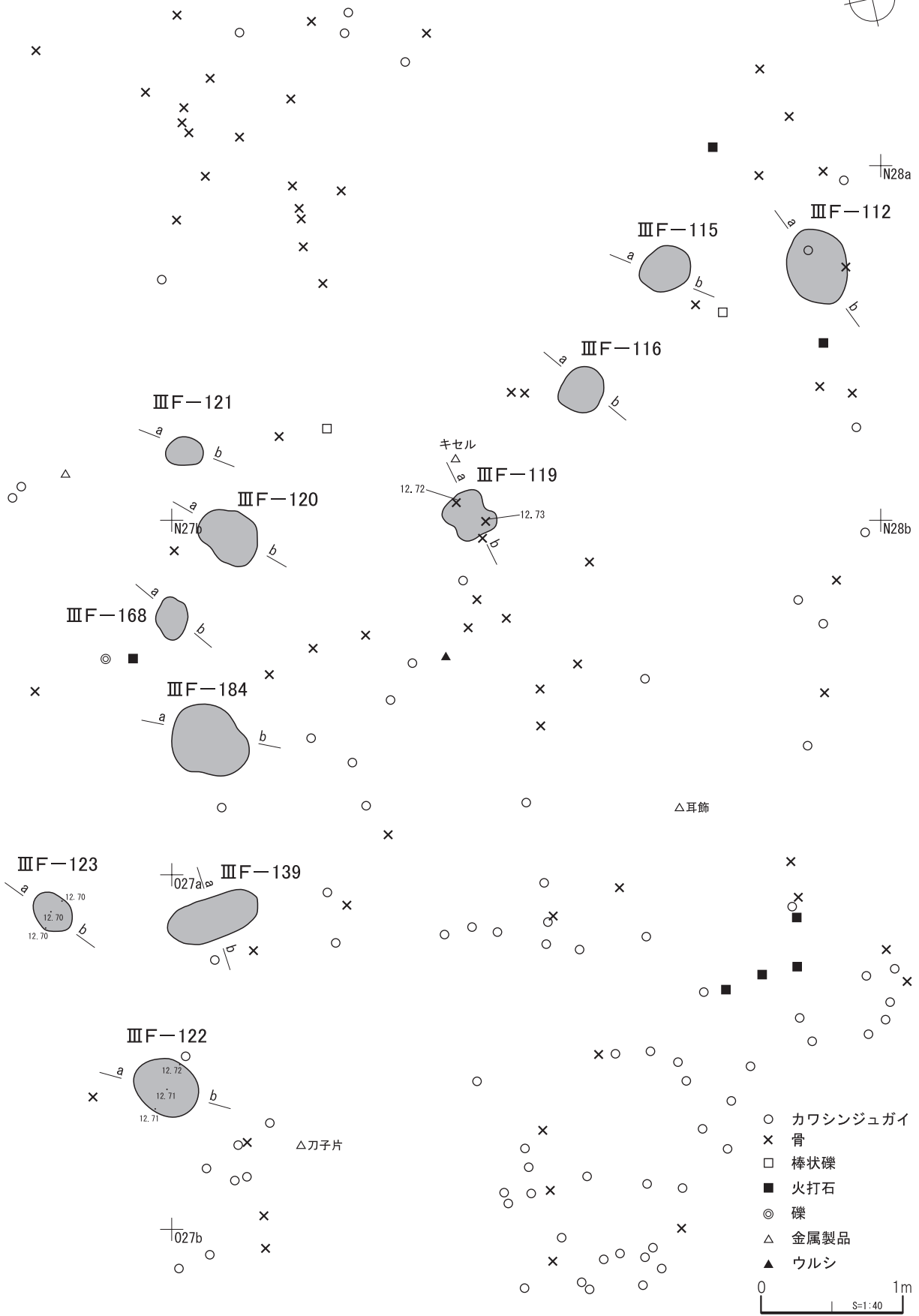
図 V-1-49 ⅢF-105~108平面図

ⅢF-109・110・126～132・158～162



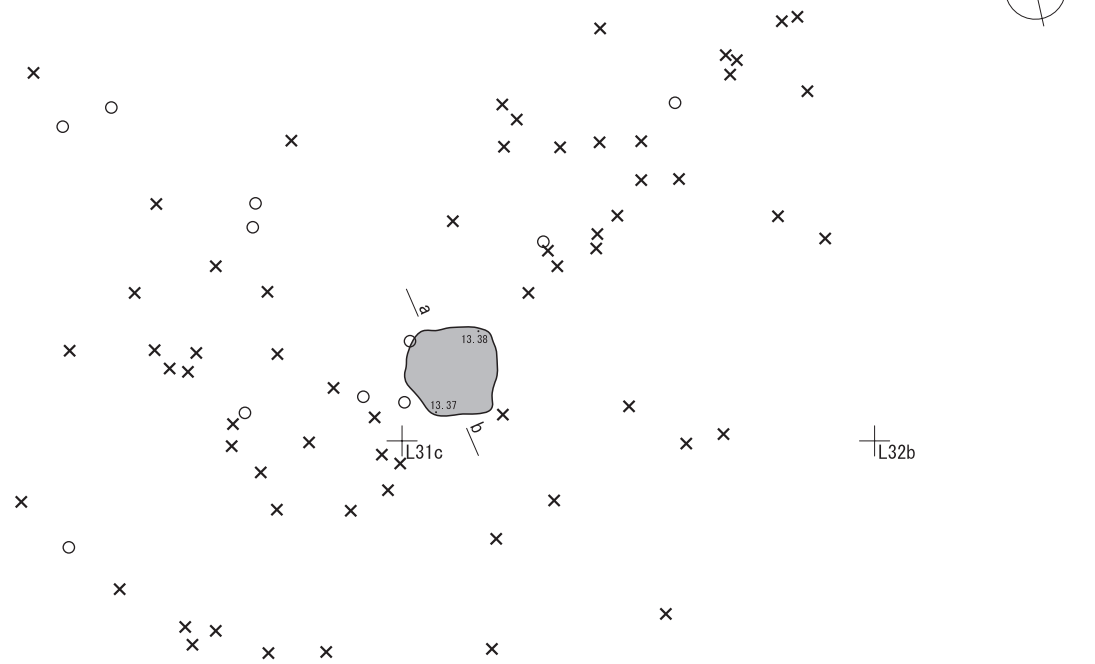
図V-1-50 ⅢF-109・110・126～132・158～162平面図

ⅢF-112・115・116・119～123・139・168・184

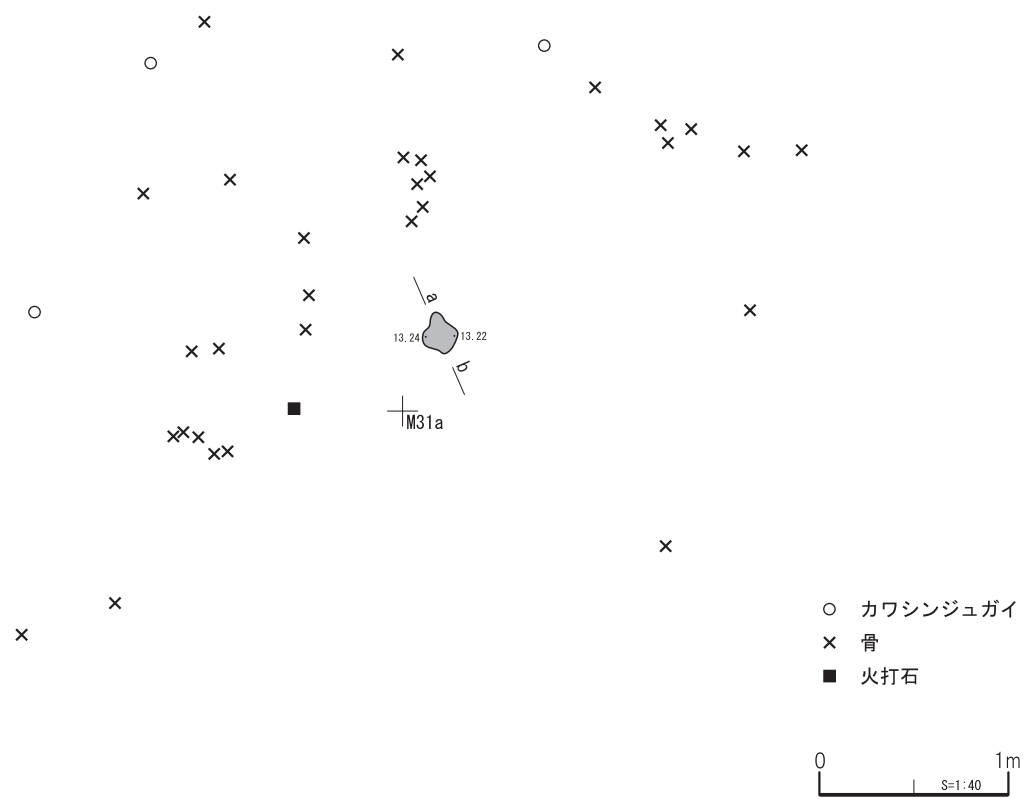


図V-1-51 ⅢF-112・115・116・119～123・139・168・184平面図

ⅢF-113

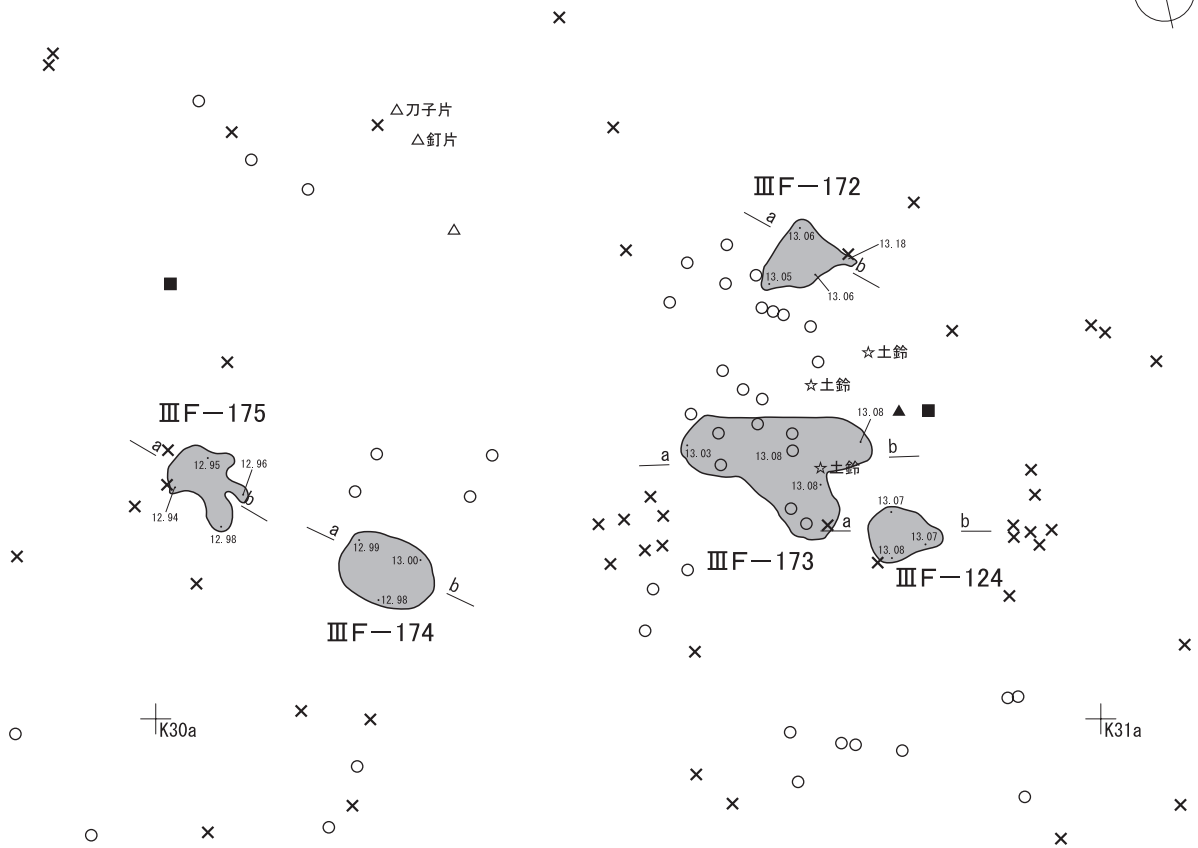
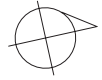


ⅢF-114

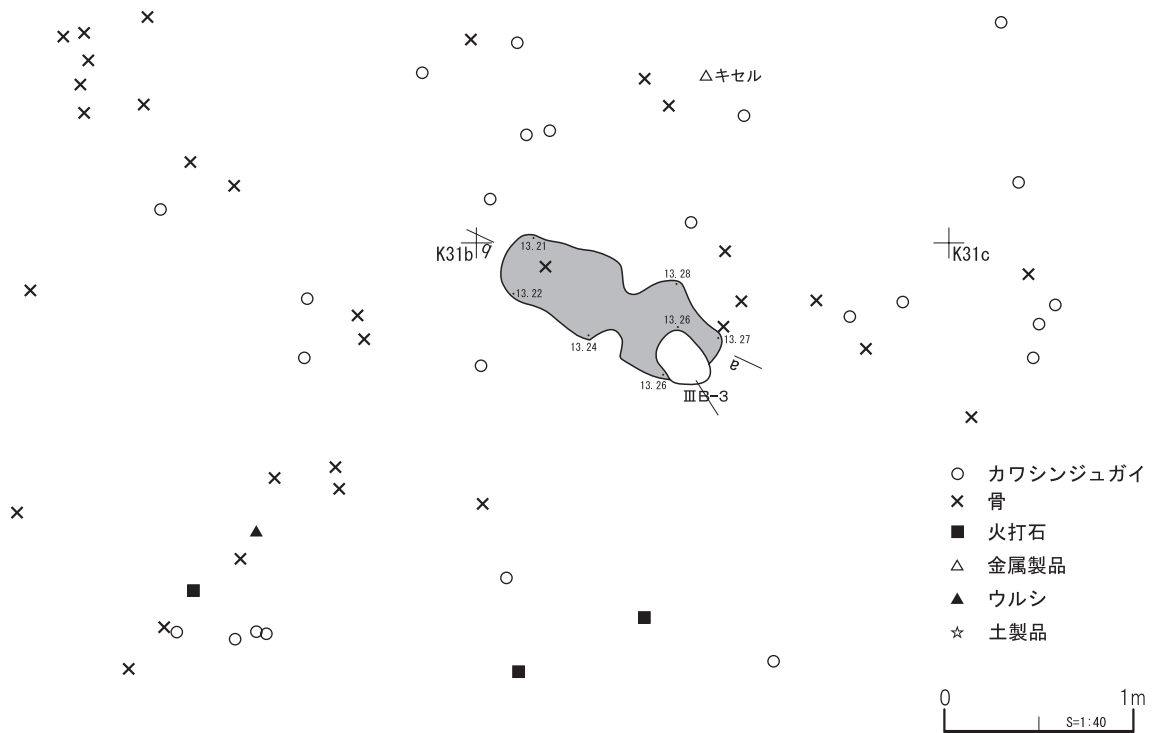


図V-1-52 ⅢF-113・114平面図

ⅢF-124・172～175

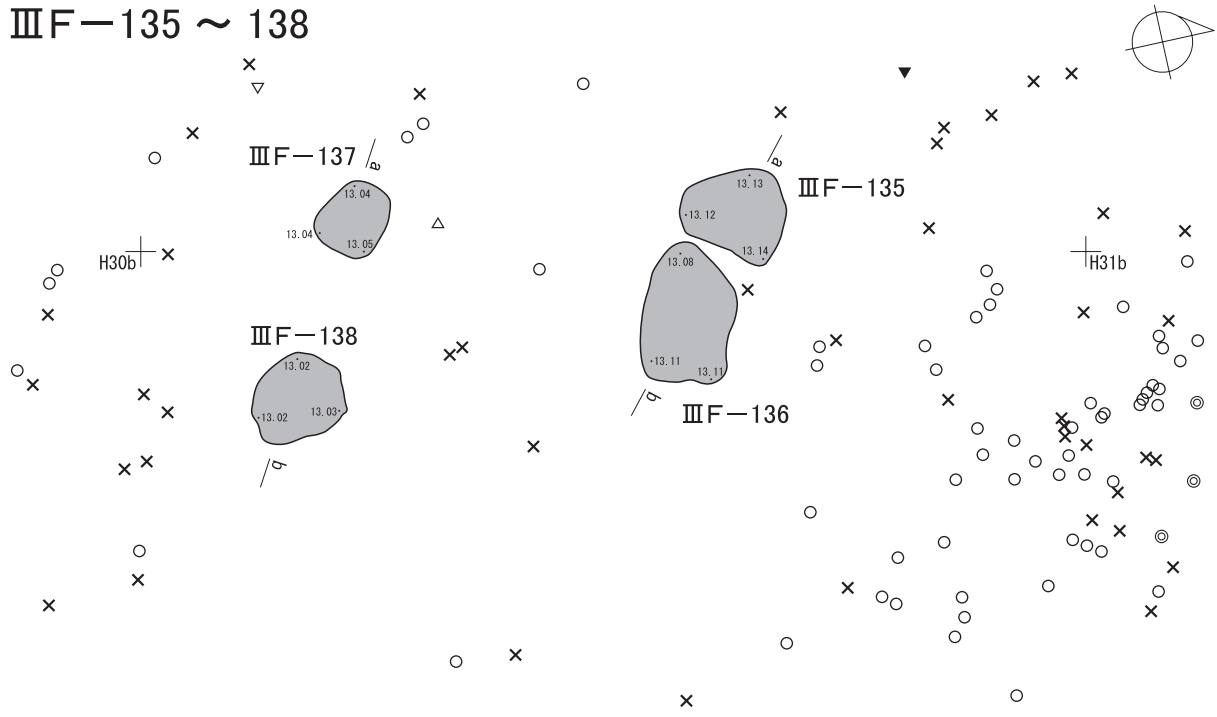


ⅢF-125

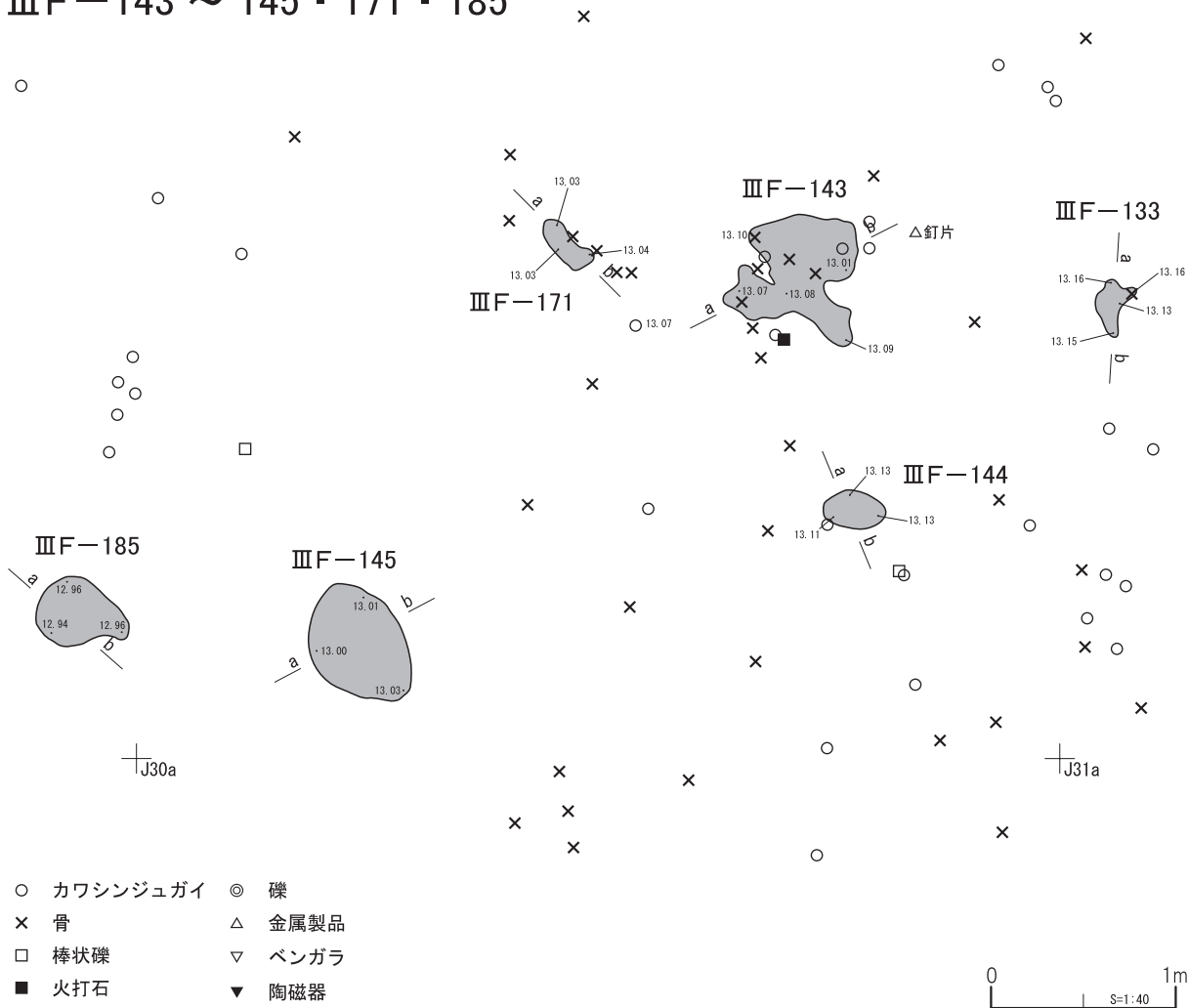


図V-1-53 ⅢF-124・125・172～175平面図

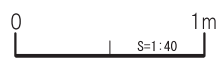
ⅢF-135 ~ 138



ⅢF-143 ~ 145 · 171 · 185

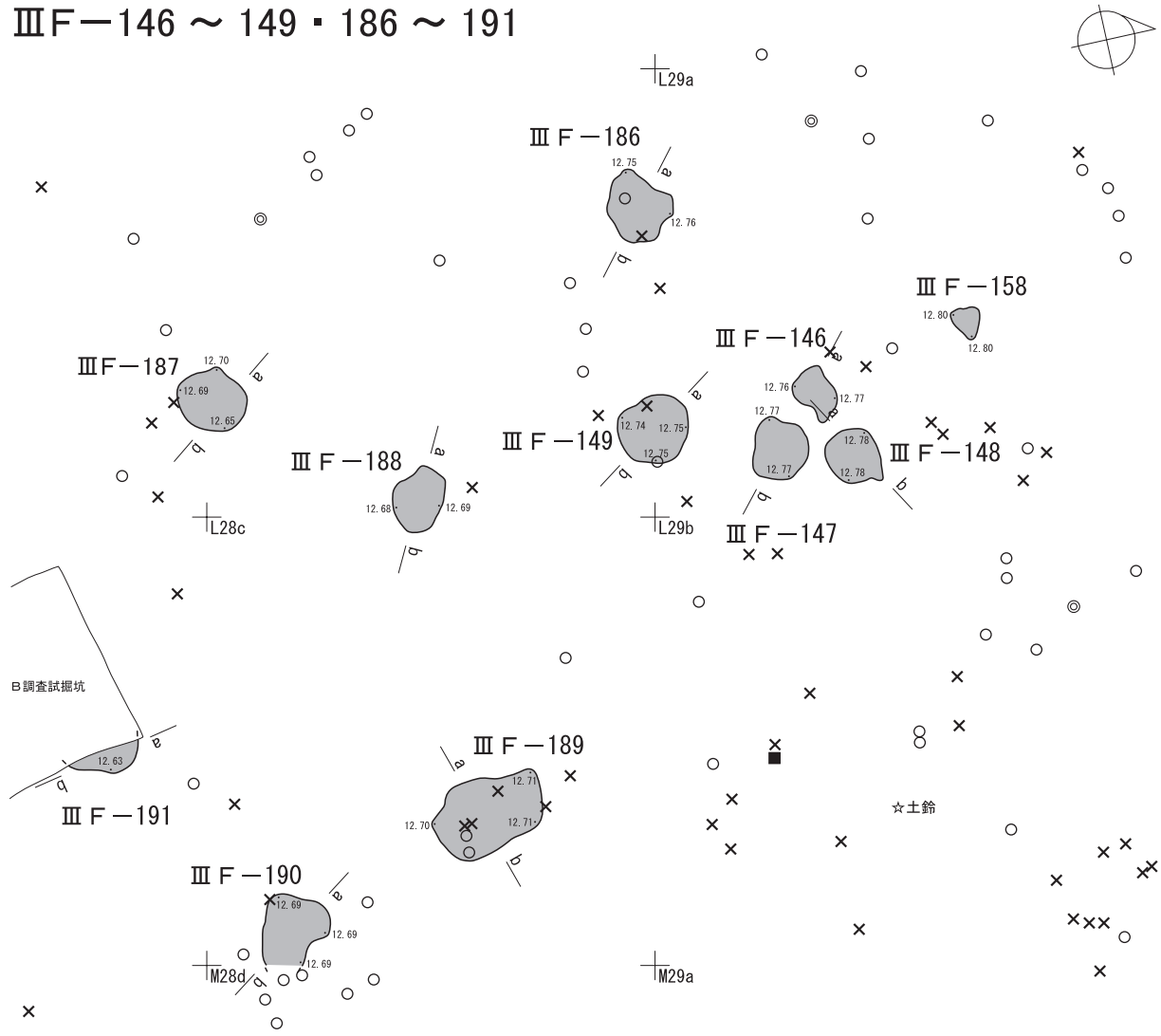


- カワシンジュガイ
- × 骨
- 棒状礫
- 火打石
- ◎ 礫
- △ 金属製品
- ▽ ベンガラ
- ▼ 陶磁器

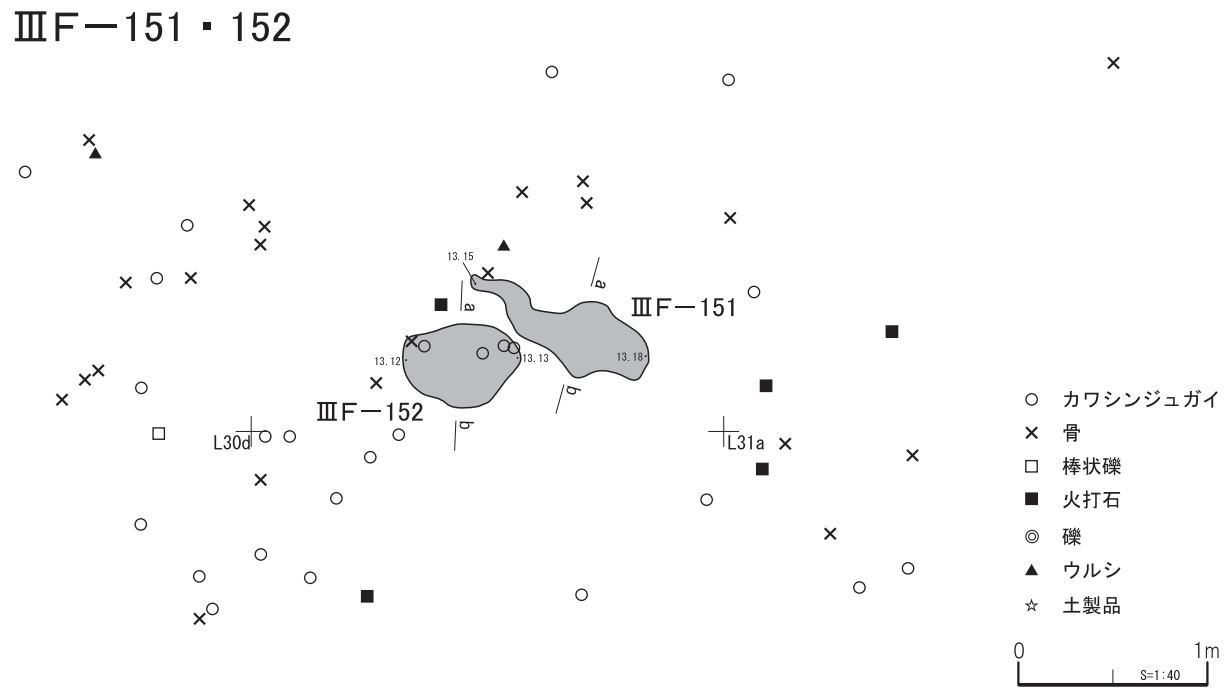


図V-1-54 ⅢF-135~138・143~145・171・185平面図

ⅢF-146 ~ 149・186 ~ 191

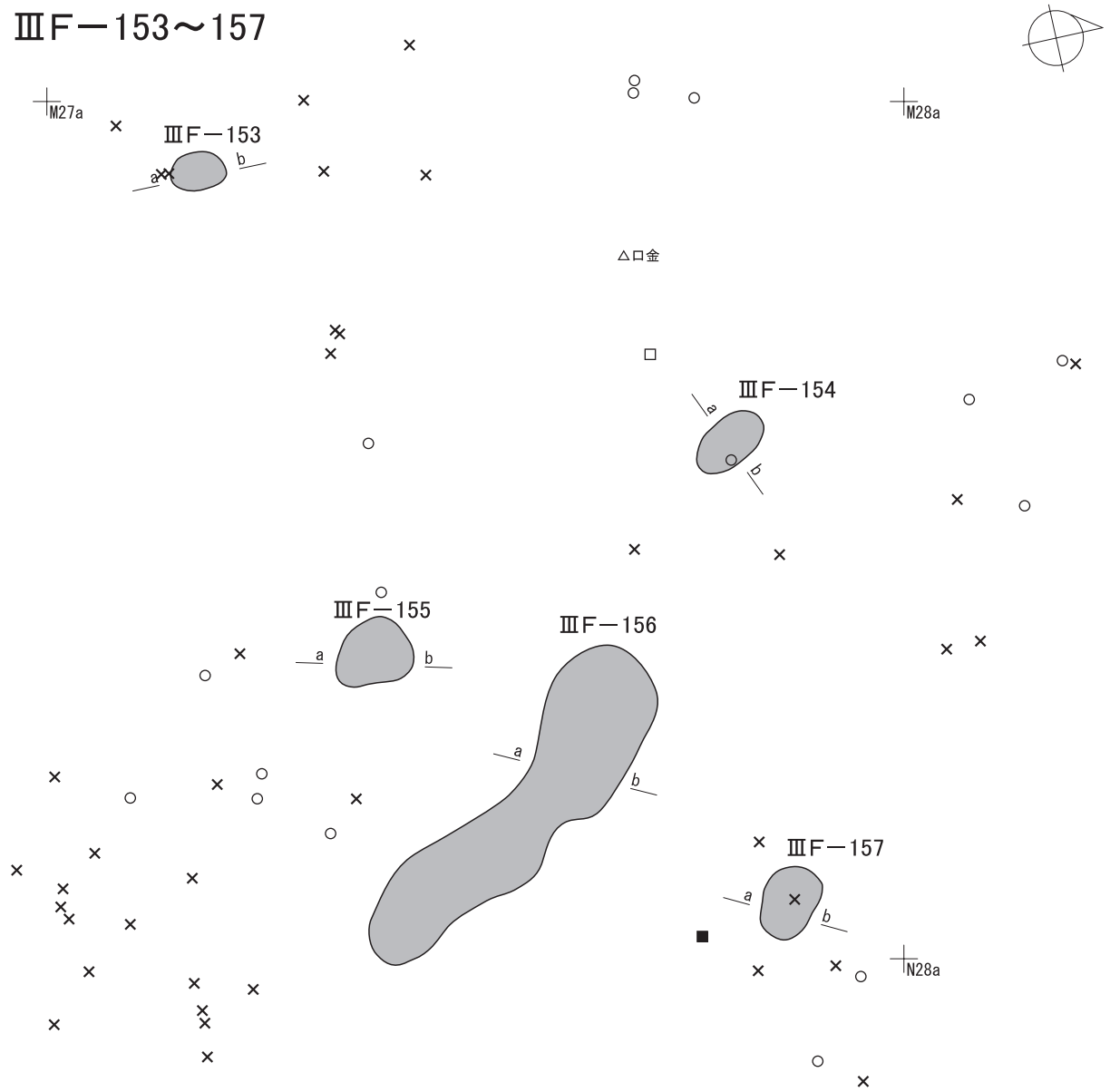


ⅢF-151・152

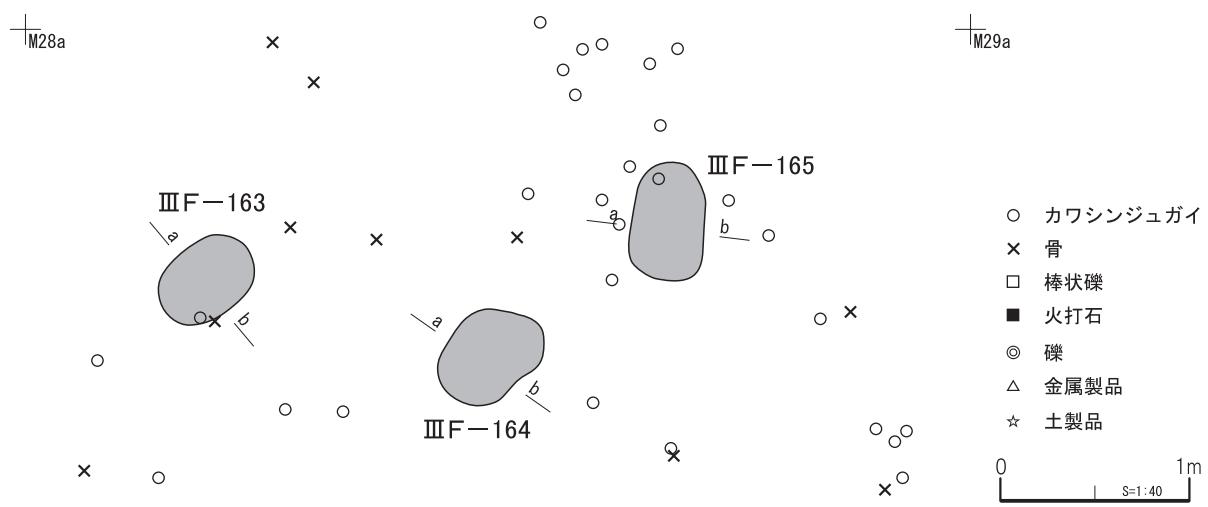


図V-1-55 ⅢF-146~149・151・152・186~191平面図

ⅢF-153~157

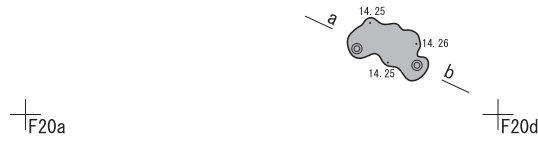
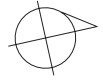


ⅢF-163 ~ 165

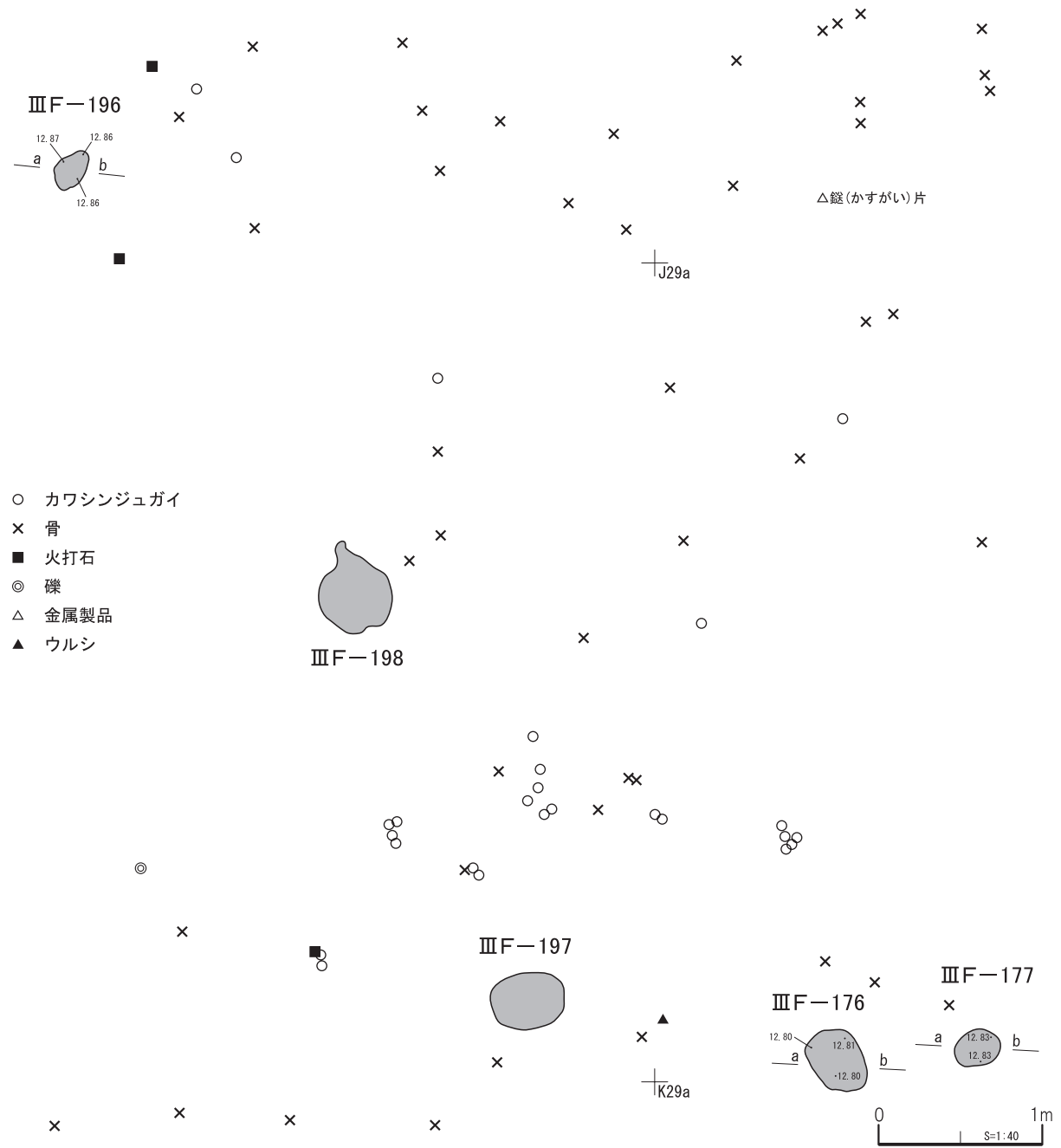


図V-1-56 ⅢF-153~157・163~165平面図

ⅢF-166

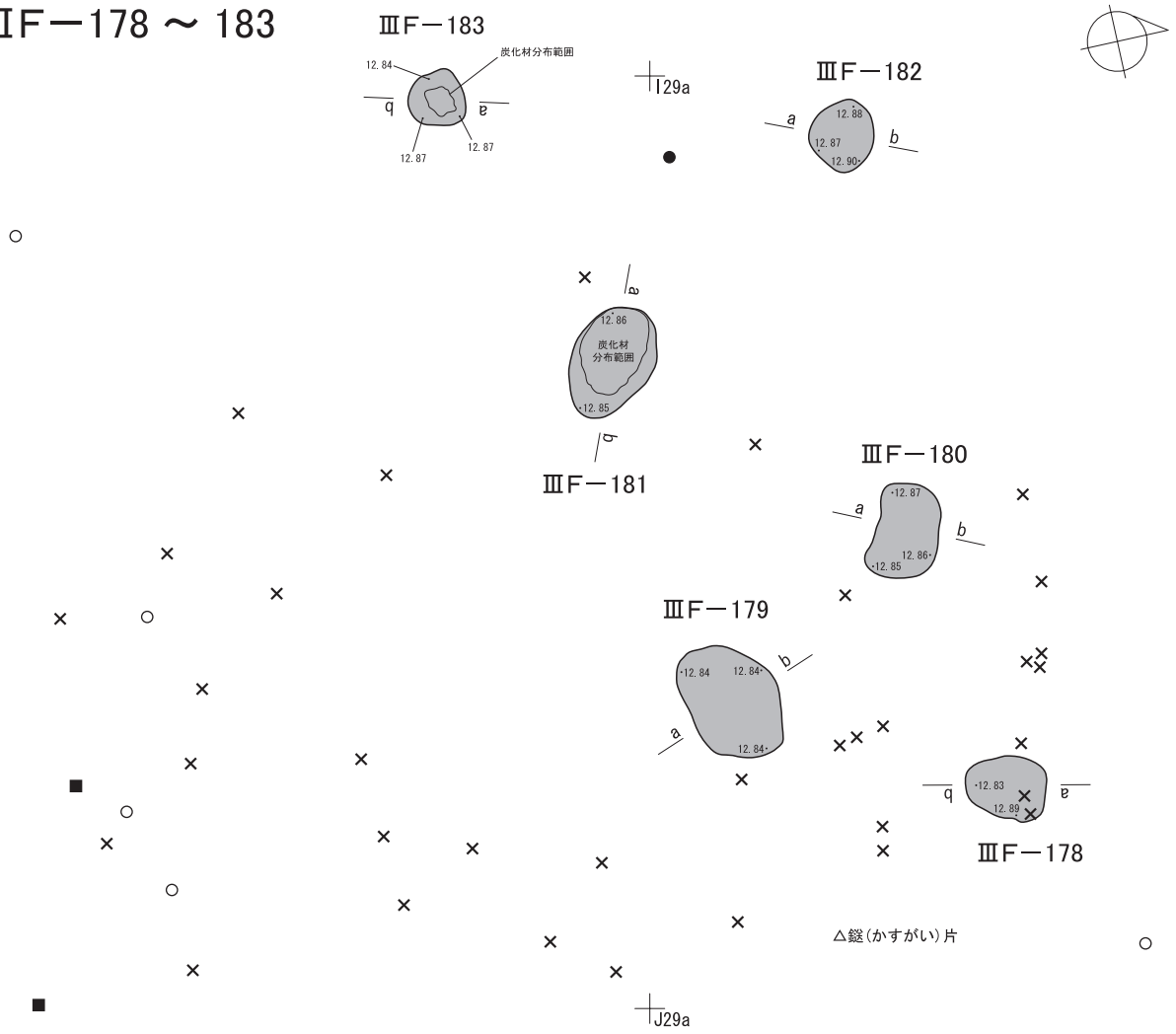


ⅢF-176・177・196～198

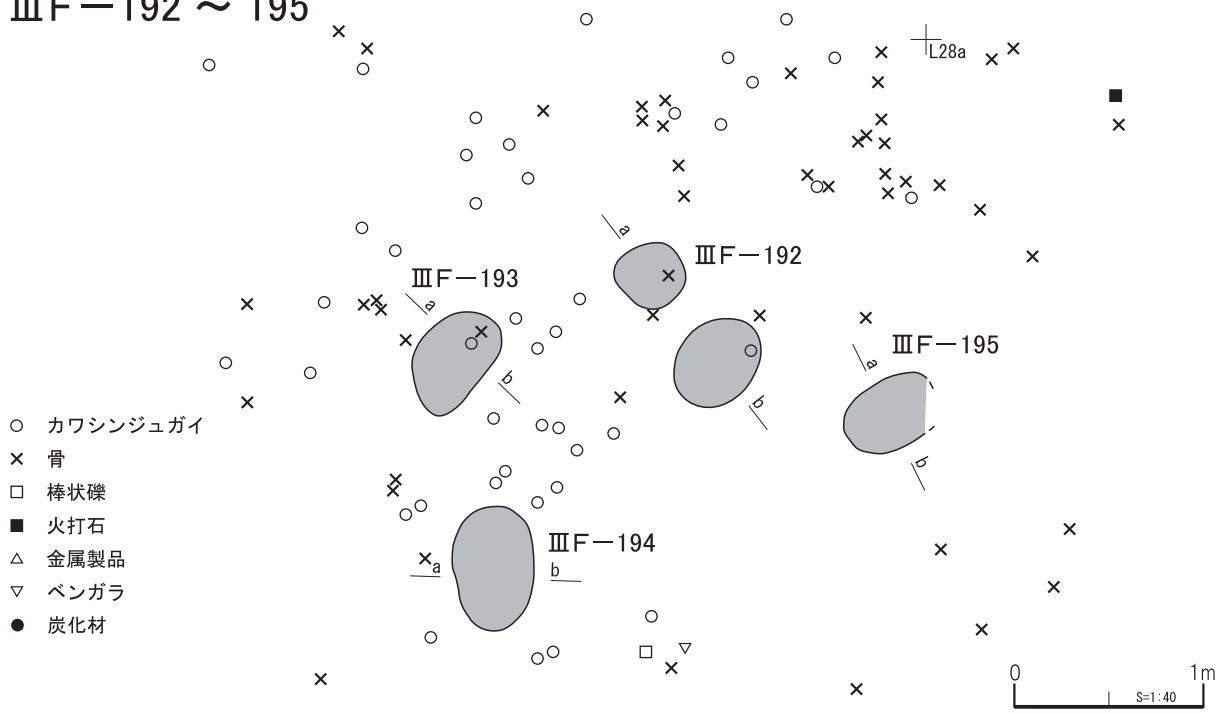


図V-1-57 ⅢF-166・176・177・196～198平面図

ⅢF-178 ~ 183

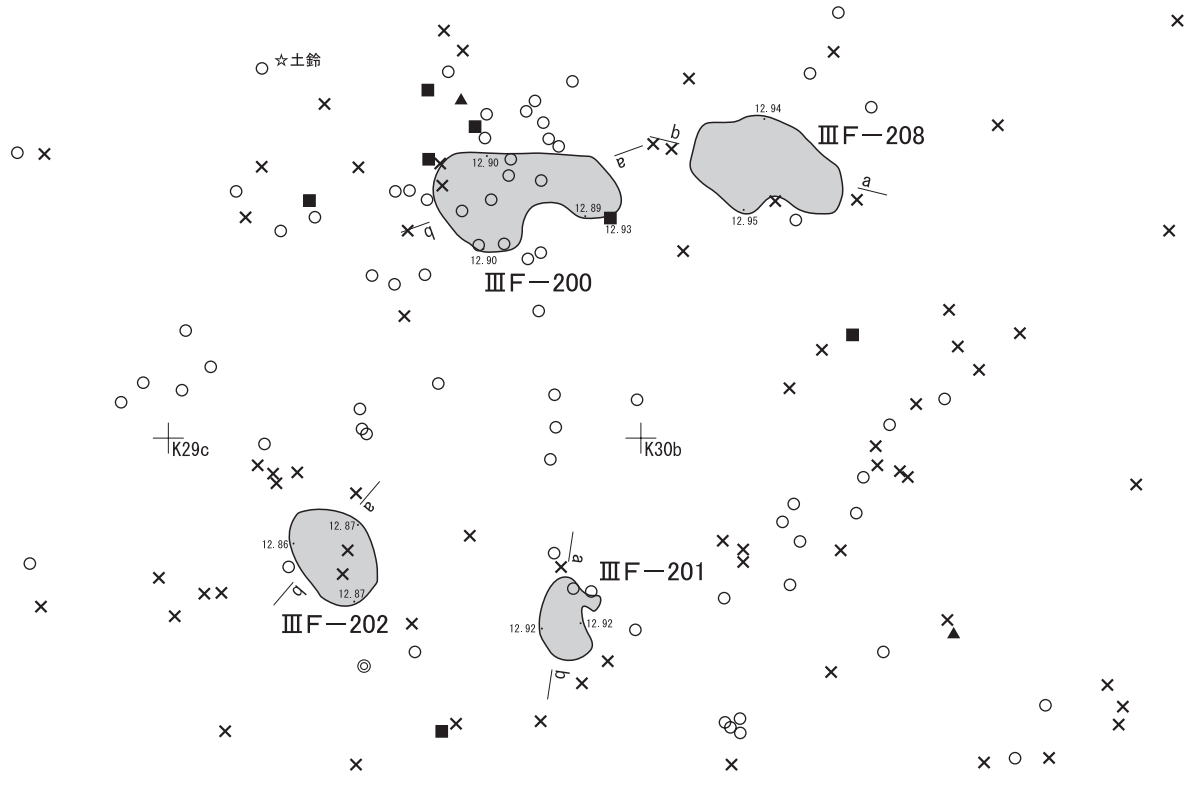


ⅢF-192 ~ 195

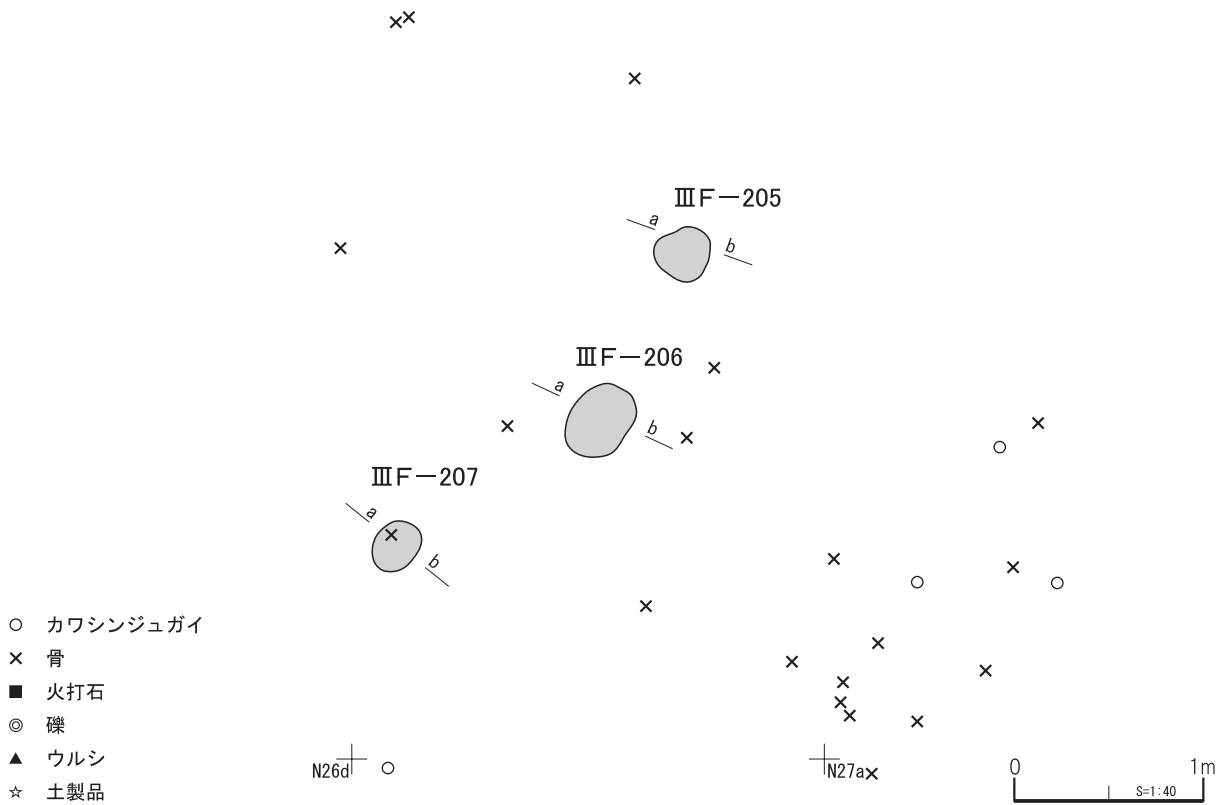


図V-1-58 ⅢF-178~183・192~195平面図

ⅢF-200 ~ 202・208



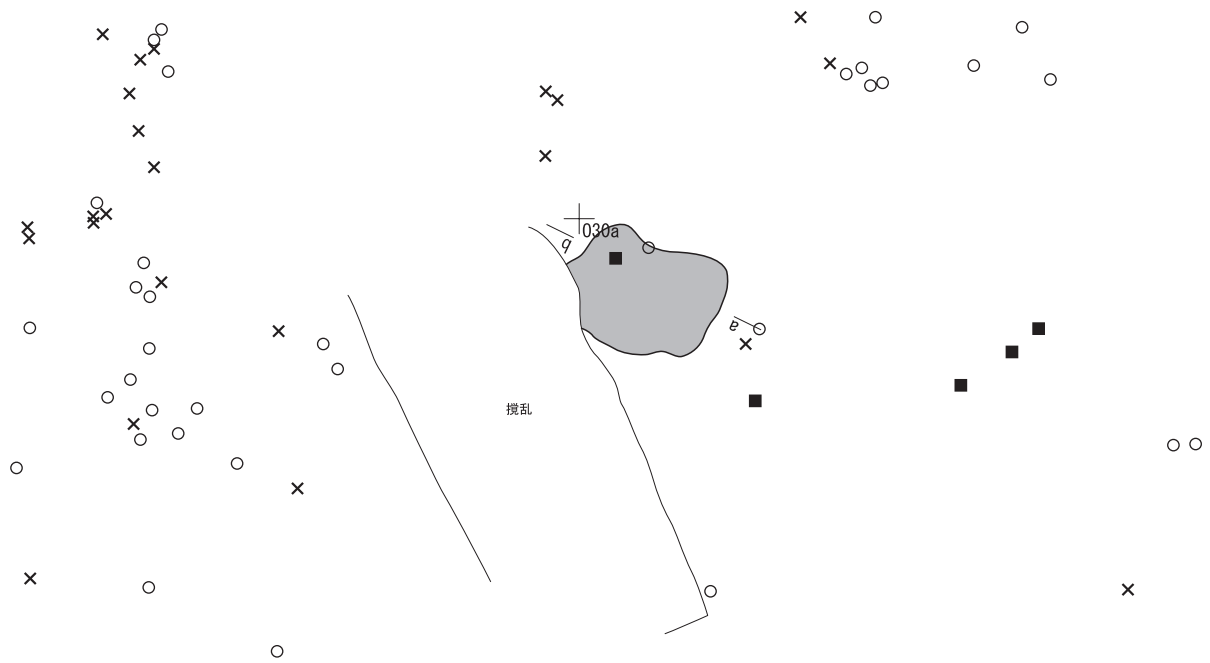
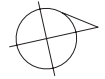
ⅢF-205 ~ 207



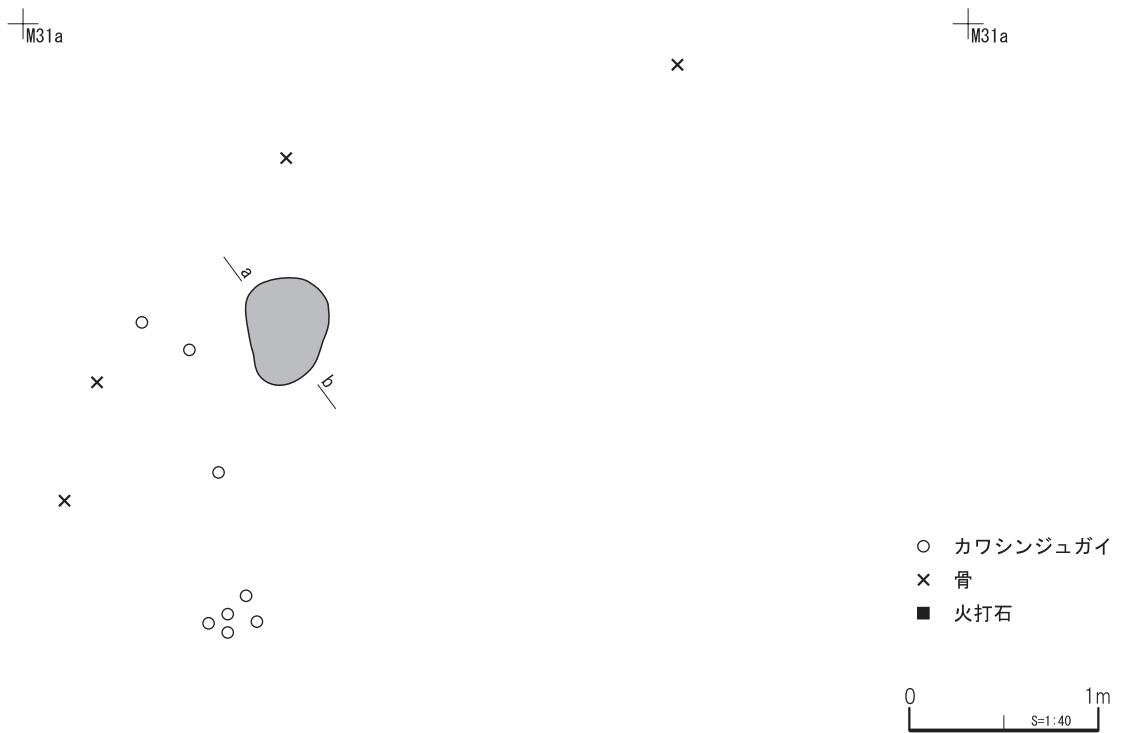
- カワシンジュガイ
- × 骨
- 火打石
- ◎ 礫
- ▲ ウルシ
- ☆ 土製品

図V-1-59 ⅢF-200~202・205~208平面図

ⅢF-209

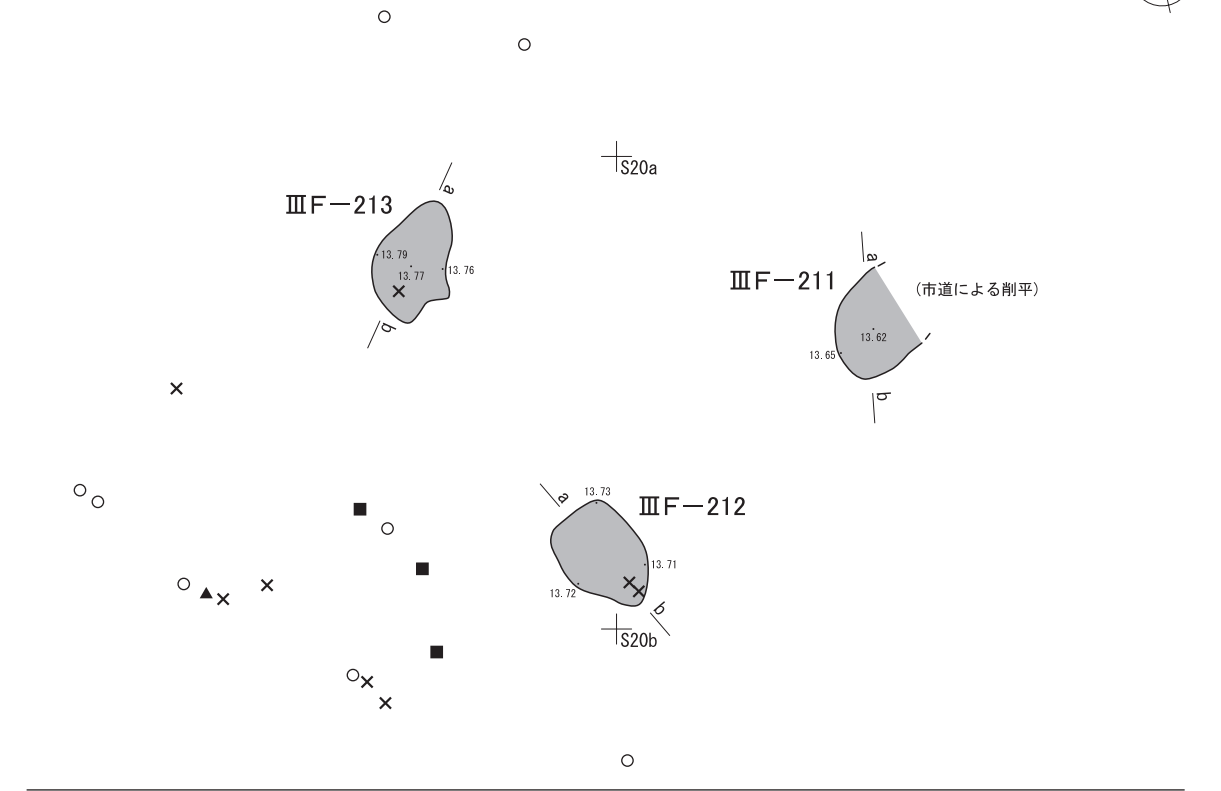
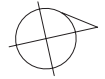


ⅢF-210

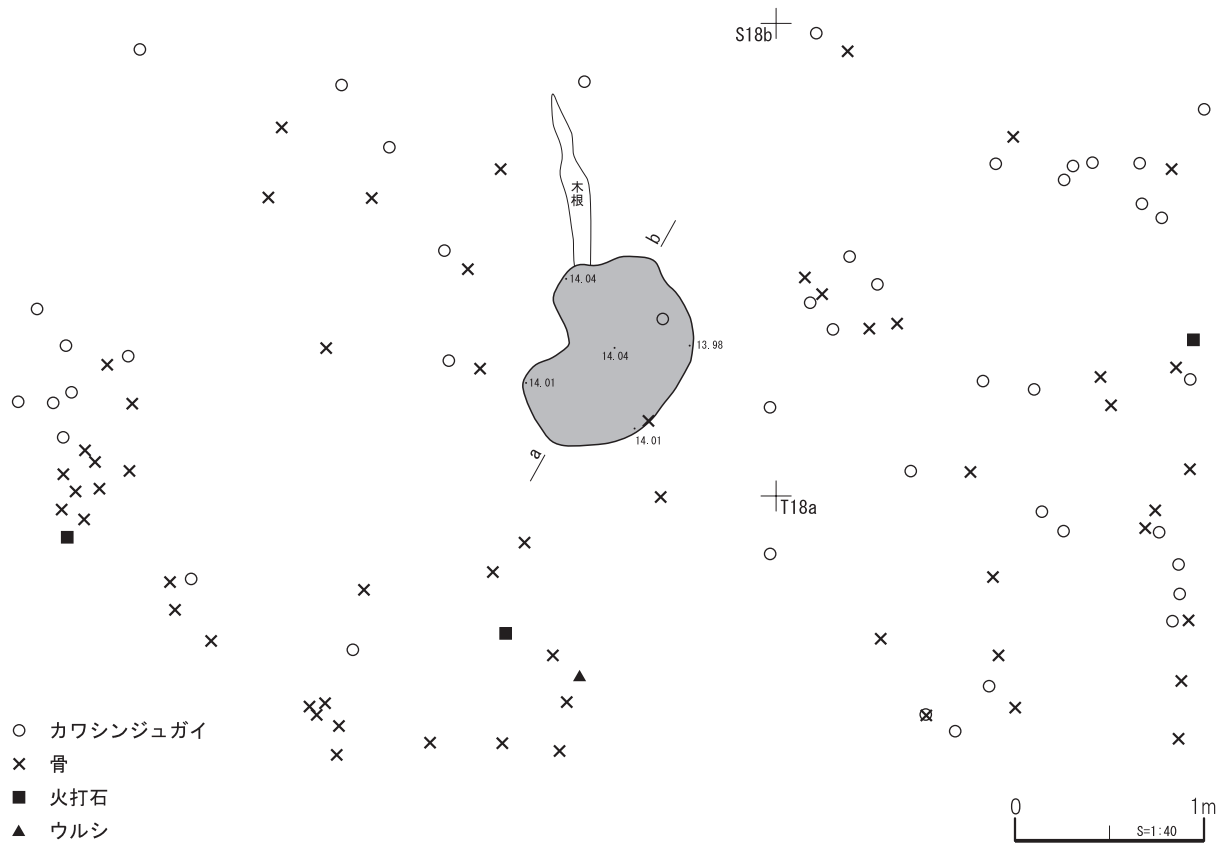


図V-1-60 ⅢF-209・210平面図

ⅢF-211 ~ 213



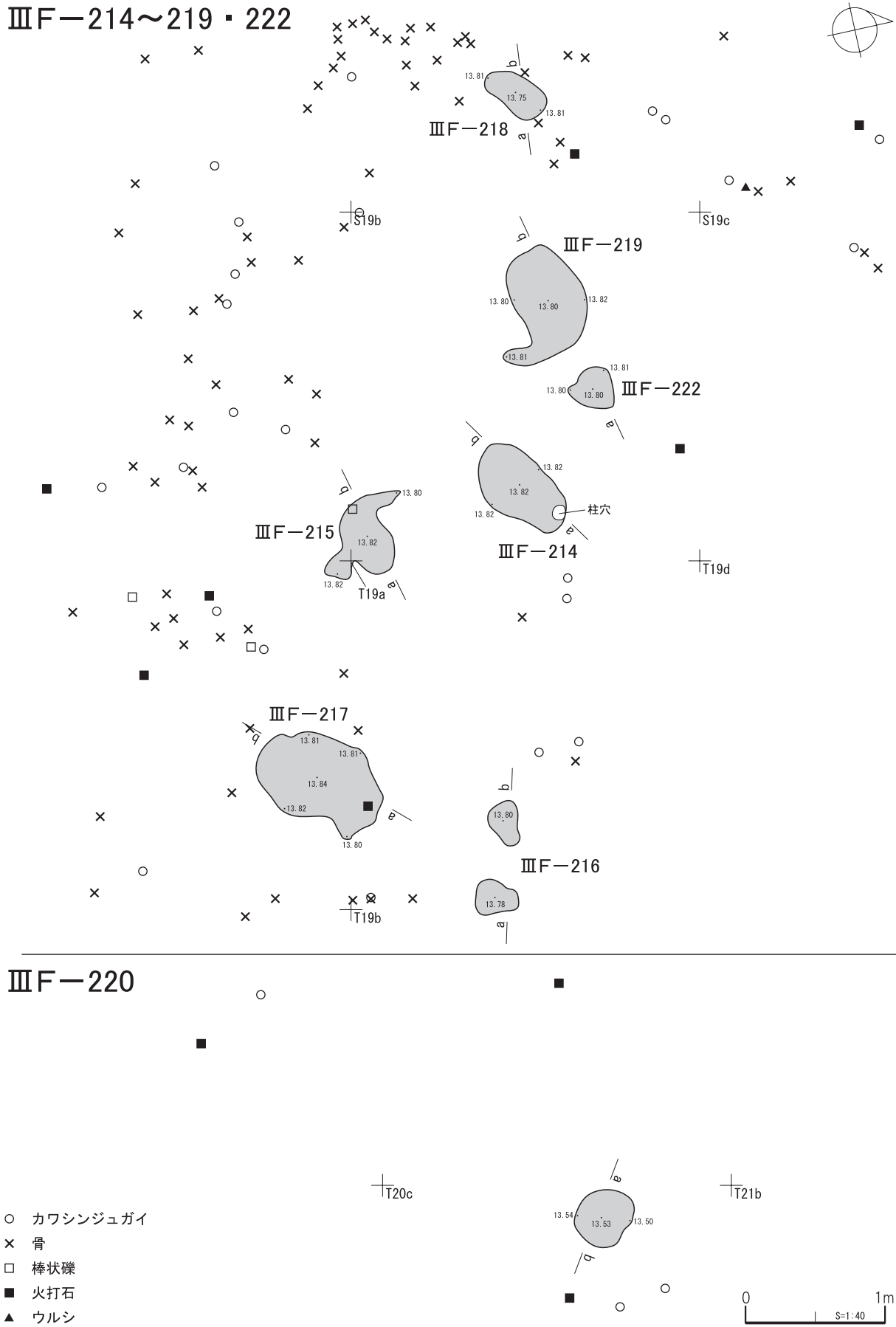
ⅢF-221



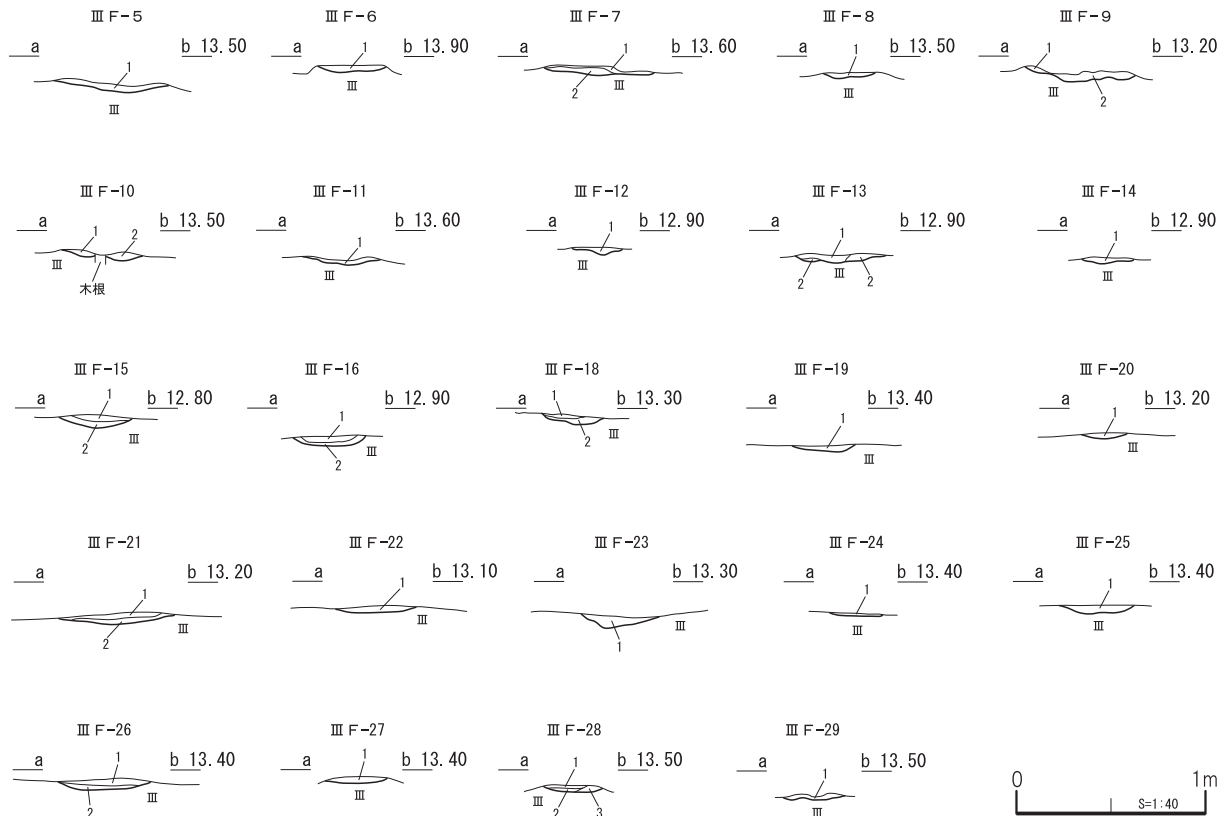
- カワシンジュガイ
- × 骨
- 火打石
- ▲ ウルシ

図V-1-61 ⅢF-211~213・221平面図

ⅢF-214~219・222



図V-1-62 ⅢF-214~220・222平面図



III F-5

1層：赤褐色焼土(5YR4/8) 縮りあり、粘りあり
 ※ III層を1回下げた状況で検出
 上面に炭化材・微細骨片を微量含む薄い層がある
 現地

III F-6

1層：明赤褐色焼土(7.5YR5/8)～暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、表面に炭化材・微細骨片が微量ある
 ※ III層で1回下げた状況で検出
 現地

III F-7

1層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片多く含む
 2層：赤褐色焼土(5YR4/8) 縮りなし、粘りあり
 ※ III層を1回下げた状況で検出

III F-8

1層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、表面に炭化材微量あり
 ※ III層を1回下げた状況で検出
 現地

III F-9

1層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり
 2層：赤褐色土(5YR4/6) 縮りなし、粘りあり
 表面に獣骨と見られる骨片が多くある
 ※ III層を1回下げた状況で検出

III F-10

1層：極暗褐色焼土(7.5YR2/3) 縮りなし、粘りなし
 2層：赤褐色焼土(5YR4/6) 縮りあり、粘りあり
 ※ III層を1回下げた状況で検出
 表面に微細骨片を微量含む薄い層がある
 現地

III F-11

1層：赤褐色焼土(5YR4/8) 縮りあり、粘りあり、表面に炭化材微量あり

III F-12

1層：橙色焼土(5YR6/6) 縮りあり、粘りあり、表面に炭化材あり
 ※ 現地

III F-13

1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りあり
 ※ 現地

III F-14

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-15

1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片微量含む
 2層：橙色焼土(5YR6/8) 縮りあり、粘りあり
 ※ 現地

III F-16

1層：黒褐色土(5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：橙色焼土(5YR6/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-18

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、骨を含む
 2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、焼土

III F-19

1層：明褐色土(7.5YR5/6) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、炭化材(φ～10mm)が少量混じる

III F-20

1層：明褐色～黒褐色土(7.5YR5/6～3/1) 縮りなし、粘りあり、焼土、黒斑あり、炭化材(φ～5mm)少量混じる

III F-21

1層：黒褐色～明褐色土(7.5YR3/1～5/6) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、炭化材・骨片(φ～3mm)が混入する

III F-22

2層：明褐色土(7.5YR5/6) 縮りあり、粘りなし、焼土、やや強く焼けている、微細な骨片(φ～2mm)多量に混じる

III F-22

1層：明赤褐色土(5YR5/6) 縮りなし、粘りなし、焼土、黒斑あり、微細な骨片(φ～3mm)多量に混じる

III F-23

1層：明赤褐色～黒褐色土(5YR5/6～7.5YR2/2) 縮りなし、粘りあり、焼土、黒斑あり、微細な炭化材・骨片(φ～2mm)混じる

III F-24

1層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 縮りなし、粘りなし
 ※ 現地

III F-25

1層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地
 黒褐色土(7.5YR2/2)がうすく上面にある
 微細骨片・炭化材を含む

III F-26

1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 縮りあり、粘りなし、炭化材(φ～5mm)・微細な骨片多量に含む
 灰層
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りあり
 ※ 現地

III F-27

1層：赤褐色焼土(5YR4/6) 縮りあり、粘りなし、上面に微細骨片あり
 ※ 現地

III F-28

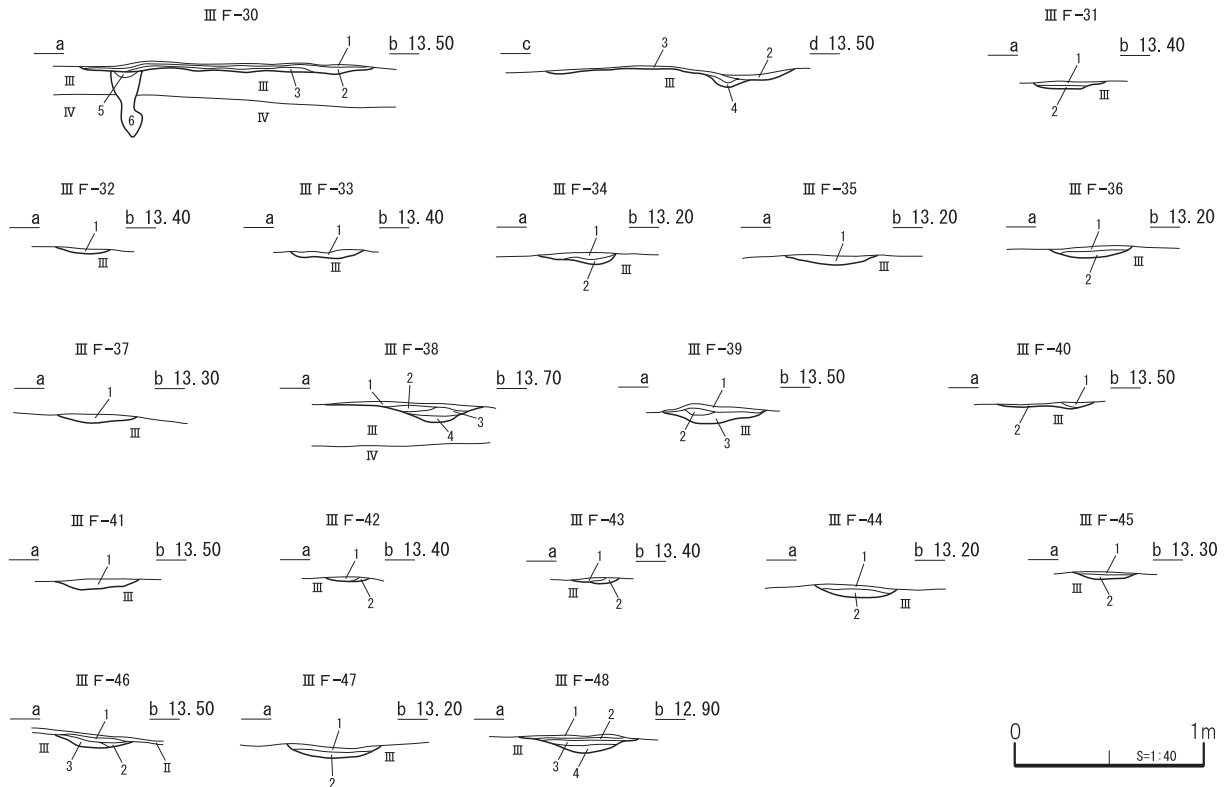
1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 縮りあり、粘りあり、炭化材(φ～5mm)少量・微細骨片多く含む
 2層：にぶい赤褐色焼土(5YR4/3) 縮りあり、粘りあり
 3層：明赤褐色焼土(5YR4/8) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-29

1層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

図V-1-63 III F-5～29断面図

梅川4遺跡(3)

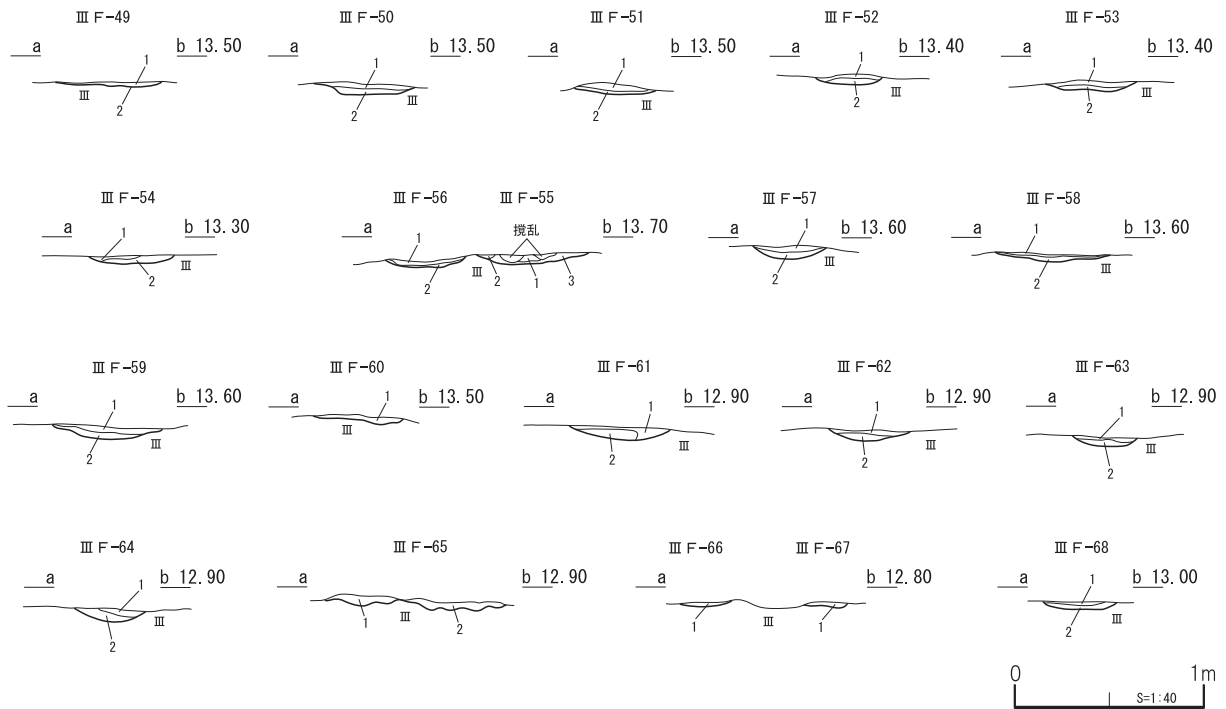


- III F-30**
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：にぶい赤褐色焼土(5YR5/4) 締りあり、粘りあり
 3層：灰白色粘土(5YR8/2) 灰層、締りあり、粘りあり 微細骨片含む
 4層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
 5層：3層+炭化物
 6層：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りあり、III S P-7 覆土
 ※ 現地
- III F-31**
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りなし、粘りあり 微細骨片・炭化材少量含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘性あり
 ※ 現地
- III F-32**
 1層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし 上面に黒褐色土(7.5YR2/2)微細骨片・炭化材を含む薄い層がある
 ※ 現地
- III F-33**
 1層：赤褐色焼土(5YR4/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
- III F-34**
 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、腐植土、炭化材(φ~5mm)・白色骨片(φ~2mm)多量混じる
 2層：明赤褐色土(5YR5/8) 締りなし、粘りなし、焼土、強く焼けている、炭化材(φ~5mm)・白色骨片(φ~2mm)多量混じる
- III F-35**
 1層：黒褐色~明褐色土(10YR2/2~7.5YR5/6) 締りなし、粘りあり、焼土、黒斑あり、炭化材・白色骨片(φ~5mm)多量混じる
- III F-36**
 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、腐植土、炭化材(φ~3mm)・白色骨片(φ~2mm)多量混じる
 2層：明赤褐色土(5YR5/8) 締りなし、粘りなし、焼土、強く焼けている、炭化材・骨片(φ~3mm)多量混じる

- III F-37**
 1層：明褐色~黒褐色土(7.5Y5/6~10YR3/2) 締りなし、粘りあり、焼土、黒斑あり、微細な炭化物・骨片(φ~5mm)多量に混じる
- III F-38**
 1層：黒褐色土(5YR2/1) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細焼骨片含む
 2層：褐色粘土(7.5YR5/2) 締りあり、粘りあり、灰層、炭化材を多く含む、微細焼骨片含む
 3層：明褐色粘土(7.5YR7/2) 締りあり、粘りあり、灰層、2層と比べて炭化材少ない、微細焼骨片含む
 4層：明褐色焼土(7.5YR5/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
 炉の可能性はあるが、柱穴が組まない
- III F-39**
 1層：灰褐色粘土(5YR4/2) 締りなし、粘りあり、灰層、炭化材・微細骨片多量に含む
 2層：灰白色粘土(5YR8/2) 締りあり、粘りあり 灰層、微細骨片含む
 3層：橙色粘土(5YR6/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
- III F-40**
 1層：灰白色粘土(5YR8/2) 締りあり、粘りあり
 2層：暗赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 表面に炭化材・微細骨片あり 現地
- III F-41**
 1層：明褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
- III F-42**
 1層：灰白色粘土(5YR8/2) 締りあり、粘りあり、微細骨片含む
 2層：赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
- III F-43**
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 炭化材含む
 2層：赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘性なし
 ※ 現地

- III F-44**
 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、III層土主体、炭化物・骨片(φ~3mm)多量に混じる
 2層：明赤褐色土(5YR5/8) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、炭化物・骨片(φ~3mm)多量に混じる
- III F-45**
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり 微細骨片・炭化材含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘性あり
 ※ 現地
- III F-46**
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：灰褐色粘土(5YR4/2) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 3層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りあり
 ※ 調査区壁面の観察より、焼土はII層火山灰降下よりやや前に形成されている 現地
- III F-47**
 1層：黒褐色土(7.5YR3/1) 締りなし、粘りあり、III層土主体、微細な炭化材・骨片(φ~2mm)多量に混じる
 2層：明赤褐色土(5YR5/8) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、微細な炭化材・骨片(φ~2mm)多量に混じる
- III F-48**
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 炭化材・微細骨片含む
 2層：にぶい赤褐色焼土(5YR5/4) 締りあり、粘りあり
 3層：灰白色粘土(5YR8/2) 灰層、締りあり、粘りあり
 4層：橙色焼土(5YR6/8) 締りあり、粘りあり

図V-1-64 III F-30~48断面図



III F-49
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片・カワシンジュガイ含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/8) ごく薄くある
 ※ 現地

III F-50
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-51
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/8) ごく薄くある
 ※ 現地

III F-52
 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、III層土に灰・炭化材が混入する、大きめの骨片やカワシンジュガイが混在する
 2層：明赤褐色土(5YR5/6) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、骨片(φ~3mm)が少量混じる

III F-53
 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、III層土に灰・焼土が混入する、微細な炭化物・骨片(φ~2mm)が多量に混じる
 2層：明褐色土(7.5YR5/6) 締りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている

III F-54
 1層：黒褐色土(10YR2/2) 締りなし、粘りあり、III層土に灰・焼土が斑状に混在する、微細な炭化材・骨片(φ~3mm)が多量に混じる
 2層：明赤褐色土(5YR5/8) 締りなし、粘りなし、焼土、強く焼けている、骨片(φ~3mm)が少量混じる

III F-55
 1層：極暗褐色土(7.5YR2/3) 締りなし、粘りあり、炭化材(~5%)・微細骨片(~1%)含む
 2層：にぶい橙粘土 灰層、締りあり、粘りあり
 3層：赤褐色焼土(5YR4/6) 締りあり、粘りあり
 ※ 現地
 表面に炭化材・微細骨片あり

III F-56
 1層：極暗褐色土(7.5YR2/3) 締りなし、粘りあり、炭化材(~5%)・微細骨片(~1%)含む
 2層：赤褐色焼土(5YR4/6) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
 表面に炭化材・微細骨片あり

III F-57
 1層：黒褐色土(5YR2/1) 締りあり、粘りあり、炭化材(~1%)・微細骨片(~1%)含む
 2層：赤褐色焼土(5YR4/6) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
 表面に炭化材・微細骨片あり

III F-58
 1層：黒褐色土(5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材(~5%)・微細骨片(~1%)含む
 2層：赤褐色焼土(5YR4/6) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
 表面に炭化材・微細骨片・カワシンジュガイ

III F-59
 1層：黒褐色土(5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材(~5%)・微細骨片(~1%)含む
 2層：赤褐色焼土(5YR4/8) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地
 表面に炭化材・微細骨片あり

III F-60
 1層：黒褐色土(5YR2/1) 締りあり、粘りあり、赤褐色焼土(5YR4/8)ブロック・炭化材含む
 ※ 廃棄
 表面に炭化材・微細骨片あり

III F-61
 1層：黒褐色土(10YR3/2) 締りなし、粘りあり、III層土に焼土が斑状に混入する 骨片(φ~2mm)が少量混じる
 2層：黄褐色土(10YR5/6) 締りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている

III F-62
 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、III層土に焼土が斑状に混入する 炭化材(φ~10mm)・骨片(φ~2mm)が多量に混入する
 2層：明褐色土(7.5YR5/6) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-63
 1層：黒褐色土(10YR3/2) 締りなし、粘りあり、III層土 骨片(φ~5mm)多量に混じる、炭化材(φ~5mm)が少量混じる
 2層：褐色土(10YR4/6) 締りなし、粘りあり、焼土、骨片(φ~3mm)が少量混じる

III F-64
 1層：黒褐色土(10YR3/2) 締りなし、粘りあり、III層土に焼土が斑状に混じる、炭化材(φ~3mm)が少量混じる
 2層：褐色土(10YR4/6) 締りなし、粘りあり、焼土、骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-65
 1層：褐色焼土(7.5YR4/6) 締りあり、粘りあり
 2層：暗褐色焼土(7.5YR3/4) 締りあり、粘りあり
 ※ 上面に炭化材・微細骨片を微量含む薄い層がある
 III層を1回下げた所から検出
 2つの焼土であった可能性がある
 現地

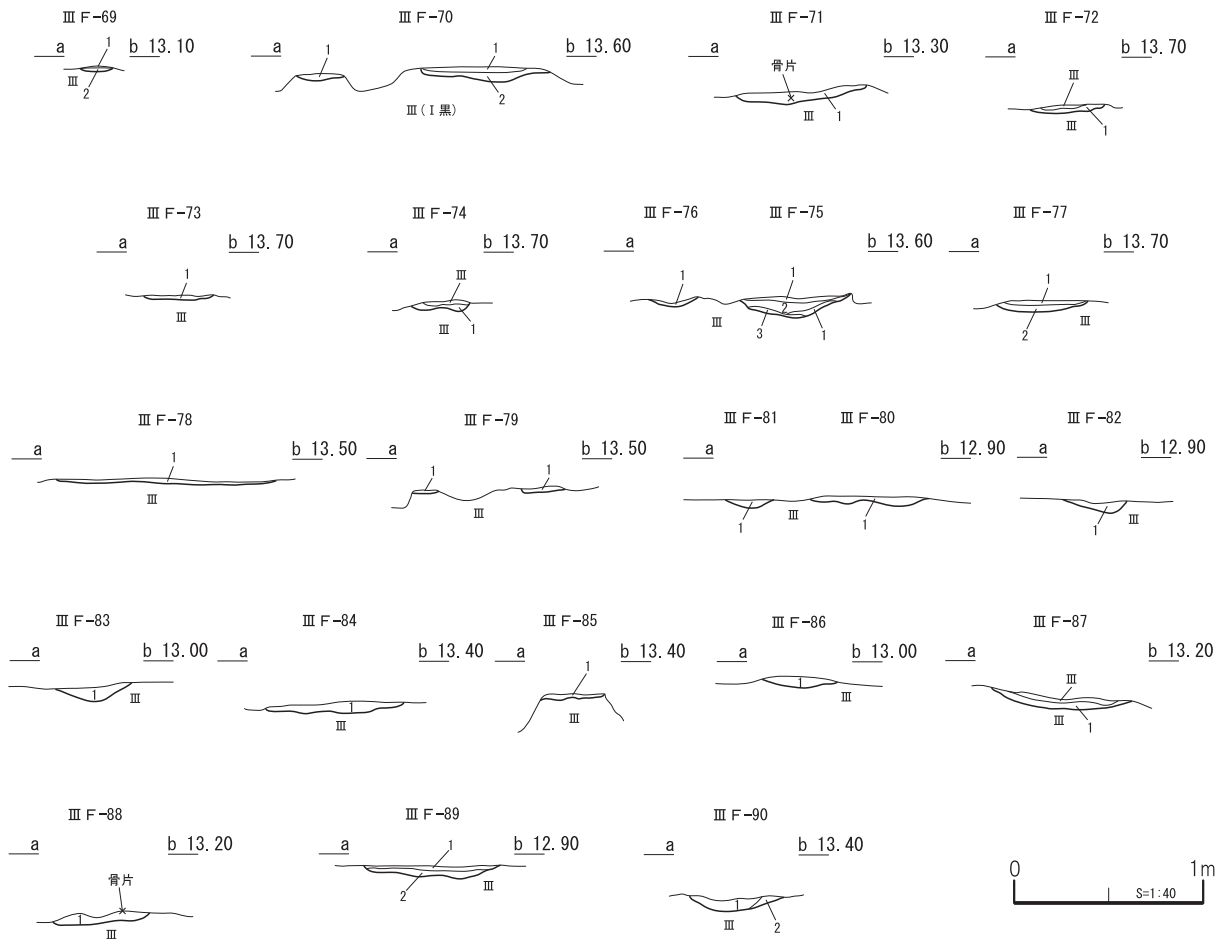
III F-66
 1層：暗赤褐色焼土(5YR3/6) 締りあり、粘りあり

III F-67
 1層：極暗赤褐色焼土(5YR2/4) 締りあり、粘りあり
 ※ III層を1回下げた状況で検出
 現地

III F-68
 1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、炭化材(φ~5%)・微細骨片含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
 ※ 現地

図V-1-65 III F-49~68断面図

梅川4遺跡(3)



III F-69

1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材(φ~1%)・微細骨片微量含む
2層：赤褐色焼土(5YR4/6) 縮りあり、粘りなし
※ 現地

III F-70

1層：暗赤褐色土(5YR3/3) 縮りなし、粘りあり、微細骨片1%混じる
2層：橙褐色土(5YR6/8) 縮りなし、粘りなし

III F-71

1層：明褐色土(7.5YR5/7) 縮りなし、粘りあり、微細骨片微量に混じる

III F-72

1層：明赤褐色土(5YR5/6) 縮りあり、粘りあり、微細骨片5%混じる

III F-73

1層：黒褐色土(10YR3/1) 基調+にぶい褐色土(7.5YR5/4)20%斑状に混じる、縮りなし、粘りなし、微細骨片1%混じる

III F-74

1層：明赤褐色土(5YR5/6) 縮りあり、粘りあり、微細骨片3%混じる

III F-75

1層：浅黄橙灰土(7.5YR8/3) 縮りあり、粘りあり
2層：明褐色土(7.5YR5/6) 縮りあり、粘りあり、微細焼骨片1~3%混じる
3層：黒色土(10YR2/1) 縮りあり、粘りあり

III F-76

1層：黒褐色土(10YR3/1)50%+黄褐色土(10YR5/8)50%が斑状に混じる、縮りあり、粘りあり、微細骨片1~3%混じる

III F-77

1層：黒褐色土(10YR3/1) I 黒基調+橙褐色土(7.5YR6/8)20%不規則斑状に混じる、縮りあり、粘りあり
2層：橙褐色土(7.5YR6/8) 黒褐色土わずかに混じる、縮りあり、粘りあり、微細焼骨片1~3%混じる

III F-78

1層：黒褐色土(10YR3/1) I 黒基調+橙褐色土(7.5YR6/6)40%斑状に混じる、縮りなし、粘りなし、焼骨片1~3%混じる(大小様々不規則)、炭5%混じる

III F-79

1層：明褐色土(7.5YR5/8) 縮りなし、粘りなし、III層に60%斑状に混ざる、炭がわずかに混じる

III F-80

1層：黄褐色土(10YR5/6) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、黒斑あり、炭化材(φ~5mm)・骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-81

1層：褐色土(10YR4/4) 縮りなし、粘りあり、焼土、弱く焼けている、炭化材・骨片が微量に混じる

III F-82

1層：黄褐色土(10YR5/8) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、炭化材(φ~5mm)・骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-83

1層：黄褐色土(10YR5/8) 縮りなし、粘りなし、焼土、やや強く焼けている、黒斑あり、炭化材(φ~10mm)・白色骨片(φ~5mm)が少量混じる

III F-84

1層：黒褐色土(5YR2/1) III層基調+橙褐色土(5YR6/6)40%斑状に混じる、縮りなし、粘りなし、微細焼骨わずかに(1%未満)混じる、炭2%混じる

III F-85

1層：明赤褐色土(5YR5/8) 縮りなし、粘りなし、炭微量(1%未満)混じる

III F-86

1層：黄褐色土(10YR5/6) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、炭化材(φ~3mm)・骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-87

1層：橙褐色土(5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、微細骨片1~3%混じる

III F-88

1層：明赤褐色土(5YR5/8) 縮りあり、粘りあり、微細骨片わずかに(1%未満)混じる

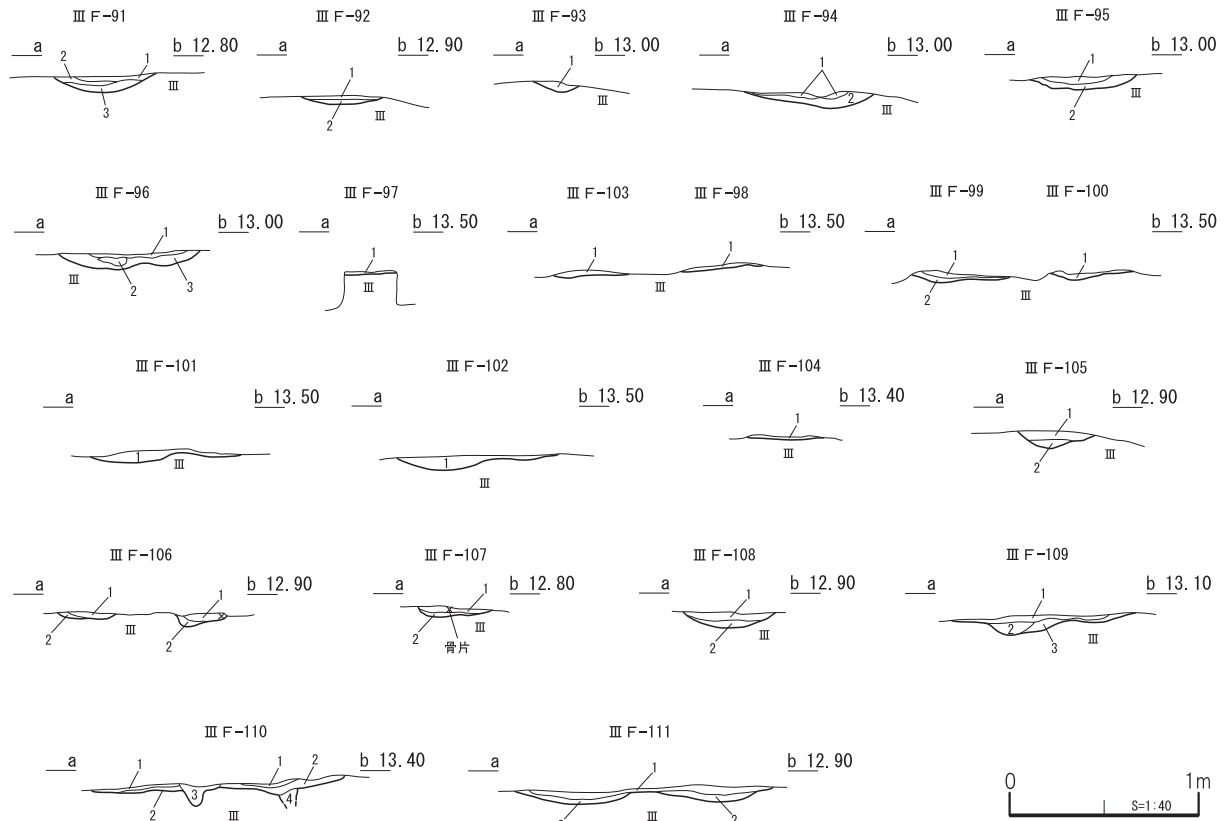
III F-89

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 縮りなし、粘りあり、骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 縮りなし、粘りあり、焼土

III F-90

1層：橙褐色土(5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、微細焼骨片わずかに(1%未満)混入
2層：浅黄橙灰土(7.5YR8/4) 縮りなし、粘りなし、微細焼骨片20%混入

図V-1-66 III F-69~90断面図



III F-91

- 1層：黒褐色土(10YR2/2) 締りなし、粘りあり、汚れた灰、炭化材(φ~3mm)・白色骨片(φ~2mm)に富む
- 2層：灰白色土(10YR8/2) 締りなし、粘りあり、灰、1とおなじ炭化材・骨片がびっしりと混入する
- 3層：黄褐色土(10YR5/8) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、骨片(φ~2mm)が微量に混じる

III F-92

- 1層：黒褐色土(10YR2/2) 締りなし、粘りあり、III層土に焼土が斑状に分布する、白色骨片(φ~2mm)が多量に混じる
- 2層：褐色土(10YR4/6) 締りなし、粘りなし、弱い焼土、III層土の黒斑あり、骨片(φ~2mm)が微量に混じる

III F-93

- 1層：褐色土(10YR4/4) 締りなし、粘りなし、焼土、弱く焼けている、黒斑あり、炭化材(φ~10mm)を上部に伴う、骨片(φ~2mm)が微量に混じる

III F-94

- 1層：黒褐色土(10YR2/3) 締りなし、粘りあり、汚れた灰、ねっとりしている、炭化材(φ~5mm)・骨片(φ~2mm)が多量に混じる
- 2層：黄褐色土(10YR5/8) 締りなし、粘りあり、焼土、強く焼けている、黒斑あり、骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-95

- 1層：黒色土(7.5Y1.7/1) 締りあり、粘りあり、炭・骨・灰・Ta-cを少量含む
- 2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りあり、粘りあり、焼土

III F-96

- 1層：黒色土(7.5Y2/1) 締りあり、粘りあり、炭・骨・灰層
- 2層：灰褐色土(7.5YR4/2) 締りあり、粘りあり、白い灰層、粘土のような粘り
- 3層：褐色土(7.5YR4/3) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-97

- 1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、炭・骨片微量に混じる

III F-98

- 1層：にぶい赤褐色土(5YR5/3) 締りなし、粘りなし

III F-103

- 1層：III層黒褐色土(7.5YR3/1)+橙色土(7.5YR6/8) 40%斑状に混じる、締りあり、粘りなし、微細骨片(3%)混じる

III F-99

- 1層：III層(7.5YR3/1)+橙色土(7.5YR6/8) 30%斑状に混じる、締りなし、粘りなし
- 2層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混入

III F-100

- 1層：III層(7.5YR3/1)+橙色土(7.5YR6/8) 50%斑状に混じる、締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混入

III F-101

- 1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、焼骨片所々に微量混じる

III F-102

- 1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混入

III F-104

- 1層：III層黒褐色土(7.5YR3/1)+橙色土(7.5YR6/8) 30%斑状に混じる、締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混じる、炭微量に混じる

III F-105

- 1層：黒褐色土(10YR3/1) 締りなし、粘りあり、III層土に灰、炭化材(φ~5mm)・白色骨片(φ~2mm)が多量に混じる
- 2層：黄褐色土(10YR5/6) 締りなし、粘りなし、焼土、やや強く焼けている、炭化材(φ~2mm)が微量に混じる

III F-106

- 1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、骨を含む
- 2層：褐色土(7.5YR4/3) 締りあり、粘りあり、焼土

III F-107

- 1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、骨を含む
- 2層：褐色土(7.5YR4/3) 締りあり、粘りあり、焼土

III F-108

- 1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、骨を含む
- 2層：暗褐色土(7.5YR4/4) 締りあり、粘りあり、焼土

III F-109

- 1層：黒褐色土(5YR2/1) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
- 2層：明褐色粘土(5YR7/1) 締りあり、粘りあり、微細骨片含む
- 3層：橙色焼土(5YR6/6) 締りあり、粘りなし

III F-110

- 1層：黒色土(5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
- 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
- 3層：1・2層混じる 締りあり、粘りあり、III S P-454
- 4層：黒色土(5YR1.7/1) 締りあり、粘りなし、III S P-456

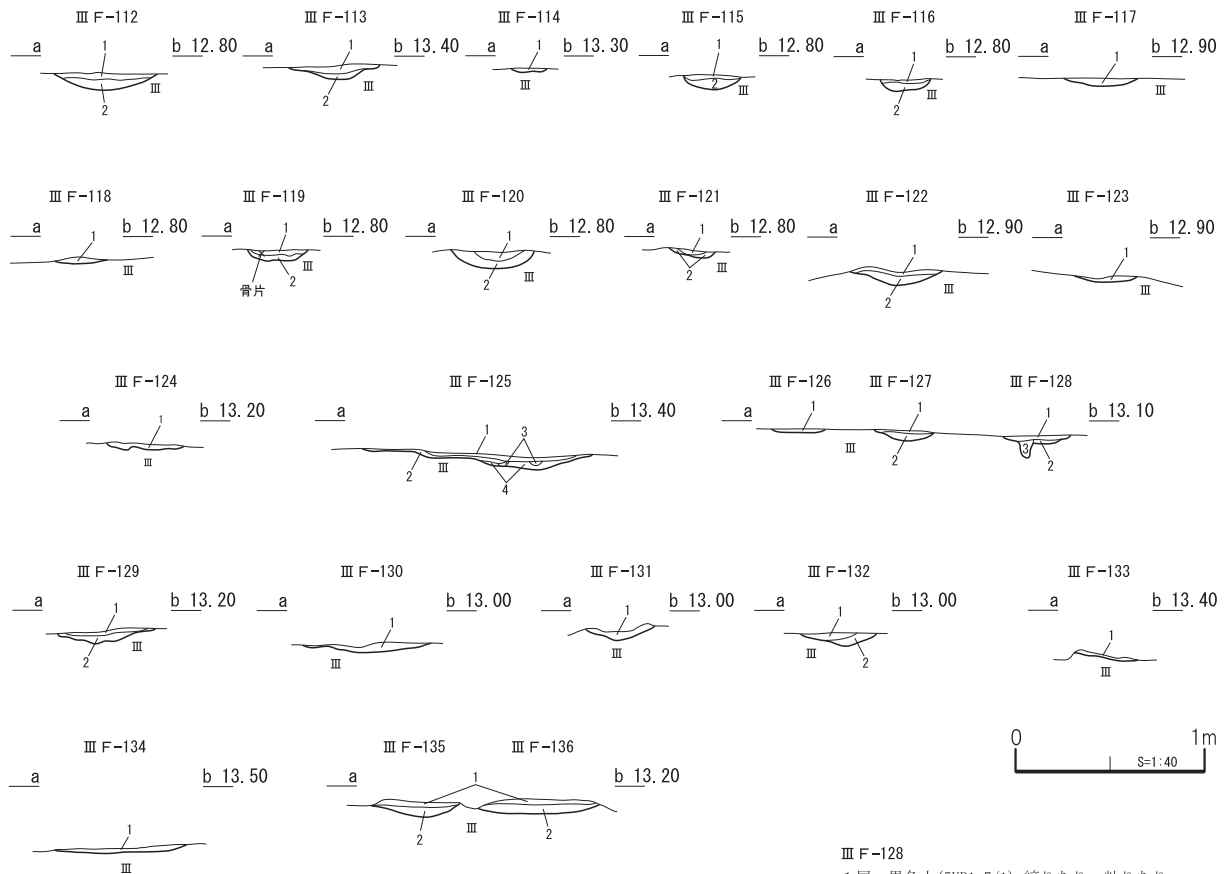
※ 現地

III F-111

- 1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、骨を含む
- 2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、焼土

図V-1-67 III F-91~111断面図

梅川4遺跡(3)



III F-112
 1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、骨層
 2層：褐色土(7.5YR4/3) 縮りなし、粘りあり、焼土

III F-113
 1層：にぶい赤褐色粘土(5YR4/3) 縮りあり、粘りあり、灰層
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-114
 1層：橙色焼土(5YR6/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-115
 1層：黒色土(10YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、骨と炭層
 2層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りあり、粘りあり、焼土

III F-116
 1層：黒色土(10YR2/1) 縮りあり、粘りあり、骨と炭層
 2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、焼土

III F-117
 1層：黄褐色土(10YR5/6) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、黒斑あり、炭化材(φ~5mm)・骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-118
 1層：にぶい黄褐色土(10YR5/4) 縮りなし、粘りあり、焼土、弱く焼けている、黒斑あり、炭化材(φ~3mm)が微量に混じる

III F-119
 1層：黒色土(10YR2/1) 縮りあり、粘りあり、骨と炭層
 2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 縮りなし、粘りあり、焼土

III F-120
 1層：黒色土(10YR2/1) 縮りあり、粘りあり、骨と炭層
 2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 縮りなし、粘りあり、焼土

III F-121
 1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りなし、粘りあり、骨を含む
 2層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りなし、粘りなし、焼土

III F-122
 1層：黒褐色土(10YR3/2) 縮りなし、粘りあり、III層土に炭化材(φ~10mm)・骨片(φ~2mm)が混じる
 2層：黄褐色土(10YR5/8) 縮りなし、粘りあり、焼土、やや強く焼けている、黒斑あり、骨片(φ~2mm)が微量に混じる

III F-123
 1層：にぶい黄褐色土(10YR5/4) 縮りなし、粘りあり、焼土、弱く焼けている、黒斑あり、炭化材(φ~3mm)・骨片(φ~2mm)が少量混じる

III F-124
 1層：橙色土(5YR6/8)+黒褐色土(7.5YR3/1) 40%斑状に混じる、縮りあり、粘りあり、微細骨片5%混じる、炭わずかに混じる

III F-125
 1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：橙色焼土(5YR6/6) 縮りあり、粘りなし
 3層：淡橙色粘土(5YR8/3) 縮りあり、粘りあり
 4層：橙色焼土(5YR6/8) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地 III B-3を伴う

III F-126
 1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りあり
 ※ 現地

III F-127
 1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片微量含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-128
 1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片微量含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし
 3層：1・2層の土が入る、縮りあり、粘りあり
 ※ 現地

III F-129
 1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：橙色焼土(5YR6/8) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-130
 1層：橙色焼土(5YR6/8) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-131
 1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

III F-132
 1層：黒褐色土(5YR2/2) 縮りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
 2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし
 ※ 現地

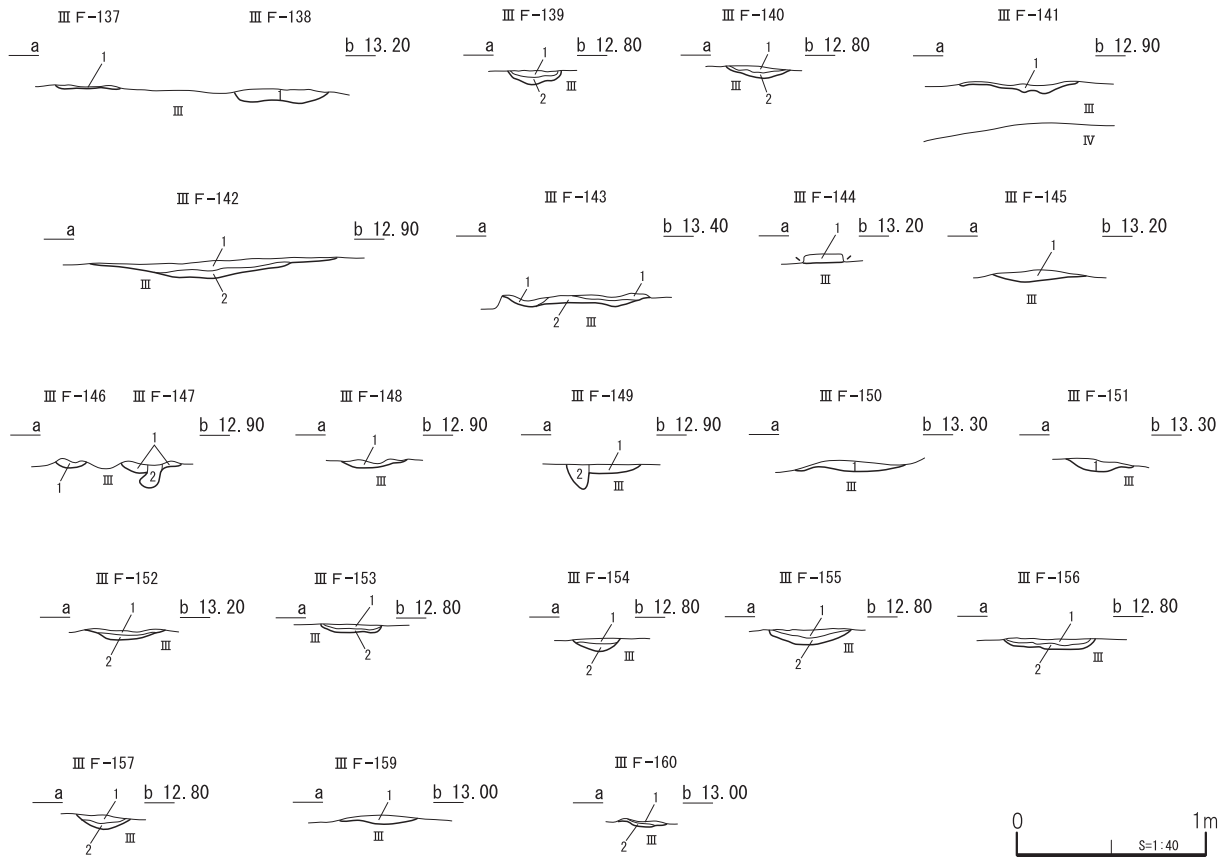
III F-133
 1層：橙色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、焼骨わずかに混じる

III F-134
 1層：III層(7.5YR3/1)+橙色土(7.5YR6/8) 40%斑状に混じる、縮りあり、粘りあり

III F-135
 1層：褐灰色土(7.5YR4/1) 縮りなし、粘りなし、微細骨片・炭ともにわずかに(1%未満)混じる
 2層：橙色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、微細骨片・炭ともにわずかに(1%未満)混じる

III F-136
 1層：褐灰色土(7.5YR4/1) 縮りなし、粘りなし、微細骨片・炭ともにわずかに(1%未満)混じる
 2層：橙色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、微細骨片・炭ともにわずかに(1%未満)混じる

図V-1-68 III F-112~136断面図



III F-137

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、炭10%混じる

III F-138

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混じる

III F-139

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-140

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、骨層
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-141

1層：橙色焼土(5YR6/6) 締りあり、粘りなし
※ III F-142の1層を除去したところ独立した焼土を発見した為III F-141とした。
III F-141の上にIII F-142の1層が乗る。

III F-142

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-143

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%)混じる
2層：淡橙色土(5YR8/3) 締りなし、粘りなし

III F-144

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混じる

III F-145

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、淡橙色灰(5YR8/3) 5%混じる、炭7%混じる、微細骨片わずかに(1%未満)混じる

III F-146

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
※ 現地

III F-147

1層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし
2層：1層が混じって入る、締りなし、粘りなし
※ 現地

III F-148

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
※ 現地

III F-149

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りあり
表面に炭化材・微細骨片あり
2層：黒色土(5YR1.7/1) 締りあり、粘りなし
※ 現地

III F-150

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、微細骨片わずかに(1%未満)混じる

III F-151

1層：黒色土(5YR1.7/1)と明赤褐色焼土(5YR6/8)がブロック状に混じる、締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
※ 廃棄

III F-152

1層：黒色土(5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
※ 現地

III F-153

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、骨
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-154

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、骨
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-155

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、骨
2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-156

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、骨
2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-157

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、骨
2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 締りなし、粘りあり、焼土

III F-159

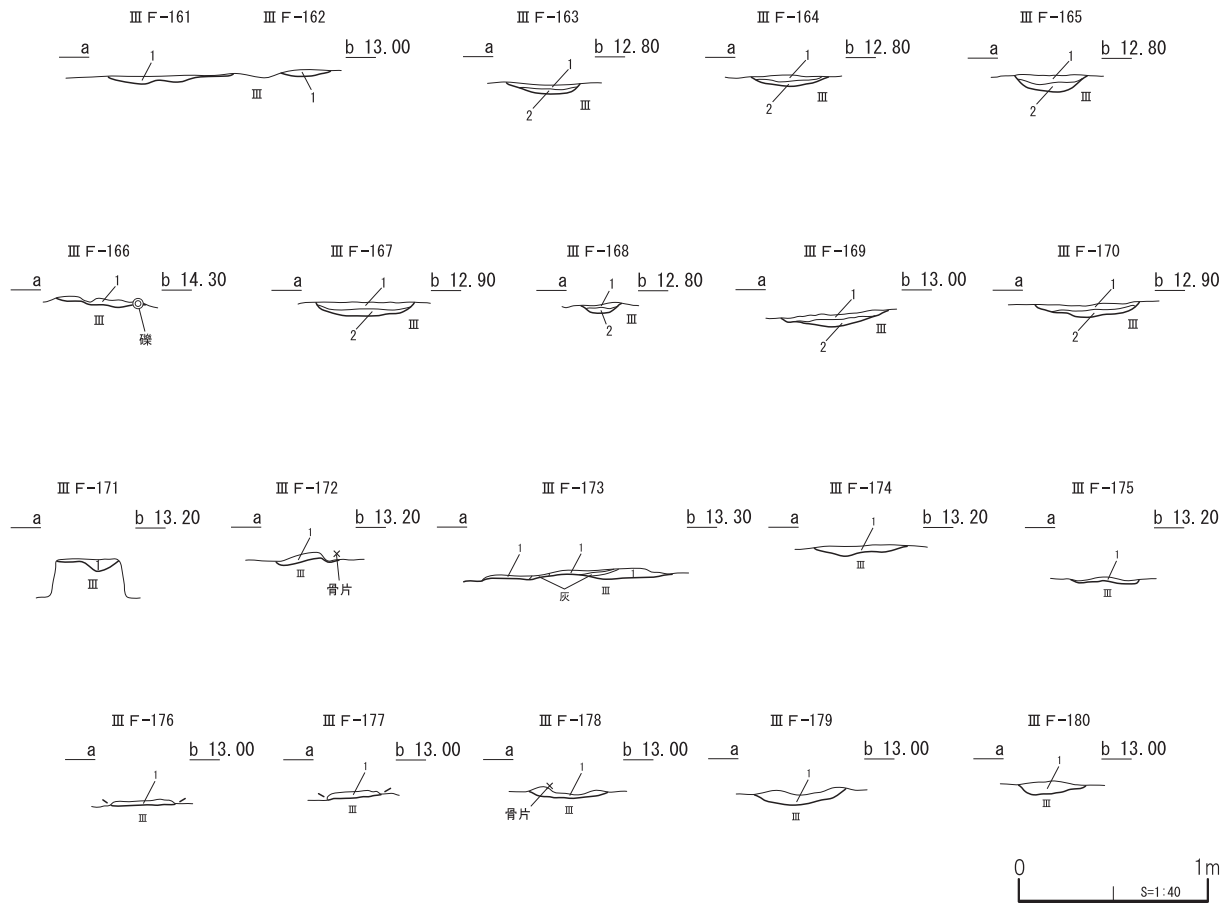
1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
表面に炭化材・微細骨片あり
※ 現地

III F-160

1層：黒色土(5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、炭化材・微細骨片含む
2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
※ 現地

図V-1-69 III F-137~160断面図

梅川4遺跡(3)



III F-161

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし、
表面に炭化材・微細骨片あり

※ 現地

III F-162

1層：橙色焼土(5YR6/8) 縮りあり、粘りなし、
表面に炭化材・微細骨片あり

※ 現地

III F-163

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りなし、粘りあり、
焼土

III F-164

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りなし、粘りあり、
骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りなし、粘りあり、
焼土

III F-165

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-166

1層：暗赤褐色焼土(5YR2/4) 縮りあり、
粘りあり

※ III層を1回下げた状態で検出
現地

III F-167

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-168

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りなし、粘りあり、
焼土

III F-169

1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 縮りなし、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-170

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-171

1層：橙色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片1%混じる

III F-172

1層：明褐色土(7.5YR5/8) 縮りなし、粘りなし、
焼骨片わずか(1%未満)混じる、炭混じる

III F-173

1層：III層黒褐色土(7.5YR3/1)基調+明赤褐色土
(5YR5/8)30%斑状に混じる、縮りなし、粘りなし
灰層：灰白色(7.5YR8/2) 縮りなし、粘りなし

III F-174

1層：褐灰色土(10YR4/1) 基調+橙色土(7.5YR7/6)
40%斑状に混じる、縮りあり、粘りあり、
微細骨片3%混じる、炭5%混じる

III F-175

1層：橙色土(7.5YR6/6) 縮りなし、粘りなし、
微細焼骨10%混じる

III F-176

1層：黄褐色土(7.5YR7/8) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片わずか(1%未満)混じる

III F-177

1層：明褐色土(7.5YR5/6) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片わずか(1%未満)混じる、
炭3%混じる

III F-178

1層：橙色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片わずか(1%未満)混じる

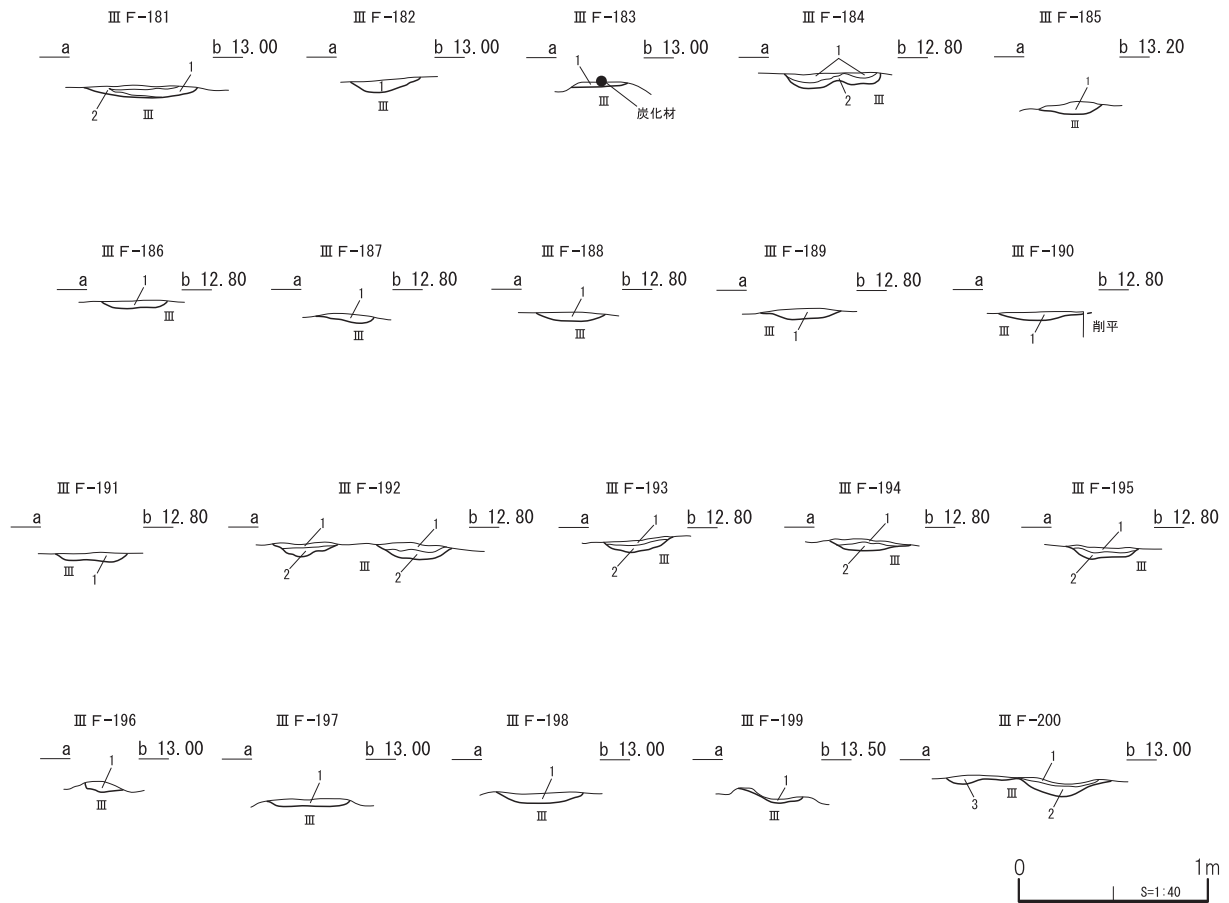
III F-179

1層：褐色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片1~3%混じる

III F-180

1層：褐色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片等視認出来ず

図V-1-70 III F-161~180断面図



III F-181

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、
微細骨片わずかに(1%未満)混じる、
炭もわずかに含む
2層：炭化物層

III F-182

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし

III F-183

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、
微細骨片視認出来ず

III F-184

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 締りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR4/4) 締りあり、粘りあり、
焼土

III F-185

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、
微細骨片わずかに(1%未満)混じる

III F-186

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、
粘りなし 表面に炭化材・微細骨片あり
※ 現地

III F-187

1層：赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし
表面に炭化材・微細骨片あり
※ 現地

III F-188

1層：赤褐色焼土(5YR4/6) 締りあり、粘りなし
表面に炭化材・微細骨片あり
※ 現地

III F-189

1層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし、
表面に炭化材・微細骨片あり
※ 現地

III F-190

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし、
表面に炭化材・微細骨片あり
※ 現地

III F-191

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 締りあり、粘りなし、
表面に炭化材・微細骨片あり
※ B調坑で切られる
現地

III F-192

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りなし、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR4/4) 締りあり、粘りあり、
焼土

III F-193

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りなし、粘りあり、
骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りあり、粘りあり、
焼土

III F-194

1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 締りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 締りなし、粘りあり、
焼土

III F-195

1層：黒色土(7.5YR2/1) 締りあり、粘りあり、
骨を含む
2層：褐色土(7.5YR4/4) 締りあり、粘りあり、
焼土

III F-196

1層：明褐色土(7.5YR5/6) 締りなし、粘りなし

III F-197

1層：橙色土(7.5YR6/8) 締りなし、粘りなし、
微細骨片1~3%混じる

III F-198

1層：橙色土(7.5YR6/6) 締りなし、粘りなし、
微細骨片1~3%混じる、炭7%混じる

III F-199

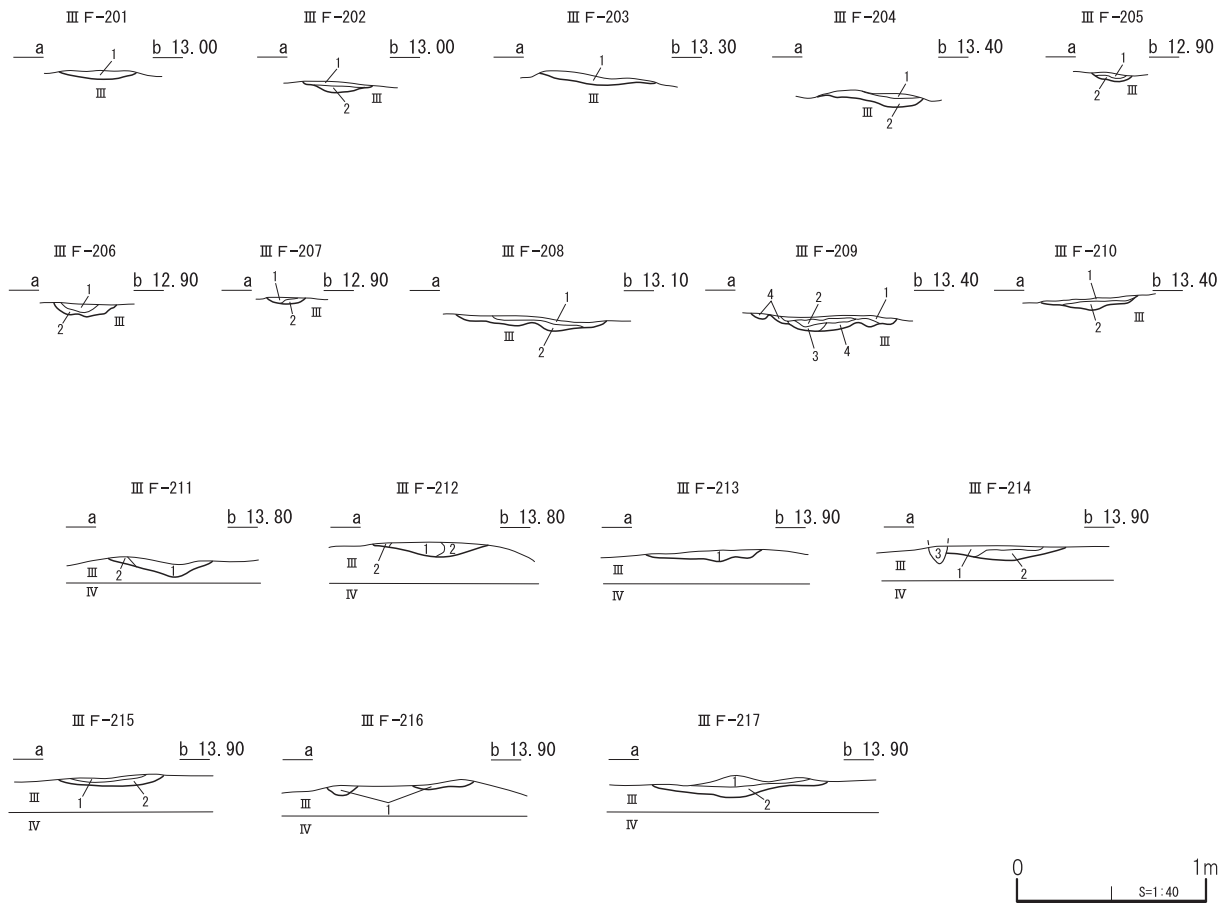
1層：明赤褐色土(5YR5/8)+淡橙灰色土(5YR8/3)
20%斑状に混じる、締りなし、粘りなし

III F-200

1層：黒褐色土(5YR2/1) 締りあり、粘りあり、
炭化材・微細骨片含む
2層：明赤褐色焼土(5YR5/8) 締りあり、粘りなし
3層：1・2層が斑状にある廃棄部分
※ 現地

図V-1-71 III F-181~200断面図

梅川4遺跡(3)



III F-201

1層：明赤褐色焼土(5YR4/6) 縮りあり、粘りなし、
表面に炭化材・微細骨片あり

※ 現地

III F-202

1層：黒色土(5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、
炭化材・微細骨片含む

1層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし

※ 現地

III F-203

1層：明褐色土(7.5YR5/8) 縮りなし、粘りなし、
炭微量に混じる

III F-204

1層：III層(7.5YR3/1)黒色土主体+橙色土(7.5YR6/8)
40%斑状に混じる、縮りあり、粘りあり、
微細骨片わずか(1%未満)混じる

2層：橙色土(7.5YR6/8) 縮りなし、粘りなし、
微細骨片わずかに(1%未満)混入

III F-205

1層：黒色土(7.5YR1.7/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む

2層：極暗褐色土(7.5YR2/3) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-206

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む

2層：暗褐色土(7.5YR3/4) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-207

1層：黒色土(7.5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む

2層：暗褐色土(7.5YR3/3) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-208

1層：黒褐色土(5YR2/1) 縮りあり、粘りあり、
炭化材・微細骨片含む

2層：明赤褐色焼土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし

※ 現地

III F-209

1層：灰黄褐色土(10YR4/2) 縮りなし、粘りあり、
汚れた灰、炭化材(φ~20mm)、白色骨片
(φ~2mm)多量に混入

2層：灰白色土(10YR7/1) 縮りなし、粘りあり、
灰、炭化材(φ~5mm)少量、骨片(φ~2mm)
多量に混入

3層：黒褐色土(10YR3/2) 縮りなし、粘りあり、
IIIに4層の焼土が斑状に混入 漸退

4層：明黄色土(7.5YR5/8) 縮りなし、粘りなし、
焼土、非常に強く焼けている 漸退

III F-210

1層：黒褐色土(7.5YR2/2) 縮りあり、粘りあり、
骨を含む

2層：褐色土(7.5YR4/4) 縮りあり、粘りあり、
焼土

III F-211

1層：明褐色土(7.5Y5/8) 縮りあり、粘りなし、
焼土、やや強く焼けている、微細な骨片
(φ~3mm)が混在する

2層：暗褐色土(10YR3/3) 縮りあり、粘りあり、
III層土が弱く被熱している、
炭化材が少量混じる

III F-212

1層：橙色土(7.5Y6/8) 縮りなし、粘りあり、
焼土、やや強く焼けている、微細な骨片
(φ~3mm)が混在する

2層：黒褐色土(10YR3/1) 縮りなし、粘りあり、
III層土に焼土が斑状に入る、炭化材・骨片
(φ~3mm)が多量に混じる

III F-213

1層：明褐色土(7.5Y5/8) 縮りなし、粘りなし、
焼土、強く焼けている、炭化材・骨片
(φ~3mm)が多量に混じる

III F-214

1層：黒褐色土(10Y3/2) 縮りなし、粘りあり、
III層土主体、焼土粒・微細な炭化材・骨片
(φ~2mm)が多量に混じる

2層：明褐色土(7.5YR5/6) 縮りなし、粘りなし、
焼土、やや強く焼けている 黒斑あり、微細
な炭化材・骨片(φ~3mm)が多量に混じる

3層：1と2の混合、柱は抜き取り痕か

III F-215

1層：黒褐色土(10YR3/2) 縮りなし、粘りあり、
III層土主体、焼土がブロック状に混在する、
微細な炭化材・骨片(φ~2mm)がびっしり混入する

2層：明褐色土(7.5YR5/8) 縮りあり、粘りなし、
焼土、強く焼けている 黒斑あり、炭化材
(φ~5mm)が少量混じる

III F-216

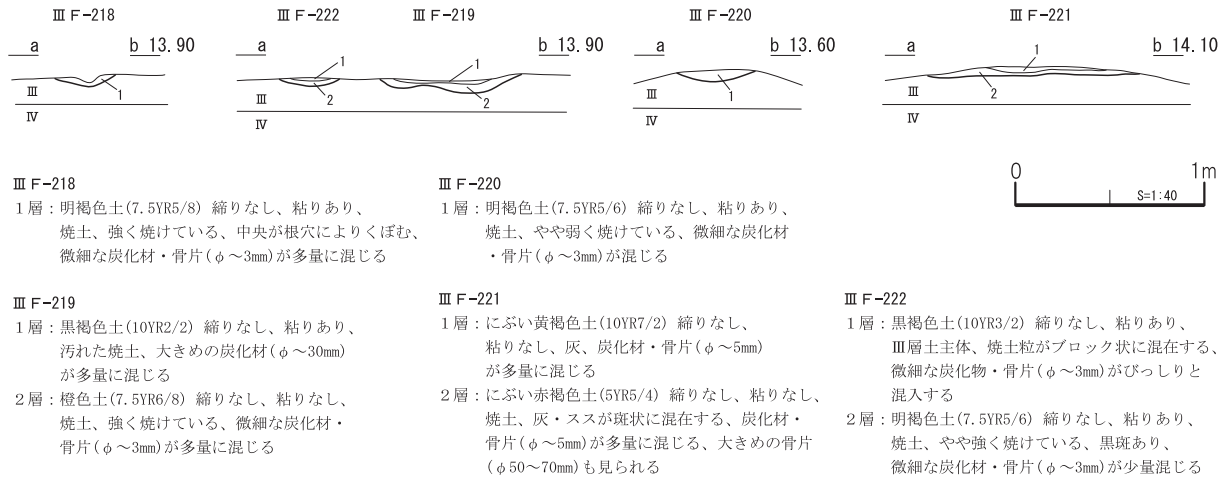
1層：明褐色土(7.5YR5/6) 縮りなし、粘りなし、
焼土、やや弱く焼けている、黒斑あり、炭化材
・骨片が少量混じる、もやっとしている、
廃棄の可能性がある

III F-217

1層：灰白色土(10YR7/1) 縮りなし、粘りあり、灰、
微細な炭化材・骨片(φ~5mm)が多量に混じる、
ねっとりしている

2層：明赤褐色土(5YR5/6) 縮りあり、粘りなし、焼土、
強く焼けている 黒斑あり、炭化材・骨片
(φ~5mm)が多量に混じる

図V-1-72 III F-201~217断面図



図V-1-73 III F-218~222断面図

状に並ぶが、住居跡の柱穴の配列と重複する。住居の建て替えや増築などにより炉を移転したか、あるいは複数の炉を持つ、より大型の住居跡が存在した可能性があるが、対応する柱穴は確認されなかった。弧状の焼土列は、杭穴が密集する付近に多い。前述の杭列とは必ずしも並行などの規則的な位置関係ではないが、非常に近接する。また、住居跡の焼土と比較して規模が小さく層厚が薄いものが多く、長期間煮炊きなどに使用した可能性は低い。これらのことから、やはり幣場の一部として儀礼などに使用されたと推測される。

時期は、検出層位がIII層上位(III層上面より0.01~0.03m下)であること、V群c類・VI群a類・VII群土器よりも上位で形成されている(出土分布の中心域は重なっていない)ことから、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。焼土同士では見られないが、住居跡や杭穴・道跡など他の遺構と重複する例があることから、複数次にわたって形成された可能性がある。ただし、杭穴群と同様に住居跡や道跡に近接して分布し、焼土の形成面がほぼ同一であることから、この集落が継続していた期間内で、数十年以上の時間幅はないと推測される。(芝田)

(4) 灰集中

ⅢA-1～5 (図V-1-74・75/表V-1-4/図版31)

灰集中(ⅢA)を5か所検出した。ⅢA-1～3は沢状地形の北東向き斜面(C地区)、ⅢA-4・5は南西向き斜面(B地区)にそれぞれ近接して分布する。いずれもⅢ層上位で検出された。下部に焼土を伴っておらず、灰のみが廃棄されている。個々の灰集中の規模・形状・特徴などは一覧表にまとめて記した(表V-1-4)。

ⅢA-1～3はすぐ近くに木根と考えられる攪乱があり、ⅢA-1・3は一部が壊されている。周辺に住居跡や杭穴、焼土などは検出されなかった。ⅢA-2・3の灰をサンプリングし、フローテーション法による水洗選別を行ったところ、シカ骨、魚骨、カワシンジュガイ殻皮、マイマイ、雑穀、炭化材などの微細遺物・動物遺存体が得られた(表V-1-9、VI章第5・6節)。

ⅢA-4・5は周辺より杭穴群(ⅢSP-327～352・548・549)、焼土(ⅢF-209)、カワシンジュガイ集中(ⅢK-12)が検出された。特にⅢF-209は上部に灰層を伴っており、関連する可能性がある。いずれもⅢ層土に灰が疎らに混合するもので、層厚は0.01m以下であった。

検出層位や周辺の遺構・遺物などから、1739年以前の近世アイヌ文化期の、いわゆる「灰送り場」と考えられる。(芝田)

(5) 骨集中

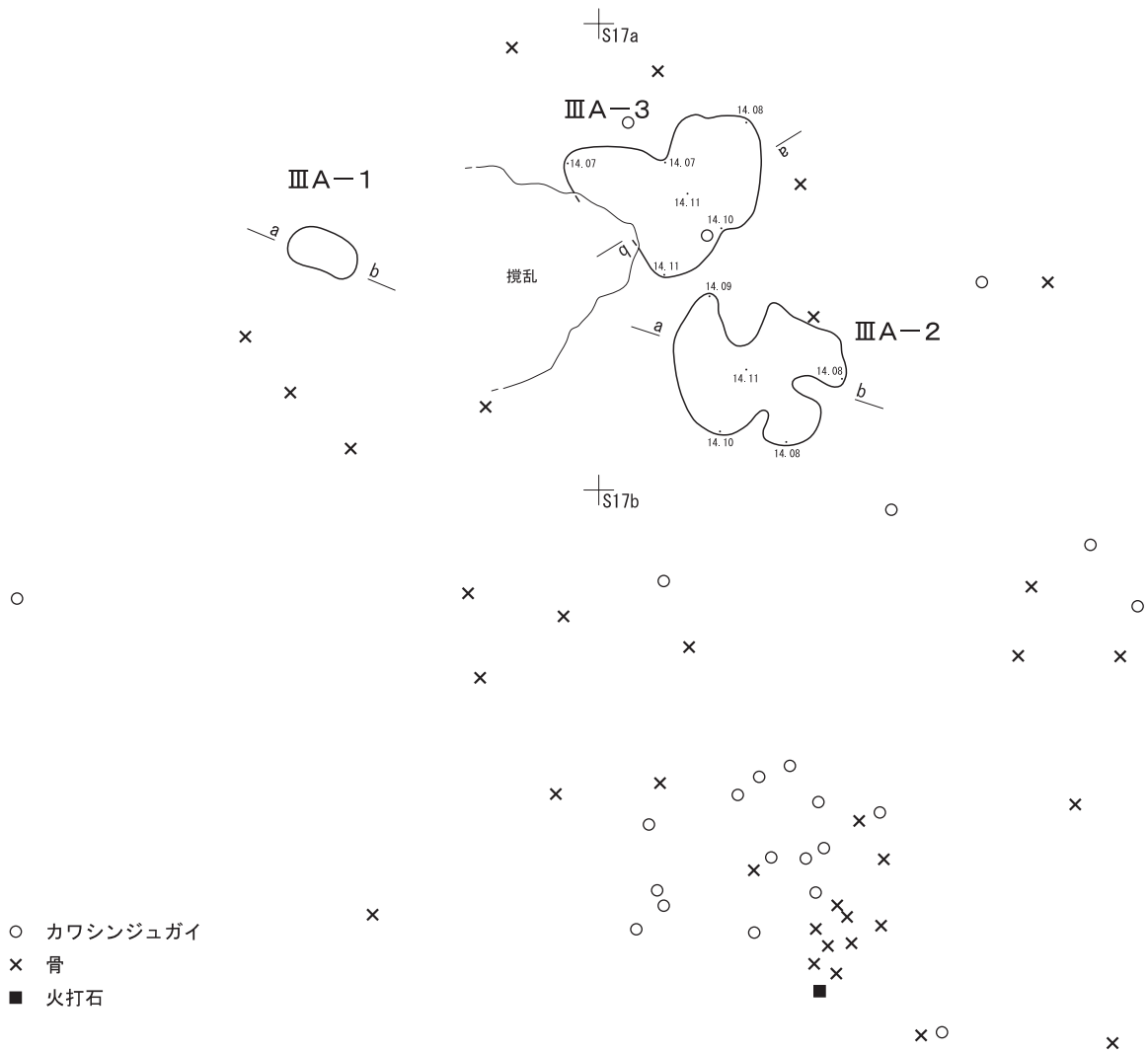
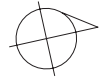
ⅢB-1～5 (図V-1-76～78/表V-1-5/図版31)

動物骨の集中域(ⅢB)を5か所検出した。北西-南東方向の沢状地形内の住居跡・杭穴・焼土の周辺からは動物骨が多く出土している。その中でも特に密集している部分を骨集中とした。いずれも焼土や灰集中と同じⅢ層上位で検出された。動物骨はすべてエゾシカの遺体である。個々の骨集中の規模・形状・特徴、骨の同定結果などは一覧表にまとめて記した(表V-1-5・10)。

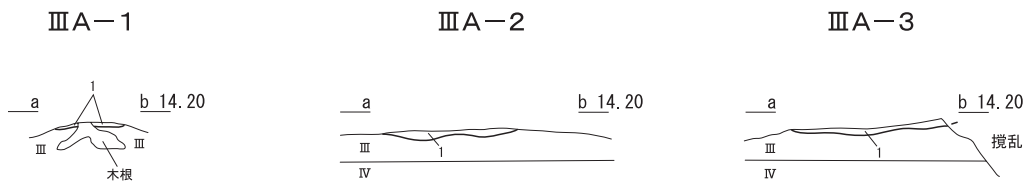
ⅢB-1は2.90×1.40mの比較的広い範囲に骨片がまとまるもので、ⅢF-39～41と重複する。焼土の灰層とほぼ同じ高さであることから、時期差はないと考えられる。骨片の残存状況は良好ではなく、部位は特定されなかった。ⅢB-2は0.74×0.24mとやや小規模な骨集中。微細な骨片が大半であるが、上腕骨が確認された。ⅢB-3はⅢF-125と重複しており、道跡の直下より検出された。0.32×0.22mとごく狭い範囲で、ⅢF-125と同一の遺構(ⅢF-125の一部)とすべきかもしれない。肩甲骨・上腕骨・橈骨が関節状態で確認された。ⅢB-4は1.28×1.17mの範囲にエゾシカの下顎骨や脛骨がまとまって出土したもの。周辺の包含層からも下顎骨を含む骨片が多量に出土している。これらは杭穴や焼土が列状に密集する区域(H・I30～33区)とほぼ重なっており、いわゆる「送り場」としての機能をもった空間であった可能性がある。ⅢB-5は2筋の道跡に挟まれ、ⅢF-93・94・105・106・117やⅢK-17と隣接する。骨片の残存状況は良好ではなく、部位は特定されなかった。周辺の包含層からは骨片よりもカワシンジュガイの殻皮が多く出土している。

検出層位や周辺の遺構・遺物などから、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(芝田)

ⅢA-1~3



- カワシンジュガイ
- × 骨
- 火打石



ⅢA-1
1層：黒褐色土(10YR3/2) 締りなし、粘りなし、焼けて灰褐色になる
白けた色 所々炭化物あり

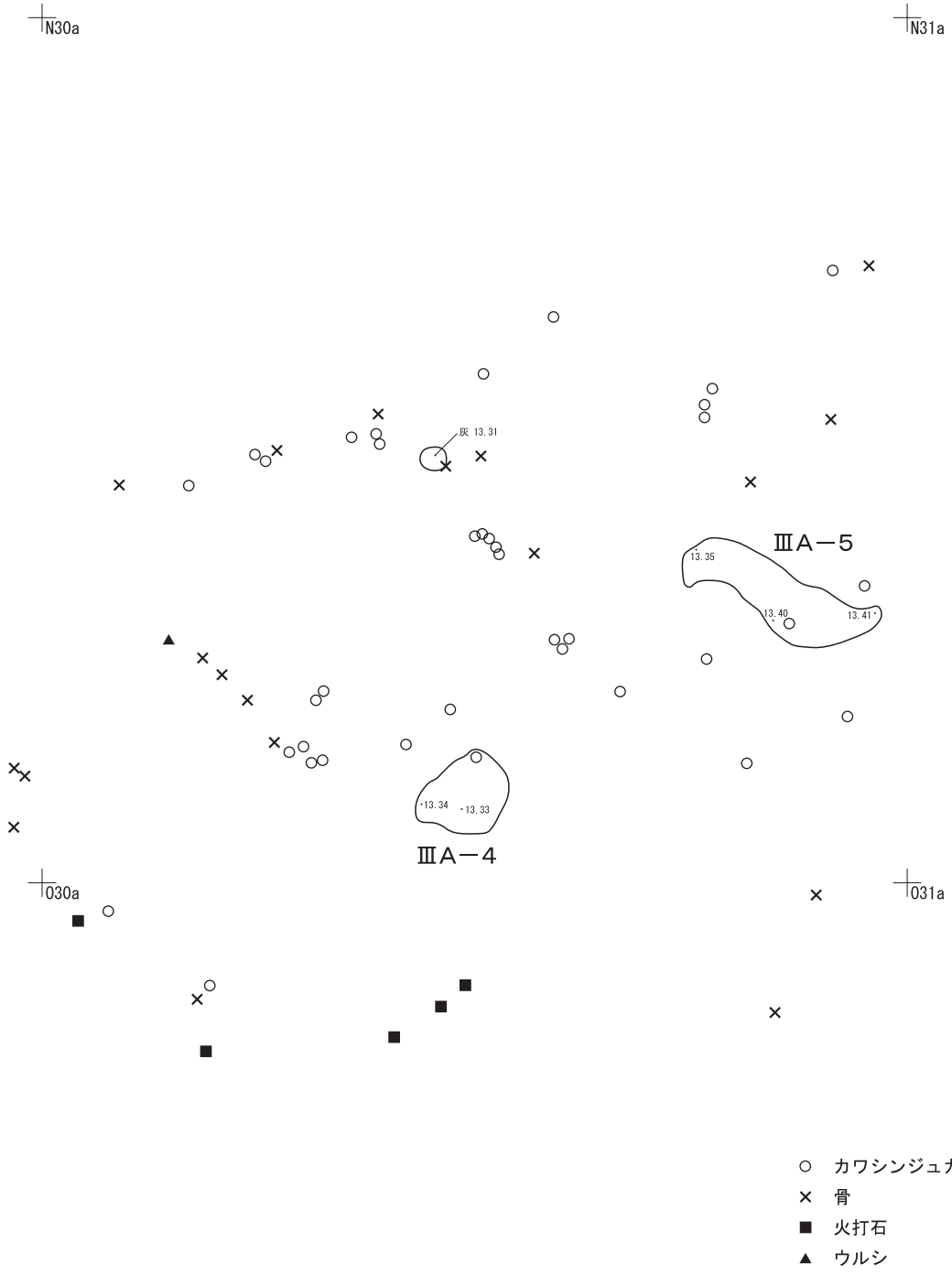
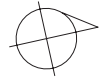
ⅢA-2
1層：にぶい褐色土(7.5YR5/4) 締りなし、粘りなし、灰・スス、
廃棄、微細な炭化材・骨片(φ~3mm)多量に混じる

ⅢA-3
1層：明褐色~褐灰色土(7.5YR7/1~5/1) 締りなし、粘りあり、灰・スス、
廃棄、微細な炭化材・骨片(φ~3mm)多量に混じる



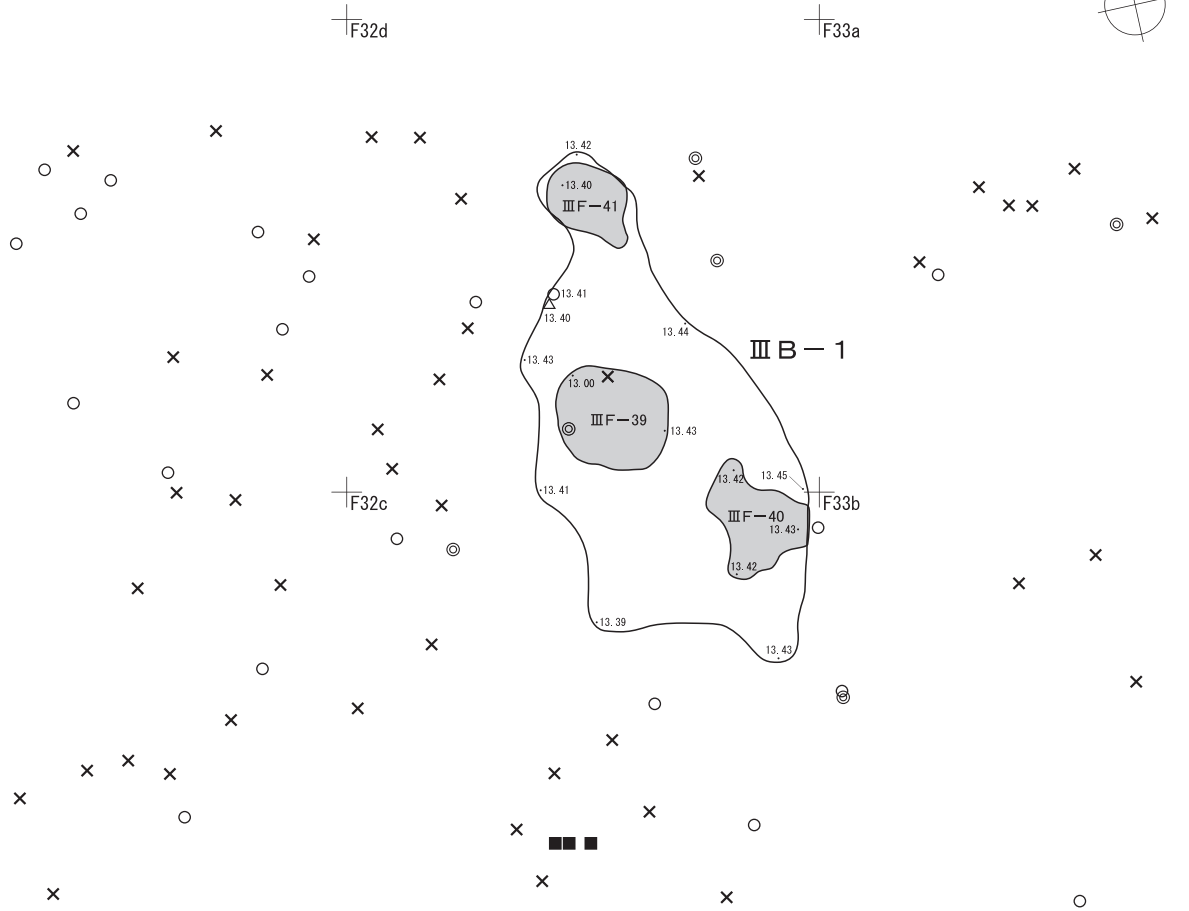
図V-1-74 ⅢA-1~3

ⅢA-4・5

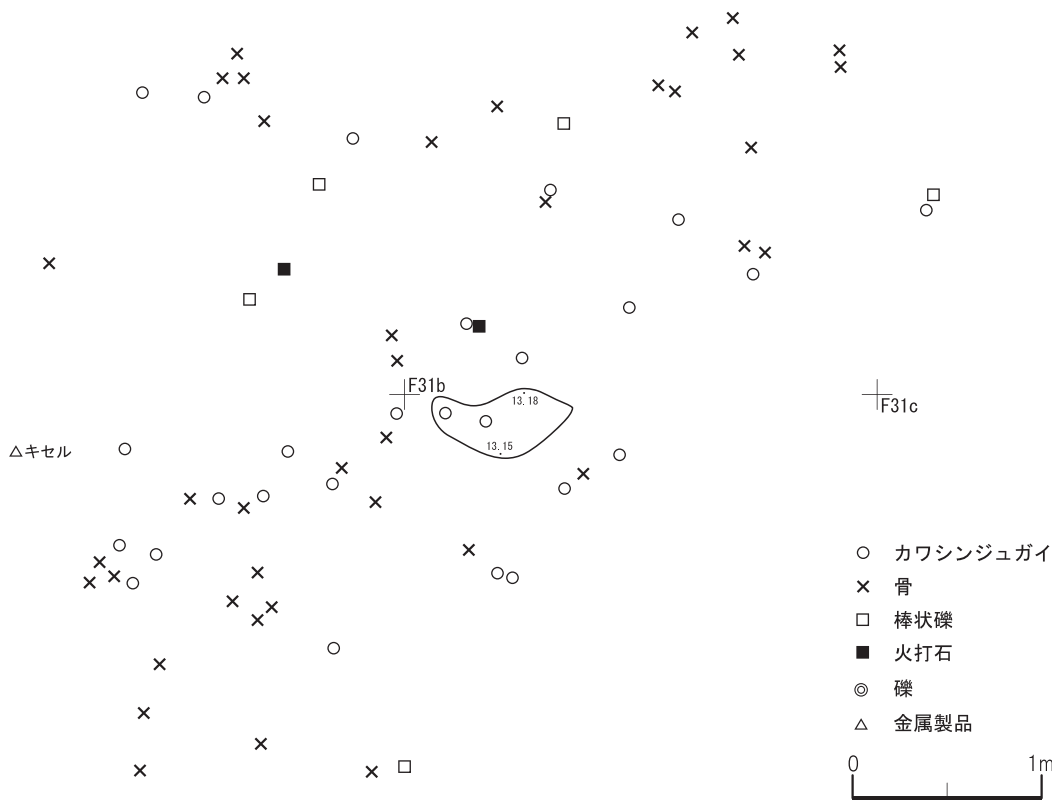


図V-1-75 ⅢA-4・5

ⅢB-1



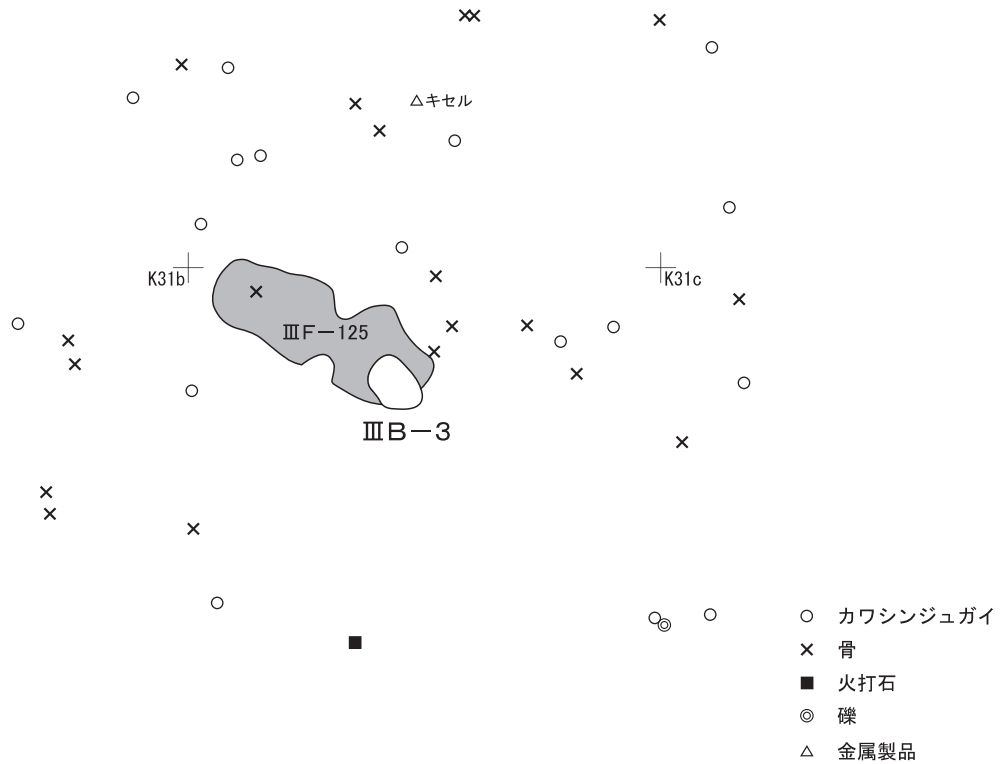
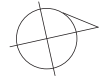
ⅢB-2



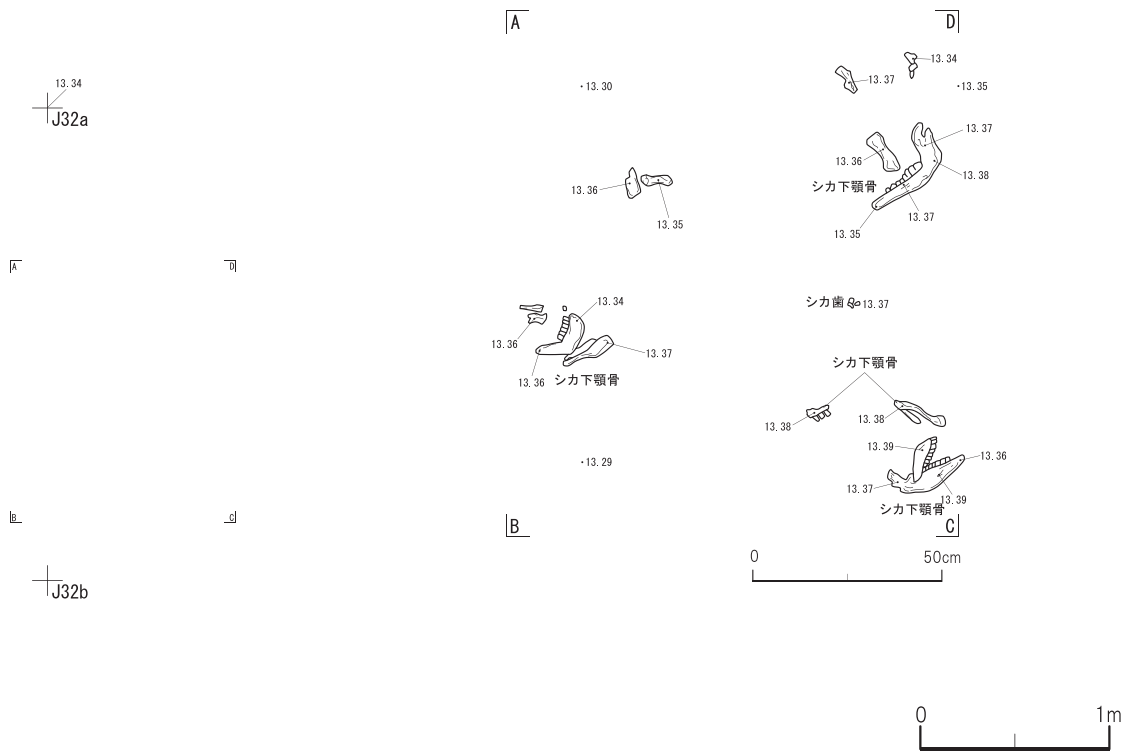
- カワシンジュガイ
 - × 骨
 - 棒状礫
 - 火打石
 - ◎ 礫
 - △ 金属製品
- 0 1m

図V-1-76 ⅢB-1・2

ⅢB-3

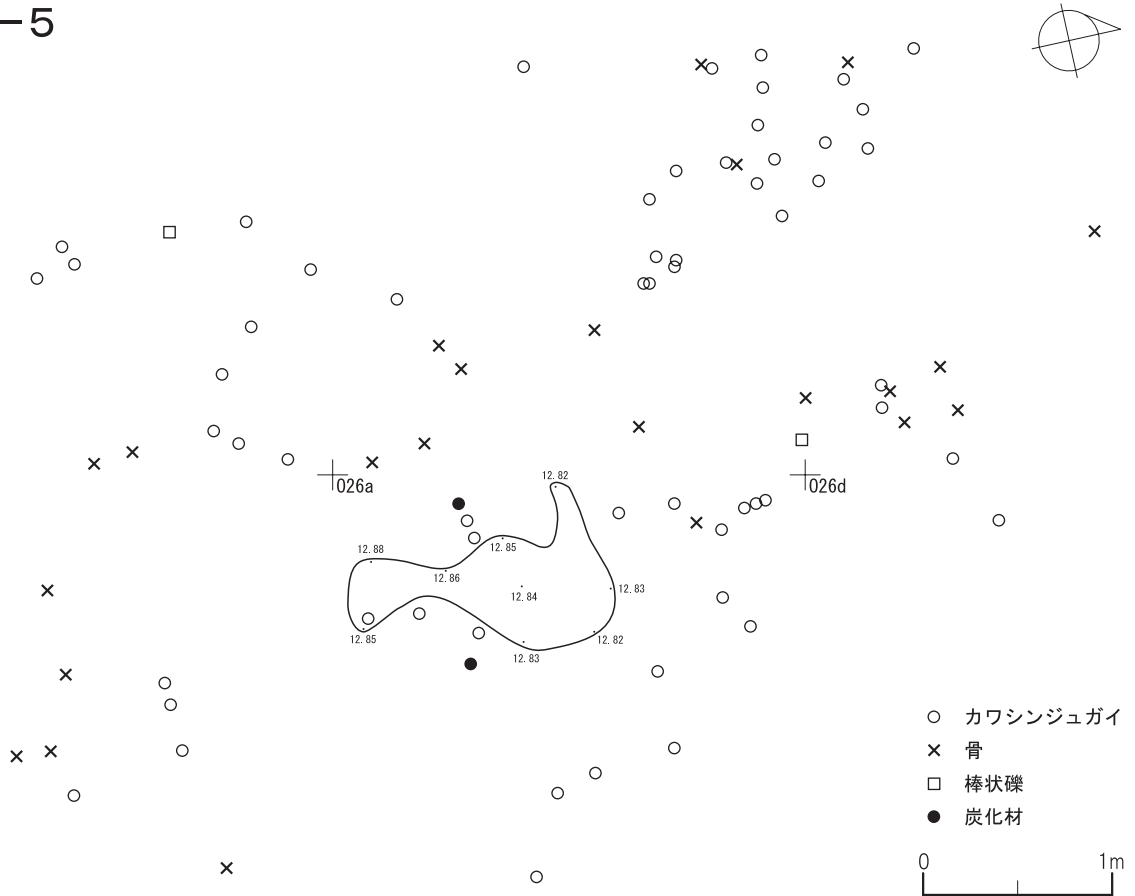


ⅢB-4



図V-1-77 ⅢB-3・4

ⅢB-5



図V-1-78 ⅢB-5

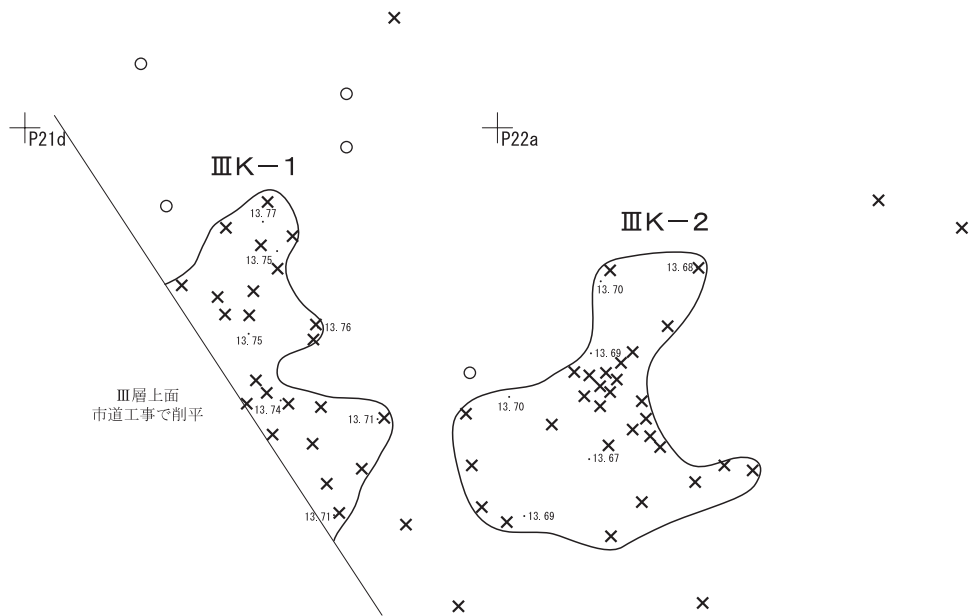
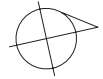
(6) 貝集中

ⅢK-1~33 (図V-1-79~91/表V-1-6/図版31~34)

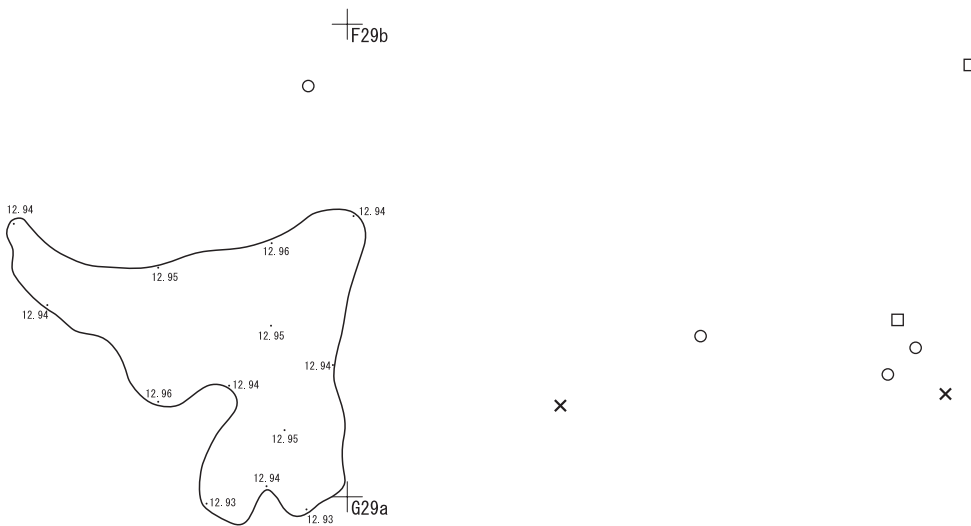
カワシンジュガイ殻皮の集中域(ⅢK)を33か所検出した。北西-南東方向の沢状地形内の住居跡・杭穴・焼土の周辺からはカワシンジュガイ殻皮が多く出土している。その中でも特に密集している部分を貝集中とした。包含層より疎らに出土しているカワシンジュガイ殻皮も、本来はこれらのような貝集中から自然作用により拡散した可能性が高い。いずれも焼土や灰集中と同じⅢ層上位で検出された。個々の貝集中の規模・形状・特徴などは一覧表にまとめて記した(表V-1-6)。

分布は大まかに3つの群に分けられる。道跡の周辺で形成されたもの(ⅢK-1・2・4・5~9・14・17・20・22~28・31)、杭穴の密集域の周辺で形成されたもの(ⅢK-6・10・12・18・19・21・29・32)、住居跡の周辺で形成されたもの(ⅢK-11・13・15・16・30)である。ⅢK-3・33は他の遺構とやや離れている。これらのうちで複数の貝集中による配列や群集などは見られない。また、他の遺構や包含層を挟んだ新旧関係も確認されなかった。一方、ⅢK-8・14・22・24~28・31は道

ⅢK-1・2



ⅢK-3

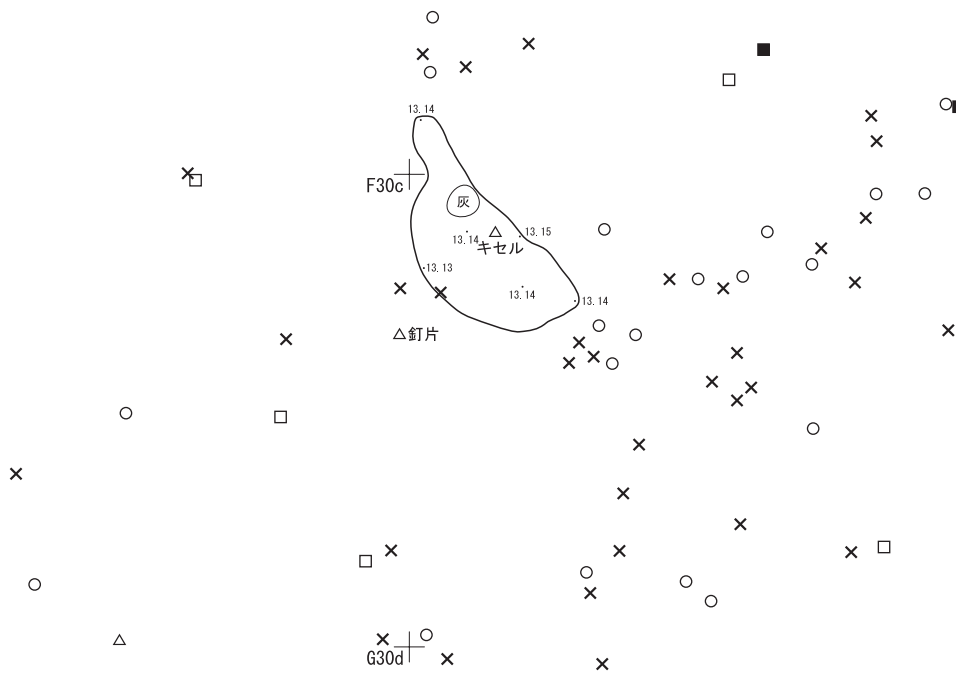
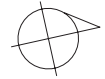


- カワシージュガイ
- × 骨
- 棒状礫

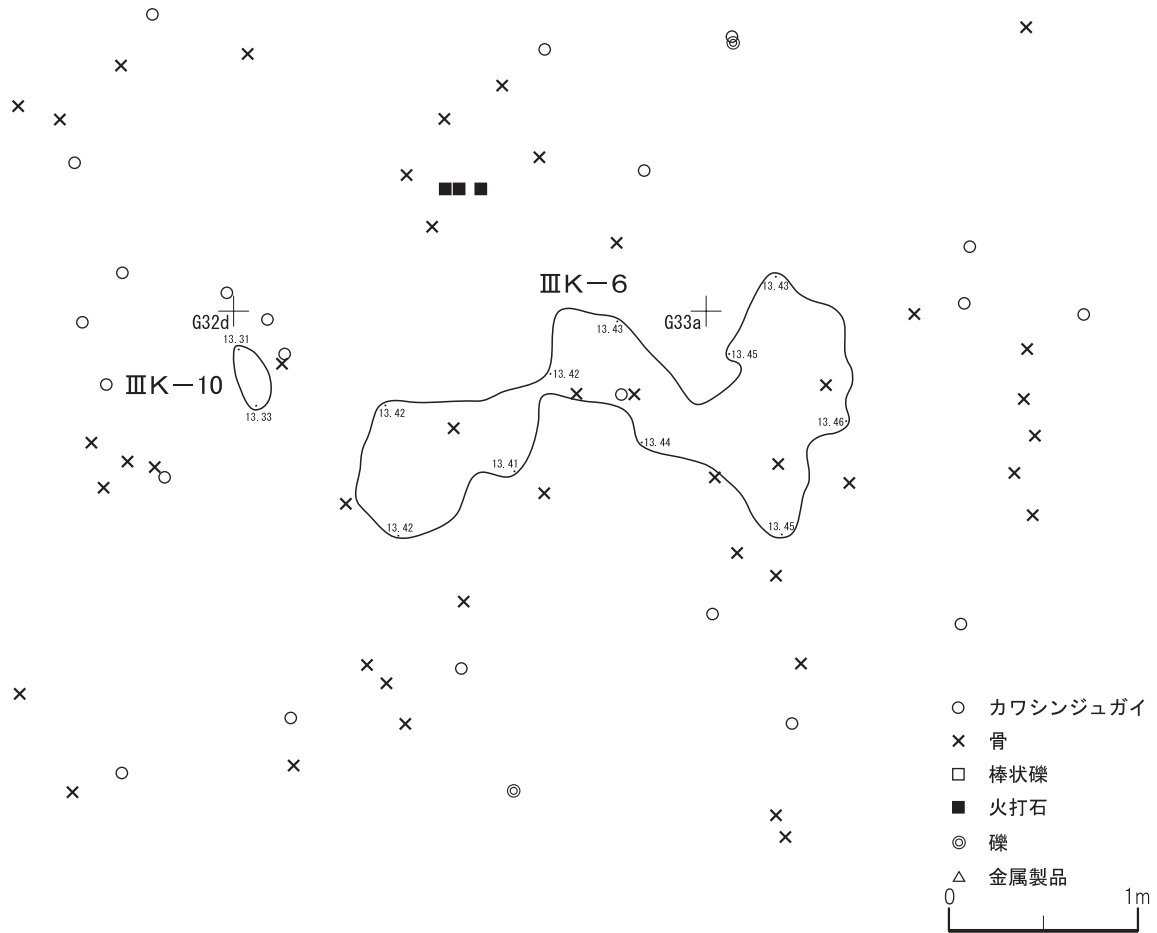


図V-1-79 ⅢK-1~3

ⅢK-4

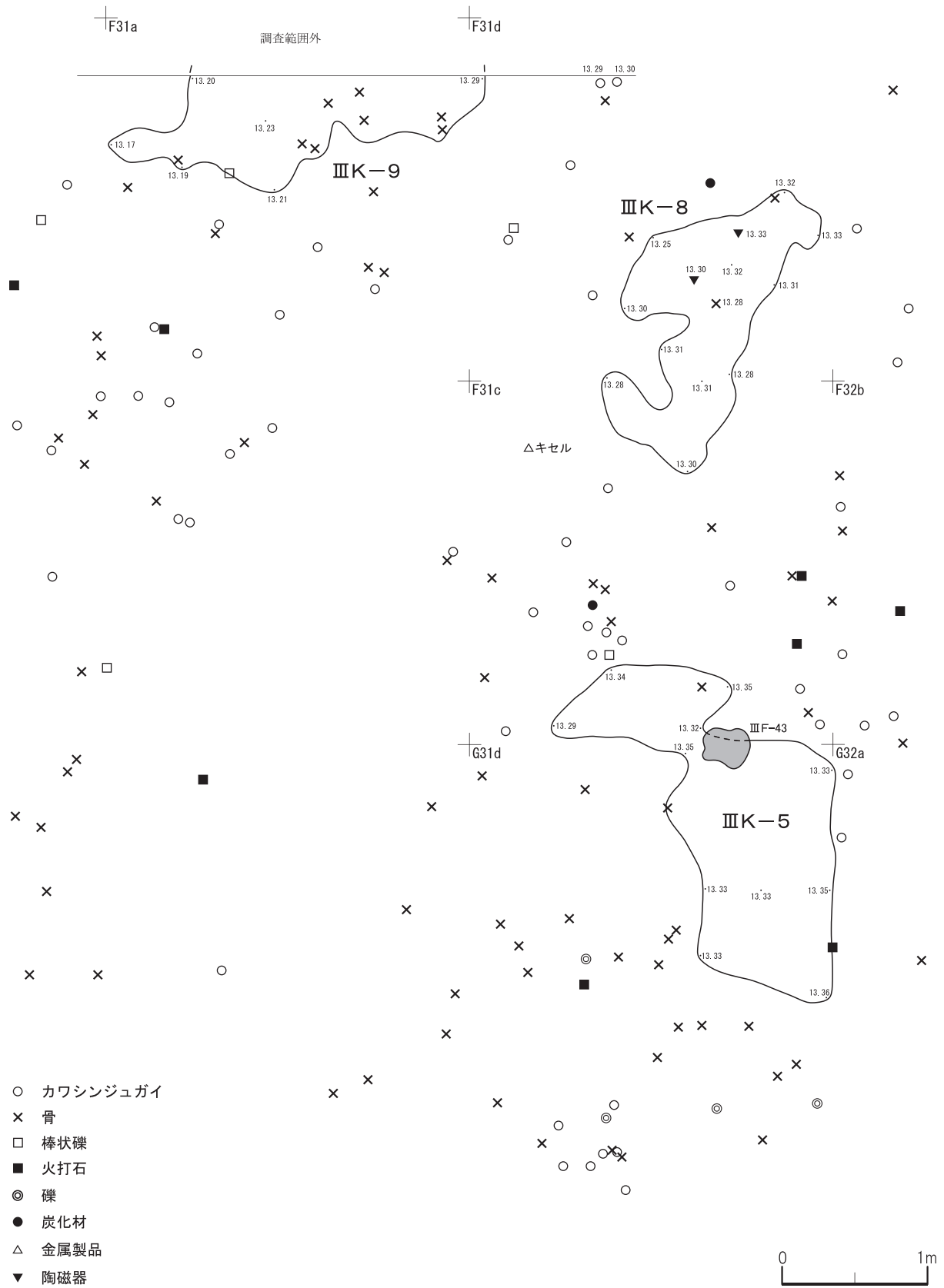
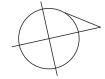


ⅢK-6・10



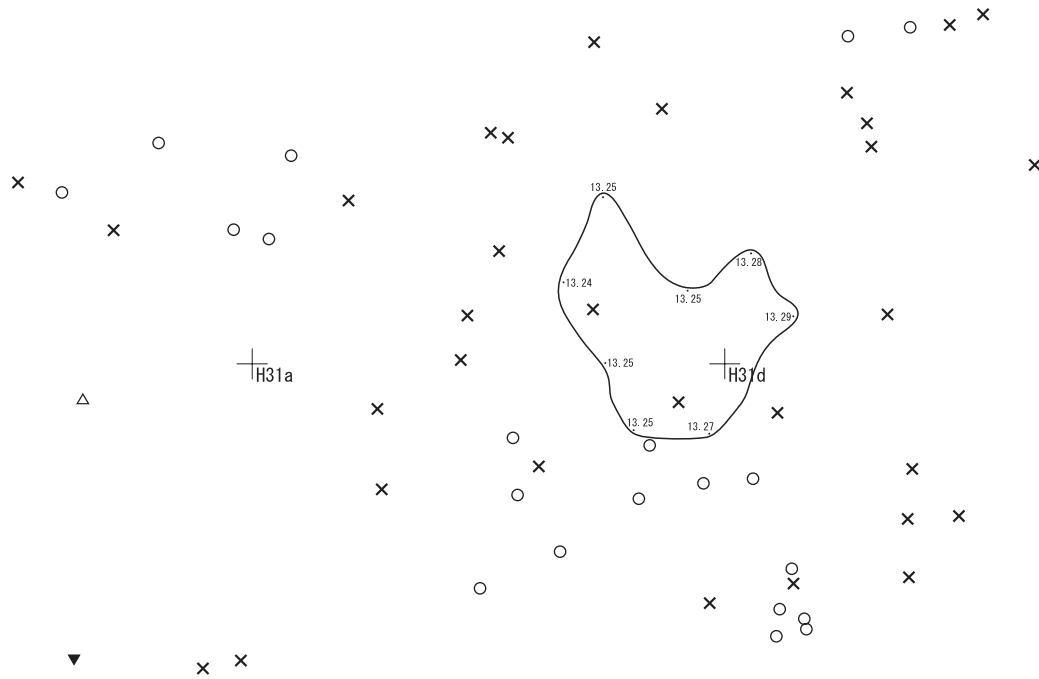
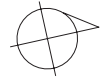
図V-1-80 ⅢK-4・6・10

ⅢK-5・8・9



図V-1-81 ⅢK-5・8・9

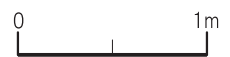
ⅢK-7



ⅢK-11

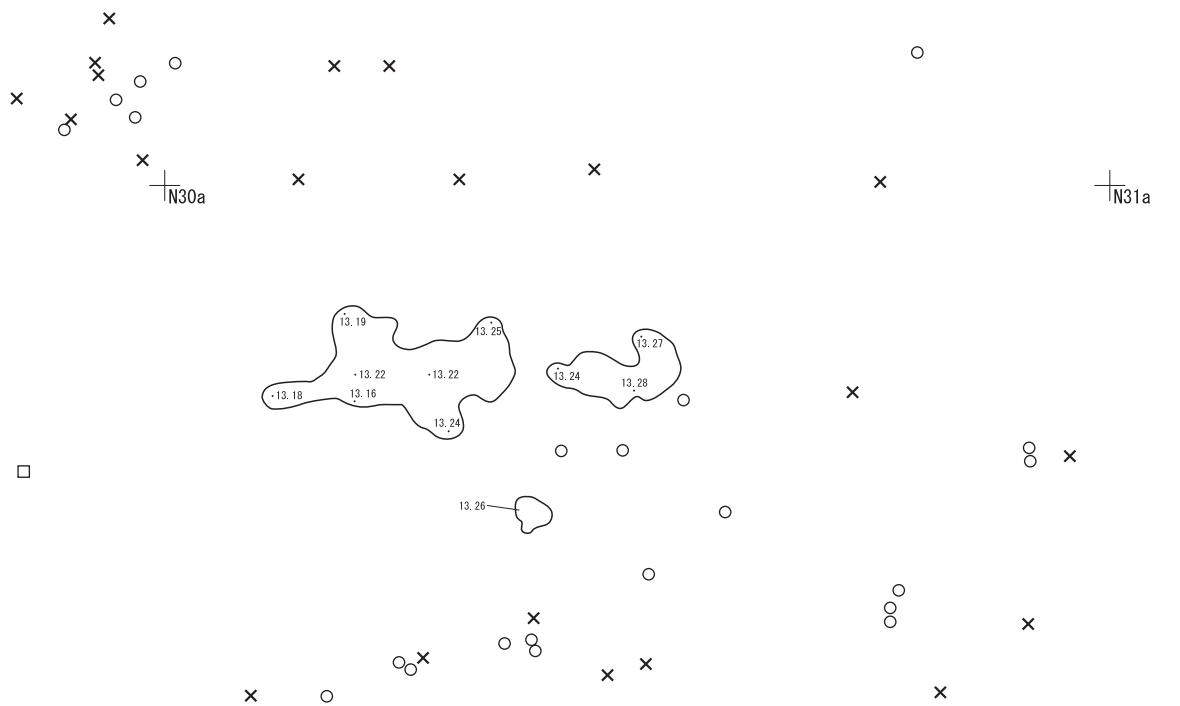


- カワシジユガイ
- × 骨
- △ 金属製品
- ▼ 陶磁器

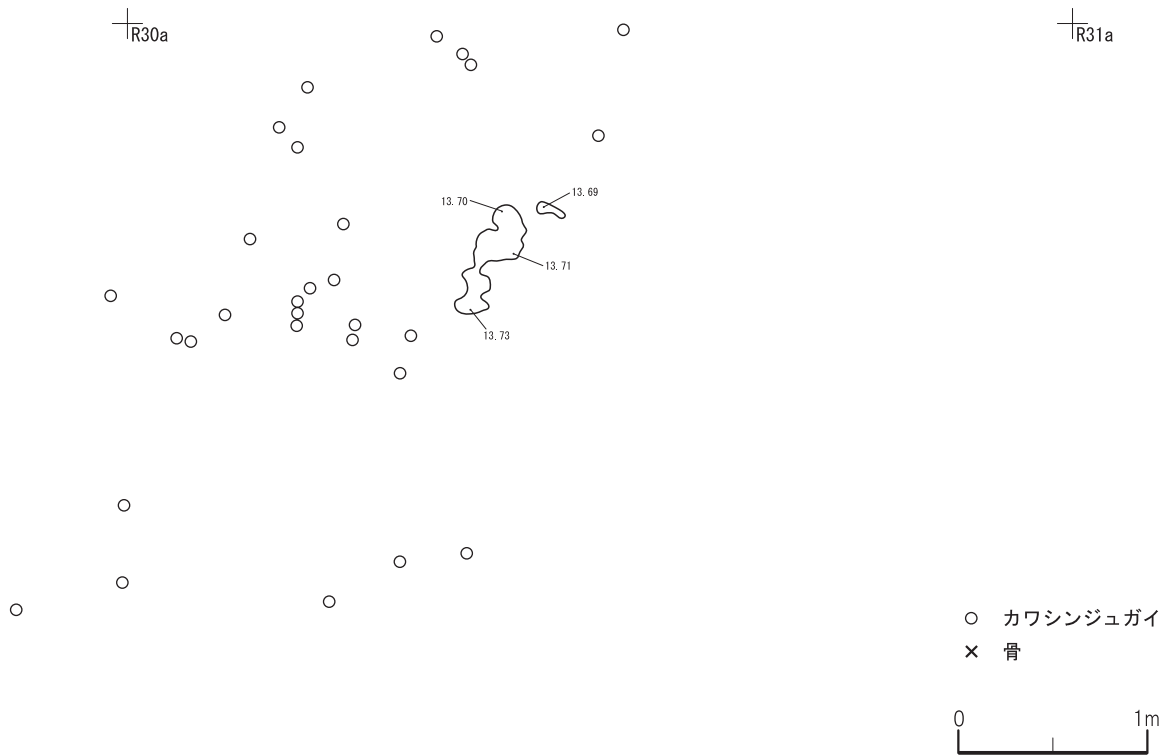


図V-1-82 ⅢK-7・11

ⅢK-12

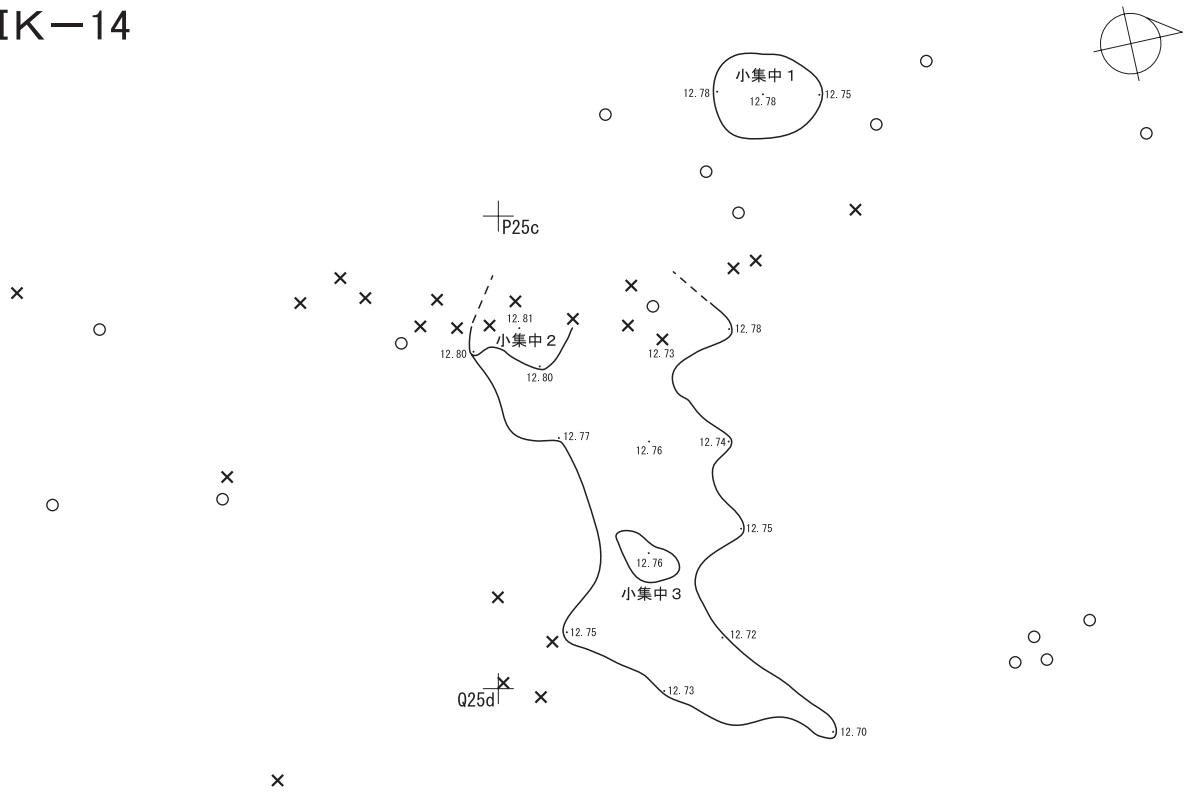


ⅢK-13

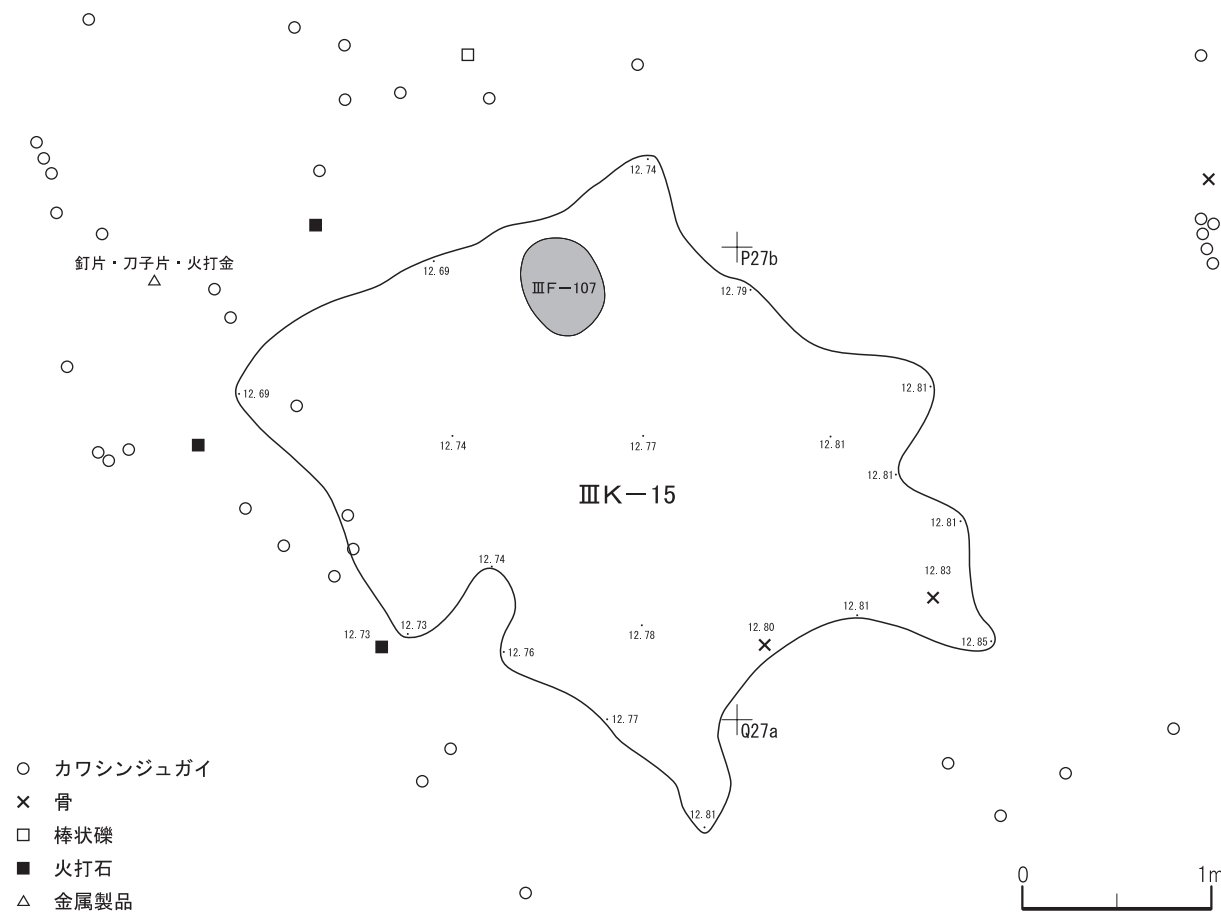


図V-1-83 ⅢK-12・13

ⅢK-14

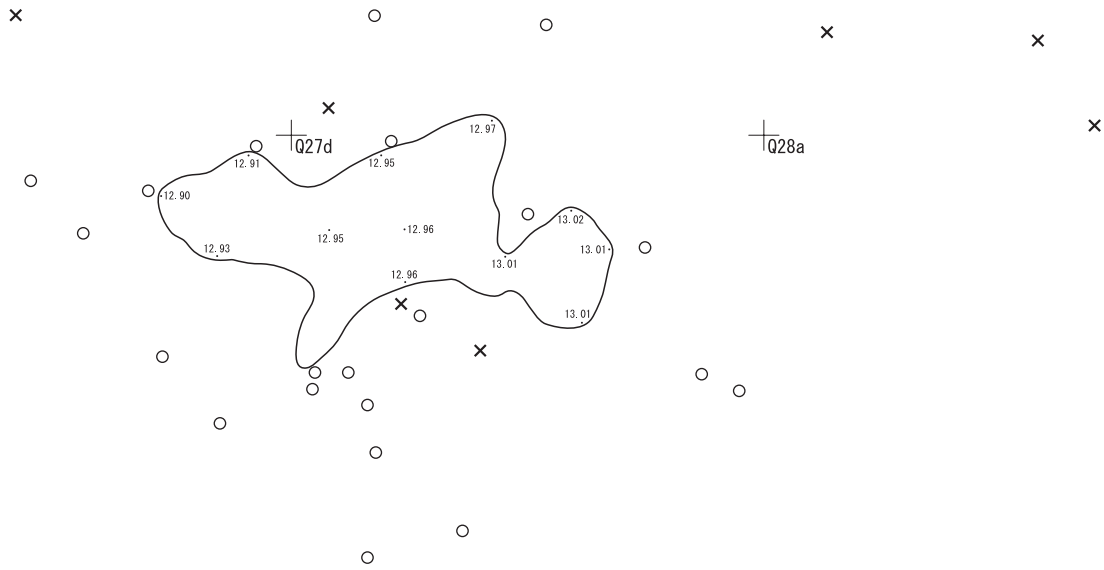
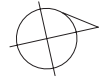


ⅢK-15

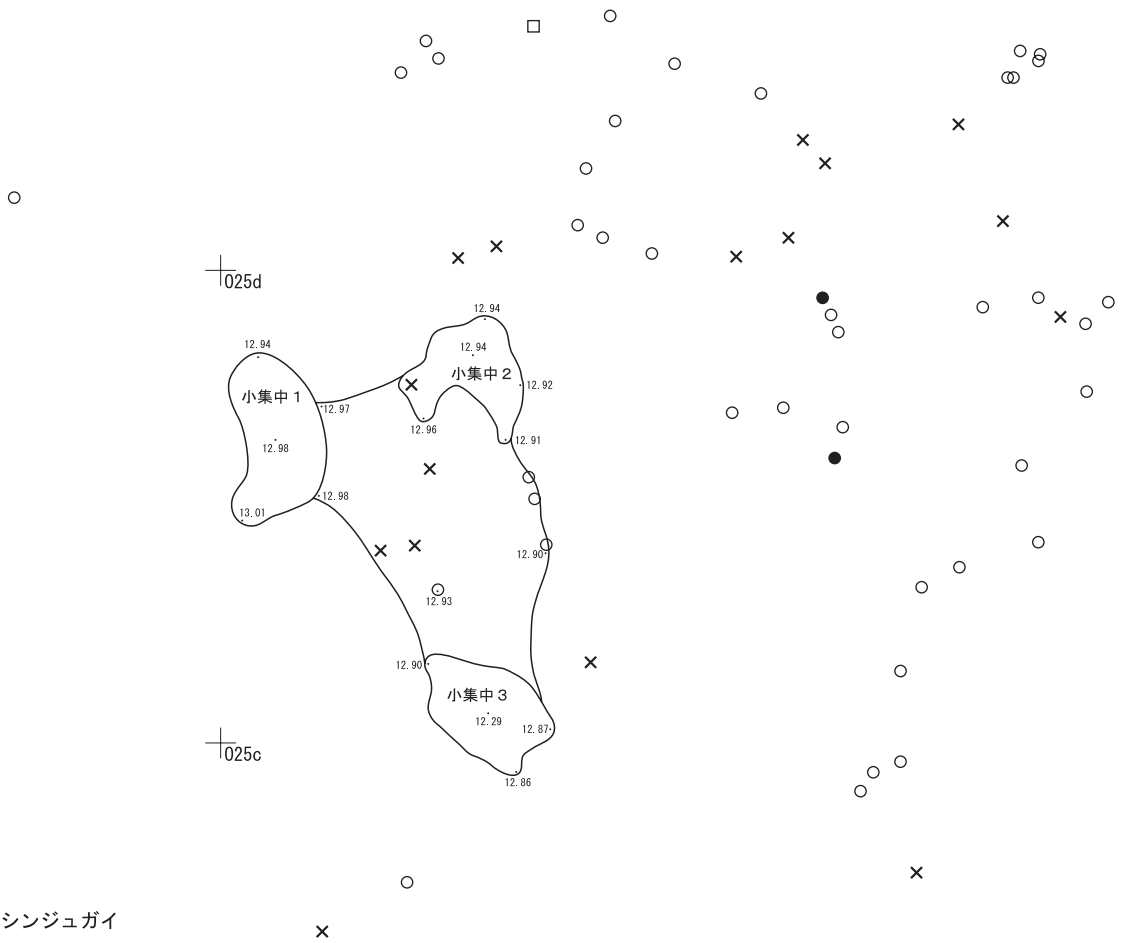


図V-1-84 ⅢK-14・15

ⅢK-16



ⅢK-17

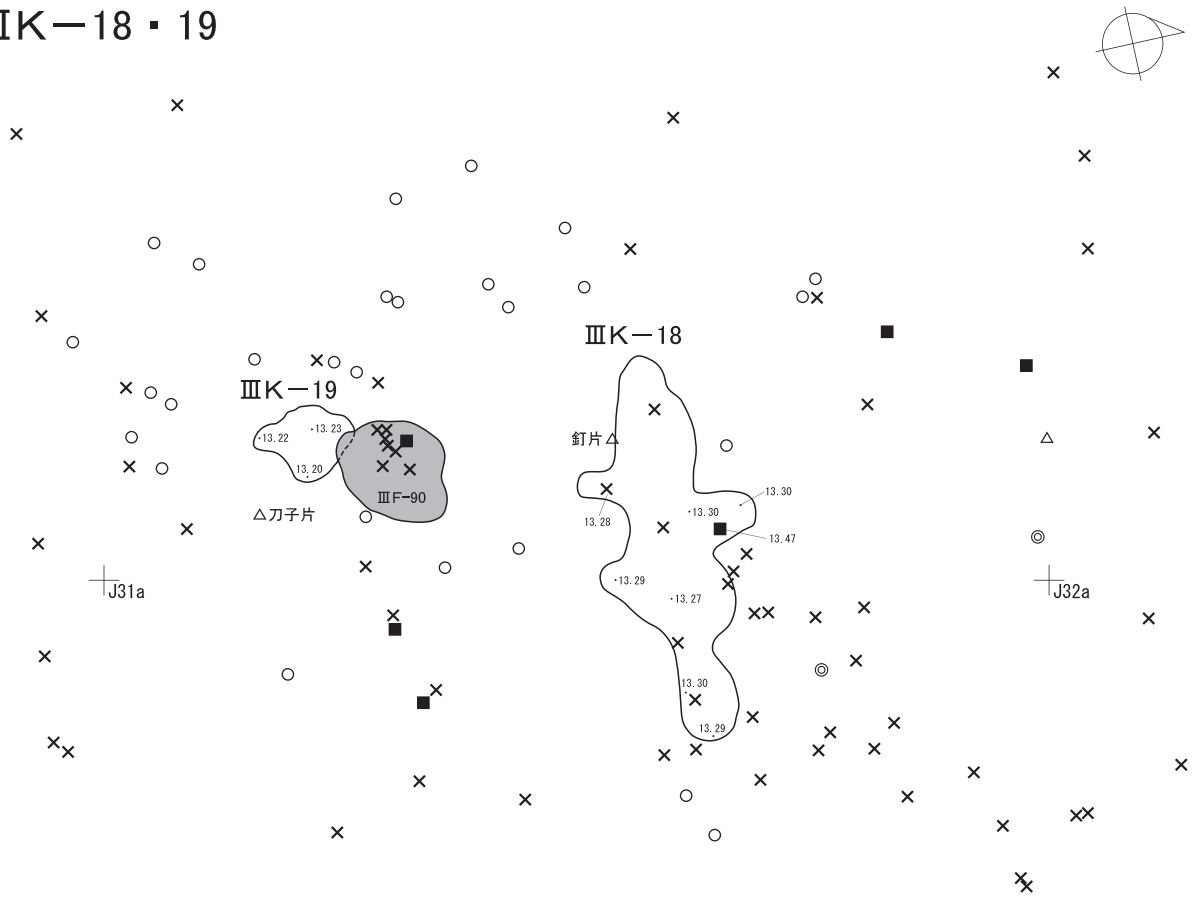


- カワシジュガイ
- × 骨
- 棒状礫
- 炭化材

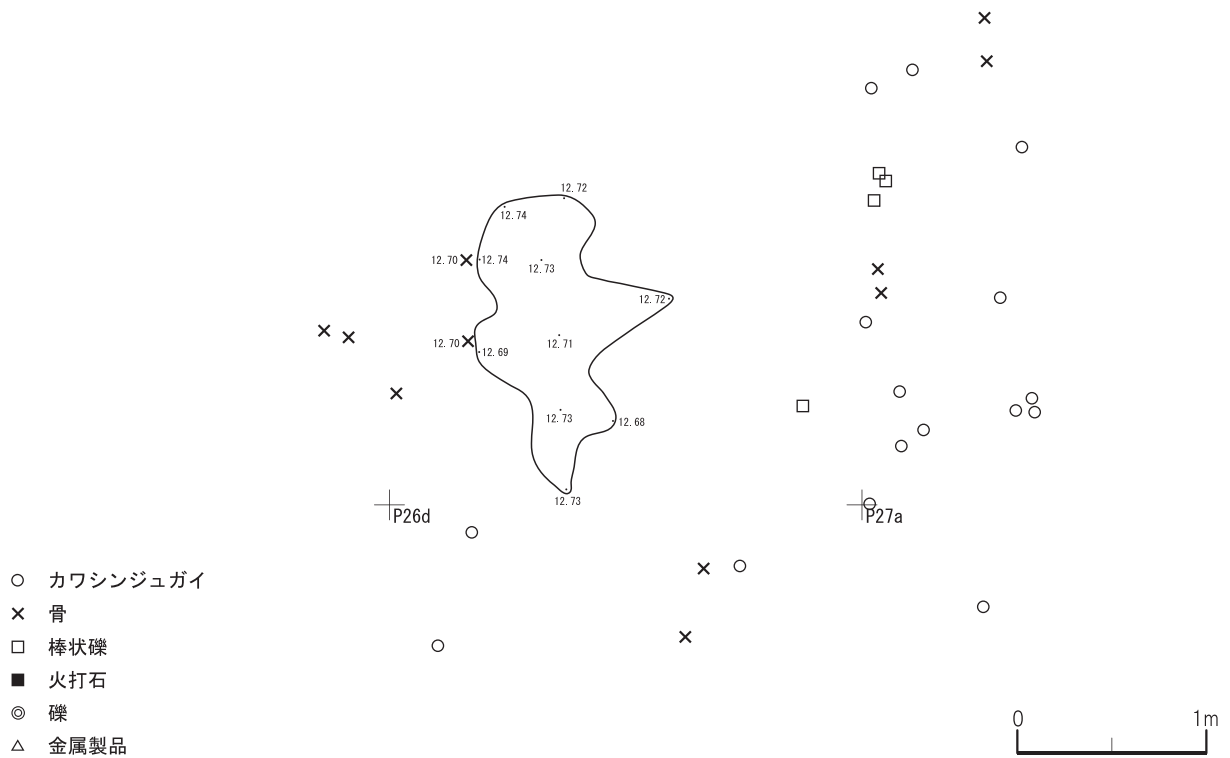


図V-1-85 ⅢK-16・17

ⅢK-18・19



ⅢK-20



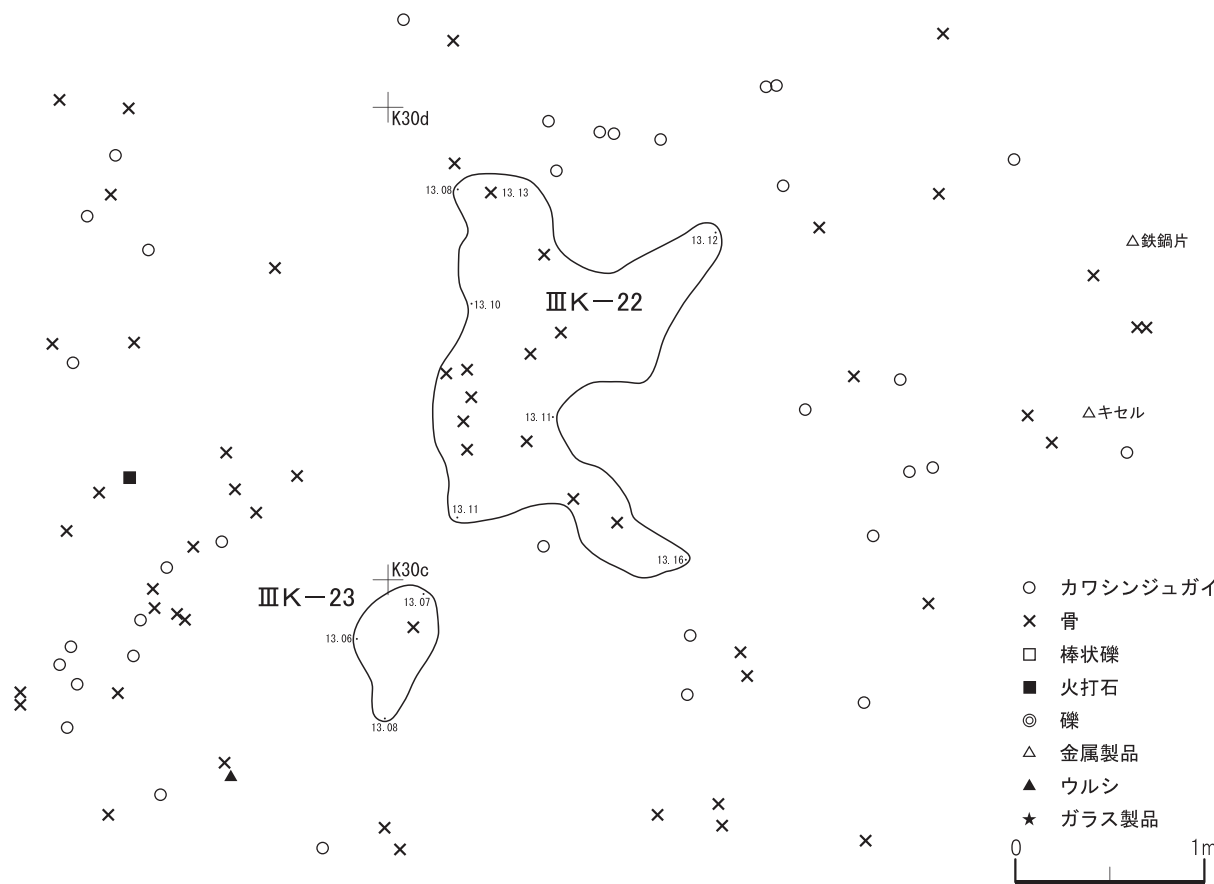
- カワシージュガイ
- × 骨
- 棒状礫
- 火打石
- ◎ 礫
- △ 金属製品

図V-1-86 ⅢK-18~20

ⅢK-21

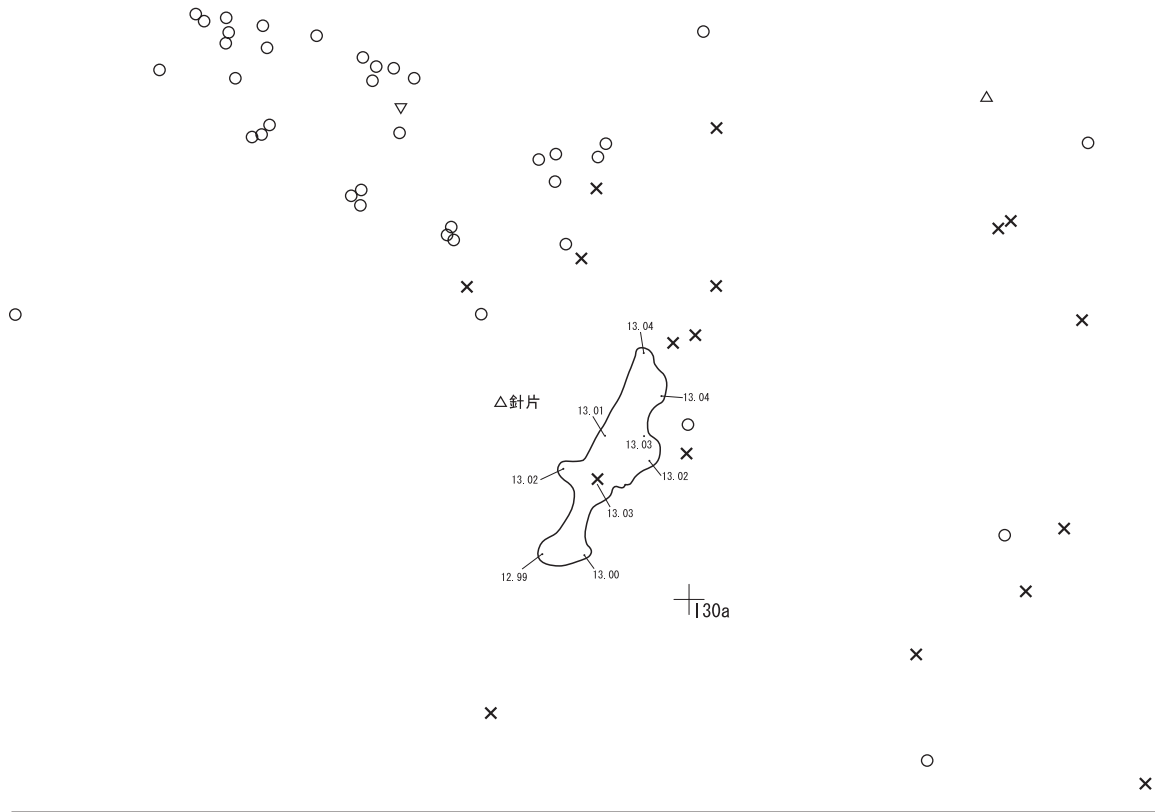
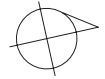


ⅢK-22・23

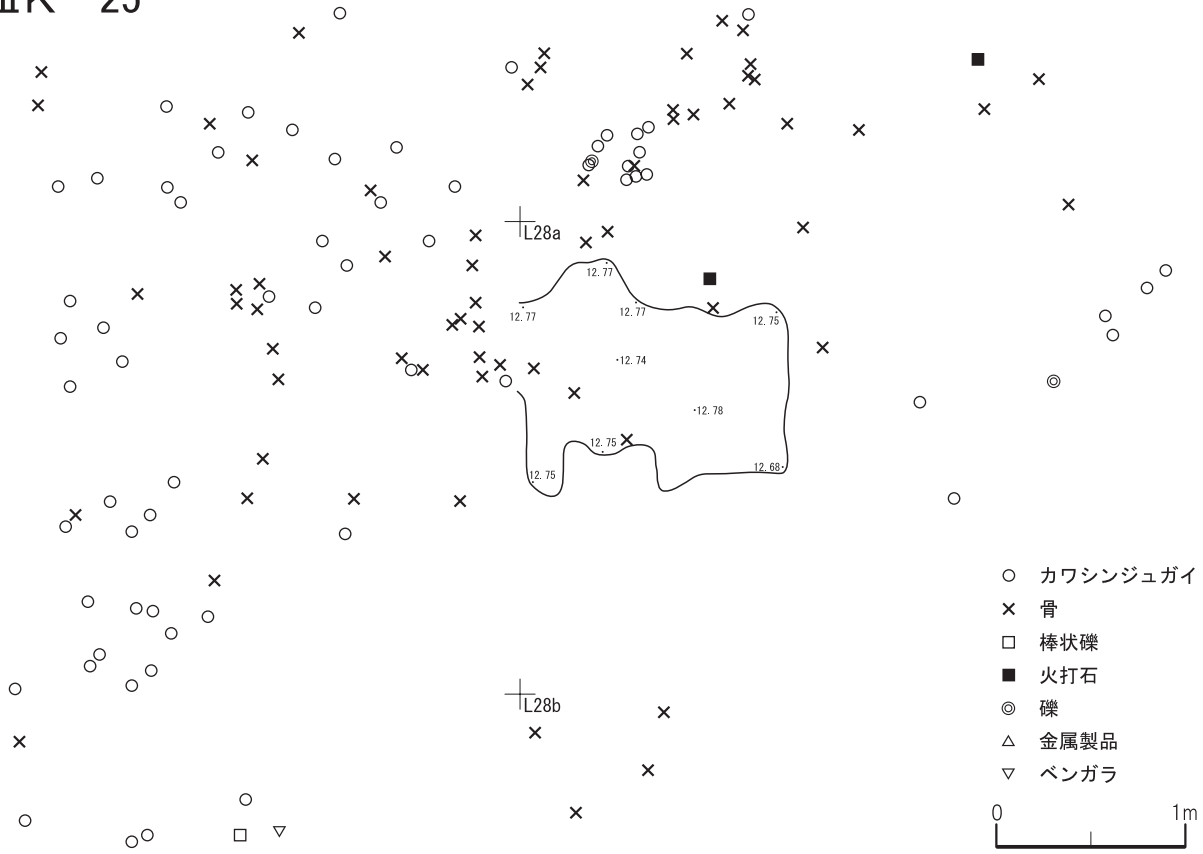


図V-1-87 ⅢK-21~23

ⅢK-24

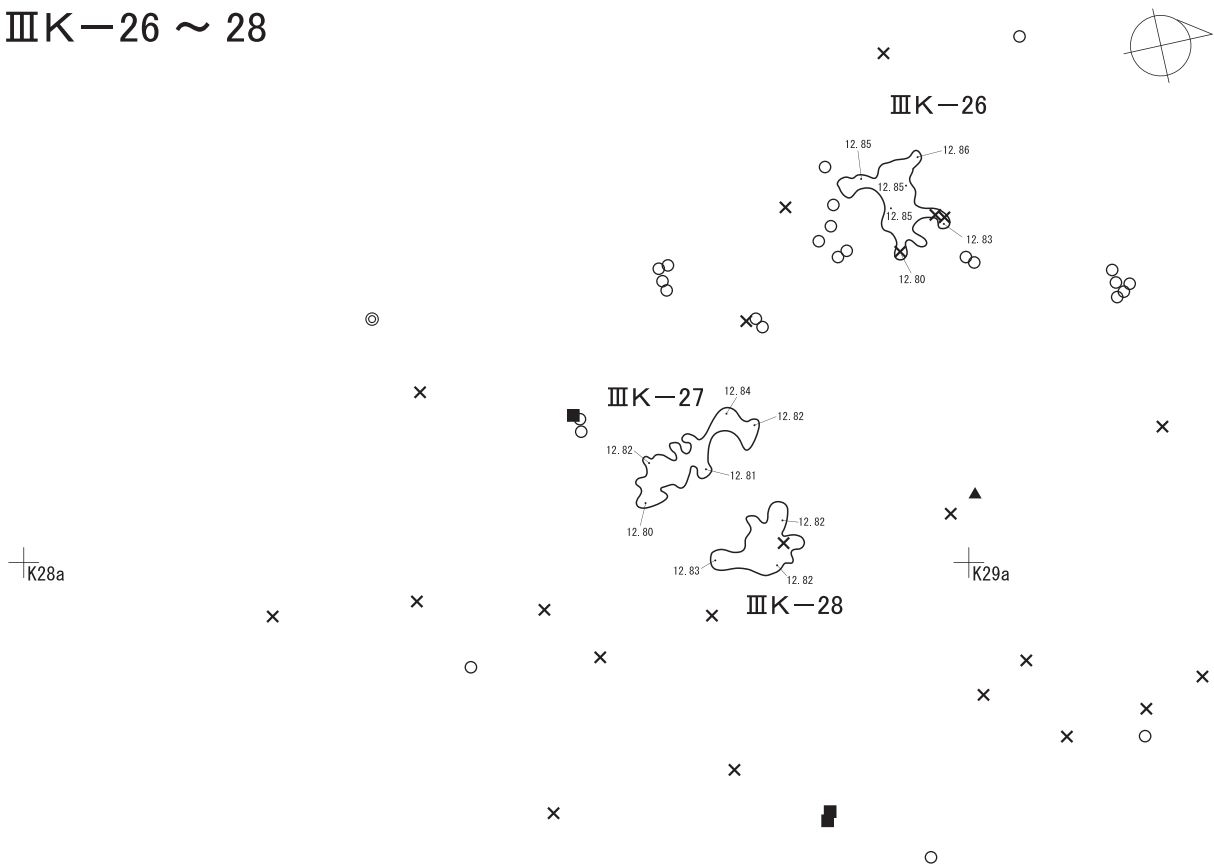


ⅢK-25

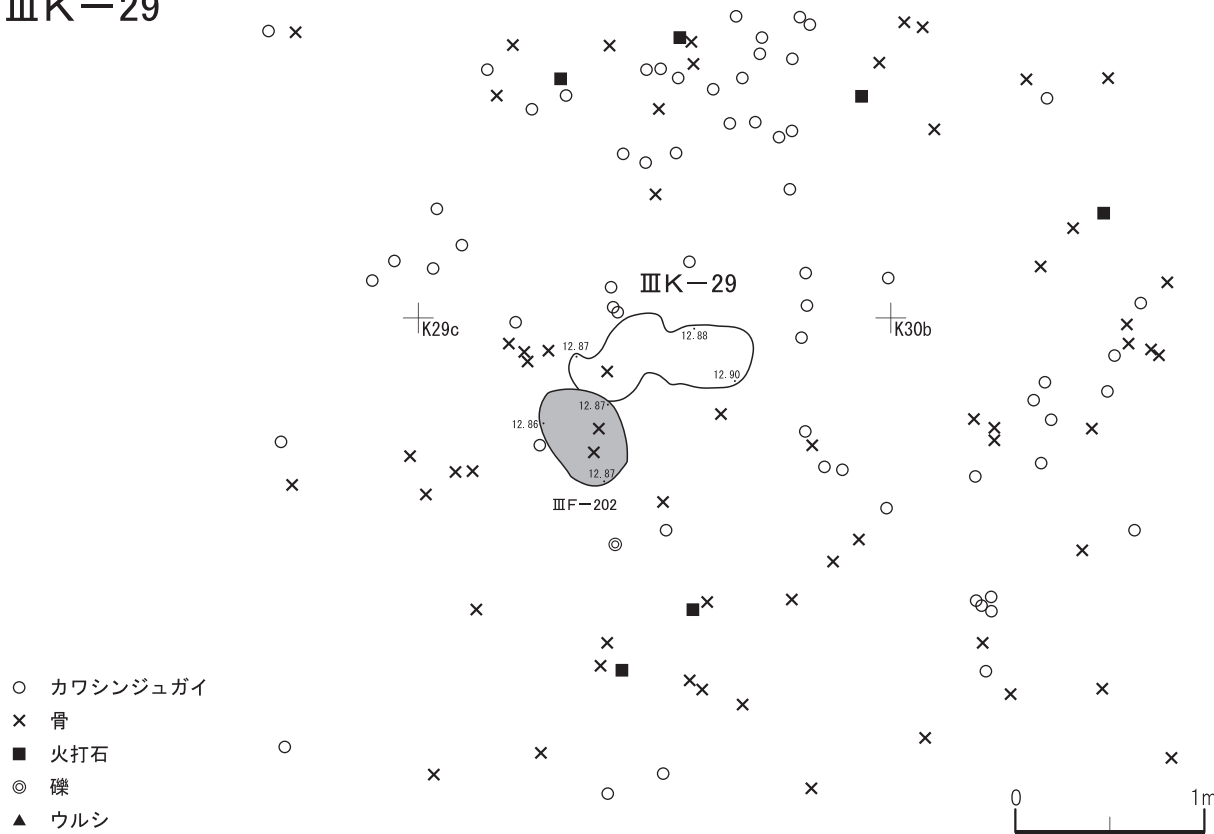


図V-1-88 ⅢK-24・25

ⅢK-26 ~ 28



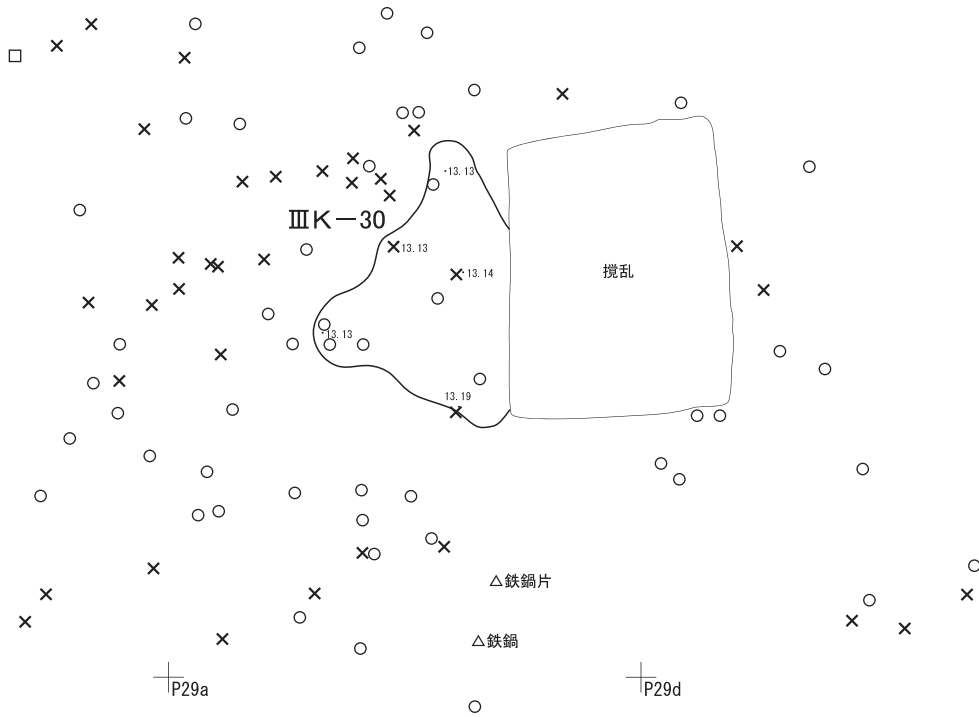
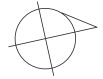
ⅢK-29



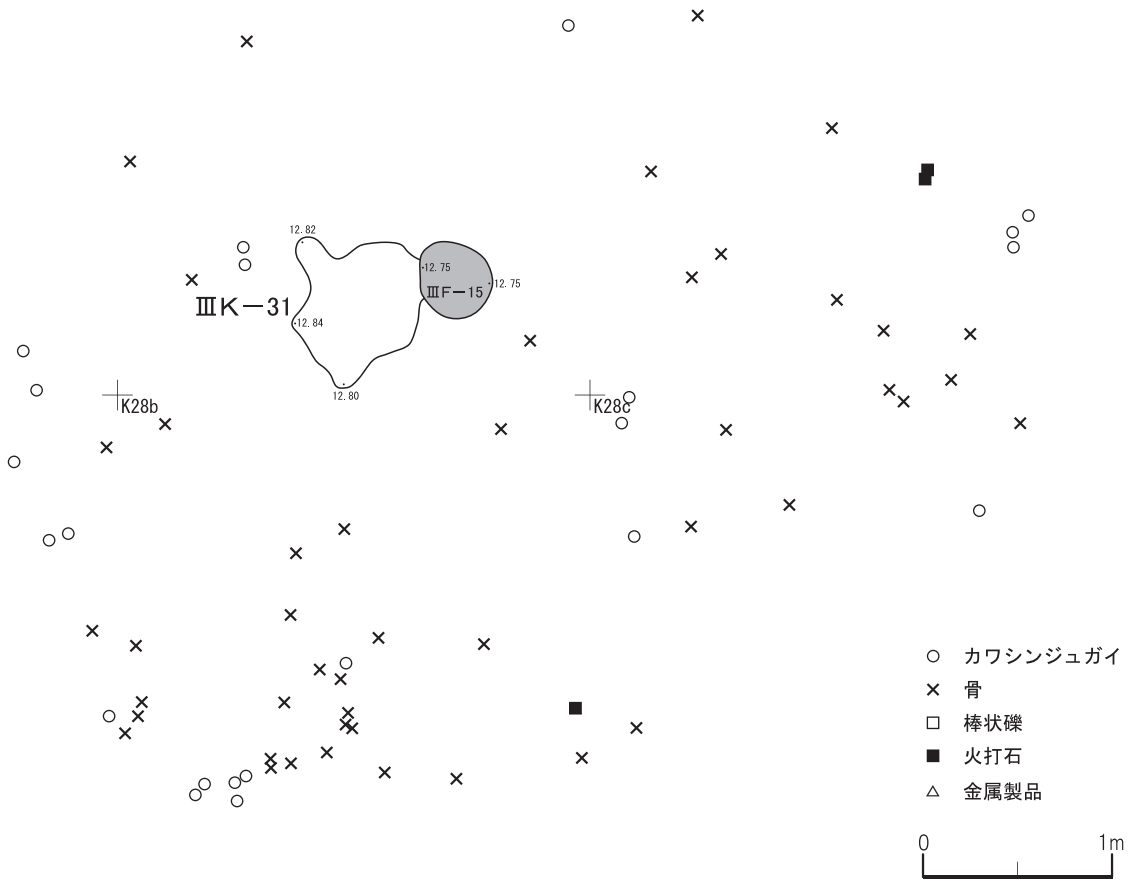
- カワシジュガイ
- × 骨
- 火打石
- ◎ 礫
- ▲ ウルシ

図V-1-89 ⅢK-26~29

ⅢK-30

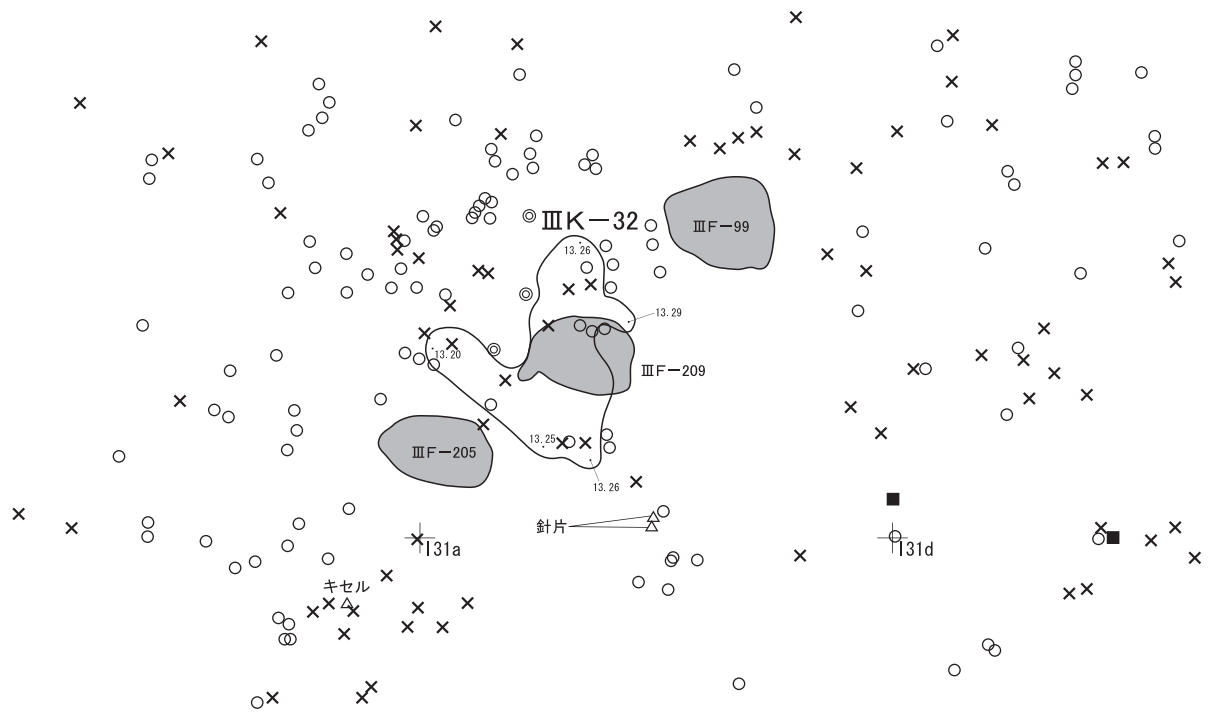


ⅢK-31

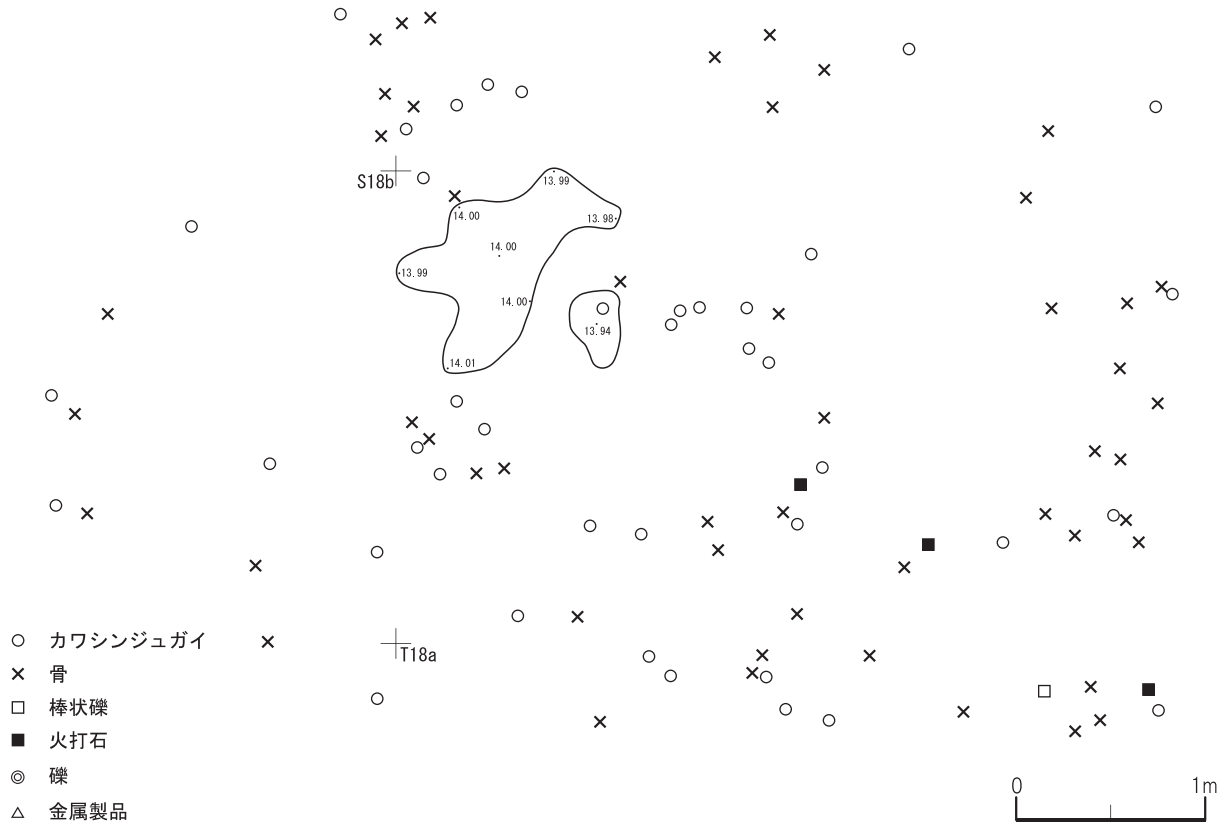


図V-1-90 ⅢK-30・31

ⅢK-32



ⅢK-33



図V-1-91 ⅢK-32・33

跡、ⅢK-6・8・18・21・22・25は杭穴、ⅢK-5・15・21・32は焼土、ⅢK-15は住居跡ⅢH-13と重複する。道跡との重複は、いくつかの時期にわたって経路が変化したためと考えられる。また、古い道跡のくぼみに殻皮が人為的あるいは自然作用によって集積された可能性もある。ⅢK-15はⅢH-13よりも沢状地形のより上位に立地することから、住居の廃絶後に貝殻の一部が流入したのであろう。杭穴は検出面（Ⅳ層上面）が異なり、明瞭な時期差を確認できなかった。焼土や骨集中は形成面がほぼ同じで、非常に近接して検出されることから、同時期と考えられる。

個体数は規模によって差があり、また殻皮の微細破片がかなり含まれるため、具体的な数量は不明である。形状を確認できるものから、10～30個体ほどのものが多いようである。いずれも全体的には一面に敷かれたような状況で層は成さない。まれに部分的に重なる範囲があり、小集中とした（ⅢK-14・17）。カワシンジュガイの残存状況は良好ではなく、殻皮のみのもので大半である。ⅢK-8・9・33はやや密集度が高いことに起因するのか、殻本体が残存する。穂摘具（ピパ）と確定できるような状態のものは出土しなかったが、素材として集積されていた可能性はある。

検出層位や周辺の遺構・遺物などから、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（芝田）

（7）道跡

ⅢR-1（図V-1-92～95／図版35）

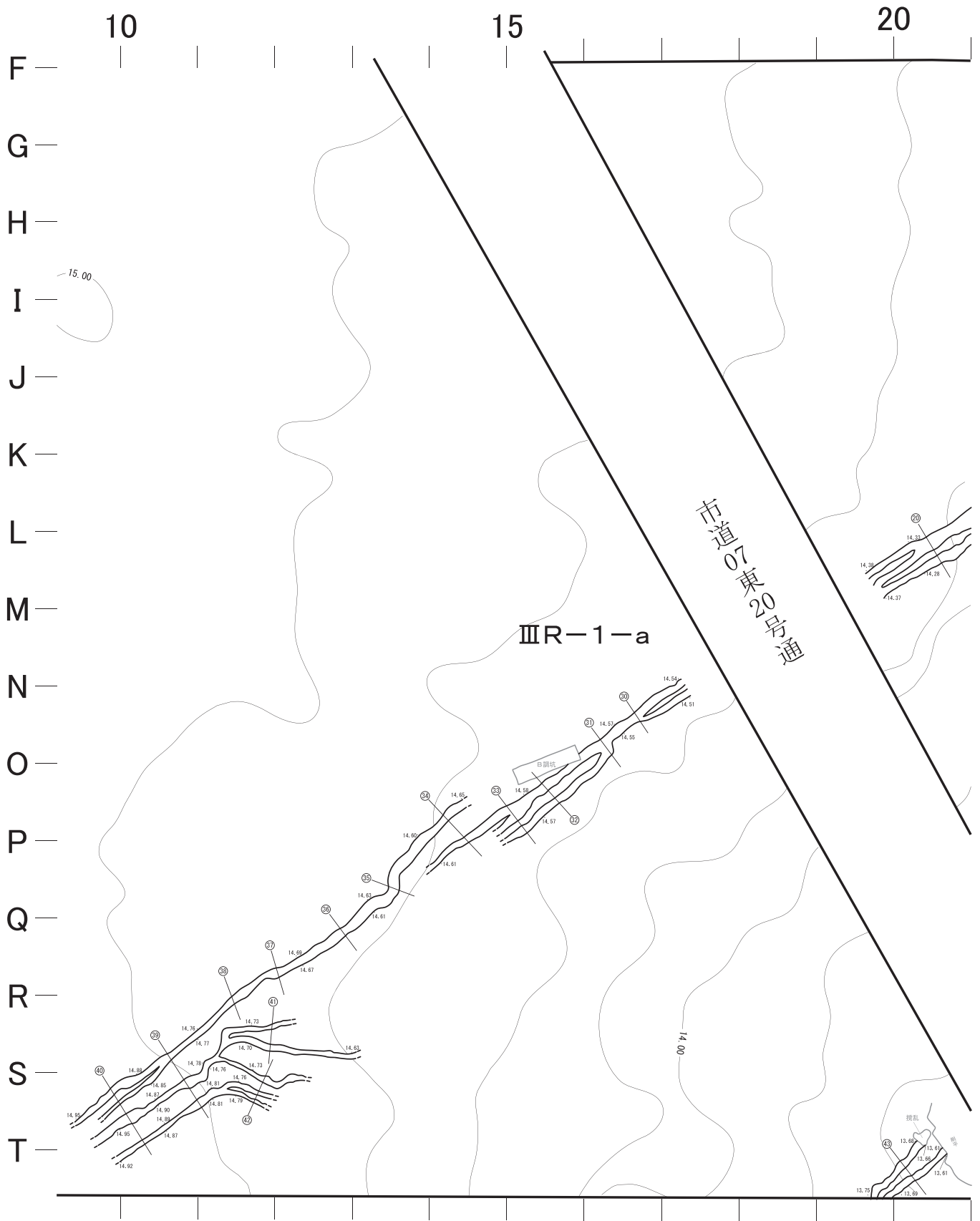
確認・調査 2007年度はB地区のF・G30・31区、N～P23・24区、K・L19～21区、C地区のN・O15～17区、T19・20区のⅡ層除去後に清掃したところ、Ⅲ層上面に北西-南東方向に延びる筋状の凹みを検出した。トレンチを入れて断面を観察したところ、幅0.30～0.60m・深さ0.01～0.04mの凹みとその直下が堅く締まっていることを確認した。2008年度は前年の調査を踏まえてⅢ層上面での精査を行い、前年から続く道跡のほかに数条の道跡を確認した。

道跡は大まかに3つの群があると考えられる。切り合いから推測される古い順に、a群：南南東-北北西方向に延びて沢地形の底から北北東へ延びる道跡、b群：西北西-南東方向に延びる道跡、c群：北西-南東方向に延びる道跡である。b群は2007年度調査では西側を確認することができなかった。b・c群は沢地形の底面を通り、梅川へ向かう。

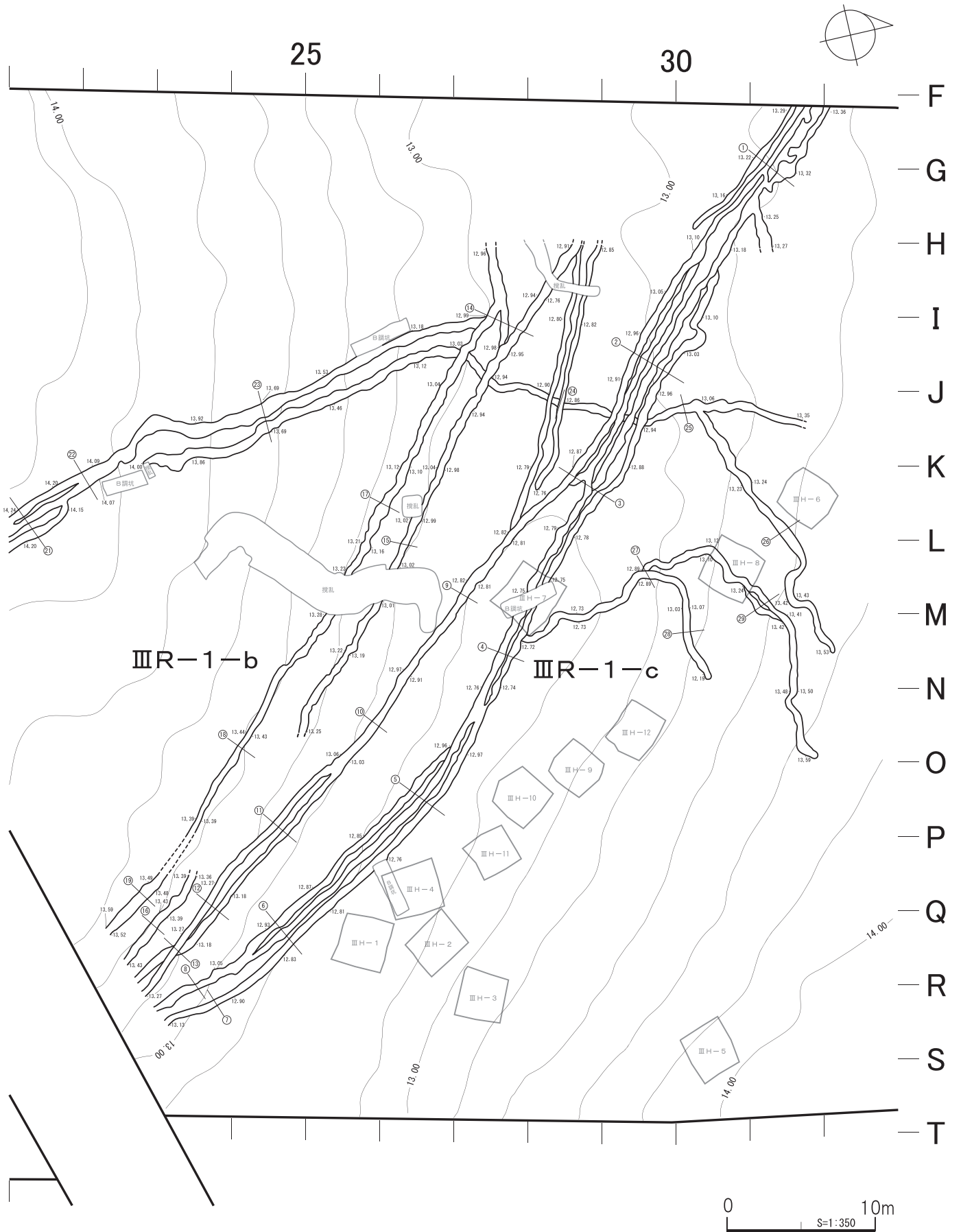
遺物出土状況 道跡上面から出土したものを出土遺物とした。火打石片や棒状礫が出土している。道跡周辺からはシカ骨片やカワシンジュガイ殻皮などが出土している。特に道跡b・c群の周辺からは多く出土している。

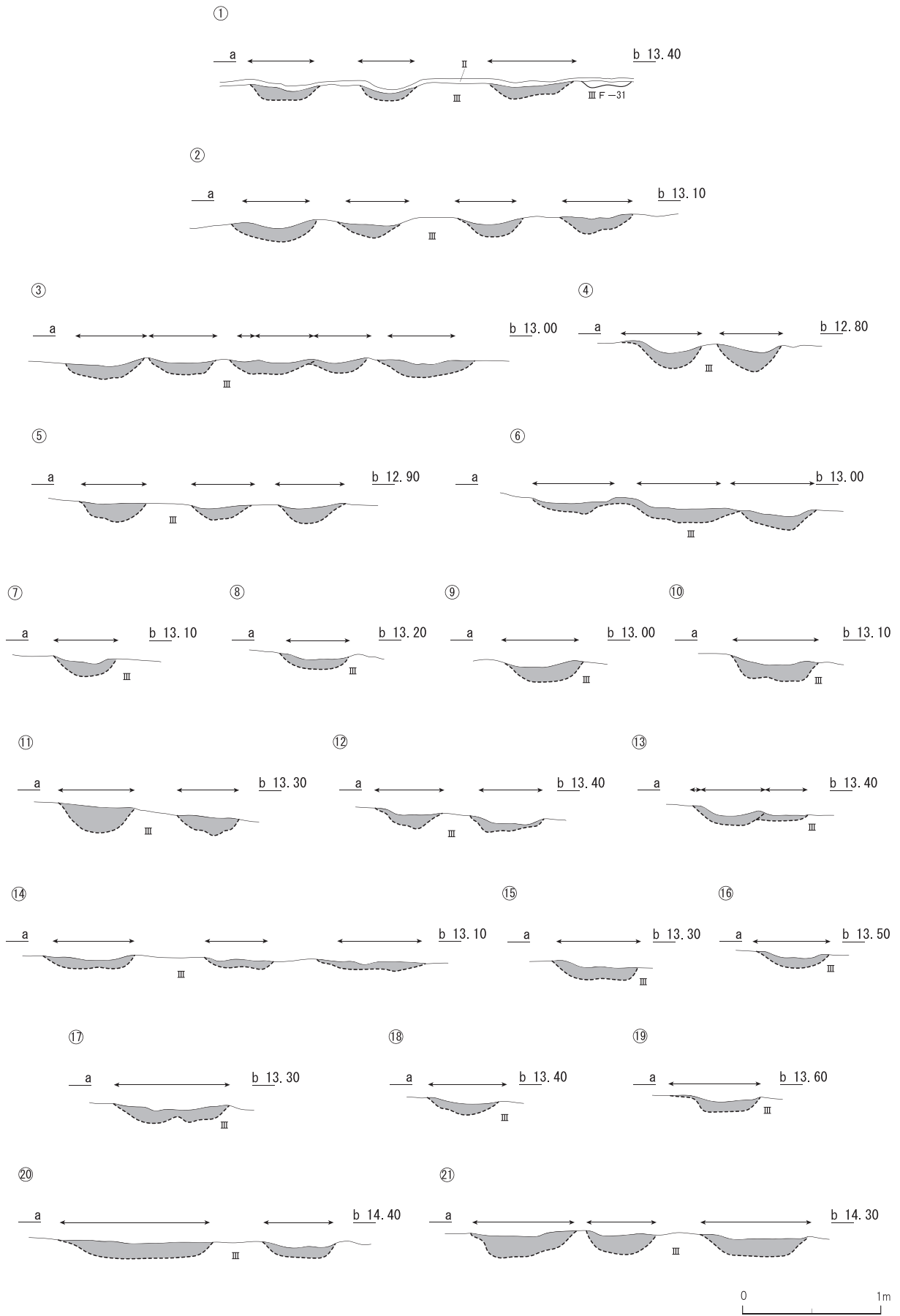
時期 検出層位や周辺の住居跡の推定時期から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。

（酒井）

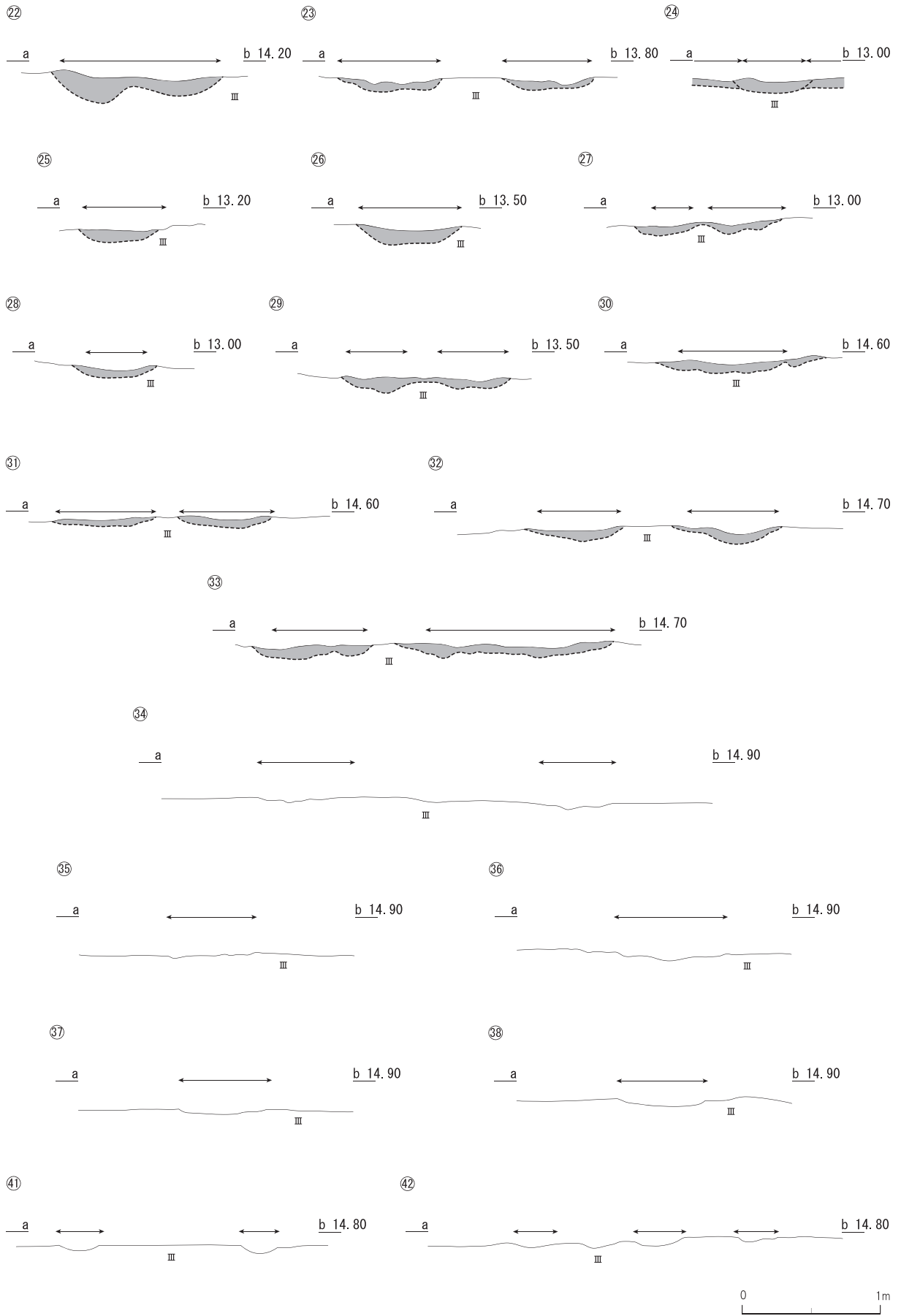


図V-1-92 III R-1平面図

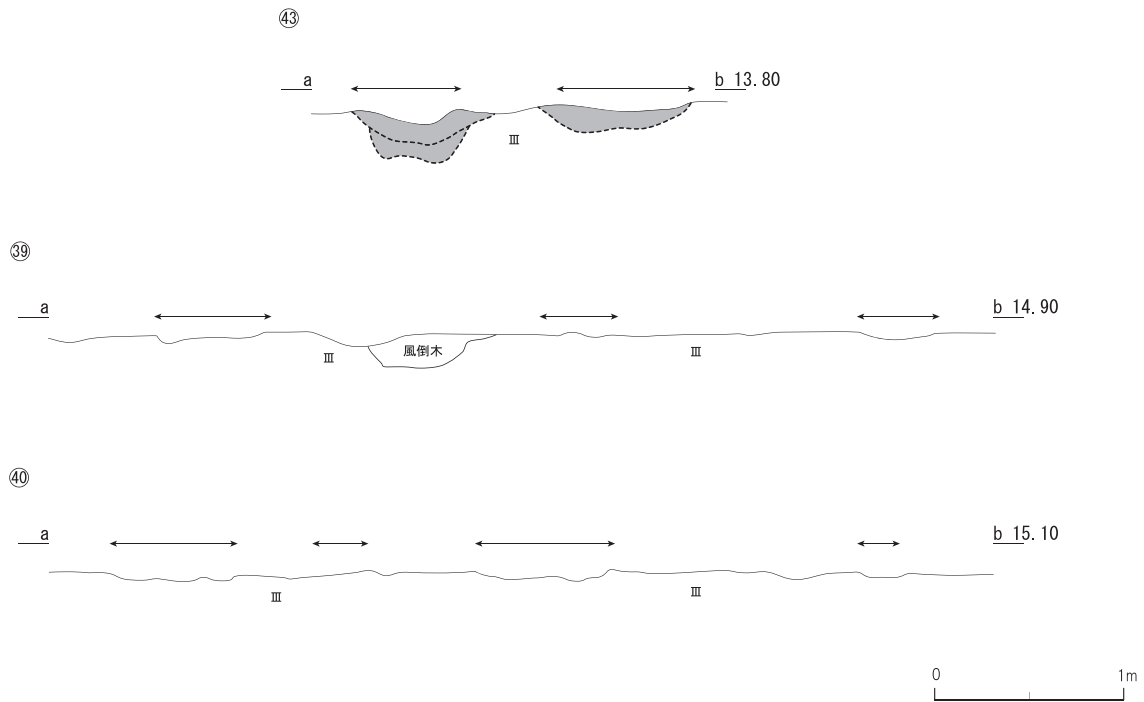




图V-1-93 ⅢR-1断面图(1)



図V-1-94 III R-1断面図(2)



図V-1-95 III R-1断面図(3)

(8) 礫集中

Ⅲ S - 1 (図V-1-96/表V-1-7/図版35)

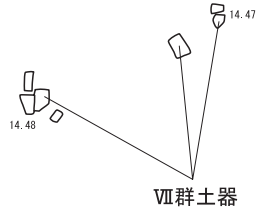
確認・調査 B地区のH19区を調査中にⅢ層中位で泥岩の礫片が出土した。同一母岩とみられたことから周辺を精査したところ21点を検出した。付近は遺物出土のまばらな地点であったことから、周辺を精査したところⅦ群土器や鉄製品を確認した。

遺物 1はⅢ S - 1から出土した礫片のうち16点が接合したもの。図中の○数字は遺物番号を表す。剥離順番は原石から④、⑧、⑦の順に割りとり、⑦から①⑨、⑥から②③⑤⑨、⑧から⑨を剥離している。各破片に使用したような痕跡はなく、ほぼすべての破片が接合して礫が復元される。

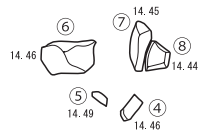
時期 近隣の同一層位からⅦ群土器(図V-2-18-53)が出土していることから、擦文文化期と考えられる。(酒井)

ⅢS-1

H19b



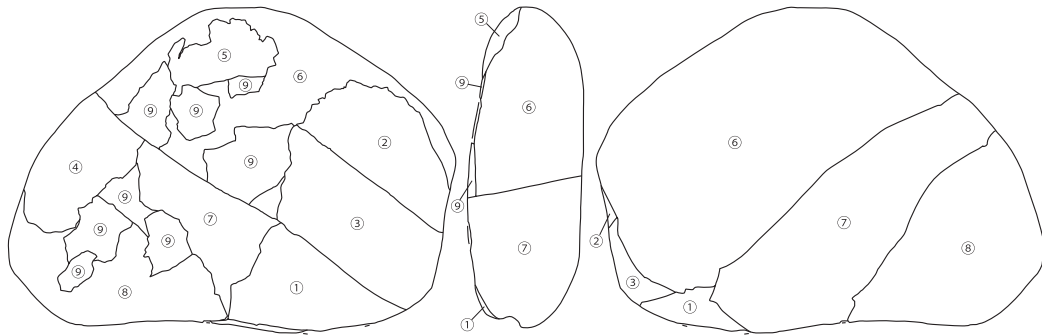
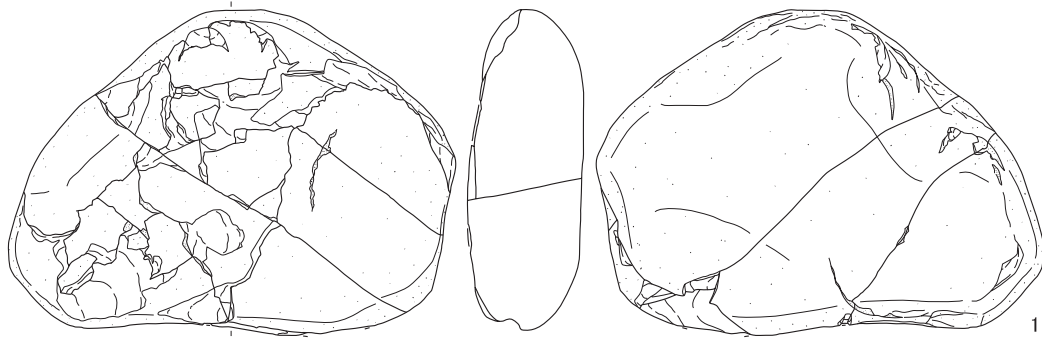
ⅢS-1



14.42
鍛造鉄製品



H19a



図V-1-96 ⅢS-1

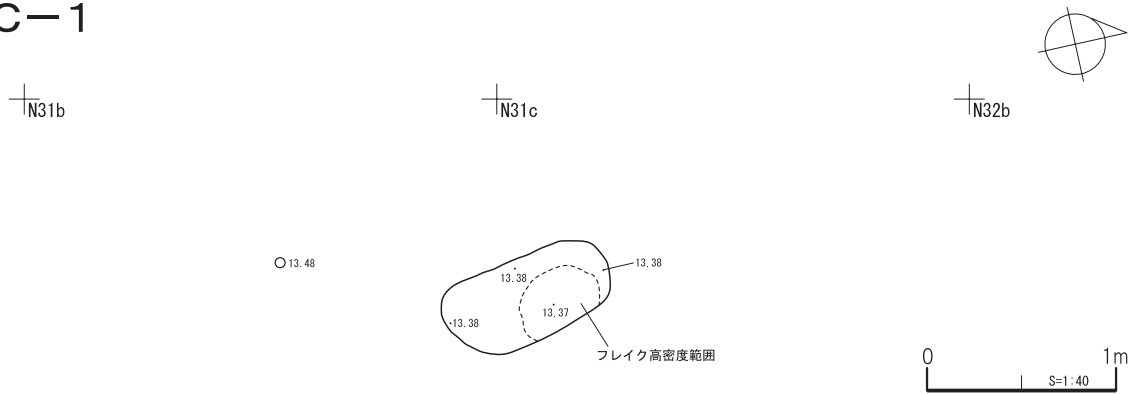
(9) 剥片集中

ⅢFC-1 (図V-1-97/表V-1-8)

確認・調査 B地区のN31区を調査中にⅢ層中位で黒曜石のフレイク・チップが0.91×0.43mほどの範囲にまとまっているのを検出した。径0.01m以下の微細なチップが主体であったことから、この範囲の土壌を採取し、水洗選別により遺物を抽出した。下部からは掘り込みなどは確認されなかった。
遺物 黒曜石のフレイク・チップ2387点が出土した。製品あるいは未成品は含まれていなかった。N31区のⅢFC-1周辺の包含層からも、黒曜石のフレイク・チップが1008点出土しており、同時期の石器製作作業で生じた可能性がある。

時期 近隣のアイヌ文化期の道跡・焼土・貝集中などの遺構よりも下位で形成されている。また、同一層位からⅥ群a類土器が出土していることから、続縄文時代前葉と考えられる。(芝田)

ⅢFC-1



図V-1-97 ⅢFC-1

梅川4 遺跡(3)

遺構番号	調査区	規模(m)					傾き(度)	平面形	先端形状	備考	図番号	図版番号	
		上端		下端		深さ							
		長軸	短軸	長軸	短軸								
ⅢH-7	HP-15	L27c	0.08	0.08	0.03	0.03	0.16	0	円形	尖る	屋内	図V-1-7	図版23
	HP-16	L28b	0.08	0.07	0.02	0.02	0.08	0	円形	尖る	屋内、先端のみ		
	HP-17	L28b	0.12	0.12	0.05	0.05	0.13	0	円形	丸底	屋内		
	HP-18	L27c	0.06	0.06	0.02	0.02	0.08	1	円形	尖る	屋内		
	HP-19	L27c	0.10	0.07	0.05	0.04	0.11	0	楕円形	丸底	屋内		
	HP-20	M27d	0.08	0.07	0.03	0.03	0.09	15	円形	尖る	屋内		
	HP-21	M27d	0.10	0.10	0.06	0.05	0.09	0	円形	角底	屋内		
	HP-22	L27c	0.09	0.09	0.03	0.03	0.13	1	円形	尖る	屋外		
HP-23	L27b・c	0.11	0.10	0.04	0.03	0.17	8	円形	尖る	屋外			
ⅢH-8	K30、L30・31	3.54	3.30	—	—	—	—	—	方形	—	道路直下	図V-1-8	図版24
	HF-1	L30d	0.64	0.46	—	—	0.08	—	不整楕円形	—	灰層なし		
	HP-1	K30c	0.11	0.10	0.04	0.04	0.15	12	円形	尖る			
	HP-2	L30d	0.12	0.09	0.05	0.04	0.21	7	楕円形	尖る			
	HP-3	L30d	0.12	0.10	0.04	0.04	0.20	0	楕円形	尖る			
	HP-4	L31a	0.07	0.07	0.02	0.02	0.08	0	円形	尖る	先端のみ		
	HP-5	L31a	0.11	0.08	0.03	0.03	0.17	0	楕円形	尖る			
	HP-6	L31b	0.06	0.06	0.02	0.02	0.08	0	円形	尖る	先端のみ		
	HP-7	L31b	0.06	0.06	0.03	0.03	0.12	10	円形	尖る			
	HP-8	L30c	0.09	0.09	0.03	0.03	0.26	5	円形	尖る			
	HP-9	L30c	0.09	0.09	0.03	0.03	0.20	3	円形	尖る			
	HP-10	L30c	0.11	0.10	0.05	0.04	0.10	20	円形	尖る			
	HP-11	L30b・c	0.11	0.09	0.05	0.04	0.26	6	楕円形	尖る			
	HP-12	L30b	0.10	0.09	0.04	0.04	0.20	12	円形	尖る			
	HP-13	L30a	0.07	0.07	0.03	0.03	0.14	0	円形	尖る			
	HP-14	L30a	0.06	0.06	0.03	0.03	0.08	15	円形	丸底	先端のみ		
	HP-15	L30a・d	0.09	0.08	0.04	0.04	0.12	1	円形	丸底			
	HP-16	L30d	0.09	0.08	0.04	0.04	0.09	10	円形	尖る	屋内		
	HP-17	L30d	0.10	0.08	0.04	0.03	0.10	7	楕円形	尖る	屋内		
	HP-18	L30a・d	0.07	0.06	0.03	0.02	0.07	20	円形	尖る	屋内、先端のみ		
	HP-19	L30a	0.12	0.11	0.05	0.04	0.21	15	円形	尖る	屋内		
	HP-20	L30c	0.10	0.07	0.03	0.02	0.15	28	楕円形	尖る	屋内		
	HP-21	L30c	0.08	0.07	0.03	0.03	0.11	16	円形	丸底	屋内		
	HP-22	L30c	0.08	0.08	0.02	0.02	0.17	0	円形	尖る	屋内		
	HP-23	L30c	0.06	0.05	0.02	0.02	0.11	0	円形	尖る	屋内		
	HP-24	L30d	0.10	0.08	0.04	0.03	0.11	5	楕円形	尖る	屋内		
	HP-25	L31a	0.12	0.10	0.05	0.05	0.10	0	楕円形	丸底	屋外		
	HP-26	L30c	0.12	0.09	0.05	0.04	0.14	5	楕円形	丸底	屋外		
	HP-27	L30c	0.08	0.07	0.02	0.02	0.10	8	円形	尖る	屋外		
	HP-28	L30a	0.07	0.07	0.04	0.04	0.15	20	円形	尖る	屋外		
	HP-29	L30a	0.08	0.08	0.03	0.03	0.16	0	円形	尖る	屋外		
HP-30	L30a	0.10	0.08	0.03	0.03	0.09	0	楕円形	尖る	屋外			
HP-31	L30a	0.08	0.07	0.04	0.04	0.09	0	円形	丸底	屋外			
ⅢH-9	N28、O28・29	2.89	2.73	—	—	—	—	—	方形	—		図V-1-9	図版24
	HF-1	O28d	0.77	(0.37)	—	—	0.11	—	不整円形	—	灰層あり		
	HP-1	N28c	0.08	0.07	0.04	0.04	0.08	15	円形	尖る	先端のみ		
	HP-2	N28c	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07	10	円形	尖る	先端のみ		
	HP-3	O29a	0.06	0.06	0.02	0.02	0.22	0	円形	尖る			
	HP-4	O28d・O29a	0.06	0.06	0.02	0.02	0.05	8	円形	尖る	先端のみ		
	HP-5	O28d	0.09	0.08	0.03	0.03	0.06	22	円形	尖る	先端のみ		
	HP-6	O28d	0.06	0.05	0.02	0.02	0.05	0	円形	尖る	先端のみ		
	HP-7	O28a・d	0.07	0.07	0.02	0.02	0.19	3	円形	尖る			
	HP-8	O28a	0.06	0.06	0.02	0.02	0.08	0	円形	丸底	先端のみ		
	HP-9	O28a	0.07	0.07	0.03	0.02	0.09	0	円形	尖る	先端のみ		
	HP-10	O28a	0.07	0.07	0.03	0.03	0.08	15	円形	尖る	先端のみ		
	HP-11	N28b	0.11	0.10	0.04	0.04	0.08	10	円形	尖る	先端のみ		
	HP-12	N28b	0.09	0.08	0.03	0.03	0.09	8	円形	尖る	先端のみ		
	HP-13	N28b	0.04	0.04	0.02	0.02	0.06	10	円形	尖る	屋外、先端のみ		
	HP-14	N28b	0.06	0.06	0.03	0.03	0.03	0	円形	丸底	屋外、先端のみ		
	HP-15	O28a	0.08	0.07	0.03	0.02	0.12	0	円形	尖る	屋外		
	HP-16	O28a	0.08	0.08	0.02	0.02	0.07	25	円形	尖る	屋外、先端のみ		
HP-17	O29a	0.06	0.06	0.02	0.02	0.09	5	円形	尖る	屋外、先端のみ			
HP-18	N28b	0.11	0.09	0.06	0.05	0.06	0	楕円形	丸底	屋外、先端のみ			
ⅢH-10	O・P27・28	3.19	2.87	—	—	—	—	—	方形	—		図V-1-10	図版24
	HF-1	O27c・d	0.76	(0.24)	—	—	0.09	—	不整楕円形	—	灰層あり		
	HP-1	O27d	0.12	0.12	0.05	0.05	0.13	6	円形	丸底			
	HP-2	O28a	0.07	0.07	0.03	0.03	0.12	10	円形	尖る			
	HP-3	O28a	0.09	0.09	0.04	0.04	0.13	16	円形	尖る			
	HP-4	O28b	0.12	0.12	0.06	0.05	0.16	25	円形	尖る			
	HP-5	O27c	0.10	0.10	0.04	0.04	0.09	15	円形	尖る	先端のみ		
	HP-6	O27c	0.09	0.09	0.03	0.03	0.11	0	円形	丸底			
	HP-7	O27c	0.08	0.07	0.03	0.03	0.18	16	円形	尖る			
	HP-8	O27d	0.13	0.11	0.04	0.04	0.09	14	楕円形	丸底	先端のみ		
	HP-9	O27d	0.08	0.08	0.03	0.03	0.21	8	円形	尖る	屋内		
	HP-10	O27d	0.11	0.11	0.05	0.04	0.28	0	円形	尖る	屋内(HF-1直下)		
	HP-11	O28b	0.09	0.08	0.04	0.04	0.05	11	円形	丸底	屋外、先端のみ		
	HP-12	O28b	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07	6	円形	尖る	屋外、先端のみ		
	HP-13	O28b	0.10	0.10	0.04	0.04	0.12	15	円形	尖る	屋外		
	HP-14	O28b	0.09	0.08	0.04	0.04	0.10	8	円形	尖る	屋外		
	HP-15	O28b	0.08	0.07	0.03	0.03	0.13	0	円形	尖る	屋外		
	HP-16	O27b	0.08	0.06	0.03	0.03	0.12	20	楕円形	尖る	屋外		
HP-17	O27c	0.10	0.08	0.04	0.04	0.06	0	楕円形	尖る	屋外、先端のみ			
HP-18	P27d	0.09	0.06	0.03	0.02	0.06	0	楕円形	丸底	屋外、先端のみ			

遺構番号	調査区	規模(m)					傾き(度)	平面形	先端形状	備考	図番号	図版番号	
		上端		下端		深さ							
		長軸	短軸	長軸	短軸								
ⅢH-11	O・P27		3.14	2.65				方形	—		図V-1-11	図版25	
	H F-1	P27 a・d	0.49	0.34	—	—	0.08	—	楕円形	—			灰層あり
	H P-1	O27 c	0.10	0.09	—	—	—	—	円形	—			
	H P-2	P27 d	0.10	0.10	0.03	0.03	0.10	7	円形	尖る			
	H P-3	P27 d	0.07	0.06	0.02	0.02	0.09	8	円形	尖る			先端のみ
	H P-4	P27 c	0.06	0.06	0.02	0.02	0.07	15	円形	尖る			先端のみ
	H P-5	P27 b	0.05	0.05	0.02	0.02	0.06	10	円形	尖る			先端のみ
	H P-6	P27 a	0.07	0.07	0.03	0.03	0.14	28	円形	尖る			
	H P-7	P27 a	0.08	0.08	0.03	0.03	0.17	5	円形	尖る			
	H P-8	O27 b	0.08	0.07	0.03	0.02	0.11	20	円形	尖る			
	H P-9	P27 d	0.11	0.08	0.04	0.04	0.08	0	楕円形	丸底			屋内、先端のみ
	H P-10	P27 d	0.08	0.06	0.03	0.02	0.10	5	楕円形	尖る			屋内
	H P-11	P27 a	0.07	0.06	0.02	0.02	0.10	10	円形	尖る			屋外
H P-12	O27 c	0.07	0.07	0.02	0.02	0.06	0	円形	丸底	屋外、先端のみ			
H P-13	O27 b	0.07	0.07	0.02	0.02	0.30	5	円形	尖る	屋外			
ⅢH-12	N29		3.38	2.74	—	—	—	—	方形	—	火打金出土	図V-1-12	図版25
	H F-1	N29 b	0.90	0.73	—	—	0.06	—	不整形	—	灰層なし		
	H A-1	N29c	0.65	0.29	—	—	—	—	不定形	—			
	H P-1	N29 a	0.08	0.07	0.02	0.02	0.10	5	円形	尖る			
	H P-2	N29 a	0.09	0.08	0.03	0.03	0.06	22	円形	尖る	先端のみ		
	H P-3	N29 d	0.14	0.12	0.05	0.05	0.22	1	楕円形	尖る			
	H P-4	N29 d	0.08	0.07	0.02	0.02	0.13	0	円形	尖る			
	H P-5	N29 d	0.05	0.05	0.02	0.02	0.06	0	円形	尖る	屋外、先端のみ		
	H P-6	N29 d	0.08	0.08	0.02	0.02	0.07	10	円形	尖る	屋外		
	H P-7	N29 d	0.10	0.09	0.03	0.02	0.13	13	円形	尖る			
	H P-8	N29 c	0.07	0.06	0.03	0.02	0.03	0	円形	尖る	屋外、先端のみ		
	H P-9	N29 c	0.06	0.05	0.02	0.02	0.07	10	円形	尖る	先端のみ		
	H P-10	N29 c	0.13	0.12	0.05	0.05	0.17	0	円形	尖る			
	H P-11	N29 c、O29 d	0.06	0.06	0.03	0.03	0.09	10	円形	尖る			
	H P-12	N29 b	0.08	0.07	0.04	0.04	0.07	15	円形	角底	屋外、先端のみ		
	H P-13	N29 b	0.08	0.07	0.06	0.05	0.08	25	円形	角底	先端のみ		
	H P-14	N29 b	0.06	0.06	0.02	0.02	0.05	19	円形	尖る	屋外、先端のみ		
	H P-15	N29 b	0.07	0.06	0.03	0.02	0.04	20	円形	尖る	屋内、先端のみ		
	H P-16	N29 b	0.06	0.05	0.02	0.02	0.06	5	円形	尖る	先端のみ		
	H P-17	N29 b	0.09	0.07	0.03	0.03	0.04	20	楕円形	丸底	先端のみ		
	H P-18	N29 b	0.08	0.07	0.03	0.02	0.10	0	円形	尖る			
	H P-19	N29 a	0.11	0.09	0.03	0.03	0.17	0	楕円形	尖る			
H P-20	N29 a	0.09	0.08	0.05	0.05	0.06	0	円形	丸底	屋外、先端のみ			
H P-21	N29 a	0.09	0.07	0.04	0.04	0.03	15	円形	尖る	先端のみ			
H P-22	N29 a	0.05	0.05	0.02	0.02	0.08	5	円形	尖る	屋内、先端のみ			
ⅢH-13			3.42	3.35	—	—	—	—	方形	—	B調査試掘坑	図V-1-13	図版25
	H F-1	P26 b・c	0.53	0.35	—	—	0.09	—	楕円形	—	灰層なし		
	H P-1	P26 c	0.11	0.06	0.03	0.02	0.07	0	楕円形	丸底			
	H P-2	Q26 d	0.08	0.08	0.03	0.02	0.08	10	円形	尖る			
	H P-3	P26 c	0.06	0.05	0.02	0.02	0.21	0	円形	尖る	屋内		
	H P-4	Q26 a	0.06	0.06	0.03	0.02	0.07	12	円形	尖る			
	H P-5	P26 c	0.07	0.06	0.03	0.02	0.05	0	方形	尖る	先端のみ		
	H P-6	P26 d	0.05	0.05	0.02	0.02	0.06	10	円形	尖る	先端のみ		
	H P-7	P26 a	0.05	0.05	0.02	0.02	0.06	0	円形	尖る	先端のみ		
H P-8	P26 a	0.07	0.06	0.03	0.02	0.06	0	方形	尖る	先端のみ			
H P-9	P26 c	0.06	0.06	0.02	0.02	0.09	0	円形	尖る	屋内			

表V-1-2 杭穴規模一覧

遺構番号	調査区	検出層位	規模(m)		傾き(度)	平面形	先端形状	覆土	時期	特徴	図番号
			径	深さ							
ⅢS P-1	N23 a	Ⅲ層	0.09	0.12	2	円形	尖る	1	アイヌ文化期		図V-1-15、23
ⅢS P-2	P21 b	Ⅲ層	0.07	0.16	8	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢS P-3	F34 b	Ⅳ層	0.08	0.14	10	円形	丸底	5	アイヌ文化期		
ⅢS P-4	F34 b	Ⅳ層	0.08	0.16	0	円形	丸底	2	アイヌ文化期		
ⅢS P-5	F34 a	Ⅳ層	0.14	0.21	0	円形	丸底	1	アイヌ文化期		
ⅢS P-6	H33 d、H34 a	Ⅲ層	0.10	0.14	12	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期		
ⅢS P-7	H32 d	Ⅲ層	0.16	0.34	10	円形	尖る	2	アイヌ文化期	ⅢF-30と重複、屈曲	
ⅢS P-8	F33 d	Ⅳ層	0.07	0.08	14	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢS P-9	F33 c	Ⅳ層	0.06	0.18	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
ⅢS P-10	F33 d	Ⅳ層	0.08	0.18	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-11	F33 a	Ⅳ層	0.06	0.10	0	円形	丸底	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-12	F33 b	Ⅳ層	0.07	0.10	8	円形	尖る	5	アイヌ文化期		
ⅢS P-13	F33 b	Ⅳ層	0.08	0.20	0	円形	尖る	1	アイヌ文化期		
ⅢS P-14	F33 b	Ⅳ層	0.08	0.10	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-15	F33 b	Ⅳ層	0.07	0.14	0	楕円形	丸底	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-16	F33 b	Ⅳ層	0.10	0.20	20	円形	尖る	5	アイヌ文化期	屈曲	
ⅢS P-17	F33 b	Ⅳ層	0.09	0.10	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢS P-18	F33 a	Ⅳ層	0.07	0.08	0	円形	丸底	4	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢS P-19	G33 a	Ⅳ層	0.08	0.14	17	円形	尖る	7	アイヌ文化期	ⅢK-6と重複	
ⅢS P-20	G33 a	Ⅳ層	0.08	0.11	15	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-21	G33 a	Ⅳ層	(0.09)	0.14	0	円形	丸底	4	アイヌ文化期	ⅢS P-40と重複	
ⅢS P-22	G33 a	Ⅳ層	0.07	0.14	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
ⅢS P-23	G33 a	Ⅳ層	0.09	0.08	0	楕円形	丸底	4	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢS P-24	G33 a	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	丸底	5	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢS P-25	G33 b	Ⅳ層	0.07	0.12	20	円形	尖る	5	アイヌ文化期		
ⅢS P-26	G33 b	Ⅳ層	0.11	0.13	3	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-27	G33 c	Ⅳ層	0.07	0.11	0	円形	丸底	4	アイヌ文化期		
ⅢS P-28	G33 b	Ⅳ層	0.06	0.26	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
ⅢS P-29	G33 b	Ⅳ層	0.11	0.20	20	円形	角底	5	アイヌ文化期		
ⅢS P-30	G33 b	Ⅳ層	0.10	0.17	15	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-31	G33 b	Ⅳ層	0.09	0.20	5	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
ⅢS P-32	G33 b	Ⅳ層	0.12	0.28	0	円形	丸底	1	アイヌ文化期	V層まで到達	
ⅢS P-33	G33 b	Ⅳ層	0.10	0.30	14	円形	尖る	5	アイヌ文化期	V層まで到達	

梅川4遺跡(3)

遺構番号	調査区	検出層位	規模(m)		傾き(度)	平面形	先端形状	覆土	時期	特徴	図番号
			径	高さ							
Ⅲ S P-34	G33 b	Ⅳ層	0.08	0.12	33	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-35	G33 b	Ⅳ層	0.08	0.17	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-36	G33 b	Ⅳ層	0.06	0.11	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-37	G33 d	Ⅳ層	0.08	0.13	7	円形	丸底	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-38	G33 c・d	Ⅳ層	0.09	0.11	17	円形	丸底	5	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-39	G33 c	Ⅳ層	0.09	0.11	0	円形	尖る	5	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-40	G33 a	Ⅳ層	0.10	0.12	0	円形	尖る	5	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-41	G32 d、G33 a	Ⅳ層	0.07	0.12	0	円形	丸底	4	アイヌ文化期	Ⅲ P-21・127と重複	
Ⅲ S P-42	G32 d	Ⅳ層	0.07	0.16	0	円形	丸底	5	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-43	G33 b	—	—	—	—	円形	—	—	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-44	H33 a	Ⅳ層	0.09	0.10	0	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-45	F32 d	Ⅳ層	0.09	0.19	0	円形	尖る	5	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-46	F32 d	Ⅳ層	0.11	0.08	20	円形	丸底	7	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-47	F32 d	Ⅳ層	0.07	0.14	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-48	F32 d	Ⅳ層	0.09	0.20	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-49	F32 d	Ⅳ層	0.11	0.35	12	楕円形	尖る	5	アイヌ文化期	V層まで到達	
Ⅲ S P-50	F32 d	Ⅳ層	0.08	0.20	5	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-51	F32 b	Ⅳ層	0.07	0.21	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-52	F32 d	Ⅳ層	0.11	0.14	5	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-53	F32 b	Ⅳ層	0.05	0.09	8	円形	丸底	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-54	F32 b	Ⅳ層	0.09	0.10	22	円形	丸底	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-55	F32 c	Ⅳ層	0.06	0.24	8	円形	丸底	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-56	F32 c	Ⅳ層	0.08	0.06	0	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-57	G32 a	Ⅳ層	0.08	0.07	0	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-58	G32 a	Ⅳ層	0.08	0.08	10	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-59	G32 a	Ⅳ層	0.10	0.16	5	円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-60	G32 a	Ⅳ層	0.05	0.12	0	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-61	G32 d	Ⅳ層	0.10	0.11	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-62	G32 d	Ⅳ層	0.10	0.22	6	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-63	G32 d	Ⅳ層	0.09	0.23	0	円形	尖る	5	アイヌ文化期	Ⅲ K-6と重複	
Ⅲ S P-64	G32 d	Ⅳ層	0.10	0.20	0	円形	丸底	7	アイヌ文化期	Ⅲ K-6と重複	
Ⅲ S P-65	G32 d	Ⅳ層	0.08	0.12	10	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-66	G32 d	Ⅳ層	0.10	0.13	0	楕円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-67	G32 d	Ⅳ層	0.08	0.16	0	円形	丸底	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-68	G32 d	Ⅳ層	0.08	0.08	15	円形	尖る	4	アイヌ文化期	Ⅲ P-130と重複、先端のみ	
Ⅲ S P-69	G32 d	Ⅳ層	0.08	0.10	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-70	G32 d	Ⅳ層	0.10	0.13	5	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-71	G32 a	Ⅳ層	0.07	0.08	15	円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-72	G32 a	Ⅳ層	0.08	0.12	8	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-73	G32 a	Ⅳ層	0.10	0.12	0	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-74	G32 a	Ⅳ層	0.07	0.07	0	円形	尖る	2	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-75	G32 a	Ⅳ層	0.10	0.11	0	楕円形	尖る	2	アイヌ文化期	Ⅲ F-51と重複	
Ⅲ S P-76	G32 a	Ⅳ層	0.07	0.15	12	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-77	G32 a	Ⅳ層	0.08	0.10	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-78	G32 a	Ⅳ層	0.09	0.07	28	円形	尖る	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-79	G32 a	Ⅳ層	0.10	0.18	0	円形	角底	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-80	G32 a	Ⅳ層	0.09	0.11	15	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-81	G32 a・b	Ⅳ層	0.08	0.09	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-82	G32 b	Ⅳ層	0.07	0.08	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-83	G32 b	Ⅳ層	0.06	0.06	18	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-84	G32 b	Ⅳ層	0.10	0.10	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-85	G32 b	Ⅳ層	0.08	0.10	25	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-86	G32 b	Ⅳ層	0.07	0.06	10	円形	尖る	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-87	G32 b	Ⅳ層	0.07	0.08	20	円形	尖る	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-88	G32 b	Ⅳ層	0.06	0.10	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-89	G32 b	Ⅳ層	0.10	0.18	10	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-90	G32 b	Ⅳ層	0.08	0.09	15	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-91	G32 c	Ⅲ層	0.10	0.15	20	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-92	G32 c	Ⅳ層	0.07	0.15	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-93	G32 b	Ⅳ層	0.08	0.20	10	円形	丸底	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-94	G32 c	Ⅳ層	0.06	0.07	12	円形	尖る	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-95	G32 c	Ⅳ層	0.09	0.21	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期	段あり	
Ⅲ S P-96	G32 c	Ⅳ層	0.08	0.18	0	円形	丸底	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-97	G32 c	Ⅳ層	0.06	0.11	0	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-98	G32 c	Ⅳ層	0.06	0.13	9	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-99	G32 c	Ⅳ層	0.08	0.13	5	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-100	G32 c	Ⅳ層	0.08	0.14	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-101	G32 c	Ⅳ層	0.08	0.10	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-102	G32 c	Ⅳ層	0.10	0.16	0	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-103	G32 c	Ⅳ層	0.07	0.21	0	円形	尖る	5	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-104	G32 c	Ⅳ層	0.10	0.21	5	円形	尖る	4	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-105	G32 c	Ⅳ層	0.08	0.20	10	楕円形	尖る	4	アイヌ文化期	屈曲	
Ⅲ S P-106	G32 c	Ⅳ層	0.09	0.06	0	円形	丸底	7	アイヌ文化期	Ⅲ F-48と重複、先端のみ	
Ⅲ S P-107	G32 c	Ⅳ層	0.06	0.06	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-108	G32 c	Ⅳ層	0.12	0.21	12	円形	丸底	7	アイヌ文化期	屈曲	
Ⅲ S P-109	G32 c	Ⅳ層	0.06	0.21	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-110	G32 c	Ⅳ層	0.05	0.07	0	円形	尖る	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-111	G32 c	Ⅳ層	0.05	0.11	0	円形	丸底	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-112	G32 c	Ⅳ層	0.07	0.05	0	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-113	H32 d	Ⅳ層	0.11	0.25	5	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-114	H32 d	Ⅳ層	0.08	0.11	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-115	H32 a	Ⅳ層	0.06	0.09	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-116	H32 a	Ⅳ層	0.06	0.07	0	楕円形	丸底	4	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-117	H32 a	Ⅳ層	0.09	0.07	10	円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-118	F31 d	Ⅳ層	0.10	0.15	13	円形	尖る	1	アイヌ文化期	Ⅲ K-8と重複、道路直下	
Ⅲ S P-119	F31 e、F32 b	Ⅳ層	0.06	0.09	0	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-120	F31 c	Ⅳ層	0.06	0.08	0	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-121	G31 b	Ⅳ層	0.09	0.12	30	円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-122	G31 c	Ⅳ層	0.06	0.10	30	円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-123	G31 c	Ⅳ層	0.07	0.08	25	円形	尖る	5	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-124	G31 c	Ⅳ層	0.06	0.08	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-125	H32 d	Ⅳ層	0.05	0.06	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期	先端のみ	図V-1-15、24
Ⅲ S P-126	F33 b	Ⅳ層	0.08	0.13	8	円形	尖る	7	アイヌ文化期		図V-1-15、23
Ⅲ S P-127	G32 d	Ⅳ層	(0.04)	0.15	12	不明	尖る	7	アイヌ文化期	Ⅲ S P-40と重複	

梅川4遺跡(3)

遺構番号	調査区	検出層位	規模(m)		傾き(度)	平面形	先端形状	覆土	時期	特徴	図番号
			径	深さ							
ⅢSP-222	132d	Ⅳ層	0.09	0.15	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	ⅢSP-416と重複	図V-1-15、26
ⅢSP-223	132d	Ⅳ層	0.06	0.15	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-224	132d	Ⅳ層	0.07	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-225	132d	Ⅳ層	0.06	0.09	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-226	132d	Ⅳ層	0.03	0.03	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-227	132d	Ⅳ層	0.05	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-228	132d	Ⅳ層	0.05	0.09	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-229	132d	Ⅳ層	0.04	0.07	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-230	132d	Ⅳ層	0.05	0.04	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-231	132d	Ⅳ層	0.08	0.11	0	円形	尖る	9	アイヌ文化期		
ⅢSP-232	132a	Ⅳ層	0.07	0.20	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-233	132a	Ⅳ層	0.10	0.20	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-234	132a	Ⅳ層	0.10	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-235	132a	Ⅳ層	0.04	0.06	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-236	132b	Ⅳ層	0.11	0.27	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-237	132b	Ⅳ層	0.04	0.09	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-238	132b	Ⅳ層	0.06	0.13	3	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-239	132b	Ⅳ層	0.05	0.06	0	円形	角底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-240	132b	Ⅳ層	0.09	0.23	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端が窄まる	
ⅢSP-241	132b	Ⅳ層	0.07	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-242	132b	Ⅳ層	0.08	0.15	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-243	131c	Ⅳ層	0.04	0.09	25	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-244	131c	Ⅳ層	0.08	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-245	131c	Ⅳ層	0.08	0.18	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-246	131c	Ⅳ層	0.07	0.09	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-247	131c	Ⅳ層	0.10	0.12	0	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-248	131c	Ⅳ層	0.07	0.05	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-249	131c	Ⅳ層	0.05	0.07	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-250	131c	Ⅳ層	0.02	0.04	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-251	131c	Ⅳ層	0.06	0.09	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-252	131b	Ⅳ層	0.05	0.06	0	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-253	131b	Ⅳ層	0.04	0.04	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-254	131b	Ⅳ層	0.07	0.18	20	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-255	131b	Ⅳ層	0.05	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-256	131b	Ⅳ層	0.07	0.15	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-257	131a	Ⅳ層	0.09	0.16	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-258	131b	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-259	131a	Ⅳ層	0.07	0.09	2	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-260	131a	Ⅳ層	0.04	0.06	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-261	131a	Ⅳ層	0.05	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-262	131b	Ⅳ層	0.04	0.10	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-263	131b	Ⅳ層	0.07	0.10	0	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-264	132a	Ⅳ層	0.08	0.04	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-265	132a	Ⅳ層	0.03	0.06	0	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-266	132a	Ⅳ層	0.08	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-267	132a	Ⅳ層	0.07	0.19	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-268	132a	Ⅳ層	0.07	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-269	131d	Ⅳ層	0.10	0.16	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-270	131d	Ⅳ層	0.08	0.14	2	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-271	131d	Ⅳ層	0.07	0.08	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-272	131d	Ⅳ層	0.06	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-273	131d	Ⅳ層	0.09	0.14	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-274	131d	Ⅳ層	0.10	0.15	18	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-275	131d	Ⅳ層	0.06	0.07	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-276	131d	Ⅳ層	0.08	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-277	131d	Ⅳ層	0.09	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-278	131d	Ⅳ層	0.05	0.19	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-279	131d	Ⅳ層	0.06	0.10	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-280	131c	Ⅳ層	0.11	0.25	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-281	131c	Ⅳ層	0.04	0.06	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-282	131d	Ⅳ層	0.09	0.18	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端分岐(重複?)	
ⅢSP-283	131d	Ⅳ層	0.07	0.09	0	円形	尖る	9	アイヌ文化期		
ⅢSP-284	131d	Ⅳ層	0.04	0.05	0	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-285	131d	Ⅳ層	0.04	0.06	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-286	131d	Ⅳ層	0.04	0.05	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-287	131d	Ⅳ層	0.07	0.18	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-288	131d	Ⅳ層	0.07	0.16	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-289	131d	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-290	131c	Ⅳ層	0.05	0.09	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-291	131c	Ⅳ層	0.07	0.11	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-292	131b	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-293	131a	Ⅳ層	0.07	0.08	2	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-294	131a	Ⅳ層	0.07	0.14	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-295	H31b、131a	Ⅳ層	0.07	0.10	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-296	H31b、131a	Ⅳ層	0.05	0.10	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-297	131a、d	Ⅳ層	0.04	0.05	0	円形	尖る	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-298	131a	Ⅳ層	0.05	0.05	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-299	131a	Ⅳ層	0.05	0.05	0	円形	尖る	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-300	131a	Ⅳ層	0.06	0.06	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-301	130c	Ⅳ層	0.04	0.07	25	円形	尖る	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-302	130a	Ⅳ層	0.08	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-303	130a	Ⅳ層	0.05	0.09	0	楕円形	尖る	9	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-304	130d	Ⅳ層	0.09	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-305	J32b	Ⅳ層	0.07	0.09	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-306	J31d	Ⅳ層	0.04	0.04	0	円形	角底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-307	J32b	Ⅳ層	0.07	0.14	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-308	J31c	Ⅳ層	0.07	0.05	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-309	J31c	Ⅳ層	0.07	0.05	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-310	J31a	Ⅳ層	0.07	0.24	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-311	J31a	Ⅳ層	0.09	0.12	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-312	J31b	Ⅳ層	0.06	0.08	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-313	J30c	Ⅳ層	0.07	0.07	0	楕円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-314	J30c	Ⅳ層	0.08	0.14	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-315	J31a	Ⅳ層	0.06	0.09	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	

遺構番号	調査区	検出層位	規模(m)		傾き(度)	平面形	先端形状	覆土	時期	特徴	図番号
			径	高さ							
Ⅲ S P-316	J 31 a	Ⅳ層	0.04	0.06	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	図V-1-17、28
Ⅲ S P-317	J 30 c	Ⅳ層	0.05	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下	
Ⅲ S P-318	J 30 c	Ⅳ層	0.04	0.10	0	楕円形	角底	10	アイヌ文化期	道路直下	
Ⅲ S P-319	J 30 b	Ⅳ層	0.07	0.08	0	楕円形	角底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-320	I 32 a	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-321	I 32 a	Ⅳ層	0.13	0.27	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		図V-1-15、28
Ⅲ S P-322	I 30 c	Ⅳ層	0.06	0.07	0	円形	尖る	9	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-323	I 30 c	Ⅳ層	0.07	0.07	2	円形	尖る	9	アイヌ文化期	先端のみ	図V-1-14、28
Ⅲ S P-324	J 30 b	Ⅳ層	0.05	0.06	0	楕円形	尖る	9	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-325	J 29 a	Ⅳ層	0.06	0.06	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	道路直下、先端のみ	図V-1-17、28
Ⅲ S P-326	J 29 b	Ⅳ層	0.09	0.14	0	円形	尖る	9	アイヌ文化期	道路直下	
Ⅲ S P-327	N 29 c	Ⅳ層	0.06	0.10	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		図V-1-16、28
Ⅲ S P-328	N 29 c	Ⅳ層	0.06	0.06	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-329	N 29 c	Ⅳ層	0.06	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-330	N 29 d	Ⅳ層	0.07	0.09	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-331	N 30 a	Ⅳ層	0.06	0.15	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-332	N 30 b	Ⅳ層	0.07	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-333	N 30 b	Ⅳ層	0.07	0.16	2	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-334	N 30 b	Ⅳ層	0.04	0.08	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-335	N 30 b	Ⅳ層	0.04	0.03	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-336	N 30 a	Ⅳ層	0.04	0.07	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-337	N 30 a	Ⅳ層	0.06	0.09	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-338	N 30 a	Ⅳ層	0.06	0.14	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-339	N 30 a	Ⅳ層	0.04	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-340	N 30 a	Ⅳ層	0.06	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-341	N 30 b	Ⅳ層	0.14	0.15	0	円形	丸底	7	アイヌ文化期		図V-1-19、28
Ⅲ S P-342	N 30 b	Ⅳ層	0.07	0.15	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-343	N 30 b	Ⅳ層	0.09	0.12	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-344	N 30 b	Ⅳ層	0.10	0.21	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-345	N 30 b	Ⅳ層	0.06	0.07	0	円形	角底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-346	N 30 c	Ⅳ層	0.05	0.09	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-347	N 30 a	Ⅳ層	0.04	0.02	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-348	N 30 a・d	Ⅳ層	0.06	0.06	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	Ⅲ K-12と重複、先端のみ	
Ⅲ S P-349	N 30 d	Ⅳ層	0.06	0.05	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-350	N 30 a	Ⅳ層	0.07	0.06	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-351	N 30 a	Ⅳ層	0.10	0.32	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-352	N 30 d	Ⅳ層	0.04	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-353	N 30 c	Ⅳ層	0.04	0.24	15	円形	尖る	10	アイヌ文化期	木根?	
Ⅲ S P-354	M 30 b	Ⅳ層	0.07	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-355	O 30 a	Ⅳ層	0.08	0.16	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-356	O 29 d	Ⅳ層	0.09	0.21	3	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-357	O 29 c	Ⅳ層	0.14	0.24	0	楕円形	尖る	7	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-358	K 28 b	Ⅳ層	0.06	0.10	5	楕円形	丸底	1	アイヌ文化期	Ⅲ F-17と重複、道路直下	
Ⅲ S P-359	K 28 c	Ⅲ層	0.08	0.09	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-360	K 28 c	Ⅲ層	0.08	0.08	20	円形	丸底	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-361	K 28 c	Ⅲ層	0.10	0.12	5	円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-362	K 29 a	Ⅳ層	0.10	0.22	18	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	屈曲	
Ⅲ S P-363	K 29 b	Ⅲ層	0.08	0.09	15	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-364	K 29 c	Ⅳ層	0.09	0.13	6	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-365	K 29 c	Ⅳ層	0.06	0.07	15	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-366	K 29 c	Ⅲ層	0.08	0.12	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-367	K 29 c	Ⅲ層	0.08	0.06	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-368	K 29 c	Ⅳ層	0.10	0.14	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	カワンジュガイ出土	
Ⅲ S P-369	K 29 c	Ⅳ層	0.06	0.07	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-370	K 29 d	Ⅳ層	0.07	0.11	28	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-371	H 28 c	Ⅳ層	0.06	0.08	0	方形	角底	10	アイヌ文化期	先端のみ	図V-1-14、28
Ⅲ S P-372	K 30 a	Ⅳ層	0.07	0.12	5	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		図V-1-17、28
Ⅲ S P-373	K 30 a	Ⅳ層	0.10	0.12	30	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-374	K 30 b	Ⅳ層	0.08	0.09	0	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-375	K 30 c・d	Ⅳ層	0.05	0.08	10	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	図V-1-17、29
Ⅲ S P-376	K 30 d	Ⅲ層	0.12	0.22	12	円形	尖る	1	アイヌ文化期	Ⅲ K-22と重複	
Ⅲ S P-377	K 30 d	Ⅳ層	0.13	0.12	6	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	Ⅲ K-22と重複	
Ⅲ S P-378	K 30 d	Ⅳ層	0.08	0.14	30	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-379	L 28 a	Ⅲ層	0.08	0.07	20	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	Ⅲ K-25と重複、先端のみ	
Ⅲ S P-380	L 28 a	Ⅲ層	0.11	0.15	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-381	L 28 d	Ⅲ層	0.07	0.06	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-382	L 28 d	Ⅲ層	0.08	0.08	8	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-383	L 28 d	Ⅲ層	0.12	0.19	8	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-384	L 28 d	Ⅲ層	0.08	0.18	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-385	L 28 c	Ⅳ層	0.08	0.12	15	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期	Ⅲ F-190と重複	
Ⅲ S P-386	L 29 a	Ⅳ層	0.06	0.09	0	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-387	L 29 b	Ⅲ層	0.11	0.12	10	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-388	L 29 a・b	Ⅲ層	0.10	0.09	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-389	L 29 b	Ⅲ層	0.10	0.08	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下、先端のみ	
Ⅲ S P-390	L 29 b	Ⅲ層	0.07	0.10	20	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-391	L 29 b	Ⅲ層	0.05	0.10	12	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-392	L 29 b	Ⅲ層	0.06	0.07	0	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-393	L 29 b	Ⅲ層	0.06	0.08	5	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-394	L 29 b	Ⅲ層	0.10	0.12	15	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
Ⅲ S P-395	L 29 b	Ⅳ層	0.10	0.12	15	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
Ⅲ S P-396	L 29 b	Ⅳ層	0.05	0.13	20	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-397	L 29 a	Ⅲ層	0.08	0.16	10	円形	尖る	1	アイヌ文化期	Ⅲ F-130と重複	
Ⅲ S P-398	L 29 c	Ⅲ層	0.08	0.08	20	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-399	L 29 c	Ⅲ層	0.09	0.22	8	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-400	L 29 c	Ⅲ層	0.07	0.08	10	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-401	L 29 c	Ⅲ層	0.05	0.14	15	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-402	L 29 c	Ⅲ層	0.08	0.07	30	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-403	L 29 c	Ⅳ層	0.09	0.10	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期	Ⅲ F-132と重複	
Ⅲ S P-404	L 29 c	Ⅳ層	0.06	0.10	0	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-405	L 29 c	Ⅳ層	0.11	0.15	15	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期	屈曲	
Ⅲ S P-406	L 29 c	Ⅳ層	0.12	0.20	20	円形	丸底	10	アイヌ文化期	屈曲	
Ⅲ S P-407	L 29 c	Ⅳ層	0.08	0.11	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-408	L 29 c	Ⅳ層	0.08	0.20	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	Ⅲ K-21と重複、道路直下	
Ⅲ S P-409	L 29 c	Ⅳ層	0.12	0.14	12	円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下	

梅川4 遺跡(3)

遺構番号	調査区	検出層位	規模(m)		傾き(度)	平面形	先端形状	覆土	時期	特徴	図番号
			径	高さ							
ⅢSP-410	L29d	IV層	0.07	0.12	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複	図V-1-16, 29
ⅢSP-411	L29d	IV層	0.06	0.09	10	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複、先端のみ	
ⅢSP-412	L29d	IV層	0.04	0.08	0	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複、先端のみ	
ⅢSP-413	L29d	IV層	0.10	0.15	0	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複、道路直下	
ⅢSP-414	L29d	IV層	0.11	0.12	0	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複、道路直下	
ⅢSP-415	L29d	IV層	0.10	0.12	7	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複	
ⅢSP-416	L32d	IV層	0.08	0.11	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	ⅢSP-222と重複	図V-1-15, 26
ⅢSP-417	K31c	Ⅲ層	0.07	0.12	5	円形	尖る	10	アイヌ文化期		図V-1-17, 29
ⅢSP-418	L29d	IV層	0.11	0.14	7	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複	図V-1-16, 29
ⅢSP-419	L29d	IV層	0.09	0.10	0	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	ⅢK-21と重複	
ⅢSP-420	L29d	IV層	0.08	0.11	0	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-421	L29d	IV層	0.05	0.10	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-422	L30a	Ⅲ層	0.08	0.11	20	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		図V-1-17, 29
ⅢSP-423	L30a	Ⅲ層	0.10	0.10	0	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-424	L30a	Ⅲ層	0.09	0.13	0	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-425	L30a	Ⅲ層	0.09	0.10	28	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-426	L30a	IV層	0.08	0.08	20	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-427	L30b	IV層	0.08	0.13	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-428	L30b	IV層	0.06	0.07	0	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-429	L30b	IV層	0.08	0.17	12	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-430	L30b	IV層	0.09	0.16	5	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-431	L30b	Ⅲ層	0.07	0.06	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-432	L30b	Ⅲ層	0.08	0.11	15	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-433	L30b	IV層	0.06	0.10	25	楕円形	丸底	1	アイヌ文化期		
ⅢSP-434	L30b	IV層	0.08	0.08	0	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-435	L30b	IV層	0.13	0.19	20	円形	尖る	6	アイヌ文化期	屈曲	
ⅢSP-436	L30b	Ⅲ層	0.08	0.15	0	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-437	L30b	Ⅲ層	0.11	0.16	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-438	L30b	IV層	0.08	0.13	15	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-439	L30c	IV層	0.08	0.23	7	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-440	L30c	IV層	0.08	0.09	15	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-441	L31d	IV層	0.07	0.16	1	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-442	L31d	IV層	0.06	0.07	0	円形	丸底	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-443	L31c	IV層	0.10	0.12	30	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-444	L31c	IV層	0.05	0.10	8	円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-445	L32a	IV層	0.06	0.09	0	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-446	L32a	IV層	0.05	0.11	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-447	L32c	IV層	0.08	0.22	5	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-448	L33b	IV層	0.08	0.15	5	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-449	M32d	IV層	0.08	0.22	0	円形	丸底	6	アイヌ文化期	V層まで到達	
ⅢSP-450	M32d	IV層	0.10	0.22	10	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-451	M31c	IV層	0.07	0.08	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下、先端のみ	
ⅢSP-452	M30b	Ⅲ層	0.10	0.16	6	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-453	M30a	IV層	0.07	0.11	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-454	L30b	Ⅲ層	0.10	0.17	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	ⅢF-110と重複、灰白色粘土の塊・炭化材を含む	
ⅢSP-455	M30a	Ⅲ層	0.13	0.15	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期	ⅢF-110と重複	
ⅢSP-456	M30a	Ⅲ層	0.07	0.20	0	円形	丸底	6	アイヌ文化期	ⅢF-110と重複	
ⅢSP-457	M30a	Ⅲ層	0.10	0.18	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下、微細骨片含む	
ⅢSP-458	M29d	IV層	0.07	0.10	20	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-459	M29d	IV層	0.07	0.08	5	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-460	M29d	IV層	0.10	0.16	32	円形	尖る	1	アイヌ文化期		
ⅢSP-461	M29d	IV層	0.07	0.12	20	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-462	M29d	IV層	0.07	0.10	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-463	M29d	IV層	0.05	0.08	0	円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-464	M29d	IV層	0.11	0.10	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-465	M29c	IV層	0.09	0.09	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-466	M29a	IV層	0.11	0.20	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-467	M29b	IV層	0.11	0.16	13	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-468	M29b	IV層	0.10	0.12	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-469	M29c	IV層	0.07	0.12	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-470	M29b	IV層	0.05	0.06	8	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-471	M29b	IV層	0.08	0.07	30	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-472	L29b	IV層	0.06	0.08	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-473	M28d	IV層	0.09	0.26	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下、段あり	
ⅢSP-474	M28d	IV層	0.12	0.10	0	方形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-475	M28a・d	IV層	0.10	0.13	0	方形	尖る	10	アイヌ文化期	先端窄まる	
ⅢSP-476	M28a	IV層	0.07	0.06	10	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	ⅢF-163と重複、道路直下	
ⅢSP-477	M28a	IV層	0.09	0.17	15	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-478	M28b	IV層	0.10	0.12	0	円形	丸底	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-479	M28c	IV層	0.08	0.09	25	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-480	M28c	IV層	0.10	0.10	13	三角形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-481	M28c	IV層	0.12	0.15	10	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-482	M27a	IV層	0.09	0.14	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-483	M27a	IV層	0.10	0.10	1	三角形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-484	M27c	IV層	0.12	0.14	0	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-485	M26d	Ⅲ層	0.08	0.20	5	三角形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-486	M26d	Ⅲ層	0.09	0.12	10	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-487	M26d	Ⅲ層	0.10	0.13	7	円形	尖る	6	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-488	M26d	Ⅲ層	0.10	0.16	1	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-489	M26d	Ⅲ層	0.10	0.16	12	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-490	M26c	Ⅲ層	0.08	0.16	20	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-491	M26c	Ⅲ層	0.09	0.27	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-492	N26a	Ⅲ層	0.13	0.15	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-493	N26d	IV層	0.09	0.23	1	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-494	N26d	IV層	0.10	0.28	0	方形	丸底	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-495	N26d	IV層	0.16	0.25	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-496	N27a	IV層	0.09	0.17	5	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-497	N27a	IV層	0.06	0.10	0	円形	丸底	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-498	N27d	IV層	0.09	0.17	15	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
ⅢSP-499	N27d	IV層	0.10	0.25	5	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
ⅢSP-500	N27d	IV層	0.08	0.08	10	方形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-501	N27a	IV層	0.08	0.11	10	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期	道路直下	
ⅢSP-502	N27a	IV層	0.07	0.08	10	楕円形	丸底	1	アイヌ文化期	先端のみ	
ⅢSP-503	N28a	IV層	0.07	0.09	10	楕円形	丸底	1	アイヌ文化期	先端のみ	図V-1-18, 31

遺構番号	調査区	検出層位	規模(m)		傾き(度)	平面形	先端形状	覆土	時期	特徴	図番号
			径	深さ							
Ⅲ S P-504	I 32 a	Ⅳ層	0.07	0.19	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		図V-1-15、31
Ⅲ S P-505	O 28 b	Ⅳ層	0.07	0.04	1	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-506	O 28 c	Ⅳ層	0.08	0.14	5	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-507	O 28 c	Ⅳ層	0.07	0.15	0	円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-508	O 28 c	Ⅳ層	0.05	0.11	8	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-509	O 28 c	Ⅳ層	0.08	0.09	15	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-510	O 28 c	Ⅳ層	0.07	0.07	15	楕円形	尖る	1	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-511	O 27 a	Ⅳ層	0.11	0.25	10	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-512	O 27 b	Ⅳ層	0.11	0.28	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期	屈曲	
Ⅲ S P-513	P 27 b	Ⅳ層	0.07	0.18	0	楕円形	丸底	6	アイヌ文化期	Ⅲ K-15と重複	
Ⅲ S P-514	O 26 c	Ⅲ層	0.10	0.21	5	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-515	I 32 c	Ⅳ層	0.06	0.04	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-516	I 33 b	Ⅳ層	0.05	0.09	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-517	I 33 b	Ⅳ層	0.04	0.05	0	円形	角底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-518	I 33 a	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-519	I 33 a	Ⅳ層	0.08	0.13	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-520	H 33 b	Ⅳ層	0.08	0.15	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-521	H 33 a	Ⅳ層	0.06	0.07	10	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-522	H 33 a	Ⅳ層	0.03	0.02	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-523	H 33 a	Ⅳ層	0.05	0.09	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-524	H 33 a	Ⅳ層	0.05	0.10	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-525	H 33 b	Ⅳ層	0.06	0.09	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-526	H 33 b	Ⅳ層	0.05	0.08	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-527	H 33 a	Ⅳ層	0.07	0.05	0	円形	角底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-528	H 33 a	Ⅳ層	0.07	0.04	0	円形	丸底	9	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-529	H 33 a	Ⅳ層	0.02	0.17	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	木根?	
Ⅲ S P-530	H 33 d	Ⅳ層	0.05	0.11	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-531	H 33 d	Ⅳ層	0.05	0.09	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-532	H 33 d	Ⅳ層	0.05	0.04	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-533	H 33 c	Ⅳ層	0.11	0.25	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-534	H 33 b	Ⅳ層	0.08	0.06	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-535	J 31 b	Ⅳ層	0.07	0.07	0	楕円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-536	J 31 b	Ⅳ層	0.04	0.08	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-537	J 30 b	Ⅳ層	0.06	0.06	0	楕円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-538	J 30 c	Ⅳ層	0.04	0.07	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-539	I 32 a	Ⅳ層	0.08	0.17	10	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-540	K 29 c	Ⅳ層	0.13	0.15	8	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期	Ⅲ K-29と重複、段あり	
Ⅲ S P-541	K 29 c	Ⅳ層	0.05	0.08	10	円形	尖る	6	アイヌ文化期	Ⅲ K-29と重複、先端のみ	
Ⅲ S P-542	I 32 a	Ⅳ層	0.07	0.12	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-543	H 32 c、I 32 d	Ⅳ層	0.09	0.15	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-544	L 26 c	Ⅳ層	0.08	0.14	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-545	L 29 c	Ⅳ層	0.08	0.14	8	楕円形	尖る	6	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-546	L 29 c、M 29 d	Ⅳ層	0.07	0.10	5	円形	尖る	6	アイヌ文化期	Ⅲ F-109と重複	
Ⅲ S P-547	H 33 a	Ⅳ層	0.08	0.21	0	円形	尖る	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-548	N 30 b	Ⅳ層	0.07	0.07	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期	先端のみ	
Ⅲ S P-549	N 30 b	Ⅳ層	0.08	0.12	0	円形	丸底	10	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-550	S 18 c	Ⅳ層	0.10	0.30	0	楕円形	尖る	8	アイヌ文化期	カワシジュガイ出土	
Ⅲ S P-551	S 18 c	Ⅳ層	0.12	0.28	0	円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-552	S 19 b	Ⅳ層	0.11	0.15	0	円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-553	S 19 b	Ⅳ層	0.08	0.16	20	円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-554	S 19 b	Ⅳ層	0.07	0.14	5	円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-555	S 19 a	Ⅳ層	0.10	0.22	10	円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-556	T 19 a	Ⅳ層	0.06	0.12	5	円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-557	T 19 a	Ⅳ層	0.07	0.12	5	楕円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-558	T 19 a	Ⅳ層	0.07	0.13	18	楕円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-559	T 19 a	Ⅳ層	0.11	0.19	15	楕円形	尖る	8	アイヌ文化期		
Ⅲ S P-560	R 20 b	Ⅲ層	0.10	0.24	8	円形	尖る	8	アイヌ文化期	市道路盤に壊される	

覆土の土層

- | | |
|--|--|
| 1：黒色土(10YR1.7/1) 締りあり、粘りなし、Ta-cを多量(40%以上)含む | 7：黒褐色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りなし、Ta-cを少量(10%以上)含む |
| 2：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りなし、Ta-cを多量(40%以上)含む | 8：黒色～黒褐色土(10YR2/1～2/2) 締りなし、粘りあり、腐植土主体、Ta-c(φ～5mm)・炭化材が少量混じる |
| 3：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りあり、Ta-c(φ～5mm)を多量に含む | 9：黒褐色土(10YR3/1) 締りあり、粘りなし、Ta-cを微量(3～5%)含む |
| 4：黒色土(10YR1.7/1) 締りあり、粘りなし、Ta-cを中量(20%以上)含む | 10：黒褐色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りなし、Ta-cを微量(10%以下)含む |
| 5：黒色土(10YR1.7/1) 締りなし、粘りなし、Ta-cを中量(20%以上)含む | 11：褐色土(10YR4/6) 締りなし、粘りなし、Ta-c主体、腐植土が微量に混じる |
| 6：黒色土(10YR1.7/1) 締りあり、粘りなし、Ta-cを少量(20%程)含む | 12：暗褐色土(10YR3/4) 締りなし、粘りなし、Ta-cと腐植土の混合 |

表V-1-3 焼土規模一覧

焼土番号	調査区	規模(m)			形状	形成	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸	厚さ						
ⅢF-5	O23a・d	0.61	0.54	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-6	N23b	0.40	0.35	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-7	N23b	0.59	0.41	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期			図版26
ⅢF-8	O23d、O24a	0.33	0.26	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	ⅢV-1-32、63	
ⅢF-9	O24d	0.61	0.48	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			図版26
ⅢF-10	O23c	0.49	0.35	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	木根による擾乱		
ⅢF-11	O23b	0.49	0.42	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-12	K27d	0.30	0.22	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-13	K27c	0.58	0.49	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			図版26
ⅢF-14	K27c	0.28	0.23	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-15	K28a	0.43	0.38	0.07	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、ⅢK-31と隣接	ⅢV-1-33、63	
ⅢF-16	K28b	0.44	0.30	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-17	K28b	0.18	0.16	—	円形	—	アイヌ文化期	ⅢSP-358と重複		
ⅢF-18	M25b	0.34	0.32	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-19	N24d	0.44	0.32	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-20	F30b	0.32	0.26	0.03	楕円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-21	F29d、F30a	0.60	0.53	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-34、63	
ⅢF-22	G29c	0.52	0.40	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-35、63	
ⅢF-23	F30c	0.51	0.42	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-34、63	
ⅢF-24	G31a・d	0.32	0.25	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-25	G31c	0.54	0.44	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-36、63	
ⅢF-26	F32a	0.66	0.51	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり		
ⅢF-27	F32a	0.39	0.36	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-28	F32c	0.52	0.35	0.04	楕円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-37、63	
ⅢF-29	F32c、G32d	0.64	0.36	0.03	楕円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-62と重複		
ⅢF-30	G32c、G33b、H32d、H33a	2.03	1.00	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-7と重複、灰層あり	ⅢV-1-38、64	図版26
ⅢF-31	G31a・d	0.36	0.39	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-32	G31d	0.52	0.31	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-36、64	
ⅢF-33	G31c、H31d	0.49	0.30	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-38、64	
ⅢF-34	G30a	0.49	0.39	0.07	楕円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-35	G30a	0.49	0.47	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-35、64	
ⅢF-36	G30c・d	0.44	0.38	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-37	F30c	0.43	0.42	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-34、64	
ⅢF-38	F33c・d、F34a・b	0.77	0.44	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	ⅢV-1-38、64	
ⅢF-39	F32d	0.64	0.57	0.11	楕円形	現地	アイヌ文化期	ⅢB-1と重複、灰層あり		図版26
ⅢF-40	F32c・d	0.62	0.45	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢB-1と重複、灰層あり	ⅢV-1-37、64	
ⅢF-41	F32d	0.54	0.38	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢB-1と重複		
ⅢF-42	G31c、G32b	0.40	0.25	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	ⅢV-1-38、64	
ⅢF-43	F31c、G31d	0.34	0.30	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢK-5と重複	ⅢV-1-36、64	
ⅢF-44	G30b	0.72	0.44	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	ⅢV-1-35、64	
ⅢF-45	G31a	0.40	0.38	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-36、64	
ⅢF-46	H33d	0.52	0.49	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	ⅢV-1-39、64	
ⅢF-47	G30b・c	0.55	0.42	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	ⅢV-1-35、64	
ⅢF-48	G32c・d	0.71	0.64	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-106・129と重複、灰層あり	ⅢV-1-39、64	
ⅢF-49	G32a・b・c・d	0.67	0.35	0.15	不整形円形	廃棄	アイヌ文化期			
ⅢF-50	G32a	0.64	0.50	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-39、65	
ⅢF-51	G32a	0.79	0.47	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-75と重複		
ⅢF-52	F31c・F32b	0.61	0.36	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-53	F31c	0.47	0.39	0.08	楕円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-36、65	
ⅢF-54	F31a	0.46	0.36	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-34、65	
ⅢF-55	P22b	0.64	0.49	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり		
ⅢF-56	P22b	0.54	0.49	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-57	P22b	0.44	0.42	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-58	P22c	0.71	0.53	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-59	P22c	0.57	0.42	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-60	P22c	0.50	0.33	0.04	不整形円形	廃棄	アイヌ文化期		ⅢV-1-40、65	
ⅢF-61	Q24d	0.54	0.42	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-62	Q24c・d	0.46	0.34	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-63	Q24d、Q25a	0.40	0.32	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-64	P25b、Q25a	0.39	0.32	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-65	P25a	0.95	0.36	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-66	P25d	0.51	0.28	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		図版27
ⅢF-67	P25d	0.32	0.24	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	ⅢV-1-41、65	
ⅢF-68	Q23c	0.49	0.40	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-69	Q23c	0.18	0.18	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期		ⅢV-1-41、66	
ⅢF-70	L32a・d	0.82	0.68	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	2か所	ⅢV-1-42、66	
ⅢF-71	N29d、N30a	0.71	0.50	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期			図版27
ⅢF-72	I32c	0.44	0.35	0.04	隅丸方形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-73	I32d	0.51	0.31	0.02	隅丸方形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-74	I32d	0.53	0.31	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-75	I31c、I32b	0.76	0.45	0.12	隅丸方形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	ⅢV-1-43、66	
ⅢF-76	I32b	0.43	0.30	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-77	I32d	0.54	0.30	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-78	H32b、I32a	1.47	0.80	0.02	不整形円形	廃棄?	アイヌ文化期			

焼土番号	調査区	規模(m)			形状	形成	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸	厚さ						
ⅢF-79	H31c、I31d、I32a	0.96	0.52	0.03	不整形円形	廃棄?	アイヌ文化期		図V-1-43、66	
ⅢF-80	P25d	0.64	0.35	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-81	P25d、P26a	0.32	0.22	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-82	P26a	0.48	0.37	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、B調試掘坑	図V-1-44、66	
ⅢF-83	O25c	0.40	0.35	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-84	J31b	0.74	0.45	0.06	不整形円形	廃棄?	アイヌ文化期			
ⅢF-85	J31a・d	0.36	0.36	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-45、66	
ⅢF-86	P27d	0.42	0.29	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-46、66	
ⅢF-87	N29d	0.77	0.50	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-88	N29a	0.55	0.37	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-42、66	図版27
ⅢF-89	M29b	0.73	0.51	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-90	I31b	0.68	0.50	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢK-19と隣接	図V-1-45、66	
ⅢF-91	P26c・d	0.54	0.41	0.09	楕円形	現地	アイヌ文化期	ⅢK-15と重複	図V-1-47、67	
ⅢF-92	P26a	0.44	0.37	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-93	O25d	0.27	0.16	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-44、67	
ⅢF-94	O25d、O26a	0.67	0.40	0.09	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり		
ⅢF-95	N28c・d	0.64	0.62	0.08	隅丸方形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-96	N28c	0.86	0.80	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	図V-1-47、67	図版27
ⅢF-97	H31d	0.24	0.24	0.02	円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-98	H31c	0.56	0.28	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-99	H31b	0.63	0.51	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-100	H31b・c	0.72	0.38	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-101	H31c	0.98	0.50	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-178・198と重複	図V-1-48、67	
ⅢF-102	H31c	1.09	0.84	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-103	H31c、I31d	0.45	0.38	0.04	円形	廃棄?	アイヌ文化期			
ⅢF-104	I31d	0.44	0.24	0.02	楕円形	廃棄?	アイヌ文化期			
ⅢF-105	O26a	0.51	0.41	0.10	楕円形	現地	アイヌ文化期			図版28
ⅢF-106	N26b・c	0.93	0.30	0.07	楕円形	現地	アイヌ文化期	2か所	図V-1-49、67	
ⅢF-107	N26c	0.40	0.32	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-108	N26d	0.54	0.36	0.09	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-109	L29c、M29d	1.00	0.64	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-546と重複、灰層あり	図V-1-50、67	図版28
ⅢF-110	L30b、M30a	1.37	0.52	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-454~456と重複		
ⅢF-111	O27c	1.25	0.64	0.09	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-10と重複、2か所	図V-1-46、67	
ⅢF-112	N27d	0.56	0.43	0.10	楕円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-51、68	
ⅢF-113	L31d	0.50	0.46	0.08	隅丸方形	現地	アイヌ文化期	道路直下、灰層あり	図V-1-52、68	図版28
ⅢF-114	L31b	0.22	0.19	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-115	N27d	0.38	0.32	0.08	楕円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-51、68	
ⅢF-116	N27d	0.36	0.32	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-117	O26a	0.38	0.28	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-44、68	
ⅢF-118	O26b・c	0.30	0.25	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-119	N27a・b	0.40	0.37	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-120	N27a・b	0.45	0.24	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-121	N26d、N27a	0.26	0.20	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-51、68	
ⅢF-122	O26d、O27a	0.47	0.38	0.12	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-123	O26d	0.31	0.25	0.03	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
ⅢF-124	J30c	0.39	0.30	0.04	不整形円形	廃棄?	アイヌ文化期		図V-1-53、68	図版28
ⅢF-125	K31a・b	1.24	0.51	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、ⅢB-3と重複、灰層あり		
ⅢF-126	L30a	0.68	0.31	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-8と隣接		
ⅢF-127	L30a	0.42	0.38	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-8と隣接		
ⅢF-128	L30a	0.45	0.37	0.12	楕円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-8と隣接		
ⅢF-129	K30b、L30a	0.58	0.53	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-50、68	
ⅢF-130	L29a・d	0.70	0.56	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-397と重複		図版29
ⅢF-131	L29c	0.41	0.28	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-132	L29c	0.53	0.42	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-403と重複		図版29
ⅢF-133	I31a・b	0.32	0.15	0.02	不整形円形	廃棄?	アイヌ文化期		図V-1-48、68	
ⅢF-134	I30d、I31a	0.75	0.40	0.03	不整形円形	廃棄?	アイヌ文化期			
ⅢF-135	H30c・d	0.55	0.50	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	図V-1-54、68	
ⅢF-136	H30c・d	0.74	0.49	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり		
ⅢF-137	H30a・b	0.40	0.33	0.02	隅丸方形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-138	H30b	0.49	0.44	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢSP-166と重複	図V-1-54、69	
ⅢF-139	O26d、O27a	0.67	0.28	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	図V-1-51、69	
ⅢF-140	O27d	0.40	0.37	0.06	円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-141	O27b	0.65	0.46	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-11と重複	図V-1-46、69	
ⅢF-142	O27b	1.40	0.86	0.11	不整形円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-11と重複		
ⅢF-143	I30c・d	0.81	0.80	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-144	I30c	0.34	0.20	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-54、69	
ⅢF-145	I30b	0.70	0.50	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-146	L29a	0.27	0.20	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-147	L29a	0.36	0.33	0.12	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-55、69	
ⅢF-148	L29a	0.36	0.29	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-149	L28d、L29a	0.41	0.38	0.13	円形	現地	アイヌ文化期			
ⅢF-150	I30d	0.75	0.62	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-48、69	
ⅢF-151	K30c	1.04	0.41	0.06	不整形円形	廃棄	アイヌ文化期	ⅢH-8と隣接	図V-1-55、69	
ⅢF-152	K30c	0.62	0.44	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期	ⅢH-8と隣接		図版29
ⅢF-153	M27a	0.34	0.22	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期		図V-1-56、69	

梅川4遺跡(3)

焼土番号	調査区	規模(m)			形状	形成	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸	厚さ						
Ⅲ F-154	M27 d	0.46	0.26	0.08	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
Ⅲ F-155	M27 b	0.46	0.40	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-56、69	
Ⅲ F-156	M27 b・c、N27 a	2.29	0.65	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
Ⅲ F-157	M27 c	0.44	0.32	0.08	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-158	L29 a	0.18	0.16	—	不整形円形	—	アイヌ文化期			
Ⅲ F-159	L29 d	0.61	0.42	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ K-21と重複	図 V-1-50、69	図版29
Ⅲ F-160	L29 d	0.31	0.26	0.03	楕円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ K-21と重複		
Ⅲ F-161	L29 c・d	0.68	0.42	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、Ⅲ K-21と隣接	図 V-1-50、70	図版29
Ⅲ F-162	L29 c・d	0.29	0.24	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、Ⅲ K-21と重複		
Ⅲ F-163	M28 a	0.55	0.39	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、Ⅲ S P-476と重複		
Ⅲ F-164	M28 a・d	0.59	0.45	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-56、70	
Ⅲ F-165	M28 d	0.63	0.40	0.09	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-166	E20 b	0.45	0.23	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-57、70	
Ⅲ F-167	O27 d・O28 a	0.55	0.53	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ H-10と重複	図 V-1-46、70	
Ⅲ F-168	N26 c、N27 b	0.30	0.22	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-51、70	
Ⅲ F-169	O28 a・d	0.90	0.56	0.09	楕円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ H-9・10と隣接	図 V-1-46、70	
Ⅲ F-170	N28 b、O28 a	0.56	0.55	0.08	円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ H-9と重複	図 V-1-54、70	図版29
Ⅲ F-171	I30 a	0.32	0.15	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-172	J30 c・d	0.42	0.31	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-173	J30 c	0.89	0.62	0.03	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下、灰層あり	図 V-1-53、70	
Ⅲ F-174	J30 b	0.52	0.37	0.04	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-175	J30 b	0.49	0.33	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-176	J29b、K29 a	0.42	0.27	0.02	楕円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-57、70	
Ⅲ F-177	J29b	0.29	0.21	0.03	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-178	I29 b	0.45	0.37	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期	道路直下		
Ⅲ F-179	I29 b	0.71	0.50	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-58、70	
Ⅲ F-180	I29 a・b	0.51	0.33	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-181	I28 d、I29 a	0.65	0.45	0.05	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-182	I29 a	0.40	0.33	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-58、71	
Ⅲ F-183	H28 c、I28 d	0.31	0.31	0.03	円形	現地	アイヌ文化期			図版30
Ⅲ F-184	N26 c、N27 b	0.57	0.49	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	図 V-1-51、71	
Ⅲ F-185	I29 c	0.50	0.39	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-54、71	
Ⅲ F-186	L28 d、L29 a	0.41	0.37	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-187	L28 a・d	0.40	0.35	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-188	L28 c・d	0.38	0.28	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-55、71	
Ⅲ F-189	L28 c	0.65	0.43	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			図版30
Ⅲ F-190	L28 c	(0.39)	0.36	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ S P-385と隣接		
Ⅲ F-191	L28 b	(0.14)	0.42	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	B 調試掘坑に壊される		
Ⅲ F-192	L27 d	0.95	0.52	0.09	楕円形	現地	アイヌ文化期	2か所		
Ⅲ F-193	L27 a・d	0.60	0.39	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	道路直下	図 V-1-58、71	
Ⅲ F-194	L27 b・c・d	0.66	0.44	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-195	L27 d	(0.52)	0.37	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ H-7と重複		
Ⅲ F-196	I28 b	0.26	0.15	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-197	J28 c	0.46	0.35	0.04	楕円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-57、71	
Ⅲ F-198	J28 d	0.45	0.42	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-199	H31 c、I31 d	0.43	0.22	0.02	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-43、71	
Ⅲ F-200	K29 d	1.00	0.52	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-59、71	図版30
Ⅲ F-201	K29 c	0.44	0.32	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-202	K29 c	0.57	0.40	0.06	楕円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ K-29と隣接	図 V-1-59、72	
Ⅲ F-203	H30 c、H31 b	0.63	0.36	0.04	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-204	H31 b	0.57	0.40	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期	Ⅲ K-32と重複	図 V-1-48、72	
Ⅲ F-205	M26 d	0.30	0.29	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-206	M26 c	0.42	0.32	0.08	楕円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-59、72	
Ⅲ F-207	M26 c	0.29	0.24	0.04	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-208	K30 a	0.82	0.53	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-209	O29d、O30 a	(0.84)	0.68	0.09	不整形円形	現地	アイヌ文化期	攪乱を受ける、灰層あり	図 V-1-60、72	図版30
Ⅲ F-210	M31 a	0.58	0.45	0.07	楕円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-211	S20 a	0.47	(0.42)	0.11	不整形円形	現地	アイヌ文化期	市道により削平される		図版30
Ⅲ F-212	S19 d、S20 a	0.59	0.42	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-61、72	
Ⅲ F-213	S19 d	0.66	0.46	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-214	S19 b	0.77	0.45	0.08	不整形円形	現地	アイヌ文化期	柱穴あり		
Ⅲ F-215	S18c、S19b、T18d、T19a	0.79	0.52	0.06	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-62、72	
Ⅲ F-216	T19 a・b	(0.84)	(0.32)	0.05	不整形円形	廃棄	アイヌ文化期	2か所		
Ⅲ F-217	T18 d、T19 a	0.95	0.61	0.12	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり		
Ⅲ F-218	S19 a	0.47	0.27	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-219	S19 b	0.88	0.62	0.10	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-62、73	図版30
Ⅲ F-220	T20 c	0.43	0.39	0.07	不整形円形	現地	アイヌ文化期			
Ⅲ F-221	S17 c	1.10	0.81	0.05	不整形円形	現地	アイヌ文化期	灰層あり	図 V-1-61、73	
Ⅲ F-222	S19 b	0.32	0.28	0.04	不整形円形	現地	アイヌ文化期		図 V-1-62、73	

表V-1-4 灰集中規模一覧

遺構番号	調査区	規模(m)			形状	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸	厚さ					
ⅢA-1	S16d	0.38	0.22	0.02	楕円形	アイヌ文化期	木根による攪乱	図V-1-74	図版31
ⅢA-2	S17a	0.94	0.48	0.06	不定形	アイヌ文化期			
ⅢA-3	S16d、S17a	(0.88)	0.50	0.04	不定形	アイヌ文化期	攪乱を受ける		
ⅢA-4	N30b・c	0.58	0.44	-	不定形	アイヌ文化期		図V-1-75	
ⅢA-5	N30c	1.20	0.24	-	不定形	アイヌ文化期			

表V-1-5 骨集中規模一覧

遺構番号	調査区	規模(m)		形状	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸					
ⅢB-1	F32c・d	2.90	1.40	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-39~41と重複	図V-1-76	図版31
ⅢB-2	F31a・b	0.74	0.24	不定形	アイヌ文化期			
ⅢB-3	K31b	0.32	0.22	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-125と重複	図V-1-77	図版31
ⅢB-4	J31d・J32a	1.28	1.17	不定形	アイヌ文化期	シカ下顎骨		
ⅢB-5	O26a	1.42	0.87	不定形	アイヌ文化期		図V-1-78	

表V-1-6 貝集中規模一覧

遺構番号	調査区	規模(m)		形状	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸					
ⅢK-1	P21d	(1.64)	(0.22)	不定形	アイヌ文化期	市道工事で削平される	図V-1-79	
ⅢK-2	P21d、P22a	1.64	1.52	不定形	アイヌ文化期			
ⅢK-3	F28c、F29b、G28d	2.24	1.14	不定形	アイヌ文化期			図版31
ⅢK-4	F30c・d	1.32	0.54	不定形	アイヌ文化期	灰あり	図V-1-80	
ⅢK-5	F31c、G31d	2.72	0.22	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-43と重複	図V-1-81	
ⅢK-6	F33b、G32d、G33a	2.58	0.10	不定形	アイヌ文化期		図V-1-80	図版32
ⅢK-7	G31b、H31a・d	1.28	0.44	不定形	アイヌ文化期		図V-1-82	
ⅢK-8	F31c・d	2.08	0.40	不定形	アイヌ文化期	殻残存	図V-1-81	
ⅢK-9	F31a・d	(2.04)	(0.32)	不定形	アイヌ文化期	調査範囲外と重複 殻残存		
ⅢK-10	G32d	0.36	0.16	楕円形	アイヌ文化期		図V-1-80	図版33
ⅢK-11	Q29b、R29a	1.38	0.40	不定形	アイヌ文化期		図V-1-82	
ⅢK-12	N30a	2.20	1.14	不定形	アイヌ文化期	3か所	図V-1-83	
ⅢK-13	R30a	0.74	0.38	不定形	アイヌ文化期	2か所		図版33
ⅢK-14	P25b・c・d	(3.62)	0.50	不定形	アイヌ文化期	3か所? 平成19年度調査範囲と重複	図V-1-84	
ⅢK-15	P26b~d、P27b、Q26d	4.22	2.00	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-107と重複		図版33
ⅢK-16	P27c、Q27a・d	2.42	0.24	不定形	アイヌ文化期		図V-1-85	
ⅢK-17	O25d	2.18	0.54	不定形	アイヌ文化期	3か所?		
ⅢK-18	I31b・c、J31d	2.08	0.20	不定形	アイヌ文化期		図V-1-86	図版33
ⅢK-19	I31b	0.54	0.40	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-90と重複		
ⅢK-20	O26c	1.58	0.42	不定形	アイヌ文化期		図V-1-87	
ⅢK-21	L29c・d、L30a	2.82	0.38	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-159~162と重複		図版34
ⅢK-22	K30d	2.34	0.30	不定形	アイヌ文化期		図V-1-88	
ⅢK-23	K30b・c	0.74	0.18	不定形	アイヌ文化期			図版34
ⅢK-24	H29c	1.26	0.10	不定形	アイヌ文化期		図V-1-89	
ⅢK-25	L28a	(1.44)	0.76	不定形	アイヌ文化期			図版34
ⅢK-26	J28c	0.64	0.06	不定形	アイヌ文化期		図V-1-89	
ⅢK-27	J28c	0.78	0.04	不定形	アイヌ文化期			図版34
ⅢK-28	J28c、K28d	0.50	0.10	不定形	アイヌ文化期		図V-1-90	
ⅢK-29	K29c	0.96	0.28	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-202と重複		
ⅢK-30	P29a・b	1.54	(1.04)	不定形	アイヌ文化期	攪乱により削平	図V-1-90	
ⅢK-31	K28a	(0.76)	0.56	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-15と重複		
ⅢK-32	H31b	1.24	0.34	不定形	アイヌ文化期	ⅢF-209と重複	図V-1-91	
ⅢK-33	S18a・b	1.24	1.22	不定形	アイヌ文化期	2か所 殻残存		

表V-1-7 礫集中規模一覧

遺構番号	調査区	規模(m)		形状	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸					
ⅢS-1	H18c	1.10	0.79	不定形	擦文文化期	同一母岩(泥岩)	図V-1-96	

表V-1-8 剥片集中規模一覧

遺構番号	調査区	規模(m)		形状	時期	特徴	図番号	図版番号
		長軸	短軸					
ⅢFC-1	N31b・c	0.91	0.43	不定形	縄文時代	黒曜石	図V-1-97	

表V-1-10 遺構出土動物遺存体一覧

骨番号	遺構	層位	遺物番号	枝番号	枝番号	分類	部位	個体数	点数	備考		
1	ⅢH-12・HF-1	焼土	1			シカ	基節骨	1	10			
2	ⅢSP-456	Ⅲ	1			シカ	骨片		1			
3	ⅢF-96	焼土	2	A	シカ	中間手根骨 r		1	1			
4				B	シカ	橈側手根骨 r		1	1			
5				C	シカ	踵骨 r		1	1			
6				D	シカ	骨片			2	ヤケ 茶		
7			3	A	シカ	尺側手根骨 r		1	1			
8				B	シカ	第2・3手根骨 r		1	1			
9			ⅢF-107	焼土	1			シカ	脛骨 r 遠位	1	1	
10			ⅢF-110	焼土	2	A	サケ類	椎骨		1	1	
11	B	シカ				骨片			3	3点ヤケ 白		
12	ⅢF-111	焼土	1	A	シカ	脛骨 r 遠位		1	1			
13				B	シカ	脛骨 l 遠位		1	1			
14				C	シカ	距骨 l		1	1			
15				D	シカ	骨片			2			
16			2	A	シカ	距骨 r		1	1			
17				B	シカ	橈骨 l 近位		1	1			
18				A	シカ	脛骨 l 遠位		1	2			
19	ⅢF-124	Ⅲ	2	B	シカ	基節骨		1	2	一部ヤケ		
20				C	シカ	骨片		12	2	ヤケ 白 灰 茶~黒		
21				A	シカ	脛骨 l 遠位		1	2			
22	ⅢF-134	焼土	1	B	シカ	骨片			2	ヤケ 白		
23				C	シカ	骨片			23	ヤケ 灰~白		
24				シカ	骨片			4	ヤケ 灰~白			
25	ⅢF-150	焼土	1			シカ	距骨 r	1	1			
26	ⅢF-157	焼土	1			シカ	骨片		1			
27	ⅢF-169	焼土	1			シカ	骨片		5	ヤケ 茶~白		
28	ⅢF-170	焼土	1	A	シカ	踵骨 r		1	1			
29				B	シカ	骨片			3			
30				C	シカ	骨片			3	ヤケ 白		
31	ⅢF-172	Ⅲ	2			シカ	骨片		2			
32	ⅢF-173	焼土	1	A	シカ	末節骨		1	1	ヤケ 灰~白		
33				B	シカ	骨片			10	ヤケ 白		
34				C	シカ	骨片			1	ヤケ 茶		
35		Ⅲ	2	A	シカ	末節骨		1	1			
36				B	シカ	骨片			3	ヤケ 白		
37				C	シカ	骨片			1	ヤケ 黒		
38				ⅢF-221	焼土	3			シカ	上腕骨 l 遠位	1	5
39	ⅢB-1	Ⅲ	2			シカ	骨片		4			
40			6			シカ	骨片		2			
41	ⅢB-2	Ⅲ	1	A		シカ	上腕骨 l 遠位	1	1			
42				B		シカ	骨片		18			
43	ⅢB-3	Ⅲ	1	A	a	シカ	肩甲骨 l	1	2			
44					b	シカ	上腕骨 l 破片		1		関節状態	
45					c	シカ	橈骨 l 近位		1			
46				B		シカ	橈骨 l 近位		1	1		
47	ⅢB-4	Ⅲ	1	A	シカ	下顎骨 l P3~M3		1	1			
48				B	シカ	骨片 (不明)			1	1	関節状態	
49			2			シカ	下顎骨 r l P2~M3		1	1		
50			3			シカ	下顎骨 r P2~M3		1	1		
51			4			シカ	骨片			2		
52			5	A	シカ	下顎骨 r ?		1	1			
53				B	シカ	脛骨 r 遠位		1	1			
54				C	シカ	脛骨 l 遠位		1	1			
55				D	シカ	骨片			1			
56	ⅢK-9	Ⅲ	1	A	シカ	距骨 r		1	1			
57				B	シカ	骨片			1			
58	ⅢK-18	Ⅲ	3	A	シカ	距骨 l		1	1			
59				B	シカ	骨片			3			
60	ⅢK-19	Ⅲ	-			シカ	骨片		12	ヤケ 白 茶~黒		
60	ⅢK-24	Ⅲ	5			シカ	距骨 r	1	1			

2 遺物

(1) 土器

(1)-1 V群c類 (図V-2-1～3 / 表V-2-1 / 図版133・134)

a 浅鉢

・ 顕著な突起や内面に文様が見られるもの: 1～3・6

1は長軸口径37.6cm(推定)、短軸口径32.9cm、器高14.3cmを測る。上面観は楕円形。口縁部には前・後突起が残存する。口縁端面はやや外傾し、主飾部は縦位縄側面圧痕、副飾部はナデのまま。前突起は山形で、頂部に指頭圧痕→内面に横位縄側面圧痕→円形刺突+下向弧状沈線。後突起は低い台形で、頂部中央に指頭圧痕→内面に横位縄側面圧痕→両端に縦位短沈線。主飾部の内面は横位縄側面圧痕→断続鋸歯状沈線。外面は横位回転RL斜走縄文。底部は丸底。内面は横ナデ調整。胎土はやや粗く、中粒砂(石英・長石が多い)・軽石が混和する。接合面は露呈していない。口縁部に2孔1対の補修孔が1か所確認される。内面に炭化物が付着する。

2は全体の約1/3と推測され、残存器高16.0cmを測る。上面観は不明。口縁部には後突起の一部が残存する。後突起は台形と考えられ、端部に小突起を有する。頂部は横位・縦位縄側面圧痕→縦位棒側面圧痕。口縁端面は内傾し、副飾部はナデのまま→内縁に縦位棒側面圧痕。外面は横位回転RL斜走縄文。底部は丸底。内面は横ナデ調整。胎土はやや粗く、中粒砂(石英が多い)・軽石が混和する。接合面は露呈していない。内外面に炭化物が付着する。

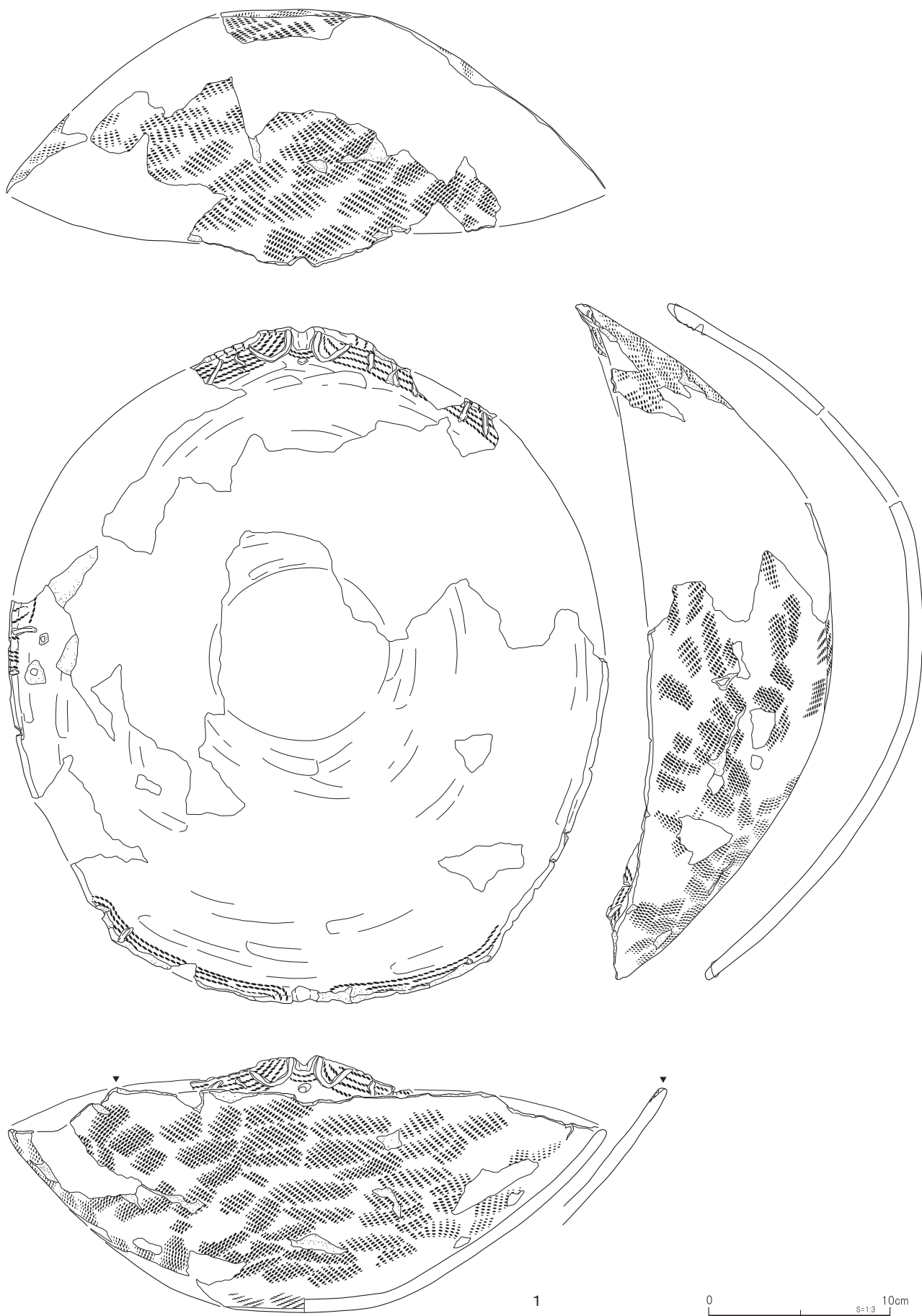
3・6は破片資料。3は口縁～胴部。突起は見られず、口縁端面に無文部分があることから、副飾部の一部と推測される。口縁端面はやや内傾し、副飾部はナデのまま→横位縄側面圧痕→縦位棒側面圧痕。外面は横位回転RL斜走縄文→口唇直下ナデ消し。内面は横ナデ調整。胎土はやや粗く、中粒砂(石英が多い)・軽石が混和する。棒側面圧痕の内部に赤彩の痕跡が残る。6はV層出土の資料であるが、分類(V群c類)と器形(浅鉢)が同じであるため、ここに掲載した。口縁～底部。口縁部に台形突起を有するが、破損している。口縁端面はやや内傾し、縦位縄側面圧痕。内面は口唇直下に横位凹線→突起頂部から下向弧状に垂下する縄側面圧痕3条→凹線・縄線の周縁に半截竹管状施文具による刺突列→突起頂部に横位沈線1条。外面は横位回転RL斜走縄文。底部は丸底。内面は横ナデ調整。胎土は緻密で、細粒砂(長石が多い)・軽石少量が混和する。凹線・縄線の内部に赤彩の痕跡が残る。内面に炭化物が付着する。

・ 顕著な突起や文様が見られないもの: 5

5は全体の約1/3が復元されたもので、残存器高12.9cmを測る。上面観は不明。口縁部は緩い波状を呈するが、突起は見られない。胴部が屈曲しており、内面にも段が見られる。口縁端面は内傾→RL回転縄文。外面は横位回転RL斜走縄文。底部は丸底。内面は横ナデ調整。胎土は粗く、土器片多量・粗粒砂・軽石が混和する。胴部に内傾の接合面が露呈する。内外面に炭化物が付着する。

・ 内面と外面に文様が見られるもの: 7

7は長軸口径19.5cm(推定)、短軸口径18.2cm、底径10.6cm、器高10.8cmを測る。上面観は十字形で、本来円形のもの4隅を凹ませている。口縁部は長軸端に山形突起3か所が設けられていたと推測される(1か所欠失)。口縁端面は内傾→LR回転縄文→棒側面圧痕。外面は斜位回転LR斜走縄文→口縁部に横位沈線3条→副文様として沈線間に半截竹管状施文具による刺突列→中央の山形突起下に2孔1対の円形刺突孔→底部に横位沈線2条→沈線間と底縁に半截竹管状施文具による刺突列。中央の山形突起の内面に縦位貼付帯→棒側面圧痕。底部は凸底→LR回転縄文。内面は横ナデ調整されるが、指頭痕が残る。胎土は緻密で、細粒砂・軽石が混和する。胴部に内傾と両傾の接合面が各1段露呈する。口縁～胴部の内面に炭化物が付着する。



図V-2-1 V群c類土器(1)



図V-2-2 V群c類土器(2)



図V-2-3 V群c類土器(3)

b 深鉢

・横位沈線文に刺突列が加わるもの：4

4は破片資料。口縁部に双峰山形突起→頂部に指頭圧痕。口縁端面は内傾→ナデのまま。外面は横位回転LR斜走縄文(磨滅により不鮮明)→口唇直下に半截竹管状施文具による刺突列→口縁部に横位沈線4条。内面は横ナデ調整されるが、一部に指頭痕が残る。胎土は緻密で、土器片中量・細粒砂・軽石・繊維が混和する。(芝田)

(1)-2 VI群・VII群・IX群(図V-2-4~32/表V-2-4~9/図版37~152)

分類は『美沢川流域の遺跡群I』(北海道教育委員会1977年)と鈴木信「道央部における続縄文土器の編年」『ユカンボシC15遺跡(6)』(北海道埋蔵文化財センター2003年)に準拠する。掲載土器は、復元個体がVI群a b類・VII群b・IX群、拓本破片がVI群a~d類に該当する。観察項目は『江別市 対雁2遺跡(8)』(北埋調報231集、2006年)に倣い、必要に応じて新たな字句も使用する。

a 表V-2-4・7の属性記述について

胎土 胎土は肉眼観察によると、ほとんどが石英・長石・角閃石を含む粘土を母材として、土器・繊維(器壁に管状の中空として観察した痕跡をいう)を混和するものがあった。土器片は1辺3~6mm四方の碎かれたもので、加えられた量によって3種に分類した。少量：3mm四方の細かい土器片を少量(表面・破断面の観察において、表面でまれに破断面で主に確認できる)含む、中量：5~6mm四方の土器片を少量(表面・破断面の観察において、破断面で主に確認できる)を含む、多量：5~6mm四方の土器片を多量(表面・破断面の観察において、表面で容易に確認できる)を含む。密度は砂・軽石の量によって3種に分類した。密：細粒以下を含む、やや粗：中粒以上を含む、粗：中粒以上を多く含む。

成形 成形は全て粘土紐輪積みである。上下の粘土紐接合面は外傾・内傾・両傾・中立があり、先端・末端が観察できなかつたものの中に不明瞭としたものがある。なお横方向の接合は見当たらない。接合面には加工がある例とない例があり、加工がある例には指・爪の圧痕がある。表V-1の疑口縁に関する枠内数は土器図接合面の数字に対応し、表の記載内容が土器図同数字において認められたことを示す。

形態の歪み 形態の歪みについては以下の観察・記述を行った。「中軸に対しての対称」「口縁と底面の非平行」「器面平坦」の観察方法は口縁を90度の4方向が水平になるように据えて、回転させて目視・手触・手計測した。「非正円」は口縁部平縁箇所の上面観を手計測した数値。

「軸対称」、「◎」：著しい非対称、「○」：非対称、「×」：対称。「口縁と底面の非平行」、「○」：非平行、「×」：平行。「器面平坦」、「部位名」：平坦面のある部位、「×」：平坦面なし。「非正円」、「◎」：最大/最小径比1.1以上・非正円、「○」：最大/最小径比が1.1未満~1.05以上・非正円、「×」：最大/最小径比が1.05未満・ほぼ正円。なお、「-」：観察・計測不能

外面被熱による変色 表面劣化が著しい赤橙色、表面劣化があまりみられない黄白色、まれに黄白色の一部に赤橙。変色範囲はおおよその目安として、深鉢・鉢は垂直方向に3等分して口縁部・胴部・底部に区分し、浅鉢は口縁部・体部・底部に区分し、壺は口縁部・肩部とそれ以下を2等分して胴部・底部に区分した。加えてそれぞれは底面も区分した。

底部暗色帯 底部表面の被熱変色の下位を圍繞する幅数十mmの暗色帯がみられることがある。

炭化物の付着 付着部位はおおよその目安として、深鉢・鉢・舟形鉢は垂直方向に3等分して口縁部・胴部・底部に区分し、浅鉢は口縁部・体部・底部に区分し、壺は口縁部・肩部とそれ以下を2等分して胴部・底部に区分した。加えてそれぞれは底面・内底面も区分した。また、内底面の付着形態は、内底面の全面に付着する「円形」と内底面の中央には付着しない「環状」に分けた。

補修孔 孔の位置はおおよその目安として、深鉢・鉢・舟形鉢は垂直方向に3等分して口縁部・胴部・底部に区分し、浅鉢は口縁部・体部・底部に区分し、壺・注口は口縁部・肩部とそれ以下を2等分して胴部・底部に区分した。加えてそれぞれは底面も区分している。孔自体の詳細に関しては後述表V-2-10に記す。

b 表V-2-5・6の属性記述について

器種 倒円錐台形の器形は、深鉢(口径/器高 <1.25)、鉢($1.25 \leq$ 口径/器高 ≤ 1.50)、浅鉢($1.50 <$ 口径/器高)と呼称する。倒円錐台形以外の器形には壺・甕がある。図V-3-13(以下では「 $\text{図}\bigcirc-\bigcirc-$ 」を略す)は上面観・底面観が楕円形の浅鉢・鉢は13・37、壺は38・50、甕は52、これら以外は深鉢・深鉢?で、深鉢には口縁部下部が少し窄まる個体(14・29・46)がある。

形態 それぞれの器種における細部形態についての観察である。口唇部加飾の有無、口唇断面形(加飾のない口唇部における最頻出の形態を記入した)、底面形(底部の凸平底の○は外底面の突出が弱いことを示す)についての記述である。「器壁の傾き」は、倒円錐台形の器形については口縁部～頸部について壺・注口については口頸部の形態について記述し、丸印右側の「上・下」は同一個体内における形態を表し、上は口縁部・下は頸部を指す。

調整・文様 「口唇部・突起」施文のうち、口唇部・突起の「棒圧痕」の★は絡縄体側面圧痕、「棒圧痕」「板木口刺突」の丸印右側2文字は、1文字目が口縁端面に対する押圧刺突の角度で、「前」は端面に対して前傾(外壁側に下る)し、「水」は端面に対して水平に施される。2文字目が中心軸に対する押圧刺突の方向で、「直」は軸方向、「左」は軸方向から向って左側に振れる、「右」は軸方向から向って右側に振れる、である。口縁部の「下地」は施文以前の状態を示す。「ナデのまま」とは施文の前段としてのナデが残る、「縄文」は施文の前段に縄文が残る、「◎」は下地撚糸である。口縁部の★は絡縄体端部圧痕、「口縁部」「胴部・底部」の丸印右側数字は調整・施文の順番を示し、「?」は順番が不明を表す。「直描き主文様」の「変形工字沈線Ⅱ」は2段に展開する交互三角形沈線・並列三角形沈線である。「胴部の縄文」における、「●」は器表広範に使用される原体、「○」は器表一部に使用される原体、である。胴部・底部の「▲・△」は1段縄文で、「▲」は器表広範に使用される原体、「△」は器表一部に使用される原体、である。多条縄文か否かについては備考に記載した。

内面調整 「器面凹凸」は成形時の指押さえが明瞭なナデ、「器面凹凸ありやや平滑」は成形時の指押さえの凹凸が多少残るナデ、「器面平滑」は成形時の指押さえが残らない平滑なナデ、である。

c VI群復元個体について

以下VI群 a b 類復元個体(52例)について述べる。

胎土 密度は「密」6例・「やや粗」35例・「粗」11例、「やや粗」が全個体の67%。H37丘珠期(6例)では「密」1例・「やや粗」5例、「やや粗」が多い。H317期(30例)では「密」5例・「やや粗」22例・「粗」3例、「やや粗」が多い。H37栄町期以降(16例)では「やや粗」8例・「粗」8例、「粗」が増える。土器片混和は「少量」5例・10%、H137期(4例)、H37栄町期以降(1例)である。

成形 上下の粘土紐接合面が観察できた個体(32例)は全個体の62%、そのうち外傾(18例；観察個体の56%)、両傾(3例；観察個体の9%)、外傾+両傾(2例；観察個体の6%)、外傾が極めて多い。52は外傾と内傾が混じり、接合面の逆転が見られる。

形態の歪み 「軸対称」が観察できた個体(49例)は全個体の94%、そのうち「◎」10例・「○」26例・「×」13例、「○」が多い。H37丘珠期(5例)では「◎」1例・「○」3例・「×」1例、「○」が多い。H317期(28例)では「◎」7例・「○」15例・「×」6例、「○」が多い。H37栄町期以降(16例)は「◎」2例・「○」8例・「×」6例、「○」は多いものの「◎」が減り「×」が増える。「口縁と底面の非平行」が観察できた個体(25例)は全個体の48%、そのうち「○」21例・「×」4例、「○」が多い。H37丘珠期(3例)では「○」3例、H317期(14例)では「○」14例・「×」

2例、「○」が極めて多い。H37栄町期以降は「○」4例・「×」2例である。「器面平坦」が観察できた個体(45例)は全個体の87%で、そのうち「あり」10例・「なし」35例で「なし」が極めて多い。H37丘珠期(4例)で「なし」4例で、H317期(26例)では「あり」6例・「なし」20例で「なし」が極めて多く、H37栄町期以降(15例)では「あり」4例・「なし」11例で「なし」が多い。「非正円」が観察できた個体(29例)は全個体の56%で、そのうち「◎」1例・「○」8例・「×」20例で「×」が多い。H37丘珠期(2例)では「○」1例・「×」1例で、H317期(13例)では「◎」1例・「○」5例・「×」7例で「◎」「○」と「×」がほぼ同量あり、H37栄町期以降(14例)では「○」2例・「×」12例で「×」が極めて多い。

外面被熱による変色 外面の変色が観察できた個体(19例)は全個体の37%で、そのうち「黄白色化」1例・「赤橙色化」18例で、H37丘珠期では6例中0例・H317期では30例中14例・H37栄町期以降では16例中4例に「赤橙色化」が見られる。

底部暗色帯 暗色化の有無が観察できた個体(18例)は全個体の35%で、そのうち暗色帯がみられた個体(5例)は14%と少ない。暗色帯は平均27mmの幅がありいづれも外底縁から上方側に変色する。暗色帯については際立った変移はない。

炭化物の付着 外面に炭化物付着が観察できた個体(29例)は全個体の56%で、そのうち口縁部に付着する個体(24例)が83%と多い。内面に炭化物付着が観察できた個体(37例)は全個体の71%で、そのうち口縁部に付着部位する個体(23例)が62%と外面に比べてやや少ない。炭化物付着については際立った変移はない。内底面に炭化物は見られない。

補修孔 補修孔が観察できた個体(6例)は全個体の12%で、横方向のみの結合が5例、2か所以上の結合が3例ある。52は横・縦方向結合と多数箇所結合が見られる。

形態 口唇部(口唇部残存個体44例)は平縁26例・単峰12例・台形単峰3例・双峰3例・小波状1例で平縁・単峰が極めて多く、H37栄町期以降に双峰・小波状がある。口唇部断面形(口唇部残存個体44例)は端面水平23例・丸い10例が極めて多く、H317期に端面内傾がある。口頸部器壁の傾き(器壁残存個体45例)は直上20例・外傾13例が極めて多く、H317期以降には内彎があり、口縁部と頸部において器壁の傾きが異なるものがある。

底部断面形(底部残存個体32例)は凸平底18例・平底6例・凹底8例で凸平底が極めて多く、H317期以降に凹底がある。凸平底18例のうち外底面の突出が弱い個体(7・14・34)がある。凸平底の成形は半球または丸底皿の外底縁を掴まんで角付け・肥厚させる、であるので、変形が加わった可能性もある。また、凹底の一部には外底面周縁側が環状にくぼむ(外底面は平底に近い形・内底面中央がやや肥厚)個体(35・40・49)がある。これらは凸平底をさらに内底面側に押し込んで変形させた可能性を示す(そのため外底面は弱い凸・内底面中央がやや肥厚)。くわえて、平底例には口縁と底面が非平行の個体(2・8)があり、これらは凸平底と同様の底部成形が行われたあと、上記凹底よりも強い変形が加わった可能性がある。

調整・文様 1～11は胴部に斜位縦走縄文が施されるもので、1～4・6～11はRL、5はLRである。1～3は口縁部に沈線文、4・6・7は口縁部に縄線文、5は外屈する口縁部の内外面と頸部に縄端圧痕文が施される。10は外底縁を掴まんで角付け・肥厚させる。12・13は胴部・体部に横位斜走縄文が施されるもの。12はLR、13はRLである。

14～19は胴部に撚糸文が施されるもの、14は口縁部に沈線文、15～18は口縁部に縄線文、が施される。14～16は胴部底部の撚糸→口縁部施文の順で、17・18は口縁部施文→胴部底部の撚糸の順である。15は内面に外傾接合面の逆形がある、図示「(●)」。17は底部に斜位回転が見られる。19は横位回転である。

20は自縄自巻LRによる撚糸文風縄文が施されるものであり、胴部・斜位回転と口縁部・略横位回転で、H37栄町期以降の帯縄文施文順序と同じく胴部・縦走→口縁部・横走である。

21～34は胴部に斜位横走縄文が施されるもので、21・23・25・29・30・31・33の下地縄文の一部にはLR原体を土器の天地に対して45° 右上・左下に置き回転につれて指捺位置を移動させている部分がある。これはRL縦走帯縄文と同じ原体の置き方・押捺方法であるが反対撚りであるため条方向が90° 異なり短条となる。22・24・26・27・28・32・34はLR原体を土器の天地に対して45° 右上・左下に置きそのまま右下に回転させている(指捺位置を移動さない)。21・22は口縁部に縄線文が施される。28は外折する口縁部に無文帯が設けられる。35・36は沈線文が施されるもの。37～39は無文。

40は胴部にRL縦位斜走縄文とRL斜位縦走縄文を帯縄文風に施し、突瘤を施したのちにその穴を埋める。41～50は口縁～底部にRL帯縄文が施されるもので、41～43は口縁部に本数の少ない横位帯縄文、44・45は口頸部に本数が多く間隔が開かない横位帯縄文、46～49は口頸部に間隔が開く横位帯縄文。43は工字沈線文、46・50は縄線文が施される。51は口縁～胴部に横位帯縄文と斜沈線が交互に施される。52は口縁～胴部に斜位縦走縄文、頸部に横位結節沈線、その結節沈線を上下につなぐ短沈線、胴部縄文押捺のち光沢が出るナデが施され節が潰れる。

内面調整 内面はナデ幅が明瞭に観察できる場合があり、硬質原体によるナデも観察できる。「器面凹凸」41例・「器面凹凸ありやや平滑」8例・「器面平滑」3例で、「器面凹凸」が極めて多い。H37 丘珠期(6例)では「器面凹凸」5例・「器面凹凸ありやや平滑」1例、「器面凹凸」が極めて多い。H317期(30例)では「器面凹凸」28例・「器面凹凸ありやや平滑」2例、「器面凹凸」が極めて多い。H37 栄町期以降(16例)では「器面凹凸」8例・「器面凹凸ありやや平滑」5例・「平滑」3例で「器面凹凸ありやや平滑」「平滑」が増える。

d VII・IX群復元個体について

53は下地横位沈線の刻文深鉢である。胎土はVI群に比べても密である。内傾する接合面は丁寧なナデでVI群に比べて狭い。形態は「中軸対称」が著しく歪んでいる以外に歪みが少ない。補修孔は横方向結合が2ヶ所あり、その断面が「すり鉢状+筒状」である。口縁は平縁に貼付け隆帯、施文はへう状工具による。

54は肥前系染付碗、胎土は磁質・灰色がかかる、釉調は透明・気泡を多く含む、呉須は発色が良好ではなく灰緑色がかかる。釉の気泡により絵付けが滲んで見える。文様は雁と芦のくずれにも見える。

e 拓本破片について

破片資料については記述する属性が欠如しているものも多いので復元個体の観察表とは項目が一部異なる。そのため属性ごとの傾向については言及せず、「調整・文様」について記述する。掲載番号の後ろに付されたアルファベットは同一個体であることを示す(接合作業を経て同一破片と認められたもの)。

1～44は斜位縦走縄文、1～7・9～17・19～23はRL斜位縦走縄文、8・18・24・29・31・36はLR斜位縦走縄文。37・42はRL斜位縦走縄文が大部分で底部付近にLRが施され、25・26はRL斜位縦走縄文が大部分で口縁部付近にRL横位斜走縄文が施され、45・46はRL横位斜走縄文が施される。7は器表がナデにより節が潰れている。7・9は条が振れて湾曲している。

47～53は撚糸文。54は自縄自巻LRを縦位帯縄文風に押捺している。55・56は胴部縄文不明破片。57は端面がニシン椎骨側面圧痕、口頸部がニシン椎骨側面横位回転文、その境に一部LR横位斜走縄文、胴部にはLR斜位横走帯縄文。58は口頸部がLR斜位横走縄文、胴部にはLR縦位斜走縄文。

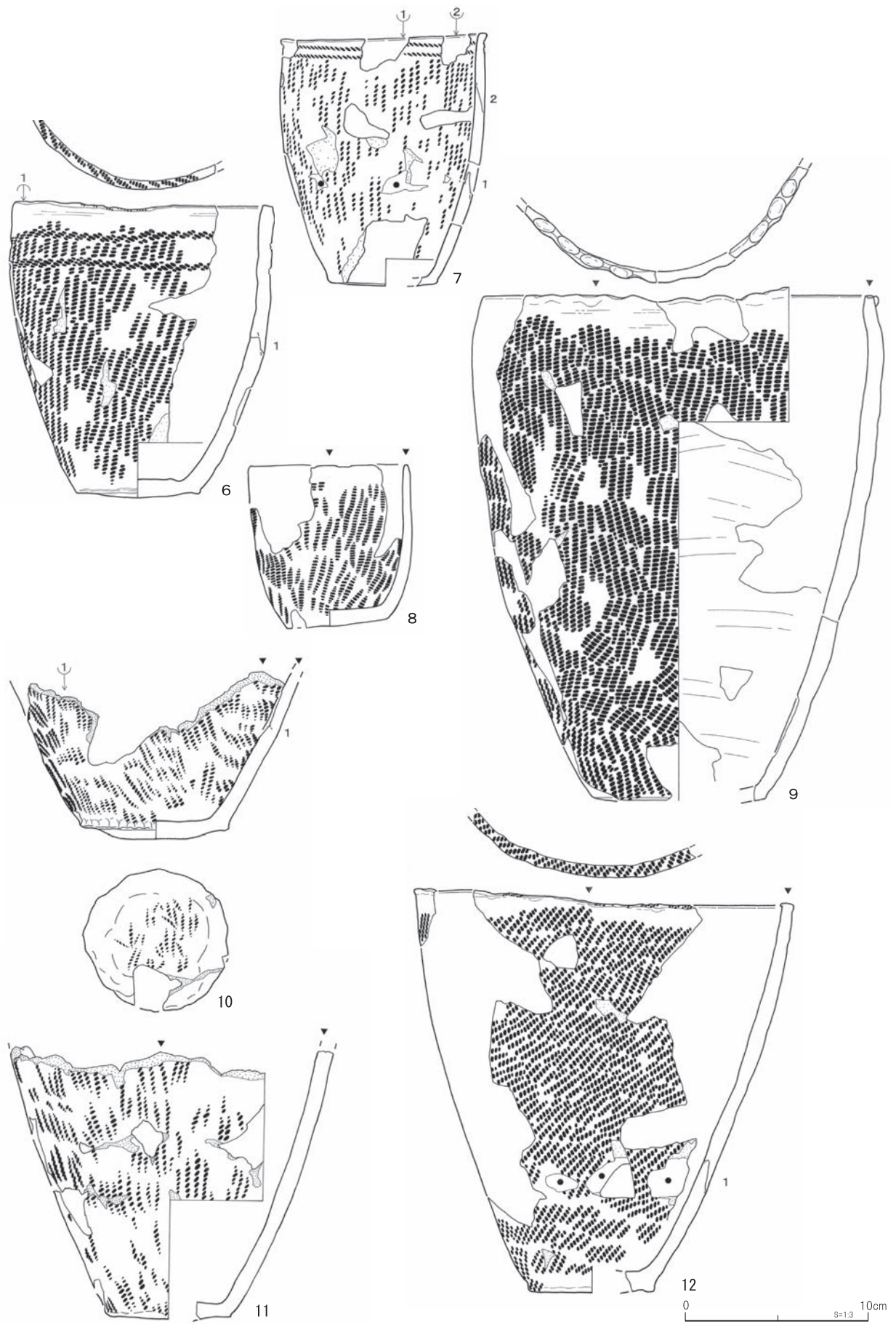
59・62・64・66・68・70・71はLR斜位横走縄文、60・61・63・65・67・69はLR斜位横走にLR短条帯縄文がまじる、72は口縁部RL斜位横走縄文、その下にRL斜位縦走縄文。

73～79はRL斜位帯縄文。80はRL斜位縦走縄文。81は口頸部にRL斜位横走縄文、胴部にRL横位斜走縄文(長い原体であるため条が振れて湾曲している)を帯縄文風に施す。82・83はRL斜位縦走帯縄文のあと微隆起線が施される。

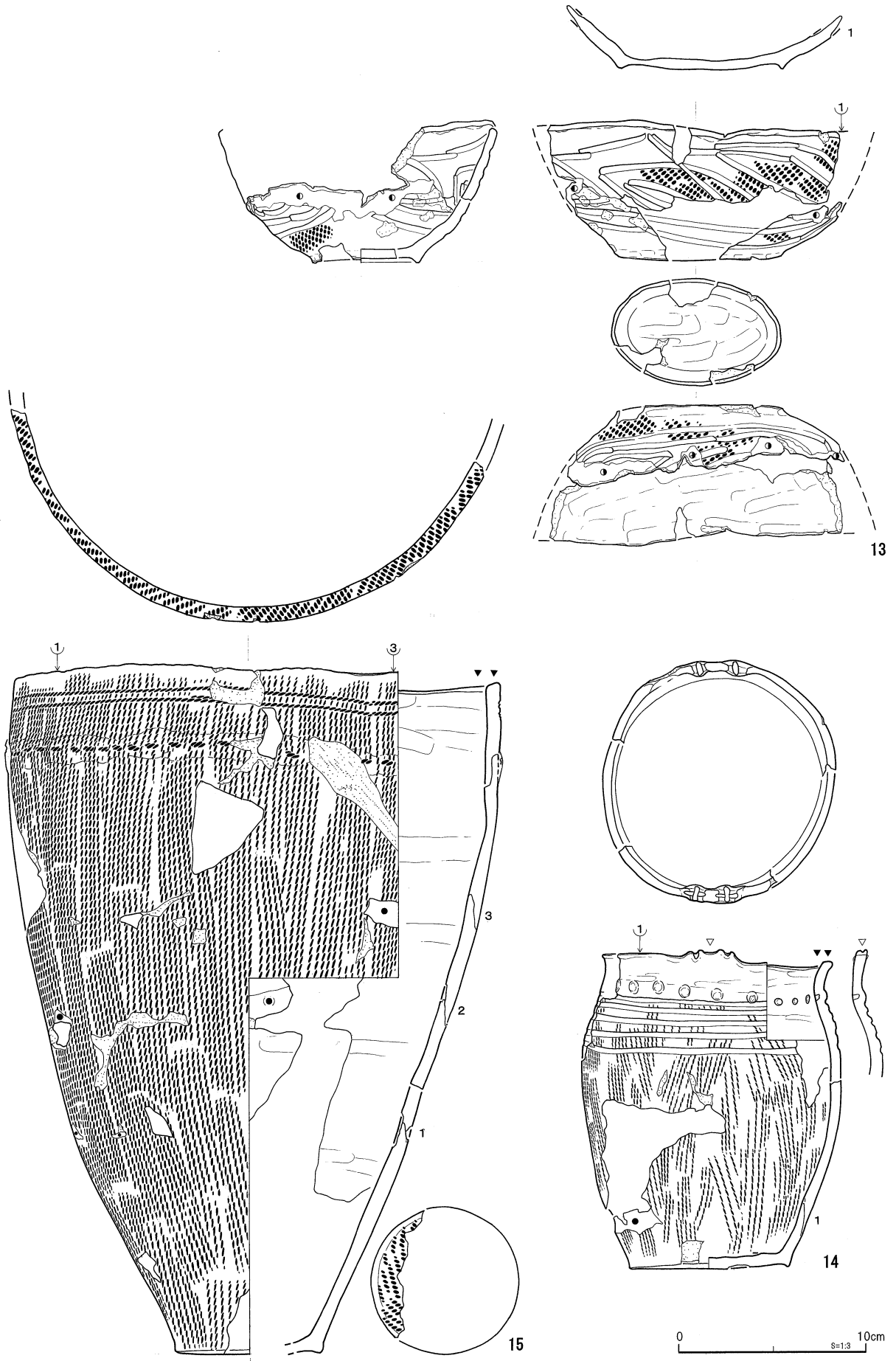
(鈴木)



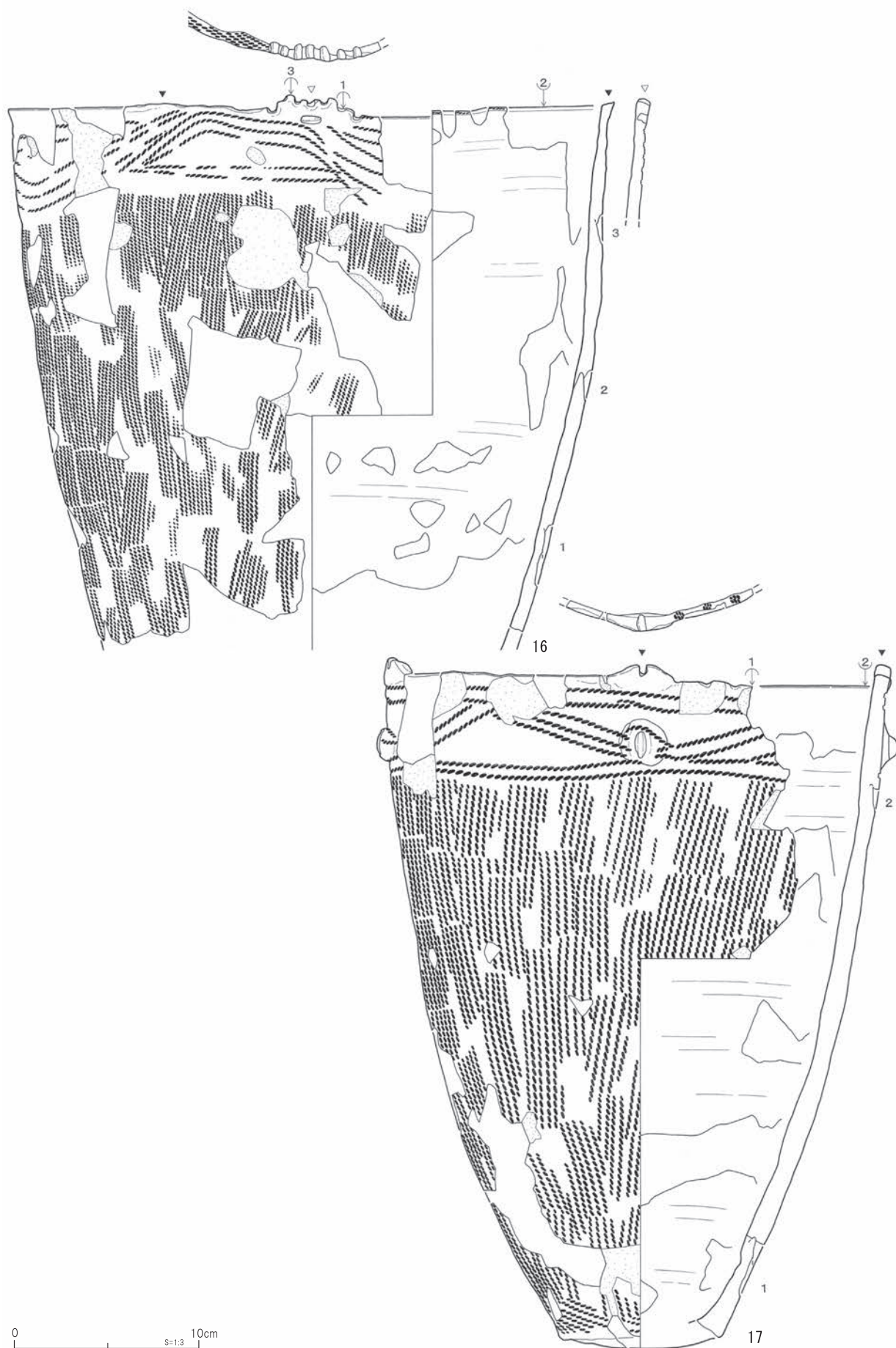
図V-2-4 VI群復元土器(1)



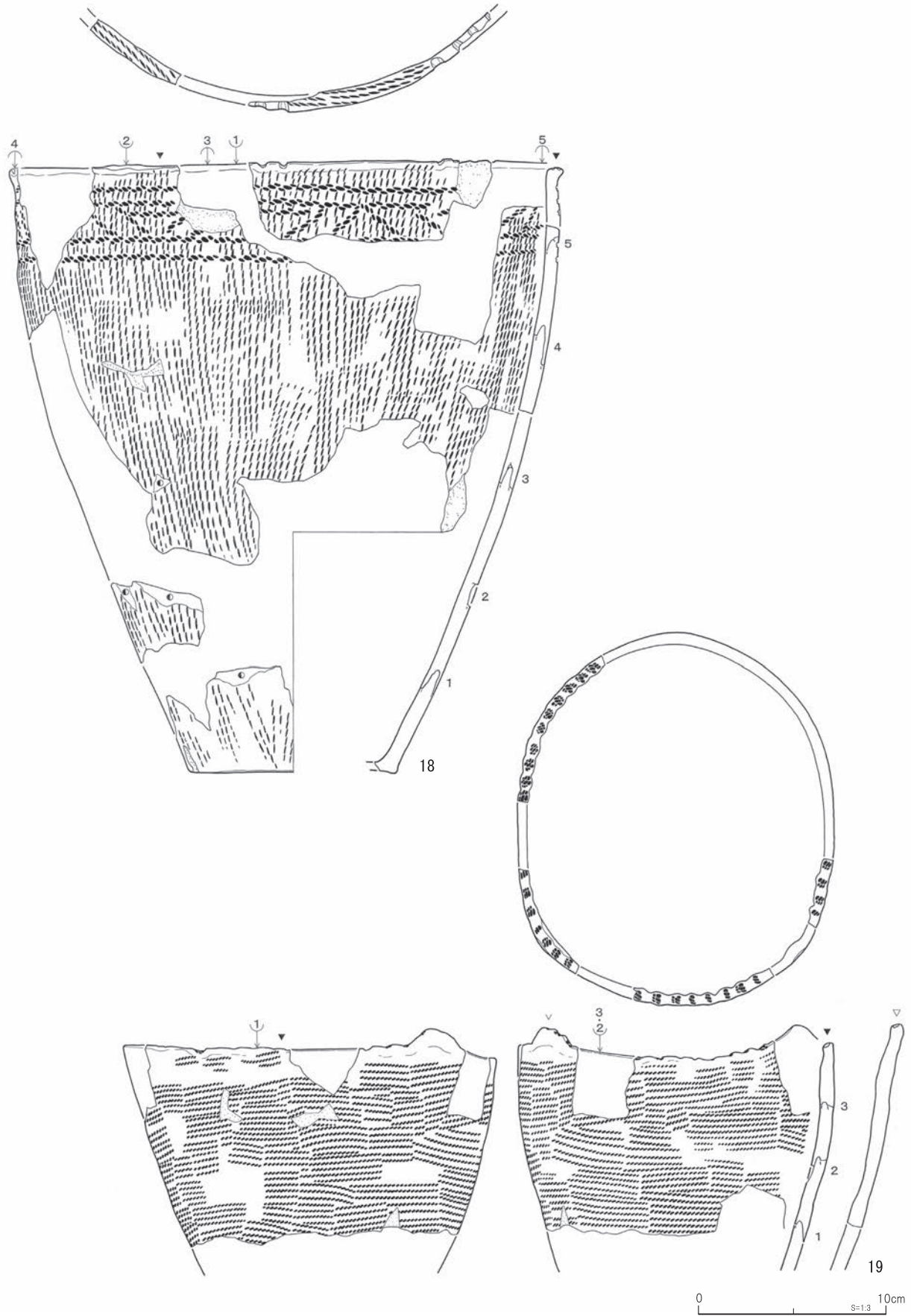
图V-2-5 VI群復元土器(2)



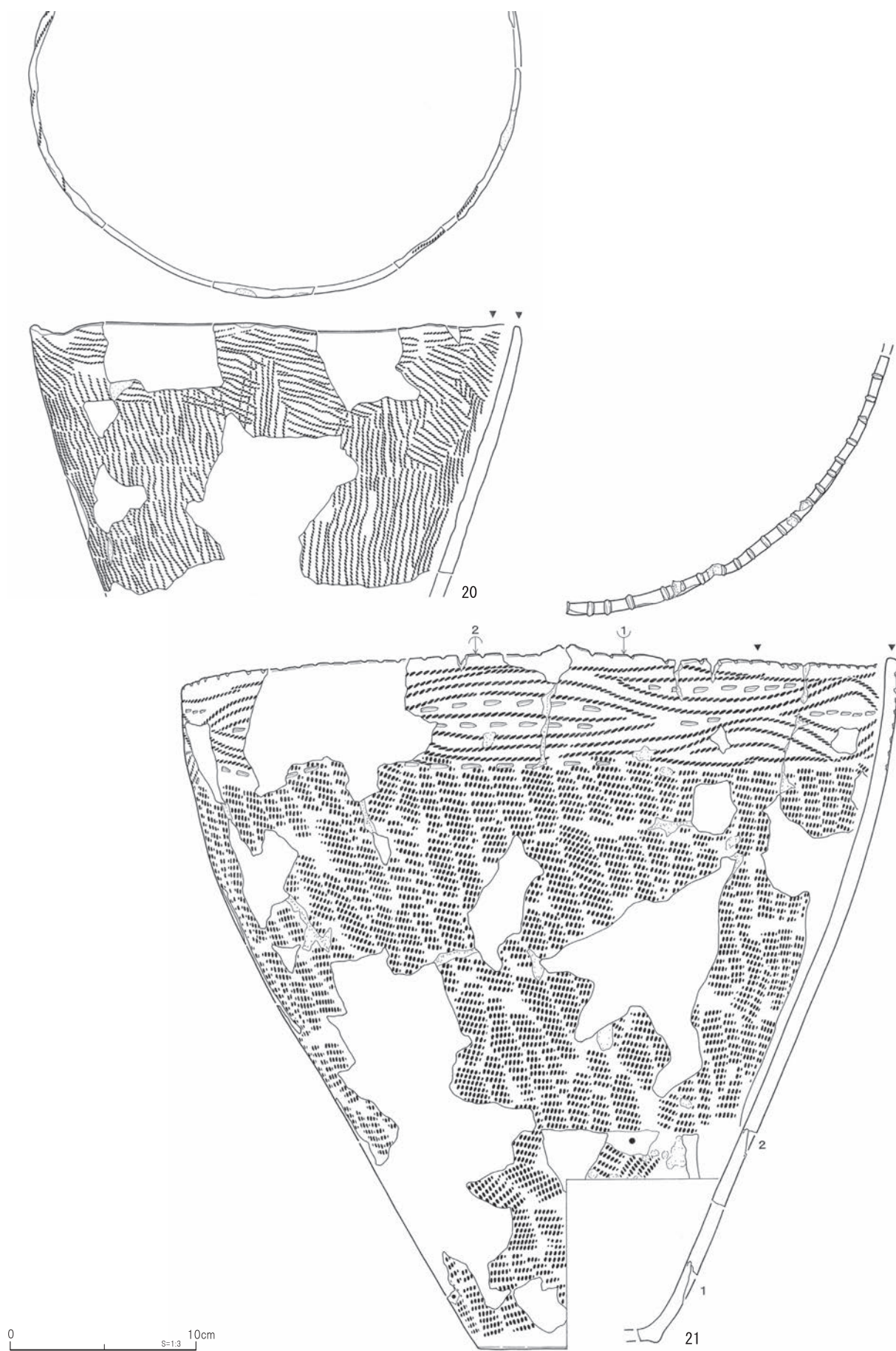
図V-2-6 VI群復元土器(3)



図V-2-7 VI群復元土器(4)



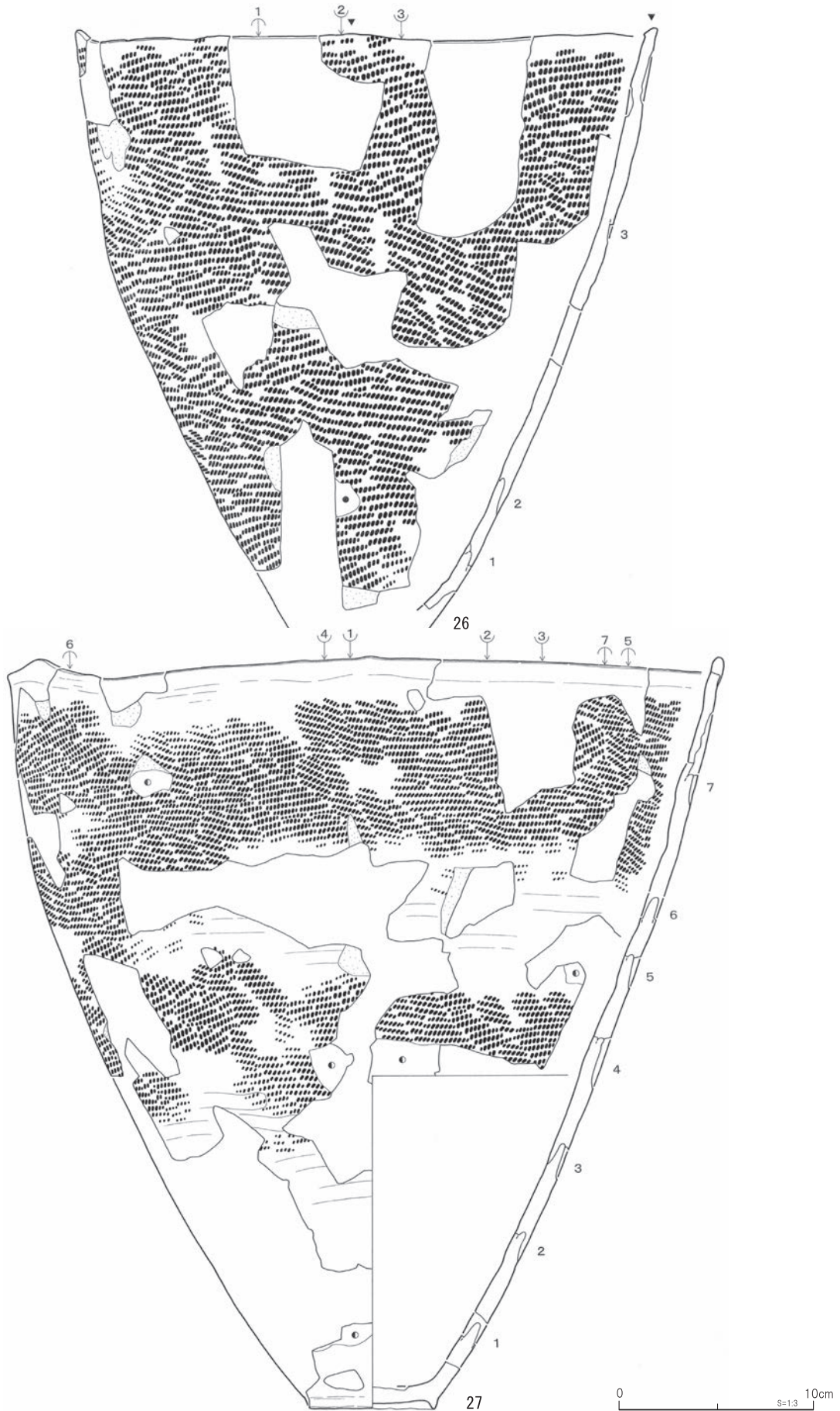
図V-2-8 VI群復元土器(5)



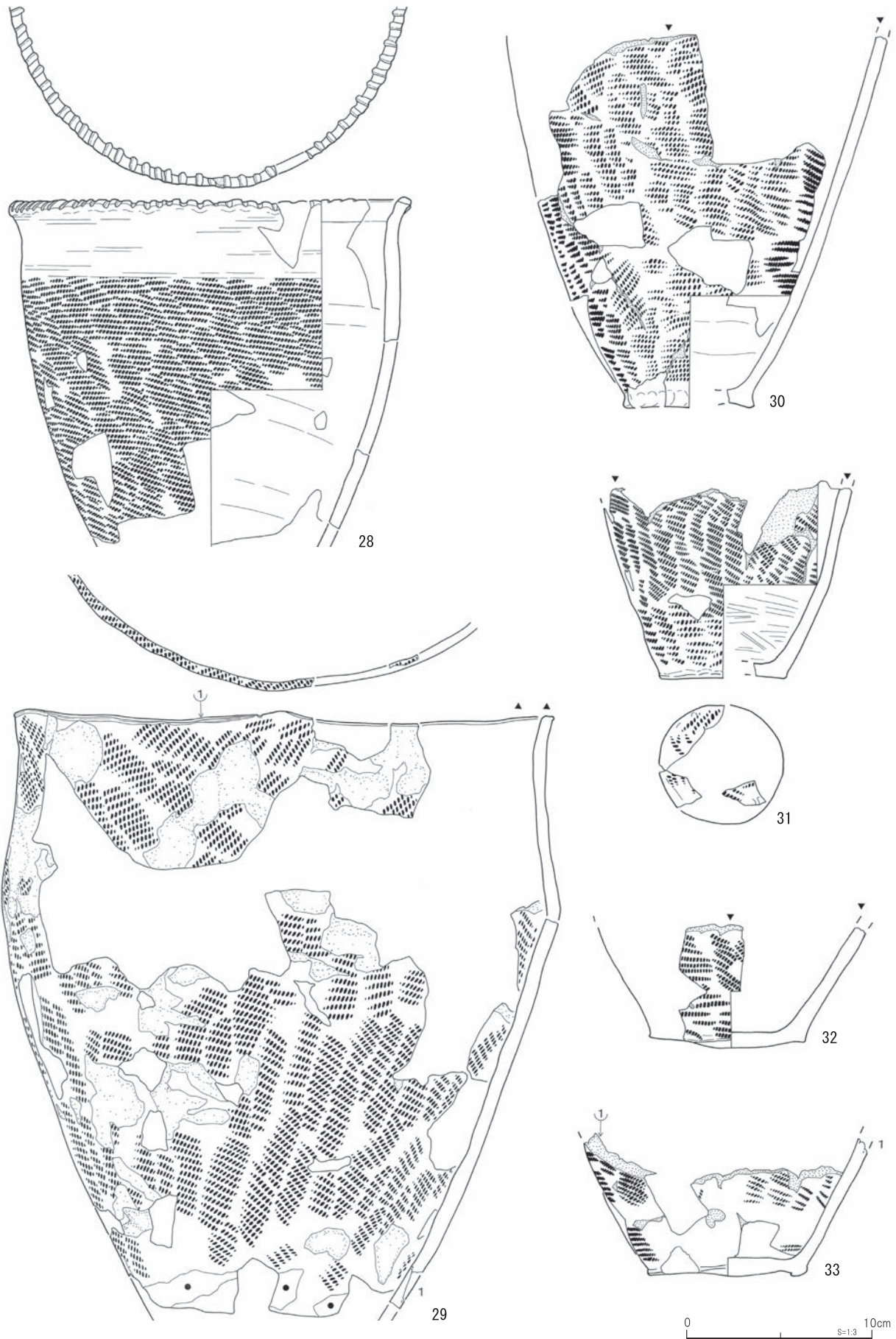
图V-2-9 VI群復元土器(6)



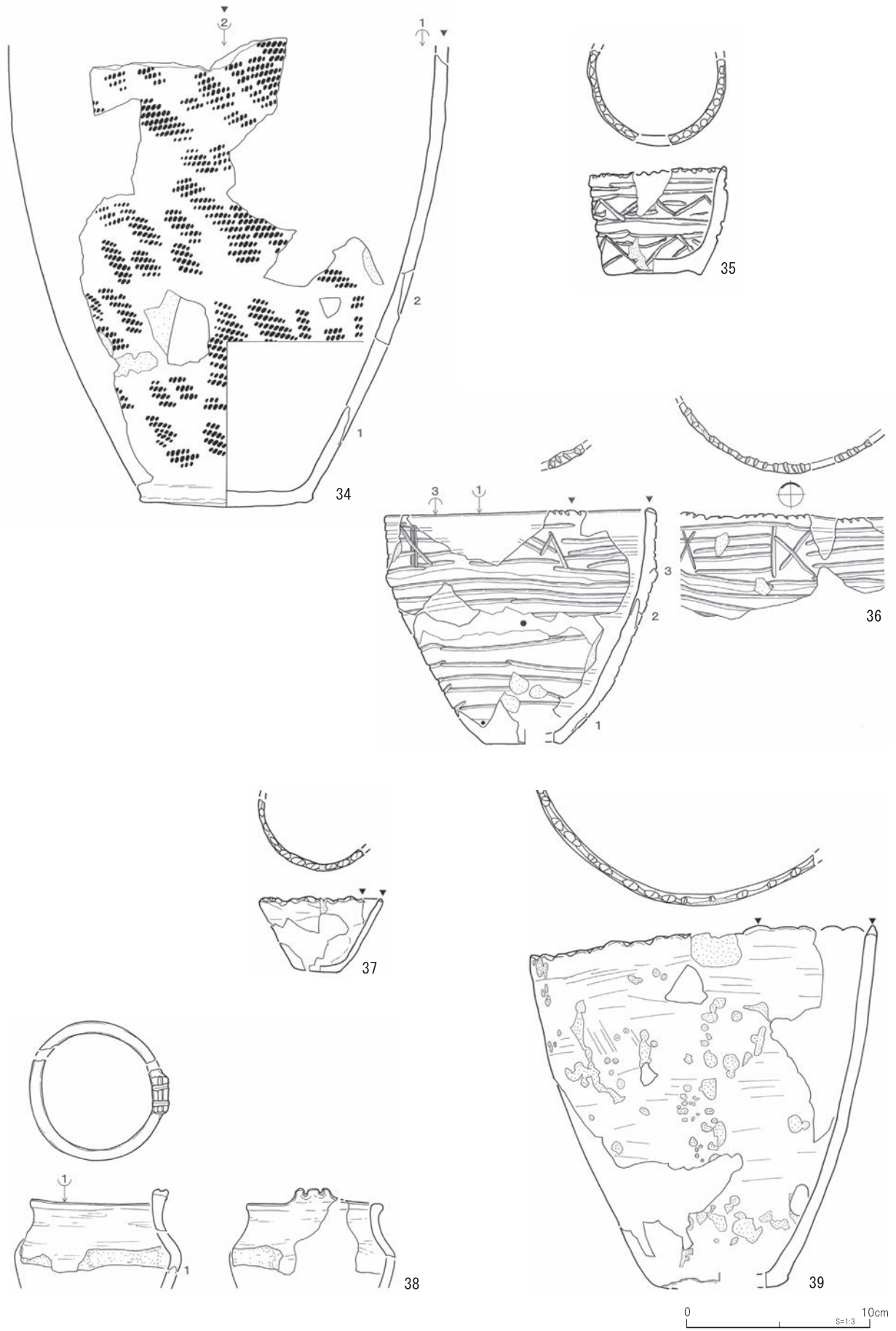
図V-2-10 VI群復元土器(7)



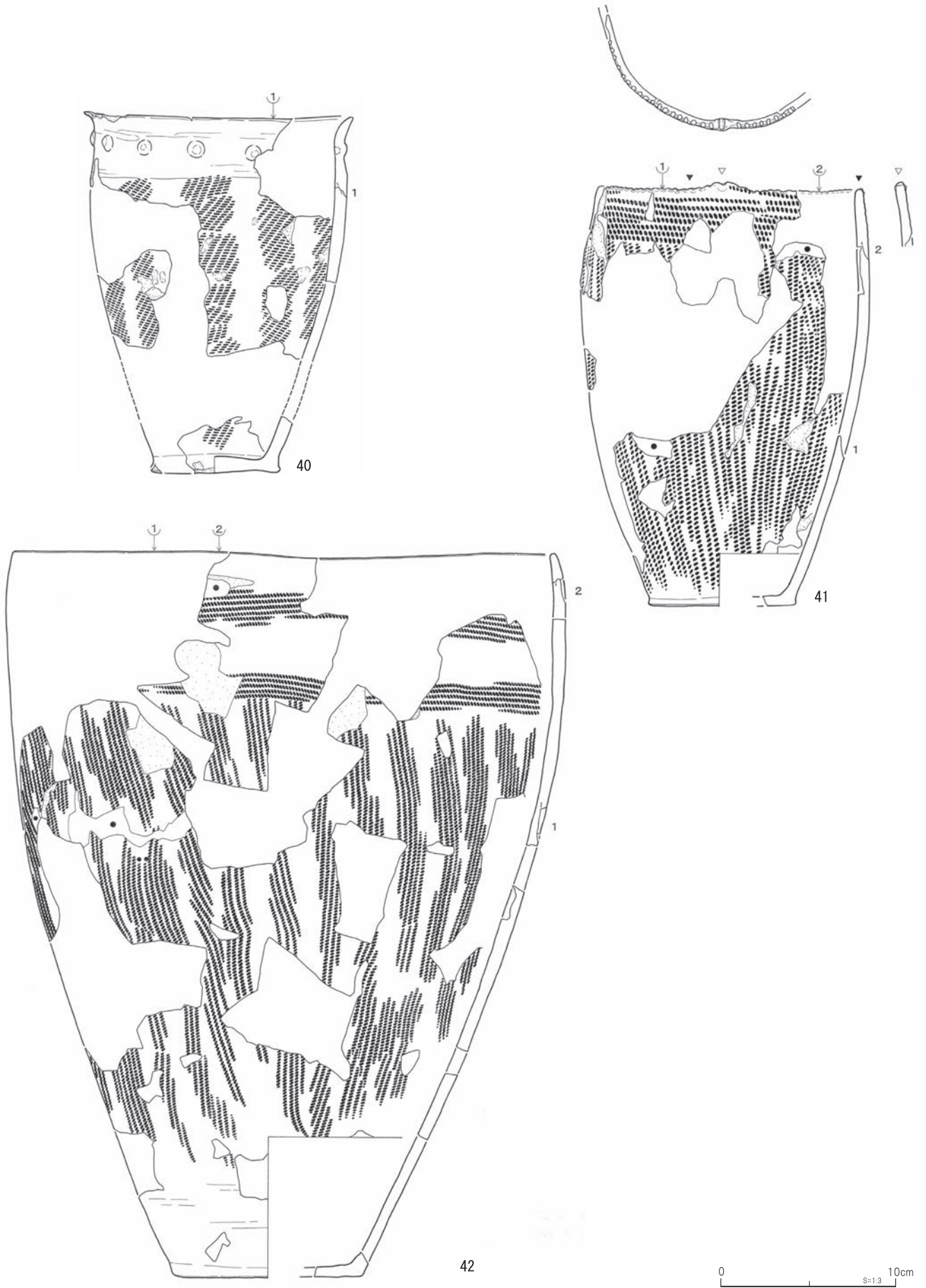
図V-2-11 VI群復元土器(8)



図V-2-12 VI群復元土器(9)



图V-2-13 VI群復元土器(10)



図V-2-14 VI群復元土器(11)

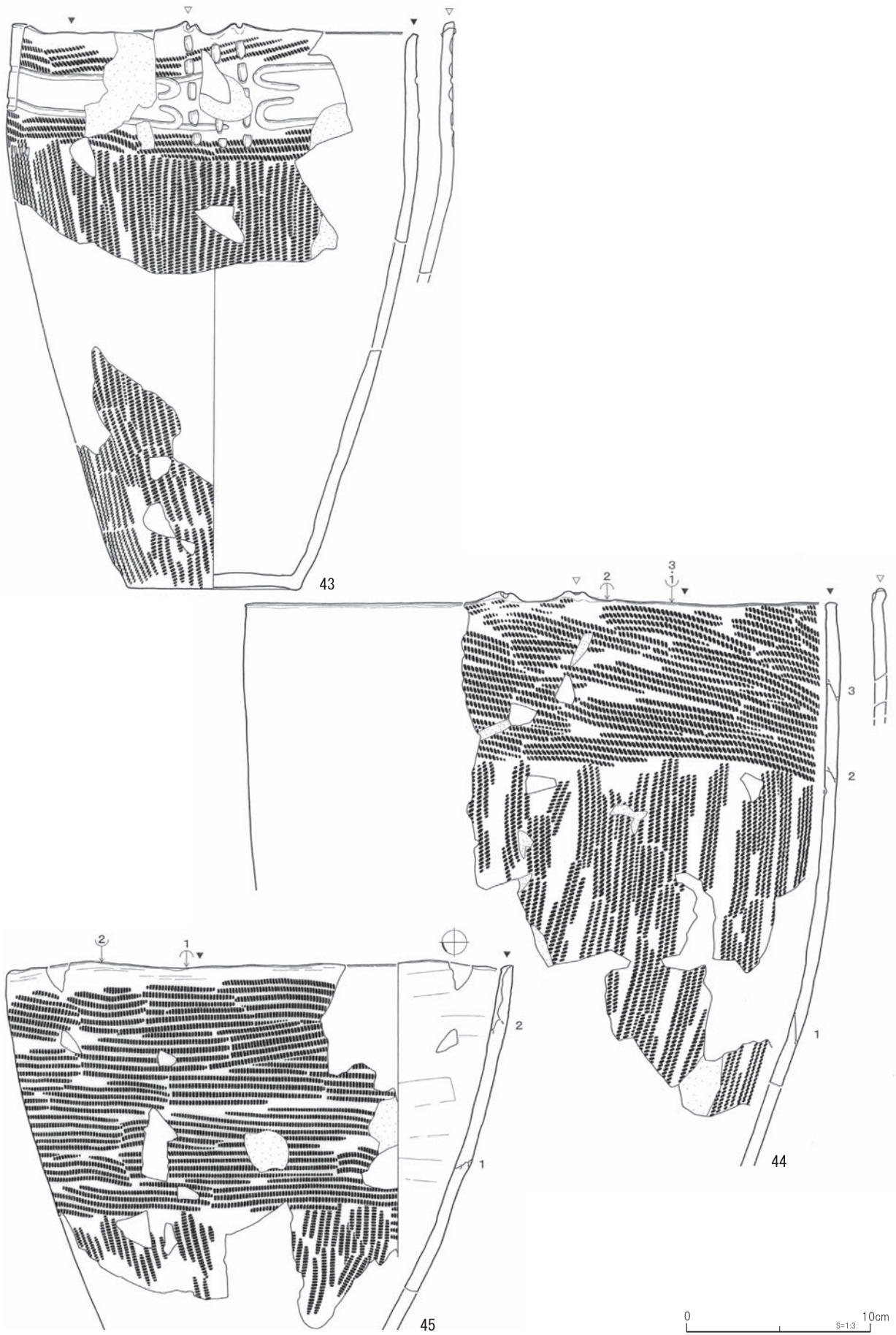
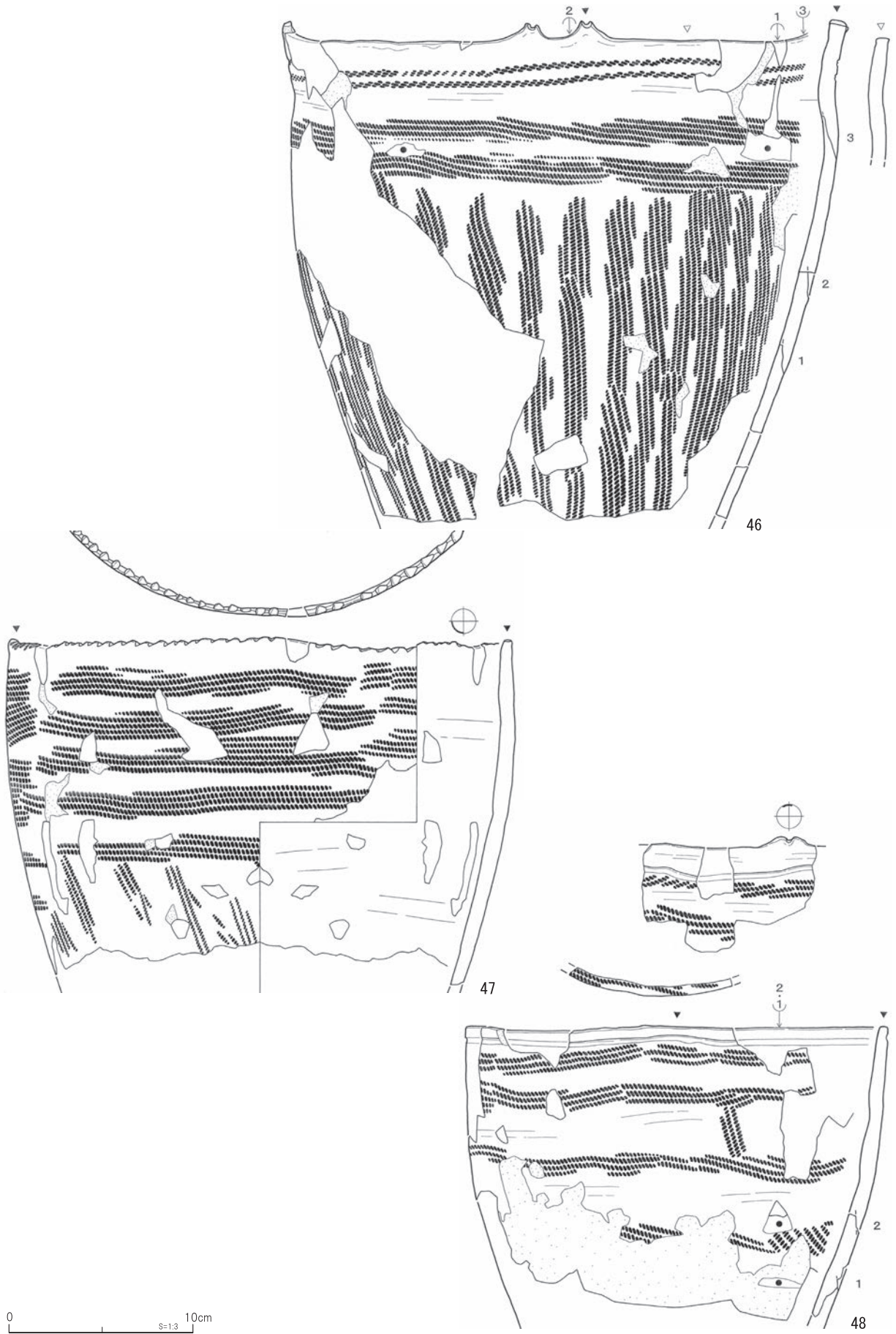
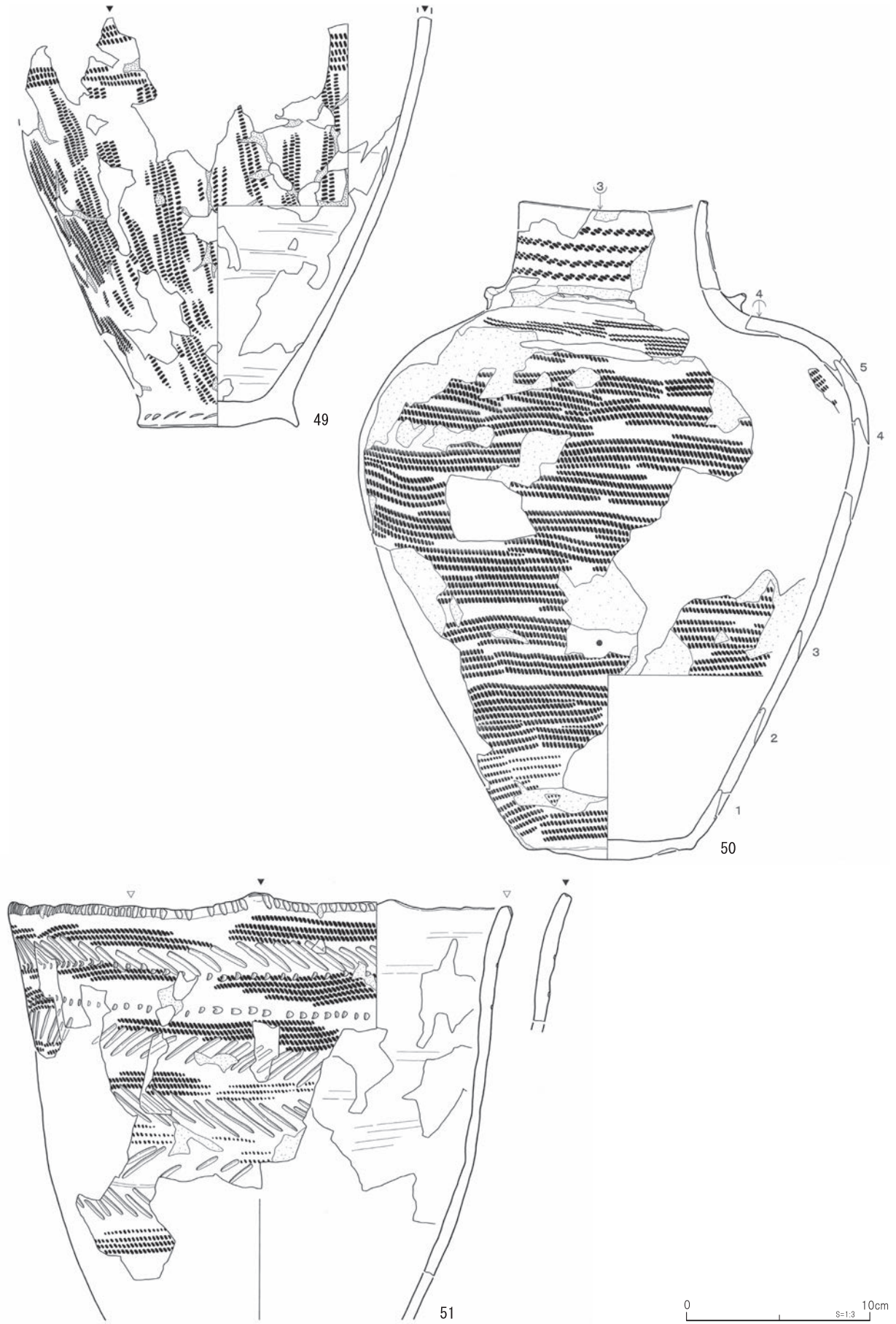


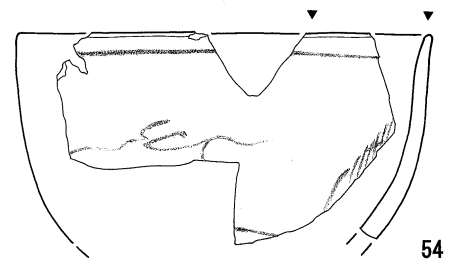
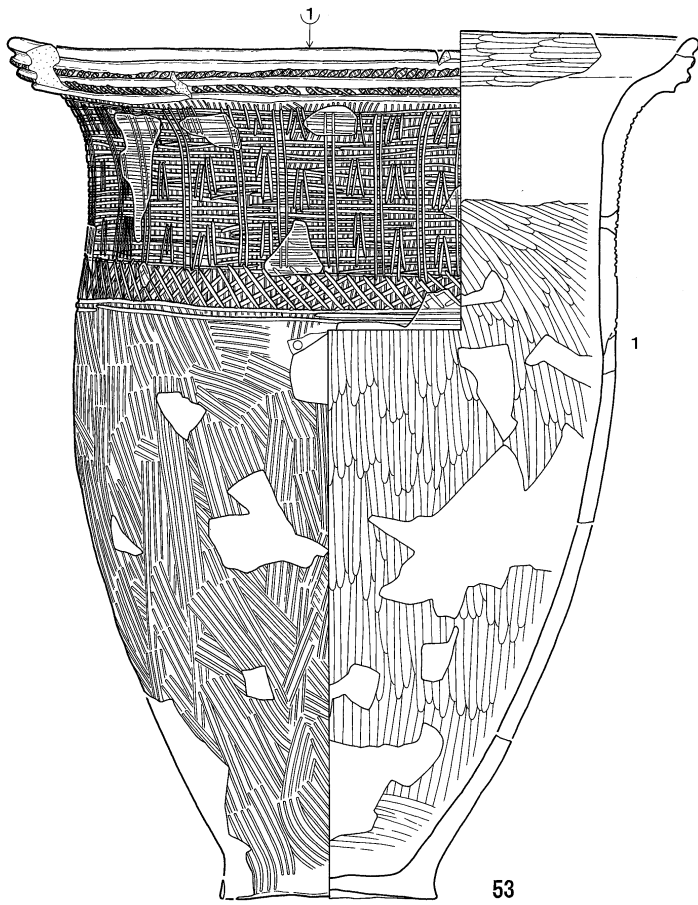
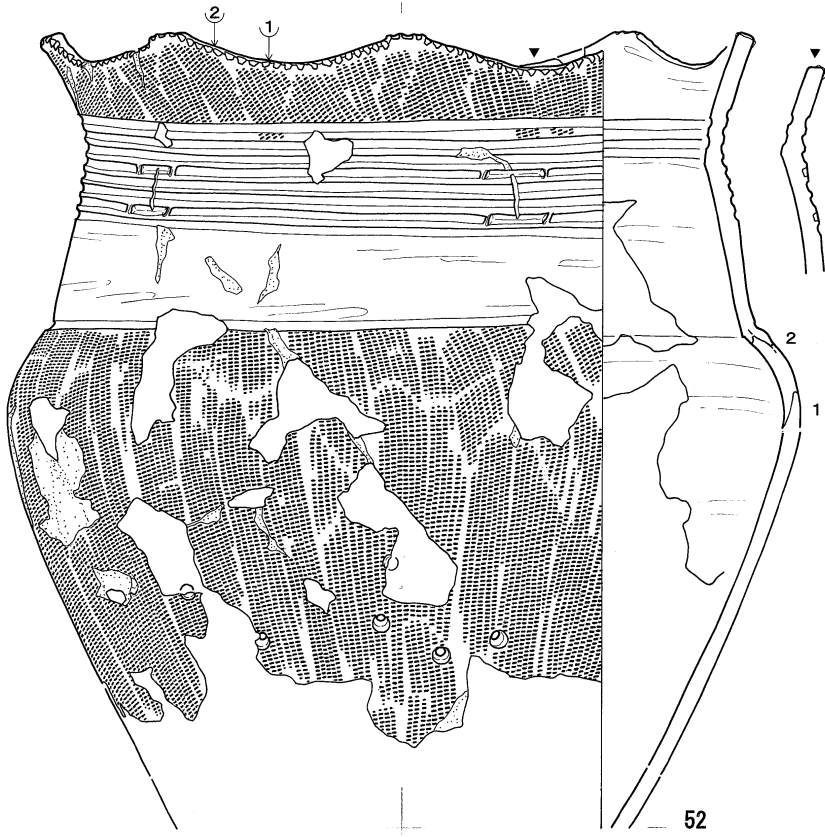
图 V-2-15 VI群復元土器(12)



図V-2-16 VI群復元土器(13)



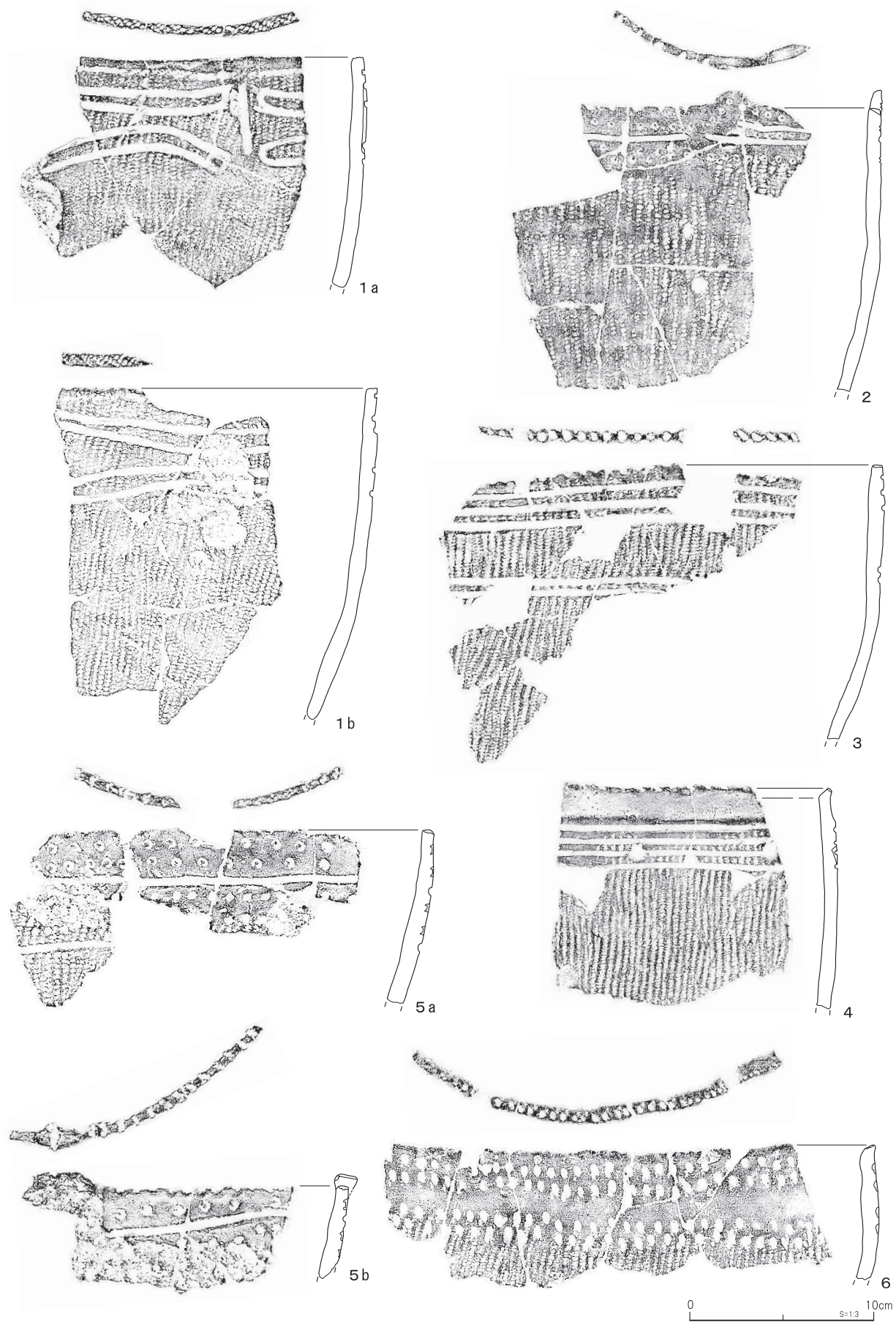
图V-2-17 VI群復元土器(14)



0 10cm S=1.3

0 5cm S=1.2

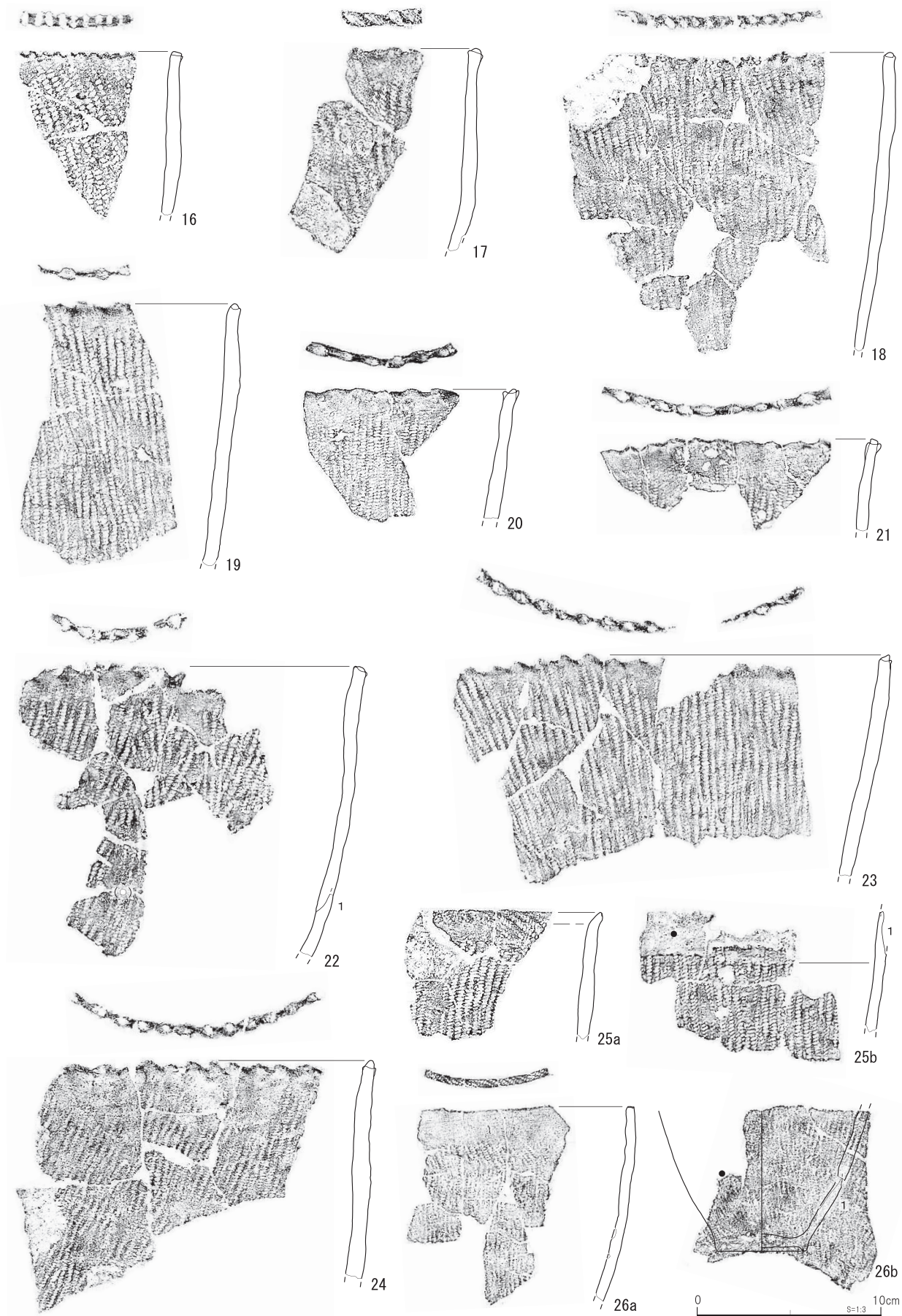
図V-2-18 VI・VII・区群復元土器



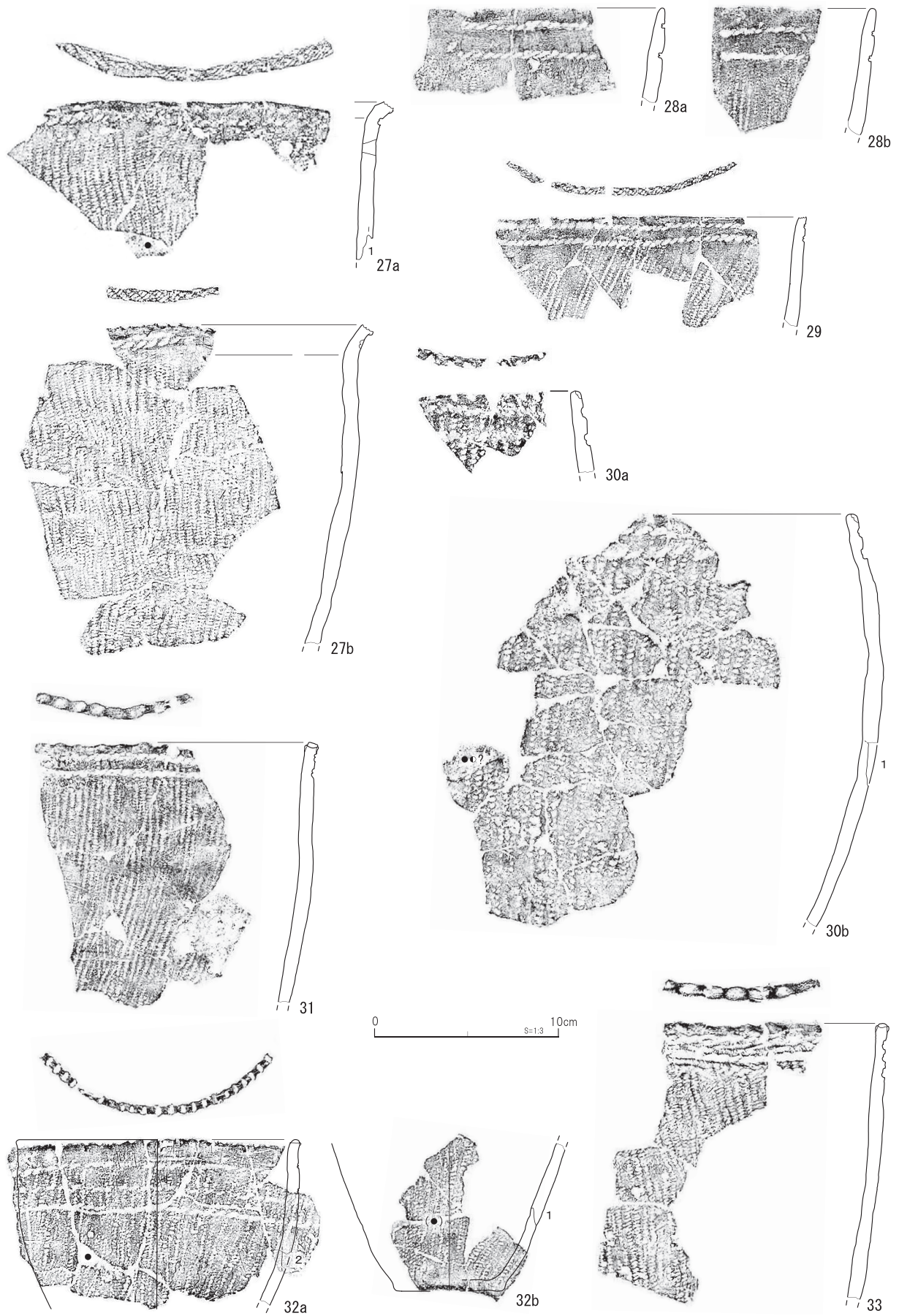
図V-2-19 VI群拓本土器(1)



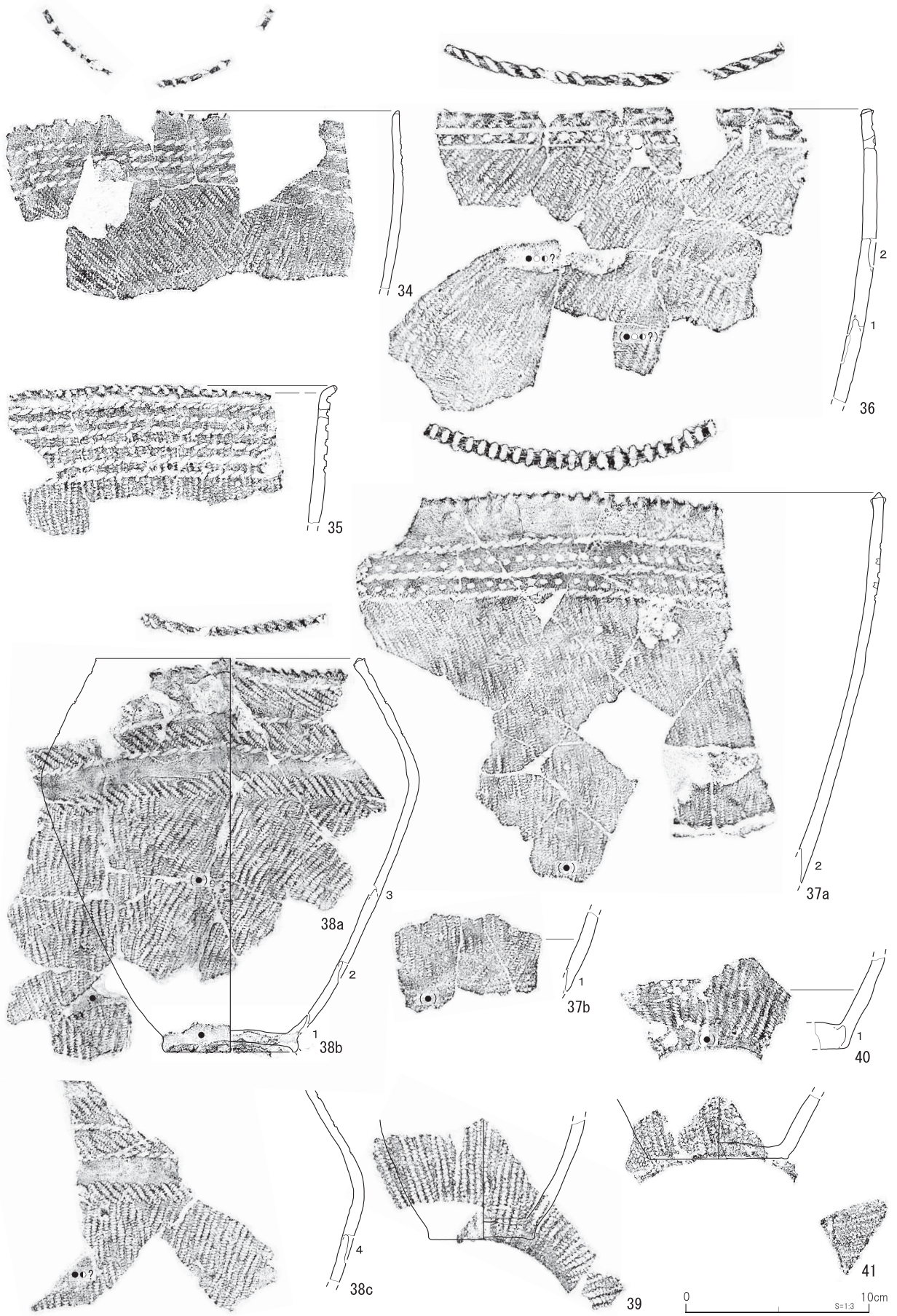
図V-2-20 VI群拓本土器(2)



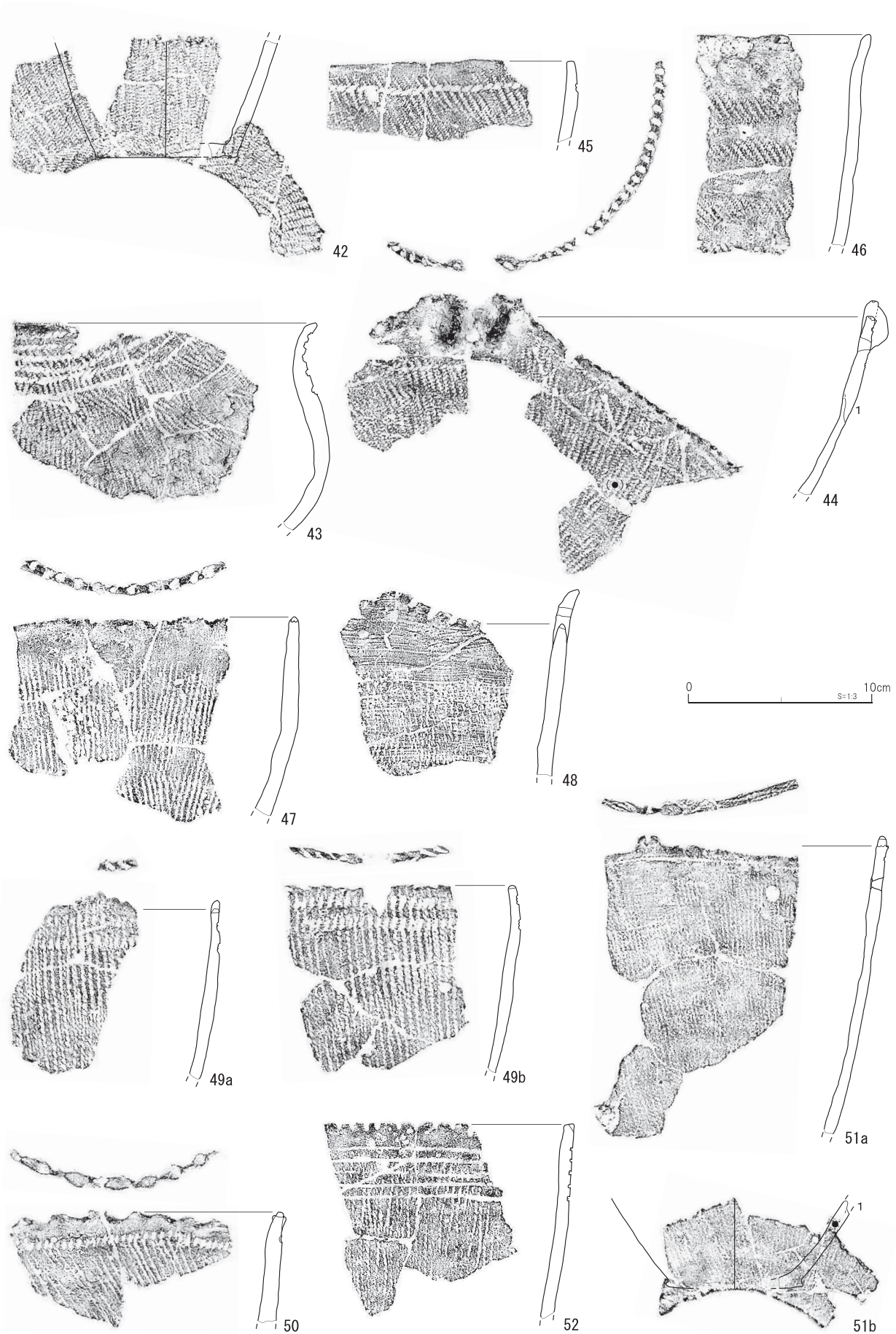
图V-2-21 VI群拓本土器(3)



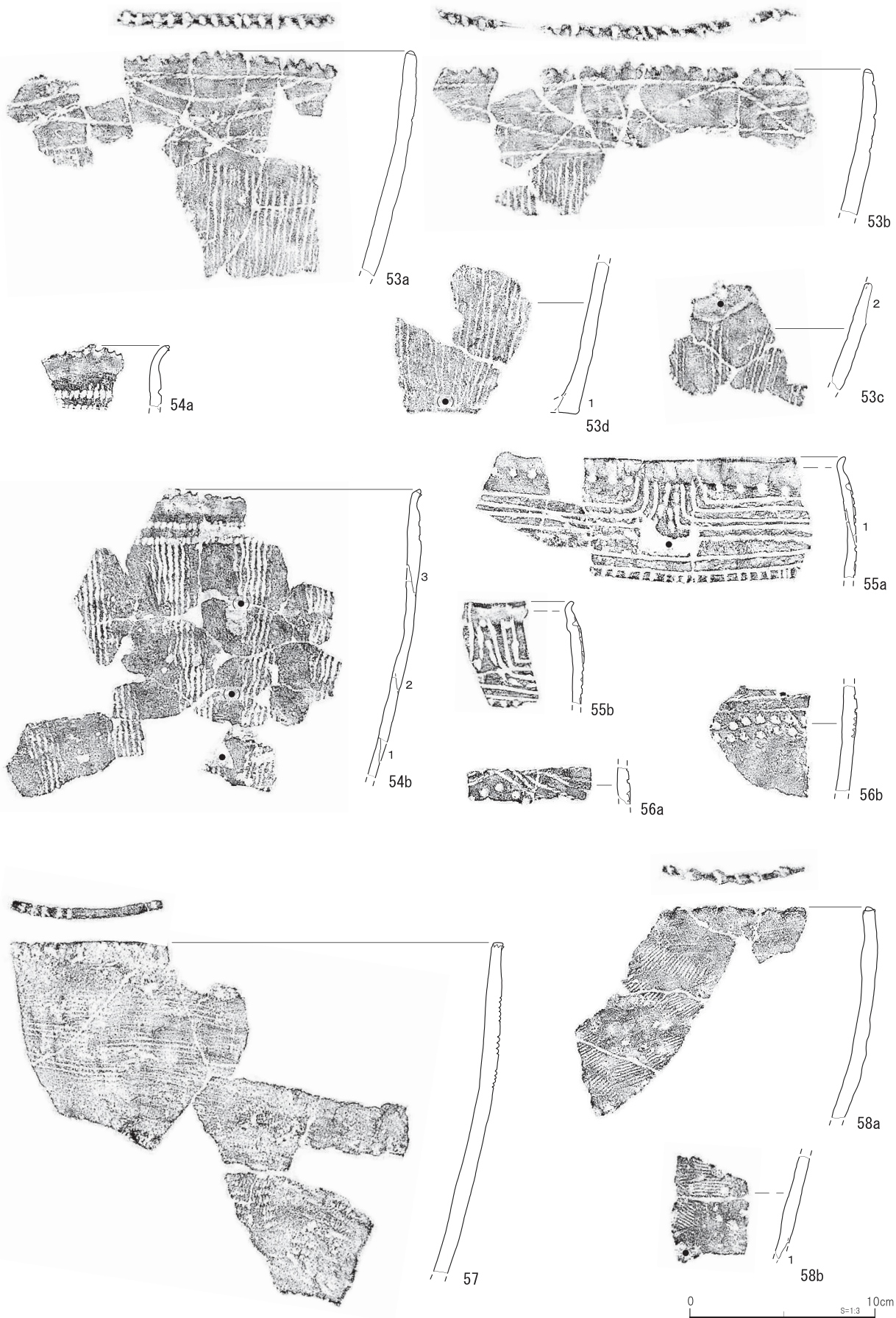
図V-2-22 VI群拓本土器(4)



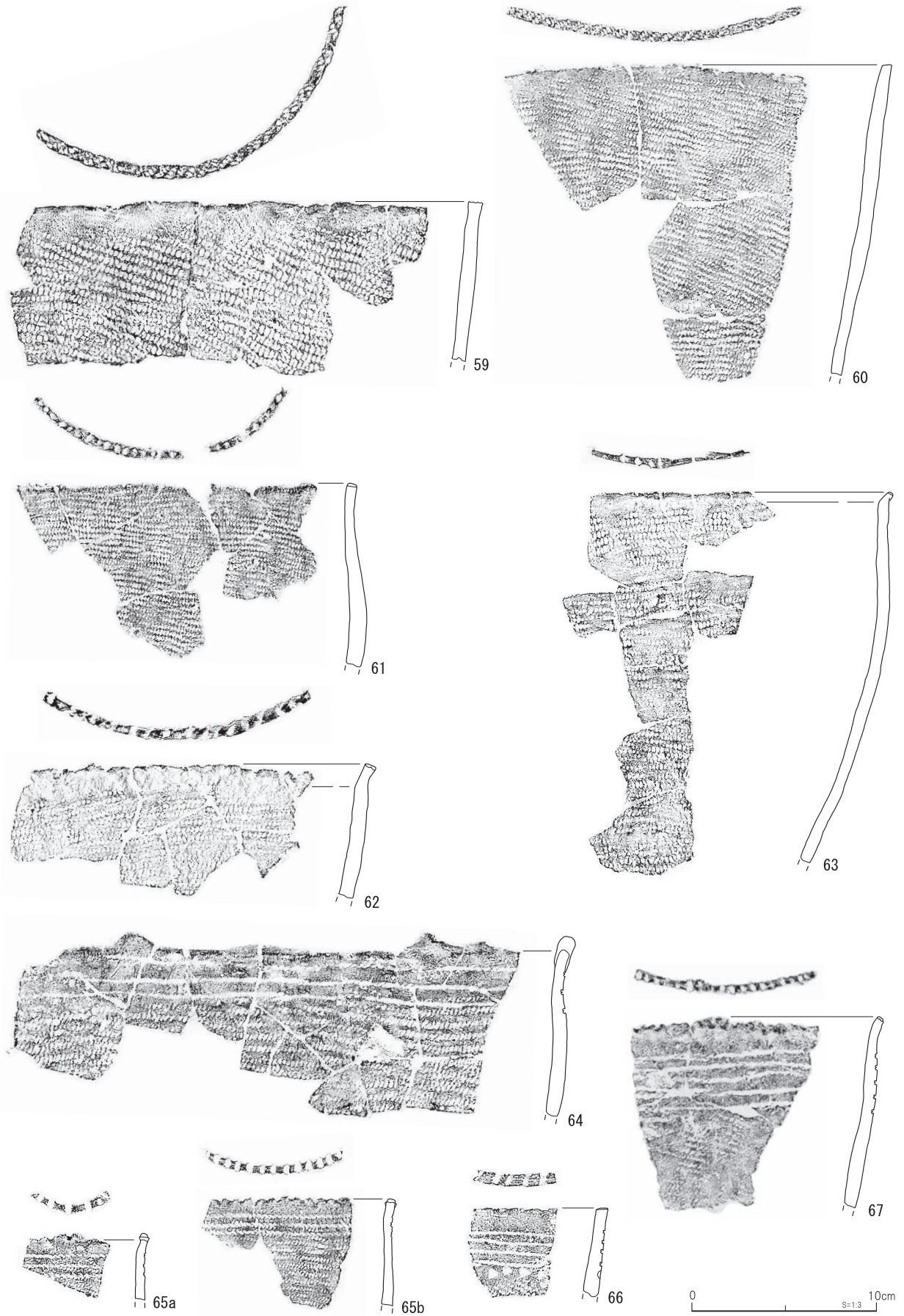
图V-2-23 VI群拓本土器(5)



図V-2-24 VI群拓本土器(6)



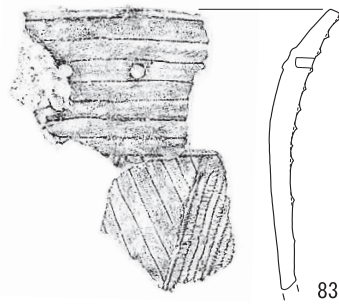
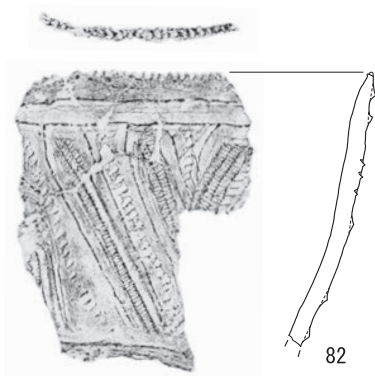
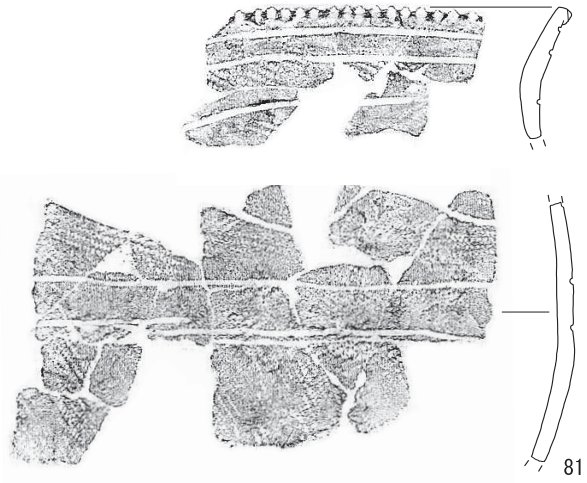
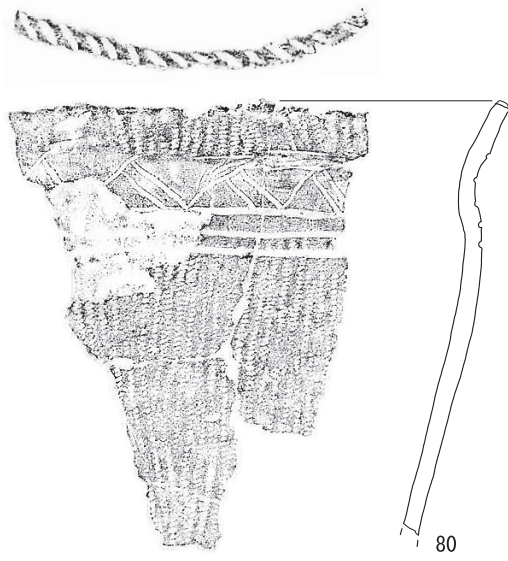
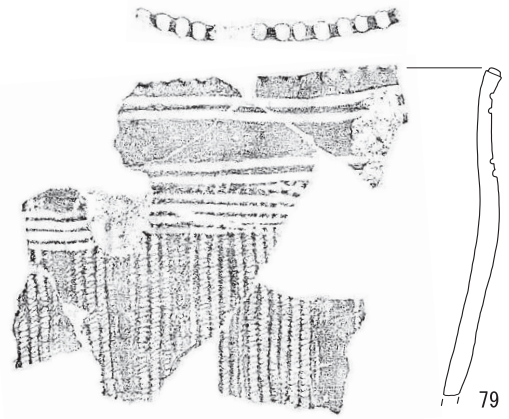
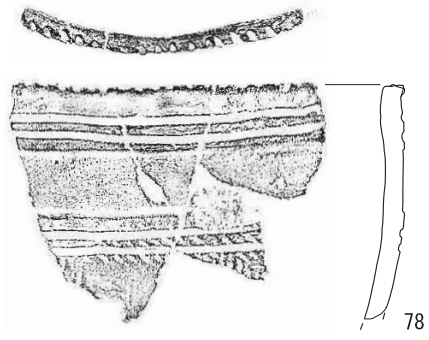
図V-2-25 VI群拓本土器(7)



図V-2-26 VI群拓本土器(8)



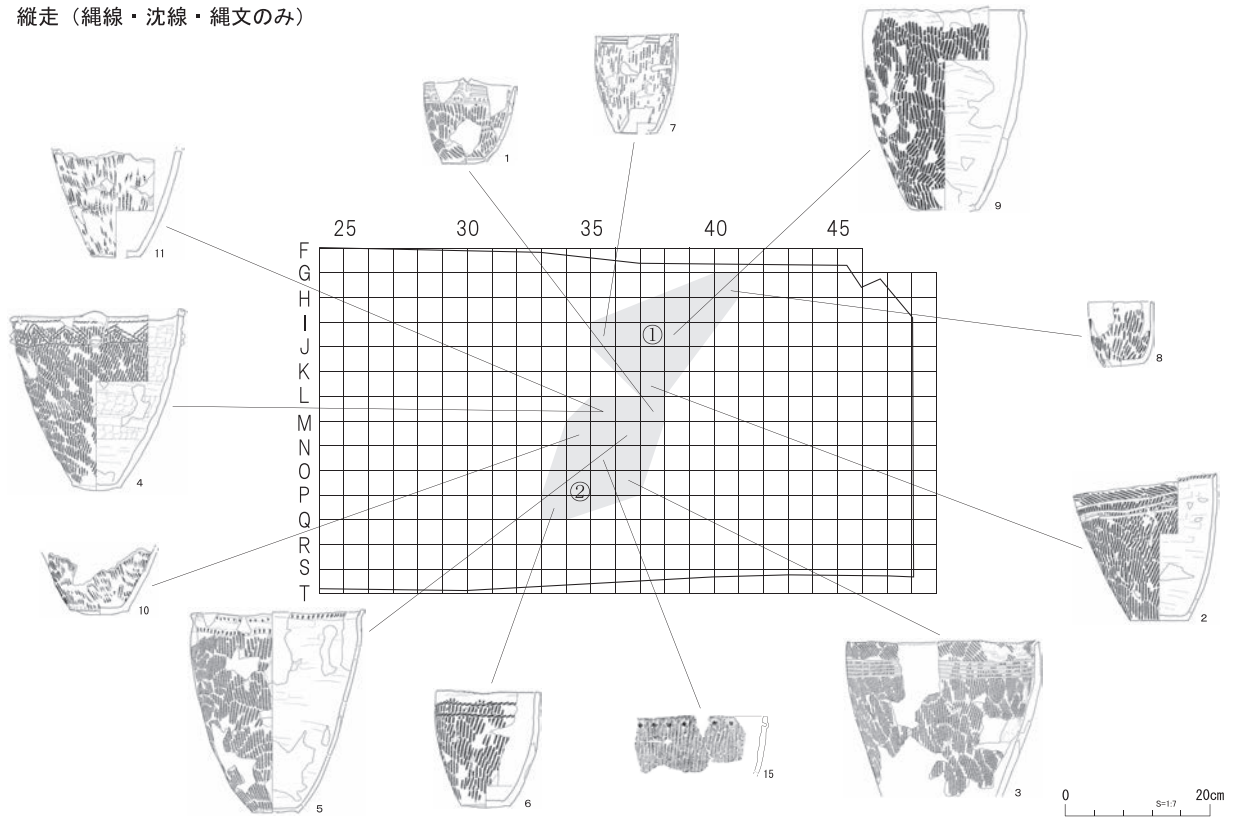
图V-2-27 VI群拓本土器(9)



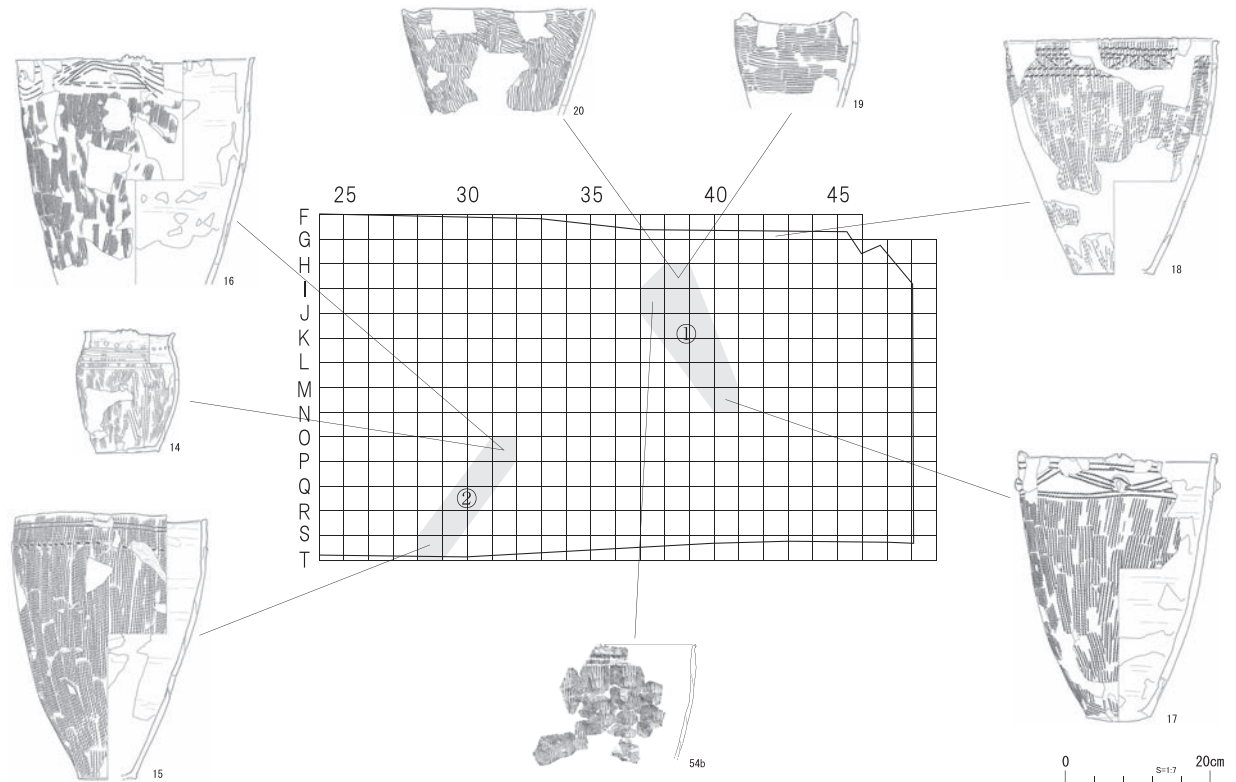
0 10cm
s=1:3

図V-2-28 VI群拓本土器(10)

縦走 (縄線・沈線・縄文のみ)

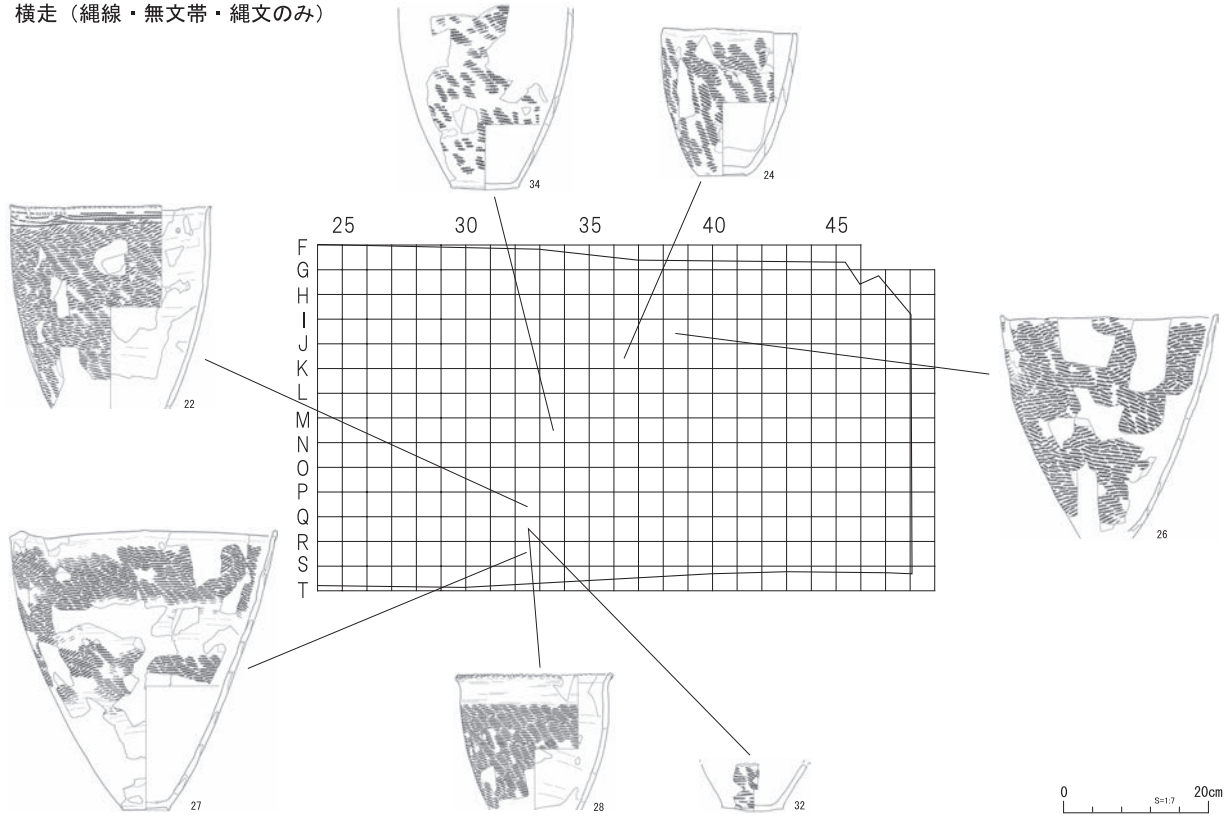


燃糸 (縄線・沈線・燃糸のみ) と自縄自巻

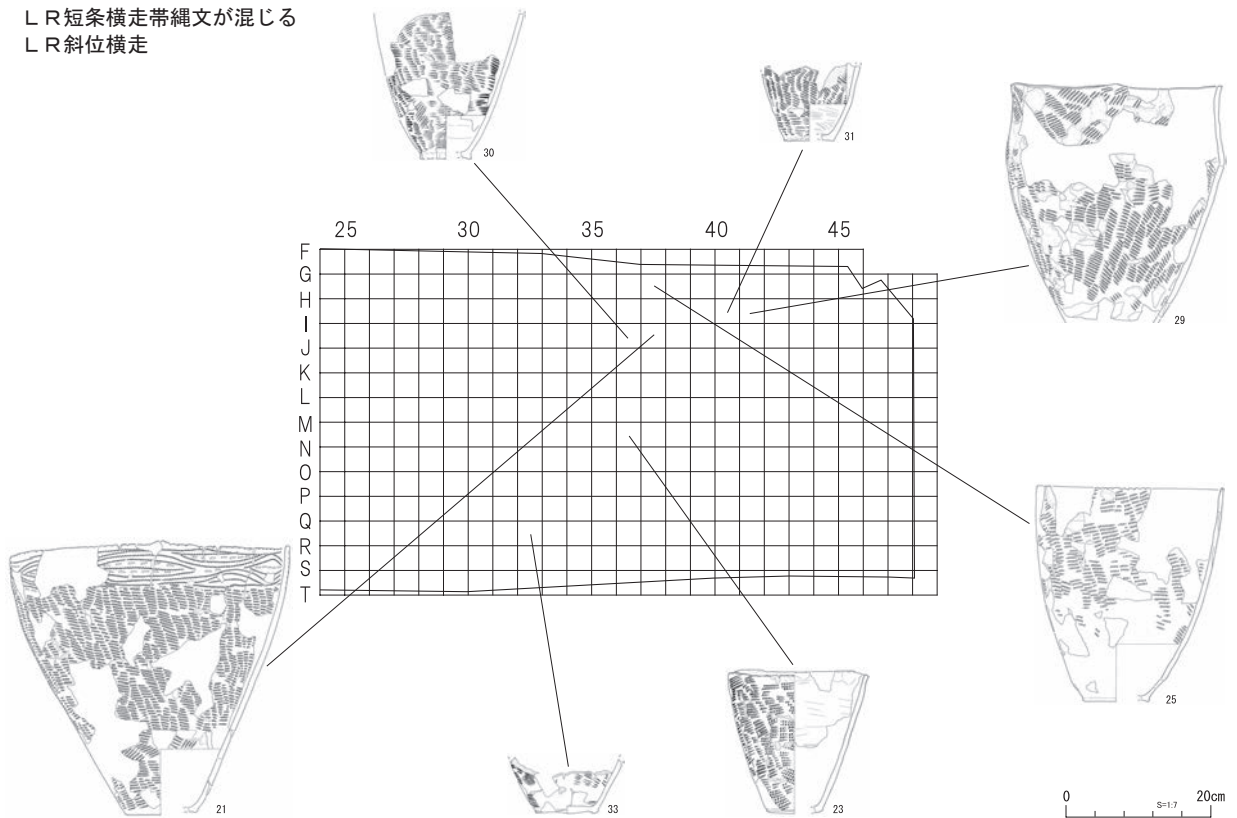


図V-2-29 VI群復元土器出土位置(1)

横走（縄線・無文帯・縄文のみ）



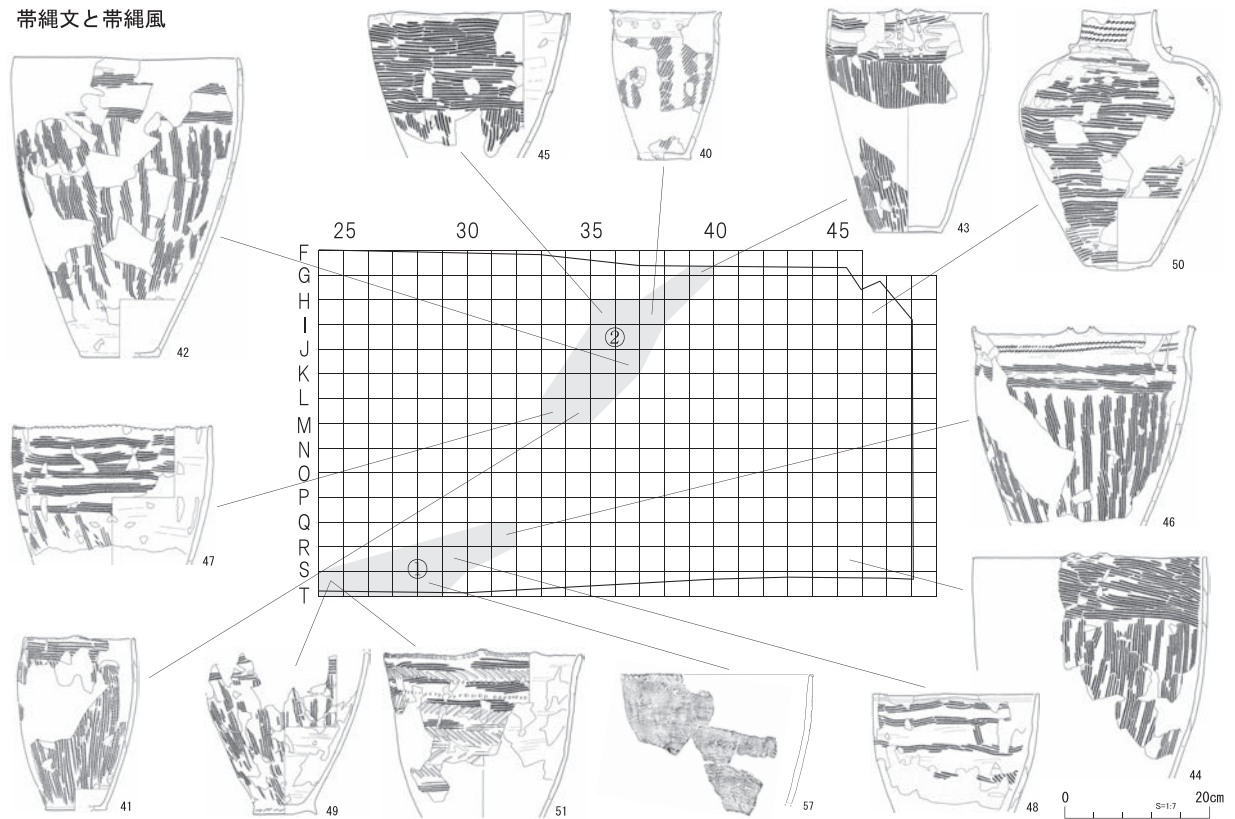
L R短条横走帯縄文が混じる
L R斜位横走



図V-2-30 VI群復元土器出土位置(2)

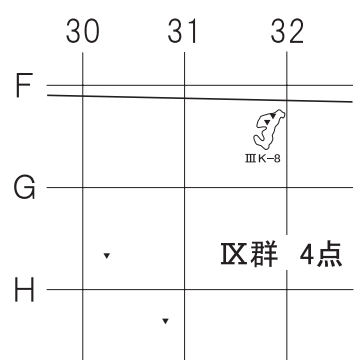
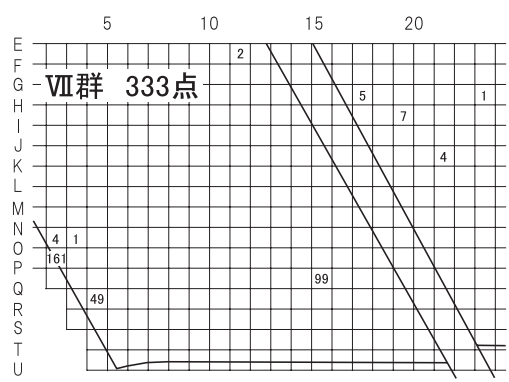
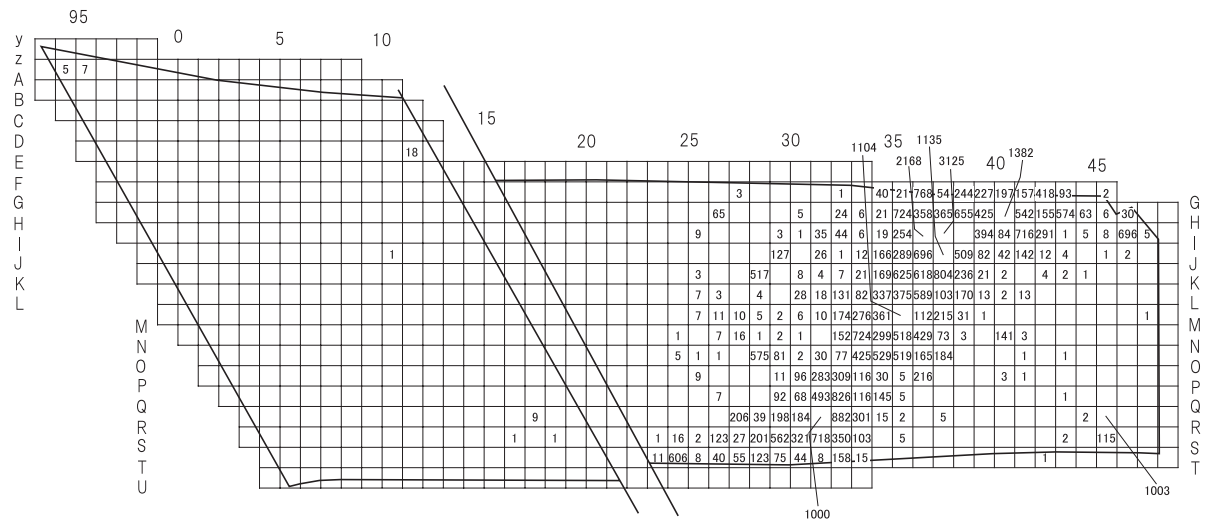
梅川4遺跡(3)

帯縄文と帯縄風



図V-2-31 VI群復元土器出土位置(3)

VI群 41,345点



図V-2-32 VI・VII・IX群分布

表V-2-1 V群c類掲載土器一覽

掲載番号	調査区・遺物番号×点数	層位	器種	部位	分類	図版番号	備考
図V-2-1-1	H35・4×24、H35・7×31、I35・9×1	III	浅鉢	復元個体(口縁~底部)	Vc	図版133	
図V-2-2-1	I41・1×33	III	浅鉢	復元個体(口縁~底部)	Vc		
図V-2-2-2	Q31・2×4	III	浅鉢	口縁部~胴部	Vc	図版134	
図V-2-2-3	Q33・2×1、R33・1×4	III	深鉢	口縁部	Vc		
図V-2-2-4	I41・1×41	III	浅鉢	復元個体(口縁~底部)	Vc	図版133	
図V-2-3-1	R27・3×16	V	浅鉢	口縁~底部	Vc		赤彩
図V-2-3-2	Q39・1×18	III	浅鉢	復元個体(口縁~底部)	Vc	図版134	

表V-2-2 復元土器観察(1)

掲載番号	胎土		口縁		上下方向の接合面		接合面の加工		歪み		外面液熱変色		灰化物の付着		補修孔		備考
	土器片	その他	外傾	内傾	中	立	管端	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
図V-2-1-1	やや粗	中粒砂(石灰・長石)・磁石															
図V-2-2-2	やや粗	中粒砂(石灰)・磁石															
図V-2-3-5	粗	粗粒砂・磁石	1														
図V-2-3-7	密度	細粒砂・磁石	1	2													上面は十字形

*赤褐色化(範囲)の数値は底部下端から高さ方向の距離(mm) *筒色帯の位置は底部下端から筒色帯下端までの高さ方向の距離(mm)

表V-2-3 復元土器観察(2)

掲載番号	形態		口頸部		口唇部		突起		口唇部・突起		外面		口縁部		内面		脚部・底部		底面		備考
	平縁	山形	突起	断面形	器壁の傾き	内外直内丸	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	断面形	
図V-2-1-1	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	
図V-2-2-2	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	
図V-2-3-5	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	
図V-2-3-7	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	

*突起の「前」は前突起、「後」は後突起、「脚」は左・右突起 *突起の形態が、台形・台・双角状 *口頸部の上・下は上→口縁・下→頸部に対応 *底部断面形・口縁部は外底面の凸が強いことを示す *下の地は○は燃赤、●は原体が腐蝕体

表V-2-4 復元土器観察(3)

掲載番号	復元番号	胎土		擬口縁										歪み				
		密度	混和材		上下方向の接合面					接合面の加工					側面観			
			土器片	その他	外傾	内傾	両傾	中立	不明瞭	管端	棒端	指押え	爪痕	縄文	非軸対称	口縁・底面非平行	器面平坦	
深鉢・鉢		* 赤橙色化範囲の数値は底部下端から高さ方向の距離(mm) * 暗色帯の位置は底部下端から暗色帯下端までの高さ方向の距離(mm)																
図V-2-4-1	13	蜜			3				1・2				1・2			◎	○	×
図V-2-4-2	8	蜜													◎	○	×	
図V-2-4-3	29	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂				1外傾か							○	—	×	
図V-2-4-4	11	やや粗		中粒軽石・砂											○	○	×	
図V-2-4-5	12	やや粗	少量	中粒軽石・砂	1						1				○	○	胴部	
図V-2-5-6	19	やや粗		中粒軽石・砂	1						1				○	○	×	
図V-2-5-7	3	蜜			1・2										◎	○	×	
図V-2-5-8	90	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂											○	—	—	
図V-2-5-9	27	蜜													×	○	口縁	
図V-2-5-10	91	やや粗		中粒軽石・砂				1外傾か							○	—	—	
図V-2-5-11	86	粗	少量	中粒～粗粒軽石・砂											○	○	×	
図V-2-5-12	70	やや粗		中粒～極粗粒軽石・砂	1										○	○	×	
図V-2-6-14	15	やや粗		粗粒軽石	1						1				○	○	×	
図V-2-6-15	20	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂	1～3						1～3				○	○	胴部	
図V-2-7-16	16	やや粗		中粒軽石・砂、赤色粒	2				1・3,3は外傾か						×	—	口縁・胴部	
図V-2-7-17	1	やや粗	少量	中粒～粗粒軽石・繊維痕	1・2										○	×	×	
図V-2-8-18	47	やや粗		粗粒砂		1・3・4	2・5				1				×	×	×	
図V-2-8-19	81	蜜			1・3	2									○	—	×	
図V-2-9-20	25	粗		中粒～粗粒軽石・砂											○	—	口縁	
図V-2-9-21	22	やや粗		中粒軽石・砂	1・2										◎	○	口縁	
図V-2-10-22	17	やや粗		中粒軽石・砂											×	—	×	
図V-2-10-23	14	粗		中粒～粗粒軽石・砂											○	—	口縁	
図V-2-10-24	9	やや粗		中粒～極粗粒軽石・砂	1～3						1～3				◎	○	×	
図V-2-10-25	23	やや粗		中粒軽石・砂				1・2							◎	○	×	
図V-2-11-26	80	やや粗	少量	中粒軽石・砂	1・2			3							○	—	×	
図V-2-11-27	46	やや粗		中粒砂		1～7									◎	○	×	
図V-2-12-28	32	蜜													×	—	×	
図V-2-12-29	4	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂	1										○	—	×	
図V-2-12-30	88	粗		中粒～粗粒軽石・砂											○	—	—	
図V-2-12-31	87	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂											○	—	—	
図V-2-12-32	89	やや粗		中粒軽石・砂											×	—	—	
図V-2-12-33	92	やや粗		中粒軽石・砂				1外傾か							—	—	—	
図V-2-13-34	82	やや粗		中粒軽石・砂	1・2						1				—	—	×	
図V-2-13-35	2	やや粗		中粒軽石・砂											◎	○	×	
図V-2-13-36	55	やや粗		中粒軽石・砂	2			1・3,3は内傾か							○	—	×	
図V-2-13-37	18	やや粗		中粒軽石・砂											×	○	×	
図V-2-13-39	83	やや粗		中粒軽石・砂											◎	○	×	
図V-2-14-40	48	粗		中粒～粗粒軽石・砂				1外傾か							○	○	×	
図V-2-14-41	30	粗		中粒～極粗粒軽石・砂	1			2外傾か							○	○	×	
図V-2-14-42	28	やや粗		中粒軽石・砂				1・2,1は外傾か							○	×	×	
図V-2-15-43	93	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂											×	×	×	
図V-2-15-44	21	粗		中粒～極粗粒軽石・砂	1・3			2外傾か			1・3				×	—	口縁	
図V-2-15-45	24	やや粗		中粒軽石・砂				1・2両傾か							○	—	×	
図V-2-16-46	31	粗		中粒～極粗粒軽石・砂	1・3			2外傾か							○	—	×	
図V-2-16-47	10	やや粗		中粒軽石・砂											×	—	口縁	
図V-2-16-48	45	粗		粗粒～極粗粒軽石・砂				1・2外傾か							×	—	口縁	
図V-2-17-49	84	やや粗		中粒軽石・砂											○	—	—	
図V-2-17-51	79	やや粗		中粒軽石・砂											×	—	×	
浅鉢		* 赤橙色化範囲の数値は底部下端から高さ方向の距離(mm) * 暗色帯の位置は底部下端から暗色帯下端までの高さ方向の距離(mm)																
図V-2-6-13	94	やや粗		中粒～粗粒軽石・砂		1									—	—	×	
壺・甕		* 赤橙色化範囲の数値は底部下端から高さ方向の距離(mm) * 暗色帯の位置は底部下端から暗色帯下端までの高さ方向の距離(mm)																
図V-2-13-38	75	やや粗		中粒軽石・砂				1							◎	—	×	
図V-2-17-50	5	粗	少量	粗粒軽石・砂	1～4	5					1～5				○	○	×	
図V-2-18-52	7	粗		中粒～粗粒軽石・砂		1		2外傾か							×	—	×	
VII・深鉢																		
図V-2-18-53	85	蜜		細粒軽石・砂		1									◎	×	×	

上面観	外面被熱				炭化物の付着			補修孔		備考
	変色		底部暗色帯		口縁～底部		内底面	部位	個数	
	黄白色化	赤橙色化	位置	帯幅	外面	内面				
—					口縁一部	口縁一部				
○						胴部～底部一部				
×			—	—	口縁一部	口縁・胴部一部	—			
○						胴一部				
×		胴部まで全面：166			口縁一部	口縁・胴部				
×		口縁までほぼ全面			口縁一部					
—					口縁一部	口縁・胴部一部	—	口縁	1孔、1ヶ所	
—						胴部～底部一部				
○							—			
—						底部一部				
—					胴部・底部一部	口縁・胴部				
—		胴部まで全面:86				口縁・胴部	—	口縁	1孔、1ヶ所	
○						口縁・胴部	—			
—		胴部まで全面:237	0	28	口縁一部	口縁一部	—			
○		胴部まで全面：？	—	—	口縁・胴部一部	胴一部	—			
—		胴部まで全面:94			口縁一部	口縁・底部一部	—			
—		胴部まで全面:74	0	22	胴部一部	口縁・胴部	—	口縁	3孔(2孔1対)、2ヶ所	
◎			—	—		口縁一部	—			
○			—	—			—	口縁	2孔(2孔1対)、1ヶ所	
×	胴部・底部の全面		0	25		底部一部	—			
—		胴部まで一部：？	—	—	口縁一部	胴部一部	—	口縁・胴部	4孔(2孔1対)、2ヶ所	
—					口縁一部	口縁・胴部	—			
○						口縁一部				二次比熱破片が殆ど
—		胴部まで全面：161	0	34	口縁・胴部一部	口縁・胴部一部	—			
—		底部まで全面：？	—	—	口縁一部	口縁・胴部一部	—			
×							—			
×			—	—	胴一部		—			
—		胴部まで全面：？	—	—	口縁一部	胴部一部・底部	—			
—						胴部～底部一部	—			
—							—			
—										
—		底部まで全面：？			胴一部	胴一部				
×					口縁一部	口縁～底部				
×		口縁まで一部								
×										
—		底部まで全面：42			口縁一部	口縁～底部	—			
×					口縁一部	口縁～底部				
×					口縁一部	口縁・胴部一部	—			器壁内部と器表同色
×			0	25	口縁一部	口縁～底部一部	—			器壁内部と器表同色
—		胴部まで全面：？	—	—	口縁・胴部	口縁・胴部	—			
×		胴部まで全面：？	—	—	口縁	口縁・胴部	—			
×		胴部まで一部：？	—	—	口縁一部	胴一部	—			
×			—	—	口縁一部	胴一部	—			器壁内部と器表同色
×			—	—			—			
×		胴部まで全面：？	—	—	口縁・胴部一部	口縁・胴部	—			
—						底部一部				
×			—	—						
—						体部一部・底部				
○							—			
×										
×			—	—	口縁	口縁・胴部	—	胴部	7孔(2孔3対)、4ヶ所	補修孔対1か所縦方向
×					胴部上半一部	口縁一部		頸部	4孔(2孔2対)、2ヶ所	

部	外面調整・文様															内面調整		型式名など	備考
	副文様		区画文		貼付	突槽内	貼付	胴部・底部					底面	口縁	器面	器面			
短沈線・沈線	刺突・管端	刺突・棒端	文・側面	文・側面				文・側面	文・側面	L捻り		RL捻り					L捻系	R捻系	ナデ

が絡縄体 ※胴部の▽▽はLR自縄自巻捻系風縄文

●5●7				●4●3							○2	●1				●		H37丘珠・新	
											○1	○2●1				●		H317・新	端面はRL縄文
												●2				●		H317・古	
			●2			●4						●1				●		H37丘珠・新	2・3はRL縄文
							●1					●1				●		H317・古	2はLR縄文
												●1				●		H317・古	端面はRL縄文、2はRL縄文
				●2								●1				●		H317・新	3はLR縄文
												●				●		H317・新	多条縄文
												●				●		H317・古	多条縄文
												●				●		H37丘珠	
												●				●		H37丘珠	
												●				●		H317・古	端面はLR縄文
						●3								▲1		●		H317・古	
						●1								▲2		●		H317・古	端面はLR縄文、3はR縄文
		●3			●4									▲1		●		H317・古	端面はR捻系、3はR縄文
		●3			●1									▲4▲5		●		H317・新	5は底部付近、2・3はR縄文
		●3												▲4		●		H317・新	端面はL捻系、1~3はRL縄文
														▲		●		H317・新	
														▽1▽2		●		H37栄町・古	端面はLR自縄自巻捻系風縄文
	●5	●4		●2			●1			○		●1				●		H317・新	2~4はR縄文
	●4			●2			●1			○		●1				●		H317・古	2はR縄文
							●			○		●				●		H317・新	端面はLR縄文
							●			○		●				●		H317・古	
							●			○		●				●		H317・新	端面はRL縄文→ナデ
							●			○		●				●		H317・古	
							●2			○		●				●		H317・古	突起は単峰・単峰台形
							●1			○		●				●		H317・古	多条縄文
							●			○		●				●		H317・新	端面はLR縄文、多条縄文
							○			○		●				●		H317新	外底部側に指押さえ
							○			○		●				●		H317新	多条縄文
							○			○		●				●		H317古	多条縄文
							○			○		●				●		H317新	
										○		●				●		H317古	
●3				●1												●		江別太1~2	
●3				○2												●		H317	
																●		H317	
							●									●		H317・古	外面ナデは板端木口
								●		○						●		H37栄町・古	突槽内面側ナデ埋める
												●1				●		H37栄町・古	2はRL帯縄文
												●1				●		H37栄町・古	2はRL帯縄文
●3												●1				●		H37栄町・古	2はRL帯縄文、多条縄文
												●1				●		H37栄町・新	2はRL斜位横走
												●2				●		H37栄町・新	2は強めの押捺のRL帯縄文、多条縄文
												●1				●		H37栄町・新	1はRL帯縄文、2はRL縄文
												●2				●		H37栄町・新	2はRL帯縄文、1・2は別原体
		○2●3										●1				●		H37栄町・新	端面はRL帯縄文、1・3はRL帯縄文、2はRL縄文
												●1				●		H37栄町・新	2は帯縄文RL、多条縄文、外底部側に爪形
●3																●		江別太1	1はR帯縄文

頸部	胴部	底部	底面	備考
縦位沈線	縦ハケ	横ナデ	ナデ	
斜位短	横ナデ	ナデ	ナデ	圧痕
沈線	縦	横	ナデ?	ミガキ
6	7	1	2	1
		縦	横	2
		ミガキ	ミガキ	
		1	2	1
		2		2

IX群・碗

図	形	胎土	釉調など	文様	産地・年代
V-2-18-54	中碗丸形	磁質明灰色	呉須; 灰緑青色	外面:口縁に1本線、植物? 内面:無文	肥前・17C後半

表V-2-7 拓本土器観察(2)

掲載番号	拓本番号	胎土		擬口縁										補修孔		備考	
		混和材		上下方向の接合面					横方向の接合面	接合面の加工				部位	個数		
		密度	土器片	その他	外傾	内傾	両傾	中立		不明瞭	管端	棒端	指押え				爪痕
深鉢・鉢																	
図V-2-19-1	40ab	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-19-2	100	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-19-3	15	粗		粗粒軽石・砂～礫													
図V-2-19-4	23	密		極細粒													胎土粉っぽい
図V-2-19-5	69ab	粗		粗粒～極粗粒軽石・砂													
図V-2-19-6	91	密															
図V-2-20-7	134	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1									1			胎土砂っぽい
図V-2-20-8	126a	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-20-9	42	粗		粗粒軽石・砂～礫													
図V-2-20-10	139	粗		粗粒軽石・砂～礫	2・3												1外・両の可能性
図V-2-20-11	104	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-20-12	137ab	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1									1			
図V-2-20-13	70	粗		粗粒～極粗粒軽石・砂													
図V-2-20-14	32	密															
図V-2-20-15	105	粗		粗粒～極粗粒軽石・砂													
図V-2-21-16	81	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-21-17	74	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-21-18	88	粗		中粒軽石・砂、礫													
図V-2-21-19	77	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-21-20	31	粗		中粒軽石・砂、礫													
図V-2-21-21	33	密															
図V-2-21-22	130	粗	少量	中粒軽石・砂				1						1			
図V-2-21-23	120	粗		中粒軽石・砂、礫													
図V-2-21-24	65	粗		中粒～粗粒軽石・砂、礫													
図V-2-21-25	123ab	粗		中粒軽石・砂、礫	1									1			
図V-2-21-26	110ab	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1												
図V-2-22-27	101ab	やや粗		中粒軽石・砂	1									1		口縁部	1孔、1ヶ所
図V-2-22-28	16ab	やや粗		中粒軽石・砂													口縁部未貫通1、1ヶ所
図V-2-22-29	50	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-22-30	30ab	密															1外・両の可能性
図V-2-22-31	97	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-22-32	133ab	やや粗		中粒軽石・砂	1・2									1・2			
図V-2-22-33	92	粗		中粒～極粗粒軽石・砂、礫													
図V-2-23-34	53	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-23-35	89	やや粗		中粒軽石・砂												口縁部	1孔、1ヶ所
図V-2-23-36	132	粗		粗粒軽石・砂										1		口縁部	1孔、1ヶ所
図V-2-23-37	131ab	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1・2												
図V-2-23-38	138a～c	粗		中粒軽石・砂、礫	1～3・5									1・3			4外・両の可能性
図V-2-23-39	68	粗		粗粒軽石・砂～礫													
図V-2-23-40	63	やや粗		中粒軽石・砂	1												
図V-2-23-41	141	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-24-42	119	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-24-45	54	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-24-46	114	粗		粗粒軽石・砂～礫													
図V-2-24-47	96	密															
図V-2-24-48	57	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-24-49	79ab	粗		中粒～極粗粒軽石・砂、礫													胴部未貫通1、1ヶ所
図V-2-24-50	24	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-24-51	135ab	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1									1		口縁部	1孔、1ヶ所
図V-2-24-52	124	粗		中粒～極粗粒軽石・砂													
図V-2-25-53	127a～d	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1												
図V-2-25-54	128ab	粗		粗粒軽石・砂～礫	1～3												
図V-2-25-55	49ab	やや粗		中粒軽石・砂	1												
図V-2-25-56	25ab	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-25-57	116	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-25-58	125ab	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1												
図V-2-26-59	95	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-26-60	14	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-26-61	106	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-26-62	103	密															
図V-2-26-63	41	粗		粗粒～極粗粒軽石・砂													
図V-2-26-64	38	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-26-65	52ab	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-26-66	18	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-26-67	111	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-27-68	55	やや粗		中粒軽石・砂													1内・外・両の可能性
図V-2-27-69	4	粗		中粒～粗粒軽石・砂													胎土砂っぽい
図V-2-27-70	12ab	やや粗		中粒軽石・砂	2									1			
図V-2-27-71	118	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-27-72	140	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-27-73	43	密															
図V-2-27-74	36	粗		中粒～粗粒軽石・砂													
図V-2-27-75	136ab	粗		中粒軽石・砂													胎土砂っぽい
図V-2-27-76	126b	粗		中粒～粗粒軽石・砂	1												2外・両の可能性
図V-2-27-77	51	粗		粗粒軽石・砂、礫													
図V-2-28-78	117	粗		中粒軽石・砂、礫													胎土砂っぽい
図V-2-28-79	75	粗		中粒～極粗粒軽石・砂、礫													
図V-2-28-80	107	やや粗		中粒軽石・砂													
図V-2-28-81	22ab	やや粗		極細粒～中粒軽石・砂													胎土粉っぽい
図V-2-28-82	108ab	粗		粗粒軽石・砂													
図V-2-28-83	121	粗		粗粒軽石・砂～礫													
浅鉢																	
図V-2-24-44	129	やや粗		中粒軽石・砂	1												
壺																	
図V-2-24-43	112	粗		粗粒軽石・砂～礫													

表V-2-8 VI群復元掲載土器一覧

掲載番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図V-2-4-1	L37・1×7、M35・1×8、M36・1×3 計18	Ⅲ	口縁～底部	VI	図版135	
図V-2-4-2	K37・2×50、K37・3×1、K38・2×28 計79	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-4-3	L37・1×11、M34・3×4、M36・1×5、 M37・2×20、N35・1×8、O36・1×18 計66	Ⅲ	口縁～胴部	VI		
図V-2-4-4	L35・1×3、L35・2×58、L35・3×2 計63	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-4-5	L33・1×27、L34・2×2、M32・2×2、 M33・3×15、M35・1×1、M36・1×67 計114	Ⅲ	口縁～底部	VI	図版136	
図V-2-5-6	O33・2×11、P33・2×10、P33・3×6 計27	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-5-7	I35・1×1、I35・3×1、I35・5×1、 I35・6×4、I35・7×1、J35・2×1、 J35・3×1、J36・1×3、J36・5×3、 J36・6×2、J37・1×7 計25	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-5-8	G40・1×12	Ⅲ	胴下～底部	VI	図版137	
図V-2-5-9	I28・2×1、I38・3×36、J28・2×16、 J38・2×18 計71	Ⅲ	口縁～胴下部	VI		
図V-2-5-10	M34・1×2、M34・2×6 計8	Ⅲ	胴上～底部	VI		
図V-2-5-11	L35・2×19、M35・1×13 計32	Ⅲ	胴中～底部	VI	図版137	
図V-2-5-12	H31・1×1、H32・1×2、I31・1×2、 I31・2×1、I33・1×2、L35・1×4、 L35・2×18 計30	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-6-13	F41・1×6、G41・1×1 計7	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-6-14	O30・2×15、O30・3×1、O31・1×8、 O31・2×10、O32・1×1、P30・2×1 計36	Ⅲ	口縁～底部	VI	図版138	
図V-2-6-15	G37・4×1、G43・2×1、G44・1×2、 R28・1×2、R28・2×61、R28・3×7、 R28・4×1、S28・2×28、S28・4×1 計104	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-7-16	O30・2×4、O31・1×4、O31・2×18、 O31・3×78、P30・2×14、P31・2×13、 P31・3×1、Q31・3×3 計135	Ⅲ	口縁～胴部	VI		
	P31・4×1	風倒木				
図V-2-7-17	F39・1×2、G38・1×3、G39・1×4、 G40・1×4、H32・1×1、H35・4×2、 H36・1×1、H36・3×3、H36・7×1、 H38・1×1、H39・2×2、H40・1×1、 I34・1×1、I35・1×2、I36・2×6、 I37・1×1、J33・1×4、J34・2×6、 K33・2×2、M40・1×23、M40・2×14 計84	Ⅲ	口縁～底部	VI	図版139	
図V-2-8-18	F41・1×4、F42・1×2、F42・2×1、 F42・3×36、G41・1×3、G42・1×10 計56	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-8-19	F39・2×1、G35・1×2、G38・1×1、 H37・2×2、H38・1×4、H38・2×7、 H38・6×1、K41・2×1 計19	Ⅲ	口縁～胴上部	VI		
図V-2-9-20	G38・1×12、H38・1×5、H38・2×1、 H38・3×11、H39・2×5、I37・1×1 計35	Ⅲ	口縁～胴上部	VI	図版140	
図V-2-9-21	F37・1×4、F38・2×2、G38・1×20、 H36・1×1、H36・7×2、H37・2×1、 H37・5×1、H37・6×1、H38・1×1、 H38・2×1、H38・3×5、H39・2×3、 I36・2×2、I37・1×92、I38・3×1、 I40・1×9、I47・1×1、J37・2×8 計155	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-10-22	P32・3×55、Q32・1×1、Q32・2×7、 Q33・1×1、Q33・2×8、R33・1×29 計101	Ⅲ	口縁～胴上部	VI		
図V-2-10-23	M35・1×3、M36・1×25 計28	Ⅲ	口縁～底部	VI	図版141	
図V-2-10-24	I36・2×3、I37・1×2、J35・3×3、 J36・5×1、J36・6×16、J37・2×15、 K36・4×1、J36・2×1、J37・1×2 計44	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-10-25	F38・2×1、G35・1×9、G37・1×93、 G38・1×1 計104	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-11-26	I38・1×1、I38・3×32、J38・2×3、 K37・2×2、L37・1×1、L38・1×1、 M32・1×1、M34・3×7、M35・1×4 計52	Ⅲ	口縁～底部	VI	図版142	
図V-2-11-27	P32・12×1、Q31・1×1、Q32・2×20、 Q32・5×2、R31・4×2、R32・1×13、 R32・2×76、R33・1×4、S32・1×3、 S32・2×54、S33・1×5、S33・3×1、 排土・1×1 計183	Ⅲ	口縁～底部	VI		
図V-2-12-28	P32・1×2、P32・2×5、P32・3×3、 P33・2×1、Q32・2×34、Q32・3×1、 Q33・2×3、Q33・4×8 計57	Ⅲ	口縁～胴中部	VI		
図V-2-12-29	F40・1×1、G40・1×1、G41・1×27、 H40・1×1、H41・1×3、H41・2×1、 H41・3×90 計124	Ⅲ	口縁～胴下半部	VI	図版142	
図V-2-12-30	I36・2×26	Ⅲ	胴下～底部	VI		
図V-2-12-31	H39・2×2、H40・1×28 計30	Ⅲ	胴下～底部	VI		
図V-2-12-32	P31・1×1、P32・1×1、Q31・2×1、 Q32・2×5 計8	Ⅲ	底部	VI	図版142	
図V-2-12-33	P32・2×2、Q32・2×13 計15	Ⅲ	胴下～底部	VI		
図V-2-13-34	M32・1×2、M32・2×2、M33・3×14、 M33・4×25 計43	Ⅲ	胴下～底部	VI		

表V-2-8 VI群復元掲載土器一覽

掲載番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考
図V-2-13-35	G40・1×2	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ	図版142	
図V-2-13-36	G38・1×24	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ		
図V-2-13-37	S32・1×9	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ		
図V-2-13-38	H35・4×8	Ⅲ	口縁～肩部	Ⅵ		
図V-2-13-39	F40・1×8、G39・1×1、G40・1×14、 G40・3×2 計25	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ	図版143	
図V-2-14-40	H37・1×1、H37・2×25、H37・4×2、 H37・5×4、H37・6×2、I37・1×1 計35	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ		
図V-2-14-41	L34・1×16、L34・2×77 計93	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ		
図V-2-14-42	J36・1×1、J36・3×3、J36・4×186、 J37・2×1、J38・4×1、K36・4×56、 K37・2×1 計249	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ	図版144	
図V-2-15-43	F37・1×8、F38・2×6、F41・1×21 計35	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ		
図V-2-15-44	R45・1×16、R45・2×58、R45・3×1 計75	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅵ		
図V-2-15-45	H35・1×1、H35・2×45、H35・3×19、 H35・4×3、H35・5×19、I36・2×15 計102	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅵ		
図V-2-16-46	K30・3×2、K32・1×31、K32・2×12、 L32・1×3、L32・2×20、L32・3×8、 Q30・1×4、Q31・1×30、Q31・2×1、 R30・1×6、R30・3×5、R31・1×1、 R31・4×22 計145	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅵ	図版145	
図V-2-16-47	L33・1×85	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅵ		
図V-2-16-48	M34・2×1、Q30・1×4、Q31・1×5、 R28・3×2、R29・4×18 計30	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅵ		
図V-2-17-49	S24・2×100	Ⅲ	胴～底部	Ⅵ		
図V-2-17-50	H45・1×3、H46・2×113 計116	Ⅲ	口縁～底部	Ⅵ		
図V-2-17-51	S24・1×6、S24・2×118、S25・1×2 計126	Ⅲ	口縁～胴上部	Ⅵ		
図V-2-18-52	J34・2×9、K34・1×104、K34・2×6、 L38・1×4 計123	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅵ		
図V-2-18-53	N2・1×3、N3・1×1、O2・1×116、 O2・3×1、Q4・1×42 計163	Ⅲ	口縁～底部	Ⅶ	図版146	
	O2・1×3、P3・1×6 計9	攪乱				
図V-2-18-54	F31・2×2、G30・2×1、H30・1×1 計4	Ⅲ	口縁～胴部	Ⅸ		
	Q33・2×3、Q33・4×8 計57					

表V-2-9 VI群掲載拓本土器一覽

掲載番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-2-19-1	a H37・5×9、H37・6×6 計15	Ⅲ	口縁～胴上部	図版147	同一個体
	b H37・5×7	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-19-2	M35・1×10	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-19-3	K35・1×10、K35・2×2 計12	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-19-4	F42・3×1、G41・1×3 計4	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-19-5	a L37・1×6	Ⅲ	口縁部		
	b L37・1×4	Ⅲ	口縁部		
図V-2-19-6	G40・3×8	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-7	Q30・1×5	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-8	G40・1×8	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-9	H36・7×4	Ⅲ	口縁部		
図V-2-20-10	R29・3×2、R29・5×17 計19	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-11	N34・2×10	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-12	a Q32・1×4、Q32・2×4 計8	Ⅲ	口縁～胴部		
	b Q32・1×1、Q32・2×2 計3	Ⅲ	底部		
図V-2-20-13	L35・2×1、L36・1×7、M35・2×1 計9	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-14	H39・2×3	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-20-15	N35・1×5	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-16	P31・1×3	Ⅲ	口縁部		
図V-2-21-17	P32・1×2	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-18	F42・1×1、F42・3×12 計13	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-19	R30・3×3	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-20	H38・3×3	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-21	H38・3×5	Ⅲ	口縁部		
図V-2-21-22	K38・3×14	Ⅲ	口縁部		
図V-2-21-23	S30・2×7	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-24	J35・3×6	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-21-25	a G36・1×4	Ⅲ	口縁部		
	b G35・1×2、G37・1×3 計5	Ⅲ	胴部		
図V-2-21-26	a Q29・1×12	Ⅲ	口縁～胴部		
	b Q28・2×4、Q29・1×2 計6	Ⅲ	胴部～底部		
図V-2-22-27	a N35・1×4	Ⅲ	口縁～胴上部		
	b M36・1×8	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-22-28	a I37・1×2	Ⅲ	口縁部		
	b J37・2×1	Ⅲ	口縁部		
図V-2-22-29	M35・1×7	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-22-30	a G43・4×4	Ⅲ	口縁～胴上部		
	b G43・4×27	Ⅲ	口縁～胴上部		
図V-2-22-31	L33・1×8、M34・2×1 計9	Ⅲ	口縁～胴中部		
				図版149	同一個体

掲載番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-2-22-32	a P32・1×11	計5	Ⅲ 口縁部	図版149	同一個体
	b P32・1×5		Ⅲ 底部		
図V-2-22-33	H38・1×1、H38・2×1、H38・6×3	計5	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-23-34	J35・3×1、J36・3×9、J37・1×2	計12	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-23-35	G39・1×5		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-23-36	L35・1×4、L35・2×4、L36・1×3	計11	Ⅲ 口縁部		
図V-2-23-37	a P32・1×3、R29・6×3、R31・1×1、R31・4×11	計18	Ⅲ 口縁～胴上部		
	b Q31・1×3		Ⅲ 胴下部		
図V-2-23-38	a Q32・1×1、Q32・2×17	計18	Ⅲ 口縁～胴下部		
	b Q32・2×4		Ⅲ 底部		
	c Q32・2×4		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-23-39	N34・1×3、N34・2×2	計5	Ⅲ 底部		
図V-2-23-40	L35・2×1、N35・1×1	計2	Ⅲ 底部		
図V-2-23-41	H37・2×2、H37・5×2	計4	Ⅲ 胴下部～底部		
図V-2-24-42	R32・1×7、R32・2×1	計8	Ⅲ 胴下部～底部		
図V-2-24-43	Q32・2×9		Ⅲ 口縁～胴中部		
図V-2-24-44	I36・2×1、I37・1×5、I38・3×1	計7	Ⅲ 口縁部		
図V-2-24-45	J37・1×1、K36・4×2	計3	Ⅲ 口縁部		
図V-2-24-46	Q33・2×2		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-24-47	J36・5×1、J37・1×2、J37・2×2、L33・1×1	計6	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-24-48	K33・2×5		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-24-49	a P31・1×1、P31・2×2	計3	Ⅲ 口縁～胴上部		
	b P31・1×2、P31・2×1、P31・3×2		計5	Ⅲ 口縁～胴上部	
図V-2-24-50	G39・1×3		Ⅲ 口縁部		
図V-2-24-51	a Q32・2×4	計7	Ⅲ 口縁～胴上部		
	b Q32・2×6、Q32・3×1		Ⅲ 底部		
図V-2-24-52	G36・1×2、H36・3×3	計5	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-25-53	a H37・6×9	計12	Ⅲ 口縁～胴上部		
	b G40・1×10、H37・2×2		Ⅲ 口縁部		
	c H37・2×3		Ⅲ 胴部		
	d H37・2×2		Ⅲ 胴下～底部		
図V-2-25-54	a M34・1×1	計6	Ⅲ 口縁部		
	b I37・1×16		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-25-55	a H37・6×1、I37・1×3、N33・1×2	計6	Ⅲ 口縁部		
	b N33・1×2		Ⅲ 口縁部		
図V-2-25-	a G40・3×2	計6	Ⅲ 口縁部		
	b G40・3×2		Ⅲ 口縁部		
図V-2-25-57	R28・3×2、S28・3×4	計6	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-25-58	a G39・1×3、H38・1×1、H38・2×1	計5	Ⅲ 口縁部		
	b H39・2×2		Ⅲ 底部		
図V-2-26-59	J35・3×11、J35・4×1	計12	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-26-60	J37・1×1、J37・2×3	計4	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-26-61	N34・2×8		Ⅲ 口縁～胴中部		
図V-2-26-62	N33・1×3、N34・2×5	計8	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-26-63	H36・1×12		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-26-64	H36・6×3、H37・2×2、H37・4×4、H37・5×7	計16	Ⅲ 口縁部		
図V-2-26-65	a J34・3×1	計2	Ⅲ 口縁部		
	b H33・1×1、I35・6×1		Ⅲ 口縁部		
図V-2-26-66	F35・1×1		Ⅲ 口縁部		
図V-2-26-67	Q29・1×4		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-27-68	M33・3×5		Ⅲ 口縁部		
図V-2-27-69	I36・2×3		Ⅲ 口縁部		
図V-2-27-70	a K36・4×4、K36・5×1	計5	Ⅲ 底部		
	b L36・1×1		Ⅲ 底部		
図V-2-27-71	R31・4×6		Ⅲ 胴下～底部		
図V-2-27-72	S29・3×10		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-27-73	H36・1×6		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-27-74	H36・3×3		Ⅲ 口縁部		
図V-2-27-75	a Q33・2×2、Q33・3×2	計4	Ⅲ 口縁部		
	b Q32・2×3		Ⅲ 口縁部		
図V-2-27-76	F39・2×1、G39・1×3、G39・2×1、G40・1×25、G40・3×23	計53	Ⅲ 胴部～底部		
図V-2-27-77	J37・2×3		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-28-78	R31・4×4		Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-28-79	P31・1×2、P31・2×4	計6	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-28-80	N36・1×2、N36・2×4	計6	Ⅲ 口縁～胴上部		
図V-2-28-81	G26・1×24		Ⅲ 口縁～胴中部		
図V-2-28-82	O31・1×5		Ⅲ 口縁～胴下部		
図V-2-28-83	Z95・2×2		Ⅲ 口縁～頸部		

f-1 表V-2-10の属性記述について(図V-2-23、表V-2-10・11)

この表は孔の状態・計測値に関して記述した。孔No.に付されているa-b、c-dは立体復元・破片資料を正置・正対した場合の天地左右であり、対であることを表す。a(向かって左側孔)-b(向かって右側孔)、c(口縁側孔)-d(底部側孔)。

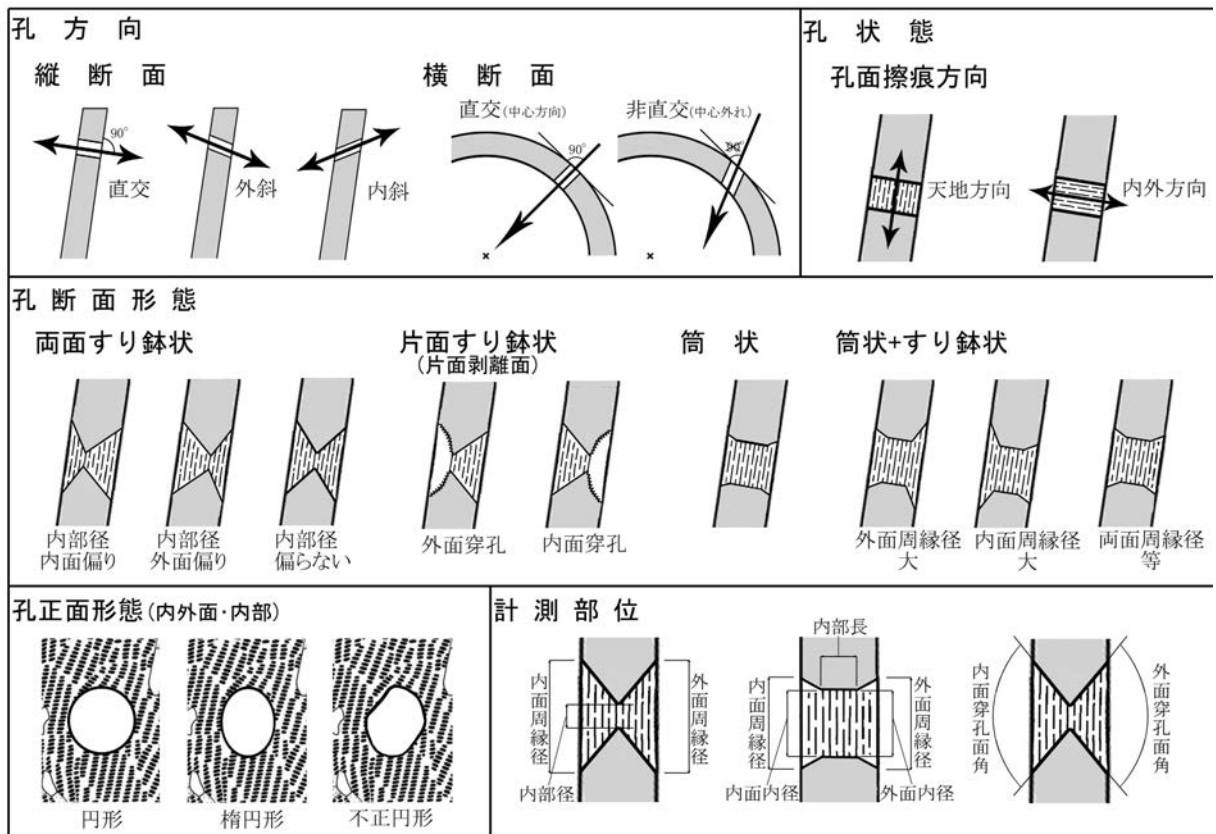
「孔方向」は土器に対する穿孔軸の方向を記し、縦断面については「直交:内面-外面に対して直交気味」「外斜:外面に向かって下る」「内斜:内面に向かって下る」、横断面については「(器表接線に対して)直角=器体中心に向かう」「(器表接線に対して)非直角=器体中心からそれる」。

「孔状態」は穿孔による加工痕を記し、孔口には「穿摩・剥離」がみられ、孔内部には擦痕・条痕「断面見通しにおいて天地方向:器体中心軸に直交する軸を持つ回転」「断面見通しにおいて内外方向:器体中心軸に向かう水平方向」がみられる。

「断面形態」は縦断面に関して、「両すり鉢状:内外面における穿孔面が漏斗状になる」「片すり鉢状:片穿孔面が漏斗状で片面が剥離」「筒状:孔口に漏斗状の穿孔面が殆どない」「すり鉢状+筒状:筒状の孔口部が漏斗状で内部が筒状」。「正面形態」は内外面側から見た孔口縁の形であり、目視で「円:円形、楕:楕円形、不:不正円」に分けた。

「計測値」は孔径・内部長・器厚・穿孔面角について計る。「孔径」は内外面・内部において「周縁径:孔口上端(すり鉢状の口)を計測」「内径:筒状・筒状+すり鉢状における孔口下端(すり鉢状の底)を計測」「内部径:両すり鉢状・片すり鉢状における孔口下端(すり鉢状の底)を計測」であり、「↓:口縁-底部方向の計測値」、「↔:向かって左右側方向の計測値」、「平均:↓方向の計測値と↔方向の計測値との平均値」である。「内部長」は「筒状」「すり鉢状+筒状」における、すり鉢状の部分を除いた孔の長さである。

「器厚」は孔口付近の計測値である。「穿孔面角」はすり鉢状の傾斜面がなす角度で、「両すり鉢状」「片すり鉢状」「すり鉢状+筒状」においてで計測可能で、「筒状」は穿孔面が小さく計測不能で、穿孔面が剥離面



図V-2-33 穿孔分類要素

の場合は計測不能である。

f-2 VI群ab類の補修孔について

孔方向 縦断面については「外斜」(2例)に比べて「直交」(22例)が92%と極めて多く、横断面については全て「直交」(24例)がである。

孔状態 外面は「穿削」(24例)が全てで、内面は「穿摩」(9例)・「剥離」(13例)ある。孔内部における孔面擦痕は全て「天地方向」(24例)の条痕である。

断面形態 「両すり鉢状」(9例)は全て内部径が著しく内面側に寄る、「片すり鉢状」(13例)は全て外面が「穿削」である、「筒状」は1例ある。

正面形態 表面の外面側は円形(15例)・楕円形(6例)で円形が多く、表面の内面側は円形(5例)・楕円形(8例)・不正円形(5例)で、内部は円形(1例)・楕円形(14例)・不正円形(3例)では楕円形多い。

計測値・孔径 外面側周縁径の平均値は最大10.7mm・最小4.0mm(これは外れ値でもある)であり、外れ値を除く平均は8.2mmである。内面側周縁径の平均値は最大9.0mm・最小5.2mmであり平均は6.6mmである。

計測値・内部径 最大5.9mm・最小3.1mmであり平均は4.3mmである。

計測値・器厚 最大9.0mm(これは外れ値でもある)・最小5.0mmであり、外れ値を除く平均は6.5mmである。

計測値・穿孔面角 外面側は最大75°(これは外れ値でもある)・最小29°であり、外れ値を除く平均は39°である。内面側は最大47°・最小26°であり平均は36°である。

VI群a b類の特徴をまとめる。穿孔は器面に対して直交かつ器体中心軸に向かって施される。外面側には「穿摩」が内面側には「剥離」も多くみられ、孔内部には器体中心軸に直交する軸を持つ回転条痕がみられる。穿孔の断面形態は内面側が剥離する「片すり鉢状」と内部径が著しく内面側に寄る「両すり鉢状」である。

表V-2-11は石錐の機能部に関する観察である。基部形態・柳葉形は先端角度やや大きく、棒状は小さく、摘み状は変異が大きい、平均は35°であった。VI a類の穿孔角平均値は外面側39°・内面側36°なので、35°は内面側の数値に近い。類例は少ないが石錐をもって土器穿孔が行われていた可能性の一端を示す。

f-3 VII群b類の補修孔について

VII群b類についてはVI群a b類との比較においてその特徴をまとめる。穿孔はVI群a b類と同様に、器面に対して直交かつ器体中心軸に向かって施される。外面側・内面側ともに「穿摩」がみられ、VI群a b類に多く見られた内面「剥離」はみられない。孔内部には器体中心軸に直交する軸を持つ回転条痕がみられVI群a b類と同様である。穿孔の断面形態は「すり鉢状+筒状」であり、「外面周縁径大」・「両面周縁径等」がみられる。

VII群b類は、VI群a b類に多く見られた内面「剥離」はみられず、穿孔の断面形態は「すり鉢状+筒状」であり、穿孔角平均値もVI群a b類よりも小さい。これらより、VII群b類はVI群a b類と異なる穿孔具が用いられていたと考えられ、当該期においては定形的石錐は存在しない、穿孔角平均値の違いもそれを支持する。

(鈴木)

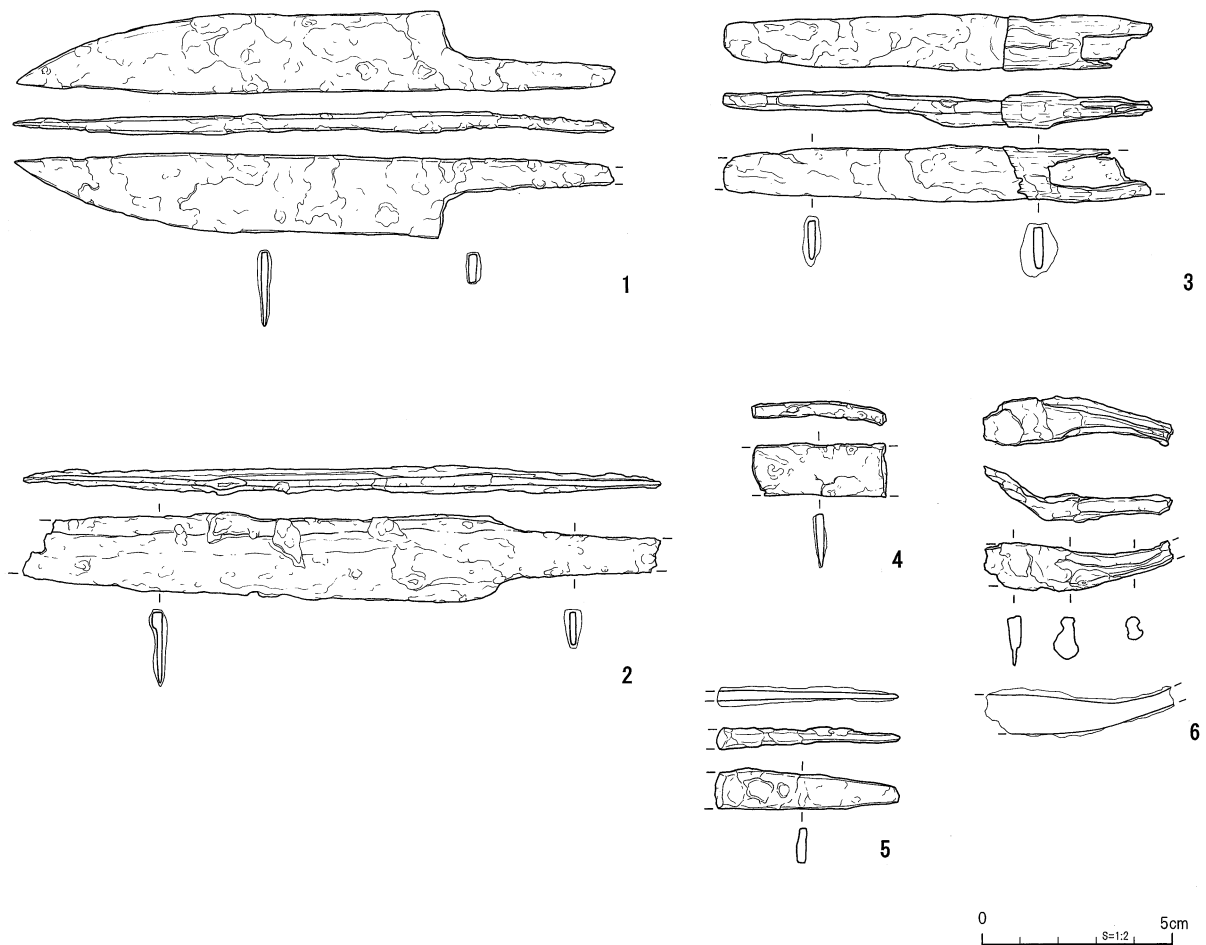
(2) 金属製品・ガラス製品

記述・分類は鈴木信2012年「V-3-(1)(2)鉄製品・非鉄製品」『松前町 福山城下町遺跡』に従う。

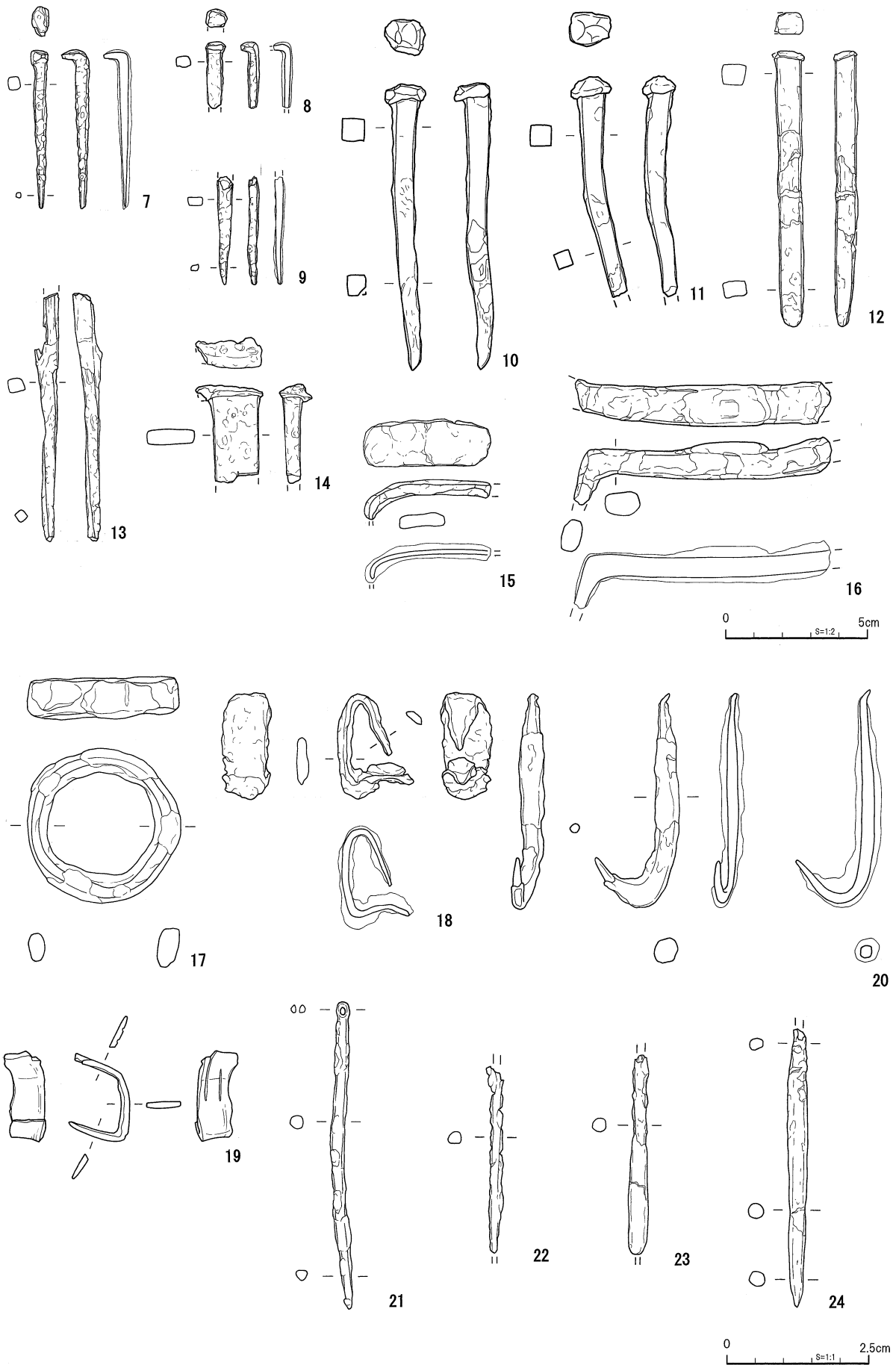
1～6は刀子。1はI類・棟元形b、茎尻が欠失する、反りが無い平棟・平造、棟区はなく刃区がある。刃長11.3cm・元幅1.9cm・棟幅0.2cm。2はI類・棟元形a、茎尻・切先が欠失する、反りが無い平棟・平造、棟区・刃区があり、棟は敲打によって潰れていることが断面に現れている。刃長11.5cm以上・元幅1.9cm以上・棟幅0.3cm。3はIII類にやや似る、棟区・刃区がない。茎尻・切先が欠失し茎には柄木(素木)が遺存している、反りが無い平棟・平造。刃長7.7cm以上・元幅1.3cm・棟幅0.4cm。4は茎・刃部のほとんどが欠失する曲がった刃部片、平棟・平造。5は切先と刃部のほとんどが欠失し、茎尻も欠失する、茎片。6は刃部のほとんどが欠失し、茎尻も欠失する、茎片。茎尻側の棟側・刃側が敲打によって潰れており、さらに棟側に曲げられている。転用過程の未成品と考えられる。

7～13は鉄釘。7は折釘・頭部形状c、基部断面と脚部断面はともに四角形、完形。8は平折釘・頭部形状d、基部断面は長方形、脚部欠失。9は分類不明、基部断面・長方形、基部断面・四角形、頭部欠失。10は折釘・頭部形状c、基部断面と脚部断面はともに四角形、完形。11は折釘・頭部形状c、基部断面と脚部断面はともに四角形、脚部先端欠失。12は平釘、基部断面・四角形、基部断面・長方形、完形。13は分類不明、基部断面と脚部断面はともに四角形、基部に対して脚部がねじれている、頭部欠失。

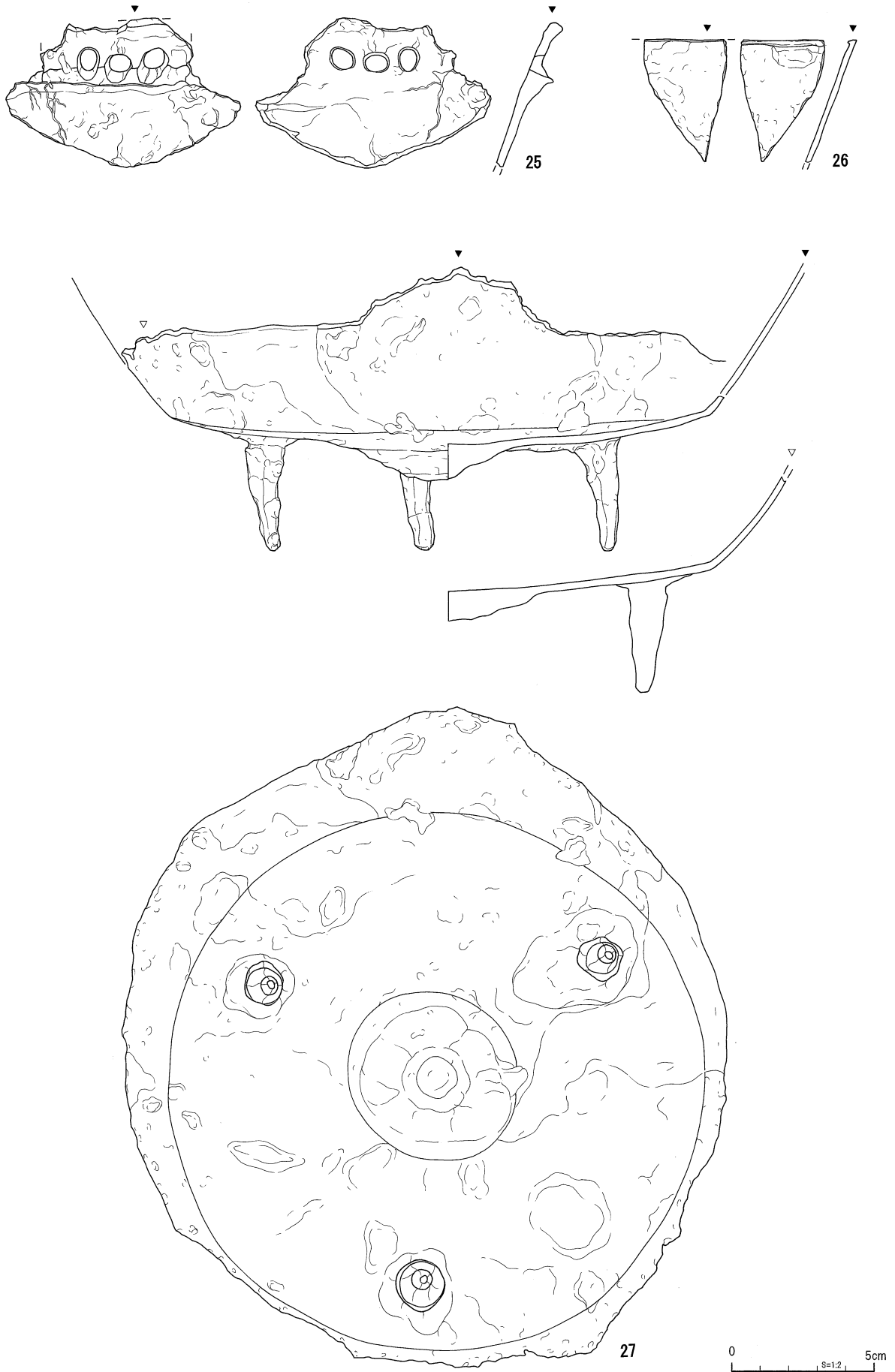
14は楔、基部断面・長方形、脚部のほとんど欠失。15・16は鋸。15は板鋸か、基部と脚部の断面・横長形、基部・脚部の曲がりは「丸」。16は角鋸、基部と脚部の断面・縦長形、基部・脚部の曲がりは「角あり」。17～19は責金。17は工具柄の口金。18は刀子など小型の工具口金か、合わせ部分が捲れている。19も刀子など小



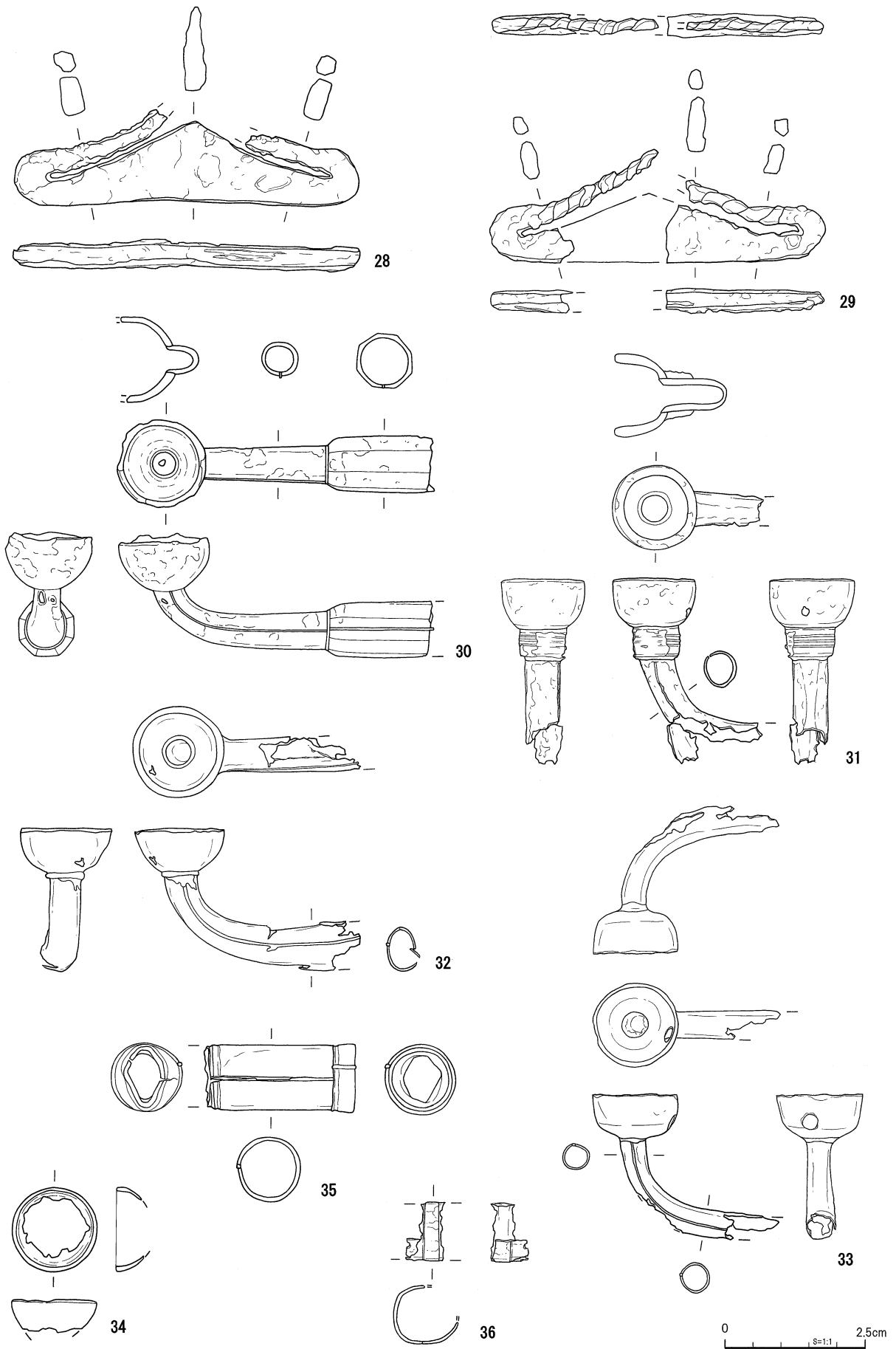
図V-2-34 金属製品(1)



图V-2-35 金属製品(2)



図V-2-36 金属製品(3)



图V-2-37 金属製品(4)

型の工具口金か、合わせ部分が欠失している。20は釣針、「ちもと」は作出されているが「かえし」が設けられていない。

21～24は針。21は糸通し孔が残っている。22・23は元・先の両方が欠失している。24は他の針に比べてやや太い、元が欠失している。

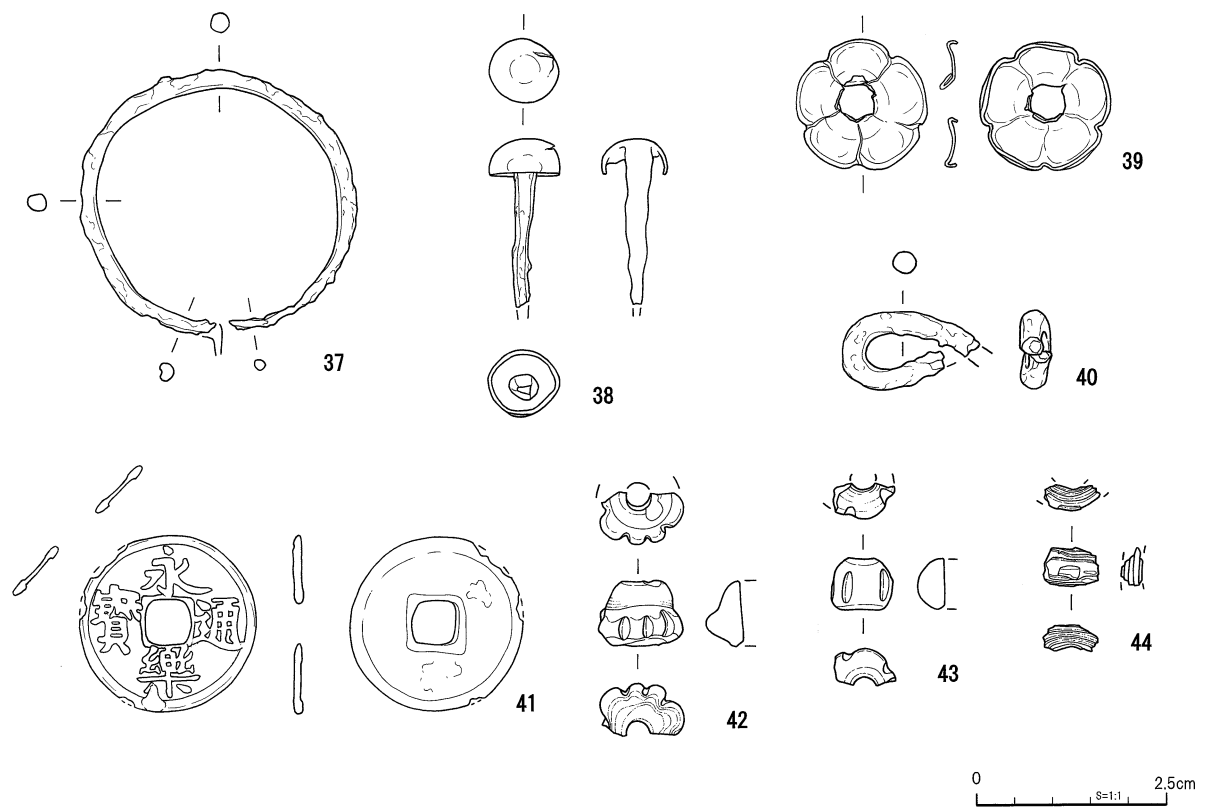
25～27は鉄鍋。25は吊耳部、隅丸方形の正面形状で上縁が肥厚する、吊孔は3か所ある。26は口縁部、口唇断面は内側に肥厚する、段状の受け部が鋳出されていない。27は底部～胴部下半、胴部と底部の境には稜が認められる、外底面には丸湯口残り円錐形の三脚が付く。

28・29は火打金、高島幸男1985年「火打金とは」『火の道具』柏書房によれば、両端の突出部分が腕のように伸びて、それが振じられる「ねじり鎌」に分類される。両方とも長さ6cm前後と小型である。28は両腕が振じれない型、使用による損耗により刃部中央が曲刃となる、腕の先端が欠失している。29は両腕が振じれる型、腕の先端が欠失している。

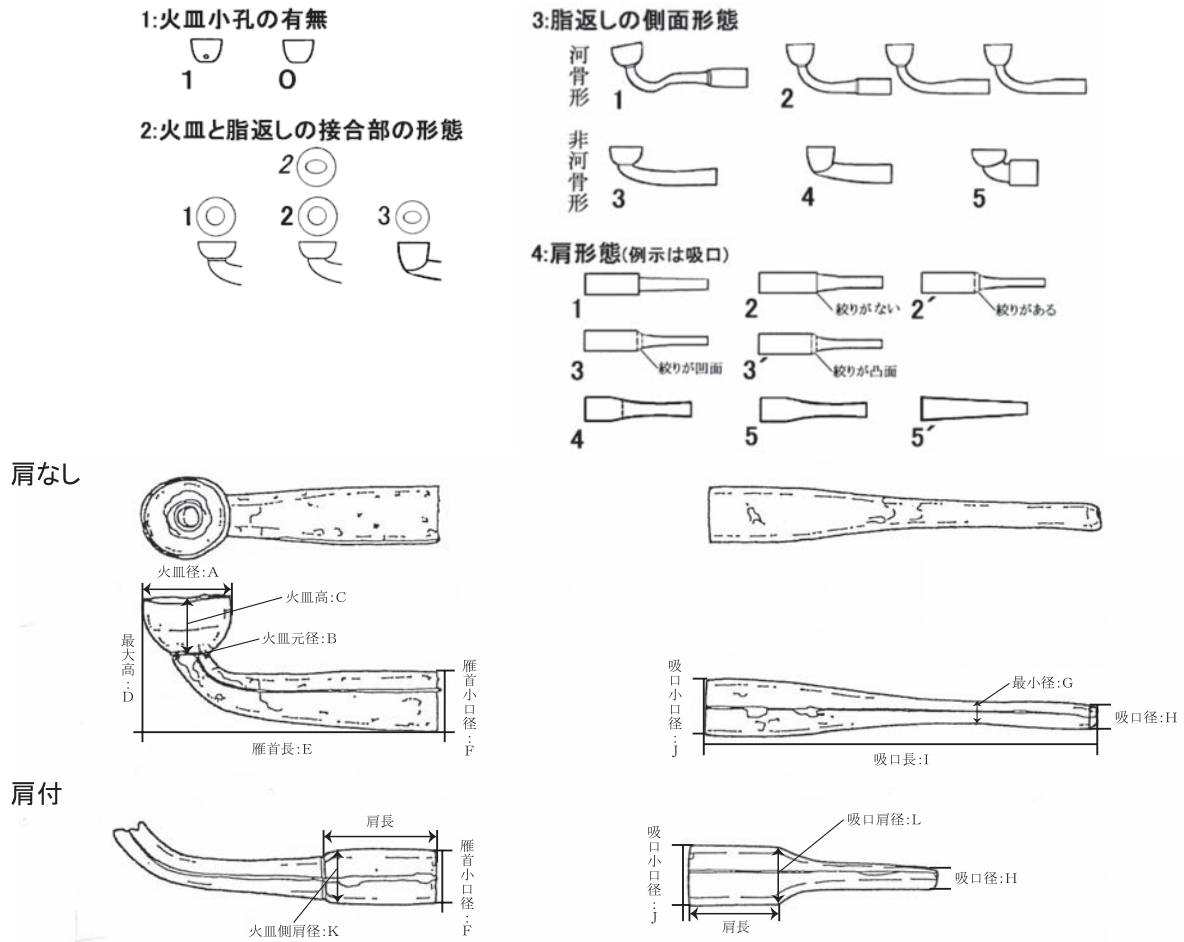
30～36は煙管で、30～33は雁首、35は雁首の肩、一枚鋳を巻いて蝋付け。30は、補強帯はなく、外表断面八角形の肩は凸面絞りがあり、首部と肩は別材、古泉編年Ⅲ段階(17世紀後半)。31は、火皿に小孔、補強帯があり、古泉編年Ⅲ段階(17世紀後半)。32は、補強帯なし、古泉編年Ⅲ段階(17世紀後半)。33は、火皿に小孔、補強帯なし、古泉編年Ⅳ段階(18世紀前半)。34は火皿。35は首部と肩は別材、古泉編年Ⅰ～Ⅲ段階(16世紀末～17世紀後半)。36は吸口の肩で断面が変形している。

37は耳飾、表面は錆化により剥落。38・39は組み合わさる太鼓鉾と五弁花の座金、鍍銀?。40は銅線様の形態、被熱している。41は永楽通宝、「寶」に若干磨滅がみられる、1408年初鋳。

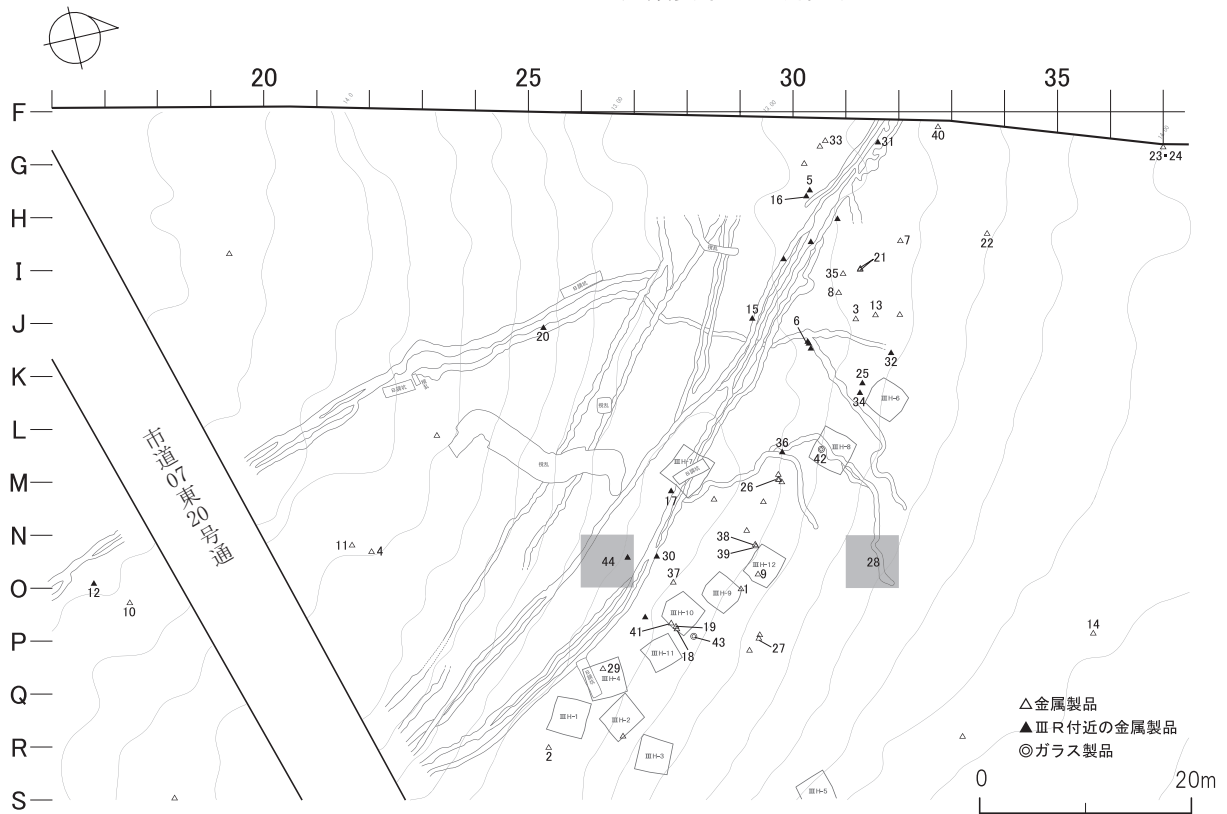
42～44はガラス小玉。42は上半が「丸玉」下半が「蜜柑玉」型の形態、表面僅かに風化、青緑色、巻き付け法による製作。43は「蜜柑玉」型、表面僅かに風化、淡緑色巻き付け法による製作か。44は内外面剥落により形態不明、淡青色、巻き付け法による製作。(鈴木)



図V-2-38 金属製品(5)・ガラス製品(1)



図V-2-39 キセル分類要素・計測箇所



図V-2-40 金属製品等出土位置

(3) 石器等

石器等は剥片石器351点、礫石器267点、剥片4,127点、礫・礫片424点、石製品8点、総計5,177点が出土した。分布はB地区を北西-南東方向に走る沢状地形の北東側に多い。使用される石材は、剥片石器・剥片の4,478点中4,040点と黒曜石が圧倒的に多く、ほかに頁岩343点、チャート19点等がみられる。頁岩は石錐、石槍・ナイフ類、つまみ付ナイフで使用比率が高くなっている。礫石器・礫では凝灰岩・砂岩・安山岩・泥岩などがみられる。これらの時期は縄文晩期末～続縄文に属する。

石鏃 (図V-2-41-1～36/表V-2-13/図版155)

134点が出土している。三角形凹基のものが70点、平基が31点、有茎17点、基部不明16点である。石材は黒曜石が121点で最も多く、頁岩6点・粘板岩6点・メノウ1点である。

1～11は三角形平基のもの。1・2は幅：長さの比率が1：2以上で幅が狭く、側縁が外湾して下半がほぼ平行になる。3～11は幅：長さの比率が1：1.5以下で幅が広く、正三角形に近い。側縁は7・9が若干内湾し、4～6が外湾、3・8・10・11は直線である。8～11は粘板岩製のもの。いわゆる粗製石鏃といわれるもので、周縁のみ粗く打ち欠いて整形している。道央石狩低地帯の後北期を中心に出土している。

12～28は三角形凹基のもの。挟りが浅いものが多く、12・15・23・27のような挟りの深いものは少ない。基部は中心線付近に頂部の来る円弧状のものが多く、17・24は台形状になる。13は幅：長さの比率が1：1.2で正三角形に近い。その他は1：1.5以上で二等辺三角形である。19は側縁が内湾し、その他は外湾する。

29～36は有茎鏃。基部は32を除き先端部が尖る。32は基部が方形である。33・35は返しが不明瞭。35は頁岩製、36は白色のメノウ製である。

石錐 (図V-2-41-37～39/表V-2-13/図版155)

5点が出土している。石材は頁岩3点と黒曜石2点である。37は扁平な棒状のもの。両面調整で石鏃の再生品の可能性がある。38は剥片の一部に機能部を作出したもの。39は石鏃の先端破損品を利用したもの。先端破損部は再調整によって刃部を作出し、へら状にしている。基部先端を石錐の機能部として使用しており、磨滅痕と光沢が見られる。37・39は頁岩製、38は黒曜石製である。

石槍・ナイフ類 (図V-2-41-40～45、42-46・47/表V-2-13/図版155)

31点が出土している。形状の判明するものは、太い柄部のある石槍型の靴型石器が8点と多く、その他のほとんどは破片である。石材は黒曜石19点・頁岩10点・その他2点である。

40は三角形平基の石槍。両面調整で形状的には石鏃と同じであるが、厚さがあるため石槍とした。幅：長さの比率が1：1.5以下で幅が広く、正三角形に近い。側縁は外湾する。

41～47は石槍型の靴形石器。太い柄部があり、両面調整のもの。41・43・45は刃部が左右対称であるが、その他は非対称である。44・45は刃部の調整方向を左右で変えている。基部先端に直線状の刃部が作出されており、スクレイパーとしての使用も考えられる。44の基部先端には光沢が見られる。41がチャート製、43・45が黒曜石製、42・44・46・47は頁岩製である。

つまみ付ナイフ (図V-2-42-48～50/表V-2-13/図版155)

11点が出土している。石材は黒曜石4点・頁岩7点である。48～50は片面調整のもの。剥片の上部左右側縁に挟りを入れてつまみ部とし、周縁に刃部を作出している。頁岩製である。

スクレイパー (図V-2-42-51～63/表V-2-13/図版155)

67点が出土している。剥片の周縁に刃部を設けているものが15点、下端部がV字状の刃部を設けているもの9点、直線状もしくは弧状の刃部を設けているもの8点、内湾する刃部を設けているもの

3点、破片32点である。石材は黒曜石40点、頁岩21点、チャート3点、その他3点である。

51～56は小さめの剥片の周縁に刃部を設けているもの。51は両面調整、52～55は片面調整。56は左右で調整方向を変えて両側縁に刃部を作出している。57～59は片面調整で、下端部がV字状の刃部を設けているもの。

60～63は縦長剥片の側縁に直線状もしくは弧状の刃部を設けているもの。片面調整。60・61は両側縁に内湾する刃部を設けている。62は裏面右側縁に平坦な剥離面を残し、左側縁に外湾する刃部を設けている。57は頁岩製、58はチャート製、62は安山岩製、その他は黒曜石製である。

石斧・石のみ（図V-2-43-64～66／表V-2-13／図版155）

石斧が26点、石のみが1点出土している。形状がわかるものでは短冊形6点、乳棒形3点である。石のみは破片である。石材は緑色泥岩・泥岩14点、片岩7点、安山岩2点、その他4点である。

64は短冊形で片刃の直刃。周囲を打ち欠いて整形したのち、全面を研磨している。65は乳棒形で両刃の曲刃。上半を折損している。全面を敲打・研磨によって整形している。66は縦長の泥岩剥片を用いたもので片刃の曲刃。全面を研磨によって整形している。64・66は緑色泥岩製、65は安山岩製である。

たたき石（図V-2-43-67～70／表V-2-13／図版156）

30点が出土している。扁平な棒状礫の腹背部・両端部・側縁に敲打痕がある。石材は砂岩15点、安山岩9点、その他6点である。

67は扁平な棒状礫の腹背部に敲打痕のあるもの。68は扁平な棒状礫の背部と上端部に敲打痕のあるもの。69は扁平な棒状礫の腹背部と上端部・右側縁上部に敲打痕のあるもの。70は扁平な棒状礫の腹背部と両端部・左側縁上部に敲打痕のあるもの。67・70は砂岩製、68・69は安山岩製である。

台石（図V-2-43-71／表V-2-13／図版156）

7点が出土している。扁平礫の平坦面に敲打痕があるものが6点、破片1点である。石材は安山岩3点、砂岩2点、片麻岩1点、花崗岩1点である。

71は扁平礫の平坦面に敲打痕のあるもの。片麻岩製である。

砥石（図V-2-43-72／表V-2-13／図版156）

14点が出土している。破片だが広く弓状に湾曲する擦り面のあるもの12点、矢柄研磨器2点である。石材は砂岩5点、軽石5点、泥岩2点である。矢柄研磨器はスコリア製である。

72は中央部に広く弓状に湾曲する擦り面があるもの。裏面の状況から敲打によって調整したのちに使用したとみられる。泥岩製である。

剥片

4,127点が出土している。石材は黒曜石3,777点、頁岩271点、メノウ22点、チャート13点、その他44点である。

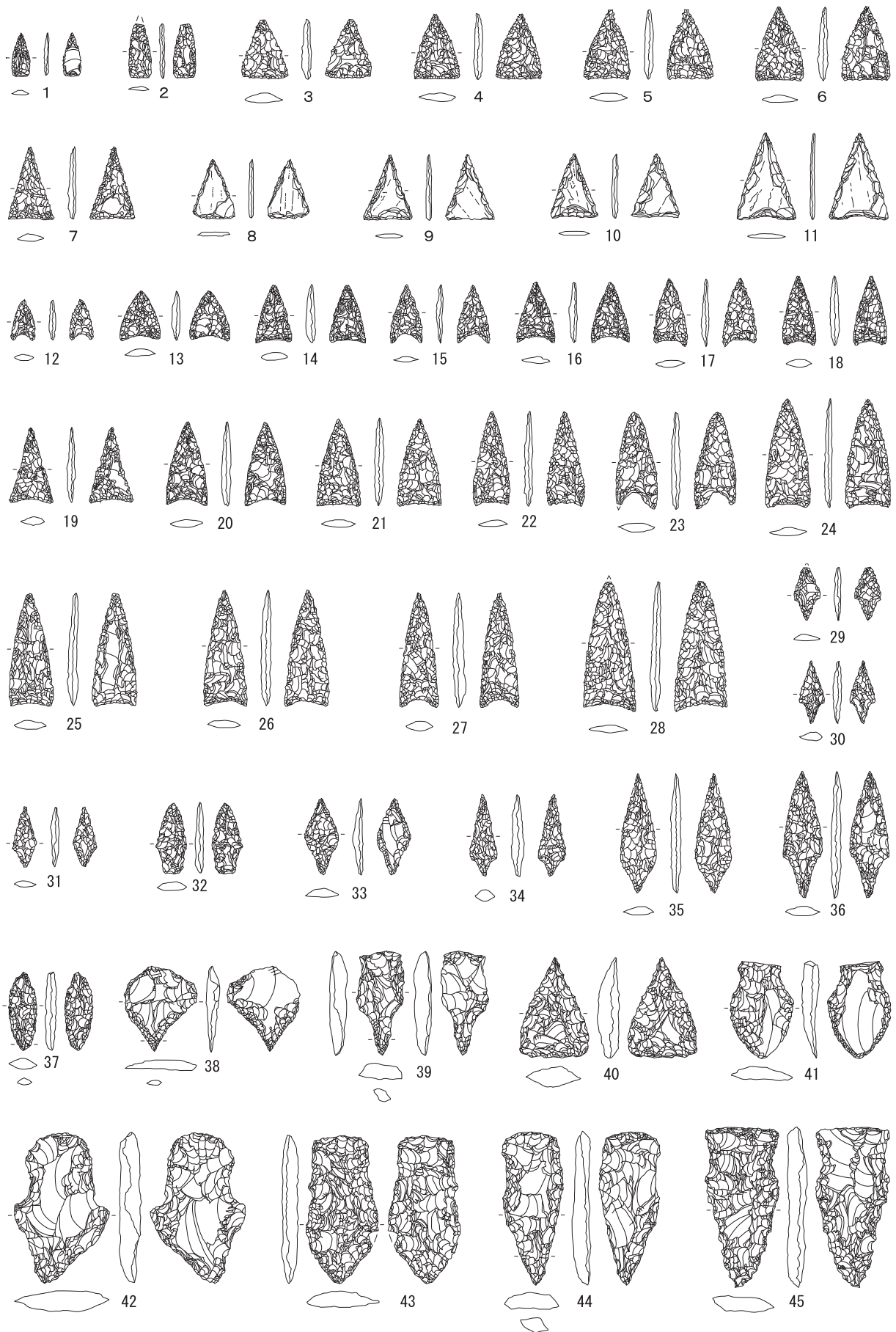
礫・礫片

424点が出土している。石材は凝灰岩118点、泥岩79点、砂岩75点、安山岩41点、軽石31点、その他80点である。頁岩やメノウの原石も含む。

石製品（図V-2-47-73～80／表V-2-14／図版156）

8点が出土している。異形石器4点・玉類3点・有孔石製品1点である。

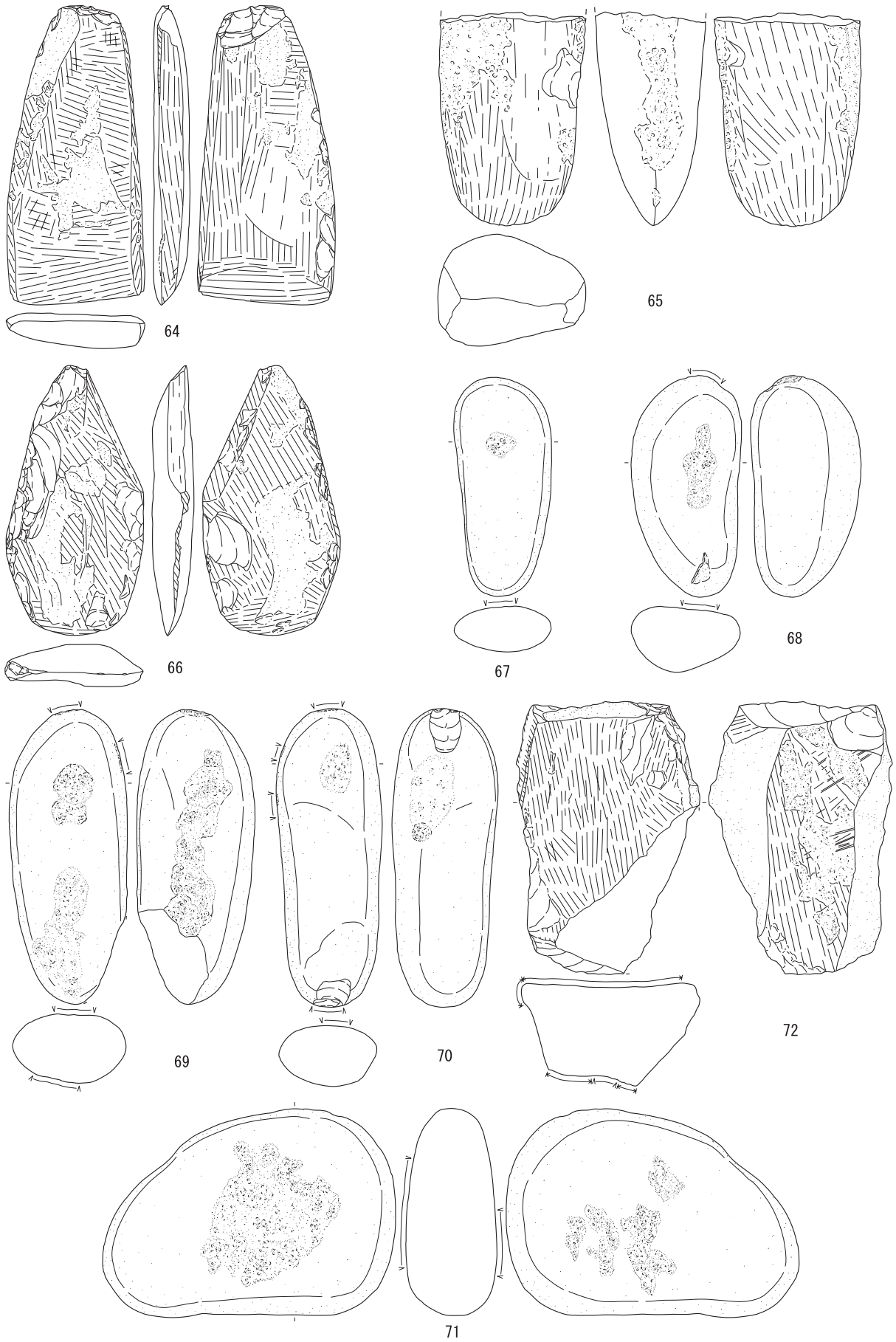
73～76は黒曜石製の異形石器。73は先端部が折損しているが、左右対称のX字状と考えられる。74は両端部を欠損しているが、三日月形の石製品である。75・76は魚類やコクヅラ・シャチを模した可能性がある。被熱している。77・78は橄欖岩製の平玉。77は周縁を加工して円形にしたのち、研磨



図V-2-41 包含層の石製遺物(1)



図V-2-42 包含層の石製遺物(2)

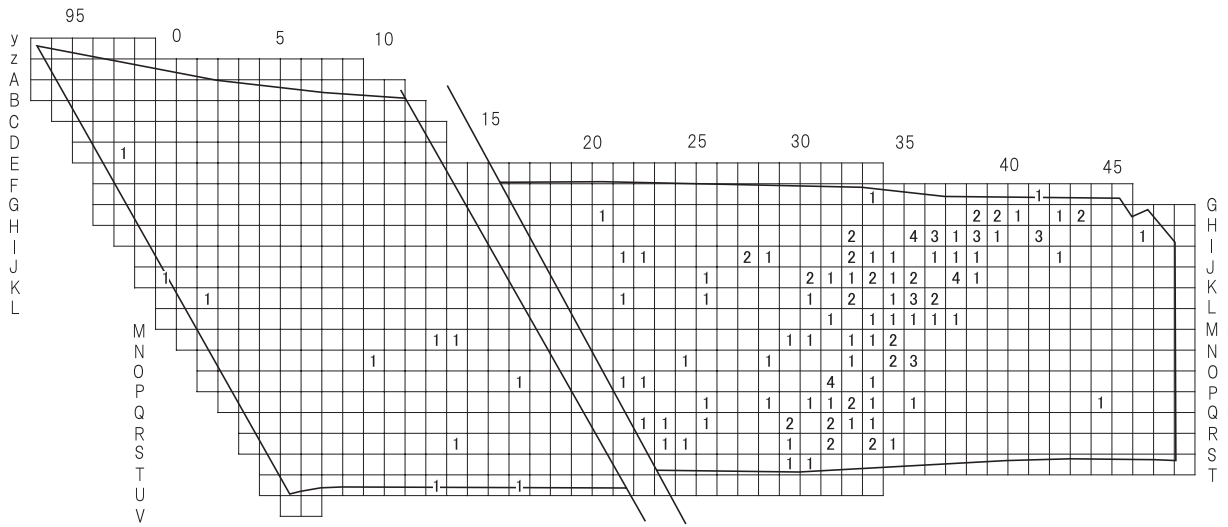


図V-2-43 包含層の石製遺物(3)

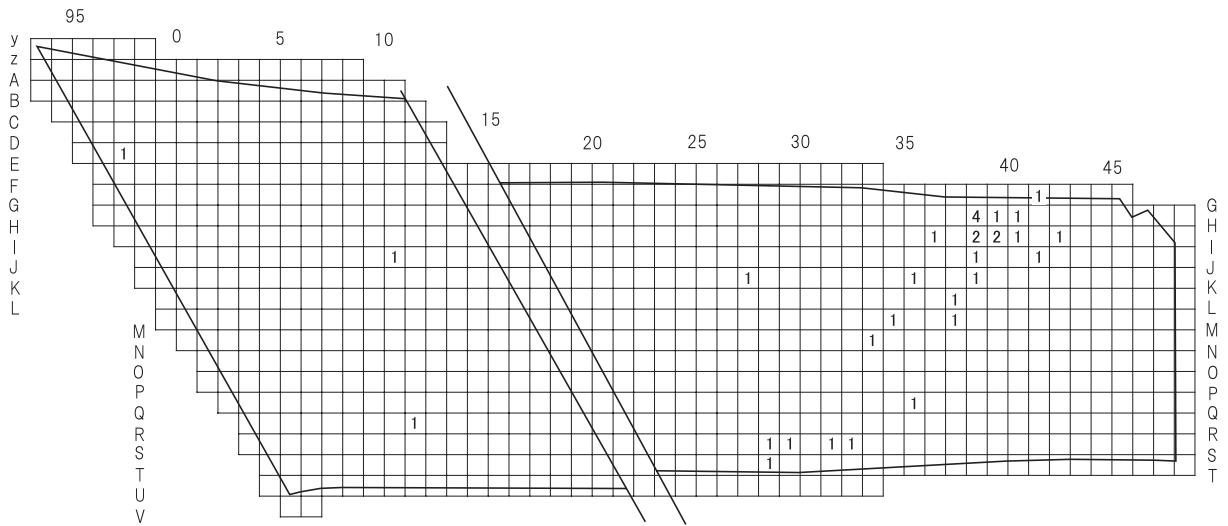
表V-2-13 石製遺物掲載一覧

図番号	調査区	遺物No.	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図V-2-41-1	M32	1	Ⅲ	石鏃	1.55	0.65	0.20	0.16	黒曜石	図版155	三角形平基
図V-2-41-2	I 32	5	Ⅲ	石鏃	(1.95)	0.80	0.20	(0.37)	黒曜石		三角形平基
図V-2-41-3	I 22	1	Ⅲ	石鏃	2.15	1.65	0.35	0.86	黒曜石		三角形平基
図V-2-41-4	N35	1	Ⅲ	石鏃	2.35	1.65	0.30	1.08	黒曜石		三角形平基
図V-2-41-5	H37	1	Ⅲ	石鏃	2.50	1.70	0.30	1.17	黒曜石		三角形平基
図V-2-41-6	J 37	2	Ⅲ	石鏃	2.65	1.70	0.40	1.27	黒曜石		三角形平基
図V-2-41-7	N28	1	Ⅲ	石鏃	2.60	1.65	0.30	0.87	黒曜石		三角形平基
図V-2-41-8	I 21	1	Ⅲ	石鏃	2.10	1.50	0.20	0.58	粘板岩		三角形平基
図V-2-41-9	I 32	2	Ⅲ	石鏃	2.65	1.75	0.20	0.69	粘板岩		三角形平基
図V-2-41-10	J 99	1	Ⅲ	石鏃	2.30	1.70	0.20	0.70	粘板岩		三角形平基
図V-2-41-11	K 1	1	Ⅲ	石鏃	3.10	2.10	0.20	1.09	粘板岩		三角形平基
図V-2-41-12	P 31	4	Ⅲ	石鏃	1.45	0.85	0.25	0.22	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-13	H38	3	Ⅲ	石鏃	1.80	1.45	0.30	0.60	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-14	G43	1	Ⅲ	石鏃	2.10	1.30	0.35	0.70	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-15	J 33	1	Ⅲ	石鏃	2.10	1.15	0.30	0.40	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-16	O31	6	Ⅲ	石鏃	2.20	1.40	0.30	0.64	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-17	I 37	1	Ⅲ	石鏃	2.45	1.20	0.30	0.60	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-18	H35	8	Ⅲ	石鏃	2.50	1.20	0.35	0.76	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-19	M12	1	Ⅲ	石鏃	2.70	1.60	0.30	0.72	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-20	S29	1	Ⅲ	石鏃	3.00	1.50	0.30	1.17	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-21	O33	4	Ⅲ	石鏃	3.15	1.60	0.35	1.31	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-22	H36	2	Ⅲ	石鏃	3.40	1.35	0.30	1.19	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-23	N 9	1	Ⅲ	石鏃	3.50	1.50	0.35	1.52	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-24	L31	4	Ⅲ	石鏃	3.90	1.60	0.30	1.84	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-25	K21	1	Ⅲ	石鏃	4.05	1.60	0.40	2.18	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-26	R33	1	Ⅲ	石鏃	4.15	1.60	0.40	1.95	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-27	P 28	2	Ⅲ	石鏃	4.15	1.40	0.40	2.08	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-28	R29	5	Ⅲ	石鏃	(4.65)	1.90	0.40	(2.69)	黒曜石		三角形凹基
図V-2-41-29	O16	1	Ⅲ	石鏃	(1.90)	0.95	0.25	(0.32)	黒曜石		有茎
図V-2-41-30	I 27	2	Ⅲ	石鏃	2.25	0.90	0.30	0.46	黒曜石		有茎
図V-2-41-31	J 30	5	Ⅲ	石鏃	2.15	0.85	0.35	0.39	黒曜石		有茎
図V-2-41-32	K36	2	Ⅲ	石鏃	2.55	1.10	0.30	0.84	黒曜石		有茎
図V-2-41-33	N32	1	Ⅲ	石鏃	2.75	1.20	0.40	0.77	黒曜石		有茎
図V-2-41-34	I 33	2	Ⅲ	石鏃	2.95	1.00	0.50	0.90	黒曜石		有茎
図V-2-41-35	Q29	2	Ⅲ	石鏃	4.30	1.30	0.40	1.71	頁岩		有茎
図V-2-41-36	I 27	3	Ⅲ	石鏃	4.55	1.40	0.40	1.94	メノウ		有茎
図V-2-41-37	G38	6	Ⅲ	石鏃	2.80	1.00	0.40	1.37	頁岩		
図V-2-41-38	J 35	4	Ⅲ	石鏃	3.10	2.60	0.50	2.75	黒曜石		
図V-2-41-39	K33	1	Ⅲ	石鏃	3.75	1.75	0.70	4.28	頁岩		
図V-2-41-40	L37	2	Ⅲ	石槍	3.60	2.50	0.80	5.28	黒曜石		
図V-2-41-41	H36	11	Ⅲ	ナイフ	3.50	2.30	0.60	4.66	チャート		靴形石器
図V-2-41-42	R28	1	Ⅲ	ナイフ	5.40	3.45	0.85	14.38	頁岩		靴形石器
図V-2-41-43	R31	6	Ⅲ	ナイフ	5.30	2.60	0.60	8.63	黒曜石		靴形石器
図V-2-41-44	S28	2	Ⅲ	ナイフ	5.50	2.20	0.70	8.27	頁岩	靴形石器	
図V-2-41-45	J27	3	Ⅲ	ナイフ	5.75	2.70	0.70	10.10	黒曜石	靴形石器	
図V-2-42-46	H42	4	Ⅲ	ナイフ	6.45	2.50	0.90	12.03	頁岩	靴形石器	
図V-2-42-47	J 38	3	Ⅲ	ナイフ	6.90	2.75	0.70	12.98	頁岩	靴形石器	
図V-2-42-48	J 35	6	Ⅲ	つまみ付きナイフ	6.10	1.75	0.50	6.92	頁岩		
図V-2-42-49	P31	1	Ⅲ	つまみ付きナイフ	4.00	2.70	0.40	3.21	頁岩		
図V-2-42-50	P 16	1	Ⅲ	つまみ付きナイフ	6.60	4.25	1.70	22.99	頁岩		
図V-2-42-51	G40	5	Ⅲ	スクレイパー	2.90	3.10	1.00	8.59	黒曜石		
図V-2-42-52	J 34	3	Ⅲ	スクレイパー	2.85	3.65	1.05	12.21	黒曜石		
図V-2-42-53	J 43	2	Ⅲ	スクレイパー	3.25	2.10	1.05	7.53	黒曜石		
図V-2-42-54	M34	3	Ⅲ	スクレイパー	3.90	2.85	1.00	7.96	黒曜石		
図V-2-42-55	K 7	1	Ⅲ	スクレイパー	4.75	2.60	1.00	10.90	黒曜石		
図V-2-42-56	G33	4	Ⅲ	スクレイパー	4.05	3.35	1.45	13.79	黒曜石		
図V-2-42-57	O31	3	Ⅲ	スクレイパー	3.95	2.85	0.95	7.90	頁岩		
図V-2-42-58	O28	6	Ⅲ	スクレイパー	5.25	2.45	0.95	11.00	チャート		
図V-2-42-59	Q11	7	Ⅲ	スクレイパー	5.90	5.00	0.90	13.44	黒曜石		
図V-2-42-60	G30	2	Ⅲ	スクレイパー	7.80	3.10	0.95	11.77	黒曜石		
図V-2-42-61	K37	4	Ⅲ	スクレイパー	8.70	2.50	1.50	17.89	黒曜石		
図V-2-42-62	P33	7	Ⅲ	スクレイパー	6.15	3.90	1.30	25.19	安山岩		
図V-2-42-63	G45	1	Ⅲ	スクレイパー	9.35	4.20	1.50	31.51	黒曜石		
図V-2-43-64	O36	2	Ⅲ	石斧	10.70	4.95	1.30	113.14	緑色泥岩		
図V-2-43-65	H 0	1	Ⅲ	石斧片	(7.65)	(5.30)	(4.00)	(241.77)	安山岩		
図V-2-43-66	J 37	20	Ⅲ	石斧	9.70	4.95	1.50	89.66	緑色泥岩		
図V-2-43-67	S27	2	Ⅲ	たたき石	11.85	5.30	2.45	224.80	砂岩		
図V-2-43-68	I 37	8	Ⅲ	たたき石	12.00	6.00	3.65	367.12	砂岩		
図V-2-43-69	P33	12	Ⅲ	たたき石	16.00	6.40	4.10	(606.50)	安山岩		
図V-2-43-70	P 35	3	Ⅲ	たたき石	16.20	5.80	3.50	413.43	泥岩		
図V-2-43-71	O25	2	Ⅲ	台石	11.30	15.90	5.00	1456.50	片麻岩		
図V-2-43-72	J 26	1	Ⅲ	砥石	(14.80)	10.00	5.60	(1040.00)	泥岩		

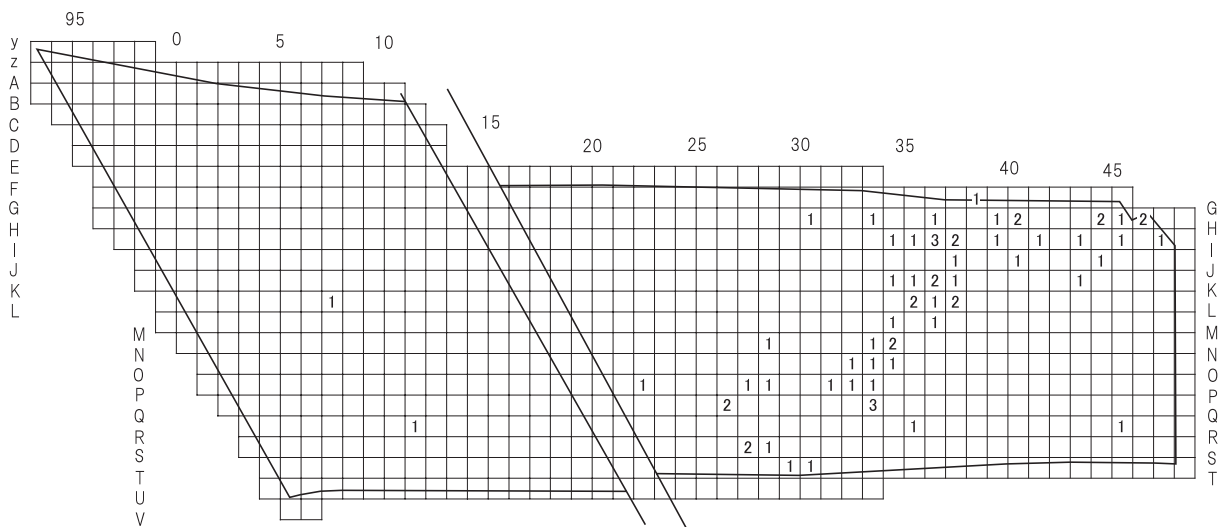
石鏃 134点



石槍・ナイフ類 31点

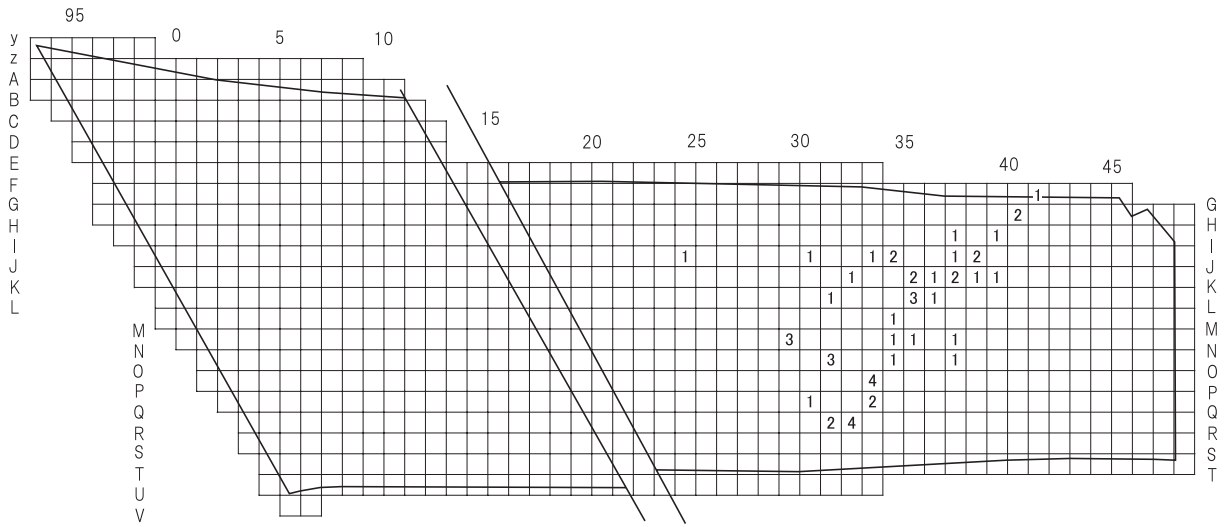


スクレイパー 67点

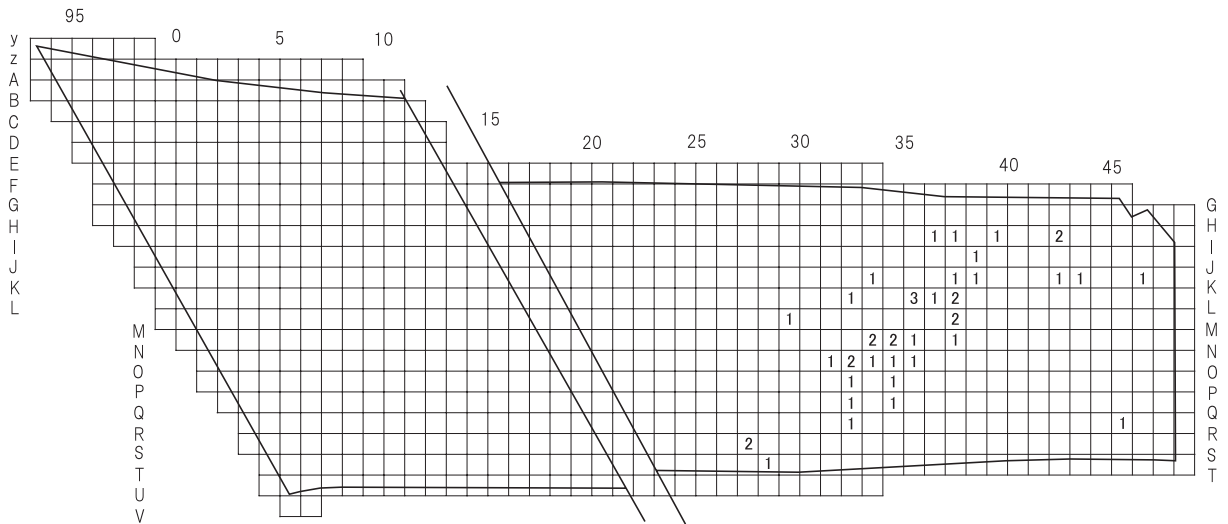


図V-2-44 石製遺物分布(1)

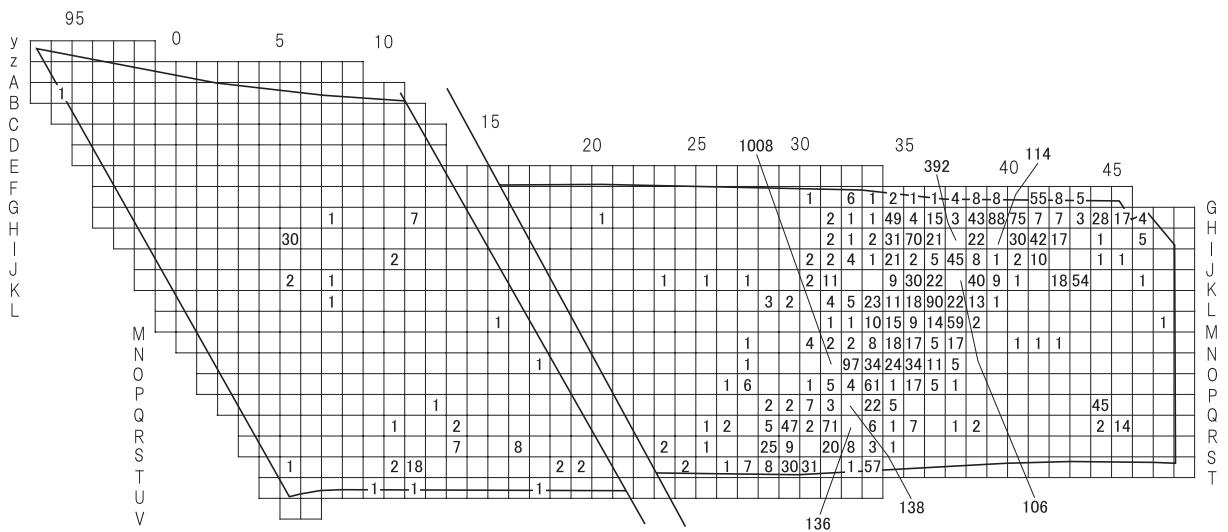
Rフレイク 51点



Uフレイク 43点

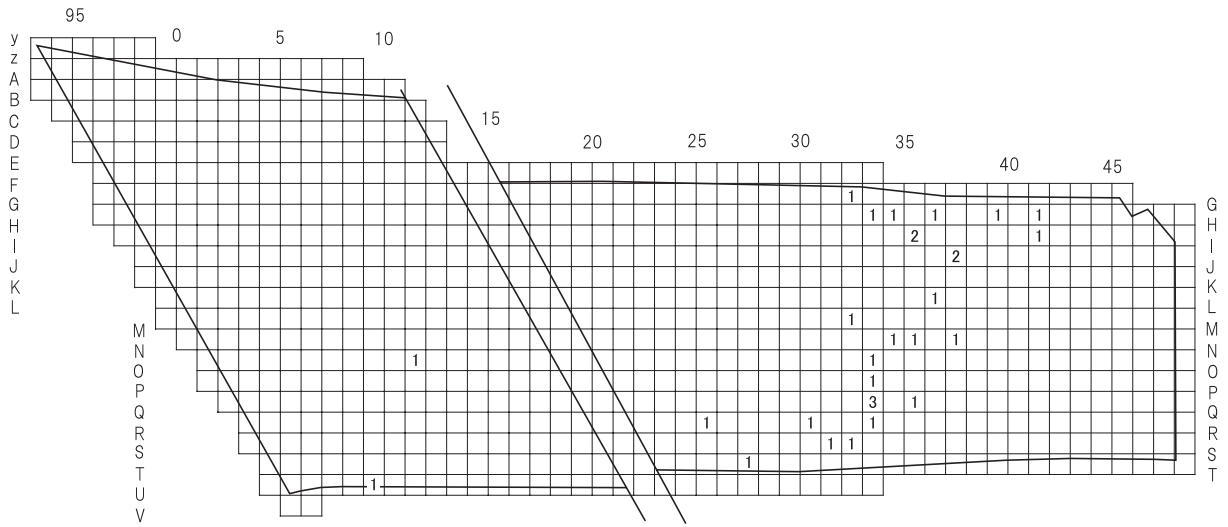


剥片 4,127点

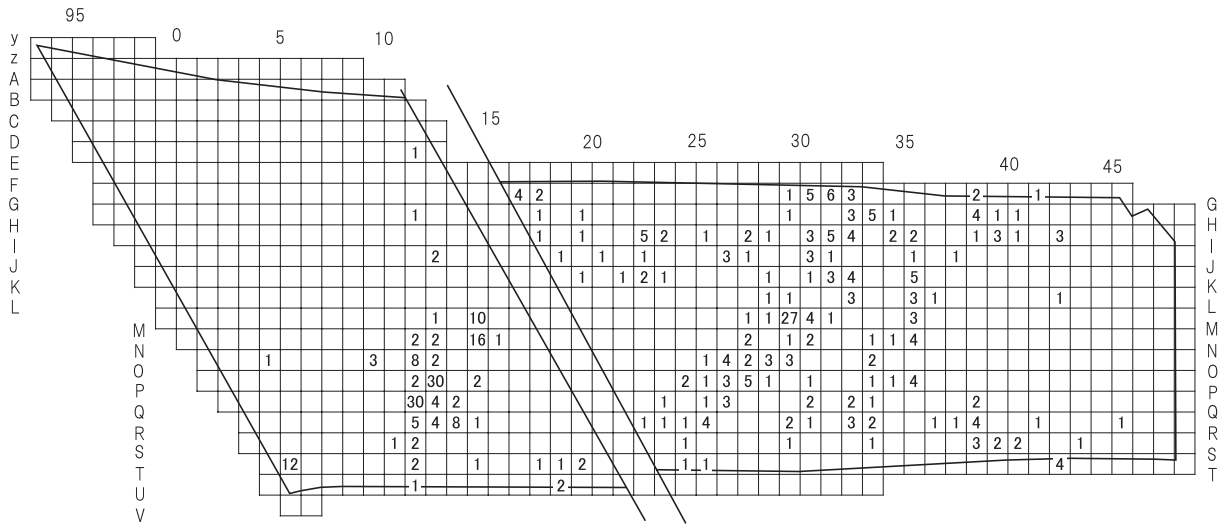


図V-2-45 石製遺物分布(2)

たたき石 30点



礫・礫片 424点



図V-2-46 石製遺物分布(3)

によって整形している。孔は上部表側からあけられており、穿孔痕が残る。78は隅丸長方形で全面を研磨によって整形している。孔はほぼ中央に両面からあけられている。孔内も丁寧に研磨されており、極わずかに穿孔痕が確認できる。79は橄欖岩製の垂飾。右半を欠損している。全面を研磨によって丁寧に調整し、三日月形にしている。中央に貫通孔があり、左側縁に抉り状の凹みを設けている。左右対称と考えられることから、右側縁にも同様の凹みが設けられていたと推測される。貫通孔の左下方には糸ずれ痕が確認できる。80は軽石製の有孔石製品。左半部を欠損している。上部に両面からあけられた貫通孔1か所、下部に裏面からあけられた未貫通孔1か所がある。2か所とも穿孔痕はわずかに確認できる。穿孔の方向は表側が広い八字をしている。(酒井)

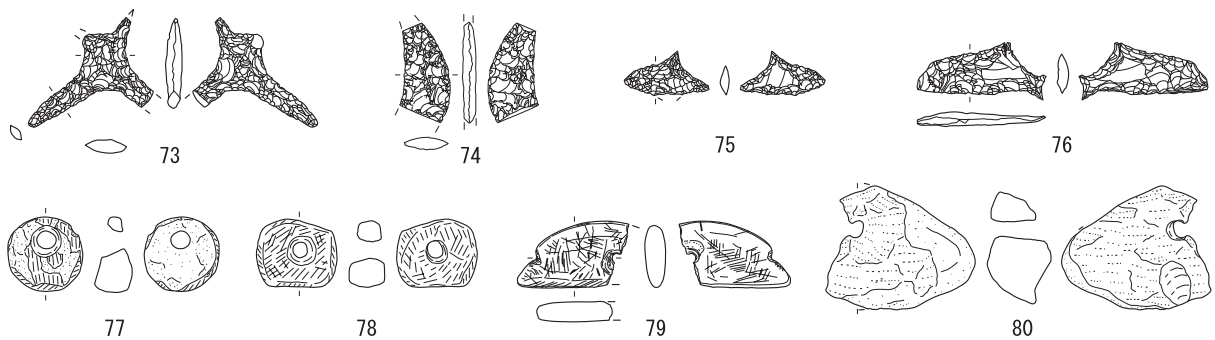
(4) その他

土鈴・土玉 (図V-2-48-1~4 / 図版156)

土鈴2点・土玉2点が出土している。これらは形状から見て土鈴1点・土玉1点の対で機能していたと考えられる。

1・2は土鈴の体部。1は接合により全体の形状が復元された。鈕を含む高さ5.0cm、体部長径4.0cm・短径3.3cm・器厚約0.2cmである。2は鈕を含む上部の約1/3が残存している。焼成は土師質で体部形は球形、一体成形で作られている。上方に鈕があり下方に鈴口(切り口)がある。紋様は正面と裏面に十八弁菊花文が型押しされている。器壁には整形時に付いた指紋が確認できる。鈕は、扁平な山形を摘み出して作られ、体部からの長さは1.5cm程である。おもて面からの刺突により鈕孔(貫通孔)が開けられている。鈴口は体部側面の上1/3程のところから一文字に開けられ、下端部で約0.8cmの幅がある。丸は内蔵されていなかった。

3・4は土玉。焼成は土師質である。土鈴の内部にあった丸と考えられる。3は直径約1.2cm・重さ2.0g、4は直径約1.2cm・重さ1.8gの球形である。土色から3が1に内蔵され、4が2に内蔵されていたと推定される。土鈴の時期は、出土層位や周辺の遺構・遺物から推測して、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。



図V-2-47 石製品

表V-2-14 掲載石製品一覧

図番号	調査区	遺物 No.	層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	材質	図版番号	備考
図V-2-47-73	I 37	2	Ⅲ	異形石器	(2.90)	(3.30)	0.45	(1.83)	黒曜石	図版156	
図V-2-47-74	F 32	11	Ⅲ	異形石器	(2.65)	(1.30)	0.35	(1.23)	黒曜石		
図V-2-47-75	K 35	18	Ⅲ	異形石器	1.15	2.25	0.25	0.42	黒曜石		
図V-2-47-76	M 30	2	Ⅲ	異形石器	1.55	3.40	0.35	1.36	黒曜石		
図V-2-47-77	I 34	5	Ⅲ	平玉	2.00	2.00	1.00	4.50	橄欖岩		
図V-2-47-78	F 41	7	Ⅲ	平玉	1.80	2.15	0.95	6.18	橄欖岩		
図V-2-47-79	H 41	3	Ⅲ	垂飾	1.75	(2.95)	0.55	(3.88)	橄欖岩		
図V-2-47-80	Q 26	6	Ⅲ	有孔石製品	(3.25)	(3.95)	(1.70)	(8.58)	軽石		

*口絵図版2-4のコハク玉は整理保存処理の過程で所在不明となっている。

火打石

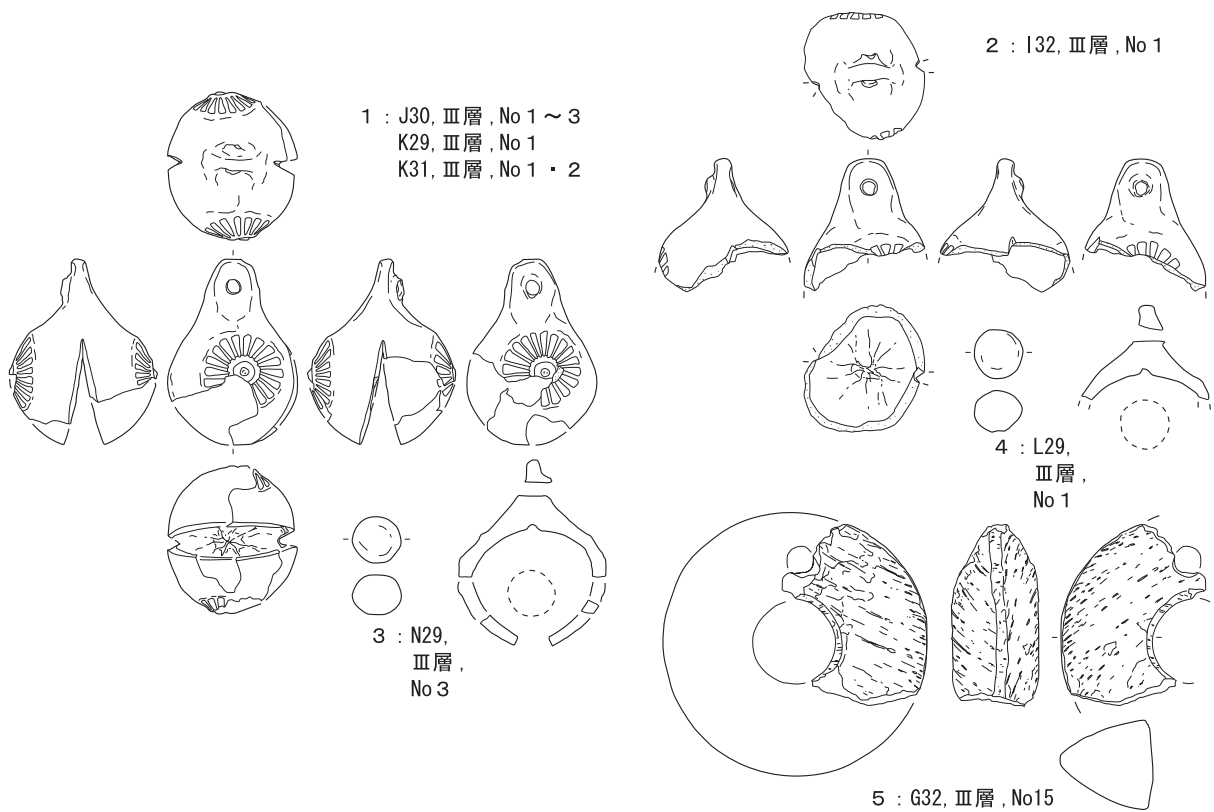
178点が出土している。特に図示は行わなかった。石材はチャート100点、メノウ61点などである。縁辺部に微細剥離がみられるものやその剥片を火打石として集計した。

棒状礫

棒状礫が86点出土している。完形品の大きさは長さ3.4~11.4cm・重さ9.4~323.8g、平均は長さ6.9cm・重さ83.5gである。数量の分布では長さ4~8cm、重さ40~80gに集まる。(酒井)

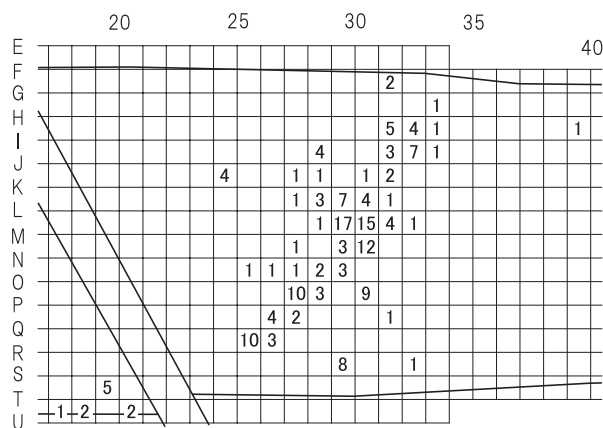
鯨骨製環 (図V-2-48-5 / 図版156)

5は小孔が紐通し孔と思われる垂飾。推定径3.3cm・推定内孔径1.1cm・推定小孔径0.4cm。(鈴木)

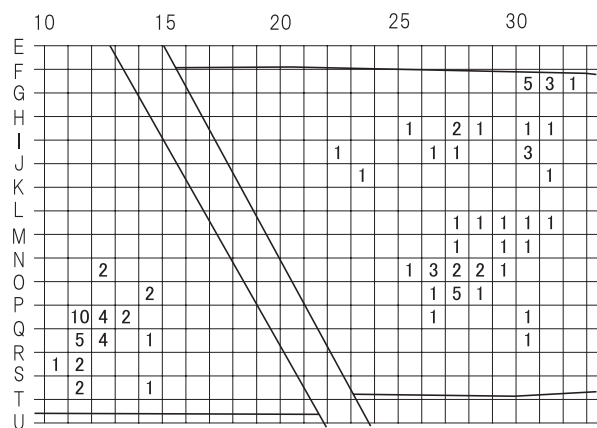


図V-2-48 その他

火打石 178点



棒状礫 86点



図V-2-49 火打石・棒状礫分布

(5) 動物遺存体

a はじめに

遺構から174点（うち、焼骨79点）、包含層から707点（うち、焼骨23点）が得られている。A地区と異なり、ほとんどが焼けていない点に特徴がある。

同定の方法としては、調査員が同定し、種ごと、部位ごとにまとめる方法で行った。また、対比現生骨格標本は、福井所有のエゾシカ、イヌを使用した。

b 出土骨の特徴

焼けていない骨は、茶褐色を呈し、土圧でつぶれていた。関節状態で出土しているものがあった。焼けた骨のうち、遺構出土品は灰色～白色のほかに、茶色～黒色のものも含まれた。一方、包含層出土品は全て白色化していた。

c 魚類

魚骨は、極端に少ない。「棄てる」場所を明確に意識した結果とみられる。

サケ科：焼土ⅢF-110から椎骨が1点出土している。

d 哺乳類

イヌ：L31区Ⅲ層から頭蓋骨1個体分出土している。

ニホンジカ：今回同定した骨はほとんどがシカであった。遺構では、骨片を除き、脛骨が最も多く、距骨、下顎骨が次いだ。基節骨や末節骨といった指骨、距骨・踵骨などの足根骨、手根骨といった利用価値の少ない部位とともに、上腕骨、脛骨、橈骨、下顎骨、肩甲骨が出土している。ただし、角や頭蓋骨、尺骨、中手・

中足骨などは出土していない。遺構内では、1つか2つの部位が同定される程度で、例外的にⅢB-3で3つの部位、ⅢF-96で5つの部位が同定された。前者は、肩甲骨～橈骨が連結状態、後者は手根骨が関節した状態であった。

包含層では、骨片を除き、距骨、踵骨が最も多く、脛骨、上腕骨、肩甲骨、橈骨が次いだ。指骨や手根骨は少ない。尺骨、角、上顎骨、中足骨がわずかながら含まれる点が、遺構の出土状況と異なる。包含層では、指骨である基節骨と中節骨や、距骨、踵骨、脛骨が連結した状態で出土している例があった。

クジラ類：骨角器の素材に使用されている。

e おわりに

同定を行った結果、ほとんどすべてがニホンジカで、1個体分のイヌと、サケ科の椎骨1点、クジラ骨製骨角器が混入していることが分かった。そして、シカの出土状態に連結したまま廃棄されたものがあった。また、サケ類、コイ科などの魚類が極端に少なかったのも、今回の特徴とも言えるが、他の遺跡で焼けた骨を分析した結果も見てみると、シカとサケ類の出土が相関しない、場合によっては排他的な関係のように見える場合がある。今回の例も、その好例であろう。

(福井)

脊椎動物門 Vertebrata

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

哺乳綱 Class Mammalia

ネコ目(食肉目) Order Carnivora

イヌ科 Family Canidae

イヌ *Canis familiaris*

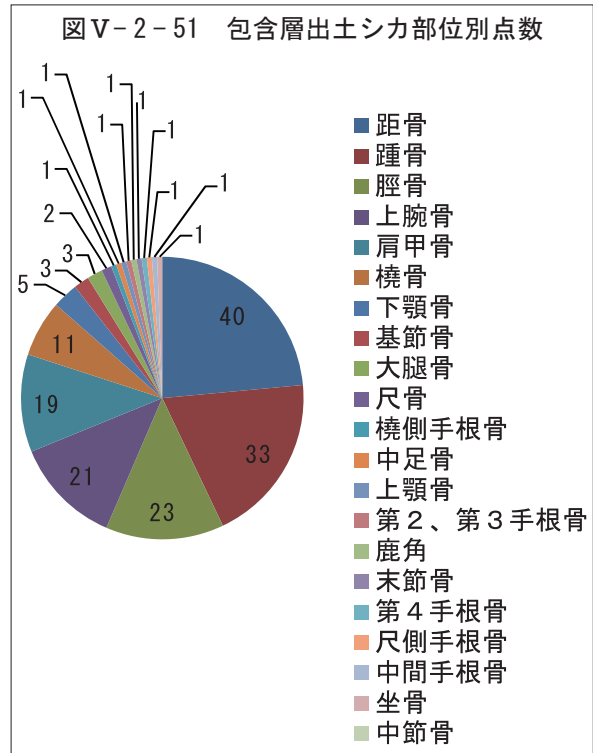
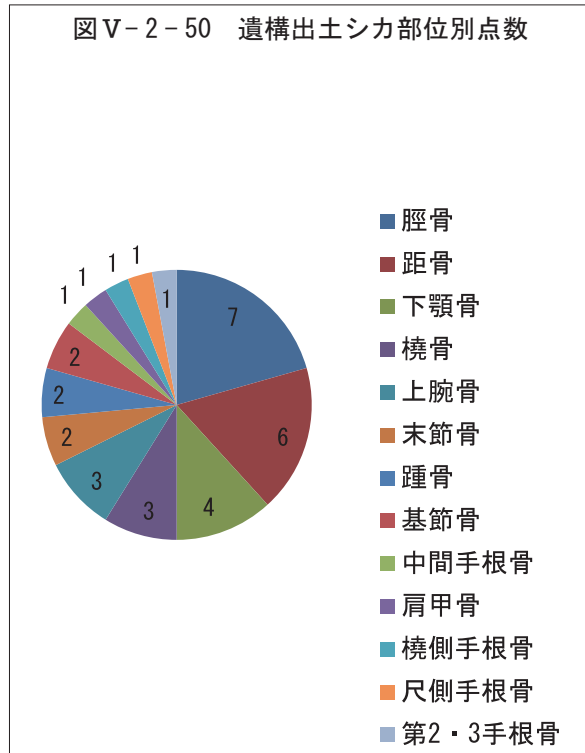
ウシ目(偶蹄目) Order Artiodactyla

シカ科 Family Cervus

ニホンジカ *Cervus nippon*

クジラ類

Cetacera fam.



表V-2-15 遺構別出土動物遺存体点数 (同定されたもの)

	シカ												シカ 集計	サケ類		総計	
	下顎骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨	第2・3 手根骨	中間手 根骨	橈側手 根骨	尺側手 根骨	脛骨	踵骨	距骨	基節骨		末節骨	椎骨		サケ類 集計
ⅢB-2			1											1			1
ⅢB-3		1	1	2										4			4
ⅢB-4	4													6			6
ⅢF-107									1					1			1
ⅢF-110															1	1	1
ⅢF-111				1							2			5			5
ⅢF-124									1			1		2			2
ⅢF-134									1					1			1
ⅢF-150											1			1			1
ⅢF-170										1				1			1
ⅢF-173													2	2			2
ⅢF-221			1											1			1
ⅢF-96					1	1	1	1		1				5			5
ⅢH-12・HF-1												1		1			1
ⅢK-18											1			1			1
ⅢK-24											1			1			1
ⅢK-9											1			1			1
総計	4	1	3	3	1	1	1	1	7	2	6	2	2	34	1	1	35

表V-2-16 包含層出土シカ点数分布

	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	総計
F															2	19	2		23
G																	9	2	11
H									1					3	14	6	7	7	38
I													15	4	4	1	13	8	45
J										5		6	4		4	4	9	1	33
K										5	1	32	8	8	3	4			61
L												30	1	24	5	8	1		69
M											8	32	10	69	25	2			146
N											18		2	19	6				45
O												3	44	21					68
P							44			1		5	46	3					99
Q	1						1			2		2							6
R				3				2		3									8
S		8	31	3															42
T		8		1															9
総計	1	16	31	7			45	2		17	27	110	130	151	63	44	41	18	703

表V-2-19 動物骨大型破片一覧

調査区	層位	取上番号	骨番号	分類	部位	個体数	点数	備考
F30	Ⅲ	13	1	シカ	肩甲骨L	1	1	
F30	Ⅲ	17	2	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
F31	Ⅲ	1	3	シカ	骨片		5	
F31	Ⅲ	2	4	シカ	骨片		1	
F31	Ⅲ	3	5	シカ	骨片		2	
F31	Ⅲ	4	6	シカ	骨片(橈骨R 破片?)		1	
F31	Ⅲ	7	7	シカ	尺骨R 破片	1	2	
F31	Ⅲ	9	8A	シカ	距骨L	1	1	
F31	Ⅲ	9	9B	シカ	骨片		4	
F31	Ⅲ	19	10	シカ	距骨R	1	1	
F31	Ⅲ	20	11	シカ	骨片		1	
F31	Ⅲ	21	12	シカ	距骨R	1	1	
F32	Ⅲ	1	13	シカ	上腕骨L 遠位	1	1	
F32	Ⅲ	4	14	シカ	骨片		1	
G32	Ⅲ	5	15	シカ	骨片		5	
G32	Ⅲ	8	16	シカ	骨片		3	
G32	Ⅲ	15	17	クジラ	-	1	1	鯨骨製環、小孔あり
G32	Ⅲ	17	18	シカ	骨片		1	
G33	Ⅲ	10	19	シカ	踵骨L	1	2	
H25	Ⅲ	2	20	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
H29	Ⅲ	1	21	シカ	骨片		3	
H30	Ⅲ	1	22A	シカ	脛骨L 遠位	1	3	
H30	Ⅲ	1	23B	シカ	距骨L	1	1	
H30	Ⅲ	1	24C	シカ	骨片		2	
H30	Ⅲ	1	25D	シカ	不明		1	
H30	Ⅲ	2	26A	シカ	踵骨R	1	2	
H30	Ⅲ	2	27B	シカ	踵骨L	1	2	
H30	Ⅲ	3	28	シカ	大腿骨L 破片	1	3	
H31	Ⅲ	2	29A	シカ	踵骨R	1	1	
H31	Ⅲ	2	30B	シカ	距骨R	1	1	
H31	Ⅲ	2	31C	シカ	骨片		4	
H32	Ⅲ	1	32A	シカ	踵骨R	1	1	
H32	Ⅲ	1	33B	シカ	距骨R	1	1	
H32	Ⅲ	1	34C	シカ	上腕骨L 遠位	1	1	
H32	Ⅲ	2	35A	シカ	大腿骨L 近位	1		
H32	Ⅲ	2	36B	シカ	大腿骨L 遠位			
H32	Ⅲ	3	37	シカ	脛骨R 近位	1	3	
H32	Ⅲ	4	38	シカ	肩甲骨L	1	1	
H33	Ⅲ	2	39	シカ	骨片		1	
H33	Ⅲ	3	40	シカ	下顎骨L P2~M3	1	1	
H33	Ⅲ	4	41	シカ	下顎骨R P4~M3	1	1	
H33	Ⅲ	6	42A	シカ	距骨L	1	3	
H33	Ⅲ	6	43B	シカ	骨片		1	
I28	Ⅲ	2	44A	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
I28	Ⅲ	2	45B	シカ	骨片		5	
I28	Ⅲ	3	46	シカ	骨片		2	
I28	Ⅲ	4	47	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
I28	Ⅲ	5	48A	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
I28	Ⅲ	5	49B	シカ	骨片		5	
I29	Ⅲ	1	50A	シカ	骨片		3	
I29	Ⅲ	1	51B	シカ	不明(脛骨 遠位?)		1	
I30	Ⅲ	2	52A	シカ	距骨R?	1	1	
I30	Ⅲ	2	53B	シカ	骨片		2	
I30	Ⅲ	3	54	シカ	肩甲骨R	1	1	
I31	Ⅲ	2	55	シカ	骨片		1	
I32	Ⅲ	2	56A	シカ	踵骨R	2	2	
I32	Ⅲ	2	57B	シカ	距骨R	1	2	
I32	Ⅲ	2	58C	シカ	踵骨L	1	1	
I32	Ⅲ	3	59A	シカ	骨片		5	
I32	Ⅲ	3	60B	シカ	不明		1	
I32	Ⅲ	6	61	シカ	中足骨	1	2	
I33	Ⅲ	1	62A	シカ	踵骨L	1	1	
I33	Ⅲ	1	63B	シカ	骨片		1	
I33	Ⅲ	3	64A	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
I33	Ⅲ	3	65B	シカ	上腕骨L 遠位	1	1	
I33	Ⅲ	4	66	シカ	骨片		3	
I33	Ⅲ	5	67	シカ	骨片		1	
J25	Ⅲ	1	68A	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
J25	Ⅲ	1	69B	シカ	骨片		4	
J27	Ⅲ	1	70A	シカ	橈骨R 近位	1	1	
J27	Ⅲ	1	71B	シカ	骨片		5	
J28	Ⅲ	2	72A	シカ	肩甲骨R 破片	1	1	
J28	Ⅲ	2	73B	シカ	橈骨L 遠位 破片	1	1	
J28	Ⅲ	2	74C	シカ	骨片		2	
J30	Ⅲ	2	75A	シカ	距骨R	1	1	
J30	Ⅲ	2	76B	シカ	距骨L	1	1	
J30	Ⅲ	2	77C	シカ	骨片		2	
J31	Ⅲ	2	78	シカ	骨片		4	
J32	Ⅲ	1	79	シカ	骨片		2	
J32	Ⅲ	2	80A	シカ	鹿角	1	1	
J32	Ⅲ	2	81B	シカ	骨片		5	
J32	Ⅲ	4	82	シカ	下顎骨R P3~M3	1	1	
J33	Ⅲ	3	83	シカ	橈骨L 遠位	1	1	
K25	Ⅲ	1	84	シカ	骨片		5	
K26	Ⅲ	1	85	シカ	橈骨L 破片	1	1	
K27	Ⅲ	1	86A	シカ	肩甲骨 棘突起	1	1	
K27	Ⅲ	1	87B	シカ	上腕骨R 破片	1	1	
K27	Ⅲ	1	88C	シカ	距骨R	1	2	
K27	Ⅲ	1	89D	シカ	踵骨L	1	3	
K27	Ⅲ	1	90E	シカ	距骨L	1	1	
K27	Ⅲ	1	91Fa	シカ	基節骨	1	1	
K27	Ⅲ	1	92Fb	シカ	中節骨		1	
K27	Ⅲ	1	93Fc	シカ	不明		1	
K27	Ⅲ	1	94G	シカ	骨片		15	
K27	Ⅲ	2	95A	シカ	脛骨R 遠位	1		関節状態

調査区	層位	取上 番号	骨番号	分類	部位	個体数	点数	備考
K27	Ⅲ	2	96B	シカ	踵骨R			
K27	Ⅲ	2	97C	シカ	距骨R			
K27	Ⅲ	3	98A	シカ	基節骨	1	2	
K27	Ⅲ	3	99B	シカ	中節骨		1	
K27	Ⅲ	4	99A	シカ	基節骨	1	1	
K27	Ⅲ	4	99B	シカ	中節骨		2	
K28	Ⅲ	1	99	シカ	骨片		1	
K28	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
K28	Ⅲ	3	99	シカ	骨片		2	
K28	Ⅲ	4	99	シカ	骨片		1	
K28	Ⅲ	5	99	シカ	橈骨L? 近位	1	1	
K28	Ⅲ	6	99	シカ	不明		2	
K29	Ⅲ	1	99	シカ	骨片		1	
K29	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
K29	Ⅲ	3	99	シカ	骨片		1	
K29	Ⅲ	4	99	シカ	踵骨R	1	1	
K29	Ⅲ	5	99	シカ	骨片		3	
K29	Ⅲ	6	99	シカ	距骨L	1	1	
K30	Ⅲ	1	99	シカ	肩甲骨L 破片	1	2	
K30	Ⅲ	2	99	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
K31	Ⅲ	1	99	シカ	肩甲骨L 破片	1	1	
K31	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
K31	Ⅲ	3	99	シカ	距骨R	1	2	
L26	Ⅲ	1	99	シカ	踵骨L	1		
L26	Ⅲ	1	99	シカ	骨片			
L27	Ⅲ	1	99A	シカ	上腕骨R 遠位	2	2	
L27	Ⅲ	1	99B	シカ	踵骨R	2	2	
L27	Ⅲ	1	99C	シカ	距骨R	2	3	
L27	Ⅲ	1	99D	シカ	踵骨L	1	2	
L27	Ⅲ	1	99E	シカ	距骨L	1	1	
L27	Ⅲ	1	99F	シカ	骨片		20	
L28	Ⅲ	2	99	シカ	肩甲骨L	1	1	
L29	Ⅲ	1	99	シカ	上腕骨L 破片	1	1	
L29	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
L29	Ⅲ	3	99	シカ	末節骨	1	2	ツメ
L29	Ⅲ	4	99	シカ	骨片		1	
L29	Ⅲ	6	99	シカ	橈骨L 近位	1	3	
L29	Ⅲ	7	99	シカ	骨片		3	
L29	Ⅲ	8	99A	シカ	橈骨R 遠位 骨端ハズレ	1	2	
L29	Ⅲ	8	99B	シカ	橈腕手根骨R	1	1	
L29	Ⅲ	8	99C	シカ	尺骨R 遠位 骨端	1	1	
L29	Ⅲ	8	99D	シカ	尺腕手根骨R	1	1	
L29	Ⅲ	8	99E	シカ	第2、第3手根骨R	1	1	
L29	Ⅲ	8	99F	シカ	第4手根骨R	1	1	
L29	Ⅲ	8	99G	シカ	中間手根骨L	1	1	
L29	Ⅲ	8	99H	シカ	不明		5	
L30	Ⅲ	1	99	シカ	骨片		1	
L30	Ⅲ	2	99	シカ	下顎骨R M1,M2	1	1	
L30	Ⅲ	3	99	シカ	橈骨L 遠位	1	2	
L30	Ⅲ	4	99	シカ	距骨L	1	1	
L31	Ⅲ	1	99	イヌ	下顎骨R・L、頭骨	1	1	
L31	Ⅲ	2	99	シカ	肩甲骨L	1	1	
L31	Ⅲ	3	99	シカ	骨片		1	
L31	Ⅲ	4	99	シカ	骨片		1	
L31	Ⅲ	10	99A	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
L31	Ⅲ	10	99B	シカ	踵骨R	1	2	
L31	Ⅲ	10	99C	シカ	距骨R	1	1	
L31	Ⅲ	10	99D	シカ	骨片		1	
L32	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
M26	Ⅲ	1	99A	シカ	肩甲骨R	1	1	
M26	Ⅲ	1	99B	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
M26	Ⅲ	1	99C	シカ	骨片		6	
M27	Ⅲ	1	99A	シカ	肩甲骨R	1	1	
M27	Ⅲ	1	99B	シカ	踵骨R	1	2	
M27	Ⅲ	1	99C	シカ	距骨R	1	1	
M27	Ⅲ	1	99D	シカ	上腕骨L 遠位	1	4	
M27	Ⅲ	1	99E	シカ	踵骨L	1	1	
M27	Ⅲ	1	99F	シカ	骨片		4	
M27	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		19	ヤケ・白
M28	Ⅲ	1	99A	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
M28	Ⅲ	1	99B	シカ	骨片		9	
M29	Ⅲ	1	99A	シカ	肩甲骨R	1	1	
M29	Ⅲ	1	99B	シカ	橈骨R 近位?	1	1	
M29	Ⅲ	1	99C	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
M29	Ⅲ	1	99D	シカ	距骨R	1	2	
M29	Ⅲ	1	99E	シカ	距骨L	1	1	
M29	Ⅲ	1	99F	シカ	骨片		28	
M29	Ⅲ	1	99G	シカ	骨片		35	ヤケ・白
M30	Ⅲ	1	99	シカ	骨片		3	ヤケ・白
M30	Ⅲ	2	99A	シカ	下顎骨R P4~M3	1	1	
M30	Ⅲ	2	99B	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
M30	Ⅲ	2	99C	シカ	距骨R	1	1	
M30	Ⅲ	2	99D	シカ	上腕骨L 遠位	1	1	
M30	Ⅲ	2	99E	シカ	骨片		18	2-Aと同一個体含むか、1点ヤケ・白
M31	Ⅲ	1	99	シカ	上腕骨R 遠位	1	2	
N26	Ⅲ	1	99A	シカ	肩甲骨R	1	1	
N26	Ⅲ	1	99B	シカ	距骨L	1	1	
N26	Ⅲ	1	99C	シカ	骨片		16	
N28	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		2	
N29	Ⅲ	1	99A	シカ	距骨R	1	1	
N29	Ⅲ	1	99B	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
N29	Ⅲ	1	99C	シカ	踵骨L	1	1	
N29	Ⅲ	1	99D	シカ	距骨L	1	1	
N29	Ⅲ	1	99E	シカ	骨片		12	
N29	Ⅲ	3	99	シカ	踵骨R 破片	1	3	1点ヤケ・白

梅川4遺跡(3)

調査区	層位	取上番号	骨番号	分類	部位	個体数	点数	備考
N30	Ⅲ	1	99	シカ	骨片(脛骨L 遠位?)		6	
O27	Ⅲ	1	99A	シカ	踵骨L	1	2	
O27	Ⅲ	1	99B	シカ	骨片		1	
O28	Ⅲ	1	99A	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
O28	Ⅲ	1	99B	シカ	踵骨R	1	1	
O28	Ⅲ	1	99C	シカ	肩甲骨L	1	3	
O28	Ⅲ	1	99D	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
O28	Ⅲ	1	99E	シカ	距骨L	2	2	
O28	Ⅲ	1	99F	シカ	骨片(寛骨白?)		1	
O28	Ⅲ	1	99G	シカ	骨片		33	
O28	Ⅲ	2	99	シカ	踵骨R	1	2	
O29	Ⅲ	1	99A	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
O29	Ⅲ	1	99B	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
O29	Ⅲ	1	99C	シカ	骨片		8	
O29	Ⅲ	2	99A	シカ	上顎骨R P3(破片化?)、M3上顎骨L P3・4、M1~3	1	1	
O29	Ⅲ	2	99B	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
O29	Ⅲ	2	99Ca	シカ	距骨R	1	1	
O29	Ⅲ	2	99Cb	シカ	骨片(脛骨R?)		2	
O29	Ⅲ	2	99D	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
O29	Ⅲ	2	99E	シカ	踵骨L	1	1	
O29	Ⅲ	2	99F	シカ	骨片		4	
P22	Ⅲ	1	99	シカ	橈骨L 遠位	1	44	
P25	Ⅲ	1	99	シカ	肩甲骨R	1	1	
P25	Ⅲ	4	99	シカ?	基節骨	1	2	ヤケ・白
P27	Ⅲ	1	99	シカ	肩甲骨R	1	2	
P27	Ⅲ	2	99A	シカ	踵骨R	1	1	
P27	Ⅲ	2	99B	シカ	距骨R		1	
P27	Ⅲ	4	99	シカ	橈骨L 破片	1	1	解体痕あり
P28	Ⅲ	3	99	シカ	上腕骨L 遠位	1	1	
P28	Ⅲ	5	99	シカ	骨片		1	
P28	Ⅲ	6	99	シカ	脛骨L 近位	1	5	
P28	Ⅲ	7	99	シカ	肩甲骨R	1	3	
P28	Ⅲ	9	99A	シカ	肩甲骨R	1	4	
P28	Ⅲ	9	99B	シカ	距骨R	1	1	
P28	Ⅲ	9	99C	シカ	踵骨R	1	1	
P28	Ⅲ	10	99A	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
P28	Ⅲ	10	99B	シカ	距骨R	1	1	
P28	Ⅲ	10	99C	シカ	骨片		7	
P28	Ⅲ	11	99	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
P28	Ⅲ	12	99	シカ	骨片		1	
P28	Ⅲ	13	99	シカ	骨片		2	
P28	Ⅲ	14	99	シカ	骨片		2	
P28	Ⅲ	15	99	シカ	骨片		4	
P28	Ⅲ	16	99	シカ	骨片		1	
P28	Ⅲ	17	99	シカ	骨片		1	
P28	Ⅲ	20	99	シカ	骨片		3	
P28	Ⅲ	21	99	シカ	骨片		1	
P28	Ⅲ	23	99	シカ	踵骨L	1	1	
P28	Ⅲ	24	99	シカ	骨片		1	
P28	Ⅲ	25	99	シカ	骨片		2	
P28	Ⅲ	26	99	シカ	脛骨R 破片	1	1	
P29	Ⅲ	3	99	シカ	脛骨L 近位	1	1	
P29	Ⅲ	5	99	シカ	骨片		2	
Q16	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
Q22	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
Q25	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		1	
Q25	Ⅲ	5	99	シカ	骨片		1	
Q27	Ⅲ	1	99	シカ	骨片		2	
R19	Ⅲ	3	99A	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
R19	Ⅲ	3	99B	シカ	踵骨R	1	1	
R19	Ⅲ	3	99C	シカ	距骨R	1	1	
R23	Ⅲ	1	99	シカ	骨片		2	
R25	Ⅲ	2	99	シカ	骨片		3	
S17	Ⅲ	5	99	シカ	上腕骨L 破片	1	1	
S17	Ⅲ	9	99	シカ	肩甲骨R	1	3	
S17	Ⅲ	13	99	シカ	踵骨R 遠位	1	1	
S17	Ⅲ	18	99	シカ	距骨L	1	1	
S17	Ⅲ	21	99	シカ	脛骨R 遠位	1	1	
S17	Ⅲ	28	99	シカ	骨片		1	
S18	Ⅲ	3	99	シカ	踵骨L	1	10	
S18	Ⅲ	4	99	シカ	骨片		4	
S18	Ⅲ	7	99	シカ	距骨R	1	1	
S18	Ⅲ	8	99	シカ	脛骨L 遠位	1	1	
S18	Ⅲ	24	99	シカ	骨片		1	
S18	Ⅲ	25	99	シカ	距骨R	1	1	
S18	Ⅲ	26	99	シカ	上腕骨R 遠位	1	1	
S18	Ⅲ	29	99	シカ	座骨L 破片	1	1	
S18	Ⅲ	33	99	シカ	大腿骨R 破片	1	5	
S18	Ⅲ	34	99	シカ	骨片		2	
S18	Ⅲ	63	99	シカ	踵骨R	1	4	
S19	Ⅲ	11	99	シカ	踵骨L	1	1	
S19	Ⅲ	17	99	シカ	距骨L	1	1	
S19	Ⅲ	22	99	シカ	骨片		1	
T17	Ⅲ	3	99	シカ	距骨R	1	1	
T17	Ⅲ	5	99	シカ	距骨R L? 不明	1	2	
T17	Ⅲ	8	99	シカ	距骨R	1	2	
T17	Ⅲ	10	99	シカ	踵骨L 遠位	1	1	
T17	Ⅲ	30	99	シカ	骨片		2	
T19	Ⅲ	5	99	シカ	骨片		1	

VI 自然科学的分析

1 梅川4遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

梅川4遺跡は、北海道千歳市祝梅2047番地55ほか（北緯42°49'35"、東経141°41'40"）に所在する。

(2) 測定の意義

梅川4遺跡平成18年度調査区（北理調報253）は、土坑・土坑墓の年代幅と年代、梅川4遺跡C地区（北理調報269）は、遺構の構築時期および土器型式の年代を明らかにする。

(3) 測定対象試料

測定対象試料は、梅川4遺跡平成18年度調査区の土坑・土坑墓から出土した木炭32点（U4A-1～7・9・11～21・23・25～28・31～37・39：IAAA-72133～72164）、梅川4遺跡C地区のVP-5覆土8層から出土した炭化物5点（No.21～25：IAAA-72185～72189）である。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰めて、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で120分加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、(株) 加速器分析研究所の¹⁴C-AMS専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HO_x II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

(6) 算出方法

年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する。 ^{14}C 年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。 ^{14}C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰; パーミル)で表される。 $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを計算する。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(加速器)と注記する。また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰)であるときの ^{14}C 濃度に換算した上で計算した値である。pMC(percent Modern Carbon)は、 ^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合を示す。

年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値を暦年較正年代という。暦年較正年代の計算では、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv3.10較正プログラム(Bronk Ransey1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001)を使用した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入していない ^{14}C 年代値である。

(7) 測定結果

平成18年度調査区 ^{14}C 年代は、H-1覆土から出土した木炭が $2570 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-1 : IAAA-72133)である。P-4では、覆土下の木炭が $2580 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-2 : IAAA-72134)、覆土中の木炭が $2540 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-3 : IAAA-72135)である。P-25の木炭は $2480 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-4 : IAAA-72136)である。P-29では、覆土下の木炭が $3090 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-5 : IAAA-72137)、覆土上の木炭が $2560 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-6 : IAAA-72138)である。P-31の木炭は $2520 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-7 : IAAA-72139)、P-35の木炭が $2500 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-9 : IAAA-72140)、P-56の木炭が $2470 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-11 : IAAA-72141)である。P-64の木炭は $2590 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-12 : IAAA-72142)、P-72の木炭が $2590 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-13 : IAAA-72143)、P-75の木炭が $2530 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-14 : IAAA-72144)である。P-97の木炭は $2600 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-15 : IAAA-72145)、P-98の木炭が $2530 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-16 : IAAA-72146)、P-99の木炭が $2530 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-17 : IAAA-72147)である。P-105では、底面出土の木炭が $4170 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-18 : IAAA-72148)、覆土上の木炭が $2460 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-19 : IAAA-72149)である。P-111の木炭は $2500 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-20 : IAAA-72150)、P-113の木炭が $2490 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-21 : IAAA-72151)、P-133の木炭が $2580 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-23 : IAAA-72152)である。P-134の木炭は $2540 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-25 : IAAA-72153)、P-136の木炭が $2510 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-26 : IAAA-72154)、P-139の木炭が $2540 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-27 : IAAA-72155)である。P-145の木炭は $2620 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-28 : IAAA-72156)、P-148の木炭が $2510 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-31 : IAAA-72157)、P-152の木炭が $2500 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-32 : IAAA-72158)である。P-154の木炭は $2550 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-33 : IAAA-72159)、P-155の木炭が $2600 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-34 : IAAA-72160)、P-158の木炭が $2550 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-35 : IAAA-72161)である。P-164の木炭は $2550 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-36 : IAAA-72162)、P-170の木炭が $2540 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-37 : IAAA-72163)、P-220の木炭が $3940 \pm 30\text{yrBP}$ (U4A-39 : IAAA-72164)である。

暦年較正年代(1 σ)は、U4A-19が750~410BC、U4A-3・4・6・7・9・11・14・16・17・20・21・25~27・31~33・35~37が800~510BC、U4A-1・2・12・13・15・23・28・34が810~765BC、U4A-5が1410~1315BC、U4A-39が2490~2340BC、U4A-18が2880~2690BCに含まれる。縄文時代晩期後葉を主体とする。試料の炭素含有率は十分であり、化学処理および測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考えられる。

C地区VP-5覆土8層から出土した炭化物5点の¹⁴C年代は4120±30yrBP (No.21: IAAA-72185)、4130±30yrBP (No.22: IAAA-72186)、4030±40yrBP (No.23: IAAA-72187)、4080±30yrBP (No.24: IAAA-72188)、4020±30yrBP (No.25: IAAA-72189)である。

暦年較正年代(1 σ = 68.2%)は、No.21が2860~2810BC(20.7%)・2750~2720BC(10.8%)・2700~2620BC(36.6%)、No.22が2860~2830BC(13.5%)・2820~2800BC(5.3%)・2760~2620BC(49.4%)、No.23が2580~2485BC、No.24が2840~2810BC(9.1%)・2670~2560BC(53.1%)・2520~2500BC(6.0%)、No.25が2580~2545BC(23.4%)・2540~2485BC(44.8%)である。試料の炭素含有率は60~70%と十分であり、化学処理および測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考えられる。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

表1 測定試料の¹⁴C年代および炭素の同位体比

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72133 #2039-1	試料採取場所: 北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) H-1 覆土 試料形態: 木炭 試料名(番号): U4A-1	Libby Age (yrBP) : 2,570 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.36 ± 0.59 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -274.2 ± 2.3 pMC (%) = 72.58 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -279.2 ± 2.1 pMC (%) = 72.08 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,630 ± 20
IAAA-72134 #2039-2	試料採取場所: 北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-4 覆土下 試料形態: 木炭 試料名(番号): U4A-2	Libby Age (yrBP) : 2,580 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.18 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -274.8 ± 2.4 pMC (%) = 72.52 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -273.6 ± 2.2 pMC (%) = 72.64 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,570 ± 20

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72135 #2039-3	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-4 覆土中 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-3	Libby Age (yrBP) : 2,540 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.89 ± 0.56 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.4 ± 2.3 pMC (%) = 72.86 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -277.2 ± 2.1 pMC (%) = 72.28 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,610 ± 20
IAAA-72136 #2039-4	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-25 覆土上 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-4	Libby Age (yrBP) : 2,480 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.88 ± 0.43 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -265.6 ± 2.3 pMC (%) = 73.44 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -266.9 ± 2.2 pMC (%) = 73.31 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,490 ± 20
IAAA-72137 #2039-5	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-29 覆土下 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-5	Libby Age (yrBP) : 3,090 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.89 ± 0.35 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -319.0 ± 2.2 pMC (%) = 68.10 ± 0.22
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -320.2 ± 2.1 pMC (%) = 67.98 ± 0.21 Age (yrBP) : 3,100 ± 30
IAAA-72138 #2039-6	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-29 覆土上 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-6	Libby Age (yrBP) : 2,560 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.51 ± 0.50 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -272.5 ± 2.4 pMC (%) = 72.75 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.8 ± 2.3 pMC (%) = 72.82 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,550 ± 30
IAAA-72139 #2039-7	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-31 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-7	Libby Age (yrBP) : 2,520 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.25 ± 0.62 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -269.3 ± 2.3 pMC (%) = 73.07 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -266.7 ± 2.1 pMC (%) = 73.33 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,490 ± 20

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72140 #2039-8	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡（H18） P-35 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-9	Libby Age (yrBP) : 2,500 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.98 ± 0.37 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -267.8 ± 2.4 pMC (%) = 73.22 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -269.3 ± 2.3 pMC (%) = 73.07 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,520 ± 30
IAAA-72141 #2039-9	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡（H18） P-56 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-11	Libby Age (yrBP) : 2,470 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.78 ± 0.76 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -264.4 ± 2.5 pMC (%) = 73.56 ± 0.25
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -270.1 ± 2.2 pMC (%) = 72.99 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,530 ± 20
IAAA-72142 #2039-10	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡（H18） P-64 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-12	Libby Age (yrBP) : 2,590 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = 25.95 ± 0.41 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = 276.1 ± 2.4 pMC (%) = 72.39 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -277.5 ± 2.3 pMC (%) = 72.25 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,610 ± 30
IAAA-72143 #2039-11	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡（H18） P-72 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-13	Libby Age (yrBP) : 2,590 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = 26.80 ± 0.70 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -275.4 ± 2.4 pMC (%) = 72.46 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -278.1 ± 2.2 pMC (%) = 72.19 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,620 ± 20
IAAA-72144 #2039-12	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡（H18） P-75 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-14	Libby Age (yrBP) : 2,530 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = 24.49 ± 0.52 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = 270.4 ± 2.4 pMC (%) = 72.96 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -269.6 ± 2.2 pMC (%) = 73.04 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,520 ± 30

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72145 #2039-13	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-97 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-15	Libby Age (yrBP) : 2,600 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.20 ± 0.37 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -276.2 ± 2.3 pMC (%) = 72.38 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -275.1 ± 2.3 pMC (%) = 72.49 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,580 ± 30
IAAA-72146 #2039-14	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-98 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-16	Libby Age (yrBP) : 2,530 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.05 ± 0.76 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -270.6 ± 2.4 pMC (%) = 72.94 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -270.7 ± 2.1 pMC (%) = 72.93 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,540 ± 20
IAAA-72147 #2039-15	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-99 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-17	Libby Age (yrBP) : 2,530 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = 23.98 ± 0.37 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -270.3 ± 2.4 pMC (%) = 72.97 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = 268.8 ± 2.4 pMC (%) = 73.12 ± 0.24 Age (yrBP) : 2,510 ± 30
IAAA-72148 #2039-16	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-105 底面 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-18	Libby Age (yrBP) : 4,170 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.98 ± 0.57 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -405.3 ± 2.0 pMC (%) = 59.47 ± 0.20
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -407.7 ± 1.9 pMC (%) = 59.23 ± 0.19 Age (yrBP) : 4,210 ± 30
IAAA-72149 #2039-17	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-105 覆土上 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-19	Libby Age (yrBP) : 2,460 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.72 ± 0.69 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -263.4 ± 2.4 pMC (%) = 73.66 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -266.0 ± 2.1 pMC (%) = 73.40 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,480 ± 20

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72150 #2039-18	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-111 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-20	Libby Age (yrBP) : 2,500 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.12 ± 0.55 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -267.7 ± 2.4 pMC (%) = 73.23 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -266.4 ± 2.3 pMC (%) = 73.36 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,490 ± 30
IAAA-72151 #2039-19	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-113 覆土下 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-21	Libby Age (yrBP) : 2,490 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.63 ± 0.68 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -266.2 ± 2.4 pMC (%) = 73.38 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -270.1 ± 2.2 pMC (%) = 72.99 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,530 ± 20
IAAA-72152 #2039-20	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-133 底面 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-23	Libby Age (yrBP) : 2,580 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.68 ± 0.37 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -274.6 ± 2.3 pMC (%) = 72.54 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -278.6 ± 2.3 pMC (%) = 72.14 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,620 ± 30
IAAA-72153 #2039-21	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-134 覆土中 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-25	Libby Age (yrBP) : 2,540 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.84 ± 0.48 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.4 ± 2.3 pMC (%) = 72.86 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -269.6 ± 2.2 pMC (%) = 73.04 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,520 ± 20
IAAA-72154 #2039-22	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-136 覆土上 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-26	Libby Age (yrBP) : 2,510 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.60 ± 0.41 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -268.0 ± 2.4 pMC (%) = 73.20 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.9 ± 2.3 pMC (%) = 72.81 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,550 ± 30

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72155 #2039-23	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-139 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-27	Libby Age (yrBP) : 2,540 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.74 ± 0.60 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.3 ± 2.3 pMC (%) = 72.87 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -272.4 ± 2.1 pMC (%) = 72.76 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,550 ± 20
IAAA-72156 #2039-24	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-145 覆土下 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-28	Libby Age (yrBP) : 2,620 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.92 ± 0.34 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -278.1 ± 2.3 pMC (%) = 72.19 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -276.5 ± 2.3 pMC (%) = 72.35 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,600 ± 30
IAAA-72157 #2039-25	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-148 覆土上 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-31	Libby Age (yrBP) : 2,510 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.23 ± 0.72 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -268.5 ± 2.4 pMC (%) = 73.15 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -270.3 ± 2.2 pMC (%) = 72.97 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,530 ± 20
IAAA-72158 #2039-26	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-152 覆土下 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-32	Libby Age (yrBP) : 2,500 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -29.57 ± 0.67 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -267.4 ± 2.4 pMC (%) = 73.26 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -274.2 ± 2.2 pMC (%) = 72.58 ± 0.22 Age (yrBP) : 2,570 ± 20
IAAA-72159 #2039-27	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡(H18) P-154 覆土下 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-33	Libby Age (yrBP) : 2,550 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.77 ± 0.72 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.6 ± 2.4 pMC (%) = 72.84 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.2 ± 2.1 pMC (%) = 72.88 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,540 ± 20

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72160 #2039-28	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4 A遺跡 (H18) P-155 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-34	Libby Age (yrBP) : 2,600 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.79 ± 0.38 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -276.6 ± 2.4 pMC (%) = 72.34 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -276.3 ± 2.3 pMC (%) = 72.37 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,600 ± 30
IAAA-72161 #2039-29	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡 (H18) P-158 覆土下 試料形態：3木炭 試料名(番号)：U4A-35	Libby Age (yrBP) : 2,550 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.44 ± 0.41 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -272.4 ± 2.4 pMC (%) = 72.76 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -274.5 ± 2.3 pMC (%) = 72.55 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,580 ± 30
IAAA-72162 #2039-30	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡 (H18) P-164 覆土中 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-36	Libby Age (yrBP) : 2,550 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.59 ± 0.36 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.6 ± 2.4 pMC (%) = 72.84 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -269.5 ± 2.3 pMC (%) = 73.05 ± 0.23 Age (yrBP) : 2,520 ± 30
IAAA-72163 #2039-31	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡 (H18) P-170 覆土 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-37	Libby Age (yrBP) : 2,540 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -21.69 ± 0.86 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -271.4 ± 2.4 pMC (%) = 72.86 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -266.4 ± 2.1 pMC (%) = 73.36 ± 0.21 Age (yrBP) : 2,490 ± 20
IAAA-72164 #2039-32	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡 (H18) P-220 覆土下 試料形態：木炭 試料名(番号)：U4A-39	Libby Age (yrBP) : 3,940 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.42 ± 0.35 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -387.7 ± 1.9 pMC (%) = 61.23 ± 0.19
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -387.0 ± 1.9 pMC (%) = 61.30 ± 0.19 Age (yrBP) : 3,930 ± 30

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72185 #2041-1	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡C地区 VP-5 覆土8層 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 21	Libby Age (yrBP) : 4,120 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.57 ± 0.45 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -401.2 ± 2.4 pMC (%) = 59.88 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -404.3 ± 2.4 pMC (%) = 59.57 ± 0.24 Age (yrBP) : 4,160 ± 30
IAAA-72186 #2041-2	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡C地区 VP-5 覆土8層 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 22	Libby Age (yrBP) : 4,130 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.24 ± 0.28 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -402.1 ± 2.3 pMC (%) = 59.79 ± 0.23
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -401.2 ± 2.3 pMC (%) = 59.88 ± 0.23 Age (yrBP) : 4,120 ± 30
IAAA-72187 #2041-3	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡C地区 VP-5 覆土8層 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 23	Libby Age (yrBP) : 4,030 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -34.10 ± 0.37 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -394.4 ± 2.6 pMC (%) = 60.56 ± 0.26
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -405.6 ± 2.5 pMC (%) = 59.44 ± 0.25 Age (yrBP) : 4,180 ± 30
IAAA-72188 #2041-4	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡C地区 VP-5 覆土8層 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 24	Libby Age (yrBP) : 4,080 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.01 ± 0.51 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -397.9 ± 2.4 pMC (%) = 60.21 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -401.6 ± 2.3 pMC (%) = 59.84 ± 0.23 Age (yrBP) : 4,130 ± 30
IAAA-72189 #2041-5	試料採取場所：北海道千歳市祝梅2047-55ほか 梅川4遺跡C地区 VP-5 覆土8層 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No. 25	Libby Age (yrBP) : 4,020 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.04 ± 0.34 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -394.1 ± 2.4 pMC (%) = 60.59 ± 0.24
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -397.9 ± 2.4 pMC (%) = 60.21 ± 0.24 Age (yrBP) : 4,070 ± 30

表2 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

試料番号	試料	出土地点	層位	Code No.	前処理	暦年較正用 (yrBP・丸め 込みなし)	暦年較正 1 σ (yrca1BP)	暦年較正 2 σ (yrca1BP)
U4A-1	木炭	H-1	覆土	IAAA-72133	AAA	2574 \pm 25	800-765BC(68.2%)	810-750BC(83.8%) 690-660BC(9.4%) 620-590BC(2.2%)
U4A-2	木炭	P-4	覆土下	IAAA-72134	AAA	2581 \pm 26	800-770BC(68.2%)	810-750BC(87.2%) 690-660BC(7.2%) 610-590BC(1.0%)
U4A-3	木炭	P-4	覆土中	IAAA-72135	AAA	2543 \pm 25	800-750BC(42.8%) 690-660BC(17.1%) 640-590BC(8.4%)	800-740BC(46.1%) 690-660BC(19.2%) 650-550BC(30.1%)
U4A-4	木炭	P-25	覆土上	IAAA-72136	AAA	2479 \pm 24	760-720BC(13.0%) 700-680BC(3.5%) 670-610BC(25.1%) 600-540BC(26.6%)	770-500BC(93.7%) 440-410BC(1.7%)
U4A-5	木炭	P-29	覆土下	IAAA-72137	AAA	3085 \pm 25	1410-1365BC(39.1%) 1350-1315BC(29.1%)	1430-1290BC(95.4%)
U4A-6	木炭	P-29	覆土上	IAAA-72138	AAA	2555 \pm 26	800-750BC(54.7%) 690-660BC(13.5%)	800-740BC(60.1%) 690-660BC(16.8%) 650-550BC(18.6%)
U4A-7	木炭	P-31	覆土	IAAA-72139	AAA	2520 \pm 25	780-740BC(17.3%) 690-660BC(14.9%) 650-590BC(30.4%) 580-560BC(5.5%)	790-730BC(26.4%) 700-540BC(69.0%)
U4A-9	木炭	P-35	覆土	IAAA-72140	AAA	2504 \pm 25	770-740BC(9.8%) 690-660BC(9.1%) 650-550BC(49.3%)	780-530BC(95.4%)
U4A-11	木炭	P-56	覆土	IAAA-72141	AAA	2466 \pm 27	760-680BC(26.4%) 670-610BC(13.7%) 600-510BC(28.1%)	760-680BC(29.0%) 670-480BC(57.2%) 470-410BC(9.2%)
U4A-12	木炭	P-64	覆土	IAAA-72142	AAA	2594 \pm 26	805-775BC(68.2%)	820-760BC(92.9%) 680-670BC(2.5%)
U4A-13	木炭	P-72	覆土	IAAA-72143	AAA	2588 \pm 26	800-775BC(68.2%)	810-750BC(91.0%) 690-670BC(4.4%)
U4A-14	木炭	P-75	覆土	IAAA-72144	AAA	2532 \pm 26	790-750BC(29.3%) 690-660BC(16.5%) 640-590BC(22.4%)	800-730BC(34.4%) 690-660BC(18.8%) 650-540BC(42.2%)
U4A-15	木炭	P-97	覆土	IAAA-72145	AAA	2597 \pm 25	805-780BC(68.2%)	820-760BC(95.4%)

梅川4遺跡(3)

試料番号	試料	出土地点	層位	Code No.	前処理	暦年較正用 (yrBP・丸め 込みなし)	暦年較正 1 σ (yrca1BP)	暦年較正 2 σ (yrca1BP)
U4A-16	木炭	P-98	覆土	IAAA-72146	AAA	2534 \pm 26	790-750BC(31.8%) 690-660BC(16.8%) 640-590BC(19.6%)	800-730BC(36.1%) 690-660BC(18.9%) 650-540BC(40.4%)
U4A-17	木炭	P-99	覆土	IAAA-72147	AAA	2531 \pm 26	790-740BC(28.2%) 690-660BC(16.2%) 640-590BC(23.9%)	800-730BC(33.7%) 690-660BC(18.7%) 650-540BC(43.0%)
U4A-18	木炭	P-105	底面	IAAA-72148	AAA	4174 \pm 27	2880-2850BC(12.4%) 2820-2740BC(40.2%) 2730-2690BC(15.6%)	2890-2830BC(20.4%) 2820-2660BC(75.0%)
U4A-19	木炭	P-105	覆土上	IAAA-72149	AAA	2455 \pm 25	750-680BC(26.7%) 670-640BC(8.6%) 590-570BC(2.5%) 560-490BC(20.5%) 470-450BC(3.0%) 440-410BC(6.9%)	760-680BC(27.7%) 670-610BC(13.9%) 600-410BC(53.8%)
U4A-20	木炭	P-111	覆土	IAAA-72150	AAA	2503 \pm 26	770-740BC(9.4%) 690-660BC(8.7%) 650-550BC(50.1%)	780-520BC(95.4%)
U4A-21	木炭	P-113	覆土下	IAAA-72151	AAA	2486 \pm 26	760-730BC(11.8%) 700-680BC(3.1%) 670-540BC(53.3%)	780-500BC(95.4%)
U4A-23	木炭	P-133	底面	IAAA-72152	AAA	2578 \pm 25	800-770BC(68.2%)	810-750BC(87.6%) 690-660BC(7.8%)
U4A-25	木炭	P-134	覆土中	IAAA-72153	AAA	2543 \pm 25	800-750BC(42.8%) 690-660BC(17.1%) 640-590BC(8.4%)	800-740BC(46.1%) 690-660BC(19.2%) 650-550BC(30.1%)
U4A-26	木炭	P-136	覆土上	IAAA-72154	AAA	2505 \pm 26	770-740BC(10.1%) 690-660BC(9.9%) 650-550BC(48.1%)	790-530BC(95.4%)
U4A-27	木炭	P-139	覆土	IAAA-72155	AAA	2542 \pm 25	800-750BC(41.3%) 690-660BC(17.1%) 640-590BC(9.8%)	800-740BC(44.9%) 690-660BC(19.3%) 650-550BC(31.2%)
U4A-28	木炭	P-145	覆土下	IAAA-72156	AAA	2617 \pm 25	810-790BC(68.2%)	825-770BC(95.4%)
U4A-31	木炭	P-148	覆土上	IAAA-72157	AAA	2511 \pm 26	770-740BC(12.0%) 690-660BC(12.9%) 650-550BC(43.3%)	790-710BC(23.7%) 700-530BC(71.7%)

試料番号	試料	出土地点	層位	Code No.	前処理	暦年較正用 (yrBP・丸め 込みなし)	暦年較正 1 σ (yr calBP)	暦年較正 2 σ (yr calBP)
U4A-32	木炭	P-152	覆土下	IAAA-72158	AAA	2499 \pm 26	770-740BC(9.8%) 690-660BC(7.1%) 650-540BC(51.2%)	780-520BC(95.4%)
U4A-33	木炭	P-154	覆土下	IAAA-72159	AAA	2545 \pm 26	800-750BC(43.6%) 690-660BC(16.5%) 640-590BC(8.1%)	800-740BC(47.4%) 690-660BC(18.7%) 650-550BC(29.4%)
U4A-34	木炭	P-155	覆土	IAAA-72160	AAA	2601 \pm 26	805-780BC(68.2%)	820-760BC(95.4%)
U4A-35	木炭	P-158	覆土下	IAAA-72161	AAA	2554 \pm 26	800-750BC(53.7%) 690-660BC(14.5%)	800-740BC(58.9%) 690-660BC(17.0%) 650-550BC(19.4%)
U4A-36	木炭	P-164	覆土中	IAAA-72162	AAA	2546 \pm 26	800-750BC(44.4%) 690-660BC(16.3%) 620-590BC(7.4%)	800-740BC(48.5%) 690-660BC(18.5%) 650-550BC(28.3%)
U4A-37	木炭	P-170	覆土	IAAA-72163	AAA	2543 \pm 26	800-750BC(41.1%) 690-660BC(16.5%) 640-590BC(10.7%)	800-740BC(45.0%) 690-660BC(18.9%) 650-550BC(31.5%)
U4A-39	木炭	P-220	覆土下	IAAA-72164	AAA	3940 \pm 25	2490-2430BC(39.1%) 2420-2400BC(11.2%) 2380-2340BC(17.9%)	2570-2530BC(6.9%) 2500-2340BC(88.5%)
No.21	炭化物	VP-5	覆土8	IAAA-72185	AAA	4119 \pm 32	2860-2810BC(20.7%) 2750-2720BC(10.8%) 2700-2620BC(36.6%)	2870-2800BC(24.8%) 2780-2570BC(70.6%)
No.22	炭化物	VP-5	覆土8	IAAA-72186	AAA	4132 \pm 31	2860-2830BC(13.5%) 2820-2800BC(5.3%) 2760-2620BC(49.4%)	2880-2580BC(95.4%)
No.23	炭化物	VP-5	覆土8	IAAA-72187	AAA	4028 \pm 34	2580-2485BC(68.2%)	2830-2820BC(1.4%) 2630-2460BC(94.0%)
No.24	炭化物	VP-5	覆土8	IAAA-72188	AAA	4075 \pm 32	2840-2810BC(9.1%) 2670-2560BC(53.1%) 2520-2500BC(6.0%)	2860-2810BC(14.6%) 2750-2720BC(3.7%) 2700-2560BC(64.8%) 2540-2490BC(12.3%)
No.25	炭化物	VP-5	覆土8	IAAA-72189	AAA	4024 \pm 32	2580-2545BC(23.4%) 2540-2485BC(44.8%)	2630-2470BC(95.4%)

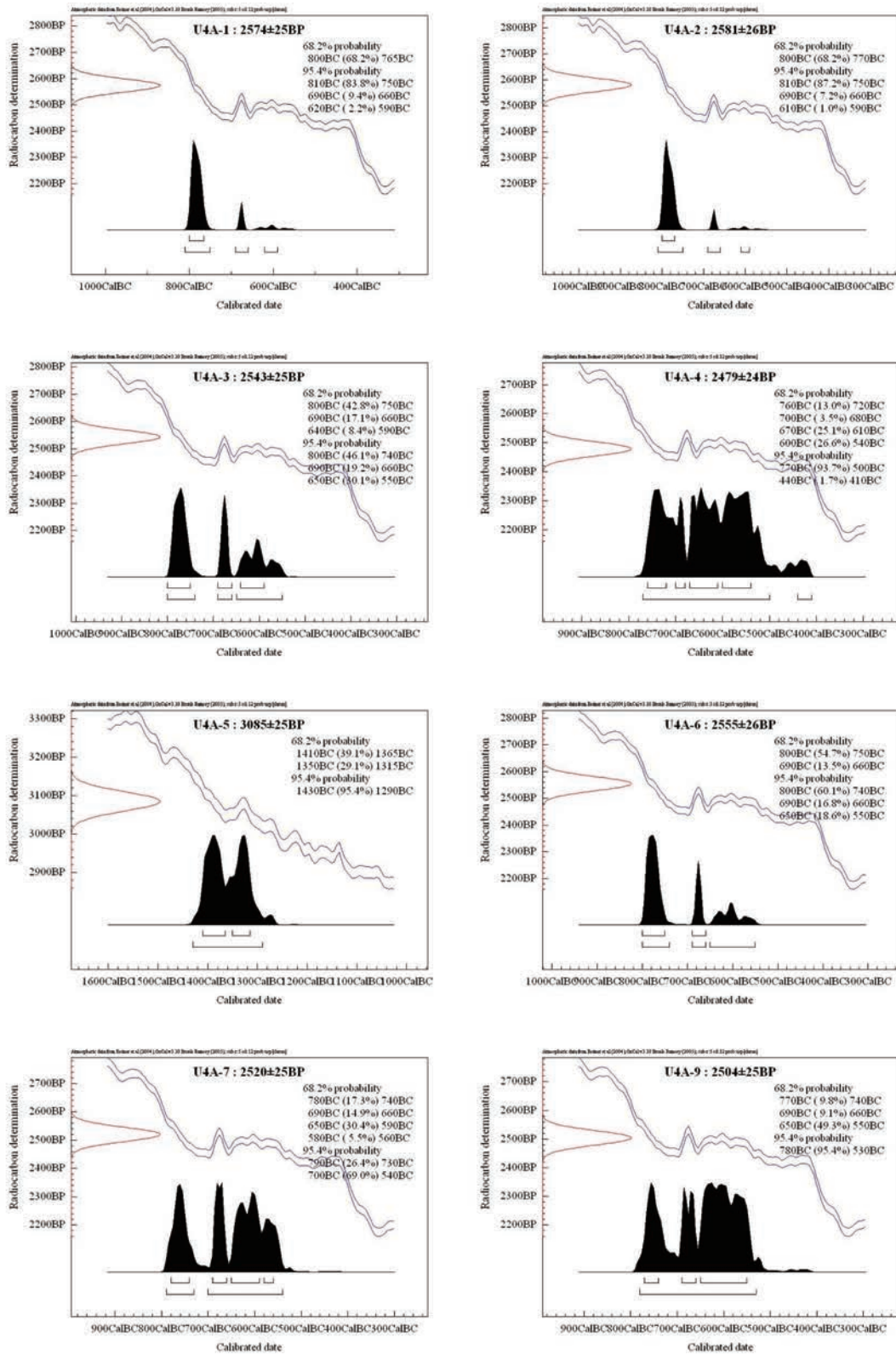


図1 暦年較正年代グラフ(1)

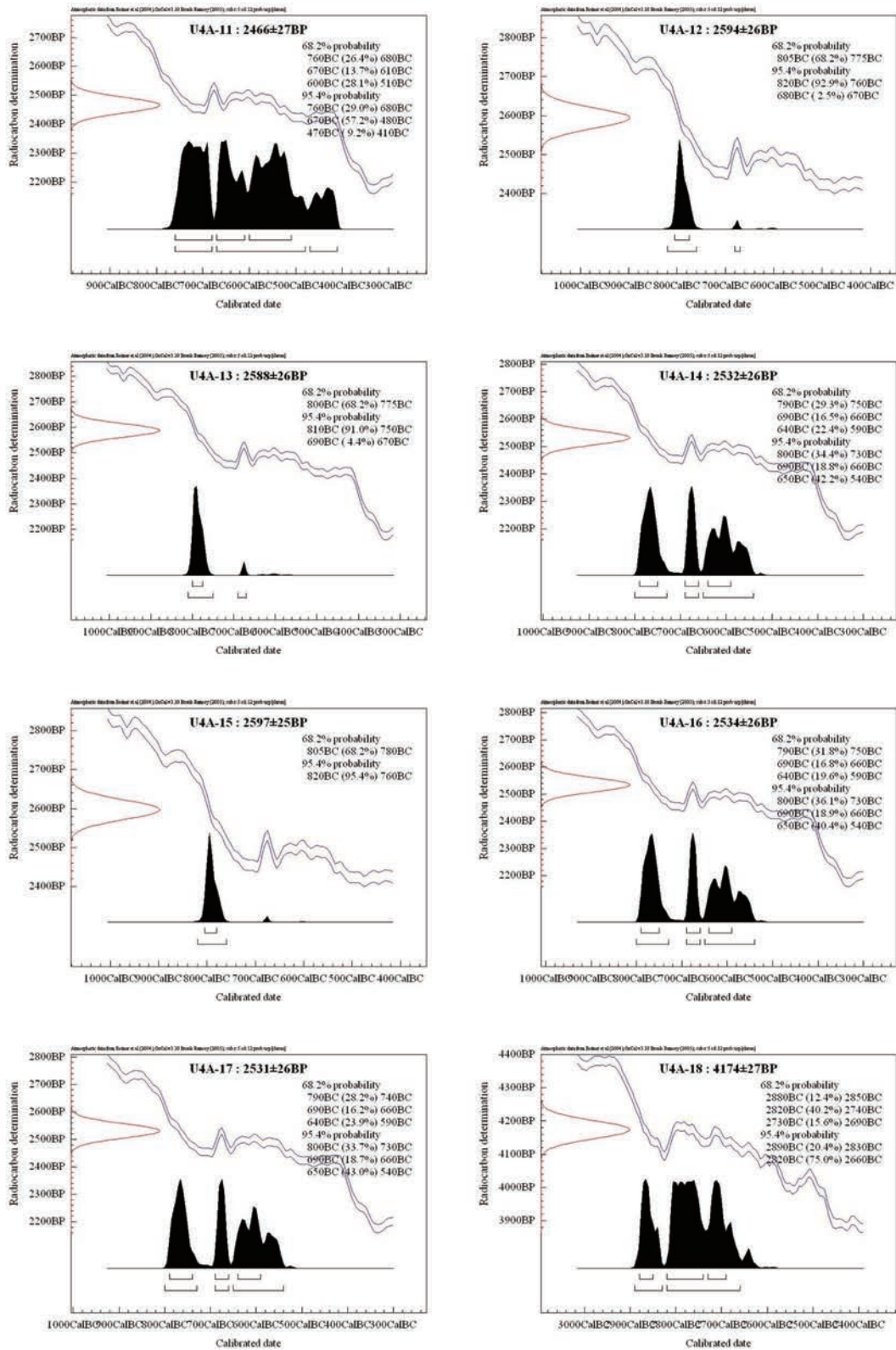


図2 暦年較正年代グラフ(2)

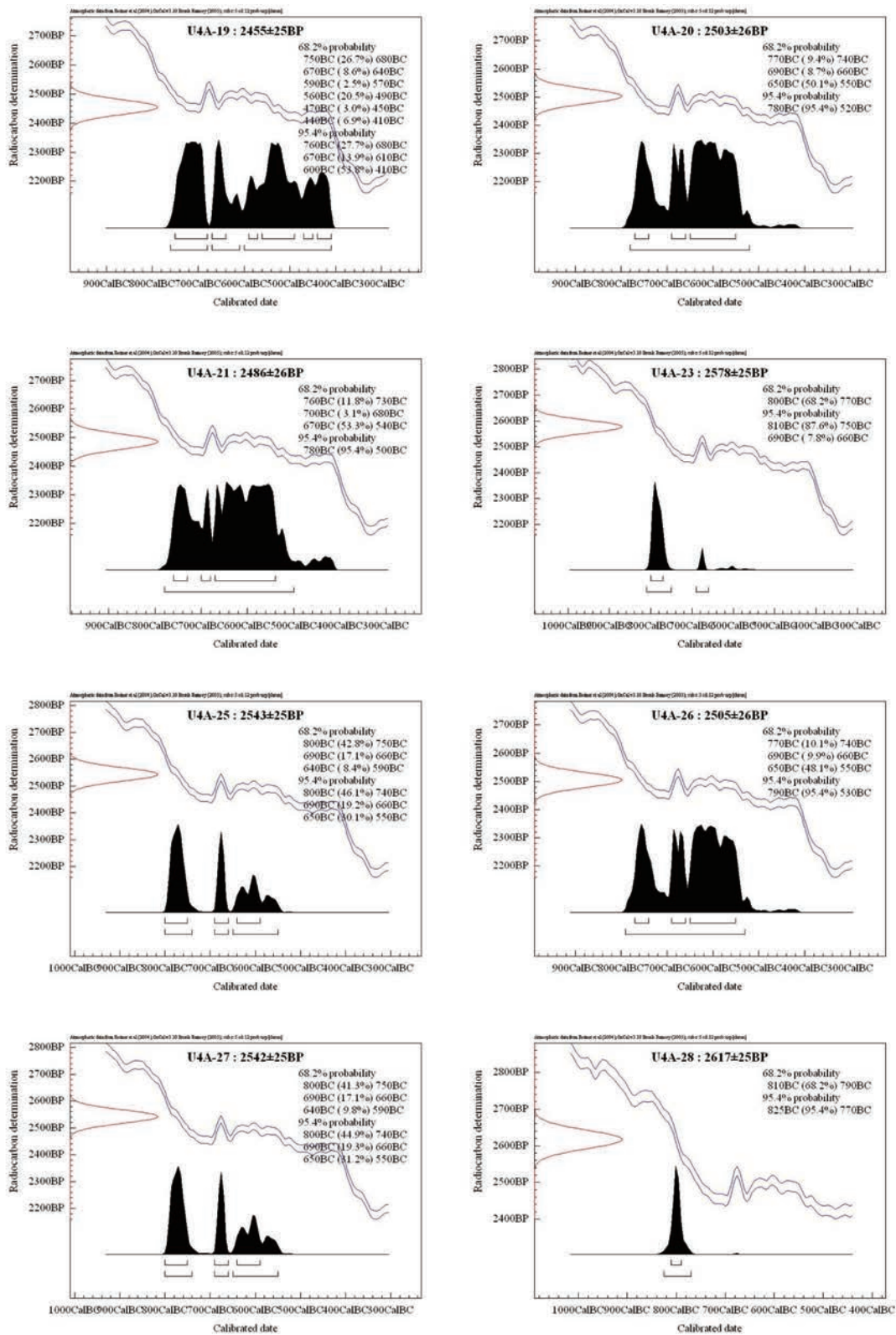


図3 暦年較正年代グラフ(3)

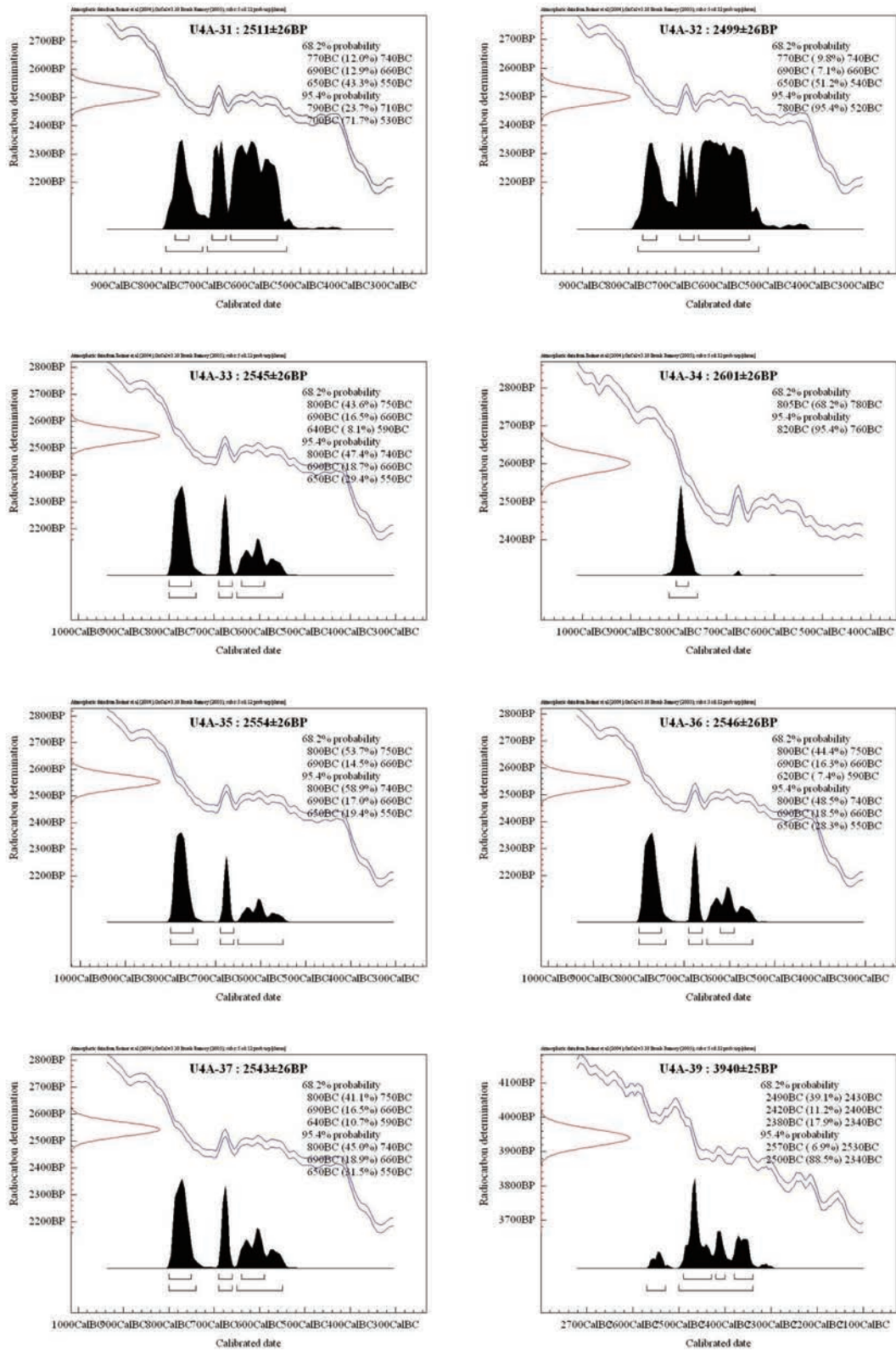


図4 暦年較正年代グラフ(4)

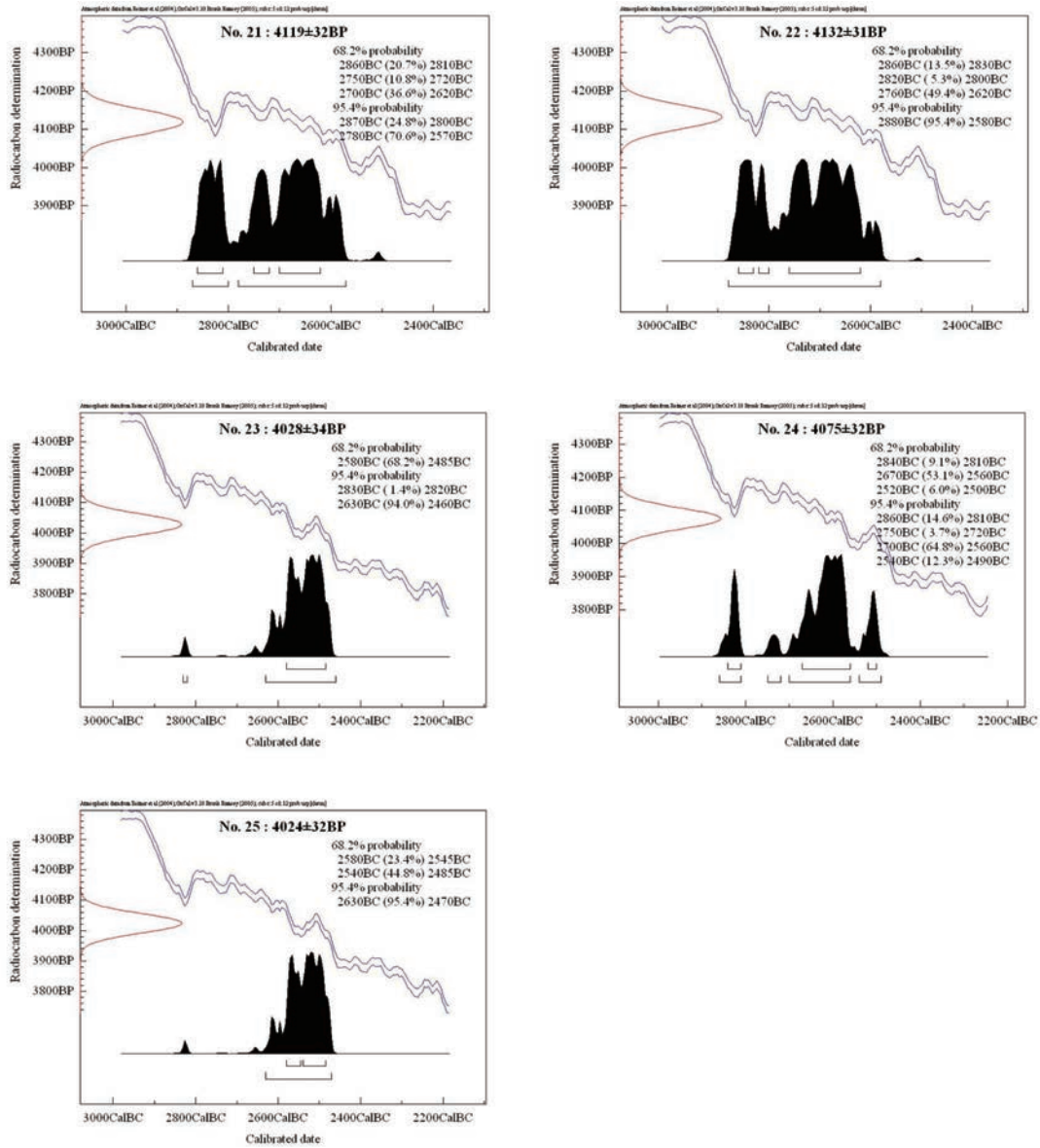


図5 暦年較正年代グラフ(5)

2 黒曜石原産地同定（梅川4遺跡）

(株)第四紀 地質研究所

(1) 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製JSX-3200）で行った。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4 mA)の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

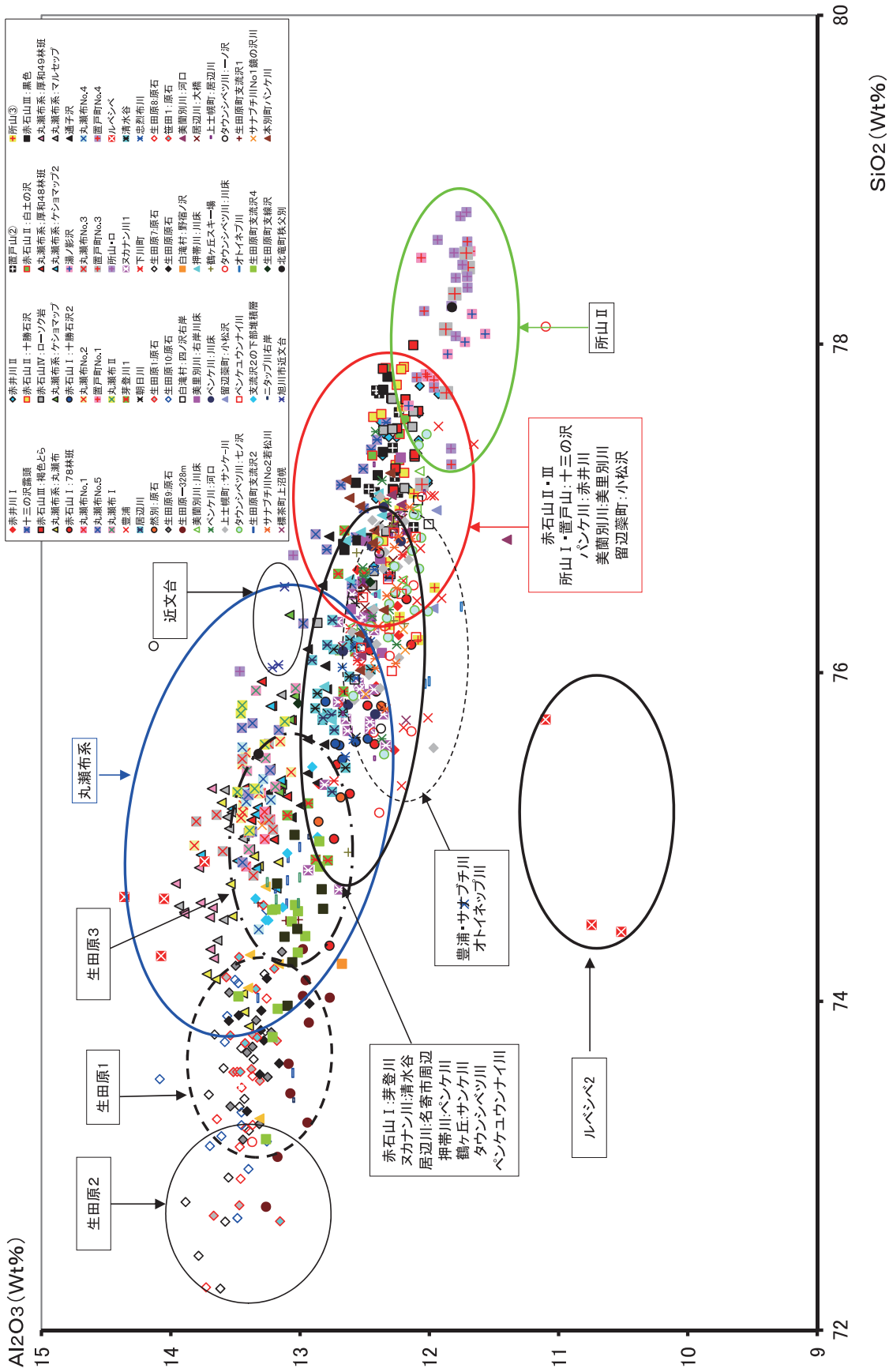
主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量％)でSiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-TiO₂, K₂O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

(2) 分析結果

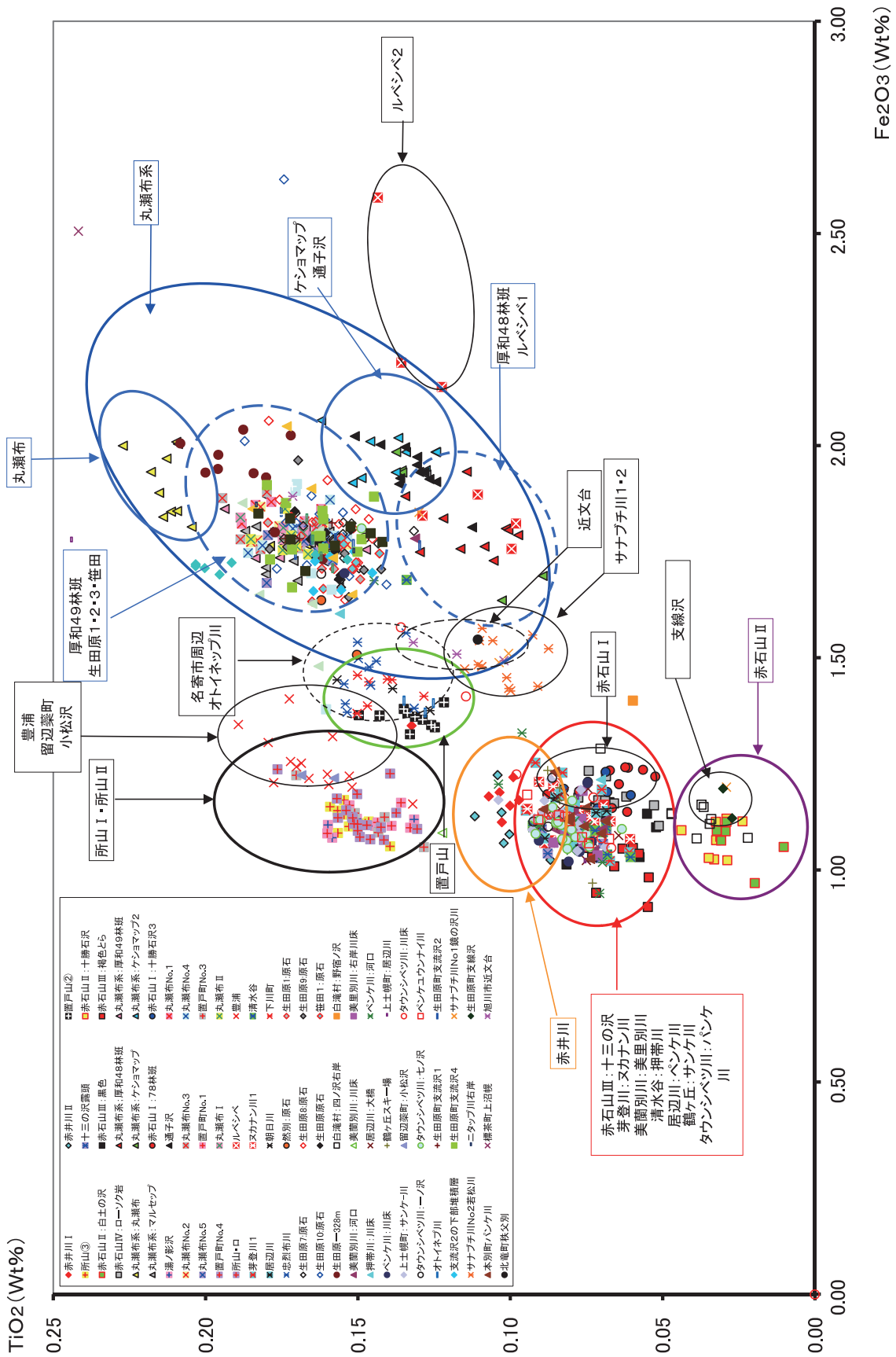
梅川4遺跡出土黒曜石遺物の分析結果は第1表化学分析表に示すとおりである。分析結果に基づいてSiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-TiO₂, K₂O-CaO, Rb-Srの各図を作製した。分析数が多いので出土地点でわけて図に記載し、産地同定を行った。同定結果に基づいて第2表原産地対比表を作成した。表は出土地点ごとで分けて検討し、産地分類を行った。

- 1) 剥片集中1の遺物は216点分析した。分析結果によると216点のうち201点が赤石山Ⅲであり、弱被熱のために産地が同定できないものが10点、TiO₂（酸化チタン）の含有量が高い異質なもの5点である。
- 2) 剥片集中2は21点分析し、20点が赤石山Ⅲであり、1点が赤井川？弱被熱である。
- 3) 剥片石器集中1は5点すべてが赤石山Ⅲである。
- 4) 住居跡（ⅢH）、土坑（ⅢP）および包含層の出土遺物は48点分析した。分析結果では剥片集中1、剥片集中2、剥片石器集中1と傾向が異なり、原産地は多種にわたる。全体で最も多く検出されたのは赤石山Ⅱタイプで48点中18点である。赤石山Ⅱタイプはナシハダ状の十勝石沢タイプであるが、ここではナシハダ状ではなく比較的透明感のある材質で、原石は採取していないがこのようなタイプがあるのかもしれない。次いで、赤石山Ⅲが12点、赤井川産は3点、赤井川産で弱被熱しているものが4点、豊浦が2点、所山産（石鏃）と生田原が1点である。被熱して原産地が特定できないものがあり、そのうち強被熱したものが5点（石鏃は3点）、弱被熱したものは3点（石鏃は1点）である。

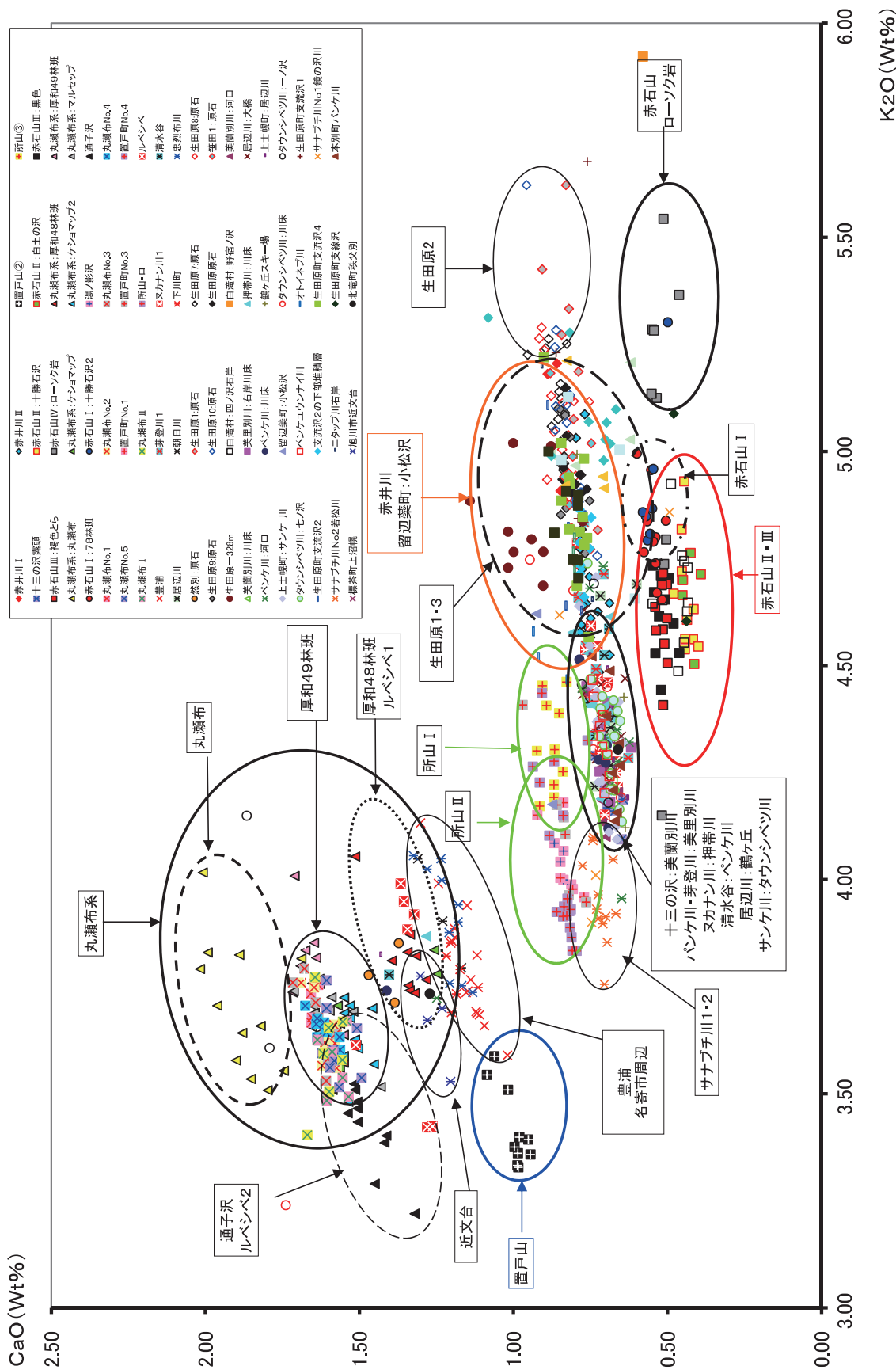
試料名	遺構・グリッド	遺物番号	層位	分類	原産地	備考	試料名	遺構・グリッド	遺物番号	層位	分類	原産地	備考
U-161	剥片集中1	166	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-226	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-162	剥片集中1	167	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-227	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-163	剥片集中1	170	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-228	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-164	剥片集中1	171	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-229	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-165	剥片集中1	172	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-230	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-166	剥片集中1	173	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-231	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-167	剥片集中1	174	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-232	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-168	剥片集中1	175	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-233	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	2点接合状態
U-169	剥片集中1	176	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-234	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-170	剥片集中1	177	Ⅲ	フレイク	Ti高・弱被熱		U-235	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-171	剥片集中1	178	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-236	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-172	剥片集中1	179	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-237	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤井川?弱被熱	
U-173	剥片集中1	180	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-238	剥片石器集中1	1	Ⅲ	ナイフ状石器	赤石山Ⅲ	
U-174	剥片集中1	181	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-239	剥片石器集中1	2	Ⅲ	スクレイパー	赤石山Ⅲ	
U-175	剥片集中1	182	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-240	剥片石器集中1	3	Ⅲ	スクレイパー	赤石山Ⅲ	
U-176	剥片集中1	183	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-241	剥片石器集中1	4	Ⅲ	スクレイパー	赤石山Ⅲ	
U-177	剥片集中1	184	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-242	剥片石器集中1	5	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ	
U-178	剥片集中1	185	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-243	ⅢP-55	20	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-179	剥片集中1	186	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-244	ⅢP-55	21	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-180	剥片集中1	187	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-245	ⅢP-55	22	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-181	剥片集中1	188	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-246	ⅢP-55	23	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-182	剥片集中1	189	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-247	ⅢP-55	24	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-183	剥片集中1	190	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	206と接合	U-248	ⅢP-55	25	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-184	剥片集中1	192	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-249	ⅢP-55	26	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-185	剥片集中1	193	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-250	ⅢP-55	27	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-186	剥片集中1	194	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	168と接合	U-251	ⅢP-55	28	坑底	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-187	剥片集中1	195	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-252	ⅢP-55	29	坑底	フレイク	弱被熱	
U-188	剥片集中1	196	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-253	ⅢP-55	30	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-189	剥片集中1	197	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-254	ⅢP-55	31	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-190	剥片集中1	198	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-255	ⅢP-55	32	坑底	フレイク	赤石山Ⅲ	34と接合
U-191	剥片集中1	199	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ	204・231と接合	U-256	ⅢP-55	33	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	40と接合状態
U-192	剥片集中1	200	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-257	ⅢP-55	35	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-193	剥片集中1	201	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-258	ⅢP-55	36	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	39と接合
U-194	剥片集中1	202	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-259	ⅢP-55	37	坑底	フレイク	赤石山Ⅱ	
U-195	剥片集中1	203	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-260	ⅢP-55	38	坑底	フレイク	弱被熱	
U-196	剥片集中1	207	Ⅲ	フレイク	弱被熱		U-261	ⅢP-111	8	覆土1	フレイク	赤石山Ⅲ	8が9点接合
U-197	剥片集中1	208	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-262	ⅢP-168	15	覆土1	フレイク	赤石山Ⅲ	5など25点が接合
U-198	剥片集中1	209	Ⅲ	フレイク	弱被熱		U-263	P85	24	Ⅲ	スクレイパー	強被熱	106と接合
U-199	剥片集中1	210	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-264	ⅢP-142	20	覆土2	棒状原石	赤井川	
U-200	剥片集中1	210下 a	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-265	ⅢP-396	6	覆土1	棒状原石	赤石山Ⅲ	
U-201	剥片集中1	210下 b	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-266	P81	34	攪乱	棒状原石	赤井川	
U-202	剥片集中1	214	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ	195下・211・228と接合	U-267	R79	187	Ⅲ	棒状原石	赤井川・弱被熱	
U-203	剥片集中1	215	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-268	R80	23	Ⅲ	棒状原石	赤井川・弱被熱	
U-204	剥片集中1	216	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-269	ⅢP-313	24	覆土1	原石	生田原	
U-205	剥片集中1	217	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-270	ⅢH-4	145	床直上	石鏃	弱被熱	
U-206	剥片集中1	218	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-271	ⅢP-97	9	覆土1	石鏃	赤井川・弱被熱	
U-207	剥片集中1	219	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-272	ⅢP-130	3	覆土2	石鏃	赤井川	
U-208	剥片集中1	220	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-273	ⅢP-488	12	覆土1	石鏃	赤石山Ⅱ	
U-209	剥片集中1	221	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-274	M84	31	Ⅲ	石鏃	赤井川・弱被熱	
U-210	剥片集中1	223	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-275	N87	28	Ⅲ	石鏃	強被熱	
U-211	剥片集中1	224	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-276	O86	63	Ⅲ	石鏃	所山	
U-212	剥片集中1	225	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-277	O87	138	Ⅲ	石鏃	強被熱	
U-213	剥片集中1	226	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-278	P77	46	Ⅲ	石鏃	赤石山Ⅱ	
U-214	剥片集中1	227	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-279	Q80	21	Ⅲ	石鏃	強被熱	
U-215	剥片集中1	229	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-280	R78	284	Ⅲ	石鏃	赤石山Ⅱ	
U-216	剥片集中1	230	Ⅲ	Rフレイク	赤石山Ⅲ		U-281	ⅢH-4	80	覆土	スクレイパー	赤石山Ⅲ	
U-217	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	3点接合状態	U-282	ⅢH-4	140	床直上	スクレイパー	赤石山Ⅱ	
U-218	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-283	ⅢP-464	19	覆土1	スクレイパー	赤石山Ⅲ	
U-219	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-284	ⅢP-473	6	覆土1	スクレイパー	赤石山Ⅲ	
U-220	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-285	L79	14	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-221	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-286	P86	47	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-222	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-287	P86	85	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-223	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	2点接合状態	U-288	R80	98	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ	
U-224	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-289	R80	197	Ⅲ	フレイク	豊浦	
U-225	剥片集中2	1	Ⅲ	フレイク	赤石山Ⅲ		U-290	R81	36	Ⅲ	フレイク	豊浦	



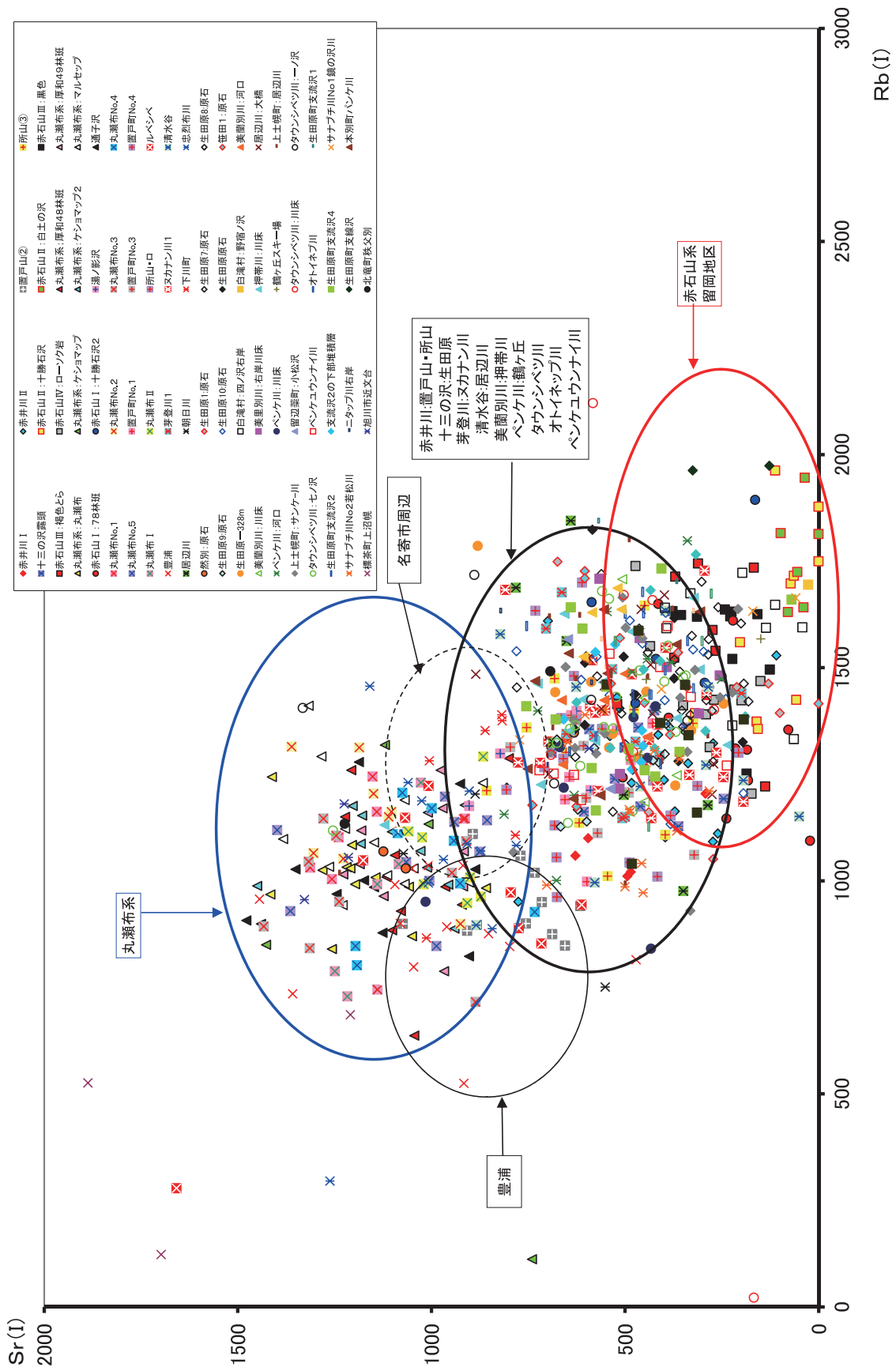
第1図 北海道の黒曜石SiO₂-Al₂O₃図 (標準図)



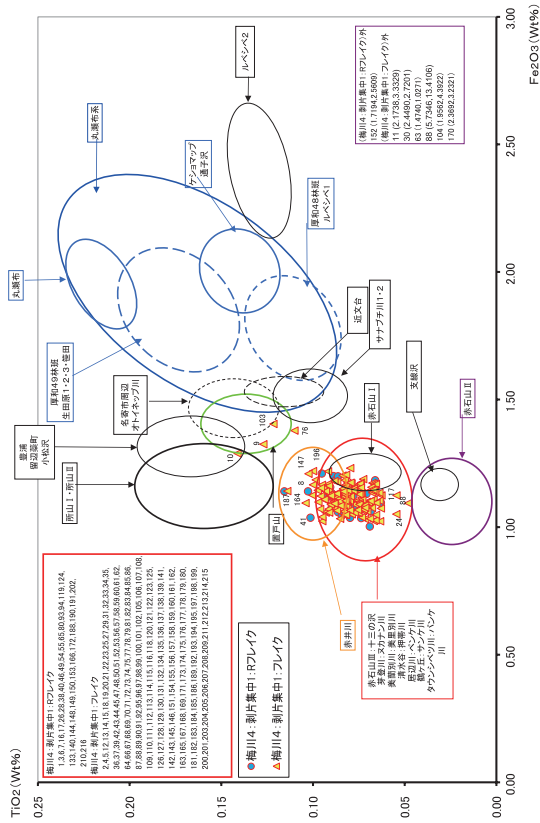
第 2 図 北海道の黒曜石 Fe_2O_3 - TiO_2 図 (標準図)



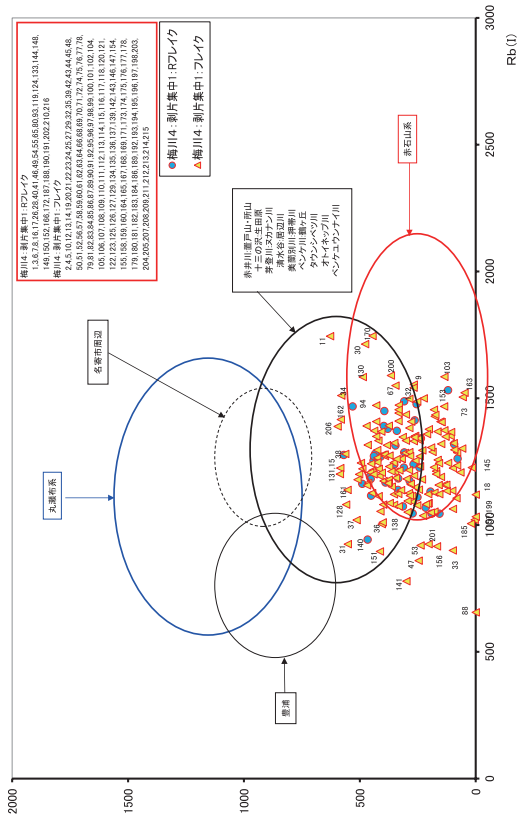
第3図 北海道の黒曜石K₂O-CaO図 (標準図)



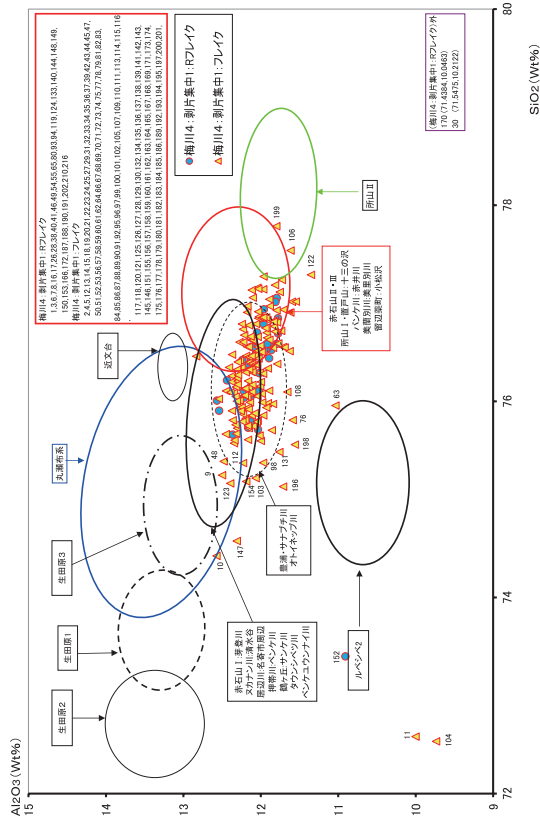
第 4 図 北海道の黒曜石 Rb-Sr 図 (標準図)



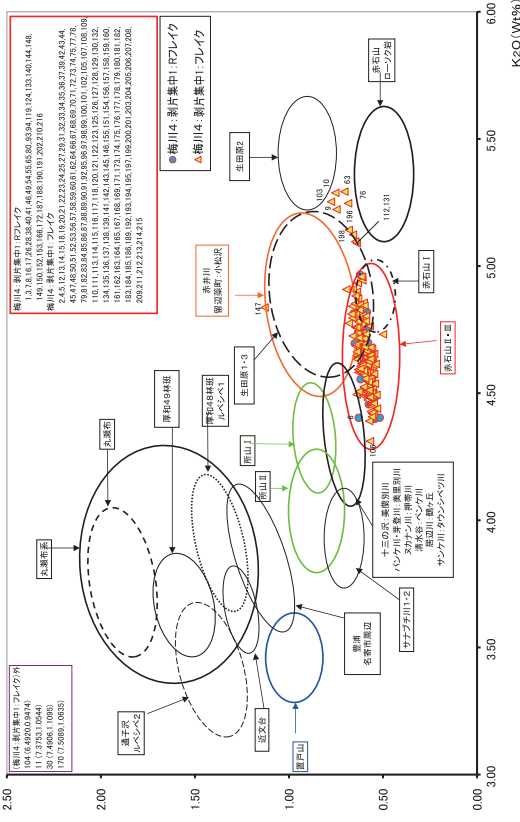
第6図 梅川4 Fe₂O₃-TiO₂図 (剥片集中1)



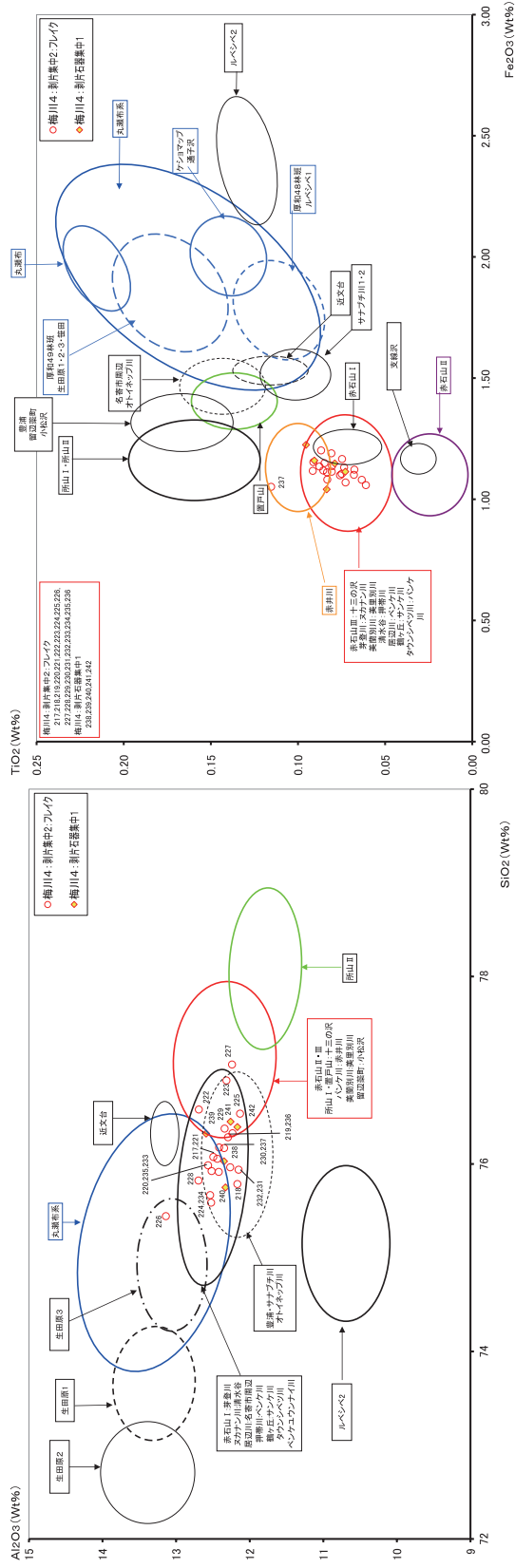
第7図 梅川4 Rb-Sr図 (剥片集中1)



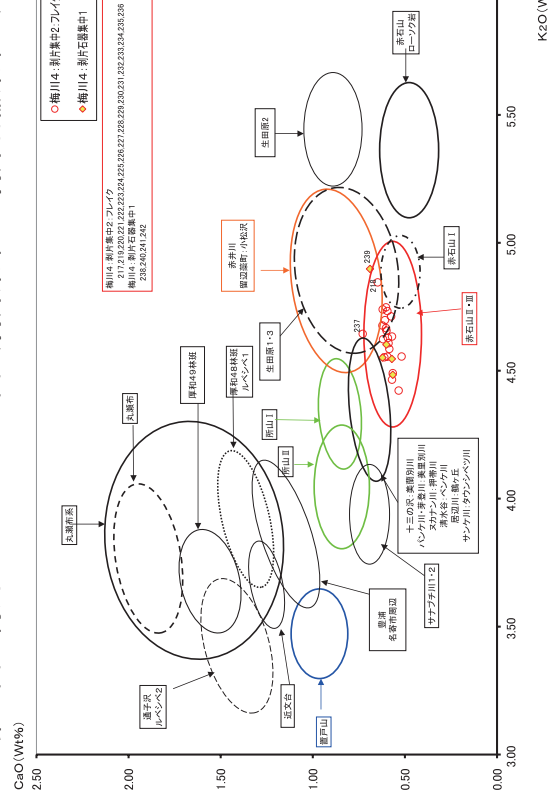
第8図 梅川4 SiO₂-Al₂O₃図 (剥片集中1)



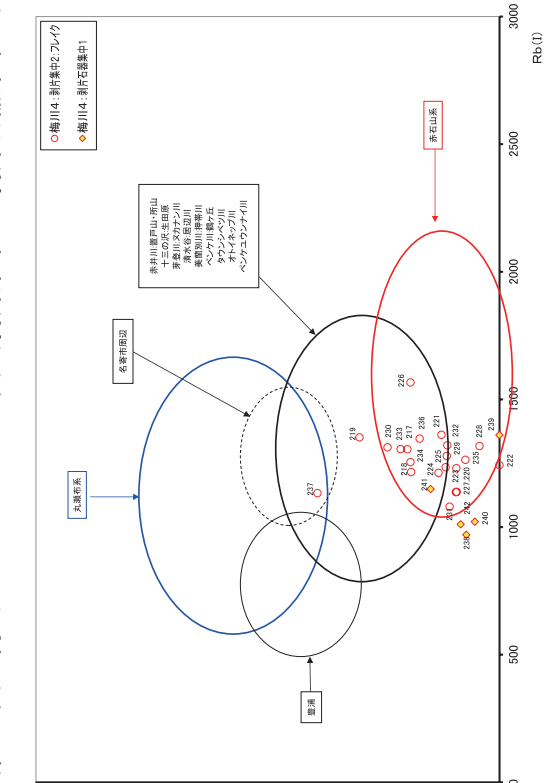
第9図 梅川4 CaO-K₂O図 (剥片集中1)



第9図 梅川4 SiO₂-Al₂O₃図 (剥片集中2・剥片石器集中1)

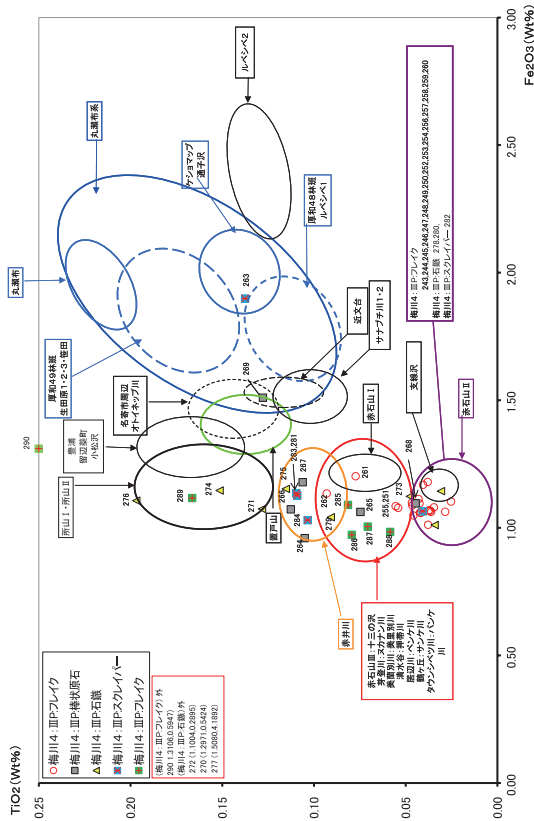


第10図 梅川4 Fe₂O₃-TiO₂図 (剥片集中2・剥片石器集中1)

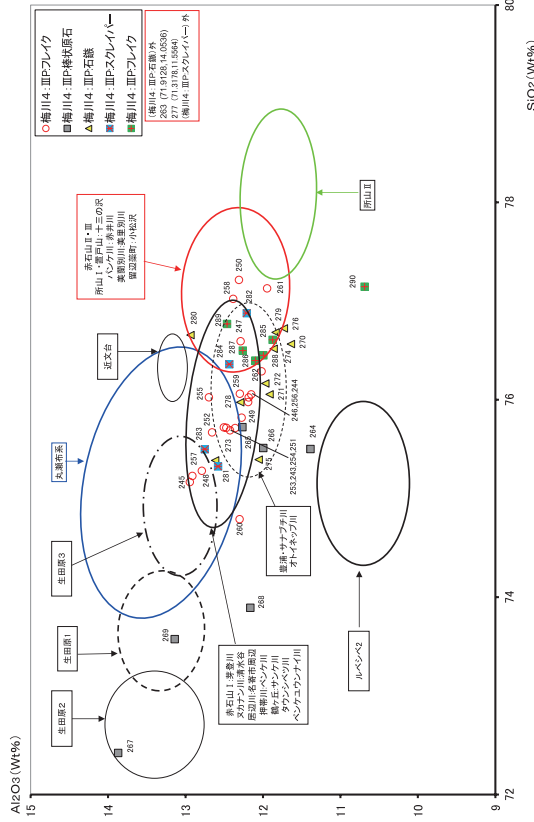


第11図 梅川4 K₂O-CaO図 (剥片集中2・剥片石器集中1)

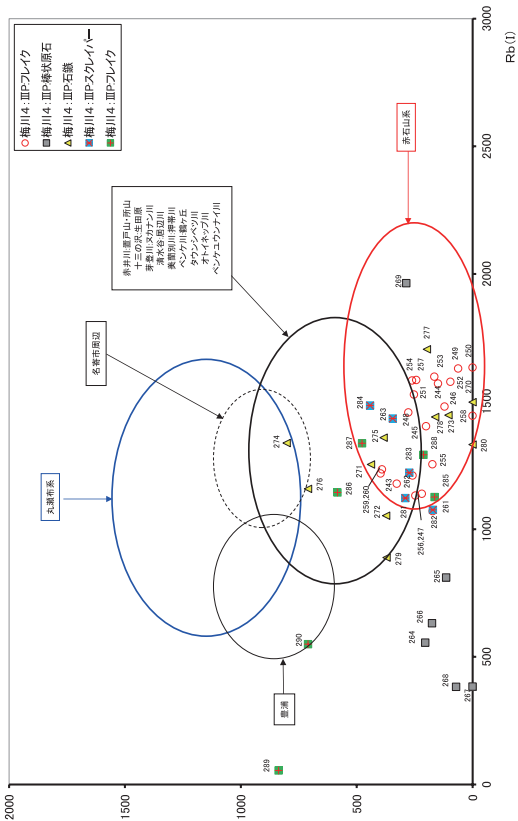
第12図 梅川4 Rb-Sr図 (剥片集中2・剥片石器集中1)



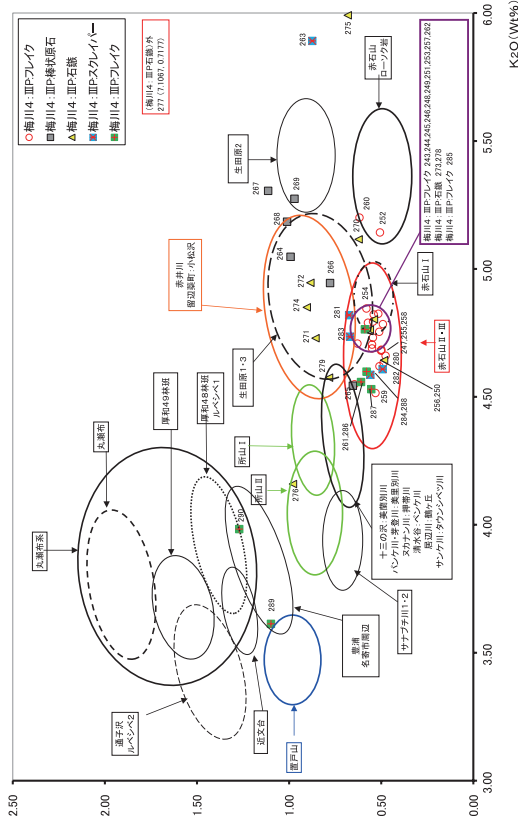
第14図 梅川4 Fe₂O₃-TiO₂図 (III-P・III-H)



第13図 梅川4 SiO₂-Al₂O₃図 (III-P・III-H)



第16図 梅川4 Rb-Sr図 (III-P・III-H)



第15図 梅川4 K₂O-CaO図 (III-P・III-H)

3 石器及び玉類の岩石学的分析

アースサイエンス株式会社

表 1-1 石製品及び玉の肉眼鑑定結果

分類	遺構・調査区名	層名	遺物番号	分類	岩石名	備考	
1	石製品	ⅢP-296	覆土	42	平玉	緑泥石岩	淡緑色。細粒。自形スピネル認められず。
2	石製品	ⅢH-4	覆土	34	垂飾	蛇紋岩	帯褐帯緑灰色。バスタイト（輝石の仮像）や自形および他形のスピネルを含む。原岩は斜方輝石かんらん岩。
3	石製品	ⅢP-170	覆土	10	石剣	砂質ホルンフェルス	砂岩がホルンフェルス化を受けたもので、多量の黒雲母を生じる。点紋状の斑点があり、重晶石が生じていると考えられる。
4	石製品	O86	Ⅲ	137	垂飾	蛇紋岩	帯褐暗緑色。不均質で輝石かんらん岩質であると考えられる。スピネルは認められず。
5	石製品	O86	Ⅲ	178	平玉	緑泥石岩	暗緑色。自形スピネル含む。蛇紋岩質。
6	石製品	O87	Ⅲ	207	有孔石製品	溶結凝灰岩	灰色で粗粒の流紋岩質溶結凝灰岩。火山岩片、石英を含む。黒色のガラスをレンズ状に含む。
7	石製品	P77	Ⅲ	90	垂飾	ジャスパー	帯緑灰色。細粒。ち密。めのうのような熱水からの沈着物でなく、原岩を石英が置換。凝灰質(?)珪化岩の珪化が著しいもの。
8	石製品	P79	Ⅲ	74	垂飾	ジャスパー	緑色。細粒。ち密。緑色に珪化した細粒の凝灰岩。
9	石製品	Q78	Ⅲ	149	垂飾	緑泥石岩	緑灰色。細粒。ち密。スピネルを含む。蛇紋岩質。
10	石製品	Q78	Ⅲ	234	垂飾	蛇紋岩	暗緑色で、褐色の風化鉱物が生成。自形スピネル含む。蛇紋石脈多数。
11	石製品	Q78	Ⅲ	312	垂飾	緑泥石岩	淡褐色。自形スピネル含む。蛇紋岩質。
12	石製品	Q89	Ⅲ	11	垂飾	蛇紋岩	帯褐帯緑灰白色。細粒。ち密。
13	石製品	R72	攪乱	69	垂飾	タルク岩	帯緑灰白色。細粒。ち密。
14	研磨石材	R73	Ⅲ	20	玉の原石	緑泥石岩	帯褐帯緑灰色。灰白色にタルク化した輝石を含む。自形および他形スピネル含む。蛇紋岩質。
15	石製品	R77	Ⅲ	80	垂飾	緑泥石岩	帯褐暗緑色。細粒。ち密。自形スピネル微量。蛇紋岩質。
16	石製品	R78	Ⅲ	135	垂飾	緑泥石岩	帯褐暗緑色。細粒。ち密。自形スピネル含む。蛇紋岩質。
17	石製品	R84	Ⅲ	94	平玉	蛇紋石-タルク岩	暗緑色で白い斑点が混じり不均質。自形スピネル含む。タルクも生成か?蛇紋岩質。
18	石製品	S72	Ⅲ	67	垂飾	タルク岩	帯緑灰白色。変形作用を受けている。スピネルは認められない。
19	石製品	S77	Ⅲ	75	内面渦状石製品	軽石	灰白色で多孔質。流紋岩質。
20	石製品	S81	Ⅲ	152	丸玉	タルク岩	緑灰色。細粒。ち密。

た。中の試料が動かないようにフタをして、金属ホルダーに入れ試料室にセットし測定を行った。定量分析はフィリップス社製のソフトIQ+を用いファンダメンタルパラメータ法（FP法）によって行った。なお、本装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C, N, Oといった軽元素は検出できない。

本試料の測定で用いたFP法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数（ファンダメンタルパラメータ）の関数として記述できるという考え方を基礎とした理

表 2-1 各元素の測定結果

	Analytical element		Crystal	Detector	kV	mA	Angle (°2θ)	Counting time (s)
	Kα	Lα						
1	Mo-Pr		LiF 200	Scint.	60	50	9.5-21	115
2	Zn-Mo	Re-Am	LiF 220	Scint.	60	50	27.5-62	345
3	V-Cu	Pr-W	LiF 220	Duplex	50	60	61-126	650
4	K-V	In-Ce	LiF 200	Flow	24	125	76-146	175
5	P-Cl	Zr-Ru	Ge 111	Flow	24	125	91-146	22
6	Si-Si	Rb-Sr	PE 002	Flow	24	125	100-115	5
7	Al-Al	Br-Br	PE 002	Flow	24	125	130-147.04	5.68
8	Na-Mg	Zn-Se	PX1	Flow	24	125	20-30.05	2.68

(1) 肉眼鑑定

梅川4遺跡A地区出土の石製品および玉類の鑑定結果を表1-1に示す。

(2) 全岩化学分析

(2)-1 分析装置・分析条件

分析にはフィリップス社製蛍光X線(XRF)分析装置MagiXを使用した。各元素の測定条件を表2-1に示す。X線管球はエンドウィンドウ型のRh管球を用いた。測定環境はヘリウム環境中で測定している。測定時間は一試料につき約23分である。

試料及び定量操作：試料は未処理のものをそのまま測定試料とした。試料測定用プラスチック製カップに、一重のポリプロピレンフィルムを装着し、試料を入れた。

論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、試料の形状・重量に関係なく前処理なしで定量できるメリットがある。

Scint；シンチレーション検出器、Duplex；ガスフロー検出器とXeシールド型のタンデム型検出器、Flow；ガスフロー検出器

(2)-2 分析結果

分析結果を表2-2に示す。

表2-2(1) 梅川4遺跡出A地区土の石製品および玉の全岩化学組成

No.	1	2	4	5	6	8	9	10
遺物番号	42	34	137	178	207	74	149	234
SiO ₂	32.95		47.22	37.64		95.40	38.74	54.21
TiO ₂	0.28			0.07		0.08	0.04	0.13
Al ₂ O ₃	23.58		6.15	20.03		2.10	19.04	5.54
Fe ₂ O ₃	16.80		7.94	10.61		1.21	6.98	6.50
MnO	0.59		0.10	0.19			0.13	0.08
MgO	24.85		37.50	29.13		0.19	33.55	30.59
CaO	0.39		0.15	0.26		0.14	0.25	0.43
Na ₂ O								
K ₂ O	0.11	※		0.03	※	0.26	0.02	1.21
P ₂ O ₅			0.23	0.73		0.31	0.44	0.54
SO ₂	0.30		0.26	0.25		0.15	0.12	0.23
Cl				0.07		0.11	0.05	
Cr				0.32			0.20	0.31
Co				0.03				
Ni	0.15		0.45	0.62		0.02	0.43	0.21
Zn				0.02			0.02	0.03
As								
Rb								
Sr								
Y						0.02		
Zr								
Ba								
Pb								
合計	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0
Si	5.587		7.743	6.292		13.585	6.378	8.765
Fe	2.144		0.979	1.335		0.129	0.865	0.791
Fe/(Fe+Mg)	0.25		0.10	0.16		0.76	0.10	0.10
推定岩石	緑泥石岩		蛇紋岩	緑泥石岩		ジャスパー	緑泥石岩	蛇紋岩

表2-2(2) 梅川4遺跡A地区出土の石製品および玉の全岩化学組成

No.	11	12	13	15	16	17	18	19	20
遺物番号	312	11	69	80	135	94	67	75	152
SiO ₂	37.42	48.85	60.09		39.28	59.38	62.05	71.13	60.28
TiO ₂		0.11			0.04			0.43	0.09
Al ₂ O ₃	18.27	5.23	2.74		18.24	4.11	1.71	16.86	5.47
Fe ₂ O ₃	11.13	7.44	7.63		7.60	7.73	6.68	4.72	7.56
MnO	0.17	0.06	0.09		0.24		0.09	0.08	0.08
MgO	31.09	37.32	24.29		33.61	27.43	23.84	0.71	21.88
CaO	0.73	0.24	4.91		0.11	0.13	5.34	2.72	0.28
Na ₂ O								0.55	
K ₂ O	0.05	0.04		※	0.04	0.28		1.54	2.81
P ₂ O ₅	0.44	0.26			0.23	0.41	0.14	0.66	0.66
SO ₂	0.22	0.23	0.13		0.11	0.20	0.04	0.16	0.19
Cl	0.11	0.04							0.09
Cr	0.12	0.08			0.19	0.08			0.25
Co									
Ni	0.23	0.04	0.12		0.29	0.26	0.10		0.32
Zn		0.05			0.02				0.02
As								0.00	
Rb								0.02	
Sr								0.06	
Y								0.01	
Zr								0.02	
Ba								0.35	
Pb		0.00						0.00	
合計	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Si	6.262	7.970	9.599		6.457	2.358	9.867	10.849	9.695
Fe	1.402	0.914	0.917		0.940	0.231	0.799	0.541	0.915
Fe/(Fe+Mg)	0.15	0.09	0.14		0.10	0.12	0.12	0.77	0.15
推定岩石	緑泥石岩	蛇紋岩	タルク岩	緑泥石岩	緑泥石岩	蛇紋石・タルク岩	タルク岩	流紋岩質岩	タルク岩

※： 試料が大きいため分析できず。

(3) 鉱物分析の方法とその結果

構成鉱物の化学分析は、走査型電子顕微鏡とそれに付設のエネルギー分散型X線分析装置(EDS)によった。装置は北海道教育大学札幌校の電子顕微鏡(JEOL JSM-T330A)に付設したOxford社製Link ISIS300である。加速電圧は15kV、補正はZAF補正によった。試料は前処理として、炭素蒸着を行った。これは非導電性試料に炭素を真空蒸着することによって電子線放射による試料面の帯電を防ぐ効果がある。この炭素膜は測定後アセトンやアルコールにて容易に取り除くことができる。電子線は最小領域2~3ミクロンまで絞り込むことができ、試料中鉱物の微小領域の化学分析が可能である。電子線放射によって発生する元素特有の波長を示す固有X線を検出することによって元素の定性・定量分析を行うが、正確な定量分析を行うためには、試料表面を平滑にする必要がある。今回の分析試料は穿孔されたリングの形状をもっているが、測定にあたっては、出来るだけ平滑な部分を選んで非破壊分析を行った。合計重量が100%近くにない場合が多いが、分析結果から推定される予想鉱物の理想化学式との対応は概ね良い。EDSによる鉱物の分析結果を表3-1~17に示す。

表3-1 鉱物の分析値〔ⅢP-296, 42〕

	1	2	3	4	5
SiO ₂	34.60	35.16	33.19	33.79	34.09
TiO ₂	0.12	0.00	2.30	0.33	0.26
Al ₂ O ₃	25.17	21.22	26.16	33.27	25.27
FeO	10.97	12.22	15.25	11.29	13.21
MnO	0.38	0.41	0.73	0.44	0.18
MgO	27.46	29.46	20.63	13.23	26.28
CaO	0.25	0.23	0.63	1.89	0.14
Na ₂ O	0.14	0.19	0.15	0.95	0.00
K ₂ O	0.75	0.69	0.75	4.54	0.42
Cr ₂ O ₃	0.06	0.22	0.10	0.00	0.03
NiO	0.11	0.29	0.11	0.48	0.33
原子比	O= 28	28	28	28	28
Si	5.860	6.015	5.746	5.817	5.81
Ti	0.016	0.000	0.300	0.043	0.03
Al	5.024	4.278	5.339	6.749	5.07
Fe	1.554	1.749	2.208	1.625	1.88
Mn	0.054	0.059	0.108	0.064	0.03
Mg	6.930	7.512	5.324	3.396	6.67
Ca	0.045	0.041	0.116	0.349	0.03
Na	0.045	0.063	0.051	0.318	0.00
K	0.163	0.150	0.166	0.996	0.09
Cr	0.007	0.030	0.013	0.000	0.00
Ni	0.014	0.040	0.015	0.067	0.05
Total	19.712	19.937	19.386	19.423	19.665
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表3-2 鉱物の分析値〔ⅢH-4, 34〕

	1	2	3	4	5	6
SiO ₂	1.63	0.79	1.71	50.96	50.88	50.86
TiO ₂	0.10	0.14	0.09	0.02	0.08	0.08
Al ₂ O ₃	6.70	6.95	4.88	2.32	3.29	2.91
FeO	23.82	23.53	22.18	1.90	2.37	2.18
MnO	0.75	0.64	1.06	0.02	0.15	0.03
MgO	6.79	6.49	5.07	44.13	41.67	43.20
CaO	0.13	0.04	0.00	0.04	0.14	0.04
Na ₂ O	0.13	0.60	0.23	0.49	0.80	0.47
K ₂ O	0.00	0.09	0.09	0.18	0.57	0.40
Cr ₂ O ₃	59.76	60.64	64.60	0.06	0.15	0.00
NiO	0.20	0.08	0.09	0.00	0.00	0.00
原子比	O= 4	4	4	14	14	14
Si	0.056	0.027	0.059	4.097	4.11	4.093
Ti	0.003	0.004	0.002	0.001	0.00	0.005
Al	0.269	0.281	0.198	0.220	0.31	0.276
Fe	0.680	0.675	0.639	0.128	0.16	0.147
Mn	0.022	0.019	0.031	0.002	0.01	0.002
Mg	0.346	0.332	0.260	5.288	5.02	5.182
Ca	0.005	0.002	0.000	0.004	0.01	0.003
Na	0.009	0.040	0.015	0.076	0.12	0.074
K	0.000	0.004	0.004	0.018	0.06	0.041
Cr	1.612	1.644	1.759	0.004	0.01	0.000
Ni	0.005	0.002	0.002	0.000	0.00	0.000
Total	3.005	3.029	2.970	9.837	9.817	9.822
鉱物名	スピネル	スピネル	スピネル	スピネル	蛇紋石	蛇紋石

表3-3 鉱物の分析値〔O86, 137〕

	1	2	3	4	5
SiO ₂	45.46	47.78	48.00	49.02	49.31
TiO ₂	0.59	0.05	0.15	0.04	0.00
Al ₂ O ₃	6.19	5.95	8.85	6.27	5.20
FeO	7.90	3.63	3.04	3.73	3.70
MnO	0.02	0.06	0.07	0.00	0.00
MgO	36.08	40.45	38.50	38.19	39.82
CaO	0.00	0.02	0.16	0.15	0.04
Na ₂ O	0.73	0.54	0.51	0.51	0.14
K ₂ O	0.32	0.17	0.52	0.29	0.05
Cr ₂ O ₃	2.68	1.04	0.42	1.27	1.76
NiO	0.04	0.33	0.00	0.56	0.29
原子比	O= 14	14	14	14	14
Si	3.805	3.896	3.876	3.990	4.00
Ti	0.037	0.003	0.009	0.002	0.00
Al	0.610	0.572	0.843	0.601	0.50
Fe	0.553	0.247	0.205	0.254	0.25
Mn	0.001	0.004	0.005	0.000	0.00
Mg	4.501	4.917	4.634	4.633	4.81
Ca	0.000	0.002	0.014	0.013	0.00
Na	0.118	0.085	0.080	0.080	0.02
K	0.034	0.018	0.054	0.030	0.00
Cr	0.178	0.067	0.027	0.082	0.11
Ni	0.003	0.021	0.000	0.037	0.02
Total	9.841	9.832	9.747	9.722	9.713
鉱物名	蛇紋石	蛇紋石	蛇紋石	蛇紋石	蛇紋石

表3-4 鉱物の分析値〔O86, 178〕

	1	2	3	4	5	6
SiO ₂	1.54	0.70	3.13	36.10	34.06	38.38
TiO ₂	0.06	0.12	1.33	0.52	0.41	0.00
Al ₂ O ₃	11.80	9.50	15.29	19.18	26.49	17.71
FeO	25.53	24.54	24.09	12.49	10.90	8.09
MnO	1.58	0.45	0.59	0.06	0.69	0.17
MgO	4.30	5.92	7.57	27.98	21.12	33.22
CaO	0.06	0.04	0.20	0.27	0.95	0.06
Na ₂ O	0.76	0.13	0.84	0.37	1.07	0.81
K ₂ O	0.23	0.24	0.83	1.77	3.34	0.74
Cr ₂ O ₃	53.76	58.16	46.33	0.40	0.25	0.45
NiO	0.39	0.20	0.00	0.86	0.73	0.49
原子比	O= 4	4	4	28	28	28
Si	0.052	0.024	0.101	6.238	5.89	6.445
Ti	0.001	0.003	0.032	0.068	0.05	0.000
Al	0.471	0.381	0.583	3.906	5.40	3.504
Fe	0.723	0.698	0.651	1.806	1.58	1.137
Mn	0.045	0.013	0.016	0.009	0.10	0.025
Mg	0.217	0.300	0.365	7.206	5.45	8.315
Ca	0.002	0.002	0.007	0.050	0.18	0.010
Na	0.050	0.008	0.053	0.123	0.36	0.263
K	0.010	0.011	0.034	0.390	0.74	0.159
Cr	1.439	1.565	1.184	0.055	0.03	0.060
Ni	0.011	0.005	0.000	0.119	0.10	0.066
Total	3.021	3.010	3.027	19.970	19.883	19.984
鉱物名	スピネル	スピネル	スピネル	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表3-16 鉱物の分析値 [S77, 75]

	1	2	3	4	5
SiO ₂	70.96	66.70	60.54	62.72	65.54
TiO ₂	0.21	0.67	0.57	0.54	0.48
Al ₂ O ₃	21.53	23.05	29.17	25.53	25.53
FeO	2.62	4.65	5.59	5.72	5.00
MnO	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
MgO	0.32	0.00	0.82	0.24	1.11
CaO	2.61	3.83	1.52	3.50	1.17
Na ₂ O	0.39	0.00	0.67	0.03	0.00
K ₂ O	1.47	2.09	1.24	2.13	1.22
Cr ₂ O ₃	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
NiO	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05
原子比	O= 1	1	1	1	1
Si	0.379	0.362	0.332	0.345	0.35
Ti	0.001	0.003	0.002	0.002	0.00
Al	0.136	0.147	0.188	0.166	0.16
Fe	0.012	0.021	0.026	0.026	0.02
Mn	0.000	0.000	0.000	0.000	0.00
Mg	0.003	0.000	0.007	0.002	0.01
Ca	0.015	0.022	0.009	0.021	0.01
Na	0.004	0.000	0.007	0.000	0.00
K	0.010	0.014	0.009	0.015	0.01
Cr	0.000	0.000	0.000	0.000	0.00
Ni	0.000	0.000	0.000	0.000	0.00
Total	0.559	0.569	0.580	0.577	0.566
鉱物名	ガラス	ガラス	ガラス	ガラス	ガラス

表3-17 鉱物の分析値 [S81, 152]

	1	2	3	4	5	6
SiO ₂	1.92	1.88	5.76	59.83	61.92	54.97
TiO ₂	0.12	0.18	1.57	0.14	0.09	0.07
Al ₂ O ₃	9.70	23.57	6.67	5.83	4.15	6.92
FeO	48.81	19.89	54.18	2.70	4.93	9.26
MnO	0.40	0.56	0.85	0.00	0.03	0.00
MgO	6.33	11.33	4.95	24.78	25.27	22.94
CaO	1.79	0.11	1.04	0.09	0.19	0.31
Na ₂ O	0.20	0.00	0.51	0.77	0.36	0.77
K ₂ O	0.51	0.09	1.67	5.51	2.96	4.81
Cr ₂ O ₃	29.83	42.65	22.72	0.13	0.00	0.11
NiO	0.38	0.00	0.09	0.28	0.13	0.00
原子比	O= 4	4	4	22	22	22
Si	0.070	0.058	0.212	7.560	7.75	7.177
Ti	0.003	0.004	0.043	0.013	0.01	0.007
Al	0.416	0.852	0.289	0.868	0.61	1.065
Fe	1.486	0.510	1.666	0.285	0.52	1.011
Mn	0.012	0.015	0.026	0.000	0.00	0.000
Mg	0.343	0.518	0.271	4.667	4.72	4.464
Ca	0.070	0.004	0.041	0.012	0.03	0.043
Na	0.014	0.000	0.037	0.189	0.09	0.196
K	0.024	0.003	0.078	0.888	0.47	0.802
Cr	0.859	1.034	0.661	0.013	0.00	0.012
Ni	0.011	0.000	0.003	0.029	0.01	0.000
Total	3.308	2.997	3.327	14.524	14.210	14.776
鉱物名	スピネル*	スピネル	スピネル*	タルク	タルク	タルク

※：変質したスピネル、おそらくフェリットクロマイト。

(4) 考察

肉眼鑑定、全岩化学分析、鉱物化学分析を総合して石製品および玉の岩石名を判定した。その結果は表1-1に示した。ここで示す岩石名は当初の肉眼鑑定を化学分析の結果を参考にして正しく修正した岩石名である。とくに蛇紋岩とそれから変質してできた緑泥石岩については、肉眼鑑定のみでの判定はやや困難であった。

(4)-1 各岩石種とその由来

1) 蛇紋岩とそれに由来する岩石

分析の結果は垂飾と玉の18資料のうち、緑泥石岩が8資料、やはり蛇紋岩由来のタルク岩が4資料、蛇紋岩が3資料の計15試料である。すなわち蛇紋岩と蛇紋岩に由来する岩石が分析した試料の83%を占める。この蛇紋岩由来岩の中で緑泥石岩とタルク岩が80%を占める。

これらの蛇紋岩由来岩のほとんどはクロムを多量に含むスピネル（クロムスピネル）を含んでいることから、さらにさかのぼればかんらん岩、とくに輝石を含まないダンかんらん岩が主体であったと考えられる。すなわち、分析した資料はかんらん岩→蛇紋岩化→緑泥石岩化またはタルク岩化というプロセスを経て形成されたものである。

北海道には神居古潭帯などに蛇紋岩が広く分布している。しかし、緑泥石岩化が岩体に広く及んでいる場所は今のところ発見されていない。

神居古潭帯では蛇紋岩にともなうロジン岩の反応帯として幅数10cm以下の規模で帯緑暗灰色の緑泥石帯が出現する(Katoh and Niida, 1983)。しかし、これは垂飾や玉に使用される緑泥石岩とは見かけが異なり、かつ極めて局所的にしか分布しないので、これらの原産地とは考えにくい。

このような大規模にAl（緑泥石は蛇紋石と異なりAlを多量に含む）が付加されるような蛇紋岩体は、地質時代に熱水変質作用を受けている古生代などの古い岩体、例えば日本では糸魚川地域を含む飛騨外縁帯（青梅-蓮華帯）やシベリアなどの大陸地域（岡村ほか, 2003）が上げられる。新潟県姫川地域の蛇紋岩体には大規模に緑泥石岩化した部分が報告されており（大村ほか, 1983）、今後これらとの比較検討が必要である。

2) ジャスパー

ジャスパーは20資料のうち2資料であった。帯緑灰色～緑色の細粒ち密な珪化岩で、原岩は凝灰岩と考えられる。テクトニックな変形作用を受けている形跡がないので、新第三紀の火成活動地域で、アルカリ性～中性熱水による珪化作用を受けて変質した凝灰岩であろう。

このような緑色のジャスパーは佐渡などにその産出が知られているが、北海道西南部西側や北見地域などいわゆるグリーンタフ地域の各地に産出する可能性があるため、産地の特定は現状では困難である。

3) 砂質ホルンフェルス

石棒の資料は砂岩が花崗岩などの貫入岩体の接触変成作用を受けて、石英、黒雲母、紅柱石、堇青石などを生じて硬質になったものである。このようなホルンフェルスは北海道内では例えば日高変成帯、松前の白神岬など各地の花崗岩質岩体の周辺に分布する。したがって、今後の調査により産地の特定が期待される。

4) 溶結凝灰岩

溶結凝灰岩1資料（有孔石製品）認められた。溶結凝灰岩は、北海道内では例えば支笏火砕流堆積物や十勝火砕流堆積物などとして多数分布する。今回はガラスの化学組成が分析できたので、今後各地の溶結凝灰岩のガラスの化学組成を分析し、比較することにより、起源を明らかにしていくことができるであろう。

5) 軽石

内面渦状石製品として軽石が1資料見出された。これについてもガラスを測定したので、今後の比較検討が進むであろう。

(4)-2 他の縄文遺跡との比較

道内その他の玉類（小型装飾品）について化学分析値を伴う報告から、その種類と点数を表4-1および図4-1にまとめた。各岩石種の比率は点数の少ないものについては統計的な意味があまりないこと、同じ縄文時代でも時期が中期から晩期にわたることなどに注意する必要がある。それらを前提として以下のような傾向が認められる。

1) 蛇紋岩由来岩

石狩低地帯（キウス5，オリカ2，梅川4遺跡A地区，西島松2，西島松5）および道東（初田牛，常呂川河口）のすべて遺跡の玉類に蛇紋岩およびそれに由来する岩石が卓越する。かつ、いずれも蛇紋岩そのものよりも緑泥石岩（およびタルク岩）に交代された岩石が非常に多い。一方、渡島半島の縄文遺跡の玉類には、今のところ蛇紋岩由来岩の記載が認められない。しかし、三内丸山遺跡には認められる。

2) ロジン岩および軟玉

蛇紋岩に伴って生成するロジン岩が渡島半島の蛇内遺跡に出土する。また、軟玉（トレモラ閃石～アクチノ閃石岩）はロジン岩の一部（あるいは緑色片岩の仲間）である可能性もある岩石であるが、渡島半島の蛇内、大船C遺跡や青森県の三内丸山遺跡に出土する。

3) ひすい

新潟県糸魚川地域に由来する可能性の高いひすいが、旭川の末広7，石狩低地帯の西島松2，西島松5および渡島半島の春日2や大釜谷3の各遺跡に出土する。なお、ひすいについては函館市戸井町の遺跡など、他にも知られているが、ここでは省略する。

4) 緑色凝灰岩

緑色凝灰岩製の玉類は西島松5遺跡の他、渡島半島森町の鷲ノ木4遺跡や三内丸山遺跡で見つまっている。

5) 片岩

緑色片岩や黒色片岩製の玉類は道内の縄文遺跡には認められないが、三内丸山遺跡にかなり多く出土する。

6) 軟玉(トレモラ閃石岩～アクチノ閃石岩)

軟玉製の玉類は道内では渡島半島の大船C遺跡に出土するが、三内丸山遺跡には多数出土する。

7) ジャスパー～珪化岩

ジャスパーや珪化岩(～珪R-84, 94)化凝灰質岩)製の玉類は石狩低地帯の各遺跡(キウス5, 梅川4遺跡A地区, 西島松2, 西島松5)に少量出土する。道東では常呂川河口遺跡に認められる。渡島半島の遺跡にこれらの玉類としての記載は認められないが、三内丸山遺跡には認められている。

8) こはく

こはくは今回参照した報告書からは西島松5遺跡のみである。実際は渡島半島の遺跡等各地から報告されている。

9) 遺跡近傍に産地のある石材

常呂川河口遺跡の珪化岩は比較的近傍の紋別-上土幌地溝帯の新第三紀火山活動地帯に、同遺跡の緑色岩(玄武岩～はんれい岩)は近傍の白亜紀の常呂帯仁頃層群にその由来を求めることができる。また、梅川4遺跡A地区の軽石や溶結凝灰岩は近傍に分布する支笏火山噴出物に由来する可能性が高い。

引用文献

合地信生(1991): 旭川市末広7遺跡出土のヒスイ玉についてのX線スペクトル解析. 北海道旭川市埋蔵文化財発掘調査報告 第13輯「末広7遺跡」, 135-142.

加藤晃一・渡辺暉夫・小笠原正明(2004): 縄文遺跡から出土した石製品の非破壊分析. 蛇内遺跡, 198-202, 木古内町教育委員会.

Katoh, T. and Niida, K. (1983): Rodingites from the Kamuikotan tectonic belt, Hokkaido. Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. IV, 20, 151-169.

川崎 保(2001): 三内丸山遺跡出土の石製装身具の流通・交易経路の解明. 特別史跡三内丸山遺跡年報, 4, 58-63.

並木正男・林 政彦(1998): 有孔垂玉の分析報告書. 大船C遺跡-平成8年度発掘調査報告書, 369-370, 南茅部町教育委員会.

小笠原正明・加藤晃一(2003): 大釜谷3遺跡から出土した石製品の同定. 大釜谷3遺跡, 木古内町教育委員会, 135-136.

三浦裕行・加藤孝幸(2006): ガラスの分析. 茅部郡森町埋蔵文化財調査報告書-鷲ノ木4遺跡, (分冊)自然科学等による諸分析, 1-2, 森町教育委員会.

岡村 聡・加藤孝幸・寺崎康史(2003): 今金町美利河1遺跡から出土した玉類の石質と起源. 「北海道考古学会」, 第39輯, 77-82.

岡村 聡・菅原いよ・加藤孝幸・加藤欣也・立田 理(印刷中): 根室市初田牛および常呂川河口遺跡から出土する玉類の石質と起源. 北海道教育大学紀要.

大村一夫・山地英喜・岩槻 修・吉田巨弘・山戸武史(1983): 新潟県姫川地域の蛇紋岩-岩盤評価の前に. 応用地質, 24, 9-24.

藁科哲男(2004): 春日2遺跡出土ヒスイ製玉の産地分析. 「春日2遺跡」, 79-88. 八雲町教育委員会.

表 4-1 道内その他の縄文遺跡の玉類の種類

地域	由來する地質体等		石 名 等										小計	合計										
	岩 石 名 (玉の出土する 縄文時代の区分)	乾紋岩およびそれに由来する岩石	乾紋岩 緑泥 石岩	タルク 岩	乾紋岩 質赤色 変質岩	乾紋岩	小計	乾紋岩分布域	変成岩	はん れい岩	火成岩 (緑色岩)	ジャス パー 質岩			珪化岩～ 珪化凝灰 質岩	接触 変質岩	炭田地 域など	堆積岩	第四紀火山 噴出物	人造 製品	ガラス			
石 狩 低 地 帯	キウス5 (中期後半)	個数 11	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15		
		%	73.3	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	100.0	
	オルイカ2 (晩期後葉)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	梅川4 A (晩期後葉)	個数 7	4	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	19	
		%	36.8	21.1	0.0	21.1	78.9	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	21.1	100.0	
	西島松2 (晩期後葉)	個数 4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	11
		%	36.4	0.0	0.0	18.2	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.5	100.0
	西島松5 (後期後葉)	個数 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		%	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
道 東	西島松5 (06年度) (後期後葉)	個数 679	37	2	2	720	0	0	0	0	4	9	8	0	1	0	0	0	0	0	25	745		
		%	91.1	5.0	0.3	0.3	96.7	0.0	0.4	0.0	0.5	1.2	1.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	100.0		
		個数	706	44	2	10	762	0	4	0	6	11	8	0	1	0	0	0	0	0	35	797		
		%	88.6	5.5	0.3	1.3	96	0.0	0.5	0.0	0.8	1.4	1.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.4	4.4	100.0		
旭 川	計	個数	29	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31		
		%	93.6	6.5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	初田牛 (後期終末)	個数	92	4	0	5	101	0	0	0	0	7	0	1	0	2	0	0	0	0	12	113		
		%	81.4	3.5	0.0	4.4	89.4	0.0	0.0	0.9	0.0	6.2	0.0	0.9	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	10.6	100.0		
渡 島 半 島	未広7 (後期中葉)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	春日2 (後期初頭)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
本 州	蟹ノ木4 (晩期?)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	蛇 (前期末～後期 玉の時期不明)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
本 州	大釜谷3 (晩期中葉)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	大船C (中期中葉)	個数 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
本 州	三内丸山 (前期後半～ 中期中葉)	個数 0	1	0	3	4	0	0	8	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	19	23	
		%	0.0	4.4	0.0	13.0	17.4	0.0	0.0	34.8	39.1	0.0	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	82.6	100.0	

注：石棒、石斧、煙道天板破片等は鑑定したが、この表には含まれていない。また、参照した文献の鑑定結果に？が付記してあるものは除外してある。

※：トレモラ閃石～アーク閃石閃石岩（ロジン岩）の一種の可能性もある

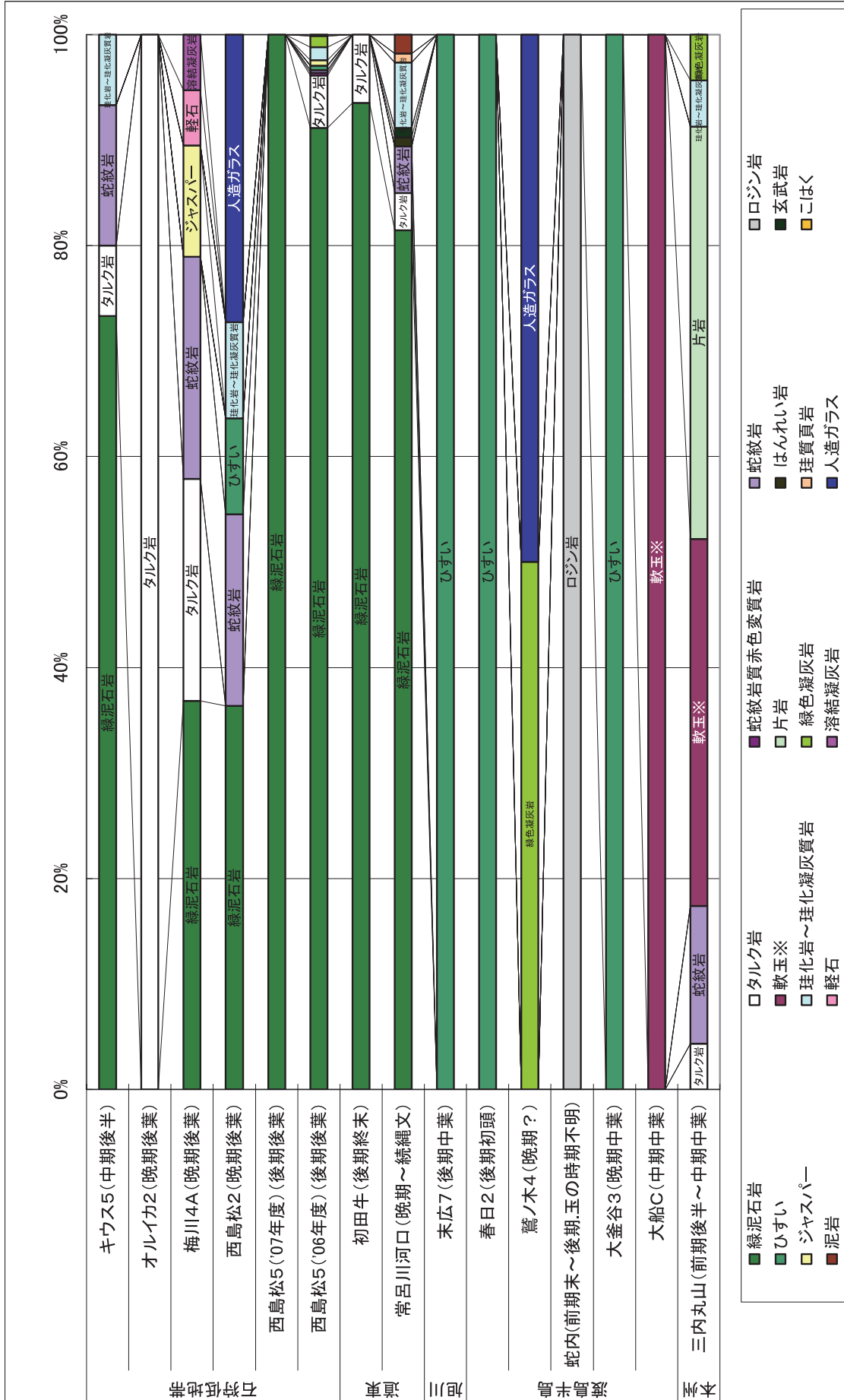


図4-1 道内その他の縄文遺跡の玉類の種類

4 梅川 4 遺跡の灰像分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

(1) 目的

縄文時代晩期後葉とされる土坑より採取された試料より、当時の燃料材に関する情報を得る。

(2) 分析試料

試料は、縄文時代晩期後葉とされる土坑より採取された 5 点(試料番号 43~47)である。試料番号 43 は III P-362 の覆土 1 層、試料番号 44 は III P-367 の覆土 1 層、試料番号 45 は III P-369 の覆土 1 層、試料番号 46 は III P-415 の覆土 1 層、試料番号 47 は III P-490 の覆土 1 層から採取されている。

(3) 分析方法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査する。今回は、分類群の判別に有効である特徴的な形態を有するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を特に注目して観察し、近藤(2010)の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際は珪化組織片の産状に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や攪乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い(例えば、パリオ・サーヴェイ株式会社, 1993)。そのため、珪化組織片の産状により当時の燃料材などの種類が明らかになると考えられる。

(4) 結果

結果を表 6 に示す。いずれの試料からも、珪化組織片が全く検出されない。単体の植物珪酸体もわずかに認められ、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などが見られる。

(5) 考察

5 基の土坑の覆土からは珪化組織片が全く認められず、縄文時代晩期後葉の燃料材(特にイネ科草本類)を特定することは困難である。各土坑で燃焼があったとすれば、珪化組織片が少ない点は燃焼後の灰を外部へ持ち出したことに起因すると思われる。なお、単体で検出されたクマザ

表 1 灰像分析結果

種類	III P-362	III P-367	III P-369	III P-415	III P-490
	43	44	45	46	47
イネ科葉部短細胞珪酸体					
クマザサ属	—	—	—	—	1
タケ亜科	1	1	—	—	2
ヨシ属	—	—	—	2	6
ウシクサ族ススキ属	—	2	—	—	—
イチゴツナギ亜科	2	—	—	1	—
不明	3	1	1	3	8
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
クマザサ属	—	1	—	4	4
タケ亜科	2	2	—	2	3
ヨシ属	3	1	3	4	6
不明	3	4	—	3	11
合計					
イネ科葉部短細胞珪酸体	6	4	1	6	17
イネ科葉身機動細胞珪酸体	8	8	3	13	24
検出個数	14	12	4	19	41

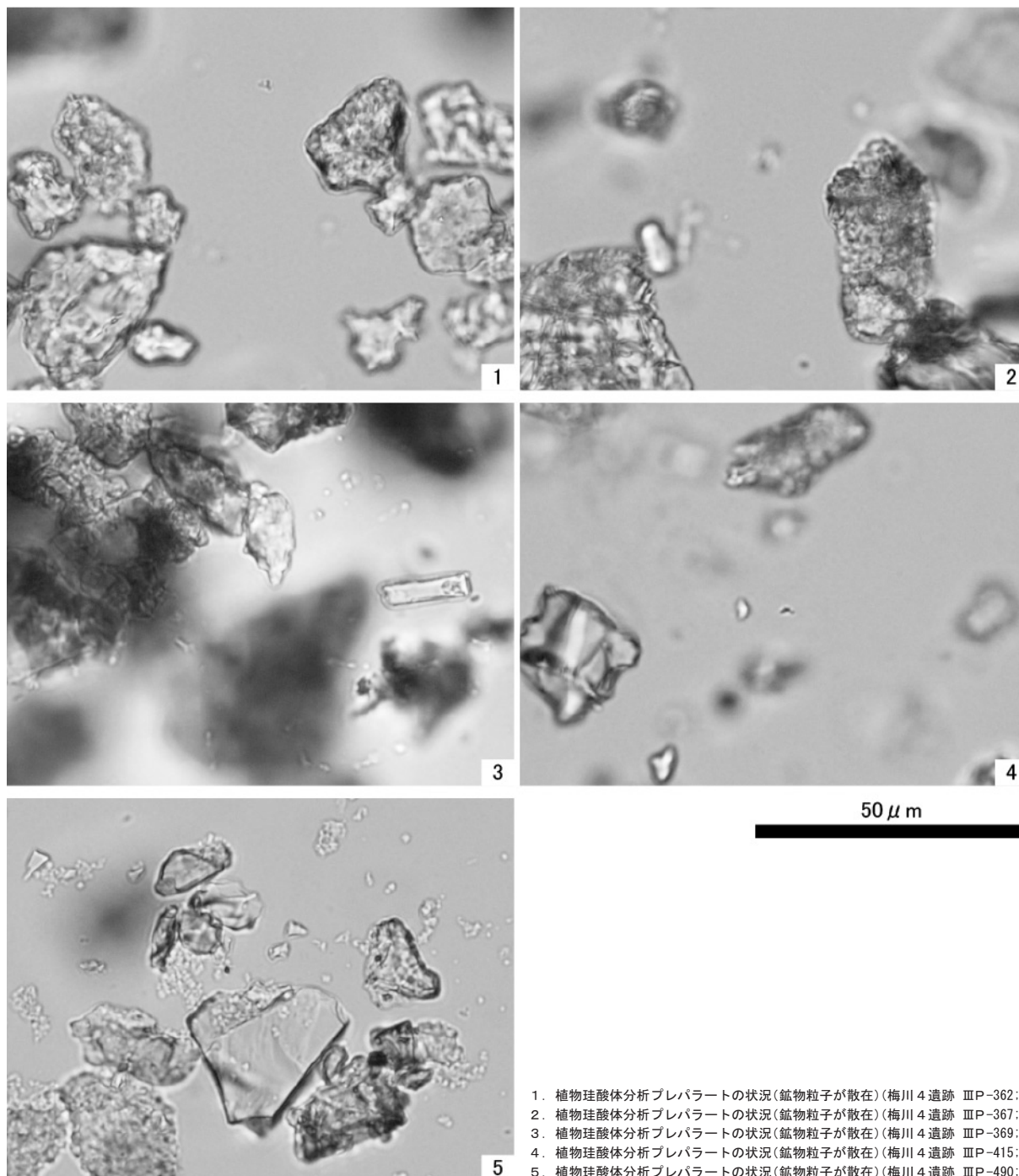
サ属を含むタケ亜科、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などイネ科植物は、古くから燃料材などの生活資材に利用される場合があり、本遺跡で利用された可能性は否定できない。今後さらに、当該期の炉埋積物を調査することが望まれる。

引用文献

近藤 鍊三, 2010, プラント・オパール図譜. 北海道大学出版会, 387p.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 自然科学分析からみた人々の生活(1). 慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論」, 慶應義塾, 347-370.

図版 1 灰像



5 千歳市梅川4遺跡出土の種実同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1) はじめに

本分析調査では、千歳市 梅川4遺跡の発掘調査で出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植生や植物利用に関する資料を得る。

(2) 試料

試料は、各遺構の1次選別済種実遺体145点(試料番号1~145)1,378粒である。試料は、乾燥した状態で容器に入っており、年度別、堅果、栽培種・興味の別に分けられている。北海道埋蔵文化財センター作成による試料一覧に従った試料確認の結果、試料札の内容が異なる試料が2点(番号13:遺構名ⅢF-222、番号65:遺構名ⅢF-96)、一覧表に掲載されていない試料が3点(UP39-H1;Ⅲ層中の自然のくぼみ、処理番号19-49、ⅢF-59;処理番号20-5、ⅢF-13;処理番号20-252)、存在しない試料が13点(番号2, 6, 12, 15, 17, 20, 32, 34, 88, 96, 103, 110, 139)確認された。各試料の詳細は、結果とともに表1に示す。

(3) 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、椿坂(1993)、中山ほか(2000)、小畑(2008)等を参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。

分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて返却する。

(4) 結果

被子植物44分類群1,827個の種実遺体が同定された(表1)。747個は同定ができず、不明としている。不明とした中で、可能性のある種類(クサギ、イネ、ササ属、イネ科、マメ科、ヒシ属、双子葉類、菌核)については、括弧内に記している。種実以外では、芽や炭化材、炭化した鱗茎、不明植物、菌類の菌核、昆虫類、巻貝類、骨片、岩片、土粒などが、計144個確認された。以上の種実、不明、種実以外の合計は、2,718個である。

種実遺体群のうち、栽培種は、スモモの核の破片が193個、イネの胚乳が235個(うち5個穎附着)、キビ?の穎・胚乳が1個と、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が20個、アズキ類14個、ダイズ類1個を含むマメ科の種子が15個の、計464個が確認された。これらは全て炭化している。

栽培種とその可能性を除いた分類群は、木本16分類群(オニグルミ、シラカンバ、エノキ属、サルナシ近似種、マタタビ近似種、ミヤマザクラ、キイチゴ属、キハダ、ウルシ属、カエデ属?、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ブドウ科、ミズキ、タラノキ、ニワトコ属)690個、草本21分類群(スブタ、エノコログサ属、ササ属?、イネ科、アゼスゲ類、ヌカスゲ類、スゲ属(3面型)、ギシギシ属、サナエタデ近似種、ヤナギタデ近似種、アカザ科、クサノオウ、キケマン属(平滑型)、マメ科(ハギ属?、野生種、他野生種)、ヒシ属、アカネ科?、キランソウ属、イガホオズキ属、キク科)673個の、計1,363個が確認された。

これらの種実遺体の多くは炭化しているが、シラカンバ、サルナシ近似種、ミヤマザクラ、ヤマブドウ近似種、ブドウ属(科)、タラノキ、ニワトコ属、エノコログサ属、アゼスゲ類、ヌカスゲ類、スゲ属(3面型)、サナエタデ近似種、アカザ科、クサノオウ、キケマン属(平滑型)、マメ科(ハギ属?)、キク科の、計157個には、炭化は認められず、保存状態が良好である。クサノオウには発芽個体も確認された。

遺跡から出土する種実のうち、低湿地以外から出土した炭化していない種実は、炭化種実と同様に扱うには問題があるとされ(吉崎, 1992など)、遺構の時期の植生や植物利用を反映するものであるかは課題が残る。この点に関しては、試料の履歴を慎重に検討することが望まれる。本分析では、炭化していない種実遺体は結果記載(図版5)にとどめ、解析より除外している。

一方、種実ではないが、炭化した鱗茎が、ⅢF-119(番号76)から10個、ⅢF-130(番号84)から5個の、計15個確認された。炭化した鱗茎には、当時の利用の可能性が示唆されるため、本分析では炭化種実と同様に取り扱っている。

本分析で同定された種実遺体各分類群の写真を図版1～5に示し、形態的特徴等を以下に述べる。

〈木本種実〉

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科クルミ属

核(内果皮)は炭化しており黒色。完形ならば、長さ2.5～4cm、径2.0～3.5cmの広卵形で頂部は尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。内果皮は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い維管束の彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

出土核は、全てが半分未満の破片で、最大片は残存長12.0mm、残存幅9.6mmを測る(ⅢF-15)。縫合線に沿わずに割れた個体(ⅢF-31)も確認されることから、完形の状態で火を受けて炭化したか、人により打撃を加えることによって割られた打撃痕の可能性が考えられる。

・シラカンバ(*Betula platyphylla* Sukatchev var. *japonica* (Miq.) Hara) カバノキ科カバノキ属

果実は黄灰褐色、長さ2.0mm、幅1.0mmの扁平な狭倒卵形。果実の縁には、淡灰褐色、膜質で果実よりも大型の歪な楕円形の翼が2個つき、翼を入れた大きさは長さ2.7mm、幅4.3mmを測る。果実頂部には2花柱が残る。果皮表面は粗面で、頂部付近に毛が残存する。

・エノキ属(*Celtis*) ニレ科

果実・核は炭化しており黒色。長さ5.2～6.6mm、径4.0～5.4mmの球体。頂部には円形の突起がある。果皮はやや厚く(1～2mm程度)、表面は粗面。果実内部に1個入る核は、長さ4～4.5mm、径3.5～4.0mmの歪な球体。頂部は長さ1mm程度嘴状に尖り、鈍稜が縦に一周する。核は骨質で硬く、表面には網状皺紋がある。

本地域に生育するエノキ属には、日当たりのよい山地の溪谷などに生育する落葉高木のエゾエノキ(*Celtis jessoensis* Koidz.)の1種がある。出土果実はエゾエノキに由来すると考えられるが、現生標本との比較検討が不十分であるため、エノキ属にとどめている。

・サルナシ近似種(*Actinidia* cf. *arguta* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.) マタタビ科マタタビ属

種子は赤灰褐色、炭化個体は黒色。長さ2.0～2.5mm、幅1～1.4mmの両凸レンズ状楕円体。基部は斜切形でやや突出する。種皮は硬く、表面には円～楕円形の凹点が密布し網目模様をなす。出土種子は表面が摩耗しており、網目模様が不明瞭である。

・マタタビ近似種(*Actinidia* cf. *polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim.) マタタビ科マタタビ属

種子は炭化しており黒色。長さ1.5～1.7mm、幅0.9～1.2mmの両凸レンズ状楕円体。サルナシよりも小型であることから、マタタビ近似種としている。基部は斜切形でやや突出する。種皮は硬く、表

面には円～楕円形の凹点が密布し網目模様をなす。出土種子は表面が摩耗しており、網目模様が不明瞭である。なお、サルナシとの判別が困難な種子は、両種をハイフォンで結んでいる。

・スモモ(*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核(内果皮)は炭化しており黒色。完形ならば、長さ1.1～1.5cm、幅0.9～1.2cm、厚さ0.6～0.8cmのレンズ状広楕円体で頂部はやや尖り、基部は切形で丸い臍点がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。出土核は全て破片で、最大片の残存長は10.0mm、残存幅は8.9mm、半分厚は3.1mmを測る(ⅢF-14)。内果皮は厚く硬く、表面には浅い凹みが不規則にみられる。内面は平滑で、種子1個が入る楕円状の窪みがみられる。

・ミヤマザクラ(*Prunus maximowiczii* Ruprecht) バラ科サクラ属

核は灰褐色、長さ4.4mm、幅4.2mm、厚さ3.8mm(ⅢF-217)、果実・核は炭化しており黒色、長さ4.2mm、幅3.8mm、厚さ3.4mm(ⅢF-5)のやや偏平で歪な非対称広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で葉脈状網目模様がある。ⅢF-5より出土した核の表面には、厚さ1mm程度の果皮の破片が付着している。

ミヤマザクラは、山地の上部から亜高山帯下部にかけて生育し、蛇紋岩地帯や石灰岩地帯にもみられる落葉高木である。

・キイチゴ属(*Rubus*) バラ科

核(内果皮)は炭化しており黒色、長さ1.7mm、幅1.1mmの偏平な半倒卵体で腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなすが、出土核は表面が摩耗しており網目模様が不明瞭である。

・キハダ(*Phellodendron amurense* Rupr.) ミカン科キハダ属

果実、種子は炭化しており黒色。果実は完形ならば径1cm程度の球体。外果皮は薄く、中果皮は肉質。5室があり、各1個の種子が入る。出土果実は破片で、長さ5.4mm、残存径3.9mm(ⅢF-5)を測り、1室が確認されるが内部の種子を欠損する。種子は、完形ならば長さ4～5mm、幅2.5～3mm、厚さ1～1.5mmのやや偏平な半横広卵体。出土種子は全て破片で、最大片は残存長1.5mm、残存幅2.0mmを測る(UP39-H1)。種皮は薄く、表面には浅く微細な縦長の網目模様が配列する。

・ウルシ属(*Rhus*) ウルシ科

核(内果皮)は炭化しており黒色。完形ならば長さ2～3mm、幅3～4mm、厚さ1～2mmのやや偏平な横楕円体で、背腹両面の中央が凹み、繭状となる。腹面中央に長径0.6～0.8mmの長楕円形の臍がある。出土核の残存径は3.0mm、残存厚は1.9mmを測る(ⅢF-173)。内果皮は厚く(約0.2mm)、表面は粗面で断面は柵状。

・カエデ属(*Acer*)? カエデ科

果実と考えられる種実遺体は炭化しており黒色、長さ3.2mm、幅2.6mm、残存厚1.4mmの直方体状楕円体。基部は切形で2翼果の合着面は平ら。両面の正中線上に鈍稜がある。果皮表面には葉脈状の隆条模様がある。内面には1個の種子が入る窪みがある。

・ヤマブドウ近似種(*Vitis* cf. *coignetiae* Pulliat ex Planch.) ブドウ科ブドウ属

種子は灰褐色、炭化個体は黒色。長さ4.0～5.0mm、幅2.9～4.0mm、厚さ2.5～3.0mmの広倒卵体で側面観は半広倒卵形。基部は鋭尖形で、細く嘴状に尖る核嘴がある。背面正中線の頂部から1mm程度に、長さ1.5～2mm、幅1～1.5mm程度の卵形の合点があり、細く浅い溝に囲まれて合点中央は窪む。

腹面正中線は(鈍)稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、長さ2~2.3mm、幅0.5~0.7mm程度の倒皮針形で深く窪む核窪がある。種皮は硬く、表面は粗面、断面は柵状。なお、合点の状態が不明瞭な種子をブドウ属、背面が欠損した破片をブドウ科(Vitaceae)としている。

・ミズキ(*Swida controversa* (Hemsl.) Sojak) ミズキ科ミズキ属

核(内果皮)は炭化しており黒色、径3.3mmの偏球体。基部に径1~2mm程度の大きく深い孔がある。内果皮は硬く、表面には一周する幅広で深い縦溝1本と、やや深い縦溝数本が走る。内果皮は硬く緻密で、内部には2室を形成する隔壁がある。

・タラノキ(*Aralia elata* (Miq.) Seemann) ウコギ科タラノキ属

核(内果皮)は黄灰褐色、長さ2.2~2.5mm、幅1.5mm程度のやや偏平な半月形。腹面はほぼ直線状で、片端に突起がある。背面には数本の浅い溝が走る。表面は小さな凹凸が多く粗面。

・ニワトコ属(*Sambucus*) スイカズラ科

核(内果皮)は黄~赤灰褐色、炭化個体は黒色。長さ2~2.5mm、径1.3mm程度のやや偏平な広倒卵体。背面は丸みがあり、腹面の正中線上は鈍稜をなす。基部はやや尖り、腹面正中線上に小さな孔がある。内果皮はやや硬く、表面には横皺状模様が発達する。

本地域に生育するニワトコ属には、標高2~500mの開けたところ、特に谷などに生育する落葉低木または高木のエゾニワトコ(*Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) Hara subsp. *kamtschatica* (E. Wolf) Hulten)の1種がある。出土核はエゾニワトコに由来すると考えられるが、現生標本との比較検討が不十分であるため、ニワトコ属にとどめている。

〈草本種実〉

・スブタ(*Blyxa echinosperma* (Clarke) Hook. fil.) トチカガミ科スブタ属

種子は炭化しており黒色、長さ1.8mm、径1.0mmの楕円体。両端から伸びる尾状突起を欠損する。種皮はやや厚く、表面には数本の低い突起群が縦列する。

スブタは本州以南に分布し、現在の本地域には生育していない(佐竹ほか, 1982;角野, 1994)。出土種実には、誤同定の可能性も含まれるため、慎重な検討を要する。

・イネ(*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

本分析で確認された炭化米は、表面模様がほぼ明瞭で、果皮や種皮が残る「玄米」の状態である。また、内穎や外穎(籾)が付着する状態も確認される。炭化米の出土部位の厳密な区別は困難であるため、本分析では、非可食部の内穎・外穎を「穎」、内部の可食部を「胚乳」としている。

穎(果)・胚乳は、炭化しており黒色、長さ3.0~6.1mm、幅1.4~3.2mm、厚さ0.9~2.6mmのやや偏平な長楕円体を呈す。胚乳の基部一端には、胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面は、2~3本の縦隆条が明瞭で、穎が付着した個体も確認された。

胚乳1個を包む穎は、完形ならば、長さは6~7.5mm、幅は3~4mm、厚さは2~3mm程度を測る。基部に径1mm程度の斜切状円柱形の果実序柄(小穂軸)と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎と言う場合もある)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合して稲籾を構成する。果皮は薄く、表面には微細な顆粒状突起が縦列する。

・ヒエ近似種(*Echinochloa* cf. *utilis* Ohwi et Yabuno) イネ科ヒエ属

胚乳と胚乳を包む穎(果)は炭化しており黒色。長さ1.5~2.5mm、幅1.4~2.0mm、厚さ0.8~1.4mmの半広卵~偏球体。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。胚乳基部正中線上は、背面に長さ1.5~1.8mm、幅0.5~1.0mmの馬蹄形、腹面に径0.5mm程度の半円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。表面に付着する穎(果)は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。

・キビ(*Panicum miliaceum* L.)? イネ科キビ属

胚乳と胚乳を包む穎(果)は炭化しており黒色。長さ2.0mm、幅2.0mm、厚さ1.8mm程度のやや偏平な広卵体。丸みがある背面の外穎が、平らな腹面の内穎の両縁を包む。焼き膨れや発泡により、腹面欠損部より確認される内部は中空である。果皮は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が縦列する。

・エノコログサ属(*Setaria*) イネ科

果実は黄灰褐色、長さ2.5mm、径1.5mm程度の半卵体。丸みがある背面の外穎が、平らな腹面の内穎の両縁を包む。果皮表面には横方向に目立つ網目模様が配列する。

・ササ属(*Sasa*)? イネ科

種子は炭化しており黒色。長さ3.0~4.5mm、幅2.0~3.5mm、厚さ1.5~3.0mmの狭卵~楕円体。背面はやや平らで、正中線上には栽培種のコムギ(*Triticum aestivum* L. : コムギ属)の胚乳よりも細く浅い縦溝がある。腹面はやや丸みを帯び、基部正中線上に斜切形で径0.5~1.0mmの浅い円形の胚がある。種皮は薄く平滑で、表面には微細な縦長の網面模様が配列する。

・イネ科(Gramineae)

胚乳と胚乳を包む果実(穎果)は炭化しており黒色、長さ2.0~4.5mm、径0.7~1.3mm程度の半狭卵~長楕円体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果実内に1個入る胚乳の基部正中線上には径0.5~1.0mmの胚の凹みがある。胚乳表面に残る果皮の表面は平滑で、微細な縦長の網目模様が配列する。

・アゼスゲ類(*Carex* Sect. *Carex*) カヤツリグサ科スゲ属

果実は灰黒褐色、長さ2.0mm、幅1.3mm、厚さ0.6mmのレンズ状広倒卵体。頂部の柱頭部分が伸び、基部は切形。果皮表面には微細な六角形状の網目模様がある。

・ヌカスゲ類(*Carex* Sect. *Mitratae*) カヤツリグサ科スゲ属

果実は淡灰褐色、長さ1.5mm、径0.8mmの三稜状狭倒卵体。頂部の柱頭部分が伸びる。基部付近は3面がやや凹み、基部は切形で花被片が伸びる個体が見られる(ⅢF-85)。果皮表面には微細な網目模様がある。

・スゲ属(*Carex*) カヤツリグサ科

果実は淡~灰褐色、炭化個体は黒色。長さ1.7mm、径1.2mmの三稜状倒卵体で、頂部の柱頭部分が伸び、基部は切形。果皮表面には微細な網目模様がある。

・ギシギシ属(*Rumex*) タデ科

果実と花被は炭化しており黒色。果実は長さ2.5~2.8mm、径1.3~1.5mm程度の三稜状広卵体。三稜は鋭く明瞭で、両端は急に尖る。果皮表面はやや平滑。果実周囲に花被が残る個体が見られる。花被は径4~5mm程度の心円形で粗い網目模様をなし、縁には歯牙がある。中肋は瘤状に膨れる。

・サナエタデ近似種(*Polygonum* cf. *lapathifolium* L.) タデ科タデ属

果実は黒褐色、長さ2.0mm、幅1.6mm、厚さ0.8mm程度の偏平な広卵状二面体。頂部はやや尖り、2花柱が残存する個体が見られる(ⅢF-211)。基部は切形。果皮表面は平滑で光沢がある。

・ヤナギタデ近似種(*Polygonum* cf. *hydropiper* L.) タデ科タデ属

果実は炭化しており黒色、長さ2.6mm、径1.7mm程度の広卵体。頂部はやや尖り、基部は切形。背面正中線上には鈍稜がある。表面には明瞭な網目模様があり、やや粗面。

・アカザ科(Chenopodiaceae)

種子は黒色、径1.0~1.3mmのやや偏平な円形。基部は凹み、中心に向かって食い込む。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・クサノオウ(*Chelidonium majus* L. var. *asiaticum* (Hara) Ohwi) ケシ科クサノオウ属

種子は灰白～灰褐色、長さ1.3～1.5mm、径0.8mmの楕円体。腹面方向にやや湾曲し、腹面の一端付近に臍がある。種皮は薄く、表面には浅い凹点による微細な網目模様がある。白色の発芽がみられる個体も確認された(ⅢF-110)。

・キケマン属(*Corydalis*) ケシ科

種子は黒褐色、長さ1.2mm、幅1.3mm、厚さ0.7mmの両凸レンズ状腎円体。基部は切形でやや突出し、長径0.3mmの長方形の臍がある。種皮表面は平滑で光沢があり、微細な縦長の網目模様が臍を取り囲むように同心円状に配列する。

・アズキ類(*Vigna* subgen. *Ceratotropicis* (Piper) Verdc.) マメ科ササゲ属

種子は炭化しており黒色、長さ3.6～6.9mm、幅2.3～4.7mm、厚さ2.3～5.0mmのやや偏平な楕円体。出土種子は、腹面の子葉合わせ目上にある長楕円形の臍を欠損するが、「厚膜タイプ」の臍に由来する臍下の断面V字の溝が底面まで延びる「アズキ型種子」(小畑, 2008)の特徴がみられる(ⅢF-30、ⅢF-90、ⅢF-167など)。幼根はやや突出し、珠孔を欠損する。子葉の合わせ目沿って割れた面はやや平滑で、胚軸跡の溝が確認される。北大基準(吉崎, 1992)の「アズキグループ(幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる)」に該当する初生葉やその痕跡も確認される(ⅢF-30、ⅢF-38)。種皮は薄く、表面はやや平滑～粗面で、断面は柵状。

・ダイズ類(*Glycine max* (L.) Merr. subsp. *max* (L.) Merr.) マメ科ダイズ属

種子は炭化しており黒色、長さ6.2mm、幅5.0mm、厚さ5.1mmの焼き膨れた楕円体を呈す。腹面の子葉合わせ目上に、長さ1.9mm、幅0.5mmの長楕円形の臍がある。臍は種皮と同一表面で、長軸正中線上に走る臍溝は「露出タイプ」(小畑, 2008)である。臍縁と臍溝の両側がやや突出し、それらに囲まれた部分は少し窪んでいる。珠孔と種瘤が臍に接し、幼根はやや突出し、長さ2.7mm、幅1.4mmを測る。種皮は薄く、表面は稍平滑で断面は柵状。焼き膨れにより種皮が短軸方向に裂開し、内部が突出している。

・マメ科(Leguminosae)

上述の栽培種の可能性を含む分類群とは異なり、野生種と考えられる複数種を一括している。種子は炭化しており黒色。大きさは、長さ2.1～2.9mm、幅1.4～2.5mm、厚さ1.4～2.6mmと小型である。やや偏平な楕円体で、臍は長さ2.0mm、幅0.4mmと、がほぼ腹面正中線を占める個体(ⅢF-117)や、腎状楕円体で幼根が突出し、臍は長さ0.7mm、幅0.2mmで種皮よりも窪んだ位置にある個体(ⅢF-211、ⅢF-21など)がみられる。種皮表面はやや平滑。

・ハギ属(*Lespedeza*)? マメ科

種子は淡黄～緑灰褐色に茶～紫褐色の斑紋が分布し、光沢がある。炭化個体は黒色。大きさは、長さ2.1～2.3mm、幅1.6～1.9mm、厚さ1.4～1.6mmのやや偏平な腎状楕円体。腹面中央部は湾入し、長径0.5mmの長楕円形の臍があり、縁が隆起する。種皮表面は平滑。

・スミレ属(*Viola*) スミレ科

種子は淡灰褐色、炭化個体は黒色。長さ1.7mm、径1.4mmの広倒卵体。基部は尖り、やや湾曲する。頂部は円形の臍点がある。表面には縦方向に走る1本の縫合線がある。種皮は薄く、表面には縦長の微細な網目模様が配列する。

・ヒシ属(*Trapa*) ヒシ科

果実は炭化しており黒色、完形ならば長さ1～2cm、幅2～3cm、厚さ1cm程度のやや偏平な倒三角状広卵体。両肩に各1個、長さ1cm程度の鋭い長刺がある。頂部の中央には円柱状の子房突起が突出

し、その中心に短い刺がある。両肩の刺からは基部まで延びる翼状隆条がある。果皮は木質で表面はやや平滑。出土果実は全て破片で、最大0.7cm程度。

・アカネ科 (*Rubiaceae*)?

核と考えられる種実遺体は炭化しており黒色。長さ1.5mm、径2.1mmの横長楕円体。腹面中央に径0.5mmの楕円体の孔がある。表面には微細な網目模様がある。

・キラソウ属 (*Ajuga*) シソ科

果実は炭化しており黒色、長さ1.5~1.7mm、径0.8~1.0mmの楕円体。腹面基部に長さ1.0~1.2mmの大きな楕円形で小突起が密生する着点痕がある。果皮表面には深い凹みによる網目模様が分布する。

・イガホオズキ属 (*Physalistrum*) ナス科

種子は炭化しており黒色、長さ1.0mm、幅1.3mmの扁平で歪な腎臓形。基部のくびれた部分に臍がある。種皮表面にはやや粗い星形状網目模様が臍から同心円状に発達し、網目の大きさは縁に近くなると狭まる。

・キク科 (*Compositae*)

果実は淡緑灰色、長さ1.6mm、径0.5mmの長楕円体で、腹面方向にやや湾曲する。頂部は切形で円形の臍がある。果皮表面は縦隆条が配列し、微細な網目模様がある。

〈鱗茎〉

鱗茎は炭化しており黒色、多数の薄い鱗茎葉が中軸から層状に巻いて重なり、球体を呈す。大きさは、長さ7.6mm、径7.7mm(ⅢF-119)と、径8.5mm(ⅢF-130)を測る。頂部はやや尖り、基部は切形で、径1.5mmの円形を呈す根がついた跡が確認された(図版4-b)。両端の中軸を結ぶ1mm強間隔の細い縦隆条が配列し、上下面観は、中軸から隆条が放射状に伸びる(図版4-a,b)。鱗茎葉の表面には、微細な粒状網目模様が縦列する。炭化したユリ科ユリ属 (*Lilium*) やウバユリ属 (*Cardiocrinum*) などにみられるような、皮針状のはがれやすい肥厚化した肉質の鱗茎葉が瓦状に重なった鱗状鱗茎とは区別され、ネギ属 (*Allium*) の単生する鱗茎(地下茎)である可能性が高い。

佐竹ほか編(1982)によると、本地域に自生するネギ属は、ギョウジャニンニク、ヒメニラ、ミヤマラッキョウ、ノビル、アサツキがあり、ノビルは古い時代に渡来した説もある。鱗茎の形状は、ヤマラッキョウとアサツキは狭卵体で、ギョウジャニンニクとミヤマラッキョウは披針形、ヒメニラは卵形、ノビルは球形と記載されている。出土鱗茎はノビルに由来する可能性があるが、現段階では現生標本との比較検討が不十分である。

(5) 考察

各遺構から出土した種実遺体には、炭化した栽培種のスモモ、イネ、キビ?と、栽培種の可能性があるヒエ近似種、アズキ類やダイズを含むマメ科が確認された。これらは、当時の本遺跡周辺域で利用された植物質食料と示唆され、火を受けたと考えられる。穀類のイネやヒエ近似種、キビ?は、食用前の穎がついた生の状態で火を受けたと推定される。

栽培種とその可能性を除いた炭化種実群は、木本は全て落葉広葉樹で、河川沿いなどの湿潤な場所を好んで生育するオニグルミやエノキ属(おそらくエゾエノキ)、ミズキ、ミヤマザクラ、キハダなどの高木や、高木または低木のウルシ属、カエデ属?、低木のキイチゴ属、タラノキ、ニワトコ属(おそらくエゾニワトコ)、籐本類のサルナシ近似種、マタビ近似種、ヤマブドウ近似種、ブドウ属(科)などの、河畔や林縁、伐採地などの明るい場所に生育する樹種が確認された。これらの樹種は、現在の本地域にも分布しており、当時の本遺跡周辺に生育していたと考えられる。また、エノキ属やミヤ

マザクラ、キハダの果実が残る炭化状況を考慮すると、結実期である夏～秋に火を受けた可能性がある。

草本類は、ササ属(?)、イネ科、スゲ属、ギンギシ属、ヤナギタデ近似種、マメ科(ハギ属?、野生種)、ヒシ属、アカネ科?、キラソウ属、イガホオズキ属の他に、ネギ属と考えられる鱗茎が確認された。ササ属は、広葉樹林の林床や沢地などに広く群生する。その他は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群である。これらは、当時の調査区周辺域の草地環境や、上述の森林の林縁などに生育していたと考えられる。また、やや富栄養化した水域に生育する浮葉植物(根が水底に固着し、水面に浮く葉(浮葉)を展開する植物)のヒシ属や、スゲ属、ヤナギタデ(近似種)などの湿生植物も確認されることから、やや水深がある水湿地環境の存在が示唆される。

これら自生していたと考えられる分類群のうち、ⅢF-219とⅢF-31から多産した堅果類のオニグルミは、核内部の子葉が生食可能である。また、主にⅢF-30やⅢF-100から出土したヒシ属は、果実内部の種子が食用可能である。オニグルミとヒシ属は、全て炭化した破片の状態出土していることから、人が食用のために居住域内に持ち込み、内部の可食部を取り出した後の食料残渣の可能性はある。その他に、サルナシ(近似種)やキイチゴ属、ヤマブドウ近似種を含むブドウ属は、果実が食用可能で、キハダは果実や樹皮が薬用に利用可能である。これらの出土種実到人による直接の利用痕跡は確認されなかったが、当時利用された可能性はあろう。

ところで、ⅢF-119とⅢF-130からは、炭化したネギ属と考えられる鱗茎が確認された。根茎類の遺跡出土事例は稀にみられ(小島・浜口, 1977など)、縄文時代における食用化が想定されてきた。山本(2002)による根茎類の遺跡出土事例の集成より、東京都八王子市宮下遺跡の縄文時代中期前半と、中野区新井小学校裏遺跡の縄文時代後期でノビルが確認されている。ノビルは原野や道ばたにふつうな多年草で、鱗茎はデンプン質に富むため食用され、春の摘み草の一つである。しかし、山梨県ほか数遺跡の出土例の検討より、現状ではノビルの断定は難しく、ユリ科ネギ属としておくのが妥当とされている。

今回、出土した鱗茎は、上述の可食種実とともに当時利用された植物質食料と示唆される。今後の資料蓄積を待ち、分類群の特定と、本遺跡周辺域における植物利用状況の検討が望まれる。

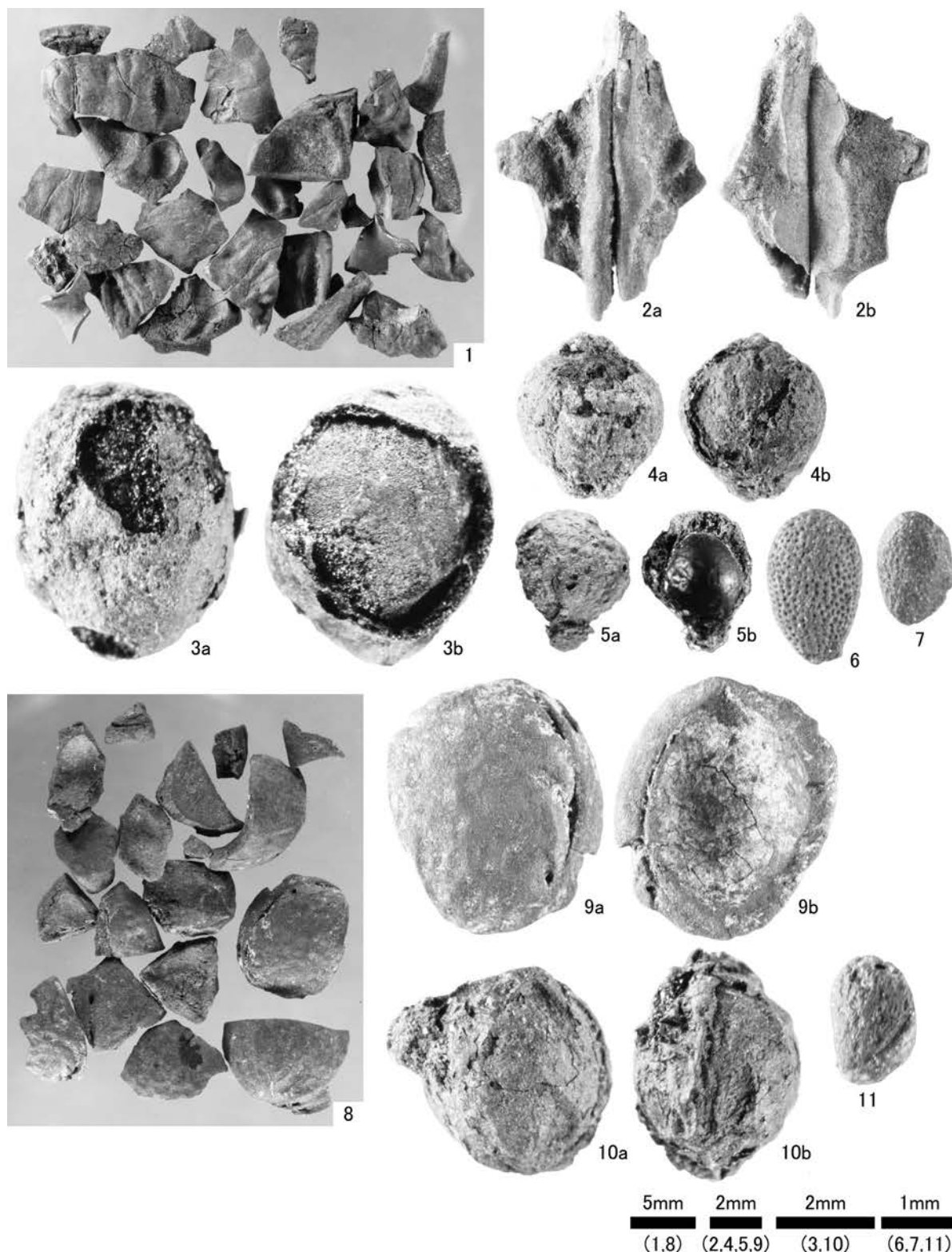
引用文献

- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 角野康郎, 1994, 日本水草図鑑. 文一総合出版, 178p.
- 小島弘義・浜口哲一, 1977, 炭化球根・上ノ入遺跡. 季刊 どんめん 13, 田中 箕編, JICC出版局, 90-95.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 小畑弘巳, 2008, マメ科種子同定法. 「極東先史古代の雑穀3」, 日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書, 小畑弘巳編, 熊本大学埋蔵文化財調査室, 225-252.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・冨成忠夫, 1982, 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 平凡社, 305p.
- 椿坂恭代, 1993, アワ・ヒエ・キビの同定. 吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」, 261-281.
- 山本直人, 2002, 縄文時代の植物採集活動ー野生根茎類食料化の民俗考古学的研究ー. 溪水社, 250p.
- 吉崎昌一, 1992, 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル, No.355, 2-14.

試料情報				同定結果				主な分類群の計測値(mm)					備考	
遺構名	処理番号	重量	粒	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ			
136	ⅢF-209	20-270	-	不明		破片	炭化	50	-	-	-			
136	ⅢF-209	20-270	-	スモモ	核	破片	炭化	21	-	6.7+	-			
136	ⅢF-209	20-270	-	(炭化材)		破片	炭化	1	-	-	-			
137	ⅢF-16	20-233	0.00	1	オニグルミ	核	破片	3	-	-	-			
137	ⅢF-16	20-233	-	-	スモモ	核	破片	7	-	7.0+	7.7+	2.4+		
137	ⅢF-16	20-233	-	-	キランソウ属	果実	完形	3	-	-	-			
137	ⅢF-16	20-233	-	-	不明(双子葉類)		破片	1	-	-	-			
138	ⅢF-206	20-237	0.00	1	不明		破片	1	-	-	-			
138	ⅢF-206	20-238	0.00	1	不明(双子葉類)		破片	4	-	2.4	1.8	0.8+	半分厚, 3個は接合して完形1個体。	
139	ⅢF-207	20-239	0.00	1	不明		完形	1	-	-	-			
139	ⅢF-207	20-240	0.00	1					-	-	-			
140	ⅢF-15	20-241	0.00	1	ササ属?	種子	完形	炭化	1	-	-	-		
140	ⅢF-15	20-241	-	-	不明		破片	炭化	1	-	-	-		
140	ⅢF-15	20-241	-	-	不明種実		完形	炭化	2	-	-	-	双子葉類	
140	ⅢF-15	20-241	-	-	オニグルミ	核	破片	炭化	13	-	12.0+	9.6+	-	
141	ⅢF-17	20-242	0.00	1	不明		破片	炭化	1	-	-	-		
142	ⅢF-208	20-245	0.00	1	ニワトコ属	核	破片	-	1	-	-	-	黄灰褐色	
142	ⅢF-208	20-245	-	-	イネ	胚乳	完形	炭化	1	-	4.8	2.7	2.1	
142	ⅢF-208	20-245	-	-	イネ	胚乳	破片	炭化	1	-	-	-		
142	ⅢF-208	20-245	-	-	イネ科	果実?	完形	炭化	2	-	-	-	細身	
142	ⅢF-208	20-245	-	-	アカサ科	種子	完形	-	1	-	-	-		
142	ⅢF-208	20-245	-	-	不明(双子葉類?)		完形	炭化	2	-	-	-		
142	ⅢF-208	20-245	-	-	不明		完形	炭化	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-246	0.00	1	ヒエ近似種	穎・胚乳	完形	炭化	1	-	2.0	1.8	-	腹面欠損
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	キハダ	種子	破片	炭化	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	ブドウ属	種子	破片	-	1	-	5.0	3.7	2.2+	赤灰褐色, 背面のみ, 合点欠損: 径1.2mm
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	イネ	胚乳	破片	炭化	3	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	イネ?	胚乳?	破片	炭化	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	イネ科	胚乳	完形	炭化	1	-	-	-	細身, 腹面に溝あり	
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	イネ科	胚乳	破片	炭化	1	-	-	-	細身, 腹面に溝あり	
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	スレ属	種子	完形	-	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	(芽)		破片	-	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-246	-	-	不明		完形	炭化	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-247	0.00	1	不明		炭化	2	-	-	-	-	発泡	
143	ⅢH-5HF-1	20-248	0.00	1	不明		完形	炭化	1	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-248	-	-	不明		破片	炭化	2	-	-	-		
143	ⅢH-5HF-1	20-250	0.00	1	(芽)		炭化	2	-	-	-	-		
144	ⅢSP-168	20-258	0.00	1	(菌核)		破片	炭化	2	-	-	-		
145	ⅢH-12HF-1	20-271	0.00	1	ヒエ近似種	穎・胚乳	完形	炭化	1	-	2.1	1.7	1.3	腹面に穎付着, 背面欠損
145	ⅢH-12HF-1	20-271	-	-	ササ属?	種子	完形	炭化	1	-	-	-		
145	ⅢH-12HF-1	20-271	-	-	イネ科?	果実	完形	炭化	1	-	-	-	基部欠損	
145	ⅢH-12HF-1	20-271	-	-	不明(双子葉類)		完形	炭化	3	-	-	-		
145	ⅢH-12HF-1	20-271	-	-	不明(双子葉類)		破片	炭化	4	-	-	-		
	ⅢF-59	20-5			不明(双子葉類)		破片	炭化	2	-	-	-		
	ⅢF-13	20-252			サルナシ・マタビ	種子	破片	-	1	-	-	-	赤褐色	
	ⅢF-13	20-252			キランソウ属	果実	完形	炭化	2	-	-	-		
	UP39-H1	19-49			オニグルミ	核	破片	炭化	10	-	4.0+	-	-	
	UP39-H1	19-49			キハダ	種子	破片	炭化	3	-	-	-		

注)計測値はデジタルノギスによる。

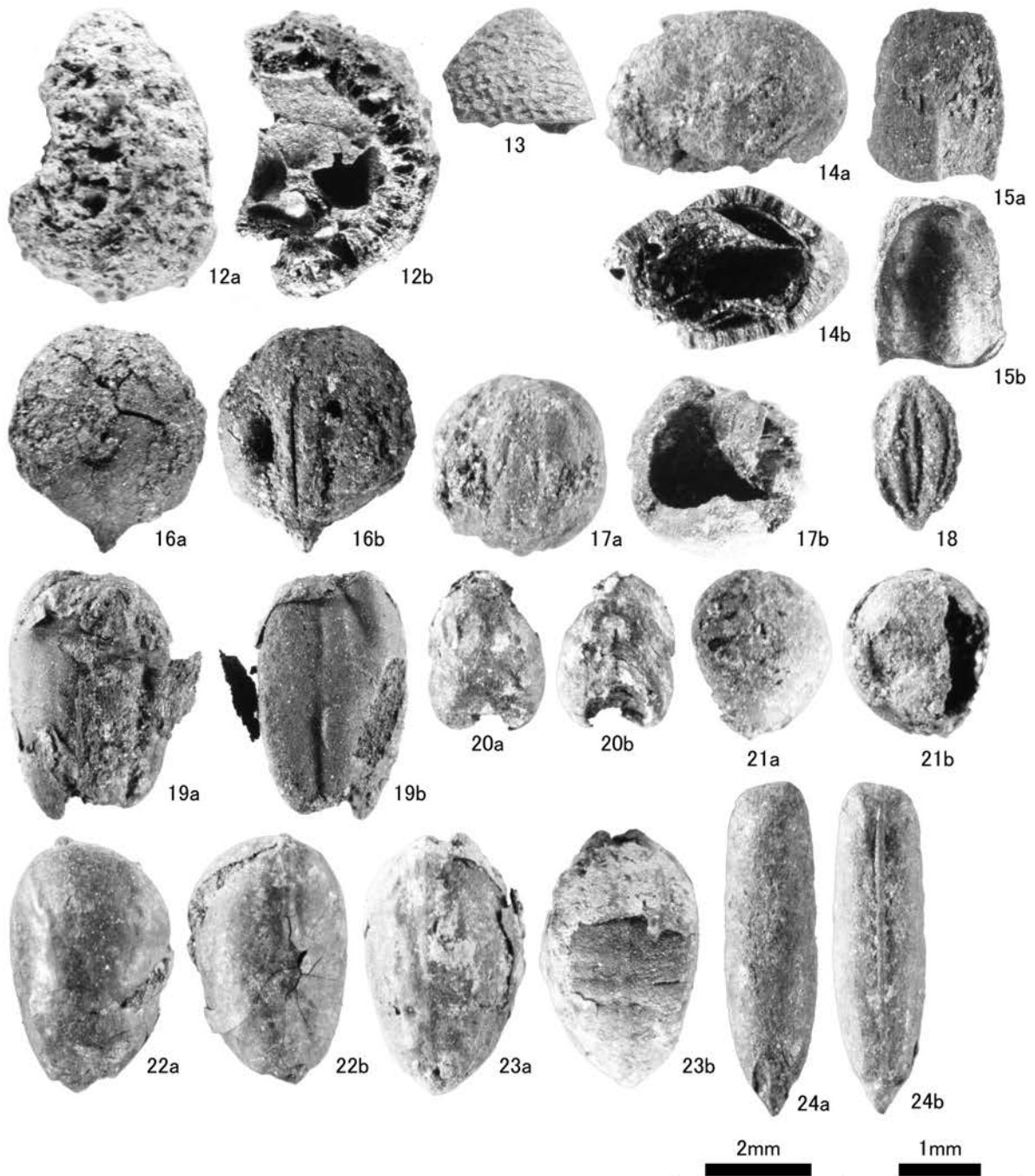
図版1 種実(1)



1. オニグルミ 核(26; ⅢF-31)
3. エノキ属 果実・核(36; ⅢF-49)
5. エノキ属 果実・核(74; ⅢF-116)
7. マタタビ近似種 種子(71; ⅢF-111)
9. スモモ 核(136; ⅢF-209)
11. キイチゴ属 核(25; ⅢF-30)

2. オニグルミ核(縫合線に沿わず割れている)(26; ⅢF-31)
4. エノキ属 果実(74; ⅢF-116)
6. サルナシ近似種 種子(7; ⅢH-1・HF-1)
8. スモモ 核(136; ⅢF-209)
10. ミヤマザクラ 果実・核(2; ⅢH-221)

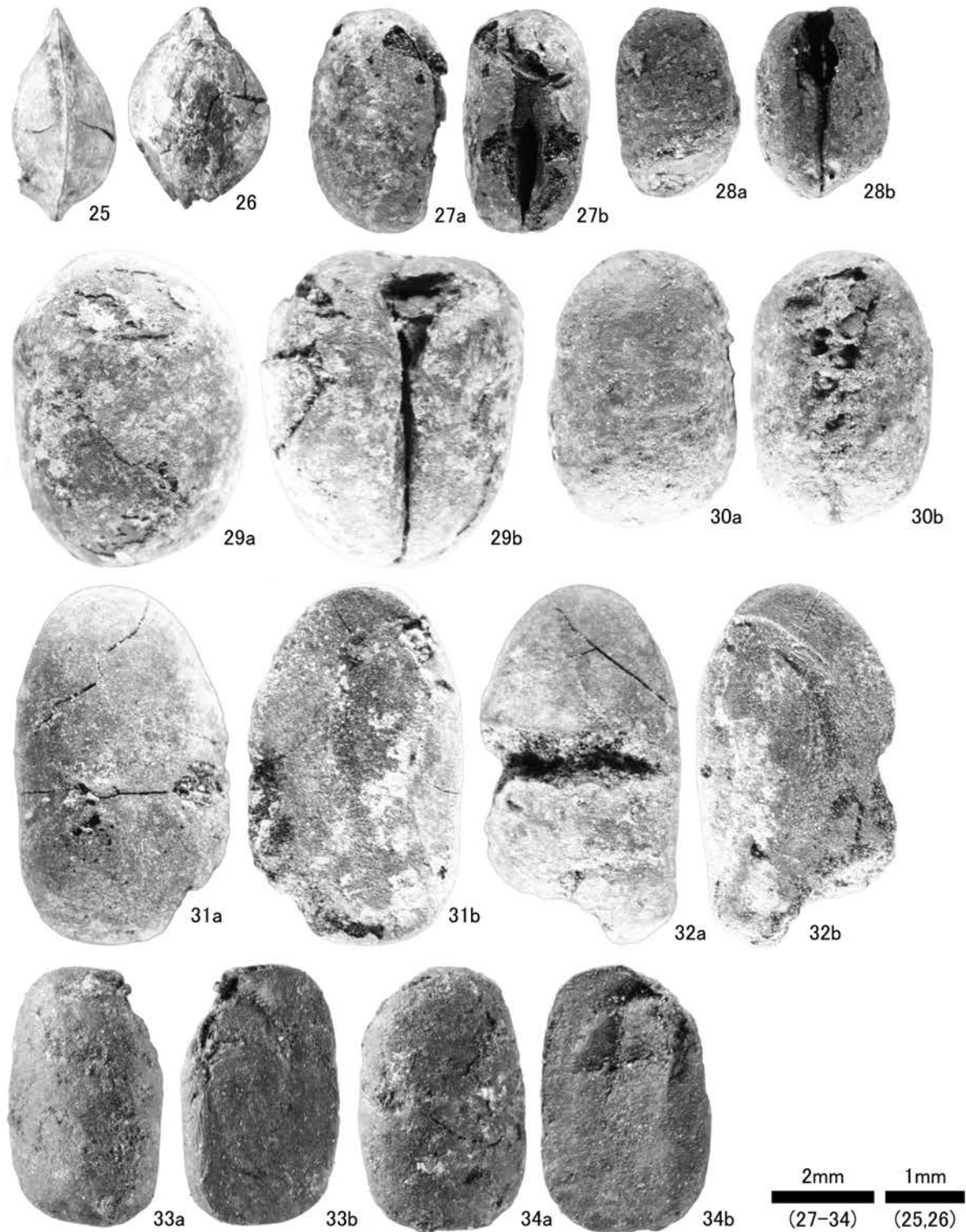
図版2 種実(2)



(12,15-17,19,22,23) (13,14,18,20,21,24)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 12. キハダ 果実(5; III F-215) | 13. キハダ 種子(UP39-H1) |
| 14. ウルシ属 核(116; III F-173) | 15. カエデ属? 果実?(71; III F-111) |
| 16. ブドウ属 種子(68; III H-8・HF-1) | 17. ミズキ 核(44; III H-1・HF-1) |
| 18. スブタ 種子(136; III F-209) | 19. イネ 穎・胚乳(65; III F-96) |
| 20. ヒエ近似種 穎・胚乳(59; III H-12・HF-1) | 21. キビ? 穎・胚乳(12; III H-221) |
| 22. ササ属? 種子?(93; III H-10・HF-1) | 23. ササ属? 種子?(93; III H-10・HF-1) |
| 24. イネ科 胚乳(37; III F-51) | |

図版3 種実(3)



25. ギシギシ属 果実(136;Ⅲ-209)

27. アズキ類 種子(25;ⅢF-30)

29. アズキ類 種子(60;ⅢF-90)

31. アズキ類 種子(39;ⅢF-38)

33. アズキ類 種子(25;ⅢF-30)

26. ヤナギタデ近似種 果実(28;ⅢF-39)

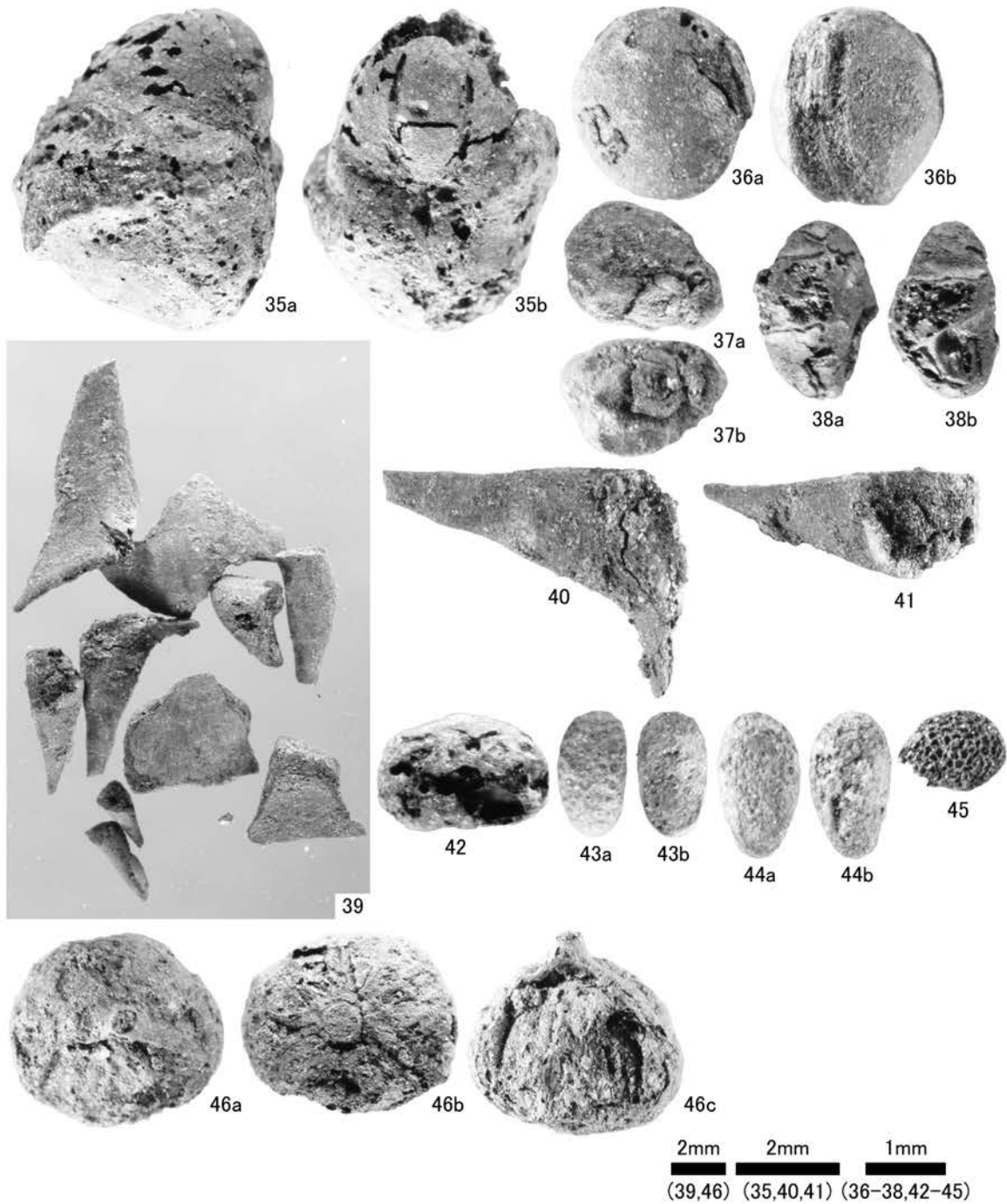
28. アズキ類 種子(25;ⅢF-30)

30. アズキ類 種子(111;ⅢF-167)

32. アズキ類 種子(39;ⅢF-38)

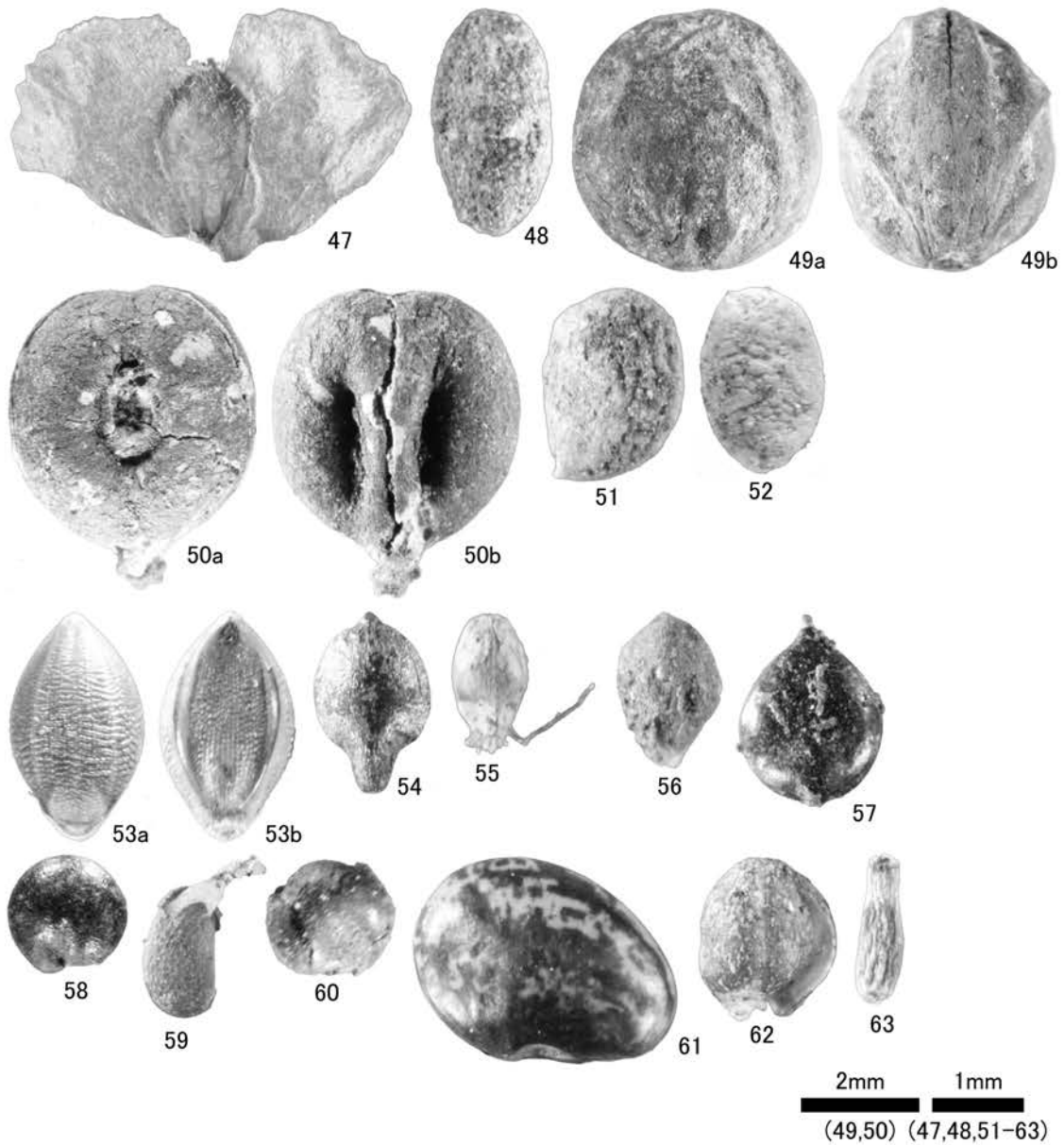
34. アズキ類 種子(25;ⅢF-30)

図版4 種実(4)



- | | |
|-----------------------------|--|
| 35. マメ科(ダイズ類)種子(37; ⅢF-51) | 36. マメ科(野生種)種子(75; ⅢF-117) |
| 37. マメ科(ハギ属?)種子(13; ⅢF-222) | 38. マメ科(他野生種)種子(6; ⅢF-21) |
| 39. ヒシ属 果実(71; ⅢF-111) | 40. ヒシ属 果実(71; ⅢF-111) |
| 41. ヒシ属 果実(71; ⅢF-111) | 42. アカネ科? 核?(8; ⅢF-9) |
| 43. キランソウ属 果実(1; ⅢF-211) | 44. キランソウ属 果実(1; ⅢF-211) |
| 45. イガホオズキ属 種子(136; ⅢF-209) | 46. 鱗茎(a: 上面観, b: 下面観, c: 側面観)(76; ⅢF-119) |

図版5 種実(5)



- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 47. シラカンバ 果実(10; III F-6) | 48. サルナシ近似種 種子(10; III F-6) |
| 49. ミヤマザクラ 核(6; III F-217) | 50. ヤマブドウ近似種 種子(40; III F-55) |
| 51. タラノキ 核(10; III A-3) | 52. ニワトコ属 核(46; III F-70) |
| 53. エノコログサ属 果実(39; III F-38) | 54. アゼスゲ類 果実(81; III F-125) |
| 55. ヌカスゲ類 果実(58; III H-11・HF-1) | 56. スゲ属(3面型) 果実(84; III F-130) |
| 57. サナエタデ近似種 果実(1; III F-211) | 58. アカザ科 種子(131; III F-201) |
| 59. クサノオウ 種子(発芽)(70; III F-110) | 60. キケマン属(平滑型) 種子(58; III F-11・HF-1) |
| 61. マメ科(ハギ属?) 種子(39; III F-38) | 62. スミレ属 種子(143; III H-5・HF-1) |
| 63. キク科 果実(129; III F-197) | |

6 千歳市梅川4遺跡出土の動物遺存体同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

梅川4遺跡B・C地区は、梅川左岸と祝梅川源流部右岸の間の台地上に位置し、近世アイヌ文化期の遺構・遺物が多く確認されている。今回、調査区内で検出された焼土について行われたウォーターフローテーションによって得られた骨類について、その種類と量を明らかにし、動物利用に関する情報を得ることにした。

1. 試料 試料はB・C地区の195地点から得られ、1地点から複数点の試料が採取されている場合もある。試料総数は、C地区が14地点45試料(No.19-1~9, 11~15, 19~49)、B地区が189地点324試料(No.19-55~58, 60~65, 71, 72, 75, 76, 78, 83~86, 89~109, 112~146およびNo.20-1~16, 18~24, 26~44, 46~48, 50~57, 59~70, 72~124, 126~128, 130~165, 167, 168, 170~180, 182~187, 189~227, 230~234, 236, 241, 242, 245~251, 254, 256, 261~270)である。これらの大半は、複数点の破片が含まれる。試料の詳細については結果とともに表示する。

2. 分析方法 試料を肉眼および実体顕微鏡を用いて観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。また、一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。

3. 結果 確認される種類は、腹足綱2種類(コウガイ科?・マイマイ類)、二枚貝綱1種類(タマキガイ科/ザルガイ科?)、硬骨魚綱6種類(コイ?・フナ属・タナゴ亜科・ウグイ亜科?・サケ科・ハゼ科?)、鳥綱?、哺乳綱3種類(ネズミ亜科・ハタネズミ亜科・ニホンジカ(エゾシカ))である(表1)、総数203地点369試料におよぶ。なお、ニホンジカは、ニホンジカの亜種のエゾシカに由来するので、以下エゾシカと表記する。同定結果は出現状況を概念的に示すため、検出される種類の重量組成を図2・3に示す。出土骨は、白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す例が多い。しかし、中には黒色を呈し炭化している骨片、部分的に焼けている骨片、さらには焼けていない骨片も検出される。なお、部分的に焼けている骨片、炭化している骨片については、焼骨として取り扱っている。以下、種類ごとに概略を示す。

・コウガイ科? : コウガイ科の可能性のある破片である。No.19-55で1片、No.20-248で1片が検出される。No.20-248で検出される破片は、焼けている可能性がある。

・マイマイ類 : 破片である。No.19-21で1片、No.19-58で1片、No.19-100で1片、No.20-262で1片が検出される。

・タマキガイ科/ザルガイ科? : No.19-102で2片が検出される。やや幅広な放射肋が認められる。

・二枚貝類 : No.19-102で1片、No.20-80で2片、No.20-212で1片が検出される。この内、No.20-80で検出されるものは、比較的殻が厚く頑丈である。焼けている。

・貝類 : 貝類であるか腹足綱/二枚貝綱の区別がつかない破片が、No.19-56、No.19-102、No.19-141、No.20-176で検出される。なお、No.19-56は焼けている。また、No.19-21、No.19-102、No.19-115、No.19-139、No.20-28で貝類の可能性のある微細な破片もみられる。

・コイ? : コイの可能性のある腹椎である。No.19-31で2片みられる。椎体長は約3mm程度である。

・フナ属 : 腹椎がNo.19-21で3点検出される。椎体長は約2~3mmである。

・タナゴ亜科 : 腹椎がみられる。No.19-21で6点、No.20-35で1点、No.20-80で1点が検出される。椎体長は約2~3mmである。

表1 検出動物分類群の一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
有肺亜綱	Subclass Pulmonata
柄眼目	Order Stylommatophora
コウガイ科?	Family Zonitidae?
	コウガイ科? Zonitidae?
	マイマイ類 Ord. et. fam. indet.
二枚貝綱	Class Bivalvia
	タマキガイ科/ザルガイ科? Glycymeridae / Cardiidae?
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
硬骨魚綱	Class Osteichthys
条鰭亜綱	Subclass Actinopterygii
コイ目	Order Cypriniformes
コイ科	Family Cyprinidae
コイ亜科	Subfamily Cyprininae
	コイ? Cyprinus carpio
	フナ属 Carassius
	タナゴ亜科 Subfamily Acheilognathinae
	タナゴ亜科 Acheilognathinae
	ウグイ亜科 Subfamily Leuciscinae
	ウグイ亜科? Leuciscinae?
サケ目	Order Salmoniformes
サケ科	Family Salmonidae
	サケ科 Salmonidae
スズキ目?	Order Perciformes?
ハゼ目?	Suborder Gobioidi?
ハゼ科?	Family Gobiidae?
	ハゼ科? Gobiidae?
鳥綱?	Class Aves?
	鳥綱? Class Aves?
哺乳綱	Class Mammalia
ネズミ目(齧歯目)	Order Rodentia
ネズミ科	Family Muridae
ネズミ亜科	Subfamily Murinae
ハタネズミ亜科	Subfamily Arvicolinae
ハタネズミ亜科	Arvicolinae
ウシ目(偶蹄目)	Order Artiodactyla
シカ科	Family Cervidae
エゾシカ	Cervus nippon yezoensis

- ・ウグイ亜科? : ウグイ亜科の可能性のある腹椎がNo.19-21で1点検出される。椎体長約2.5mmである。
 - ・コイ科 : 上記のコイ?、フナ属、タナゴ亜科、ウグイ亜科?の区別ができなかったものである。左主鰓蓋骨がNo.19-100で1点、咽頭歯がNo.19-21で3点・No.19-23で1点、第1/2椎骨がNo.19-21で1点、腹椎がNo.19-102で1点・No.20-80で1点、尾椎がNo.19-21で2点・No.19-102で1点・No.19-117で1点・No.20-80で1点・No.20-82で1点・No.20-85で1点・No.20-89で1点・No.20-201で1点・No.20-203で3点が検出される。これらの中には、焼けているものも含まれる。なお、椎体長は、約3mmのものが多いが、No.19-102で検出されるものは椎体長4.30mmと若干大きめである。この他、コイ科の可能性のある腹椎・椎骨もみられる。
 - ・サケ科 : 前上顎骨・咽頭骨・腹椎・尾椎・椎骨・尾部棒状骨が確認される。前上顎骨はNo.19-42で1点、咽頭骨はNo.19-113で1点、尾部棒状骨はNo.19-117で1点検出される。腹椎・尾椎・椎骨は多くの試料でみられ、腹椎・尾椎にはほぼ完存するものもある。ほぼ完存する腹椎・尾椎は椎体長約7~9mm程度である。
 - ・サケ科? : サケ科の可能性のある右角骨がNo.20-203で1点検出される。
 - ・ハゼ科? : ハゼ科の可能性のある腹椎がNo.19-44で1点検出される。ハゼ科?は、椎体長は約2mmである。
 - ・魚類 : 歯牙・左舌顎骨・右角骨・尾椎・椎骨・尾部棒状骨・鱗棘等・鱗・部位不明破片などがみられる。歯牙は多くがサケ科に由来するとみられる。尾椎・椎骨は破片のため種類を特定できない、鱗は焼けていない破片でコイ科の可能性もある。
 - ・鳥綱? : 破片のため詳細不明であるが、緻密質が薄い骨を鳥類/小型獣類?、また極端に薄い骨を鳥類?として取り扱っているが、詳細不明である。
 - ・ネズミ亜科 : 左右下顎第1後臼歯がNo.20-112で検出される。
 - ・ハタネズミ亜科 : No.19-55で右下顎第1後臼歯、No.19-96で左右下顎第3後臼歯、No.19-102で右下顎第3後臼歯、No.19-104で左上顎第1~3後臼歯、No.19-105で左下顎第1後臼歯、No.20-109で右上顎第1後臼歯・右下顎第1後臼歯、No.20-114で右上顎第2後臼歯、No.20-270で左下顎第1後臼歯が検出される。
 - ・ネズミ科 : ネズミ亜科、ハタネズミ亜科の区別ができない。No.19-96・No.19-104で上顎犬歯、No.19-99・19-100で犬歯、No.19-102で中節骨、No.19-114で尾椎、No.19-118で右脛腓骨・左右距骨、No.19-119で左踵骨、No.20-262で椎骨が検出される。また、ネズミ科の可能性のある歯牙片がみられる。
 - ・エゾシカ : 確認される部位は、左肩甲骨(No.19-116, 19-141)、左橈骨側手根骨(No.19-116, 20-62)、右橈骨側手根骨(No.20-136)、左中間手根骨(No.19-119, 20-263)、右脛骨(No.20-226)、距骨(No.19-8)、右第2+3足根骨(No.20-112)、中足骨/中手骨破片(No.20-157, 20-173)、第3/4基節骨(No.19-56)、第3/4基節骨?(No.20-173)、第2/5中節骨(No.19-56, 19-58, 20-39, 20-112)、第3/4中節骨(No.19-56, 19-58, 20-9, 20-39, 20-80)、第3/4中節骨?(No.19-56)、第3/4基節骨/中節骨(No.19-56, 19-58, 19-101, 19-113, 20-113, 20-176)、第2/5末節骨(No.19-55, 19-56, 19-58, 19-113, 20-80, 20-176)、第3/4末節骨(No.19-58, 19-105, 19-144, 20-112, 20-113)、第1/4種子骨(No.19-55, 19-56, 19-58, 20-81)、第2/3種子骨(No.19-19, 19-55, 19-113, 19-116, 20-39, 20-51, 20-230, 20-270)などがみられる。なお、No.20-226のエゾシカ右脛骨(非焼骨)が遠位端幅37.23mmを測る。この他、エゾシカの可能性のある歯牙・寛骨・脛骨?・中手骨/中足骨?・基節骨・基節骨/中節骨・中節骨/末節骨・中節骨?・末節骨?がみられる。
 - ・獣類 : 大型獣類の肩甲骨の可能性のある破片・指骨・四肢骨、獣類の肋骨・肋骨?・四肢骨・部位不明破片がみられる。なお、No.20-94で検出される焼けた獣類四肢骨には、解体に伴うとみられる切痕が確認される。
 - ・種類不明 : 魚類、獣類不明の破片である。なお、No.20-9、20-15では、焼けた骨片であるが、赤色物質が付着する。
4. 考察 今回の分析では、種類不明であるが二枚貝綱の破片が検出される。平成20年度に行われた調査では、カワシンジュガイがアイヌ文化期から多量の獣骨とともに出土するとされている(財団法人北海道埋蔵文化財センター, 2009)。ただし、B地区の

ⅢF-30(No.19-102)で検出された二枚貝綱は焼けておらず、比較的頑丈な殻を持ち、真珠層が発達しないなど、淡水性のカワシジギガイなどを含むイシガイ科とは明らかに異なる形質である。やや幅広い放射肋を持つことから、タマキガイ科/ザルガイ科の可能性もある。タマキガイ科/ザルガイ科などは海産の貝類であり、遠方からの搬入品ということになり、貝輪などとして持ち込まれた可能性もある。また、B地区のⅢF-109(No.20-80)で検出される二枚貝綱も、形状などからみてイシガイ科とは異なるが、被焼小破片であるため不詳である。一方、コウガイ科の可能性もある殻、マイマイ類などは、陸産の貝類であることから、遺構が埋積する過程において周辺に棲息していたものが流れ込んだと考えられる。

硬骨魚綱は、基本的にはサケ科が主体となる。その他の種類としては、コイ?、フナ属、タナゴ亜科、ウグイ亜科?、ハゼ科?などがみられたが、数量的にも少ない。また、検出される遺構もC地区のⅢF-217, 219、B地区のⅢF-30, 40, 79, 109~111, 193, 194と10地点だけであり、全体の中で見ると5%にすぎない。これらのことから、周辺の河川では、主に遡上したサケ科を捕獲したとみられる。高橋・太子(1998)は、石狩川水系では遡上するサケ科を積極的に利用していると述べている。本遺跡でも同様な結果といえ、内陸部の様相を示す資料といえよう。ところで、サケ科は、完存する椎体長からみると、少なくとも体長30cmを超えるサイズとみられる。これに対し、コイ科の仲間も、若干大きめなサイズもみられるが、基本的には椎体長2~3mm程度と小型サイズに由来するものが多い。食料とするならば骨ごと食されるため骨が出土しないことも考えられ、これらの種類が食料資源として利用されていたか定かでない。たまたま捕獲された小型魚類を廃棄した可能性もある。また、小型サイズの魚が検出されることから、網や簀などを利用した漁法であった可能性がある。

一方、鳥綱は、明らかに鳥類と半断できる破片がなく、積極的な利用がなかったとみられる。哺乳綱では、ネズミ亜科、ハタネズミ亜科、エゾシカがみられる。ネズミ亜科、ハタネズミ亜科などのネズミ科は、食料資源として利用されていただけでなく、遺跡付近に棲息していたものに由来するであろう。中には、焼けている歯牙もみられることから、付近で死んだものが焼かれることもあったと想像される。エゾシカは、狩猟の中で主要種であったとみられる。脛骨の可能性のある破片や中節骨では、骨端が未化骨で外れるものが含まれることから、成獣のみでなく、幼獣も捕獲されていたとみられる。なお、B地区のⅢF-113で検出される哺乳綱の四肢骨(No.20-94)には、水平方向に入る切痕がみられ、解体して利用していたことを示唆するが、採取地で解体したものを持ち込んでいたかは明らかでない。また、今回出土した骨の中には、赤色物質が付着する焼骨片がみられた。ベンガラなどの赤色物質を墓坑内に撒く事例は各地でみられる。祭祀などに利用されたものかもしれないが、極めて微小な破片であるため詳細不明である。

ところで、今回の結果をみると、白色を呈した焼骨片が圧倒的に多いが、黒色を呈し炭化している骨片、部分的に焼けている骨片も含まれる。白色を呈した焼骨片は、骨となった状態で直接火中に破棄されたことが考えられる。一方、黒色を呈した炭化した骨片、部分的に焼けた骨片は、蒸し焼きの状態で炭化した、あるいは火元からある程度離れた場所にあったなどのことが考えられる。また、焼けていない骨片も多く地点から検出されている。直接火の影響を受けていないだけで火元から離れた場所にあったか、あるいは軟質部が残った状態で埋められた(破棄された)可能性もある。

この他、骨の総検出量をみると遺構によって差がみられる。哺乳綱が検出される地点は当然のごとく重量が重くなるが、重量で見ると0.0g以下と極めて少ない地点も存在する。また、硬骨魚綱を中心とする地点、硬骨魚綱と哺乳綱が混在する地点などがみられ、哺乳綱のほうが大きいため重量組成では当然多く表示されることになるが、硬骨魚綱が他よりも多い地点は、哺乳綱も多く検出される傾向にある(例えば、C地区のⅢF-217、B地区のⅢF-217・30)。このような地点間の量比の差は、利用期間などを反映している可能性もある。

引用文献

高橋 理・太子 夕佳, 1998, 千歳市キウス4遺跡出土動物遺存体.財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書第124集, 千歳市キウス4遺跡(2)－北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書－, 財団法人北海道埋蔵文化財センター, 345-356.

財団法人北海道埋蔵文化財センター, 2009, 調査年報21 平成21年度. 財団法人北海道埋蔵文化財センター, 74p

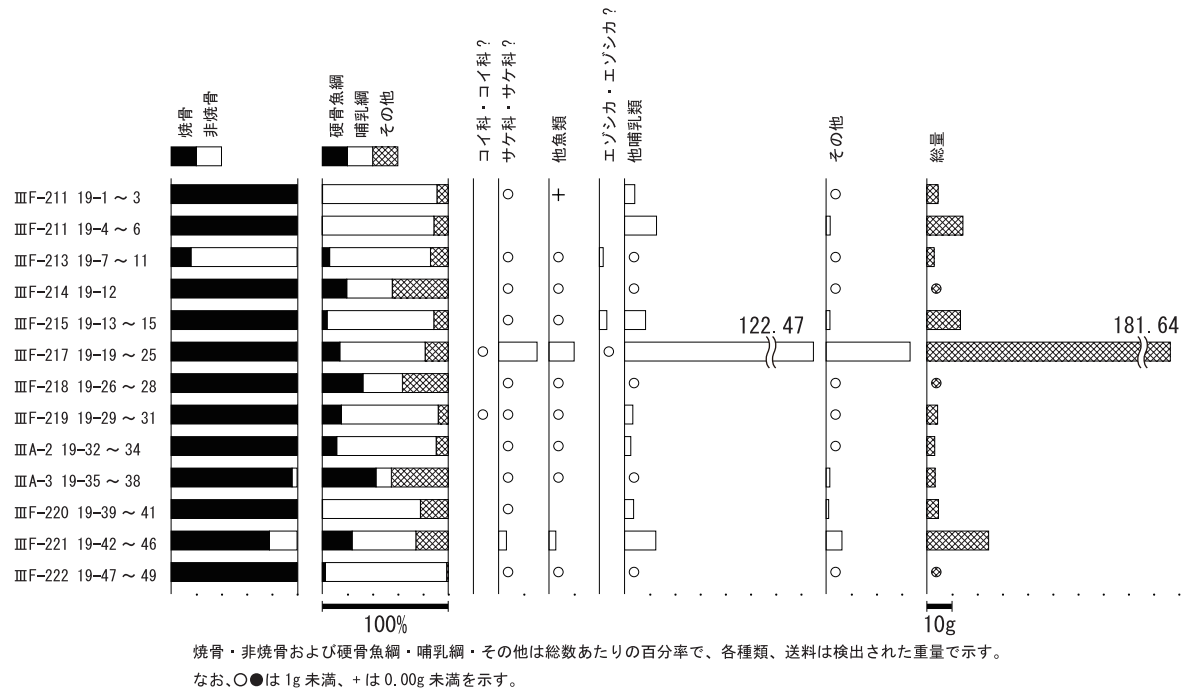


図1. C地区における出土骨の重量組成

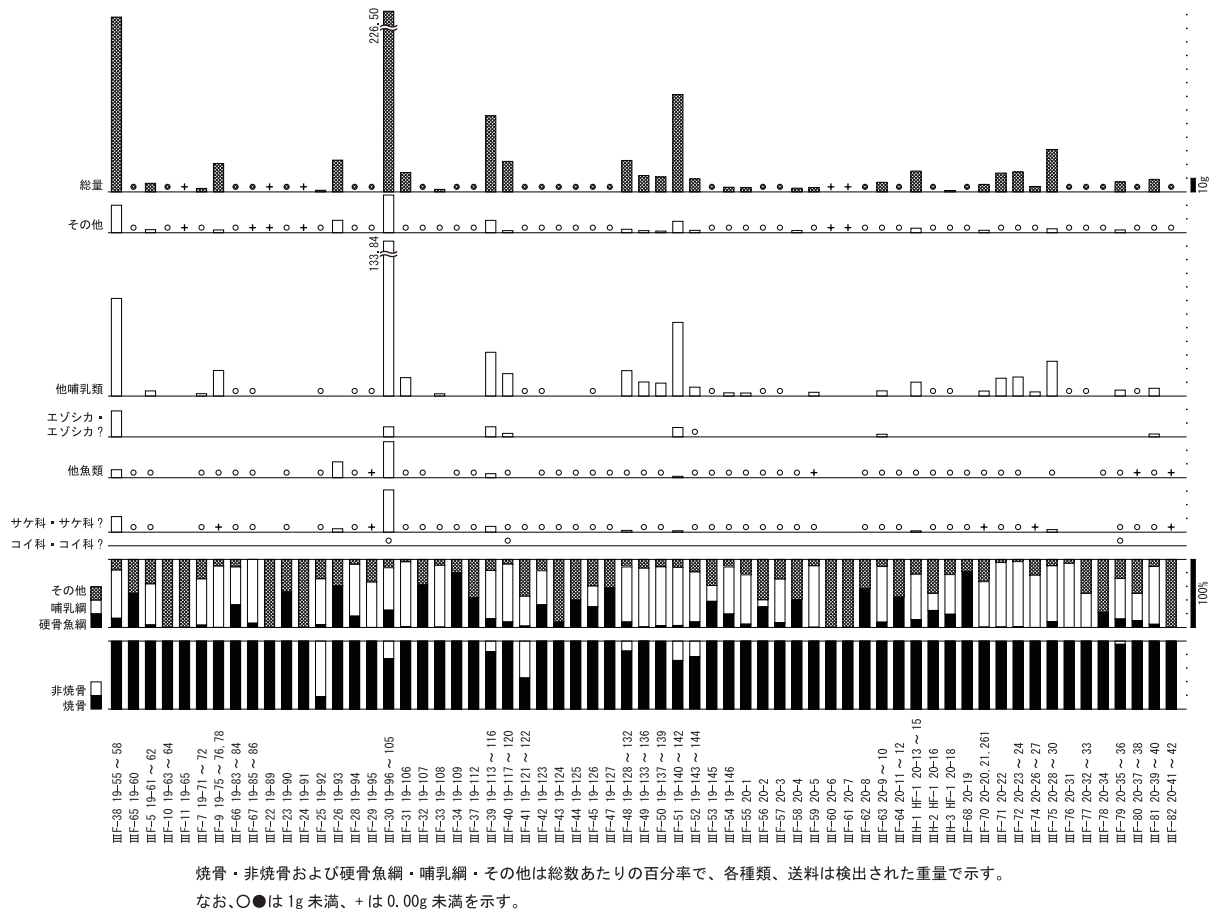


図2. B地区における出土骨の重量組成(1)

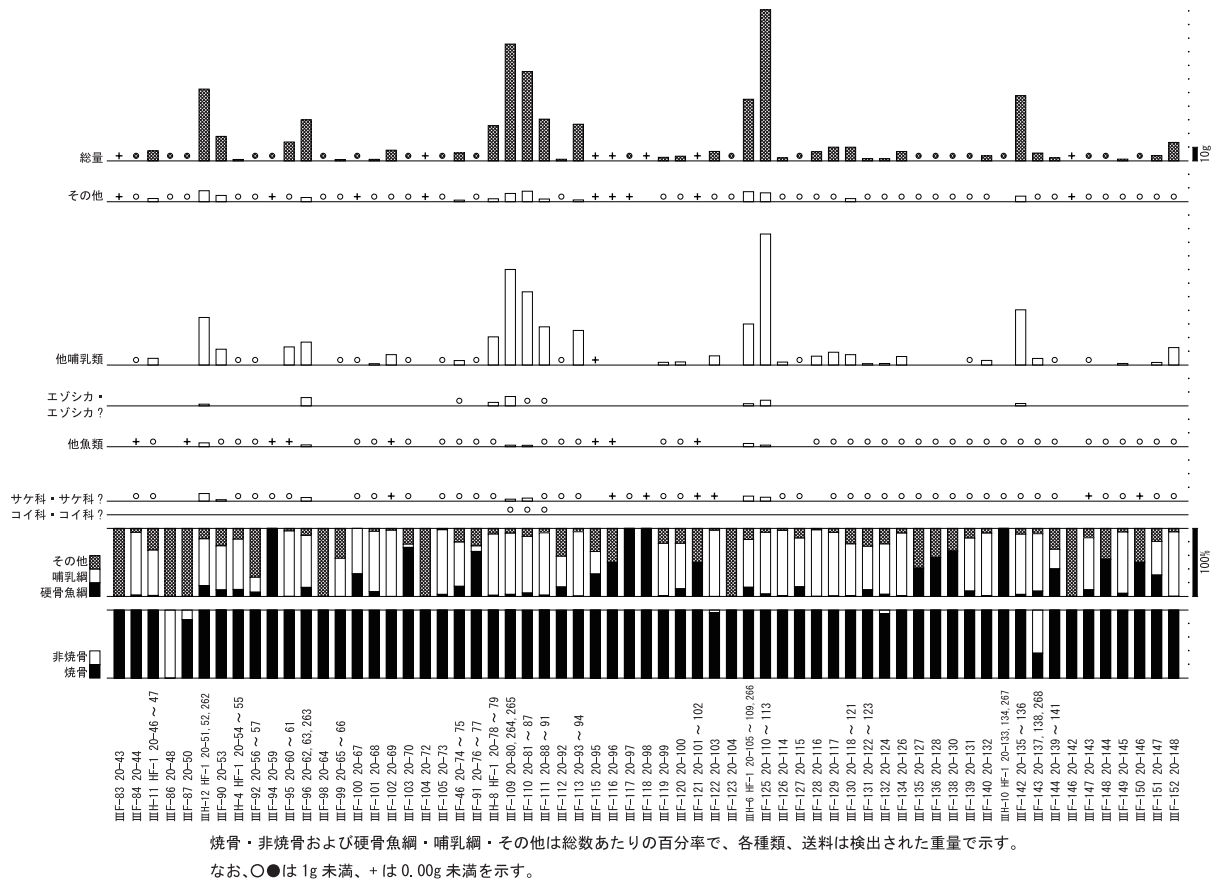


図3. B地区における出土骨の重量組成(2)

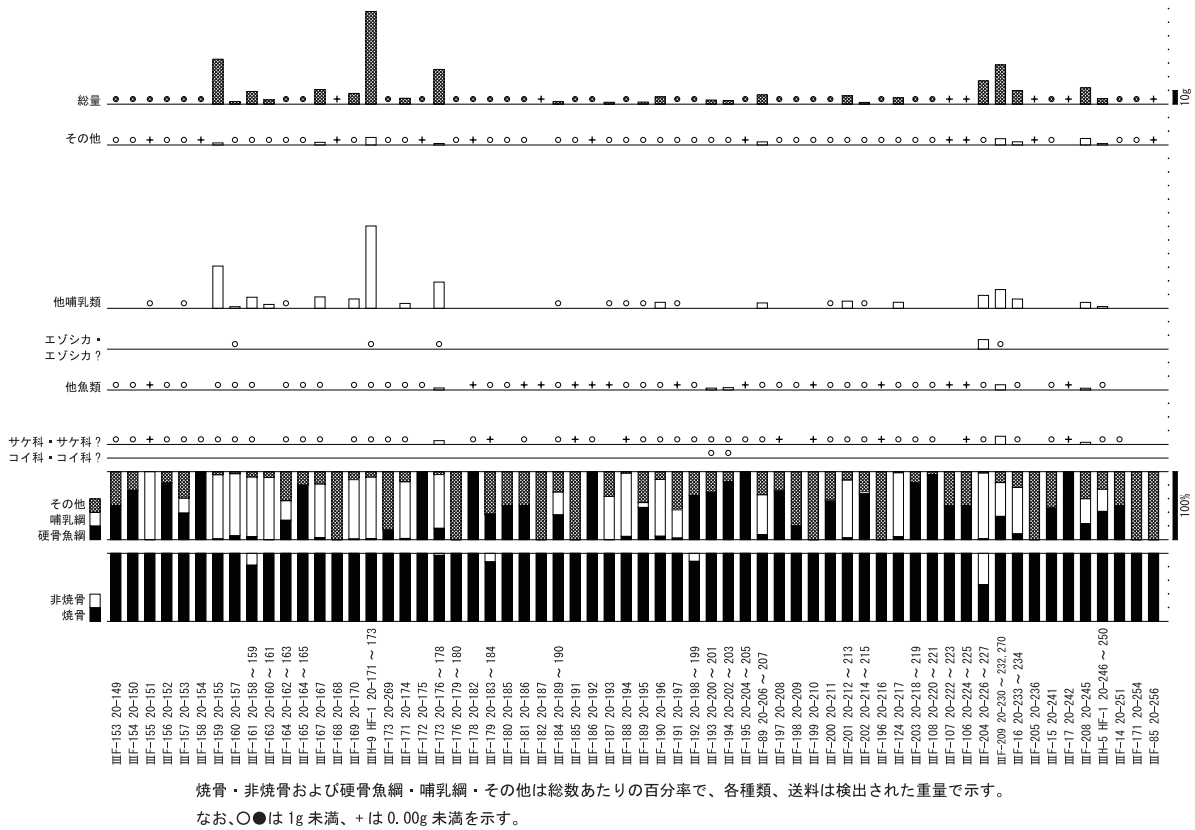


図4. B地区における出土骨の重量組成(3)

図版 出土骨

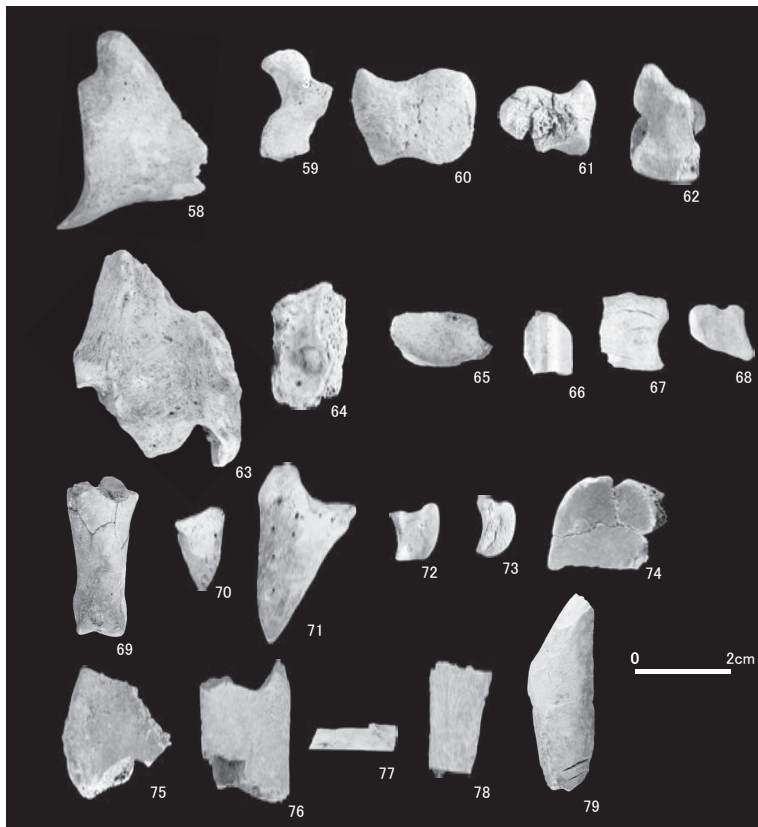


- 1.コハクガイ科?殻(4B III F-38;19-55)
- 2.マイマイ類殻(4B III F-38;19-58)
- 3.タマキガイ科/ザルガイ科?殻(4B III F-30;19-102)
- 4.二枚貝綱殻(4B III F-109;20-80)
- 5.コイ?腹椎(4C III F-219;19-31)
- 6.フナ属腹椎(4C III F-217;19-21)
- 7.タナゴ亜科腹椎(4C III F-217;19-21)
- 8.ウグイ亜科?腹椎(4C III F-217;19-21)
- 9.コイ科左主總蓋骨(4B III F-30;19-100)
- 10.コイ科咽頭歯(4C III F-217;19-21)
- 11.コイ科第1/2椎骨(4C III F-217;19-21)
- 12.コイ科腹椎(4B III F-30;19-102)
- 13.コイ科尾椎(4B III F-30;19-102)
- 14.コイ科尾椎(4C III F-217;19-21)
- 15.サケ科前上顎骨(4C III F-221;19-42)
- 16.サケ科咽頭骨(4B III F-39;19-113)
- 17.サケ科腹椎(4B III F-30;19-104)
- 18.サケ科腹椎(4B III F-38;19-56)
- 19.サケ科尾椎(4B III F-30;19-104)
- 20.サケ科尾椎(4B III F-30;19-104)
- 21.サケ科椎骨(4B III F-30;19-104)
- 22.サケ科椎骨(4B III F-30;19-104)
- 23.サケ科尾部棒状骨(4B III F-40;19-117)
- 24.サケ科?右角骨(4B III F-194;20-203)
- 25.ハゼ科?腹椎(4C III F-221;19-44)
- 26.魚類(サケ科中心)歯牙(4B III F-30;19-104)
- 27.魚類(サケ科中心)歯牙(4B III F-30;19-104)
- 28.魚類鱗(4C III F-221;19-46)
- 29.魚類右角骨(4C III F-217;19-23)
- 30.魚類左舌顎骨(4B III F-30;19-105)

- 31.魚類尾部棒状骨(4C III F-221;19-43)
- 32.魚類鰭棘(4C III F-221;19-46)
- 33.鳥類?四肢骨(4C III F-214;19-12)
- 34.鳥類/小型獣類四肢骨(4B III F-30;19-102)
- 35.ネズミ亜科左下顎第1後臼歯(4B III F-125;20-112)
- 36.ネズミ亜科右下顎第1後臼歯(4B III F-125;20-112)
- 37.ハタネズミ亜科左上顎第1後臼歯(4B III F-30;19-104)
- 38.ハタネズミ亜科左上顎第2後臼歯(4B III F-30;19-104)
- 39.ハタネズミ亜科左上顎第3後臼歯(4B III F-30;19-104)

- 40.ハタネズミ亜科右上顎第1後臼歯(4B III H-6 HF-1;20-109)
- 41.ハタネズミ亜科右上顎第2後臼歯(4B III F-126;20-114)
- 42.ハタネズミ亜科左下顎第1後臼歯(4B III F-30;19-105)
- 43.ハタネズミ亜科左下顎第3後臼歯(4B III F-30;19-96)
- 44.ハタネズミ亜科右下顎第1後臼歯(4B III F-34;20-109)
- 45.ハタネズミ亜科右下顎第3後臼歯(4B III F-30;19-96)
- 46.ネズミ科上顎犬歯(4B III F-30;19-96)
- 47.ネズミ科尾椎(4B III F-40;19-119)
- 48.ネズミ科右脛骨(4B III F-40;19-118)

- 49.ネズミ科左踵骨(4B III F-40;19-119)
- 50.ネズミ科左距骨(4B III F-40;19-118)
- 51.ネズミ科右距骨(4B III F-40;19-118)
- 52.ネズミ科中節骨(4B III F-30;19-102)
- 53.ネズミ科?歯牙(4B III F-34;20-109)
- 54.ネズミ科?歯根?(4C III F-221;19-44)
- 55.赤色物質付着骨(4B III F-63;20-9)
- 56.赤色物質付着骨(4B III F-63;20-9)
- 57.赤色物質付着骨(4B III H-1 HF-1;20-15)



- 58.エゾジカ左肩甲骨(4B III F-51;19-141)
- 59.エゾジカ左肩甲骨(4B III F-39;19-116)
- 60.エゾジカ左橈骨側手根骨(4B III F-39;19-116)
- 61.エゾジカ右橈骨側手根骨(4B III F-142;20-136)
- 62.エゾジカ左中間手根骨(4B III F-40;19-119)
- 63.エゾジカ右脛骨(4B III F-204;20-226)
- 64.エゾジカ距骨(4C III F-213;19-8)
- 65.エゾジカ右第2+3足根骨(4B III F-125;20-112)
- 66.エゾジカ中足骨/中手骨(4B III F-160;20-157)
- 67.エゾジカ第3/4基節骨(4B III F-38;19-56)
- 68.エゾジカ第2/5中節骨(4B III F-38;19-58)
- 69.エゾジカ第3/4中節骨(4B III F-38;19-58)
- 70.エゾジカ第2/5末節骨(4B III F-39;19-113)
- 71.エゾジカ第3/4末節骨(4B III F-30;19-105)
- 72.エゾジカ第1/4種子骨(4B III F-38;19-55)
- 73.エゾジカ第2/3種子骨(4B III F-38;19-55)
- 74.エゾジカ?寛骨(4B III F-30;19-105)
- 75.エゾジカ?脛骨?(4C III F-215;19-15)
- 76.大型獣類四肢骨(4B III F-125;20-112)
- 77.獣類肋骨(4B III F-30;19-104)
- 78.獣類四肢骨(4B III F-125;20-112)
- 79.獣類四肢骨(4B III F-113;20-94)

VII 成果と問題点

1 遺構について

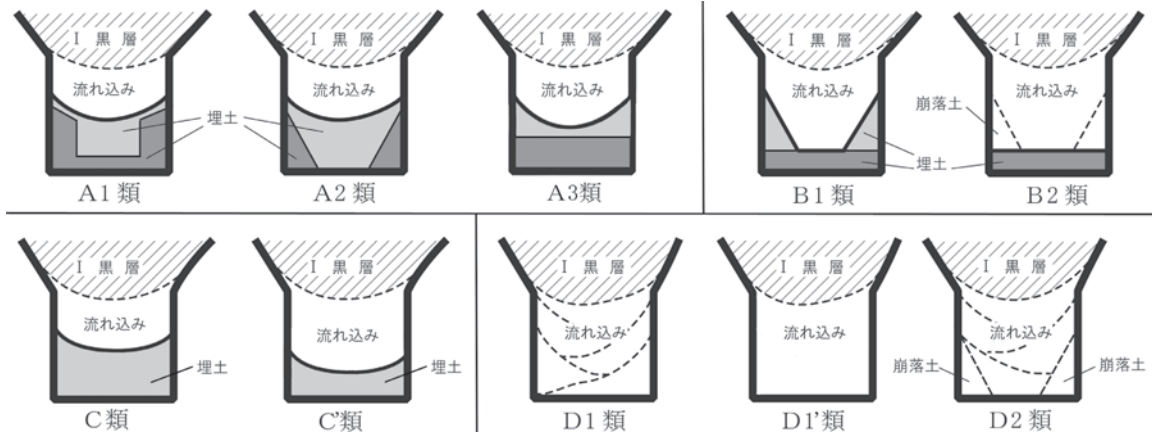
(1) A地区の土抗・土抗墓について

坑底平面形については、隅丸方形a・b・方形a・b・長楕円形・隅丸長方形・小判形b・長方形は1%以下の特異例であり、不正円形・不正楕円形・小判形aは9%以下の少例であり、楕円形(20%)がやや多く、円形(51%)が半数を占める。角がなく長軸が伸長しない形態が一般的である。また、調査者が墓と認識した例(認定墓と略す)においては不正円形・隅丸方形ab・小判形bは2%以下の特異例であり、不正楕円形・小判形aは11%以下の少例であり、楕円形(20%)がやや多く、円形(53%)が半数を占める。墓坑の底面形は土坑の一般的な形態から選択されたとしてよい。なお、上屋などの外部構造物にかかわるものと考えられる長軸に小孔が2個付帯する例は1例(ⅢP-173:楕円形・A2類)あった。土坑内堆積については、A1・A2・C・D2の各例数は全体に対して7%以下の特異例であり、A3・B1・C'・D1'の各例数は全体に対して10%前後の少例であり、B2(20%)・D1(15%)がやや多い。また、認定墓はA1(3例)・A2(8例)・A3(3例)・B1(14例)・B2(29例)・C(3例)・C'(6例)があり、類型総数の22%を占める。「特異例A1・2」「少例B1」「やや多数B2」に占める認定墓は22%以上、「特異例C」「少例A3・C'」に占める認定墓は22%以下で、「特異例D2」「やや多数D1」に認定墓はない。埋土層が薄い(B1・B2)と埋土層が厚い(A1・A2)は北埋調報253(2008年)の結論(所謂

表VII-1-1 坑底平面形と堆積類型

		A1		A2		A3		B1		B2		C		C'		D1		D1'		D2		Σ1	Σ2	Σ2/Σ1*100=
		σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2	σ1	σ2			
α1	円形			8		14	1	22	9	40	20	5		14	5	27	15	8	153	35	23			
	不正円形	2		2		3	1	3		6		3		3		3	2		27	1	4			
	隅丸方形a			1	1			1								1			3	1	33			
	方形a																							
α2	楕円形	3		4	1	5		8	4	9	6	3		6	1	8	9	5	60	13	22			
	不正楕円形			2	2	6	1	3	1	4	1	4	2	3		3	1		26	7	27			
	隅丸方形b			1	1														1	1	100			
	小判形a	2		2	2	2		1		2	2	4	1	2		3	6	1	25	7	28			
α3	方形b																							
	長楕円形									1						1	1		3	0	0			
	隅丸長方形																							
	小判形b			1	1													1		2	1	50		
	長方形																							
σ2/σ1*100=		43		38		10		37		47		16		21							22			

* α = 短軸/長軸、α1 ≥ 0.85、0.85 > α2 ≥ 0.5、0.5 > α3 * σ1: 類型毎合計、σ2: 墓と認定したσ1の内数、Σ1: σ1総数、Σ2: σ2総数



図VII-1-1 土坑堆積模式

土坑墓の堆積：A1・2、屋根土を置く上屋がある墓の堆積：B1・2)を追認した。埋土層の無いD2は前掲書では屋根土を置かず上屋がある墓の堆積と推定されたが今回は至らない。晩期後葉における葬法が一次葬のみであった確証はないことを前提に以下が推測される。埋土層無い(D1)は徐々に流れ込んだ堆積物を示すことから、屋根土を置かず上屋がある墓、埋土層無い(D1')は一気に流れ込んだ堆積物を示すことから、二次葬により開口したまま残置された墓跡とも考えられる。いっぽう、埋土層が厚い(A3・C)と埋土層が薄い(C')には認定墓があり、所謂土坑墓と屋根土がある上屋墓の可能性が残る。

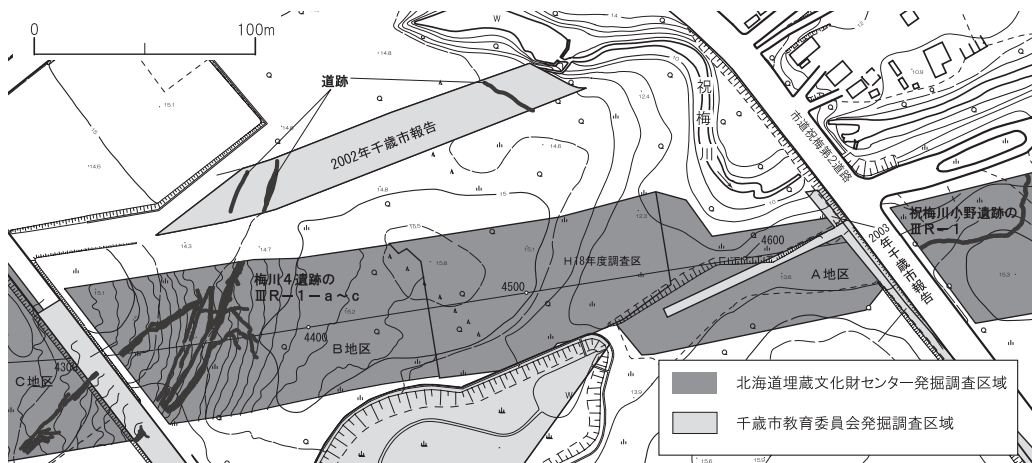
V群c類期の近隣例として恵庭市西島松2遺跡(北埋調報265、2010年)がある。坑底平面形と土坑内堆積がわかる認定墓は33基ある。円形・不正円形は12%以下の少例で、楕円形(21%)・不正楕円形(30%)・小判形a(33%)がやや多く、角がなく長軸がある形態が一般的である。長軸に小孔が2個付帯する例は6例18%(不正円1例・不正楕円形1例・楕円1例・小判形a3例、堆積はB1が5例・B2が1例)あった。堆積型はA・Bのみであり、A2・A3・A1・B2は15%以下の少例であり、B1は21例(63%)で多数を占める。

また、全身に弁柄を塗布した遺体層例(ⅢP-60)、頭部に弁柄を塗布した遺体層例(ⅢP-394)があり、弁柄散布例もある。西島松2遺跡でも認定墓33基のうち、全身塗布例が13例、ほぼ全身塗布例が1例、頭部塗布例3例(他に頭部散布2例、半身散布3例、全身散布1例、全身に塗布・散布1例)がある。これら塗布例は人体輪郭が容易に目視できるので遺体に直接塗布されたものと考えられる。

二つの遺跡では、屋根土がある上屋墓が多く造られる、全身・頭部に弁柄を塗布した遺体が収められる、ことが多かったといえる。

(2) B・C地区の道跡について

Ⅲ-1-(1)で述べたように、当時の祝梅川源頭部(梅川4遺跡)は「勇払越」日本海側経路のひとつの起点であったと考えられる。千歳市教委が調査した地点においても3条の道跡が検出されており、「西側2条」は梅川4遺跡ⅢR-1-a~cに接続しそうである。また、これらは南東側にある標高15.5mの丘頂を迂回しているので、千歳市教委調査の「東側1条」も迂回していた道跡の一部と考えられる。その先は祝梅川右岸に沿ってゆく予想されるのであるが、平成18年度調査区・平成19年度調査区(A地区)においても道跡は検出されなかった、市道祝梅川第2道路の拡幅に係る2003年千歳市教委報告においても道跡は検出されていない。「梅川4遺跡ⅢR-1-a~c」「西側2条」「東側1条」の起点はA地区北側にあると現時点で考えるはかない。また、梅川4遺跡東隣の祝梅川小野遺跡においても1条の道跡が検出されており、その西側続きは2003年千歳市教委報告における「建物跡」へ向かっているともみえるが、道跡は検出されていない。合わせて今後の課題と言えらる。(鈴木)



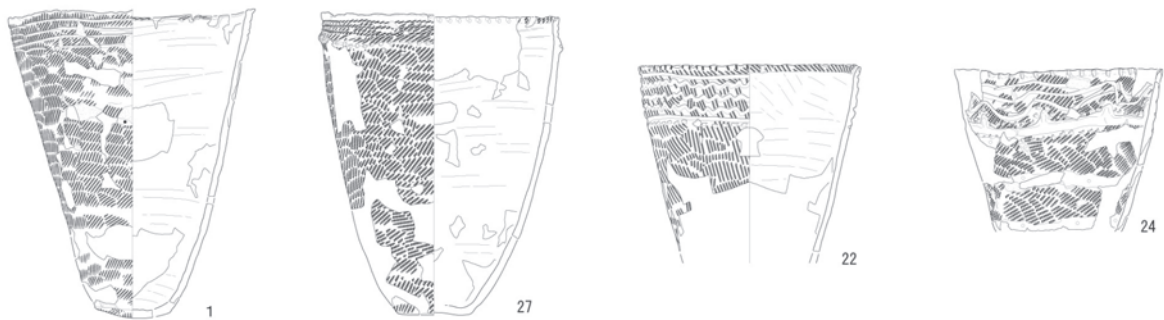
図Ⅶ-1-2 道跡集成

2 遺物

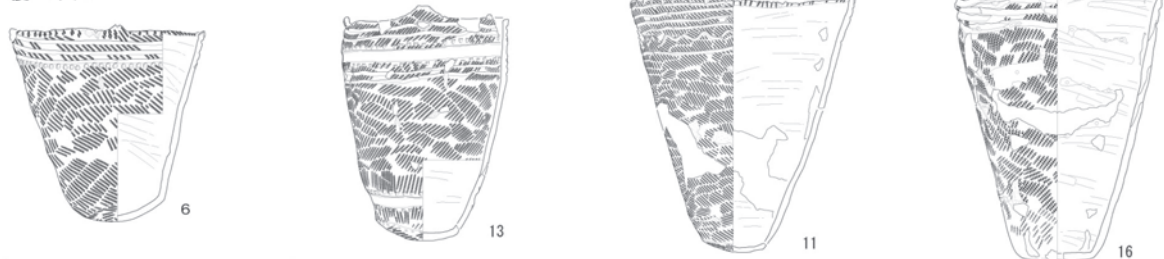
(1) V群c類土器について

梅川4遺跡A地区より出土したV群c類土器のうち、主に土坑より出土した個体は、その出土層位から坑底部→覆土中位→覆土上位と3つの段階に分けられる。坑底部出土の土器は遺構と同じ時期と考えられる。覆土中位出土の土器は本来土坑の上部に置かれていたか、埋め戻し土が埋没した直後に落ち込んだもので、遺構とほぼ同時期あるいは若干新しい。覆土上位出土の土器は土坑の上部にⅢ層土が堆積する過程で流れ込んだもので、遺構よりも新しい。幣舞式の深鉢については、坑底部および覆土中位では横位沈線または凹線を主文様、刺突列や突瘤列を副文様・区画文様とする個体が主体である。しかし、覆土上位や包含層(Ⅲ層)では、横位沈線以外にも横位縄線、連続山形沈線、波状沈線など多様な文様が見られる(図Ⅶ-2-1)。また、蛇行沈線が施された破片資料の大部分は、覆土上位または包含層より出土している。以上は、いわゆるママチ編年における、Ⅲ群またはⅢ類からⅣ・Ⅴ群またはⅣ類への変化に対応するものと推測される。亀ヶ岡式土器については、鉢や壺に施された工字文から大洞A式に相当すると考えられるが、土器集中1などを除くと遺構外出土のものがほとんどで、幣舞式との明瞭な共伴関係も確認されなかった。道央部における縄文時代晩期後葉の在地系土器と亀ヶ岡式土器の並行関係は、今後の類例を待って、再検討する必要がある。(芝田)

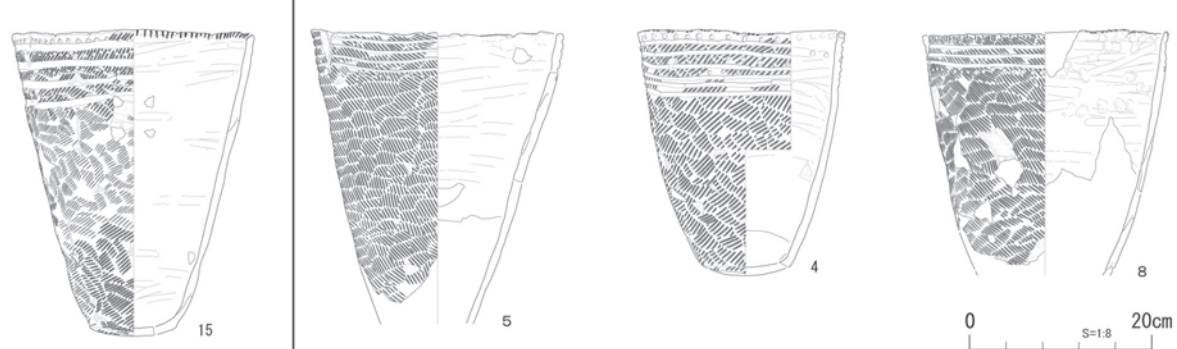
覆土上位～包含層(Ⅲ層)



覆土中位



坑底部



図Ⅶ-2-1 V群c類深鉢の出土層位

(2) VI群a・b類土器について

(2)-1 本遺跡の事例

特徴的な「下地文」における胴部原体の撚り・原体の押捺幅(条の長短)・回転方向・条の傾きについて述べる(紙幅の制限により斜位縦走縄文・横位斜走縄文を除く)。

「撚糸文」口縁部文様に沈線文・縄線文があり、a：口縁部施文→胴部撚糸(例えば図V-2-7-17)・b：胴部撚糸→口縁部施文(例えば図V-2-6-15)という施文順。条の傾は縦走が多く、横走(図V-2-8-19)もある。

「LR自縄自巻」胴部・縦走→口縁部・横走(図V-2-9-20)、胴部・縦走→口縁部原体押捺(図V-2-25-54)があり、胴部施文→口縁部施文の順である。前者は撚糸施文順aと同じく、後者は帯縄文施文順(H 37栄町期以降)と同じである。条の傾は縦走(前掲図-54)と縦走+横走(前掲図-20)がある。

「LR短条斜位横走縄文・LR短条横走帯縄文」原体上において指位置を移動しないLR施文「短条横走縄文」(例えば図V-2-10-22)、原体上において指位置を移動させるLR施文(例えば図V-2-12-29)がある。後者はRL帯縄文と同じ原体の置き方・押捺方法であるので「LR短条横走帯縄文」と呼ぶ。本遺跡では一つの土器に前者と一部後者が混じって施文される。

「RL帯縄文」口縁部に本数の少ない横位帯縄文(例えば図V-2-14-42)、口頸部に本数が多く間隔が開かない横位帯縄文(例えば図V-2-15-45)、口頸部に間隔が開く横位帯縄文(例えば図V-2-16-46)があり、いずれも長条であり胴部施文→口縁部施文の順である。

「帯縄文風」さまざまな原体の撚り・回転方向を用い、間隔をおいて施文する。これらはいずれも短条であり転写距離が短いので、押捺単位が方形にならざる負えなく、方形押捺単位を連結させることにより帯状となり帯縄文に似る。「RL短条縦位斜走縄文にRL短条斜位縦走縄文混じる」(図V-2-14-40)、「RL斜位横走縄文とRL短条横位斜走縄文との組み合わせ」(図V-2-28-81)、「ニシン椎骨側面横位回転文・一部LR短条横位斜走縄文とLR短条横走帯縄文との組み合わせ」(図V-2-25-57)、「LR短条斜位横走縄文とLR短条縦位斜走縄文」(図V-2-25-58)、がある。

(2)-2 本遺跡における「下地文」の変遷

今回の調査においてこれらはすべて包含層から出土した。時系における関係を確定する良好な資料ではないが、分布の傾向・形態を比較することで、検討してみる。

図V-2-29~31は復元個体・破片資料について、その最多出土数グリッドから引き出し線を引いた図である。分布の傾向が大まかに見取れる。「縦走」：G~P-Line×33~40-Line(8×10grid)、丘の西側縁辺に北東-南西方向に長く分布、調査区中央に一つの群として分布。「撚糸」：F~N-Line×37~42-Line(6×9grid)・O~S-Line×28~31-Line(4×5 grid)、谷の東側斜面に北東-南西方向に長く分布、調査区北東「撚糸①」と南西「撚糸②」に二つの群として分布。「横走」：I~R-Line×32~38-Line(7×10 grid)、丘の西側縁辺に北東-南西方向に長く分布、調査区中央に一つの群として分布。「LR短条横走帯縄文」：G~Q-Line×32~41-Line(10×11 grid)、谷の東側斜面に北東-南西方向に長く、一つの群として分布。「帯縄文と帯縄文風」：Q~S-Line×24~45-Line(3×11grid)・F~L-Line×33~46-Line(7×14grid)谷の東側「縦走」より低い標高の斜面に北東-南西方向に長く分布、調査区北東「帯縄文と帯縄文風①」と南西「帯縄文と帯縄文風②」に二つの群として分布。以上より分布は、「縦走」・「横走」が同じ、「撚糸」・「LR短条横走帯縄文」・「帯縄文と帯縄文風」が同じ、「縦走」・「横走」と「撚糸」・「LR短条横走帯縄文」・「帯縄文と帯縄文風」は異にする。

また、「縦走」は北東側に底径大の平底・南西側に底径小の凸平底があり、北東側「縦走①」は南西側「縦走②」よりも新しい形態である。「横走」は「縦走」よりも新しい施文法である。「帯縄文と帯縄文風①」は「帯縄文と帯縄文風②」よりも新しい時期の土器である。

「撚糸①」と「帯縄文と帯縄文風②」は同様な分布・縦横に施文より、分布・施文においてやや親和する。

「LR短条横走帯縄文」と「横走の一部」は同様な分布・横に施文より、分布・施文において親和する。「撚糸①」と「LR短条横走帯縄文」は同様な分布・横にも施文するので、分布・施文においてやや親和する。

本遺跡における時系は以下のように想定できる。「縦走②」→「縦走①」→「横走」=「LR短条横走帯縄文」
 ≡「撚糸①」≡「帯縄文と帯縄文風②」→「帯縄文と帯縄文風①」

(2)-3 撚糸文・自縄自巻・横走縄文・「短条横走帯縄文」・帯縄文・「帯縄文風」の関係

道央低地帯の状況は以下である。

札幌市H317遺跡の遺物集中群では縦走縄文が各集中の主体を占めるものの、南群では縦走縄文+沈線文主体に撚糸、北群では縦走縄文主体に撚糸・横走縄文・帯縄文風、中央3群では縦走縄文+縄線文主体に横走縄文・撚糸、中央2群では横走縄文主体に撚糸、中央1群では縦走縄文主体となる。各遺物集中群にはいずれも縦走撚糸が伴い、横走縄文の有無が認められるので、遺物集中群は「中央1群・南群・北群の一部(沈線文)→中央3群→中央2群→北群(帯縄文風)」という形成過程を示す。

恵庭市ユカンボシE7遺跡Ⅲ層の土器集中では横走縄文が両集中の主体を占める。南側集中では斜位横走が多数、帯縄文風縦位斜走が1点、二枚橋系短頸壺(二枚橋古段階)1点、が出土する。北側集中では斜位横走が多数、上半帯縄文風斜位横走縄文+下半斜位縦走縄文を組み合わせる浅鉢が1点、恵山系甕1点(アヨロ1式)が出土している。土器集中の形成はおおよそ「南群→北群」という過程を示す。

苫小牧市タブコブ遺跡大場1号墳では斜位横走縄文深鉢と二枚橋(古段階)系甕・壺(苫小牧市教育委員会1984年『タブコブ』)、苫小牧市静川22遺跡4号土坑墓では斜位横走縄文+縄線文深鉢と二枚橋(古段階)系台付浅鉢(苫小牧市教育委員会2002年『苫小牧東部工業地帯の遺跡群 IX』)、が共伴する。

H317遺跡の遺物集中群では縦走縄文が主体でほとんど撚糸が伴い、ユカンボシE7遺跡Ⅲ層では横走縄文が主体で撚糸が伴わず帯縄文風が伴うので、前者が古層、後者が新相を呈する。そして、ユカンボシE7遺跡Ⅲ層の北側集中はH37栄町期「新」の状況を示す。以上より、主要な下地文は以下のような消長である。RL短条斜位縦走は「H37丘珠期」~「H317期・古」に、LR短条横走縄文は「H317期・新」に、RL長条帯縄文は「H37栄町期・古」に現れ「H37栄町期・新」に盛行する。撚糸文は「H37丘珠期・新」には縦走撚糸が現れ、「H317期」には横走撚糸が加わる。

その他の下地文については以下のような消長であろう。ニシン椎骨側面回転文は大沼忠春(1985)「魚骨文の新例について」『北海道考古学 21輯』によれば続縄文前葉にあることが報せられ、稚内市声問大曲遺跡(稚内市教育委員会1992年『声問大曲遺跡』)から多数出土し、これを含む声問大曲遺跡ⅢB群は「宇津内Ⅱa I」に並行する(熊木俊朗2003年「道東北北部の縄文文化」『北海道の古代 2』北海道新聞)、「H37栄町期」並行。この文様が帯縄文風に施文されていることと整合する。自縄自巻は本遺跡において「縦位」「縦位と横位の組み合わせ」があることから「H317期」~「H37栄町期・新」にあると考えられる。

(2)-4 帯縄文の成立

帯縄文の施文は、原体を押捺方向に対して斜位に置き、かつ原体上における指位置を移動させる。右手を使う場合は短い人差し指・長い中指の配列に従って右上がりに置くのが自然である。また、帯縄文以外の斜位縄文では、原体を押捺方向に正対して置き、かつ指位置を移動させない。右手を

表Ⅶ-2-1 下地文の変遷

			「H37丘珠期」		「H317期」		「H37栄町期」	
			古	新	古	新	古	新
RL斜位	縦走	短条						
撚糸	縦走							
	縦走・横走							
自縄自巻								
LR斜位	横走	短条						
LR帯縄文	横走	短条						
帯縄文風	縦走・横走	短条						
RL帯縄文	縦走・横走	長条						

使う場合は左上から右下に押捺するのが自然である。これらのことから、右利きによる斜位縄文は、LR短条横走帯縄文・RL長条横走帯縄文・RL長条縦走帯縄文、LR短条横走縄文・RL短条縦走縄文、が容易な施文となる。出土例においては、LR撚りには短条横走縄文とRL撚りには長条縦走帯縄文が多く、LR短条横走帯縄文はLR短条斜位横走縄文に混じって施文される。これらは右利きの場合による容易な斜位押捺を選択した結果によって頻出した。

帯縄文を最初に単節斜縄文と解したのは山内清男(1933年「日本遠古之文化」『ドルメン2-2』岡書院)であり、具体的な記述はなく「特殊の操作」といい、室蘭市本輪西貝塚貝層上部の土器を例示した。その後道内では1960年代中葉まで絡縄体撚糸文と考えられたが、峰山巖(1968年「恵山式」『北海道考古4』)によって単節斜縄文説が再唱された。山内と異なるところは、「指先により押捺点を回転方向に連続移動させる」という点であり具体的な記述がなされ、以降は再び斜位縄文の一種と考えられた。

このような経緯のもと、その発生は以下のように考えられた。峰山巖(1968)は「この手法は亀が岡式の縦縄文の施文にその芽生えがある」と言表し、「長条が数条単位の群をなすこと」については、須藤隆(1970年「青森県二枚橋遺跡出土の土器石器」『考古学雑誌56-2』)によって言及され、林謙作(1988年『北大構内の遺跡6』)は「晩期中葉の東北北半部・北海道に出現」した長条縄文からの系統を考えた。

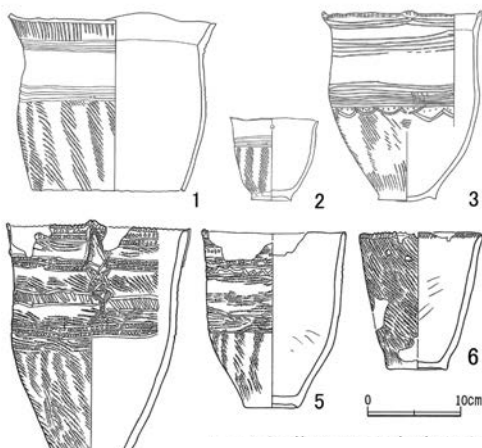
いっぽう、菊池徹夫(1978年「恵山式と江別式」『北奥古代文化10』)「(前略)この手法は、本来やはり『前北式系』に由来するものであろう。大狩部・東歌別の時期からこの施文法の萌芽はみられる(後略)」、大沼忠春(1985年「道央地方の土器」『縄文文化の研究6』雄山閣)は「横走縄文が带状縄文へと変化するであろう(後略)」、鈴木信は(2003年「道央部における続縄文土器の編年」『ユカンボンC15遺跡(6)』北理調報192集)「(前略)最古例はH37栄町期の「古」にあたる江別太遺跡7文化層であり(後略)」とのべる。

発生時期に晩期中葉・続縄文前葉の2説、発生個所に東北北半部と北海道(道央)の2説がある。本遺跡の状況からは、RL長条斜位縦走縄文→RL長条縦走帯縄文ではなく、LR短条斜位横走縄文→LR短条横走帯縄文→RL長条縦走帯縄文という変化が道央で起こったと考えられる。

(2)-5 RL長条斜位縦走縄文の影響

RL長条斜位縦走縄文は恵山式(二枚橋式・アヨロ1～アヨロ2b式)に通有の地下縄文で、道央においてはアヨロ2b式期に拡がり、在地系土器にも採用される。これは縄文晩期後葉に現れて「H317期・古」まで盛行するRL短条斜位縦走縄とは別の系統の縦走縄文である。

そして、RL横位斜走縄文・それによる「帯縄文風」がある。前述した方形押捺単位の連結による「帯縄文風」とは転写距離が短いことは共通するものの、長い原体を用いるため带状の長方形押捺単位となるところが異なる。



図VII-2-2 RL横位斜走縄文が押捺された例

これはアヨロ2b～アヨロ3式頃に並行する道央在地系土器に少数みられる。管見では瀬棚町南川遺跡(瀬棚町教育委員会1983年『瀬棚南川』)、余市町大川遺跡(余市町教育委員会2000・2001・2004年『大川遺跡』)、紅葉山33号遺跡(石狩町教育委員会1984年『紅葉山33号遺跡』)、札幌市N295遺跡(札幌市教育委員会1987年『N295遺跡』)、苫小牧市タプコブ遺跡(苫小牧市教育委員会1984年『タプコブ』)、白老町アヨロ遺跡(白老町教育委員会1981年『アヨロ』)にある。RL横位斜走縄文・それによる「帯縄文風」は、長い原体を用いることから、RL長条縦走縄文の影響を受けた可能性がある。

(鈴木)

報告書抄録

ふりがな	ちとせし うめかわ4 いせき かつこ3							
書名	千歳市 梅川4 遺跡(3)							
副書名	一般国道337号新千歳空港関連埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第306集							
編著者名	鈴木 信・菊池慈人・芝田直人・山中文雄・酒井秀治・福井淳一・宗像公司							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター (http://www.domuibun.or.jp)							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1 Tel. (011) 386-3231							
発行年月日	平成26 (西暦2014) 年 3 月 7 日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うめかわ 梅川4 遺跡	ほっかいどう 北海道 ちとせし 千歳市 しゅくばい 祝梅 2047-55外	01224	A-03-59	42° 49' 35"	141° 41' 40"	20070507 ~20071031 20080507 ~20081031	22205㎡	道路敷設工事に 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
梅川4 遺跡 A地区	遺物 包含地	縄文時代晩期後葉		竪穴住居1軒 土坑・土坑墓437基 焼土4か所 土器集中2か所 埋設土器1か所 剥片石器集中2か所 礫石器集中3		・土器 ・石器 ・石製品	・晩期後葉の墓地 ・2個の有機質袋に入っ いたと思われる剥片	
梅川4 遺跡 B・C地区		アイヌ文化期		平地式住居12軒 杭穴560基 焼土222か所 灰集中5か所 骨集中5か所 貝集中33か所 礫集中1か所 道跡3群		・金属製品 ・動物遺存体	アイヌ文化期の集落と道跡	
要約	両地区は千歳市の南東方、祝梅川と梅川にはさまれた丘陵、標高12~15mにある。A地区は縄文時代晩期後葉の土坑・土坑墓群で平成18年度調査と合わせて592基に及ぶ。B・C地区は所謂「勇払越」の日本海側始点にあたる遺跡である。							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第306集

千歳市

梅川4遺跡(3)

—道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書—
【第二分冊】

発行 平成26年3月7日
編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238
E-mail mail@domaibun.or.jp
ホームページ <http://www.domaibun.or.jp>
印刷 北海道チャート株式会社
〒060-0008 札幌市中央区北8条西18丁目1-7
フレクスビル3F
TEL (011)631-9901 FAX (011)631-1123